

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十二年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十二年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

「実践倫理講話筆記」の発行について

1. 表題は「実践倫理講話筆記」であるが、内容は本学創立者成瀬仁蔵が全学生あるいは卒業生に向けておこなった講話を収載したものである。当館所蔵のこの筆記録は、概ね年度ごとにまとめて綴じられている。

所蔵年度

明治 38 年度から大正 6 年度までのものがある。但し、明治 38 年度の綴りの初めには、明治 37 年度 3 月の三講話と一緒に綴じられている。

原稿

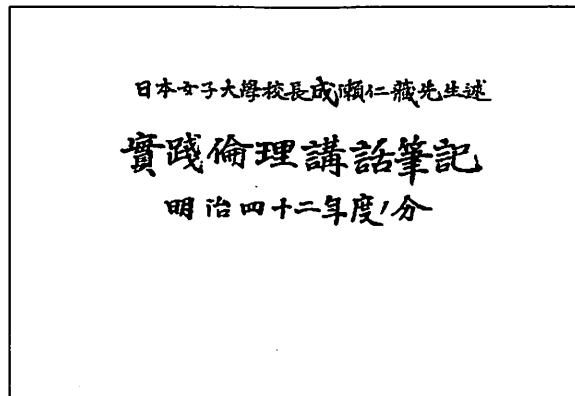
原稿は横書きで、特定の和紙にカーボン紙を使用して複写されている。

年度によっては複数部残されているが、それらを照合すると一部分欠けて綴じられているものも見られる。

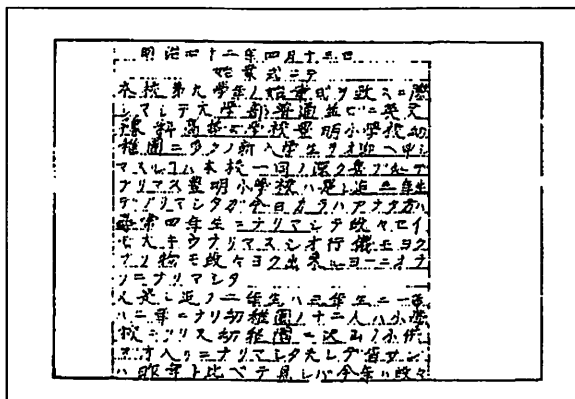
筆記状態

片仮名書き(一部平仮名書き)、句読点がない。

2. 今回の印刷は明治 42 年度のものである。
3. 初期のものはすでに「成瀬記念館」に発表してきているが、それらを含めて今回と同様の体裁で順次発行する予定である。



中表紙



本文

目次

明治四十二年四月十三日 始業式にて……………5	明治四十二年十月二十三日 大学部一年及び予科全体の為に……………101
明治四十二年四月十七日 大学部新入生歓迎会にて……………7	明治四十二年十月二十七日 嗚呼伊藤公 大学部並びに予科全体の為に……………103
明治四十二年四月十八日 四十二年度計画発表会……………8	明治四十二年十月二十七日 正会員修養会に於て……………107
第八回記念式 明治四十二年四月二十一日……………10	明治四十二年十一月三日 天長節祝賀式々辞……………107
明治四十二年四月二十一日 晩香寮記念式後に……………11	明治四十二年十一月四日 故伊藤公爵記念会……………108
第一学年にて 明治四十二年四月二十四日……………12	明治四十二年十一月四日 正会員修養会に於て……………113
明治四十二年四月二十八日 第三学年にて……………13	明治四十二年十一月八日 高等女学校修身講話会に於て……………113
第一学年にて 明治四十二年五月一日……………17	明治四十二年十一月十七日 大学部全体の為に……………115
明治四十二年五月五日 第三学年にて……………19	明治四十二年十一月二十日 運動会の批評会にて……………118
大学部全体の為に 明治四十二年五月八日……………20	明治四十二年十二月八日 正会員修養会に於て……………119
明治四十二年五月九日 桜楓会例会……………23	明治四十二年十二月十二日 通信教育会員招待会に於て……………120
大学部全体の為に 明治四十二年五月十五日……………24	明治四十二年十二月十三日 高等女学校修身講話会に於て……………124
明治四十二年五月十九日 第三学年にて……………27	明治四十二年十二月十五日 大学部全体の為に……………126
第一学年にて 明治四十二年五月二十二日……………31	明治四十二年十二月十七日 豊明寮第六回記念会に於て……………131
明治四十二年五月二十六日 第三学年にて……………35	明治四十二年十二月十八日 第一学年並びに予科全体の結論につきて……………132
明治四十二年六月二日 第三学年にて……………39	明治四十二年十二月十九日 大学部二学年にて……………135
第四回父母招待会 明治四十二年六月五日……………43	明治四十二年十二月二十二日 大学部全体……………137
桜楓会正会員会にて 明治四十二年六月六日……………45	明治四十二年十二月二十四日 第二学期終業式にて……………139
明治四十二年六月十日 第三学年にて……………47	明治四十二年十二月二十八日 正会員修養会にて……………143
大学部全部の為に 明治四十二年六月十三日……………49	明治四十三年一月一日 新年祝賀式……………144
明治四十二年六月十四日 修身講話会にて……………52	明治四十三年一月十七日 高等女学校修身講話会に於て……………147
明治四十二年六月十六日 准会員例会の御話……………54	明治四十三年一月十九日 大学部全体の為に……………149
大学部全部の為に 明治四十二年六月二十日……………55	明治四十三年一月二十六日 大学部全体……………152
明治四十二年六月三十日 大学部全体の為に……………60	明治四十三年一月三十日 正会員会に於て……………154
明治四十二年七月三日 第一学年にて……………62	明治四十三年二月二日 大学部全体……………158
明治四十二年七月七日 大学部全体の為に……………64	明治四十三年二月九日 大学部全体……………162
明治四十二年七月十日 修業式……………67	明治四十三年二月十一日 紀元節祝賀式に於て……………165
明治四十二年八月九日 在京正会員親睦会にて……………70	明治四十三年二月十三日 桜楓会例会に於て……………169
明治四十二年九月十一日 始業式にて……………72	明治四十三年二月十六日 大学部全体……………173
明治四十二年九月十五日 第三学年及び第二学年にて……………74	明治四十三年二月二十三日 大学部全体……………176
明治四十二年九月十八日 第一学年に於て……………76	明治四十三年三月二日 大学部全体の為に……………181
明治四十二年九月二十二日 第三学年及び第二学年にて……………76	明治四十三年三月五日 第一学年に於て……………184
明治四十二年九月二十五日 第一学年にて(答案の批評)……………79	明治四十三年三月九日 大学部全体……………185
明治四十二年九月二十九日 大学部及び予科全体の為に……………81	明治四十三年三月十六日 大学部全体……………191
明治四十二年九月二十九日 正会員修養会にて……………84	明治四十三年四月九日 卒業証書授与式に於て……………196
明治四十二年十月三日 桜楓会例会にて……………85	
明治四十二年十月六日 正会員修養会に於て……………86	
明治四十二年十月六日 大学部及び予科全体の為に……………87	
明治四十二年十月十日 桜楓会正会員会……………91	
明治四十二年十月十三日 全校生徒の為に……………93	
明治四十二年十月十三日 正会員修養会に於て……………96	
明治四十二年十月二十日 大学部全体の為に……………97	
明治四十二年十月二十日 正会員修養会に於て……………100	

凡例

1. 印刷に際し、筆記原稿の体裁を保持しつつ、以下の点に留意して一部手を加え統一を図った。
2. 表記に関しては、片仮名書きの原文筆記を平仮名表記とし、明らかな誤字・脱字を改めると共に、文字を統一した。
3. 漢字は原則として常用漢字を用いた。
4. あて字については原文通りとした。
5. 文意を明確にするため、句読点を付した。
6. 欄外に書かれた註を一部見出しとした。
7. 筆記原稿の不明確な部分は原稿通りとした。
但し英文については、前後の文脈に基づき加筆訂正した箇所がある。

[中表紙]

第九学年始業式にての御話
明治四十二年四月十三日

明治四十二年四月十三日
始業式にて

本校第九学年の始業式を致すに際しまして、大学部普通、並びに英文予科、高等女学校、豊明小学校、幼稚園に多くの新入生をお迎へ申しますことは、本校一同の深く喜ぶ処であります。豊明小学校は是れ迄三年生でありましたが、今日からは、あなた方は尋常四年生になりまして、段々せいも大きくなりますし、お行儀もよくなり、物も段々よく出来るよーにおなりになりました。

又是れ迄の二年生は三年生に、一年は二年になり、幼稚園の十二人は小学校になり、又幼稚園に沢山の小供がお入りになりました。夫れで皆さんは昨年と比べて見れば、今年は段々よくならんければならぬ。多分皆さんも、そーお考へになって居りましょー。一寸見ましても、余程違ふておいでになりましたよーに思ひますが、始めに、四年生は立って御覧。

三年生は……………

二年生は……………

一年生……………

幼稚園の小供は……………

宜しい。皆さんは御行儀が昨年よりも余程よくなった。ちゃんと腰をかけて居られる。も一つは、よく揃って立つことも出来るよーになりました。此間私が参りましたときにも、そーでありました。先生又はお姉様、御友達に逢ふても、ちゃんと丁寧に御辞儀をなさるよーになりました。そー云ふことがよく出来るよーになりました。此のお休みに何か自分でなされたことのあるものは、手を挙げて御覧。何か言ふことが出来ますか……………

今日から学校が始まって来ましたが、多分皆さん嬉しいこと、面白いことが沢山出て来るででありましょーが、何か楽しいこと、嬉しいこと、又面白いと思ふことがあるならば言つて御覧。

・桜の花がきれいに咲いて居ります。

之れからどー云ふものが出来ますか。

・毛虫が出て来ます。

・水仙の花が咲きます。

・梅が咲きます。

・桜ん坊がなります。

・葉桜になります。

そー、桜ん坊も出来ますし、葉桜も是から暮らうなりまして、中々涼しうてよいものである。其の外蝶々のよーな虫も出て参りましょーし、よい声で歌ふ所の鳥も沢山参りまして、之れからは面白いものが沢山出て参りますね。も一つあなた方に嬉しいことは、四人計り先生が出来ました。皆親切なよい先生である。是れからあなた方は段々とお進みにな

りまして、丁度花が咲き実がなるよーに、あなた方の中からも益々よいものが出て来るでしょー。之れは誠に喜ばしいこととあります。

此の第九学年の授業を始むるに当りまして、第七回生を本年の第三年生と致し、第八回生を二年生とし、第九回生、即ち、今年新に大学にお入りになりました九回生を一年生と致し、又新に笈を負ふて此校にお入りになりました普通予科を第十回生の候補者と致し、並に本校の英文予科二年、高等女学校の五年生を、やはり第十回生の候補者と致しまして、又高等女学校一年に入学をなされた百名のお方、及び其の以上の補欠にお入りになりました数名の新入生をお迎へ致しまして、之れから本年の仕事に取りかゝりますことは、一同の深く喜びと致す処であります。

[本年の新入生]

初めにおきまして、本年は全体に通じまして約四百名の入生があった訳であります。

故に先づ御紹介を致すのが当然と存じます。

第三年生、第二年生、本年、新に御入学になりました大学部第一年生の方は、お立ちになりますよーに。

次に予科全体は、一寸お立ちになりますよーに。

次に高等女学校第一年生は、一寸お立ちになりますよーに……………

次に二年以上の補欠として新に入学になりました方は……………

次に麻生学監を御紹介致しまして、学監から皆さんの御心得等について申述べることに致しましょー。

[善学]

只今学監から、善学、善く学ぶと云ふ本校の主義方針についてお話がありまして、善く凡ての方面を皆さんがお分りになるよーにお話になりましたが、夫れと違ふ訳ではない、やはり同じこととありますが、其の善学、善く学ぶと云ふことを、もう少し委しうに凡ての方面を詞に現して見ますと、善く学び、善く行ひ、善く成ると云ふことであります。善く学ぶ目的は善く行はんが為であり、善く行ふのは善く成らんが為である。其の意味も既にお話になったのでありますが、私は、善く学んで善く成る、立派な人間になると云ふには、いろいろ力を用ひなければならん所がございますが、其の中で、今後あなた方が殊に力を用ひなければならぬ処が御座います。此の学年に於て全校が最も骨を折らんければならぬ処がございます。其処を一言、私の希望として申し述べておきたいのであります。

善く学び、善く行ふには、其の原動力と致して志が必要である。精神が大切である。少し六かしい詞で、即ち当時のあなた方の学んで居る倫理学、或は修身の中にある詞で言へば、理想です。高尚なる考へを懐くと云ふことが誠に大切である。善く学ぶのは、学問するのは、知識を追求するのは遠大なる志望を懐き、高尚なる考へに導かれて、限りなく進歩して止まらぬ処の立派なる精神を培養すると云ふことになるのです。人間の人間たる価値は、實に此にあるに違ひない。けれども只此の志、理想而已に由つては、我々は立派なる人にはなれ

ない。高い理想を懐き、熱烈なる希望に憧れると同時に、我々は現実の務めを怠ってはならぬ。

我々の為すべきことは実在にあるのである。只今することを最も立派にする、其面目に何事をするにも力一杯を以て、其の時をよく現すと云ふことを怠ってはならないのです。此の志、理想は、或は三年に亙って居りましょー。

先づ大学部は向ふ三年に於て、どーして、どれ丈けのことを成し遂げよと考へて居らるゝでありましょー。或は五十年に亙って居りましょー。或は百年、千年、遠くは幾万年に亙る処の理想を持って居るのが、即ち人類の人類たる所以であります。けれども行ふと云ふこと、働くことと云ふこと、実行と云ふこと、活動と云ふことは、只今である。此の講堂へ入ってよくお話を聞くと云ふことも、一つの行ひである。

寮舎へ入った今日は其の寮の関係についてよく考へ、又人と交際致し、うち和らいで人に対する処の礼を欠かないよーに、凡ての人に厚意を以て対する。自分の為すべきことを喜んで尽す。始めて学校に入ったならば、其の校風を先づわからんければならぬ。其の関係が明にならねばならぬ。疑問が解決せられねばならぬ。自分が為すべきことがわかり、今日執るべき仕事が着手せられねばならぬ。此の行ふ、活動、実行と云ふことは、未来のことではない。今日でなければならぬ。現実である。此の現在と未来、此の理想、志と今日の行ひとが、一致しなければならぬ。調和しなければならぬ。高い志を以て、低い仕事なり目下の小さい務めなりを善く尽す。善く感じ、善く行ひ、善く働くことと云ふことが出来なければならぬ。此の行ふと云ふことに由つて、我々は人となるのであります。我々の品性も、我々の知識も、我々の実力も夫れに由つて出来るのであります。

[行ひの二方面]

此の行ふと云ふことには又方面がある。一を積極的方面と言ひ、他の一を消極的方面と申します。

万有が発達しますには必ず積極的に展びる。進む、拡がる、太ると云ふことである。其のしるしは喜ぶ、望む、励むと云ふよーなしるしになって来る。希望に満ち、喜びに満ち、楽しく元気に満ちて活動すると云ふことも必要である。恰も春の如く万物喜びに満ちて、せいせいとして居る。鳥も歌ひ、蝶も舞ひ、和気藹々として笑み榮て居る。斯くの如き愉快に満ち、元気に満ちて人にも交り、又自分の仕事も愉快に働くと云ふことが必要である。けれども夫れだけではいけない。

例へば冬の如きものである。雪が降り氷が張り、或は突き或は刺すと云ふときに出遭ふて、努力奮闘する、迫害に堪へ忍ぶと云ふことであります。此の消極的的活動がなかったならば、我々は人となることは出来ないのである。皆さんが笈を負ふて東京に出て校門にお入りになった其の目的は、昔の詞で言へば、錦を着て故郷に帰る、と言ひましょー。之れは高位高官に昇ると云ふことにも取れましょー。又心を錦にして帰ると云ふことにもなりましょー。併し之れは適切な詞ではない。最も適切な詞を言へば、皆さんが式日にお唱へになる金剛石である。其の玉を磨いて、立派なる玉となって故郷にお帰りになることである。玉も磨かざれば光りを発しない

と云ふことがある。其の光りとは何であるか。又鍛はざれば用を為さずと云ふことがある。我々は鋼鉄の如きものである。之れを火の中に入れて打ち鍛はねば、立派な正宗の名刀とはなれぬ。金、銀、宝石と雖も其の土を洗ひ、石を去つて精選するに非ざれば、立派な宝石とはなれないのである。我々人間も生れつきの儘においたならば、決して正宗や金、銀、宝石のよーにはなれぬ。必ず之れを磨き、之れを鍛ひ、之れを精選して雑物を除くことが必要であります。

我々が成る、即ち人と成ると云ふのは其の生れつきの儘を火の中に入れて、之れを鉄鎚で鍛ひ上げること、或は切鋸琢磨によって得らるゝことで、此に立派なる本性を発揮することが出来る人であります。其の磨く、鍛ふ、精選すると云ふことは、消極的修養を意味するのであります。其の方法は克己、即ち己に克つ、困難に出遭ひ六かしいことにあつて屈しない。喜んで奮闘努力する。六かしいことに堪へて行く。之れが大切である。之れが出来ませんければ、鍛はれたる意志が出来、精選したる品性が出来、今麻生君が言はれた立派なる働きの出来る人とはなれないのであります。

今日新に御入学になりました皆さんは私思ふに、喜んで困難に堪へ、苦しみに戦ひ、いろいろの迫害、圧迫にも打ち勝つて、充分立派になろーと云ふ決心を以てお入りになったこととお察し申すのであります。何故に私は未だ試験をせぬ前に、充分経験を交換せぬ前に、あなた方を察することが出来るかと申しますと、今日此の経済の圧迫の甚だしい時に、皆さんの志を達して此処にお出でになったことは、実に皆さんが非常なる決心をなさり、奮闘努力なさつてお進みになった結果であると云ふことを証明するに足るであろーと信ずるのであります。

[女子教育不振]

今新聞の報ずる所により、一昨日視学官あたりの御話又は地方女学校長の話によりますれば、今日は孰れの学校に於ても三割以上の学生を減じたと云ふことである。高等女学校あたりで、今迄女学校に学んで居た大多数は裁縫女学校などに入って、大層其の数を減じたと云ふことである。女子高等師範なども三割以上の減り方であったと云ふ。之れは何故かと云ふと、経済界の不振と云ふことが重なる原因であります。衣食足つて礼節を知るのであるが、夫れのみならず其の生命に拘はつて来るのである。

大学病院なども今年はそのために患者が減じまして、歳入約一万円を減少したと云ふことは、確なる事実として報道せられたことあります。

こー云ふことが教育に響いて来ることは致し方がない。

も一一つは此の二、三年前から起つた傾向で、昨年文部大臣の訓示にも地方長官を集められて、女子教育は高等女学校を以て足れり。女子にして態々東京などに遊学する必要はない。故に其の地方地方で適切なる學術、技芸を修むるよーに指導するが宜しい、と云ふことを誤解しまして、文部大臣は此の女子大学などにも反対であるかの如く考へられた地方などもあつたよーであるが、之れは大変な間違ひである。文部大臣の御意見はそーでないのみならず、殊に此の学校には地

方巡回の前に態々半日来て御覧になり、又卒業式にも代理をして祝辞をお贈りになり、視学官をもおよこしになると云ふ風に、本校の如き教育の行はるゝことが大に必要であると云ふことを認められて居るよ一であるけれども、誤解をした者も少なくないよ一である。そ一云ふ訳であるから、今日皆さんが志を立てゝ此処迄おいでになるのは非常なる苦心があったであろ一とお察し致します。

そこで一番影響を被ったのは女子の高等教育である。其の次は高等女学校であるけれども、本校の高等女学校は来年卒業致します五年を除いては四年以下悉く満員である。夫れから予科が幾らか少なくて、大学部の方が又夫れより少いよ一である。つまり上に進む程、影響があったと言ってよろしいでしよ一。

[本年の入学生数]

併しわけて申しますれば、新入学生が374名、之れに小學校を加へますれば先づ400名ばかりになります。大学部が250名。之れに少しの研究科を加へますと、全校1216人と云ふ訳であります。けれども昨年あたりからの方は、そ一云ふ自然の試みを経て余程選りすぐったのでありますから、比較的成績もよろしく又途中で志をかへると云ふ人は少いよ一である。私は今年の新入学のお方に大に望みを属するのであります。

故に一方から言へば、そ一云ふ傾向のあるのは国家の為に憂ふべきことである。其の上に事実上、確に女子教育の退歩と見なければならぬ。けれども之れが宜しいのである。丁度万物の為に春ばかりではいけない。雪降り霜氷る冬がなければならぬよ一に、我々教育界にも凡て生命を持って居る処の社会には、努力奮闘と云ふことが必要であります。之れがなくてはほんとの鍛錬は出来ぬ。又いろいろ皆さんが進まうと思ふ時に迫害があり、圧迫があり、いろいろの困難に逢ふて、之れに喜び勇んで打ち勝つことが大切であります。

[困難汝を玉にす]

此の苦みがなければ、あなた方を玉にすることは出来ない。真にあなた方を立派なる正宗の名刀とすることは出来ぬ。金、銀、宝玉とすることは出来ぬ。故に之れは、あなた方の進歩の上に、又本校の発達の上に欠く可からざることであるから、我々は喜び勇んで進むと云ふ決心をお持ちになって、今年の業をお始めになることを切望するのであります。

[中表紙]

大学部新入生歓迎会にて
明治四十二年四月十七日

明治四十二年四月十七日
大学部新入生歓迎会にて

今日は止むを得ぬことがあって外出を致しまして、歓迎の詞や又方針をお示しになった続きがよく私にわかって居ない

ので、皆さんに何が今丁度必要であるかと云ふことが、私にわかって居ないのであります。併し今、麻生学監から本校の教育の目的並に方針について、いろいろお話になりましたので、私は、其の教育の目的を遂ぐるには、其の教育主義をど一云ふ仕方を以て為し遂げて行くかと云ふことを、一言申そ一と考へる。

私も今年の新たのお方を深き喜びを以てお迎へを致すのは、あなた方が銘々自分の志を以て、自分の希望を以て入学をなさったと云ふことである。又昨日は高等女学校に於て、今日は大学部に於て、先進の三年生又は二年生が主となって喜んで歓迎をし、又自分から銘々から、即ち生徒から此の学校の方針等についてお示しになり、又出来るだけ自分達で導いて行って校風を充実し、又銘々の品性を養ひ精神を育てるよ一に致さうと云ふ全校の態度について、私は非常に満足に感ずるのであります。

こ一云ふ教育の仕方を言ひ表はす為めに、規則書の中に自奮自修と云ふ詞が使つてある。自奮自修と云ふ仕方を以て教育の目的を達すると云ふことになって居る。こ一云ふ校風を慕ふて、皆さんが志を立てゝ本校に入学なさったのである。そ一云ふ傾きが健全に育つて居ると云ふことが今日深く感ぜらるゝので、之れが私の喜ぶ処であります。此の二、三日前に高等女学校の二年の方の御母さんがお出になつてお目にかゝりました処が、昨年の此頃からお世話になりましたが、只今では非常に違つて参りました。ど一も是れ迄は勉強することが嫌ひでありましたが、近頃は勉強することが非常に面白くなつたと申して居ります。夫れから、是迄言ふて聞かしても出来なかつたことが出来るよ一になりました。之れが著しく違つた点であります、と云ふお話がありました。其のお話について自分は、やはり同じく経験を持って居るのである。

私は小さい時に、學問が嫌ひであつた。本を習ふと云ふこと、そろばんを教はると云ふことが誠に嫌であつた。夜が未だ白まぬ前に起きて、朝の稽古に行くことが誠に嫌であつたのみならず、総体學問すると云ふことが苦しいことであつた。

夫れから夏は川へ泳ぎに行き、秋は獣猟に行き、松茸狩りに行く。又友人と隊を組んで隣の村へ喧嘩をしかけに行くことが、実に面白くて仕方がなかつたのであります。夫れから段々年を取りまして私が十三の時に、今度は自分の志を以て親に願ひまして、學問に出かけました。此の時には、も一本を教はるとか講義を聞きに行く義務もないのである。勝手であるけれども、誠に面白かつたのである。そして物をするにも、自分ながら驚く程の勇氣と熱心とを以てすることが出来たのであります。其の時には夜十二時になつても少しも眠たくない。時には三時頃迄も寝るのが惜しくて勉強をしたのであります。何をやるよりも本を読むこと、學問をすることが好きになりまして、是れ位不思議なことはないと思ひました。其の次に私は師範學校へ入りましたが、之れも自分の志で入つたから始めの六ヶ月は愉快に勉強を致しましたが、夫れからは規則を以てくゝられて仕舞つた。そこで非常に嫌になつて、ど一かして出たいと思ひましたが、最早官立の學校であるから出ることは出来ない。そこで仕方なしに卒業して今度

は小学校長にせられた。其の時も実に苦しかったのである。そこで自分はどーしても日本の教育を根本から改めねばならぬと考へて、誠に徹々たるものではあったが一つの女学校を拵へました。其の時には月給も何も貰はれない。校長から教師、小使に至る迄、凡ての仕事をかけ持たねばならぬけれども、実に愉快でありました。之れはど一云ふ訳でありましょ一か。

[自動の価値]

斯くの如く或時は嫌でたまらなかつたり、又或時は非常に好きになると云ふのは、今のお母さんの御話と同じことである。其の起りは自動的と云ふことである。人間と云ふものは志を立て、自分で働く、自分で考へる、自分で為ると云ふ事程楽しいものはない。之れは天性である。も一自分で活動する様に出来て居るのである。学問はするな、勉強をしてはならぬと縛られる程、こんな苦しいことはない。自分でする、自分で活動する、之れが命である。殊に若い、発達をする処の青年の常である。其の勉強が嫌になり、自分の志を全うすることが出来なくなり、人の為に尽すことがおっく一になるのは何であるか。之れは人から束縛する、からである。干渉する、からである。即ち此の自動的に自分の中から趣味を出して、自分の精神に従つて自分の志を以て働く、修養すると云ふことでないから面白くない。一向勉強したことの効果があがらない。それだから苦しくなるのである。そこで本校の教育法は自分でする、独学である。余り行って先生の講義を聞くのではない。自分の力をつけるのは自分で勉強をするのである。是丈け興味の深いものはないのであります。

学問が嫌になるのは皆夫れである。自分で働く、自分で活動する、自分で修養する、自分で自分の肝をきたへるのである。此の自奮自修と云ふこと、是程愉快な事はない。之れは自分の考へで何事もする、即ち此の自奮自修と云ふ此の力と習慣が出来からである。此の力をつけるには始めは苦しいかも知れぬけれども、夫れがわかつて参りましたなら、是程面白いことはない。又是程力をつくことはないのであります。

然るに今年の新入生の方は、自分の志を持っておいでになつたのである。又本校の凡てはど一か出来る丈け自分で導かう、自分の力を養ふと云ふことに最も熱心に勉めて居る、ことを見て、私は非常に喜び、且つあなた方の将来に対して多大の望みを属するのであります。ど一か此のほんとの意味を皆さんが了解なさつて、益々自奮自修して進むことの出来るよ一に、此の学年に於て其の力をお養ひになることを切に希望致すのでござります。

[中表紙]

明治四十二年四月十八日
四十二年度計画発表会に於ける御話

明治四十二年四月十八日
四十二年度計画発表会

始めの御方には、今日三年生から全体に発表なさつた計画が余りに複雑でありまして、其の関係が一寸おわかりにくいかも知れない。又わかるに致しても、其の必要なこと又夫れを銘々で充実に行く方法等について、或は疑問があるかも知れぬ。もし時があるならば、そ一云ふ点について腹藏なくお聞きになって、其の疑問にお答へになることが必要であると思ひますけれども、今日は時がないから其の疑問に答へると云ふことを省きますが、そ一云ふことについて発表した六回生の係ら、いろいろの出版物などをお読みになることが必要であると思ひます。

[本校の真相を知れ]

初めには何をしても聞いても凡て物新しいから随分興味もあることと思ひますから、始めに於て充分本校の真相をわかるよ一になさることも、あなた方の為に大切であると思ふ。

夫れで細かいことに批評を加へる暇はありませんから、之れは追々と申すことに致して、今日は只全体が力を入れて実行しよ一と云ふ、校風を発達させよ一と云ふ計画につきまして、一言皆さんに考へか起るよ一に申しておきたいと思ひます。

[校風]

本校が教育の目的を全うする為めに、校風に重きをおいたのである。校風或は学風を健全に育て、行くことと云ふことに最も力を用ひたと云ふことは、本校の歴史に充分に現れて居る処である。

本校が始めて開設せられて第一学年を開くに當りまして、つまり開校式の翌日か其の翌日であつたかと思ふ。大学部第一回生、並に附属高等女学校一同を只今の裁縫室によせまして、私が一番最初に申しましたことは、校風を作らんければならないと云ふことであります。何故に校風を作ることが教育に一番大切であると云ふことを我々が感じたかと申しますと、第一、私が本校を創立する時に大切な条件として又大切な経験として数へたことは、其の前に二、三の学校を経営致して、其の時に自分が得ました処の経験から考へた処の一つの理想であります。夫れが即ち此の校風を作ることと、寄宿舎を家族制度にすると云ふよ一なことであつた。も一一つの理由は、先年海外を視察致しまして、欧米の教育が実に校風に由つて出来て居る、校風と云ふものが如何に大切な関係を持って居るかと思ふことを見出だしまして、斯くの如き理由に由りまして校風の大切なることを深く感じて居つて、此の学校を興す当初から其処に大に力を注いだのである。之れは以前には繰り返して全校にお話をしたことでありますが、多分只今の三年生頃からはも一説き明かす必要がないよ一に考へ

まして、余り其の必要をお話し致さなかつた様に思ふ。故に其の校風が如何に大切なものであるか、又其の校風を育てるには今年発表なさつたよな機関が必要であると云ふことを、充分わかつて置きたいのであります。新にお入りになつた方々は余り校風と云ふ詞でもお聞きにならないであらう。又生徒が自動的に働いて行くと云ふ経験はお持ちにならないことと察しますが、本校にお入りになって、此くの如き詞を聞いて又その云ふ生活をしようとするときに、不思議なる又珍らしいと云ふよな感じが必ず起るであらうと考へる。併し其の校風が如何に実力養成の爲めに又修養の爲めに、又今後の国民教育の爲めに、国家発展の上に、如何に必要であるかと云ふことも余り気付かないでおいでになるかと思ひます。

其処で其の辺について深く考へ、又之れを問題として皆さんが始めにおいて研究なさることが必要であります。

過日、一言、三年生には話したと思ふが、校風と云ふこと、之れは英語で言ふと、インナーライフと言ひます。即ち内面的の生命とでも訳ませうか。此のインナーライフと云ふ字は誠によい字であります。此の大学のインナーライフ、社会国家のインナーライフ又は家庭の即ち風、そこで家には家風と云ふのがあり、国には国風と云ふものがあり、郷党には其の郷党の風と云ふものがある。ここで初めてお目にかかつて、あなたは何県のお方であるかと云ふことを聞かないでも、暫く御交際をして居ると、此のお方は何県のお方であるかと云ふことが略ぼ察せらるるのであります。

其の国風或は校風と云ふものは何所に現はれて居るかと言ふと、やはり銘々の感情、習慣、銘々の行ひ、銘々の品性、銘々の人格と云ふものに現はるるのである。そこで我々の確信、主義、或は本心、各々の趣味、傾向と云ふよなものも皆関係して、纏まふて居る人格と云ふものに皆現はれて居るのである。如何となれば、我々の人格、我々の信仰、我々の傾きと云ふものは、其の家風、国風と云ふものが拵へたのである。我々の己れの性質、己れの知識、己れの信仰、己れの主義と云ふものは、自分の力で拵へたものゝ様に思ふが、無論或る意味で言へばそであるが、も一つ深い関係から言へば、そ云ふ風と云ふもの、社会国家の中に生きて居るインナーライフ、其の風と云ふものが集つて拵へたものであります。故に我々が今後立派なる人になるには、学校に居る時は其の校風により、家庭に入れば其の家風と云ふものから影響を被ると云ふことは免れられない。又我々が教育を受くるのは斯くの如き感化を受け、又及ぼすと云ふことにある。つまり品性を修養することと校風を充実すると云ふことは一致するのである。又我々の人格と云ふものと校風又は国風と云ふものは必ず互に相一致し、相関係する所があります。故に我々に一旦出来た所の品格と云ふものは、容易に變へることの出来ないものである。夫れと同じよに、我々に出来た所の癖と云ふものも中々改められないものであります。此の命を抛つと云ふ決心が出来なければ、中々むづかしいのである。

斯くの如く一旦出来上つた校風と云ふものは容易に之れを破壊し、之れを滅ぼすことは出来ないであります。夫れと同じよに、一旦拵へた悪傾向と云ふものは容易にかへるこ

とは出来ない。

然るに国民を生み出したる所の母親である、国風の淵源である所の我が国の学校は、如何なる校風を養ひ來つたのであるか。其の長所は何れにあるか、又短所は何れにあるかと云ふことを考へねばならぬ。此の頃、現文部大臣の高等師範に於て演説せられた祝辞の中の御報告によりますと、驚くべき事実があります。夫れは我が国教育界に於て、学校騒動と云ふものが五年の間に五十幾度行はれたと云ふことであります。独り男子の学校に於けるのみならず、女学校においてすらも、尚ほ学校騒動と云ふものを我々は耳にするのである。之れは何を現はして居るか。学校騒動と云ふものは学生が先生に向つて攻撃をするのである。甚しきに至つては、我が師を暗殺せんと迄するのである。又は学生間に於て党を結び派を作つて、途中に待ち伏せをして居つてなぐると云ふ様なこともある。誠に殺風景な状態にあるのである。之れだけ外部に向つて火の手があがるのであるから、其の内部はどであるかと云ふと、互に競争して己れの地位を高めよ一、利益を充分にしよ一、そのためにいろいろな嫉妬心、忿怒心と云ふものを拵へるのである。此の師弟の関係、親子の関係を以つて一家族の生活を営まんければならぬ。学校、国民の母たる学校に於て斯くの如くであるから、其の国風は必ず之れに類似したものであると云ふことは、察するに難からざるのみならず、斯くの如き醜態が今日暴露しつつあるのである。故に一旦斯くの如き傾向に傾くや、如何なる政治家も、如何なる教育家も、如何なる宗教家も之れを挽回することはむづかしい。容易なることでは之れを矯めることは出来ないのである。之れは暗黒面を見たのであるが、我が国教育界に斯くの如き弊風を生じ、其の生み出したる国民が斯くの如き醜態を演じつつあることを見て、我は悲しまざるを得ないのであります。故に之れを救ふには、到底その根本を改めなければ外に道はないのである。国民の本は家庭にあり、家庭の本は女子にある。女子の本は女学校にあるのである。其女学校を健全にするのは校風を養ふにある。我々国家の上から言つても、個人の上から言つても、此の校風を健全にしなければならぬと云ふことは明らかであります。

夫れで私は只今、殊に教育部に御注意を致したい。殊に私は我国家の教育改善に力を尽したいと思ふのは、到底我国家は斯くの如き教育に依つて維持することは出来ない、どしても其の根本から改めなければならぬと信ずるからであります。今年皆さんが校風充実と云ふことに骨をお折りになるのも、茲に気づかれてであります。

何故に我国の学風は衰へたか、何故に我国の教育の結果は不十分であるか、何故に其の力は薄弱であるか、何故に其の教育の神聖は汚されたか、其の原因は何処にあるかと云ふことだけは、十分に皆さんが御気づきになることを希望するのである。何故であるか、茲に論ずる時間はありません。只私は其の要点だけを申しておきます。之れに就いて一言申すならば、第一の原因は今日の教育が校風に重きをおく事に気づかない。如何に之れが大切なものであるかと云ふ事を、未だ我國民は充分に自覚しないのである。何故となれば、教育

の本の本である帝国大学、其の他の大学、高等教育府に於ては、本校に感じて居る様に全体を統一する精神を養ふとか、そ一云ふ機関を設けるとか云ふことを欠いて居る。其の機関の一つとして、斯くの如き講堂記念式とか祭日とか云ふ時に於て、精神的生命を發するのために大きなホールなり、チャペルなりを興して、全体の生命を育てると云ふことが行はれない。其の形はあるけれ共、実はないのである。内容は皆無である。其の必要も感じない。教授の方でも心づかないのみならず、又学生の方でも一向構はないのであります。そこで偉大なる精神を養ひ、全校を統一すると云ふよ一な働きは取らないのである。一言で言へば、我國の教育では此の校風の大切なことを認めない。又斯くの如き生活を営まない。又も少し平たい詞で言ふならば、社会性を養はないのである。人のために奉仕すると云ふよ一な精神を養はない。只我学問、我名譽と云ふことのみに汲々として居る。

[学校騒動の大原因]

之れが学校騒動の大原因である。之れが社会的事業の挙がらない所以であります。夫れを気づかないと云ふことが、遂に斯くの如き國風の起つて来た所の原因であると言はんければならない。

第二には、我國の教育は如何に致しても只知と云ふ一方に傾いて居る。其の知と云ふものも、試験に及第する為の間に合せの知識であつて、本物にならない。即ち我國の教育は品性修養、人格養成と云ふことを欠いて居る。大学教育を受ける模範的國民、國家の指導者たる國民も、只職人である。其の土台に必ず高尚なる人格を備へなければならぬ。模範的國民たる品性を備へなければならぬ。其の他師範學校に於ても、そ一である。真に感化を及ぼさんければならぬ教員すらも、其の品性を養はない。之れが師範學校から出た教員の世間から賤まれる本である。ど一しても模範的國民を養ふには、賢母良妻を作るには、此の人格を養ふことを怠つてはなりません。此の人格を養ふには修養に、發展、努力に骨を折らねばならぬ。

第三には、今日の學問が只家の中に止まり、只書物の上に働いて居るのである。到底今日の教育、今後の國民教育には、そ一云ふ偏頗な教育に依つて目的を達することは出来ない。之れは矢張、試験制度と云ふよ一なこと、其の學問の目的の違つて居る所から来て居るのである。

本校が自治機関を設け一見複雑なよ一であるが、実は之れが今日の教育に最も大切なものであつて、知識をかたらしむる所のものである。其の知識が真に命となり、活動となるためにおかれてある。學問が嫌ひになり、學校なり校長なりに反抗して見なくなる、之れも我國の弊である。

然るに今日は、學生を機械的に扱はふこととして居るが、そんなことは出来るものではない。こ一云ふ根本を改良するに非ざれば、到底我が國民を今後本当に必要なる國民とすることは出来ません。

私は、本校が校風を養ふと云ふことに骨を折るのはど一云ふ訳で大切であるか、今日の學生が間に合はないと云ふ批評は何故に起るかと云ふことが、お解りになることが必要であ

ろ一と思ふ。故にど一か今年は其の根本からお養ひになるよ一に。殊に紀念式と云ふよ一な時は、本校の歴史を思ひ起して全体に紹介するに誠によい時で、こ一云ふ時に於て、其の校風を益々健全に發達させることが必要であろ一と考へます。

[中表紙]

第八回記念式にて
明治四十二年四月二十一日

第八回記念式

明治四十二年四月二十一日

今日は本校創立の当初より發起人とし、創立委員と變り、財団法人となりまして評議員として、十年一日の如く本校發展の爲に最も厚い同情を以てお助けになりました評議員諸君の御出席の榮を辱うし、又本校教員諸氏並に生徒一同、此の堂に集ふて本校第八回記念式を挙げて、共に喜び、將來の希望を養ふ事を得ますは、実に欣喜に堪へん所であります。我が國の女子の教育界並に本大學が、過去十年間に斯くの如き進歩、發展を遂げて、此に我が國女子教育の一階段を上る事が出来、再び是迄展ばしました根本を厚く培ひ、其の内容を充実し、分量よりも品質を精選する時代に到達したのは、実に我が國家に功勞あり長く社会に勢力ある先輩諸君が、非常なる熱誠を以て此の事業に力をお尽し下さいましたのによります事は、此に私共一同の深く感謝する所であります。

本校が此に開校式を挙げましてからは滿八年でありますが、此の計画を我が國社会に發表致しましてからは、実に十三ヶ年に相当致すのであります。当時大隈伯爵は外務大臣の顯職に在られ、只今おいでになります筈の土方伯爵は宮内大臣、久保田男爵は當時は衆議員議員、其の後文部大臣として我が國教育に貢獻なされた方であります。又本校が此の發展を遂げますには欠く可らざる、此の精神の舍る所の身体ともなるべき校舎並に寄宿舎をお建て下さいました森村翁、澁沢男爵の如きは、將に還曆の期に近づかんとしておいでになる時でありました。其の外本校の財務委員となり或は建築監事となつて下さつた三井三郎助君、並に岩崎彌之助男の如き、誠に多くの有志家諸君の御助力を辱う致しまして、今や殆んど小世紀を終る記念式を挙ぐるに當りまして、猶變らぬ所の厚き同情を以て、之に培ひ水注いで下さる事は、実に感謝に堪へぬ所であります。

[大隈伯を紹介す]

今日は成るべく縁故の深い、此の學校の昔からの事を御存じになつて居る処の方々から御話し戴く事と致しまして、始めに、本校の教務委員たる大隈伯爵閣下を御紹介致します。

【中表紙】

晩香寮記念式後の御話
明治四十二年四月二十一日

明治四十二年四月二十一日
晩香寮記念式後に

本日は本校第八回創立記念式、且つ昨年開いてもらいました晩香寮の一周年に相当するのでござりますが、丁度今年には、本校創立の起りより非常に設立に御尽力下さりました澁沢男爵の古希の齡に相当されて居ると云ふことを、晩香寮一同が聞きまして、丁度此のよい機会に一同祝意を表したい、又始めて今年入寮した人も未だ男爵にお目にかゝって居ない人がござりますので、丁度此時何か御教訓を受けることが出来ましたなら寮風の土台ともなるであらうと云ふ希望で、今夜殊に御出席を願ひましたのでござりますが、幸に澁沢男爵御夫婦並に土方伯爵、久保田男爵にも御出席下さりましたのは、一同の深く喜ぶ処でござります。既に前刻來寮生を代表して、いろいろ祝辞或ひは祝ひの歌等に由りまして、充分祝意を表されたのであります。

【実業界の泰斗】

且つ男爵が本校に深い関係のお有りになること、及び我が実業界の泰斗であり元老であると云ふよなことは、我国に知らんものはないであらうと考へますから、ここに改めて私がお紹介をする必要はないであらうと思ひます。

只私は、日頃男爵と御交際を辱うして居りますうちに深く欽慕して、尊敬の念を禁ずること能はざるものがあります。之れを一言述べて、男爵をあなた方に御紹介致したいと存じます。

【維新の志士】

今日、土方伯爵並に久保田男爵のお話を皆さんがおきゝになる間に、いろいろお感じになった処があらうと考へますが、殊に私は、我国維新の際に国家の為に生命を抛って、實に至誠を以て国家にお尽しになった、凡ての辛酸を嘗めて、明治の偉業を成就する為に御尽瘁になったと云ふことを、深く感じたのであります。

【士氣】

我々は未だ十才にならぬ小僧でありましたが、猶ほ其時の事を考へて、今日土方伯爵の御話になった中通の士族の其の士氣のふるふたことが實に大原因をなして居る。我々も其時の士氣に触れて、一身を國家に捧げると云ふ決心を致したのである。今日我國の士氣の振はない、元氣の衰へました現状について、大隈伯からも今日懇々とお話になりました。之れは何に基づくかと言ふならば、明治維新を成し遂げた其の士氣が衰へたと言ふ外はあるまい。殊に今日は戦争の時代は過ぎ去りまして、世界は商工業の時代となって居る。其の商工業の社会に武士の精神を持って居る処の士氣がないと云ふ事に帰するであらう。

斯くの如き時代に当りまして、澁沢男爵の如き実業家を我國が持つて居りますと云ふことは、是れは實に國の宝とも、

地の塩とも、國の光りとも言ふべきものと、私は感ずるのであります。男爵の御口から町人とか商売人とか云ふ御詞を聞くのでありますが、元來男爵の御若い時からの御経験とか伝記などについて調べて見ますと、元老達と一緒に一身を國家の為にお捧げになったことは明らかな事實である。殊にお若い時に一つ橋家から召し出され、又今日の大藏次官とも言ふべき高官に迄お進みになったのであります。当時高位高官になると云ふことは、此上もない榮譽であつたのである。然るに男爵は自ら商売人となって、國家の為に一身を捧げられたのであります。

【男爵の大英断】

私は、此の男爵のお考へは世界の大勢を遠観なさつたものであると、深く敬服致して居るのであります。我國は今後到底武一方を以て立ち得るものでない。必ず世界の大勢に伴はねばならぬと云ふことは、今日では明らかな事實であります。未だ國民の氣付かない時に、國家百年の爲めに大英断を以てお立ちになったと云ふ其の御決心、卓見には、感服致して居るのであります。独り斯くの如き御決心をなさつたのみならず、榮譽の外に立って便利なる地位を離れて、國家の發達を冀ふと云ふ其の御心、又実業界の種々の困難と戦ふて、此の長い間の我國の弊習を破つて、此に実業界を建設する為に御貢献になったと云ふことにつぎまして、我々は益々男爵に対して感謝の念を禁ずることが出来ないであります。独り実業を我國に興さんか為に、斯くの如き御貢献をなさつたと云ふことに止まって居らない男爵の御經營、其の御手腕を以て、唯御自分の財をお集めになったなら、或は岩崎をも凌ぎ、三井にも優ると云ふ財産家にもなられたでしよ。併し男爵の意は其処にあらずして、我國全体の發展を計られると云ふ御精神から公私の事業に携はられて、惟れ日も足らずと云ふ御生活を今日迄続けて居られると云ふことは、天下の人誰れしも認めて居るのであります。此の國家にお捧げになる処の公共的御精神、即ち國家に忠なる男爵の御主義は、独り実業の發展をお画しになったのみならず、社会の改善、國家の發展の爲に、或は養育院を立て商業学校を起し、最も社会に等閑にして顧みない処、容易に手を着けることの出来ない処の女子教育の事業に、熱誠の賛成を表して下されました。そ一云ふ男爵の公共の御事業を数へて参りましたなら、到底今晚の時を一夜明かしても足りないこととござりますが、夫れ等のことを考へても男爵は只商売、只実業家と云ふのみならず、武士道の魂である士氣に溢れて居られる方であると云ふことを私は常に感じて、ひそかに敬服を致して居る次第であります。斯くの如き人格ある実業家が、及びも一つ外国貿易に模範となられる森村市左衛門君の如き、此のお二人が本校の財務委員となつて、十年間困難なる世帯をひきうけて、日夜御尽力下されますことは我々一同が深く感謝を致し、及び斯くの如き維持者を有して居ることは本校の榮えであると致して、日頃常に敬慕致して居る次第であります。

私は此の頃、我國社会の傾向を思ふ毎に、我が國の実業界に男爵の如き又森村翁の如きお方のあると思へば、困難の中にも猶ほ意を強くすることが出来、貧乏なる中にも猶我國家

は斯くの如き宝を有して居ると云ふことを以て、大に勇氣を加へるのであります。

私は、実業界に斯くの如き士¹⁰⁶⁰、国の宝である処の紳士がおいでになると云ふことを一言述べて、今晚あなた方に御紹介致したいのであります。斯くの如きお芽出度い時に当りまして寮舎一同がこゝに集ふて、男爵のお口づから直接に御教訓を得ますことは誠に有益なことで、寮舎一同の永く記念すべき感化力であると云ふことを信じて、此に男爵を御紹介致したいのであります。

[中表紙]

第一学年実践倫理

明治四十二年四月二十四日

第一学年にて

明治四十二年四月二十四日

[問題]

水曜日中に纏めて出だすべき問題。

- (1) 姓名、生地、現住所。
- (2) 本校に入学する迄の境遇、郷里、家庭及び学校。
- (3) 自己の性質、習慣、健康に付きて。
- (4) 本大学へ入学せし志、及び其の動機。
- (5) 入学後の経験、即ち感想とか又は新に発見したる事。或は新しき考へ起りて、ど一云ふ風に決心したと云ふ様な事。
- (6) 今考へて居る所の問題。(之は入学前より本校の評判など聞き居りて、今猶其の真偽に苦み居る事等。)

御銘々の委しい事は書いてお出し下さる事として、私は猶講義を始める前に、全体の傾向を知りたいと思ひます。

高等教育を受けて、如何なる人にならんとするか。即ち今最も要求するものは何か。

[各自の本校に入学せし目的]

- (1) 人となる為め。
- (2) 力ある人となる為め。
- (3) 意志の自由。
- (4) 女徳を発揮する事。
- (5) 立派なる人格を養ふ事 —— 学識ある人となる為め。
- (6) 自動の能力を得る為め。
- (7) 精神的生命を得る為め。
- (8) 感化力ある婦人となる事。

皆さんが今詞に表された所は相異って居るが、併し大学に進んでお入りになった所の根本の精神は一つに歸するのである。そ一して本校の主義、精神のある所をよく弁へて、やはり銘々深い考へを持ってお入りになった事は、是によってわかるのであります。そしてあなた方のお考へが間違つて居ないと思ふのであります。此の、人となる、と云ふ中には凡ての事が含まるのであります、力と云ふ事の中にも其の他の

いろいろのものが入るのでありますから、且つは皆根本の力を養はう、ほんとの人たる品性を発現しよ一、と云ふ事に歸するのであります。夫れで大抵わかつて居りますが、今度は其の目的を達するには方法と云ふものが入る。夫れは如何にすればよいかと云ふ事になる。そこで、も一少し之を解剖して、具体的にせねばならぬ。茲に婦人の美徳とか女徳とか云ふものがある。故に之を益々發揮して、失はぬよ一にせねばならぬと同時に、古来我が国の婦人にある所の弱点と云ふものもある。夫れはど一しても教育によって改善しなければならぬ。そこで古来我国女性の痼疾となつて居る所の弱点は何でありましょ一か。そのわかつて居る人は答へて御覧。

[我国婦人の欠点]

- (1) 依頼心。
- (2) 夫を助けることもできぬ。
- (3) 心が狭い。
- (4) 社会性が発達して居らぬ事。

そ一云ふ様な事がいろいろあるが、一体我国の婦人は弱い方が沢山あるよ一ですな。身体が弱いと云ふ事もあるが、多くの病氣は頭から出るのである。あなた方は今、勢よく上へ上へと進んで行きよるが、何所迄上つて行かるとあるよ一か。男と女との主なる違ひは、男は何時迄も夫れが下らない。女は四十五位になると、も一凡ての力がとまって、段々下つて来ると云ふ。之は今研究中であります、女は一般に早く衰へる。其所から先づ身体が弱つて来て、其の結果は煩悶病になる。こ一云ふ事を今の詞では、ヒステリーと言ふが、昔は貝原先生などは五病と称へ、儒教の方でも東洋にては、女と小人と並べて言ふ。そ一して東洋の宗教である所の仏教の方でも、女は甚だ宜しくないものとなつて居る。そ一云ふよ一な事凡てをさして、弱いと言ふ。又意志の自由と云ふ事を仰つたのであるが、私共の身体の強い時は自由があるが、病氣になるとすつくり自由を失ふのである。夫れと同じよ一に、婦人の弱い所からいろいろな欠点がある。そ一云ふ欠点からして家庭が治まらなかつたり、夫婦の間が睦まじく行かなかつたり、其の結果、子孫迄も不幸ならしむると云ふ事がある。そこで、之はど一しても将来我國家の爲めに改めねばならぬ。つまりあなた方が力とか、意志の自由とか、女徳の發揮とか云ふ事をお重じなさるのは、皆此に歸するのである。然らば、其の根本については如何なる方法をとる事が一番大切であるよ一か。之があなた方の業を始むるに當つて、最も大切な問題である。

[心意状態]

先づ身体の方はおきまして、心の方を分けると、知情意の三つとなります。此の知情意と云ふものは別々に分解する事は出来ぬけれども、頭で考へる、學問をする、知識と云ふよ一な事を主にする時は、知と言ひます。又想像したり美を感じたりする事は、之を情と言ひ、物をするとか奮闘するとか云ふ時には意と申します。そこで先づ、此の知情意と云ふうちで、我国御婦人は知と云ふものは長所であるよ一か、欠点であるよ一か。欠点であると思ふものは……多数。情は……短所。意は……短所。併し又、情をわけて感情、情緒及び

情操と言ひます。感情は極低い所のもので、誰にもある。動物にでもある所のものである。情緒と言へば、も少し高尚なもので、他愛とか親に孝行するとか云ふものである。夫れから今度はもっと一般的になって、真理を愛するとか、美術を愛するとか云ふ事になると、之を情操と言ひます。そ一云ふ風に我々の情と云ふものにも階段があるのであるが、其の低い情に支配せらるゝ人を感情の人と言ひ、高尚な情に導かるる人を情神の人と言ひます。皆さん、ど一お思ひですか。婦人は此の三つの中のいづれに長じて居りますか。

・感情の人

そ一すると、我が国婦人の欠点とも言ふべきものは何である一か。其の欠点を補ふて、一層完全なる徳を発揮するには如何にすればよいである一か。昔は知と思つたのであるが、今日の判断に於ては意に欠けて居ると云ふ事になりました。何が出来て居ないかと云ふと、意が出来てないのである。夫れで今日は先き程仰つた精神的生命、之も昔は情と思つたのであるが、今日では意であるのです。昔は学問と云ふことは知であると思つて居たけれども、今日はやはり意であると云ふ事になった。ど一しても我々は先づ意力を養はねばならぬ。

詞をかへて言へば、人間の土台は英語で言ふ Will 意志である。そこで教育の目的は善意を養ふ、即ち善い意志を養成すると云ふ事にある。力を発揮すると云ふのは意志を作る、意力を発現すると云ふ事になる。殊に御婦人がヒステリーになり、愚痴になり、狭くなるのは、我国婦人の意志が薄弱であると云ふ事に歸するのであります。そこで昔は学問をすると言へば、博識になる、唯物を博く覚えて居つて、夫れを口に答へればよかつたのであるが、そ一云ふものは生きた字引きである。書物である。所謂、論語読みの論語知らずである。今日の学問の目的は、意力を養ふ事。即ち物の出来る人、熱烈なる信仰ある人、眞の意力となる事が、即ち人格のある永久的の命となるのである。此の意力を養はねば、ほんとの立派なる知識、立派なる感情ともならないのであります。之が文学をする人も、科学をする人も、凡て学問をする者の一般的の目的とならねばならないのである。そこで次に、之を養ふには如何にすればよいかと云ふ其の方法を説くについては、生理の事から、心理の事から、及び宇宙の目的から、広く研究しなければならぬ。之は、其の道に従へば確に之が真理であると云ふ事の解釈が得らるる事であつて、ほんとの一に我々の生命ともなるのであります。

[中表紙]

第三学年実践倫理

明治四十二年四月二十八日

明治四十二年四月二十八日

第三学年にて

只今あなた方の内に含まれて居る大なる要求が、英文学部

及び家政学部から出て居ります。英文学部は、此学年に猶一層精神的生命に入りたい。夫れで先日来少し始めて居りました宗教問題、神とか絶対とか云ふ深い問題に入りたいと云ふことであります。家政学部からお出しになつた問題は、実践社会学と云ふことである。夫れから未だ出ませんが、前に初めました主行主義と云ふよ一な認識に関する問題、之を哲学と言ひましょ一。も一一つあなた方が要求して居るものは、実力と云ふこと。之もよい詞がありませんが、研究して行くのであるから、之を科学と言つてもよいかと思ひますが、猶此の外にお望みがあるならば、言つて戴きたいと思ひます。

- (1) 宗教……………多数
- (2) 実践社会学………稍多
- (3) 哲学……………二人
- (4) 科学……………なし

そ一すると、大多数は初めの二つの問題に歸する様であるが、此の四つは孰れも関係のある問題で、決して別々のものでありませんが、併し集中点が違ふのであります。

それを皆さんが要求なさるについて動機となるもの、今年特に之を要求なさる処の土台の、即ち校風を充実する上に、も一つ本になるものがある一と思ひますが、先づ第一に信仰と言ひましょ一。此の学校で言ふ信仰とは如何なるものであるかと云ふことも、おわかりでしょ一。第六回生が終りに於て、我々の生涯に決して尽きざる本、即ち凡ての力の土台となるものを養はねばならぬと云ふことを、お誓ひになりました。そ一云ふことを信仰と言ふのである。其次に私は個人と云ふ事を申ました。つまり銘々の中に発達した所の人格を一つに結び合せて、茲に完全なる有機体を実現したいと云ふのであります。こ一云ふ事をさして社会性の発現とでも申しましょ一か。も一一つあなた方の要求して居る本がある。つまり此の学年には、本校で行つて居る教育主義をも一層有効にして、学力を展ばさせたいと云ふ事でありませう。詞を換へて言へば、校風の充実と云ふことである。も一一つある。それは今迄のは内の事でありましたが、更に進んで、我国一般の女子教育を盛んにしたいと云ふ事である。年齢で申すならば我国の女子も事情が許すならば、満十七才から二十才までの女子も教育を受ける事が出来るよ一に進めたいと云ふことでありましょ一。

- (1) 信仰
- (2) 社会性の発展
- (3) 校風の充実
- (4) 我国女子の教育を高めること

やはり之れも大きく分けると三つ程になるかと思ふ。私は、寧ろそ一云ふ様な問題があなた方の中から起るのは、少しく不思議な様に考へる。併し、愈々此の問題に入る前に申しておきたい事があります。私共は去年いろいろな経験を致しましたから、其の取るべきものは失はぬ様に保存することに致し、又昨年失敗をした処は深く鑑みまして、今年は其の過ちを再びしないやうに、最初から注意を致したいものであると考へます。

夫れで初めにおきまして、我々が此の目的に達せんとして

今日より其の仕事を始める訳でありますから、茲に充分健全なる態度を拵へまして、齊々と歩を進めるやうに致さんければなりません。其の態度と其の充分なる決心が始めに於て出来ませんと、今年も又同じやうな過ちを繰り返さぬとも限らない。昨年の六回生が其の学年の始めに於て立てました計画と、第七回生がお立てになったものを比べて見ましたならば、其の六づかしいと云ふことには少しも違ひはないと思ふ。寧ろ今年は昨年に優つて居る。いろいろの困難もあり、障害も横たはて居ると言はんければならぬ。夫れで始めに於てよく其の力をはかり、進んで行く処の道を明らかにしておかねばなりません。併し我々は斯くの如き希望を以て今年の仕事にかゝると云ふ事は、非常に愉快に思ふのである。實に私は深い興味を感じるのであります。多分皆さんがそ一云ふ経験を持っておいでになると思ひますが、其の興味が津々として湧き出でなければ、其の険阻な山を登つて行かうと云ふ、其の麓に佇んで其の興味を覚える様な人でなければ、又其の旅支度をして愉快である、面白いと云ふ気分を以て引き立てられる人でなければ、又今年の困難なる旅路に如何にして勝ち得られるかと云ふ成算がなければ、私は、途中にして斃れる、屈すると云ふよ一な弱卒も出ないとも限らぬと思ふ。其の愉快な又勇ましい氣象がいろいろあるのである。之れが、旅立をするのかくべからざるものである。之れがなければ、如何なる困難にも如何なる境遇にも堪へ得ると云ふ偉大な力が出て来ないのであります。私は、此の中に其の経験をお持ちになる人が幾人おありになるかと云ふ事を考へるのです。外に私は、あなた方のためにそ心配になることはありません。只、其の味はひが、本当にあなた方にわかるであらうか。わかつて居れば、既にも一其の態度が出来て居ると云ふことがわかるのである。

[人生の眞の幸福を大別すれば二つとなる]

私は自分の生涯に於て一番面白い、一番興味のあると云ふことを思ふ経験が、二つあるのです。之れを皆さんが味はふことが出来るであらうか、ど一か。人生の眞の幸福を大別すれば、二つの経験となるのであります。

二つの経験と云ふのは、一つは肉体の生理的の興味、又一つは、夫れと余程似て居る処の興味であります。

[高きを踏め]

夫れはなにであるかと言ふならば、此間森村さんが深く感じましたと云ふお話しがありました。夫れは、人となれ、高きを踏め、と云ふことである。高きを踏めとは、高きに登れと云ふことである。家康公が、人の一生は重荷を負ふて遠き所に行くが如し、と言はれたのは此の事でありませう。我々の生涯は高きに上るが如し、高山に重荷を負ふて或は車を押して、一歩づつ登ると云ふ処にあるのです。其の高きに上ると云ふこと、山に登ると云ふこと、之程人生に愉快なるものはない。楽しいものはないのであります。此の山に登るのは、段々自分が高い位地にとゞきまして、広き天地を望める。遠き眺望を見ると云ふ事は愉快なる事である。段々上れば上るほど遠方が見えて参ります。上れば上る程、宇宙の無限なる事が感ぜられて来る、想像されて来るのであります。此の高

山に登つて高い処から広い天地を眺める、又段々深山にかけ登つて、そ一して無限絶対なる此の宇宙を考へて、美妙なる其の自然に接すると云ふ事程、愉快なものはない。之れは、人生の高尚なる理想に進み目的の上つて行くにも、譬へらるゝのであります。無論そ一云ふ高尚なる理想を懐いて、高きに上ることは楽しいのであるが、夫れのみではない。険阻な山に上り、岩に這ひ上り、樹木をかきわけて高きに上ることは、其の高きに上ると云ふ其の努力、其の働き夫れ自身に深い興味がある。昔は、愉快と云ふ事は目で美しい物を見、耳でよい音楽を聞き、口に美味を味はふにあると思ふたけれども、今日の興味は活動にある。働いて高きに上る、高山に段々上つて行くことと云ふ興味は、實に言ふべからざるものであります。

私が子供の時は、本を読むのが嫌ひであつたと云ふ事を申した事がある。何が楽しかつたかと云ふと、鉄砲をかついで獵に行く事、又松茸狩に行く事や、其の他大勢では一べん山と云ふ様な深山に駆け入りましたこと。私の宅の前を流れて居る所の吉敷川に泳ぎ、或は泉山の窟に入って獵をするとか、又は高山の上から遠方を眺めると云ふよ一な事で、是程愉快な事はありませんでした。夫れから外国にも参りました。又私は我國をも方々歩きましたが、一番面白いのは山に入る事である。夫れから軽井沢へ参りましたが、近来あれほど面白いことはありません。夫れだから毎年行きますが、あの碓氷峠を上り、布引山に登ると骨は折れるが、自分は誠に愉快である。生涯に於て、我々の身体の快樂の中で山に登る、高きに上ると云ふ事程、興味のあるものはない。若し御婦人であるからそれ程でもない仰るなら、私は、實に御婦人は御氣の毒であると言はねばならぬ。そ一云ふ興味を味はふことが出来ないから。併し夫れに類したものがあるであらう。此の高きに上る、山に登ると云ふ事は人類自然の興味である。我々の筋肉の力を鍛ひ、夫れと同時に意力を養ふのである。此の活動の興味と云ふものは、實に愉快を覚えるものである。之れは身体の事ではありますが、夫れと余程よく似て居る事は我々の精神的活動の興味である。我々が理想に達しよ一、目的を達しよ一として、段々段々歩を進めて行く。即ち我々が今達して居る処から、も一段高きに進んで行かうと云ふ希望を持って、上へ進んで行く所の其の努力、其の人間の働き、其の人間の奮闘と云ふものは、独り高きに上り、深きに入つて、広き天地を見出だすのみならず、其の高きに上ると云ふ興味がある。茲に我々が奮闘努力して其の愉快を味ははねばならぬ。今や恰も我々が、布引山、富士山を目標として、之れより高きに上ると云ふ身支度を致して居ります。其の実に愉快な、其の希望に満ちて居る旅立ちであります。其の山に登るために努力奮闘して居る、其のストラグルを愉快に思ふ興味がなければならぬ。其の興味が我々の高きに上る原動力であります。其の原動力が働いて居りませんと、我々は中途にして斃るゝ虞れがあるのであります。夫れで高い山に登つて行くのでありますから、骨が折れると云ふ事は始めからわかつて居る。困難にも遭ふから夫れに戦はねばならぬと云ふ事も、第五回生が將に卒業せんとする時に當つてお誓ひなさつ

た様に、我々は其の困難に戦ふて行くのである。其の険阻な山を登って進むのである。其の困難に戦ふのが面白いのである。其の山に登るのが言ふ可からざる楽しみである。其の興味のある人でなければ、必ず不平が起る。又失望するのである。又勇気がなくなるのであります。失望したり不平を言ふたり又勇気を失ふたりする人は、其の目的地に達する前に斃れて了うのであります。そこで我々は初めに於て、其の山に登るのである。其の困難に戦ふのである。骨は折れるが、其の道は困難ではあるが、決して登れぬものではない。我々は其の山に登る支度をせねばならぬ。又其の山を登ると云ふ決心をせねばならぬ。若し我々が其の愉快を感じ、其の興味を味はふことが出来たならば、必ず我々は其の目的地に達し得ると云ふ事はきまつて居るのである。若し其の目的地に達する事が出来なかったなら、其の過失は自分にあると云ふ事を覚悟しなければならぬ。そこで此の山登りをするには、高きに上るには、即ち高きを踏むには如何なる心が入用であるかと申しますと、此の山を登るには第一に入用なるものは、我々の内にある力である。其の力は、物質的の山に登るには物質的の身体力である、筋肉である。足やら心臓や筋肉の凡てを働かせねばならぬ。そ—して我々の目的地に、精神界の山に登るには、精神的の力、英語にて言へばMindの力が入るのである。所謂インテレクトエルパワー又はメンタルパワーと云ふものが入るのである。此の力が、我々をして高きに上らしめるのである。頭の力のない人、熱烈なる意力のある人でないならば、此の高きに上る事は出来ません。つまり上るとは、力が上るのである。あなた方の能力が増加することであり、茲に今年我々が山を登る、も—一階段校風を高める、我々の人格をも—一段高めるには、力が入る。其の力は如何なるものでありましょ—か。私思ふに、三年生は年齢に於ても最も盛んな時であるのみならず、あなた方の生涯に於て、此の時代は非常に大切な時である。あなた方の要求なさる命の泉、我々の要求する力の淵源を開く為めに、最も大切な時機に達して居るのである。そこであなた方が、実力を養ふと仰るのは何を意味するのであるか。若しも検定試験を受けたなら、之れに及第することの出来るよ—に、該博なる知識を貯へる事であると考へられるかも知れぬ。又此の一年の間に出来るだけいろいろな技術を覚えておく、之が誠に必要であると言ふかも知れぬ。併し此の山に登るのは今年だけではない。我々は生涯山登りをして行くのである。毎年同じ処に居るのは面白くない。山に登ると段々宇内に広くなり、段々人生が完成せらるゝのである。故に我々は生涯山に登るのである。其の山に上る力、Mindと云ふものは何によって量るのであるか。昔は、之れはSoul、即ち靈魂の力であると考へて居りましたが、今日では多少見解が違つて参りました。何となれば、人間がも—少し高い山に登つて来た、も—少し実在がわかつて来ましたから、何に由つて計るかと言ふと、我々の脳髓である。つまり大脳の重さ、分量である。其の繊維の組織、及び活動連合と云ふよ—な事に由つてはからねばならぬ。如何となれば、其の脳髓と我々の精神の力と云ふものは必ず並行するものである。故に其の力を正確に計るには、其

の眼に見る処の脳髓の組織、分量、働き等によって計つて行かねばならないのであります。其の脳髓の灰白質の厚さ又其のみぞの深淺、中枢細胞の形、繊維の長さ、又其の活動の有様等は、我々の精神状態によって発達するのである。故に精神の作用と我々の脳髓の発達とは、必ず並行して居るのであります。そこで我々の精神状態と云ふものも、やはり此の大脳の中にある処の現象に一致すべきものとなりました。そこで今日は其の両者の關係が益々明らかになつて来たのである。夫れから、人間と云ふものは他の動物と著しい違いのあることがわかるのである。此の我々の脳力を養ふには、我々の精神に最も關係の深い所の脳髓の力を考へねばならぬ。又其の法則に従はんければならぬ。其の脳髓の働きはあなた方が生理学で学んだよ—に、人間は満十七才になると其形だけは出来上るのである。夫れから段々発達して、女で言へば十三から十五迄にかけ、目に於て、分量に於て殆んど完成するのであります。夫れから教育によりまして、即ち精神の作用によりまして、此の細胞から出来て居る処の繊維の働きと云ふものが、二十才迄に出来る。夫れから三十三才は繊維の連合の習慣が何処まで進むものであるか。知力、意力と云ふよ—なものゝ発達は大抵三十三才迄は進むのである。猶段々進んで行くものは、女は大抵四十五才迄。男は或は六十迄発達した処の美質は少しも下に降らず保つて、夫れから今度は別の道に行くのであります。即ち生理的の力は下に降つて行くけれども、精神的の力は上に昇つて行くのであるが、其の発達の速率は、銘々の力により習慣によって違つて行くのであります。そこで今あなた方の頭の中は非常なる大切な発達時期、又完成時期にあるのである。今茲に深い信仰が出来たなら又ほんとに深い経験を拵へたなら、あなたの生涯を進めて行く処の力の根本が出来るのであります。然るに茲に於て只暗記的の力ばかりを使つて、根本を作ることをしてしなかつたら、ど—なるでありましょ—か。昔から、論語読み論語知らず、と云ふことがある。又今日、少しも役に立たぬ物議りのあるのは何故でありましょ—か。つまり、あなた方が此の一年間根本の力を養ふことを怠つて、つまらぬ心配をしたり迷ふたりして居つたならば、成る程卒業のとき名譽は荷ふかも知れぬが、実は其の人の根本を破壊し、品性をも損つて居るのである。之れは実に惜しいことであり、昨年などは、少しそこを誤つたお方もある。実に惜しいことです。我々は何を養ふかと言へば、つまり我々の中にある力を発達させるのである。精神状態を健全に発達させるのであります。我々人間の価は外からつけたものではない。我々の中にある、本にあるものである。其の力を養はんければ、其の力を用ひんければ、決して本当の高きに上ることは出来ないであります。真に其人の力が増進したのでなければ、我々は其の人が一段高きに上つたと言ふことは出来ない。夫れで私は、今年はどうか、あなた方が根本に目をつけてもらひたい、本当の力をつけてもらひたいと云ふことを、希望するのであります。

〔第二〕は、我々が高きに上るには、愉快なる旅路を上るには、それ相当の旅支度をしなければならぬ。軽便なる旅装束をしなければならぬ。所謂自由を得なければならぬ。如何

なるものも我々を妨げるものはない。我が足、我が手、我が心を何物も束縛することは出来ぬ。此の眞の自由を得なければ、到底我々は高きに上ることは出来ないのである。其の妨げとなるものは何かと言へば、第一、己が内にある。其の次は虚栄心。人の噂などに束縛せられて、ほんとの自由を得ないものが沢山ある。故に我々は、ど一しても先づ其の自由を得なければなりません。

〔第三〕には、愈々身拵らへを致して、是れから山に登りかけて、段々歩を進めよとする。併し茲に大なる試みがある。皆さんが、今年の計画を全うしよ一、大勢を昨年よりも二倍も三倍も高きに進めよとする。其の中に、よく気をつけないと血気の勇と云ふものが交る。そ一すると必ずあせると云ふ事が起るのであります。山に登る、高きに上る経験のある人は、どしりどしりと上るのである。そろりそろりと進むのである。決してあせったり、かけたりしないのである。或る書物に、こ一云ふ話があります。或老人が山に登って行く途中、血気盛んな一人の青年があつて、夫れは勢込んで登山するのである。けれども老人の方はあせることなく、急ぐことなく、ぼつりぼつりと登って居たのであります。此の老人を見て青年は心の中に嘲りまして、汝の如き鈍く重たき足を以て、逆もあの頂上に登れるものではないと思つて、殆んど影も見えない程に走せ登りました。処が老人が頂上に達する頃に、前の青年は途中で力竭き、望み果てて斃れて居たと云ふ話がある。山に登る経験のない者は屢々此の轍を踏むのである。けれども老練なる登山者はぼつりぼつりと落ちついて行くのであるが、併し必ず之れは成功するのであります。成功を急ぐ人は碎けて了うか、失望、落胆したりするのである。私は随分気のいらつ方であるが、併し或意味に於ては決してあせらないのである。ほんとの意味の成功と云ふ事は後で申しますが、我々は生涯の目的を立てたならば、如何にも頂上を忘れたかの如くに喜んで、山を登りさへすれば宜しい。其の態度が最も必要であります。其次に、勇氣を持って少しも途中で迷つたり又は挫折することなしに、生涯の間又終り迄戦ふて進む人は、斯くの如き勇氣を持ち希望に満ちて、高きに進む秘訣が一つある。夫れは何であるか。我々の努力は必ず成功するものである。成功と云ふ事は確かである。即ち蒔いた種は生へるものである。我々の努力は必ずそれだけの結果があるのである。其の確かなることは恰も、明朝は必ず太陽が東から昇るに違ひない、其の信仰です。我々の働きは徒勞でない。如何に人が知ってくれないでも実を行ふならば、必ず其の仕事は結果がある。成功する。必ず我々の到達すべき彼の岸がある、此の信仰であります。併し其の成功とは名譽を博すとか、高位高官に上るとか、或は非常なる金持ちになるとか云ふことではない。そ一云ふものは時に来るかも知れないが、夫れは成功の結果である。我々の所謂成功とは理想に達すると云ふことである。即ち立派なる人となり、即ち善を為し、真理を悟り、有益なる生涯を送る事の出来る処の品格を作ると云ふことが、即ち人と為ると云ふ事が、我々の目的である。其の目的を遂げる、其の意味に於て成功すると云ふことは、火を見るよりも明らかである。したゞけ

のことは必ず結果があるのであります。

故に我々が事をするに、〔第一〕己を信ずる。己の中に斯くの如き力がある。必ず我々は其の法則に従ふて努力すれば、我々の望む処の品性、我々の望む所の実力が必ず現れるのである。我々は必ず人となれるのである。我々は必ず一つの個性が発達するに相違ないと云ふことを、信ずるのであります。

又第二には、人を信ぜよ。必ず我々が尽すならば、我々が身を捧げるならば、我々が望む処の天国は来るのである。理想の社会は実現することが出来るのである。自分の中にもそ一云ふ本性があるよ一に、人の中にも必ずそ一云ふ本性があるのであります。

〔第三〕には、天を信ぜよ。愛を以て万物を支配する処の天、宇宙を信ぜよ。我々の本性は、我々の力は、実に其の本源より參つて居るものである。其の我々の努力に対する処の結果、即ち高きを踏んで達すべき彼の岸は、必ずあるのである。之れは火を見るよりも明かなる事實であると云ふことを信ずる。然らば何を恐るゝことがあるか。何を心配する事があるか。夫れでも猶心配する者は彼の天が崩れて来はすまいか。若し地が陥つてしまつたらど一しよ一と云ふ事を恐れた所の者と同じことである。

夫れで我々は努力すれば高きに上れる、少しづつ進歩し得る、働いただけの結果は必ずあると云ふことは、少しも疑ふに及ばない。此の信仰があるならば、仕事が多いとか時間が足らぬとか、泣き言を言ふ必要はないのであります。其の次に我々をして高きに上る、愉快を感じしむるものは、我國の女子をも一階段高きに進めたい、或は我國をも一歩発達させたいと云ふ望み、之れ程高尚なる又偉大なる考へはありません。其の爲めに苦み、其の爲に戦ふのは、即ち國家の爲め、延ては人類の爲めであります。故福澤先生が文部省に反対し政府に逆らひ、凡ての世論に戦ふて立たれた其の時に、或る人が、あなたはど一して世に憎まれて、飽く迄持説を主張なさるか、と言ふと、否是程面白い事はない、と。是からはど一しても漢學一天張りで行かれるものでない。今こそ反対があるけれども、早晚我々の議論の誤りでないことがわかつて參る。故に益々勇氣を出して戦ふのである、と言はれたそ一であります。私自身もそ一である。此の前の卒業生に私は、三十五年ばかり前から日本の人に向つて手を挙げて居たと云ふ事を、申しました。夫れにはいろいろあるが、女子教育でもそ一である。其の結果、女子教育は一階段上つて来たのであるが、今日は夫れ以上、も一階段進めよと云ふのである。所が今日は少し反動を被つて居る。然れども此の反動は到底長い事はない。故に我々は其の反対に戦ふて居る。ど一かして我國社会を一步でも進ませよと努力して居るのである。夫れは丁度、山へ登るよ一なものである。我々の生涯は十三の時から何時でも世の人に反対して居る。世の中の人丁度其の時によ一様な事を言つて調子を合せて居るけれども、私は何時も世の中に反対して居るのであります。そこであなた方も之から社会にお立ちになると、同じ事を皆さんが感ずるのであります。此の後に於て、女子高等教育はど一しても、止めても止められぬ様になるであらう。けれども今

日は一寸反動を被って居る。其の反動の中で、どーかしても一歩自分を進めて行かう、どーかしても一歩我国を進めて行かうと云ふ希望を以って進むには、非常なる覚悟を要するのである。かの福澤先生の事は確に我が国に貢献する所があったのである。我々こ一云ふ世の中に生れまして、一歩先に進んで行かう、そーしてどーかして世の中を進めて行かうとするには、必ず苦しみがある。けれども之れは、丁度山へ登る様なものである。私は、今年一歩一歩山へ登るにはど一云ふ事が一番肝心であるかと言へば、一致協同して進むならば大に見るべきものが現れるであらう。夫れは決して疑ふには及ばない。夫れで皆が熱心に落ちついて、そろりそろりと進む事に致したい。私は出来るだけ皆さんの要求を入れて進みますから、あなた方も充分旅支度をなさってお進みになることを希望致します。

[中表紙]

第一学年実践倫理
明治四十二年五月一日

第一学年にて
明治四十二年五月一日

此の前に、茲に高等教育を受ける為に皆さんが入学をなさって先づ業を始めなければならぬが、其の力を入れる一番主なるものは何であらうかと云ふことを、此の間私がお尋ねを致したのであります。夫れから私は、大切な事がいろいろあるけれども、夫れを皆よせて一番大切なものは何かと言ふと、完全なる人となること、其の完全なる人になるには強固なる意志を養ふことが大切である、と申しました。

[何故に意志が必要なるか]

併し、何故に夫れが一番大切であるかおわかりにならぬ方があるかと思ひますが、一寸聞いて見ましょー。

意、意志、英語で言ふ Will と云ふ字を知らなかったものは………無し

夫れが、何故大切であるかと云ふことのわからないものは………二、三人

今から数年前に、日本に教科書事件と云ふ事が起りましたが、夫れを知って居るものは………多数

近頃、之に類した事が起った。我国で位もあり地位もある有力なお方が沢山拘引せられたけれども、之も世間で言ふのには、網にかゝつたものは雑魚である。鯛とか鯨とか云ふ様な大きなものは皆洩して居る、との話です。学問があり、知識があり、先づ我国では識者と許されて居る人が盗賊をする。之をさして、皆さんは知識あり学問ある人と言はるでしよーか。そーではないと思ふ者………。そー、只学問、只知識ではいけないのである。夫れからも一、情と云ふことがあります。あなた方の中に、私は意志が弱く感情家でありますと仰しやる方がありますが、感情とは人の苦んで居るの

を見て気の毒に思ふたり、失望したり、煩悶したり、又昨日はよかつたけれども今日はいけないと云ふ様な人、斯くの如き感情家と云ふ者があるでしよー。そ一云ふ人を親友とし、そ一云ふ人と共にしよーと云ふ情が起りましょーか。そ一云ふ人は意志のない人である。知があり才があるけれども、それを善い方に使ふて、自分の主義、理想と云ふものを行ひとすることが出来ぬからであります。併し又意志だけあつて知のない人があつたなら、どーでありましょーか。同情を持って居る、厚意のある人であるけれども知がなかつたなら、愚であつたなら、どーでありましょー。又情を欠いだならば、どーであらう。其の人は無能である。力のない者であります。無能なものは無為に終るより外はない、無益なる人間である。無益なる人間はやはり価値なきものであります。そ一云ふ風に論じて来れば、知情意の内、孰れを欠いでも立派なる人間とは言はれないのであります。けれども意志と云ふのは、感情と知と調和したものである。感情が道理に従ふて動いて居るのである。

[意志とは何ぞや]

之が即ち意志であります。そこで東西の聖哲学者、教育家と云ふものは、人間の価値としては此の意志に重きをおいて居るのである。儒教で言へば、孔子様は克己復礼と言はれました。又仏教で、煩惱を殺して成仏する根元は、やはり意の本性であります。

[Kant 曰く Hegel 曰く]

又西洋で言へば、Kant と云ふ様な人は、善意は此世界に於て絶対的価値を有するものであると言ひ、Hegel は、教育は人をして道徳的たらしむる術である。

[Herbert 曰く]

夫れから一時我國の教育を支配致しました Herbert も、主に此の心理学は知に重きをおいた人であるけれども、教育の第一義は意志の修養であると申しまして、近世の教育の大勢は皆之に向つて居ります。

[Matthew Arnold 曰く Schopenhauer 曰く]

又 Matthew Arnold は、行為は人間生活の 3/4 なりと称へ、又哲學家の Schopenhauer は、人は 1/3 知であり、2/3 は意であると。又或る歴史家は、歴史は意志的運動に外ならぬと言つて居ります。

[人の力の根本は意志なり]

夫れであるから、此の人間の意志がなければ学問も出来ぬ。情即ち人間の趣味も、やはり此の意志の働きが進まんならば養はれないのである。其の人間の力の根本である意志を養ふ、之がやはり教育の淵源である。学問のやはり本にならんければならぬ。其の意志は如何にして発達するものであらうか。之が先づ教育を受ける者の始めに於て、わからなければならぬことでありましょー。之迄は此の意志を養ふには、又は学問をするのは只目で本を読み、耳に講義を聞くと云ふことに由つて、出来るものと思ふて居つたのです。けれども之が誤つて居ると云ふこと、即ち斯くの如き教育法に由つて真の人物を作ることは出来ぬと云ふことは、最早人類が充分の経験を積んで、其の誤りを見出したのであります。其の力を養ふ

根本、人間発展の一番の本を育てると云ふことは、やはり芽を延ばすのである。人間の欲望を育てるのである。

[欲望の本とは何ぞや]

其の欲望の本は何であらうか。之が今日、最も大切のものとして見出だされた所である。其の欲望の最も先きに現るものは筋肉である、活動である。此の随意筋と名づける筋肉は我々の意志の働く本であり、又我々の活動の原因となるものである。そして其の筋肉は我々の身体の43/100程を占めて居るものであります。其他脳髓、脊髄とか云ふものは筋肉よりも猶一層、意志の働きに密接な関係を持って居るのであります。

[品性と筋肉の習慣の総合なり]

我々の教育によって生ずる所の習慣、又其の習慣がかたまつて出来る所の品性と云ふものも、亦筋肉の習慣の総合なりと言ってもよい位であります。私が之を申すのは、今迄の教育に怠つて居た所の筋肉は、我々の脳髓の活動が筋肉に伝つて我々の意志を拵へるのであります。夫れで意志を養ふことは、運動中枢及び繊維の、連合及び発達によらんければならぬと云ふことであります。そこで本校の教育機関が何故に必要なかと云ふことが、此に於て説明されなければならぬ。

[本校教育の二方面]

本校の教育を二つの方面にわけて居ります。一つの方面を印象 Impression、今一つの方面を発表 Expression と云ふことでありますが、併し最も重きをおいて居るのは此の発表の方面であります。之が今迄の学校と違ふ所であり、其の働きを展ばす様に与へられて居る境遇に順応することが六かしいと云ふことになるのであります。我國の今迄の教育と言へば、先生が講義をする。生徒は只夫れを聞いて筆記をする。そして先生が働いて生徒は只じつとして暗記をするばかりである。こゝ云ふ、つめ込み主義の教育でよいであらうか。そゝではない。教育は人間の中に元から与へられてある潜伏力、可能性を引き出すのである。発現するのである。夫れが學問であり教育であるのです。其の人の中に潜んで居る力を発達させると云ふ事が、つまり前に申しました、意志が発現するのである。夫れはやはり活動によらんければならぬ。其の活動に二つある。一つは生理的活動で、も一つは精神的活動であります。其の生理的活動は筋肉によって出来るので、其の筋肉の活動が出来なければ精神の活動も発達しないのであります。夫れであるから、我々の筋肉の活動は必ず我々の脳髓、及び其の周囲の繊維などに伝はつて来る。そこで此の運動中枢と云ふものは、我々の意志が其所から出来ると言っても宜しいのである。故にあなた方は今実に大切な時である。運動中枢及び其の繊維の習慣の、將に盛んに起らんとする時であります。其の時に於て最も必要なことは、此の発表である。夫れであるから殊に大学は学ぶにあらず、思考するのである。只知るにあらず、力を得るにある。先生から貰ふのではなく自ら奮闘して捕獲するのであります。之を私は、殿様の教育を改めて平民的教育を受けねばならぬと申すのである。

[殿様の教育]

殿様の教育と云ふものは殿様の御獵と我々の獵とは違ふのである。茲に沢山の材料を収集して知識を製造して先生から貰ふならば、之は殿様の教育である。我々は自ら山野を跋涉して獲物を追っかける、此に於て真の力が出るのである。けれども今日は、兎角依頼が多いのである。此の道理がわからねば、ほんとの學問は出来ないであります。夫れから此の発表と云ふことは、人に与へるのである。今後の學問は何か自ら見出だして考へを構成して、先生に供するのである。又自分の級に与へるのであります。夫れから、是迄の印象教育は主に知であつた。英語で言ふと To know であつた。併し是からは、此の発表教育では To be でなければならぬ。即ち、成るのであります。

[発表教育とは如何なるものか]

そこで本校の教育には、此の発表と云ふことに重きをおいてあるのである。其の発表と云ふ事は、自分でことを起して行かねばならぬ。自分で材料を収集し、自分で組み立てて行かねばならぬ。所謂自分の力を働かせて行かねばなりません。其の為にいろいろな境遇が開かれてある。其の機関を使って行かねばならぬ。

[自治機関のおかれある所以]

本校に何故、係と云ふものがあるか、自治機関と云ふものがおかれてあるか。之等は皆、発表教育の爲である。自我発現の出来る為であります。あなた方は第二の國民の母となるべきものである。そゝして其の大任を全うするには、何が一番大切であるか。只少し物を知つて居つた所で、其の人間に生命がなければ何の役にも立たないのであります。凡て物の発達には時機がある。其の時機に発達を遂げしめておかねば、却つて其の力を妨げて了つて、大きな人間、大きな教育家とは行かないのである。

[婦人は天賦を発現すべし]

故に根本として最も大切にせねばならぬことは、あなた方婦人としての天賦を最もよく発現しておかねばならぬ。夫れが出来て始めて他の凡てのことが出来るよ一になるのであります。併し夫れだけではわからないでありましょ一が、私思ふに、あなた方は種はよいのである。今之をよく展ばすならば、将来必ず立派なる幹となり、枝となり、花咲き、実が結ぶであらう。そして猶卒業後に於て、あなた方は真に我國家が望む所の婦人となることが出来ると云ふことは、疑ふ可らざることであります。

[中表紙]
第三学年実践倫理
明治四十二年五月五日

明治四十二年五月五日
第三学年にて

今日は、教育学部並びに文学部より、学部係の報告がある筈でありまして、其の為に約一時間残しまして、私は其の前一時間だけ使用するつもりでございます。今日は、今申しました両部から今年の計画の発表をなさるのを聞いて居りまして、終りに於て批評をする筈であります、終り迄居る事が出来ませんから、適当な問題をとって成るべく一時間に結了したいと考へます。

今朝、文学部の学部係より其の計画をお持ちになりましたので、私は少しわからぬ処をお尋ね致したが、其の問ひについて充分お答への出来ない処がある様であるが、つまり今年の学部係が力を入れよ一として居る事は研究である。も少し力をつけよと云ふことであります。私もこれは至極必要であると思ひますが、是は誰れも生涯勉めねばならぬ事であるから、敢て今年の特徴と言ふ事は出来ぬ。又力をつけると云ふ事も独り文学部だけの事ではない。故に、も少しお考へになる様に申しておきましたが、之れは今日はおきまして、全体の願望であると云ふ事は疑ひなき事である。併し今年の特徴としてあぐべきものは何かと云ふと、未だ答へが充分でない。故に充分に力を現すと云ふ事については、夫れに伴ふ方法がなければならぬ。其処迄案が立たねば実行することは出来ないであります。併し之れには種々ありますが、今日は先づ学部係と云ふ問題であるから、其の方から考へまして、個人及び全体の力を養ふ為めに、各部は如何なる特徴を発揮すべきものであるかと云ふ事を、申しておきたいのであります。

文学部は如何なる力をつけよと云ふのであるか。国文学、或は人文史と云ふよ一な事について、堪能になりたいと云ふ事であるか、又は思考力を養ひたいと云ふ事であるか。先づ夫れについて、三年、二年と云ふ区別なく、何処からでもお考へつきになった事を聞きましょ。

家政学部 判断力(知力) 精神力と物質力より得る処の意力 実行と思想と調和して行かゝるゝ処の力、即ち順応力

教育部 人格の力

文学部 人格の力

英文学部 原動力(徳)

力と云ふものは、一言に言ふと発現力である。即ち潜勢力が段々と現れて行くことを言ふのである。其の順序から言ふならば、茲に仰った様に精神力と物質力が与かつて、力あるものであります。先づ感覚が知覚になり、観念、推理、断定となるやう、やはり階段を踏んで進むのであります。そこで我々が生涯力を現はさうと言へば、健康が続き長命が出来ねばならぬ。或意味から言ふと、我々の精神力は肉体の寿命

には関係がないとも言はるゝけれども、亦一方からよく考へると、やはり健康が必要であります。又精神の方からいへば、細胞の実質の発達、及び其の周囲にある繊維の発達、ならびに其の繊維連合の発達である。故に我々の頭の中の脳力の発達を意味する事もあるのである。ど一したならば其の我々の凡ての力が皆関係ある処の脳の発達は増進することが出来るかと云ふ事も、考へねばならぬ。

其の後に発達するのが知力である、判断力である。之れはど一して出来るかと云ふと、其の始めは感覚から起るのであります。其の次には知覚となり、観念となり、其の次に推理と云ふ事が起つて来る。つまり之を言ひ換へて見ると、科学、哲学の力となります。つまり我々が力を得たいと云ふのは、Scientific mind 科学的の力、或は Philosophical mind 哲学的の力を得たいと云ふ事になるのであります。又精神の力の方から言へば、文学、宗教の方の力である。古から、精神一到何事不成、と言つて、之れさへあれば実に魔力である。何事も出来ない事はないのであります。そ一して此の力が一つの習慣となれば、之をさして徳と言ふのである。又之れを意志の力と言っても宜しいのです。即ち人間に意志の自由を与ふる処の力、斯くの如き力を要求すると云ふ事になるのであります。

[力とは何ぞや]

そこで力と云ふものは何であるかと云ふことを茲に先づ挙げて見れば、各部から要求する処のものは、こ一云ふ処に帰着するのである。然らば夫れに対する方法がなければならぬ。四学部に分れて居るから四学部の特徴が発揮せらるゝならば、茲に其の力が充実せられて来るのであります。故に先づ他の部にならぬ処の長所が現れ、又他の部より受け入るゝ処のものが発揮せられねばならぬ。其の力をつけるにはど一云ふ風にしなければならぬか、又ど一云ふ風にあなたの力を出すのでありますか。

教育部 (1) 感化力……………実践躬行

(2) 科学的思考力……………教育

健康の秘訣は只滋養物を食べるのでもない、只運動するのでもない。Balance を得る事にあるのです。我々の力と云ふものも、つまり順応である、調和である。故に只物を考へるだけでもいけない。只本を読むのでもない。然らば、即ち文学部の使命は調和にある、趣味にある。美と云ふものは此処から生れて来るのである。夫れから想像と云ふもの、更に進んで哲学となるのである。そこで文学部が全体の関係を見出して、志を立てゝ理想を実現し、大に美を現すと云ふ事は、趣味を養ひ立派なる想像力を養ふて、哲学に進むと云ふ事に在るのであります。

[中表紙]
大学部全部実践倫理
明治四十二年五月八日

大学部全体の為めに
明治四十二年五月八日

今日は、此の前の続きを一年に講ずる筈でありましたが、丁度三年の方が時間が足らぬ為に残りまして、今日一年に説きます筈の事と一致する点がありますから、一緒に致します。も一つ、研究科の方が教育についてお調べになっておいでになる事がござりますが、夫れについても今日此の校で申しておけば、私が其の方に改めて申さなくてもすむ様な事がありますから、そ一云ふ様な目的を以て進みたいと考へます。一年の順序に従ふと、少し今日始める所と連絡がつきにくいかも知れぬ。丁度第二段目に於て、連絡がつくかと思ふ。第三段目に於て、四学部の学部係が研究して居らる事、即ち今年に於て大に力をつける為に、ど一云ふ風に全体を進めて行かねばならぬかと云ふ様なこともあります。其の他教育部の職責について、私かも一少し委しく申すつもりであります。其の中で一部分だけを今日申して、つまり二段にして申すつもりであります。教育部の特色は、力の中の人格の力を養ふこと、即ち感化力であります。之は教育部からお出しになった案の一部であります。其の感化力の本である所の人格の養成と云ふことは、如何にして成就することが出来るであらうかと云ふことが、問題であります。一年の方からも同じ様な問題が出て居りましたが、其の人格養成と云ふことを成し遂げて行くには、いろいろ大切な条件があります。

[答案の分類]

併し過日来、あなた方からお出しになった所の案を分類して見ましたならば、凡そ三つ程になります。第一は感化力と申しますが、もう少し学術的の詞を以て言へば模倣、即ち Imitation である。第二は興味、Interest。第三は努力、Work であります。

[感化力]

其の力の中で一番の本となる、即ち根になるものを、今日考へたいと思ふ。之を感化力と言ひ、又英語で言ふ Suggestion、暗示又は模倣とも言ふのである。

[教育の大切なる三要素]

之は研究科生の今調べておいでになる問題にも必要なことで、此の前にも申しました様に、教育の大切なる要素が凡そ三つになる。其の一は遺伝、二は境遇、三は自動と云ふことを申しました。其の時に教育と云ふものの意義を大体お話したのであります。其の三要素が此の感化力、或は模倣と云ふ詞の中にも含んで居るのであります。夫れで殊に私が少し学術的の言葉で此の感化力を説き明かすことに致したのは、今研究科でお調べになって居る教育の中で、模倣性（児童に最も現れる）と云ふものを落してはならぬ。故に其の根本の力を説くことが必要である一と考へます。併し模倣と言へば、此の学校の教育主義に於ては悖って居ると考へる人があるか

も知れない。模倣は初等教育では必要であるが、中等教育以上になっては、模倣は注入になると思ふ人もありましょ。併し私の今使つて居る詞は科学的に學術語として、所謂心理学的に又社会学的に用ひて居る詞であるから、通俗の模倣的教育とは少し違ふのであります。之は心理学から見ましても、亦社会学から見ても、個人並に社会に及ぼす所の殆んど根本的の発展力である。夫れで初めに此の模倣と云ふことは、心理学並に教育学の方からはど一云ふ風に用ひられて居るか、社会学から如何に用ひられて居るか、夫れから模倣と云ふことの種類がど一云ふ様に分れて居るかと言ふことを、即ち字の意味から説明して置く事が必要と思ふ。先づ初めに人格の発現と云ふものは、此の模倣性によって出来るものである。次に此の社会と云ふもの、或は社会の所謂 Social force と名づける所の風俗とか、習慣とか、制度とか、又は社会性と云ふよ一なもの、やはり此の模倣性から発達するのである。夫れのみならず真理の発見、又は機械の発明、科学の研究と云ふ様な社会の進歩、発達の方も皆之から起るので、之は近來の科学的発見であります。殊に仏蘭西の社会学者の Tarde、心理及び社会学者たる Baldwin、之はアメリカ人である Royce と云ふ様な人の書物にそ一云ふことが沢山あるのです。

[ポールドウィンの説]

夫れら先づ初めにポールドウィン、此の方は殆んど模倣が基となって出来て居る議論であるが、先づ如何にして人間の意識と云ふものは出来るのであるか、又個人的観念は如何にして出来るものか、及び人格は如何に発達するかを論じて居ります。其の詞に、極幼稚なる児童が四圍の境遇に反応する著しき傾向は、人の相違を見分けることの出来る力である。之を人格の暗示と言ふ。つまり此の児童が一番初めに於て受ける暗示は人格的（此の意味は物質と違ふ所の）暗示である。

[児童は何に依りて人を見分けるか]

初めに児童は、我が母とか或は乳母とか、又はそ一でない所の人を、何によつて見分けるかと言ふと、抱き方、寝させ方、及び手を以て愛撫したりする触り方が、人に由つて皆違ふのである。故に其の触り方が人であると云ふことと、之は母である又は母でない他人と云ふことと、其の触り方に由つて見分けるのであります。四圍の境遇と言へば、耳に聞く音、目に光る光線、体に感ずる空気の温度などであるが、其の中でも一番児童の意識を醒ます様な力ある感化がある。境遇です。之は抱かれたり、負はれたり、揺らしたりする母親の扱ひぶりであります。

[ポールドウィン曰く]

ポールドウィンは、こ一云ふ反応は極本能的である。其の本能的反応から研究を進めて居るのであるが、斯くの如き反応が自覚、即ち自識を生み出だすのである。此の自識の出来るのが、自我と云ふ人間の出来る一番の芽である。此の芽が即ち、母親とか乳母とか云ふ人格の反応が意識になるのであります。つまり之は反応が模倣であるが、も一少し子供が大きくなるとわかるのであります。詞に現れ、動作に現れる様になると、之を模倣と言ふのである。他の人間の動作、詞、

或は感情が直ぐ子供の心に映るのである。他人のすることを直ぐ様自分の身に真似るのである。さて其の模倣が即ち其の人の意識を作るのであります。夫れであるからして、自我意識の出来た時には既に自他の意識が出来るのである。自分と云ふことが出来た時には、も一他と云ふものが同時に出来て居るのであります。

[ポールドウィン曰く]

故にポールドウィンは Ego と Alter と云ふ意識は同時に出来る。自分と云ふ感じは、汝と云ふ模倣に由って出来る。そして、あなたと云ふ自分の中にある感じは、自分と云ふ詞に由って発生する。そこで此の自他と云ふことは孰れも社会的である。故に孰れも模倣的創造である。其の意味は、私と云ふ考へはあなたと云ふことを模倣して出来たのである。即ち他があるから夫れで自分と言ふ。同じ経験をあなたも持って居る、人も其の通りであると云ふ経験を、他の者に推し及ぼしたのである。そこであなたと言ふ時には必ず自分があり、自分と言ふ時には必ずあなたと云ふことがある。

[自他は磁石の南北の如し]

故に之は別々にわかることは出来ない。つまり之は同時に発生するものである。夫れで之が、人間は社会的のものである、孤立することは出来ぬと云ふことを証明するのであります。即ち自我実現も社会を離れては出来ない。恰も此の自他と云ふものは磁石の南北の如きものである。故に其の両方を持って居るものが人格であります。人格のある人は必ず此の両方があるのであります。そこで我々の品性と云ふものも、必ず模倣に由って出来る。其の模倣は人を模倣し、又社会を模倣するのである。之が即ち、人格と云ふものは社会の産物である、或は時代の産物であると云ふ訳です。又社会はやはり模倣によって出来るものであります。又他の社会学者の言っている詞に、風俗と云ふものは、行為とか動作とか或は仕事とか何でも宜しい、我々人間が為す事の伝達を、伝説と言ふのである。夫れでは風俗と云ふ事は何処から何処へ伝達したものであるかと云ふと、其の伝達するに二様の仕方がある。一つは遺伝と伝説。(遺伝と言へば、生理的にも心理的にも先祖から子孫に個人的に伝える事を言ふのである。けれども亦社会的に今の時代に於ける事が次の時代に伝える事も風俗と言ひます。)も一つ Conventionality 即ち流行とか慣例とか云ふものは、同時代の社会から伝えることを言ふのであります。如何にして伝えるかと云ふと、一は先祖のしたことが子孫に伝える。之によって国風が出来、又国民性が出来る。大和魂又は武士道と云ふものも、皆此から発するのであります。之をあなた方の関係から言ふと、縦の関係であります。他の一つは慣例、流行で、之は先祖からではなくして、同時代の社会から伝達することを言ふので、例へば時代の精神とか其の時の校風と云ふものに感化されるのは、夫れである。之は横から伝えるのである。夫れは何によるかと云ふと、人間に模倣性があるからであります。此の人間に遺伝がある、所謂風俗的模倣がある。之に由って人類に進化と云ふものがある。此の模倣性がとりもなほさず社会性である。之を深い意味から言へば、感化力である。教育の一番強い力は此の模

倣性であります。之は即ち、社会発展に就いて模倣と云ふ力が根本的のものであると言つたのは、其の意味であります。猶其の模倣が段々進んで参りますと、今度は合理的模倣と云ふ事になる。之は有意的模倣であり、理性的模倣であります。之は勢に制せられ又非常なる勢力ある人、或は偉人とか人格高き人に接して、自ら受ける感化ではなくして、充分に道理を研究して、其の善であり利益であると云ふことを充分証明した上で行ふことで、科学的に研究した上で模倣と云ふことになるのであります。夫れで模倣と云ふことは只無意識に雷同的に人真似をすると云ふこととは、大変違ふのである。そこで其の模倣の段々と複雑に進歩して行く順序を申しますならば、一番最初は動作の模倣である。其の次には詞の模倣である。其の時には無意識であるが、第三の Stage に於て有意的運動になり、第四には自我意識になり、第五が創造力、換言すれば発明力となるのであります。之も時間があるならば委しく申したいのであるが、時が許しません。併し模倣と言ふと、発明とか創造とか云ふものとは異なる様であるが、そへではない。創造力は無きものから有るものを作り出だすのではない。夫れと同じ様に、人間の創始力、発見力と云ふものも、つまり之は人間の模倣力である。即ち模倣力と云ふものは他の人の或は社会的の暗示を受けて、其の暗示から受けた反応である。其の反応は、全く模倣其のものではありません。

[反応の種類]

今此に其の働きをあげて見るならば、第一に選択する。故に或る物を拒絶するのである。第二は個人的の興味を加味して来る。其の意味がわかりますか。知らんが子供は人のすることを眼見して、又は風俗を見まして、其の通りは模倣しないのであります。其の中から或物を選んで、自分の傾きに從つて新しいものを加へて模倣する。之が即ち発明であります。

夫れから其の次に、道徳と云ふものがある。社会にある所の Morality と云ふものも模倣である。其の他宗教、哲学と云ふ様なものも、之は皆研究の結果、其の採るべきものを選んで模倣したもと言はねばならぬ。夫れから模倣と名づける教育上の働きは、凡そ児童の九ヶ月頃から始まって来るのである。其の一番盛んな時は幼児時代である。其の後生涯続いて発達致しますけれども、個人性の発達した頃には模倣性を減ずる。夫れから年を重ねるに従ひ、能力が発達するに従ひまして、つまり選択し、拒絶し、自分の趣味を加味する所の働きが段々と増進して行くのであります。夫れが段々進んで参つて、機械の発明となり、真理の発見となるのである。そこで児童教育に於て此の模倣と云ふこと、四圍の感化と云ふことは、一日も忘れてはならない。故に此のことは研究科の御方にも、只今最も必要なことと考へます。

[ホールン曰く]

それから終りに、最も大切なる影響は道徳、宗教であります。Professor ホールンと云ふ人は、道徳と云ふものは他人の正義を自分の行為に承認することである。夫れから宗教は、理想的人格の正義とか仁愛とか云ふものが自分の生活に承認せられたものである、と言つて居られます。其の意味がおわかりになるか知らんが、少しお考へになるとわかります。道

徳と云ふもの自我意識と云ふものは、汝或は人と云ふ觀念が自分に反射して出来たものである。つまり外の反応である。此に於て、Self-conscious と云ふものは客觀的に得られたもの、即ち人の人格の写像であると考えてもよい。又、人と云ふことは自我を客觀的に見たものと言ってもよいのである。つまり人と云ふのは人の行為である。其の人の仁愛、其の人の善、其の人の至誠とか、其の人の威嚴とか、其の人の權威とか云ふものが、人である。夫れに感服するのは何であるか。もはや暗示を受けたのである。其の人の様になろうとするのである。最早、其の人の様に行はうとするのである。故によい事はずっと社会一般に広まって来る。夫れがやがて世の風となるのであります。宗教はクライストとか、釈尊とか、孔子とか、ソクレテースとか、斯くの如き理想的人物を自分の生活に認める、自分の生涯に夫れを承認するのであります。夫れがやはり道徳であり、宗教である。そ一云ふものから抽象し構成したのであるから、其の本はやはり模倣である。我々が人格の感化を受けるのは暗示を受けるのである。人を感化すると云ふのは、自分の行為を伝達するのである。其の人を動かすと云ふのは、其の人に暗示を与へて、其の人の模倣性を動かすのであります。夫れが即ち道徳であり、夫れが即ち宗教である。我々は何をしよ一とするのであるか。人に善をしよ一、恩に報ゆる、人を憐む。之はやはり人の行ひ、人の人格にあるものを、自分の中に承認したのである。

[クリスト曰く 孔子曰く]

夫れであるから、イエス・クリストは、己の欲する如く人に施せ、と教へられ、孔子様は、己の欲せざる所、之を人に施すこと勿れ、と言はれました。此の意味は、汝が人から中傷し或は離間せらるるが不愉快ならば、人にもせぬがよい。又汝が人から同情を受け、善意を受けたことが愉快であるならば、人にも其の様に行へと云ふことであります。

[教育者に大切なる事項]

そこで教育部の此の間お出しになった、感化力、教育者の大切なることは、被教育者の生理、心理がわかり、如何にして之を教育すべきかと云ふことについての充分なる材料、即ち知識と如何にすべき方法を弁へて居る、即ち如何にして之を教育すべきかと云ふ目的を知って居ることが、無論大切である。又熟練もなくてはならぬものであるけれども、一番大切なるものは、児童教育、中等教育、大学教育、家庭教育及び社会教育に於ても、其の本は人格であります。つまり立派なる人格になると云ふことは、人格的暗示を受けるのである。立派なる人格、立派なる品性に接して、其の間に自ら受ける所の喜び、或は感心する所の尊敬の念、敬虔の念、賛美の念、噴賞の念、之が其の人の人格を拵るのであります。故に、若しも学校に人格が欠けて居たならば、如何に学問を授けても到底立派なる人格を作り、品性を養ひ、精神力を発揮すると云ふ事は出来ないのである。我が國に於て、学問が進み技術が盛んに進んでも、何故に社会が腐敗するか。何故に模範的人物が少ないか。何故我國には高等國民と云ふものが欠けて居るか。之は家庭にも学校にも亦社会にも、模範的人格、理想的人物の感化力を欠いて居ると云ふことに基因

するのである。故に多くの家庭は紊亂して居る。学校騒動と云ふものが流行して居る。又役人の間にも、議員の間にも、重役の間にも、不正なる事件が起つて来る。殆んど社会が風を為すと云ふ傾向に向ふのは何故であるか。之であります。皆さんが銘々の経験に照らして御覧になるとわかる。

[我々の品性は如何にして作られしか]

あなた方の品性は如何にして作られたか。あなた方の決心は如何にして動いたか。之は或は書物による、或は直接に誰れか模範的人格に接したと云ふことが土台になって居るに違ひない。自分の経験から考へても、そ一である。私自身の今日あることを言ふならば、自分の父、子供の時に自分が感心を致しました自分の親、又我が國に於て自分を動かしてくれられた或先生、又は極少数なる友人。又外國に居った時に何が一番私を感動せしめたかと云ふと、彼の國に於て数名の有力なる且つ有徳なる所の人格に接した、こ一云ふことである。其の経験の中の或る物については、時々あなた方に御話しをしたことがある。私は外國に居りました時に或る人に接して、ど一しても其の人には自分の親、自分の兄弟、自分の友人である誰れにも話すことの出来ない問題をも話さざるを得ない様になった。ど一しても之は自分の親、自分の先輩であると云ふ感じを起さざるを得なかったのであります。又彼方で立派なる御婦人にお目にかゝりますと、實に之は理想の賢婦人であると云ふ感じが起りました。そ一云ふ様な人格の立派な方に対しまして、私の女子教育についての意見を話しますると、其の御方は、若しも自分があなたの國の為に尽されるなら、此の職を擲つてでもあなたの國に行きたい。併し今自分の責任を免れる訳にも行かない。又あなたの國に行く途も開けないけれども、ど一かして出来るだけあなたの國の為に尽したい、と言はるる。又七十余りの大学教授、或は総長とも言はるる人が、日夜熱心に後進者を導いて居らるる事を見ますと實に感じ入りますが、日本にはそ一云ふ人は一人もない。人の為め、國家の為め、人道の為に高尚なる考へを以て、孜々として勉めて居らるる人、ほんといに自分の心の中から感服する様な人に会ふことは出来ない。そ一云ふ御方はないのです。夫れで私は、日本の教育は真に斯くの如き人物が出来、人格ある教育家、人格ある藝術家、人格ある学者が出来ませんならば、ど一しても我國の教育を生かすことは出来ないのである。之が私の特に教育部に望む所である。ど一しても教育部が此の人格感化の偉大なることを悟つて、人に及ぼす感化、人から受ける所の感化が如何に有力なるものであるかと云ふことが全体にわかり、又一年生の御方は何故に校風が大切であるか、品性修養が如何に大切なるものであるかと云ふことがおわかりになる為に、私は此の模倣と云ふことを少し申したのであります。時が足りない為に委しく申すことが出来ませんが、充分心理学の方からも、教育学の方からも、亦社会学の方からも、学理及び實際の両方面から御研究になって、自分の経験となる様にお勉めになることを望みます。

[中表紙]
桜楓会例会
明治四十二年五月九日

明治四十二年五月九日
桜楓会例会

上略

茲に今年の目的を明らかに確定して、そ—して充分に効果を挙げる様にしなければならぬ。そ—するには、ど—したら一番よく力が展びて育って行くのであ—るか。

[調和]

私は此の前に、調和と云ふ事を申しました。物に熟するのは善いけれども、極端に陥ると却っていけない。故に平均をとって行かねばならぬ。其の中には、個人個人の平均をとる事も必要であるが、又社会的に即ち団体の間によく調和がとれて居ると云ふ事が大切である。所が中々之が出来ない。我々個人の中を考へても、日本の今日の現状を考へても、之が一番むつかしいのであります。

[一致協同の根底]

抑も、一致協同の根底は信用と云ふことにある。けれども之がないために何事も成立しないと云ふ事は、私が直接話をした人から屢々聞く所であります。日本は何故に斯くの如く貧乏であるかと云ふと、此の協同心がないからである。其他学校騒動と云ふものが諸所方々にある。又大きな会社などは何時瓦解するかも知れぬと云ふ有様で、実に人心競々たる時であります。之は何故であ—るか。此の事は老若男女に拘らず、苟くも国民たるもの一同に最も心すべき点でありませよ。之は丁度私が若い時に、自分は女子教育の為に身を捧げねばならぬと決心したのと同じ事であります。

今あなた方が桜楓会にお入りになって、最初に非常なる覚悟をなさったのは当然の事で、ど—しても我々は身を捧げると云ふ決心がなければ何事も出来ない所以であります。

夫れで今我々は国民として何に尽すべきであるか、高等教育を受けたる婦人として何をなすべきであるかと云ふ事を考へたならば、銘々の天職は自らわかつて参るであ—ると考へます。

私は此の間から、我國家社会の為に誠に心配致して居ますと言ふて只奮激したのみで、只犬死をした処が何の役にも立たぬ。故にど—しても根本的の働きをして、実を挙げて行くより外はない。故にかう云ふ様に世の中が殺風景になり人気の悪い時には、我々はど—すべきであ—るか。先づ私は、こ—云ふ時には益々謙遜にならんければならぬ。一昨日、私は五、六軒人々を訪問致しましたが、誰れも彼れも此の頃の社会の傾向について、慨嘆をし又批難をしないものはありません。其の批難としては、こ—云ふ風に社会が不眞面目になり虚榮心に駆られては仕方がないと言ひ、其の終りには何時も女子を辱めるのであります。けれどもそ—云ふ批評をする御方のうちにはど—かと言ふに、立派な邸宅に住まって、榮華を極めて居るのである。そ—して政党の中にも、稍々成功する

とやはり嫉妬心があつて、互に中傷しかねない処があります。そ—云ふ様に各々自分の非は棚に上げて、人ばかり責めて居る。こ—云ふ時に如何にすればよいのであ—るか。國家と云ふものは、只物質の力、又学問の力で動くものではない。眞に精神の力で動かすより外に仕方はないのであります。私共はそ—云ふ名士迄も賄賂とか何とか云ふものに引つか—る様になつたかと思ふと、実に嘆かばしい事である。併し仕方がない。今日は社会全体が麻痺したからである。社会の良心が鈍れたからであります。故に今日は名士が墮落した、会社が腐敗した、女学生がど—かうと言ふべき時ではない。我々は眞に謙遜になつて、眞面目に事をするより外はない。今監獄に入つたりして居る人は我々の同胞である。故に社会の恥は我が恥である。故に今日は夫れを只責むべきではない。如何にすれば之を救ふ事が出来るのであ—るかと言ふ善後策を講ずるより外、道はないのであります。

[同情]

我々は人の非を責むるのではない。之を宥すのである。我々は自ら謙つて、ど—すれば救はれるのであ—るかと言ふ、是等の人に同情をよせるのである。此の同情と云ふものが、私は一番大きな力であると考へます。

私は若い時に自分は政治家にならうか、軍人にならうかと、いろいろ考へた結果、女子教育に身を捧げよ—と決心致しましたのも、其の本は國家の爲めと云ふ事にあります。処が今日は、金の世の中である。金があるか、位があるか、権力があるか、そ—云ふ者でなければ、手も足も出せない世の中である。そ—云ふ世に立つて、誠に力弱い婦人と云ふものに力を添へて、何が出来るかと云ふ様に考へる人があるかも知れないが、私は此の同情と云ふものは、婦人に於て最も強く養はれて居るものと思ふ。故に此の力も亦実に大なるものであると云ふことを、此頃特に考へらるゝのであります。

も—一つ私は、自分の心に非常に深く感じたことがある。自分の生涯に一番深く感じたのは、親友の澤山と云ふ人が西洋から帰つて来て、其の話を聞き、殊に非常な同情を自分に対して寄せられたことである。夫れで私は、同情程大きな力あるものはないと思つて居ります。所が近来感じたことは、本校の評議員に森村と云ふ人がある。あの人が又其の沢山とよく似た所がある。心の中に強い所を持って居つて、非常に謙遜で、そ—して又深い同情心のある方である。此の森村さんが此の間、弟の保さんの記念式をしたが、たとへは何であるけれども、まああなたは他人とも思はぬから、其の香いたものを上げよ—、と言つて下さつたのである。其の中に森村さんは豊さんの銅像の前に立つて、恰も生きて居る人に話すかの様に次の奉告をせられたので、皆感極まって落涙したと誓つてあります。さて其の話はかうであります。

[森村さんの奉告]

昨年度の決算を奉告致します。大恐慌の跡を受けて不良と思ひし結果が、却つて前々年にも優る成績を得たと云ふ事は、全く尊君の御遺光に外ならず、茲に我々一同集つて御礼を申し上げます。尊君逝かれてからもう十年になりまするが、逝る者は日に遠しと言ふけれども、尊君の御遺風は年と共に光明

を増すのみであります。尊君の齢は私の弟なれども、事業の上にては兄上である。今日の森村組の基礎を固めたのは全く豊様の力である。御遺訓を守る事に就きて絶えず注意をして居るけれども、不肖にして兎角誤が多く面目次第もない事があります、云々。

商売に同情や親切はいらぬと思ふならば、誤りであります。今日、日本の社会で正道を踏んで、あれだけな成功をした人が他にありましょーか。仮にも重役がわるい事をしたり、不義の利益を食ったりしよーものならば、疾くに瓦解して居るのは言ふ迄もないことである。又此頃卒業生の或方が私に送って下さったこの人形は、徳川光圀公がお拵へになったもので、此の百姓の人形を士に与へて、三度の食膳に据え、食事毎に先づ一粒の御飯を供へしめられたのは、農民の粒粒辛苦と云ふ事を感謝せしむる為であります。

[水戸烈公の手紙]

さて其の後に出られた水戸の烈公、即ち斉昭公から公子の驍方を申し遣はされた御手紙に、かう云ふことがあります。

余寒の処其の地子供ら縁の間にも障りなきは一段の事に候 去る二十七日余四鷹事下町神楽館へ行き候由 これよりは歩行又は乗馬にて度々行き候が宜しく候 朝も未明より起き水にて顔を洗ひ薄着にて庭などへ出で 子供相応いたづら致し候が宜しく候 風を引き申すべしなどとて用心致させ候は以つての外に候 とかく武士の子は手づよく手あらに成長致し申さず候ふては 追ひ追ひ成長の上公家や町人出家の様に成り行き 天下の御為を致し候様に相成らざる故 何分にも手強くからだを幼年より鍛へて育て候様に致し度候 扱文武共に出精致させ候が宜しく候 文武を励ませ夫れにて死に候程の子は惜しからず候へば 死に候ふても苦しからず候 他へ養子に遣はし候ふても 柔弱にて文武これなき者にては水戸家の外聞宜しからず 死に候は誰れにしても一度は死に候者故 外聞宜しからざる子供が成長致し候位に候はば 死に候方遙かに勝り候故 表の附きの者並びに伊勢等へも申聞け候ふて 前文の通り手あらく仕立て候ふて 文武を励ませ申すべく候

やはり国を治めるもの、人を導くものは下々の苦心を察する、即ち思ひやると云ふ事がなければ、同情は育たないのである。此の人を思ひやり、人を宥す、寛大であると云ふ心、此の愛と云ふものが人写の命である。之はど一しても我々になくてはならぬぬの水であり、乳である。此の徳に御婦人と云ふものは非常に長けておいでになる。之に由つて国民の植えた木を養ふ事が出来るのであります。

次に、も一つ御婦人の優れて居らるゝ事は、子供を育てる母の心、所謂 Motherhood と云ふ非常なる特権を持って居らるゝ。其の我が子を育て、人の子を育てる処に天職がある。其の育てるのは、ただ養育するのではなく、其の意志を築かせる処の強い所、即ち恩威兼ね備はつて居なければなりません。水戸の義公、烈公の如きは、即ち恩威並び行はれた所の名君であります。

第三に私の感じますことは、女子教育は縁の下の力もち

で実にまどろしい、結果の挙がらないものと人が思ひますけれども、婦人と云ふものは中々力あるものである。前にも申した Motherhood、国民を育てる事は実にあなた方の手の中にあるものと思ひます。次に婦人を教育をすることは、男子に関係のないものではない。真にあなた方が立派に教育せらるゝならば、男子を動かすものである。そ一して社会を改める力のある者であると云ふ事を信ずるのであります。之が此頃講義録などを出す様になつて、一層明らかに知れる様になりました。

是迄女子教育と云ふものは、男子には関係のないものの様に思はれて居りました。我々も姉が一人あつたけれども、一向頓着しない。母と云ふものも無論眼中にはおかなかつたのである。けれども今日学問のある人は婦人と云ふものを認め、其の力に敬服し、我が妻を直に自分の友達として見る様になるのは、やはり教育の結果である。故に決して失望することはないのであります。段々時をとりましたが、つまりあなた方の責任を全うなさるには如何に六かしいものであるか。桜楓会は今困難なる地位にあるけれども、皆さんが一致協力してお尽しなさるならば、決して出来ない事はない。必ずあなたの使命を果し得べきものであります。故にど一か皆さん、充分に其の志を遂げてお進みになる様に。夫れは只空に思ふのではない、実際に行ふのである。今年に於て大に其の實をお挙げになる様に、今日から着々実行なさることを切望いたすのであります。

[中表紙]

大学部全部実践倫理
明治四十二年五月十五日

大学部全体の為に
明治四十二年五月十五日

模倣と云ふことは、人間が自動的発表をする所の基となるものである。併し人間が世界に生れてから母の乳を吸ひ、手足を動かす様になつたから、夫れで人間が出来たとは言はれないのですが、自動的活動の基となるものは此の模倣であります。模倣は即ち反応であり、発表である。其の発表、反応によって人間が生れた時には、夫れを學術上の詞で何と言ひますか。

[Kant曰く]

自我意識 Self-conscious、先づ此の自我意識と云ふものが、人間に成る所の土台である。之が出来て始めて人間と言ふことが出来るのです。之が人間の価値であります。之について Kant と云ふ哲学者は何と言ひましたか。自分の馬に向つて、若しも汝が我と言ふことが出来たならば、私は直ぐ様汝の背から下りるのである一、と申しました。実に此の自我意識と云ふものは人間の芽である。之が健全に発達する様に育てることが教育であり、自我実現であります。之は何に由つて得ら

るゝかと云ふと、四囲の境遇に反応する、即ち模倣と云ふ自動が此の自我意識を作るのであります。夫れで人間の発達の時期を大別致しますと、最初を嬰兒期、次を幼児期、児童期、及び青年期と致します。丁度人間の歴史に時代があつて極野蛮な時代があり、半開の時代があり、又開化の時代がある様に、段々人間が発達して進む様に、銘々個人にとつてもいろいろの時代があります。夫れは何に由つて分けるかと云ふと、自我意識の程度によつて分けるのである。あなた方は最早青年期に達して居るから、此の自我意識に顕著なる変化を起すべき時期に達して居られます。故にあなた方は志を立てて大学に入って、大学の現状を解する様になつたのは、此所迄進んで来たと云ふことで、之は誠に大切な時である。此に世界の事情を解して、も一層進んだ階段に進まうと云ふのである。夫れは第一、教授の講義を始めとして、毎日読んで居る所の沢山の書物、其の他いろいろの係、会の如きもの、之を大学生活と云ふ此の境遇から種々の刺激を受けて、是迄よりも一層進んだ所の自我意識を発見しようとするのである。そこで第一期の青年期に於ける自我意識を解しなければならぬ。丁度年齢を言へば満十七、八の時に於て、必ず一つの覚醒をしなければならぬ。昔から自我意識の修養を積んだ人は、皆之を言ふて居る。何と言へばよろしいのですか。特に人格が現れて来る所の階段に於て、即ち此の経験は大学に入って或は大学の教育を受けて、生涯の行路を定むる時に當つて自覚する時の経験であります。

[ソクラテス曰く 孔子曰く]

之を Sokrates は Know thyself (自分を知れ、自知)と言ひ、孔子は、十有五而志学、と言はれた。此の志と云ふのは此にて始めて自分を発見したのである。自知或は自分を知れと云ふことは、自我を発見することである。即ち他の詞で言へば、自覚と云ふことであります。即ち真に学校を解することが出来たならば、自分を発見致しましたと云ふこと一つにならなければならぬ。

[一年生の問題]

自知と云ふことと天職を見出だすと云ふ事とは、同じことであります。之が今一年生の問題である。天職を見出だす、天職と云ふことがよくわかる、それから茲に学校の現状がわかつて勉強も出来る様になり、各係の仕事にも着手することが出来る様になりましたとありますが、之が真にわかつたならば自分の天職もわかるのでありますけれども、之が詞にはわかり易いが、ほんといふに解釈し得ると云ふ事は甚だ六かしいのであります。

[三年生以上の問題 To be]

夫れから三年生以上、研究科においてになる御方はど一云ふことが問題であるかと云ふと、よく私が言ひます To be、即ち成ると云ふこと。夫れは何になるかと云ふと、人に成ることである。今我々が努力して居るのは試験に及第したとか、一時人に褒められる様なことが出来たとか云ふことではない。人に成ると云ふことである。夫れは The something、何かに成ると云ふことであります。此所で我々は何かに成らねばならぬ。我が國の家庭のことを考へても、國家の改善と云ふこと

を考へても、今日何に一番困るか云ふと、丁度の人がないと云ふことである。故に何かに成らねばならぬ。そこで先づ、何をさせても必要な Everything にならねばならぬ。或意味から言へば、此の Something になると云ふことは、Everything になると云ふことと同じ事であるが、其の上に何かの特色を帯びねばならぬ。即ち我々は如何なるものに成り得る所の天賦を持って居るか云ふことがわかると同時に、何かの欠点を持って居る。夫れは何であるかと云ふことがわからねばならぬ。之れは易いことの様には考へますが、實際は誠に六かしいのである。之がわからぬ為に生涯の不幸を招いて居る人が沢山あります。人が出来ぬのも、世が乱れて居るのも、社会が混雑を來すのも、其の源は皆社会の各員に自知の力がないからである。志を立てる人、其の意志を遂に一貫して一事業を成就し、何物かを文明に貢献したと云ふ人は、即ち我々が偉人と言ひ、理想的の人格と稱へて崇拜する人は、必ず此の青年時期に於て自分を見出す所があつたのである。此の第二期に於て、一層進んだ所の自我意識が発見せられたのである。

[Munsterberg 曰く]

そこで、二、三の経験を引いて申すならば、Professor Munsterberg は The lightning strike と申して居ります。我々が自我を見出だすことは、実に暗夜に於て電光がきらめくと、其の天地が忽ち明らかになると同じことである。あなた方は第一に経験しなければならぬことは、此の電光に遭ふて、此に明白に自分がわかる、自分の天職は此にある、自分の生涯は斯くなければならぬと云ふことを、解すると云ふことであります。明らかに内がわかつたと云ふは、即ち内の眼が醒めたのである。内にある所の力が始めて動き出したのである。之が即ち Something になる、天職を見出だした刹那である。之を自知又は自覚と言ひます。

[Professor Tucker 曰く]

私の先生でありました Dartmouth 大学の総長 Professor Tucker と云ふ人は The process whereby a man learn to find himself and to make sure of himself what is self-knowledge and self-reliance 人は此の過程に由つて自我を見出だし、自己を確むることを学ぶのである。是、即ち自知、自信である。教育又は修養とは人が自我を発見し、自我を確むる術を学ぶことであつて、換言すれば、自知の力、自信の力を得るのである。之が即ち修養であり、教育であります。此の自知が出来まして、自信、独立、自営、即ち己の意志を以て自動することになる。即ち四囲の境遇に順応することが出来るのである。己を啓き、己の境遇を開拓することが出来る。詞を換へて言へば、有用なる人間となり、事を成就し能ふ所の人となる事が出来るのであります。そこで多分、自知と云ふものの必要なこと、又境遇がわかるのも大事であるが、ど一しても自分がわからねばならぬと云ふこともおわかりになつたであらうと考へます。又青年の時期に於て志を立てる、自分は何かになる、孰れの道を選ぶべきかと云ふことも、おわかりになつたであらう。併しど一でありませうか。一年のお方は今日生活する所の大学と云ふものを、漸くにし

て解することが出来たと云ふことであります。今一つ此の自知と云ふこと、自分の生涯は如何に築いて行くべきかと云ふことであります。今一つ此の自知と云ふこと、自分の生涯は如何に築いて行くべきかと云ふことがわかったでありませうか。此の自知、自信が出来たと云ふことを自覚の出来た方は……

三年生と二年生とに聞きますが、あなた方は此の Something、何に成ると云ふことのわかったと言はれるお方は…… 未だど一も電光のひらめかないと云ふ者は…… 然らば問題は如何にしたならば、此の自知と云ふことが出来るのであろうか。子供に自我意識の出来たのは何に由るかと言へば、模倣と云ふ自動によって、段々拡大して行かれると言ふことは出来る。然らば青年期に於て、真に我が天職を知り、我が使命を感じるには如何にすれば出来るのであろうか。之も四囲の境遇に反応するのである。我々が自我意識により真に己を知り、己の天分を知るには、四囲の境遇に反応すること、言ひかへれば、境遇に順応すること、英語で言へば、Adjustment と云ふことである。其の境遇とは何であらうか。あなた方から自動的活動を起して、大学生生活に反応すると云ふのは何であらうか。之を精神的四囲の境遇と言ふのであります。精神的四囲の境遇とは、即ち昔からある詞を使へば、真善美の境遇である。真とか善とか美とか云ふ境遇に順応することである。其の反応の力を養ふと云ふことが、我々の自我実現となる。自我実現とはやはり自動的活動である。即ちやはり活動による、努力によるのです。其の活動と云ふのは只むやみに働くのではない。必ず一つの目的があり、標準があるのである。其の目的とか標準とか云ふのは何であるか。自分を精神的境遇に順応しよと云ふのが、我々の自動であるのです。そこで決してむやみに無意義に働くのではない。一つの目的があり、一つの理想があつて、之に同化し順応しよとして働くのでありますから、其の順応を支配し其の順応を導くには、茲に自制の能力が必要である。即ち其処に順応する所の働きを為すに最も大切な、即ち只人間と云ふ自知、自信力のある精神にのみ備はつて居る所の特殊の力があるのである。其の特殊の力を充分に発現するのが自我実現であり、實力養成であります。其の力のことをいろいろなる詞を以て言ひ現すのでありますが、私は先づ此に皆さんが今必要なる自覚を得るに欠く可らざる要素として、是非今後養成せねばならぬ力として考へねばならないものを、判断力と言ふのであります。

[判断力の分類]

判断力と云ふのは、即ち我々が自我を精神的境遇に順応して行く所の力である。其の順応して行く所の働きである。此の判断力を三つに大別するのであります。其の第一を知力と言ひ、第二を趣味と言ひ、第三の判断力を良心、或は本心、即ち Conscience と言ひます。第一の判断力を知力と言ひ、或は知恵、即ち Wisdom と言ふ。此の判断力によりまして、我々の自我即ち主観と、夫れから宇宙の實在とを一致せしむるのであるので、第一に事実を明晰に確定するのである。之を真理と言ひますが、まことと云ふのは、つまり事実、實在を正

しく承認するのであります。つまり我々の主観的の自識と意識と實際とが寸分間違はない様に決定するのであります。科学で言ふ所の観察の力であります。然るに我々の五官でも、亦我々の知覚でも、時に事実を誤ることがあるのです。そこで此の判断力を養つて行くことと云ふことが、我々が此の真理と云ふ境遇に順応する上に、欠くべからざるものである。第二に此の力は、事実を原理に於て統一する力であります。即ち事物を安全に概括する力である。之をさして英語で Insight と言ひます。物の真意を見る力です。正当に意義を解釈する力です。之を帰納、Induction と言ひます。第三は、正確に演繹する力 Deduction であります。即ち我々に先見の明を与へる力である。即ち事物を概括して、帰納の方法に由つて多くの経験から抽象して、原理を見出だして、之を今後起る所の新しい事実演繹するのです。即ち此の力に由つて、人間が未来の経験を支配することが出来る。明日とか来年とか将来の経験を支配することが出来ます。第四は、事実と事実、原理と原理、真理と真理との相互関係を認識する力であります。即ち事物の Systematic nature、組織的性質を自分の心理上に再現する働きである。即ち、総合力であります。

[第一の判断力 第二、第三の判断力]

之を一言に約めて言へば、第一の判断力は、事物をありのままに知る力である。第二に其の意義を認め、第三に其の将来の結果を予定し、即ち先見し、第四に断片的事実を包含する所の全体を見ることが出来る。実に此の力は、宇宙を我が所有にすることが出来るのであります。学問の価値と云ふことを此間、講義録に申しておきましたから、宇内的興味と云ふ所を御覧下されば、よくおわかりにならうと思ひます。つまり科学とか哲学とか云ふ方面の實力をあなた方が要求して居る其の力であります。観察力、帰納力、演繹力、総合力、統一力と云ふ様な働きであつて、つまり我々が知的境遇に順応する所の力を言ふのであります。之はも少し例を引いて説き明かさねばわかりませんでしょーが、時が足りませんから省きます。

[趣味]

第二は趣味、英語で言ふ Taste である。之は心靈が美を判断する力であります。天然或は人工に由つて出来た所の Beautiful 即ち美、及び Sublime 即ち崇厳と云ふことは、此の判断力に由つて知覚し、又感興するのである。此の力が我々の内に現る故に、我々は円満完全に感得するのであります。即ち美とは、我々が円満完全に進む階段に於て味はふ感情であります。又我々の中に向上の心がある。此の前にも申しました、高き上る自然の崇厳に接触致して、無現絶対に上り行くのであります。此の趣味が即ち事物の価値を賞玩するのである。即ち此の趣味が、悪を去つて善に就く、醜を拒絶して美を収容するのである。此の働きが雅致の風、英語で言ふ The air of refinement 醇化の空氣、The atmosphere of culture 修養を熱望する空氣、The sense of perfection 完全の感、the love of ideal 理想の愛。此の理想を慕ふ愛、完全を満足する所の感じ、修養を熱望する所の空氣、純化を希ふ所の風を養ふ、そ一云ふ其の空氣を作ると云ふことは、

即ち此の趣味の養成、美の判断力を養ふて、健全なる趣味を進めると云ふことは、我々人間として欠く可らざる判断力である。殊に文学部が発揮なさらなければならぬ所の特徴であります。第三が、正邪、善悪の判断力である。之を良心 Conscience と言ひます。Conscience と云ふは Judgment、即ち判断力である。

[Paulsen 曰く 崇拜、軽侮、良心の後悔、自重、責任の感 独逸の哲学者 Paulsen は判断力を、こゝ云ふ風に分けて居ります。人の行ひ或は性質を是認し又は否認し、夫れが長い間続いたならば、其の善い方の感じを敬服、感服、或は崇拜と言ひ、悪い方の感じが長く続いたならば、軽侮の念が起る。其の感情が自分の行ひ、自分の性質に関係して言ふ時には、否認する方のものを良心の後悔と言ひ、又は良心の苦痛、呵嘖と言ひ、是認する方のものを自重、或は自尊、又は良心の平和と言ふ。そして若しも其の判断力が将来に属するものであったならば、之を本務の感、或は責任の感と言ふのである。つまり此の我々の意志、或は行ひを判断する所の力を、良心と名づけると言つて居ります。

[徳の区分]

又 Greek におきましては、Cardinal virtues 即ち主なる徳を四つに区分して、

- | | |
|----------|-------------|
| (1) 正義 | Justise |
| (2) 知恵 | Wisdom |
| (3) 節制 | Temperance |
| (4) 堅忍不拔 | Perseveance |

と言つてあります。之も皆、我々が善と云ふ境遇に順応する時に欠く可らざる判断力であります。The higher wisdom 高等なる知恵と言つて居ります。夫れは人間が志を立てるに當つて、我が理想、我が行ひを定むる所の判断力を言ふのであります。此の理想とか行爲とかを研究する學問を倫理学と言ひますが、其の判断力を高等なる知恵と言ひます。第二を、Practical wisdom 実践的知恵と言つて居る。即ち我々の理想と行爲とを一致する所の知恵である。並に、其の理想に達する所の手段を定むる所の判断力であります。目的が善に叶はねばならぬと共に、其の手段も亦善に叶はねばならぬ。其の判断力を Practical wisdom と言ひます。第三は、Resignation 即ち忍従である。所謂、堅忍不拔であります。我々が理想を立て目的を画しまして夫れを実現しよととしても、直ちに達することは出来ません。此の時に於て多くの者は不平を言ひ、或は失望落胆するのであるが、之は判断を誤つたのである。けれども、そゝ云ふ時に其の境遇に甘んじ、其の困難に堪へる。主義の為に理想の為に身を犠牲として、生涯少しもたゆまないと云ふことは、之はやはり忍従である。我々が善と云ふ境遇に順応して行くに、最も必要なる判断力であります。

[中表紙]

第三学年に於ての御話
明治四十二年五月十九日

明治四十二年五月十九日
第三学年にて

此の前に申しました、修養教育、即ち人格養成の教育、英語に所謂 Culture education、或は Liberal education につきましては、引き続き土曜日に一年の方で申しますから、時間の都合のつくお方は其の方でお聞きになることと致して、今日は学部係から、殊に本校の教育主義又は応用の方面と云ふ、教育の實際の方を計画としてお出しになつたのである。其の研究の方で大切な点が三つある。先づ第一に、世界各国の教育の大勢を研究する。其の中に入れて、我日本の将来の教育が如何にならねばならぬかと云ふことを研究する。第二に、本校の教育の主義方針を調べて、主に其の實際の方面を研究すること。第三、此の本校の教育を如何に日常生活に適用し、校風を充実すべきかと云ふ計画であります。夫れで私は、今日は此の順序に従ふて、少しあなた方の御参考になることを述べたいと考へます。

[Postulate]

第一に、世界の大勢と云ふことから始めて参りたいと思ひますが、其の前に之れを研究すると云ふ動機が起りましたについては、必ず之れに対する Postulate 即ち仮説があるべき筈であると思ふ。無論、未だ研究中ではありませんが、研究を仕よと目的を立てた以上は、必ず土台となるべき考へがあるべきであらう。夫れでつまり学校の中に傾向係がおいである。其の係と全体は、必ず今日の全体の傾向と云ふものに注意して居るに違ひない。又銘々の修養に心がける者は、我性質、我趣味、及び我が良心と云ふものを忘れる者はありませんまい。

夫れと同じよーに、我國の教育の傾向、世界の教育の傾向は、何処に目的を持って進みつゝあるかと云ふことがわかる筈である。又わからねばならぬ。も一今後の我が国の政治、我國の宗教と云ふものは、孤立することは出来ぬ。ど一しても世界の大勢に順応するの外はない。故にど一してもその大勢がわからねばならぬ。夫れで先づ研究を始める前に、あなた方は之れについて如何なる説を懐いて居らるゝか、夫れを少し聞いて見たいと思ひます。

世界の教育の大勢は …… ?

然らば、本校の教育は …… ?

- ・ 人格教育に重きを置くこと。
- ・ 精神的教育に重きをおくと共に、経済的教育をも合せて、開發的に教育せられたりと信ず。

本校には、一方に文学部と英文学部とあります。一方には教育学部と家政学部とあります。之れは一方は人文教育を代表し、一方は科学的或は工業的又は経済的教育を代表するものと言つてもよろしかろ一と思ひます。そ一申したからと言つて、科学的教育を受ける人は少しも人文教育には關係がな

く、又人文教育を受ける人は経済的教育に構はないと云ふことはない。其のことは、も一充分おわかりのことと考へますから、此に改めて申す必要はありません。

[本校の学風]

併し何故、私が、殊に教育学部の学部係について委しく申すかと云ふと、本校に年来養ひ来た所の学風と云ふものがある。

夫れは、一方を Nature study 即ち自然教育と言ひ、一方を Manual training 即ち手工教育と言ふことですが、之れはあなたの方で、も一少し後でもよろしかる一、と云ふことになったと云ふことでありますが、私にはど一も合点が参りません。故に、もう少しお考へなさるがよかろ一と申しておきました。

[印象と発表]

此の一方を印象と言ひ、一方を発表と言つて居ります。

本校の傾向を表すに、この二つ Nature study と Manual training とを以てしても、よかろ一と考へる。扱て、此の手工教育と言へば、今日では世界の教育の傾向を表す処の一つの標語となつて居ります。併し本校に於て、一方を印象と言ひ、一方を発表と言ふことは、も一少し広い意味で使つて居ります。そこで Manual training の事を詞を換へて言へば、工業的教育と言つても宜しいが、又実業的、社会的教育と言つてもよろしいのです。更に此の二つを一緒にして… Scientific tendency と言つてもよいが、併し夫れでは未だ充分ではありません。今日、我が校に於て校風を実現する処の機関、活動と云ふものが、即ち今日の本校教育の傾きと言ふことが出来まする。

此の傾きは、世界の犬勢と一致して居る処が多いのである。夫れで先づ、其の傾向を明らかに知るには、其の潮流が出来て来ました処の由来、今日今我々が生活して居る処の世界の犬勢について調べる処がないと、それをよく明らかにすることが出来にくいのである。其の傾向を表す為めに、いろいろな詞を用ひました。即ち、印象と発表、又は実業的、社会的教育、或は Nature study と Manual training と云ふやうな詞を使ったこともありますけれども、夫れ等の詞で表はした処のものが一つになれば、今日の世界の潮流を表すことが出来る。其の中に、我々の全生活が入つて居らねばならぬ。そ一ならぬ時は思想が断片的になり、感情が一時的になるのであります。

[仮説の必用]

故に、夫れを研究するに當つては、先づ始めに夫れについての仮説が出来て居らねば、徒勞に属することが多くなる。

そこで私は先づ、其の大体をあなたの方に説き明かしておきたいと考へるのであります。今日教育を活かすには、又自動的に行ふて真に各自の潜勢力を發揮して、銘々の個性を実現するには、此の個人教育又は自然教育と云ふよ一なことが誠に大切である。之れは誰れも疑はないことであります。併し、こ一云ふことは決して一時的に發生したのではなく、長い間の歴史を持つて居るのである。夫れで私は、今日夫れについて考へたいと思ひます。

[自動的教育の発見 時と人]

此の中には人文学を研究し、西洋歴史をお読みになつた方もあり、教育の歴史を調べておいでになる方もありますから、大体はわかつて居るでしよ一が、先づ始めに今日の教育、即ち自動的教育は何時頃から、又誰れが考へを發したものと云つてよいでしよ一か。

Nature と云ふ詞は今日沢山使つてある。故に Nature の influence の如何に大なるものであるかと云ふ考へは、文学にも、科学にも、宗教にも、哲学にも、凡てのものにあるのであります。

[Nature 発見時]

此の…Nature を見出し、個人を發見したと云ふことは、道德、宗教、哲学、科学、その他凡てのものゝ上に大なる影響を与へたのである。其の Nature を見出したのは何時頃のことであるか。そ一云ふ大きな事は何れの部の人も必ず捉へて居らねばならぬ。

[Renaissance]

・ Renaissance

Renaissance は古文学の復興であるが、之れから Science が生れて、自然を研究するよ一になつたとも言はれますが、先づ十七世紀の終り頃から起つたのであります。

[エミール 自然研究の元祖]

其の代表とも言ふべきものは、Rousseau の書きました エミール を始めとし、夫れから Pestalozzi、Frobel などが此の自然研究の元祖とも言ふべき人であります。

其の主義の起りを Naturalistic tendency、即ち自然的傾向と言ひます。之れに反対なる主義を…Orthodox in formal tendency 即ち宗教的形式主義、も一一つを Rational in formal tendency 即ち合理的形式主義、又は啓蒙主義と言ひます。之れは厳格なる抑圧主義、極端なる干涉主義である。

我国の今日迄の教育、殊に我国の女子教育は夫れでありました。夫れが折角の天賦の才能を傷つけて、人間を不幸にし、不具にしました。

[教育の自然主義]

処が段々此の教育、即ち自然主義の教育が盛んに行はれて来て、夫れを革命する為、Rousseau の如き人が筆を揮ひ、Pestalozzi と云ふ人が犠牲となり、其の他 Frobel と云ふよ一な人が出て、改めました。之れを、教育の自然主義と申します。

[Rousseau の教育主義]

つまり児童の本性に従つて、子供を本位として教育せねばならぬ。人工的、機械的にして、其の性を傷付けてはならぬ。夫れで子供を教育するには Nature と云ふ乳母、Nature と云ふ母親、及び Nature と云ふ教育家に託して教育させるが、一番よろしい。之れが Rousseau の教育主義であります。

夫れが段々發達して出来た処のものを Psychological tendency と言ふ。即ち心理学的傾向であつて、之れは此の自然的傾向から生れ出たものであります。如何となれば自然的傾向の生み出した処の教育は、自然に従ふことを目的と致します。故に子供の Nature を知らねばならぬ。子供の Nature

を本とする。之れを心理学的傾向と言ひますが、之れは自然的傾向に同情を持つものであるが、之れ等は孰れも興味に重きをおくのである。其の代表者は Herbart である。Herbart は、教育はど一しても Interest 即ち興味を本とせねばならぬと云ふ説。之れに反対したのは努力派である。克己主義である。之れはつまり、厳格なる訓練主義であります。訓練とは努力を言ふのであって、一方を積極的方法と言ひ、一方を消極的方法と申しますけれども、此の興味と努力、及び私が前に申しました模倣とは、児童教育に欠く可からざるものである。

此の積極主義と消極主義とは、ど一しても離る可からざるものであります。何となれば、努力奮闘は興味の最も発達したものであるのです。そこで教授法の科学的に研究せらるゝよ一になったのは、心理学に基づくのである。其の心理学に基づいて、教授法を益々科学的に見出したものは、つまり此の心理学的傾向であります。

[心理学的傾向]

此の傾向の発達に由りまして始めて、教育を子供の年齢、身体の成長、心理の発達の順序に応じて、運動にも、知育にも、徳育にも、其の時代時代の材料、適当な教育教材の方法を施すよ一になりました。

[例]

例を挙げて申すならば、殊に児童期の始めに於ては観察に重きをおき、お話には実例を引くことが大切である。夫れから十三、四才即ち青年期になると、悟性が発達するから理解力に重きをおき、壮年期に近付くに従つて推理に重きをおく時代となります。つまり第一は想像に重きをおき、第二には構成に重きをおき、第三には先見、予想、推理に重きをおくこととなる。其の階段に従つて、教育の方法及び其の材料をかへ、其の訓練をかへると云ふよ一な、教育の方法の最も適切なるものを見出すと云ふ結果となつたのであります。

[科学的傾向]

夫れから第三に発達致したもの、之を Scientific tendency 即ち科学的傾向と言ふのであります。之れは実用主義、実理主義です。此の自然的現象を研究して其の法則を見出し、即ち万有の法則を人生に應用し、又人間及び人間社会を科学的に研究して、其の発展、安寧、幸福を増進することを目的としたのである。此の傾向が教授法、並に教材について注意をした点を二つに分けることが出来ます。

第一の種類を Instrumental knowledge 即ち手段の知識と言ひ、第二の種類を Positive knowledge と言ひます。此の Instrumental knowledge は実用の知識、有用なる知識を得る手段である。例へば言語、文典、数学の如きもので、之れ等は Positive knowledge に行く処の手段であります。夫れから Positive knowledge とは物理とか、化学とか、道徳、政治、経済、宗教の如き、人生に有用なる知識をさして言つたのである。

此に於て古文学的教育と科学的教育との間に衝突が起つたのであります。人文的教育は高等なる数学とか、Greek, Latium, Hebrew の文学、斯くの如き人間の品性を養ふに必要な文学、

文典を知ることの重きをおいたのである。夫れに反抗して起つたものが即ち科学的教育であります。そこで今日大学がど一云ふ風に変つて来るかと云ふと、Greek, Latium はいらなくなり、語学は Modern language、即ち今日生きて居る処の国語となり、科学と云ふもの即ち Positive knowledge、例へば経済学、政治学から、今日は医学、工業、商業大学と云ふやうな実用的のものが重んぜらるゝよ一になりました。

[科学的教育の主張者]

此の科学的教育を主張した人は Spencer の如き人でありませう。そこで此の科学的教育に由つて学ぶ処の課目及び方法が違つて来たのみならず、学問の目的にも変化を生じて来るよ一になりました。

[社会学的傾向]

第四に出来た傾向を Sociological tendency、社会学的傾向と言ひます。之れは前の科学的傾向、心理学的傾向又は此の自然的傾向に矛盾するものではない。つまり之れ等が拵へて来たのであるから、社会的傾向の中には之れ等のものを包含して居る所の傾向であります。併し之れで是迄の教育を二分することが出来る。

自然的傾向と心理学的傾向は個人に重きをおくこととなる。何とならば、心理学的傾向は個人主義に傾き易いのであります。即ち個人の心理を研究して、其の進歩を計ることとなる。そこで心理学的に言へば、教育は個人発現の過程であると言ふことが出来る。併し社会学的傾向は社会を継続し、発展せしむる過程である。つまり社会的に個人が拵へた文明を保存し、継続し、猶ほ之れを発展し向上する傾向であります。故に国家とか社会とかに重きをおくこととなります。そこで社会的傾向は世界的で最も広い教育である。教育は独り学校だけで出来るものではない。必ず社会、宇宙と云ふよ一な、精神的境遇が施すものである。社会の進化、文明の進歩、宇内の進化は、即ち教育である。教育は社会的、宇内的に出来ると言ふことが出来る。

併し社会学的傾向は自然的傾向及び個人的傾向を排斥するものではない。つまり個人主義と社会主義、人間の個人性と社会性との調和をつけて行くものが、此の社会学的傾向であります。

[工業的傾向]

夫れから此の中に入れることも出来ますが、も一つ、第五としてもよいものがある。夫れは教育の Industrial tendency 工業的傾向で、之れは Military tendency 武士道的傾向に対して言ふのであるが、夫れが推移して工業的傾向となつたのであります。

此の工業的又は経済的傾向は社会的傾向の中に入れることも出来ますが、別にして言つても差支へない位であります。

此の教育の、第一に強く主張する処のものは、Social adjustment 即ち社会的順応である。此の前に、Culture education と云ふことを申しました時に、教育は四圍の境遇に順応するものである、真善美の理想、趣味、良心を養ふこと、之れを教育と言ひ、之れを精神的順応と言ふのである、と申しました。夫れがも一つ、社会的、経済的、世界的順

応することで、夫れは社会的境遇に最も早く、最も適当に順応し得る性情を養ふと云ふことであります。如何となれば、今日の文明の進歩、国家の風教、個人の発展は、多くの人と多くの社会と一致協同の程度に由って出来るのである。人の力、人の幸福、人の富強の程度と云ふものは、其人、其の国民の一致協同の程度であります。即ち言ひかへて見れば、個人が速かに、機敏に又巧みに、其の四囲の境遇に順応する力があります。

[教育の目的]

つまり此の教育の目的は、Good citizen 即ち善良なる国民を養成することである。其の善良なる国民とは互に一致協同して、其の協同の範囲を益々拡大し得る、力ある国民を言ふのであります。之れが国民性として、殊に工業的国民の最も大切な要素となつて参りました。

[生産的能力]

其の次は、Productive power 生産的能力ある国民であります。今日は Military tendency、此の武断的、戦争の時代が政治的、或は外交的時代と変じ、今度は更に経済的、商工業的時代に推移しつゝあるのである。世界の外交も政治も凡ての武備も、其の根本は工業及び商業、即ち経済的傾向となりつゝあるのであります。そこで今日世界各国の努力奮闘する処は National extension 国民拡大、Colonial expansion 植民拡張で、其の目的は経済的勢力を増進するのである。如何となれば、国の強弱は又其の盛衰は、実に其の経済的狀態に起因するよ一になりました。

国民の勢力、其の強固なる感化力は、悉く経済的狀態に基づくよ一になりました。換言すれば、万国的生存競争は一に経済的戦争となつたのである。故に今日の善良なる国民、武勇の忠臣は、此の経済的品性を備へて居る、即ち経済的生産力を備へたる国民であります。

其の経済的品性と云ふは信用の力、意志の力、科学応用の力、四囲の境遇に順応し得る活動の力、詞を換へて言へば、Industrial citizen 工業的国民である。然らば今日の教育世界の大勢である教育は何であるか。其の大勢に鑑みて、今我々が実施して居る教育は何であるかと言へば、本校の教育主義には以上の五つの要素が入つて居るのであります。

[人文教育]

併し此に又一つ言はねばならぬことは、此の中にも入りませぬけれども、Culture education、即ち人文教育と云ふものをおくのであるが、然し自然的教育、心理的教育、科学的教育、社会的教育及び工業的教育も、決して此の人文教育を外にはしないのである。夫れは又あとで申しますが、今ある傾向は、是れだけの要素を皆一つに同化して全体をなして居る処のものであります。之れを三大別すれば、Psychological tendency、Scientific tendency 及び Social tendency となります。

さて教育を研究するに大切なものが三つあります。

第一は、教育の目的、

第二は、其の教育に必要な材料、

第三は、其の材料を用ひて教育する処の方法、である。

心理学的傾向は、即ち其の自動的教授法を科学的に研究す

るに最も必要なるもので、今日我々がして居る処の教育の上にも与つて、力あるものと言はねばならぬ。Herbart の科学的教授法、科学的教材の配列、及び教授の目的の如きも、心理学的傾向から非常に貢献して居ります。

其の次の科学的傾向は、主に教材に適切なものを加へました。つまり今日の大学、各中等教育、初等教育、幼稚園教育が、変更した処の教材科目に貢献したので、我々は今日猶ほ其の恩恵に浴して居るのである。其国民全体は現に恩沢を被つて居るのであります。

夫れから社会学及び倫理、道徳と云ふよ一なものは、実に此の教育の目的を明らかにしてくれたのである。教育に、ど一しても目的、理想がなければ進まれない。やはり今日我々が世界の大勢に鑑みて進まうとして居る其の目的を達するに、Nature study 及び Manual training 又は印象、発表の法則を、応用して居ります。又其の中に自治機關を設けたり、自動的に社会を組織し又家庭を經營して居るのは、やはり此の十七世紀の終り頃から発達した処の教育の要素を、皆其の中に融和統一して出来て居るのであります。

夫れをど一云ふ風に分けるかと云ふと、私は、

第一を、道徳的教育、

第二を、科学的教育、

第三を、経済的、国家的教育と致し、又其の中を印象と発表とに分けました。之れは丁度今日の教育の目的と、今日の教育の教材配列と、又教授法の順序とを、よく表はして居るのであります。殊に氣をつけねばならぬことは、此の Industrial tendency、即ち世界の大勢であり、国家の急務である処の経済的、国家的教育である。之れが過日から言ふ、手工教育を重んずる所以であります。

中等教育、初等教育では手工教育と言ひ、大学教育では之れを経済的、生産的、農業的、商業的教育と言ふのであります。即ち農科大学、工科大学、商業大学及び法科大学の如き教育を言ふのです。

何故此の手工教育が、あなた方に重んぜられねばならぬか。之れは只大学教育だけでは出来ないのである。ど一しても幼稚園から、否、母親の膝の上から行はねばならぬ。国民の母となるべき、あなた方婦人の頭に其の考へなくして、斯くの如き国民を生み出すことは出来ぬ。之れが此に教育部をおいた所以である。又今度、桜楓会の計画なされた大学拡張の主なる要素であります。故に手工教育と言っても、只此の紙を折るとか、幼稚園で編み物を課するとか云ふよ一なことと思ふならば、大間違ひである。之れを強く主張する為めに、殊に私は、此の経済的、国家的教育と云ふ科目をおいた。之れは前二者と同じよ一に、大切な要素であります。

夫れから科学的教育も、印象と発表とに分かつことが出来る。其の印象に重きをおくのが Nature study で、之は空想とか、虚とか、架空的とか、又は抽象的教育とか云ふことの反対である。我々の知識、我々の印象、即ち我々の教育は人間の経験から始める、実験から始めるのであります。又其の実験、経験、事実に基づき得るのであります。Nature study と言っても、只鳥を作るよ一な浅いことではありません。

そこで我々の教育には、今言ふよ一な此の三つの要素、心理学的、科学的、社会的傾向を入れて居る。故に興味と努力、積極と消極とを同化し調和して、夫れから人文教育、実用教育、之れ等が皆一つになって居ります。我々の教育に人文的教育と云ふものが有るが、之には必ず生産的教育があると同時に、我々の工業的教育にも亦、必ず此人文的道德、精神的教育がちゃんと融和して居るのであります。先づ職分から言ふと、発表の方には手工教育、印象の方には Nature study となりますが、此の三つは離る可からざるものである。故に只今迄の実用教育、賢母良妻となるには只台所の事が出来ればよろしい、縫物が出来ればよろしい、百姓になるには只織を持つことが出来ればよろしいと思ふならば、大間違ひであります。

猶是等については、次に申すことと致しましよ。

[中表紙]

第一学年実践倫理

明治四十二年五月二十二日

第一学年にて

明治四十二年五月二十二日

今日は高等教育と云ふもの、其の中に普通大学教育と専門大学教育と二つありますが、其の普通大学教育と云ふもの及び専門大学教育とは如何なるものか、並びに夫れを学ぶ者の態度は如何にすべきであらうかと云ふことについて、私は両方面を申すのであるが、あなたの方には主に普通大学教育を説き、夫れから専門大学教育については今三年の方に申しかけてありますから、時の許す方は其の方でお聞きになる様に希望致します。

先づそれがよくわかるには教育と云ふものが一朝にして起ったものではなく、長い間の歴史がある。夫れを委しく申す暇はありませんけれども、ど一云ふ風にして出来たものであるか、並びに今使ふて居る詞はど一云ふ風に用ひられて居るかと云ふことがわからねばならぬ。

さて普通大学教育と云ふことを、いろいろな詞で表します。先づ之を Higher education、即ち高等教育、或は大学教育と申します。此の高等教育も大学教育も同じ意味で、之は只程度を表す詞であります。

程度の分け方に従へば、一番下を初等教育と言ひ、夫れから中等教育及び高等教育と称へ、大学と云ふ方から言へば、下の方を小学校と言ひ、中学校と言ふのである。其の年齢を言ひますと、初等教育と云ふのが先づ十二迄、中等教育と云ふのが十七、八迄である。そして我国の女子の高等教育で言ふと、我校の定めに従へば二十一迄である。併し男子の方で言へば、年齢二十五迄であります。

[人間に大小の区別を生ずる所以]

夫れで総て男女貴賤の区別なく、人間と生れた者は必ず此

の普通大学教育を受ける権利があり、又能力がある。けれども其の与へられただけの力を充分に発展し得る者と、半ばで止めて了ふものと、又極低い所で止めて了ふ者との区別がある。其の区別によって、人間に大小の区別が生じて来るのであります。或る者は初等教育で教育を止め、或る者は中等教育の半ばにして止めて了ふものがある。

[人間の本性]

扱て、教育を受けると云ふことは、只学校へ出ると云ふことだけではない。其の与へられたる力を何所迄展べて働かせるかを云ふのであります。或者は中学教育より大学教育迄展ばすことが出来、又生涯向上して止まないものがある。之が動物と人間との違ふ所であります。動物は或程度迄進むことが出来るけれども、一定の所以上に進むことは出来ぬ。人間は或程度で止めて了へば夫れ丈であるけれども、止めなければ無限に展びて行かるるのである。之が人間の本性であり自然である。又無限に進むと云ふ向上心を持って居る。之が人間の不思議なる力を賦与せられて居る所以であります。之を又 Nation 即ち人類、国民に比較をして見ると面白い。我国ならばあいぬ、アメリカならば American Indian、即ち Negro と云ふ様なものも、今日では大学教育を受けることが出来る様になりました。併しそ一云ふ者の数千年の歴史を調べて見ると、同じ事を繰り返して数千年の間一歩も進まないのみならず、今日と雖も猶そ一云ふ者が残つて居る。そ一云ふ者をさして野蛮人又は原人と称するのであります。斯う云ふ者は少しも変らないのであるけれども、文明国民は限りなく進まうとして居る。斯う云ふ国民と国民との間には非常な差があります。夫れと同じ様に、先祖以来少しも進まないで同じ所に止まって居る人もあれば、二十歳になつても、三十になつても、五十になつても、七十になつても、少しも止まらないで生きて居る人がありますけれども、先づ比較的と言へば、初等教育よりも中等教育が高く、中等教育よりも高等教育が進んで居るのであります。けれども其の詞の意味で申すならば、程度に於て違ふのである。初等教育と大学教育と、種類に於ては違はないのであります。

其の次に、之を Liberal education と言ふ。此の字の直訳で言へば、自由教育と言ひます。も一一つ Broad education とも言ふ。之は寛宏とでも訳しましよ一か、其の人間の頭を広く大きくすると云ふことである。之等に対して、一方を Professional education と言ひます。之は専門教育又は職業教育と言ふべきもので、Liberal education は之に対して又 Higher general education とも言へるのであります。此の Liberal education と云ふ字は余程古い歴史がある。又其の教育が発達致したのは、長い間の経歴を経て進化して参つたものであります。

[自由教育の起源]

大学教育の一番の起源、つまり自由教育と云ふ意味を以て始めましたのは、Greek の高等市民を教育する学校教育で、夫れを何故自由の教育かと云ふと、自由の国民を作ると云ふことで、之は自由の国民が受くべき教育と云ふことであります。何となれば、Greek には自由の国民と奴隷の国民とあつ

て、奴隷の国民は自由の国民に支配せられて居り、又労働に服役する所の国民でありました。夫れで其の自由の国民が受くべき教育が即ち高等教育であり、また其の主義の教育が Rome に入つて、此の高等国民の受くべき教育が行はれましたが、其の考へと結果とは略ぼ相似て居るのである。其の教育が段々と続いて、今日世界に行はるる高等教育、殊に英国の大学教育は紳士即ち Gentleman を養成する、即ち人格を作る所の教育で、之を Liberal education と云ふのであります。アメリカ合衆国では人間を作ると云ふ、やはり Citizen でありますけれども、人として教育する所の教育が College education と名づけられるものです。其の目的は Be a man、即ち、人を作る、人と成れと云ふことである。日本で言ふ所の人となりを養成する、所謂品性を養ふ教育である。其の高等教育を Liberal education 自由教育と名づけるのは、つまり Greek から出て、高等国民、或は紳士、或は其の人となりを養ふと云ふよな所から来て居ります。之は其の歴史的に出来た意味ですが、も一つあります。夫れは、斯くの如き教育を Liberal education と名づけるのは、人に自由を与へると云ふ教育である。夫れで此の高等教育即ち Liberal education と云ふものは、昔の意味とは大に意義を異にして居ります。Greek の高等教育、Rome の高等教育、又中世紀の高等教育は、高等国民即ち自由国民を作るのであるから、之は貴族教育であります。

Greek の高等国民とは貴族のことであり、Rome に於ても貴族でありました。其の他中世紀に於て高等教育を受ける者は僧侶、貴族、官吏であつた。故に前には高等教育は貴族教育でありました。も一つ、高等教育とは男子の教育でありました。仮令貴族であらうと富豪であらうとも、女に生れた者は高等教育を受ける権利がないのみならず、殆んど人たる権利がなかつたのである。夫れに附属して居る小供と云ふ者も、人たる権利を与へられなかつたから、親の権利を以て殆んど命を奪ふことでも出来たのである。故に其の頃の高等教育と云ふものは束縛教育でありました。けれども今日では高等教育と云ふものは決して王侯貴族に限られたものではなく、国民たる者は誰でも受くべきものであつて、国家としても当然、国民をして此の教育を受けしむべき義務のあるもので、之が大学拡張と云ふ運動の起つた訳であります。之が殆んど国是となつたのである。けれども我國に於ては未だ此の高等教育を貴族教育の如く解して居る者が少なくない。併し国民としては、出来る限り此の教育を広めて行くべきもので、之は世界の大勢であります。

我々は出来得る限り、此の高等教育を広めて行く。又御婦人と云ふものも、出来得る限り此の普通大学教育を受くべきものである。又之を受けることが幸福である。如何となれば、此の教育は人間に自由を与へるものである。Emancipation 人間を解放する教育、即ち自由を与へる教育であります。之は世界の歴史が証明して居る。此の Liberal education のみが人間を解放して居るのであります。昔 Greek の奴隷がなくなつたのも、合衆国の奴隷が解放せられたのも、世界の女や小供が解放せられたのも、悉く此の教育に由つたのである。も

う之を外にして、人間に眞の自由を与へるものではありません。

第一に、此の教育は個人性の解放である。つまり此の教育に由つてのみ、人間が自我実現が出来るのであります。此の個人性と云ふものは、下等動物の様に只自然の教育のみでは出来ない。やはり有意識的進化 Conscious evolution、即ち教育である。男でも女でも此の教育に由らざれば、天賦の開発は出来ないのである。其の人間の中にある自我の実現は出来ないであります。

[我々は初めは桎梏にて縛られ居る如きものなり]

第二には、諸能力の解放である。此の間申しました知力、趣味、良心、つまり我々が精神的境遇に順応して、自我を反応する所の知力、又は高尚なる趣味とか、良心とか、知力とか、斯くの如き人間に備つて居る所の凡ての力を解放するのである。解放と言へば、其の始めは縛られて居るのである。桎梏の如きもので縛られて居るのである。殊に我國の御婦人に於ては、之が甚だしいのである。風俗とか習慣とかは、悉く御婦人を束縛し、圧迫して、其の自由を得せしめないであります。

第三には、此の Liberal education は人間の恐怖心を解放するのである。恐怖心から自由を得せしむるのである。此の恐怖心が御婦人の Hysteria、貝原益軒先生の所謂、五病の基となるのであります。方角がわるいと言ひ、日が宜しくないと言ひ、御婦人のお方は虫を見て怖が居る。之が一番人間を束縛し、縮小するのである。Liberal education は此の恐怖心から解放せしむる所の教育であると言つても宜しいのです。

第四には、迷信より解放する、迷信の解放である。之も明らかに意義がわかりましよ。例を引いて申すと宜しいけれども、省きます。

[良心の解放]

第五には、良心の解放、即ち意志の自由を与へる。是程、人間に安心なことはない。悪を去つて善を行ふ。即ち意志の自由である。一言で言へば、自我の解放である。つまり此の高等教育は自我を実現して、真善美と云ふ理想に進み、完全なる人格を養はしむるのである。昔は高等教育と云ふのは或る階段の教育でありましたが、今日では其の階段を破り、恐れやら死やら束縛やらに解放を与へ、即ち意志の自由を与へ、人間にほんとの自由を与へると云ふ意味に用ひられて居るのである。夫れから、も一つ詞があります。夫れは Culture と云ふこと、之を Culture education と云ひます。文学部のお方は人文史を學んで居らるるが、其の人文史を Culture history と言ひ、此の高等教育を Culture education と言ひます。此修養即ち Culture と云ふ字は、耕すとか耕耘とか云ふことである。

[土を砕き肥料を施すは何の爲か]

之は、鍬をとり鋤を以て土地を鋤き起して、其の土を砕き、或は水を注ぎ、肥料を施して、よく用意を致します。夫れは何の爲かと言へば、之にもつて行つて苗を植へつけるとか、又は種を蒔くとかして、善い物を植へる爲である。其の耕しをする所の畝は、即ち我々の精神であります。

[Christ 曰く]

Christ は、銘々の心理状態を畑に譬へて言はるるに「踏み固めた石地の様な所に種を蒔いたならば、直ぐ様鳥などが持つて行って、決して其の種は生へぬ。」と言はれましたが、我々は誠に頑固なものである。本を読んでも話を聞いても片意地になって、中々其の反応を受けないのである。之にはいろいろ原因がありますが、第一には、先祖代々から遺伝があります。其の遺伝には善いものもあるけれども、多くは善いことは似ないで、悪い方が沢山ある。其の上に、自分で拵へた所の悪い癖があつて、見るもの聞くものを、ど一してもよくはとらない所がある。其の態度を改めねば、如何に教育しようとしても一向結果が上らないのであります。

[我々は教育を受けんとすれば]

故に、先づ我々は教育を受けよ一とするならば、其の固い頭を砕いて夫れを軟かくして、真理が含る様に、植えつけの出来る様にしなければなりません。所が之は中々六かしいのである。

[第一には如何にするか]

故に先づ、此の Culture 修養と云ふことは、第一、我々の頭を耕作すること。いろいろの悪い習慣、遺伝をとり捨てて、善い種を蒔きつけると云ふ、心の感動を起さねばならぬ働きである。此の教育と云ふものは品性を作ることを目的として居るから、之を Culture と云ひ、此の Culture が即ち文明である。そして Culture history とは、即ち文明史のことです。此の Culture education は前に申した、Be a man 人となりを養ふことであり、専門教育と云ふことは其の上に技術を養ふことであります。そこで此の Culture education と云ふことは、技術よりも人と云ふことである。我国の教育が兎角技術に走り易いのは、進まない時に陥り易い弊であります。

[明治二十二、三年頃の教育は如何]

此の頃の我国の女子が技芸学校に入るのは、其のわけである明治二十二、三年頃の教育は、妻となる所の技芸を教はることであり、男子の教育は役人を作る、職人を作ると云ふことであつた。之が我が國に、ほんとの意志の自由を得る、悪いことをしない、ほんとの人物の出来ない所以である。

[我国の教育の形式に流るる原因]

之がやはり我国の実業も振はず、政治もよく行かず、外交も蹉跎し、教育も兎角形式に流るる所の原因であつて、其の一番の本は、人がないからであります。此の Liberal education を施すと云ふことは、今日誰れも反対はないのです。之は男子よりも女子には一層必要であると認められて参りました。けれども其の上に、も一歩進んで女子に専門教育を施すことは不賛成であると言ふけれども、私はそ一は言はない。やはり此の専門教育も必要であると思ふ。併し其の私の意味は、多くの人の言ふ所とは少し違ふのである。夫れは三年の方で申しますけれども、此の人たる教育を欠いて只専門教育をするならば、夫れは人間を機械とするのである。妻となる教育も、つまる所は人間学となるのであります。あなたの働きは悉く人間を取り扱ふのであり、人間を作るので

ある。あなたの家庭は人間を以て組織せられて居る所であり、あなたの入る学校は人間を教育する所である。故に主婦となる人にして、音楽者となる人にして、あなたの仕事は悉く人間を相手とせねばならぬ。夫れで今日立派になつて居る人と失敗して居る人とを較べて見ると、其の人の力が足りないからであらうか。知識が足りないからであらうか。其の本は、やはり修養が足りないからである。人間が出来て居ないからである。故にあなたの生涯はど一しても此の修養と云ふことを怠つてはなりません。

[Be a man は凡の根本である]

先づ此の自分と云ふもの、即ち人と云ふものが出来ねば、其の他のことはだめである。Be a man と云ふことは凡てのこの根であり、本である。故に、ど一しても凡ての国民が此の Culture education を受ける様にならねば、立派なる国民は出来ないのであります。Be と云ふ詞は即ち成ると云ふことで、片方は為すと云ふことであるけれども、先づ成らねば成すことは出来ぬのである。故に、此の Culture education は寧ろ能力を意味するのである。

そこで凡そ此の Higher education 又は Broad と云ふこと、又 Culture と云ふ様なこと、夫れから高等普通教育と高等専門教育と二つに分けること、及び此専門教育と二つに分けること、並びに此専門教育と云ふことは、今日委しくは申しませんが、此の普通高等教育と云ふことは如何なるものであるかと云ふ様なことについて、考へを纏めて見る必要がありますが、今日は先づ之れだけに止めまして、第二に、婦人は何故此の高等普通教育を受けねばならぬかと云ふことについて申しませう。

婦人は十七迄即ち高等女学校迄教育を受けることが必要であると云ふこと、之は先づ世論と言っても宜しいのである。所があなた方は二十才迄は、やはり此の高等教育を受けることが必要である。然らば此の普通高等教育と云ふものは二十才迄で宜しいか、猶其の以上に及ばねばならぬかと云ふことは問題であるが、併し猶其の以上に続けねばならぬと云ふことについて、私は皆さんには異存がなからうと思ひます。つまり人と成ると云ふことは、倫理学で言へば自我実現と云ふことである。之は人間が自分の中にある所の凡ての力を、出来るだけ発展すると云ふことであります。

第一に我々は成長と云ふことがある。之は植物の命にもある。其の次に我々の中には感覚がある。之もやはり成長するものである。此の感覚とか又は欲望と云ふよ一な、動物にもある所の動物生活もやつて居るのであります。夫れから知力又は理性、良心と云ふよ一な、他の動物にはない所のものも持つて居りまして、此の力は人に由つて非常に程度を異にして居りますが、大別すれば、先づ身体と精神との二つになつて、之は何時も並行して居らねばならぬと云ふことになつて居ります。そ一して身体と云ふものは動物にも人にもあつて、自然に任せておいても成長、発達するものの様に思はれるけれども、人間はやはり之を教育しなければ、成長、発達して行くことが出来ない。其のことを委しく申す時間がありますが、此の間一寸申したかと思ひます。此の知力に一番関係

のあるものは、我々の神経系統である。感覚中枢、運動中枢と云ふ様な、中枢の働きに必要な繊維とか細胞とか云ふものの発達は、やはり精神と非常な関係を持って居るものであります。

そこで教育を止めれば其の発達を止めるか、又は不規則なものを形成するのである。故に、ど一しても之は教育によらねばならぬと云ふことは明らかなことではありますが、之を十七で止めるならば、其の進歩を止める故に、二十才迄続けねばならぬと云ふことは、わかりきったことである。猶其の以上に生理的発達と云ふものも続くのである。然るに今日は、其の程度を低くしよ一、其の教育に制限を加へよ一と云ふ様な傾向になり易い。そこで其の意味がよくわかつて居らぬと、力の入れ所が間違つて来るのみならず、こ一云ふ時世には、いろいろ迷ふと云ふことも起るのであります。夫れで今申したのは生理的方面即ち神経系統のことでありますが、第二は、精神即ち脳力の方面、之が最も大切である。脳力と云ふものも或る時期に挫きますと、も一一定の所以上に進まねくなるのである。之が、二十才或は二十五迄は今の専門教育も同時に行ふけれども、此の Liberal education もど一しても怠つてはならないと云ふ理由になります。そこで此の高等教育を受けないと云ふことは、只其の間学んだものを受けなかつたと云ふのみではない。其所に欠損を生ずる。其の欠損と云ふものは、生涯の間補ふことは六かしいと云ふことになるので、決して今多くの人の考へて居る様なことではなく、自分にとっては余程重大なことになるのであります。

[能力の分類]

第三には、Liberal education と云ふものは能力の解放でありますから、其の能力と云ふものを分けると、此の間申した様に、

第一 良心、即ち道徳的品性

第二 科学的品性

第三 経済的、国家的能力

是等の能力は、ど一云ふ職業をとるにしても、何になつても入る所の能力で、所謂常識である。人として誰でも一般に必要な能力であるから、之を欠くならば人として成功しないのである。夫れは幾らも例のあることであるから、直ぐおわかりになることと考へる。

第四には、此の人と成ると云ふこと、人格たると云ふことは、之が即ち人間と云ふことである。之が即ち人間たる価値である。其の人となること、夫れ自身が我々生涯の価値である。仮令如何なる美術家になつても、如何なる大金持になつても、Humanity を欠いて居たならば、Jew の如き芸人の如き味ひなき賤しき者であつたなら、人間としての価値がないから、到底人から尊敬を受けることは出来ぬ。自分自身にもやはり、ほんとの幸福は感ぜられないのであります。つまり高等教育を受けると云ふことは、人間を完全にする為にど一しても欠く可らざることである。故に Liberal education は、或る意味から言へば Ethical education と言ふことが出来、Professional education は、Economical education 即ち経済的、国家的教育、或は Political education の為に必要な

であります。つまり Humanity と云ふ品性が出来て始めて、其の意義より用をなすのである。故に男女を問はず凡て人たるものは、此の修養教育を土台とせねばならぬ。其所に根を持って育たなければならぬのです。そこで此の Liberal education と Professional education と此の両教育は、両育とも並行して進むべきものである。時代によって主になる時と客になる時とある様な感があるけれども、之は何時も並行して行かねばなりません。人として社会に出で、或は家を持って我々が何かを貢献して行く時にも、修養をして人たる価値を進めて行くことと又専門の研究を続けて行くことと云ふことも、此の両方を並行して進まねば、其の専門をほんの一に有効ならしむることも出来ぬ。又修養教育も何かの特色を発揮すると云ふことを怠つてはなりません。例を挙げて見るならば、昔から名高い美術家又は音楽家と云ふ様なものは、四つ五つの頃から既に其の天才を現して居ると云ふことが沢山あります。之が此の間申した所の自知と云ふことになりませんが、此の意味に於て、Liberal education を受けて居る間にもやはり専門教育を受けて居るのである。そ一して修養教育を受けた後も、やはり我々は或る意味に於て専門教育を受けて居るのであります。

然らば本校は其の孰れをとつて居るかと云ふと、之は両方面を備へて居るのである。夫れはど一云ふ風に組織せられて居るかと云ふことは、次の三年の時に明らかになるであら一と考へます。そこで此の Liberal education と云ふものは、女子と雖もやはり人として受くべきものである。夫れを受けることが個人の為にも、家庭の為にも、亦社会国家の為にも必要であると云ふことになりす。

然らば我々は如何なる態度を持って、此の教育を受けねばならぬかと云ふことになりす。此の学問が修養になるか或は専門教育になるかと云ふことは、何に由つて区別せらるるか云ふと、我々学ぶ者の態度に由つてきまつて来るのであります。只今四学部になつて居ります。即ち文学部があり、英文学部があり、家政及び教育部がある。さて其の学問は Professional education であるか又は Culture education であるかと言ふならば、学ぶ者の態度に由つては之が Culture education であり、又態度に由つては之が其の Professional education となるのであります。

[Darwin の真理]

譬へて見れば、今植物学を研究しておいでになる。夫れを即ち Nature study と言ふ。万有の本性を研究して、そ一して宇内を解釈しよ一とする。Darwin がやりました様に、宇宙は進化なりと云ふ真理を発見し、夫れに由つて自分の生涯の運命を定めるとか、又は社会の大勢を導かうとする。或は自分の信仰問題を満足させよ一と云ふ様な趣味を以て研究する人は、つまり其の学問が修養の為にして居ると云ふことになる。

けれども其の生物学を研究して、大に富みの力を得よ一とか云ふ様な利益実用を目的として学んで居る時は、之が職業教育となるのである。斯くの如く一つの学問でありましても、学ぶ者の態度に由りましては、之が修養教育となり、又専門教育となるのであります。

[修養教育と専門教育とは如何なる關係を有するか]

さて、修養教育と専門教育とはどの様に関係するものであるか。夫れがどの様に相一致し、相助けるものであるかと云ふことも、学ぶ者に必要な態度である。そ一云ふ様な態度については、三年生の方で申すことに致しましよ。つまり今日は其の修養教育及び専門教育を受ける者の態度、及びあなた方の態度は、ど一あらねばならぬかと云ふことについて申したのであります。

[中表紙]

第三学年に於ける御話
明治四十二年五月二十六日

明治四十二年五月二十六日
第三学年にて

此の前の講義で略ぼ、今日の教育の傾きの大勢がおわかりになったことであらうと考へる。夫れから其の次に、本校の教育の傾向がど一傾いて居ると云ふことが、略ぼわかるであらうと思ひます。夫れで直ぐ其の続きを申してもよい様であるけれども、其の後一週もたちましたことですから、あなた方の考へを起して行く為めの Introduction が必要であるかと考へます。

此の前にも申しましたが、教育は、心理学に由つて個人の傾向を定め、社会学に由つて社会の傾向及び時代の要求を定め、其の個人並びに社会の要求に應ずること、詞を換へて言へば、此の間から申しました其の時代に順応すると云ふことになる。然らば其の時代の要求とはど一云ふことであるかと申しますならば、社会学、倫理学等に由つて定める処の人類の目的とか或は理想を実現する事である。又其の実現をして進むについて、其の時の危険を防御し、其の危険に戦ふて行くと云ふ様なことになって行くのです。そ一して其の時代の要求と其の時代の危険と云ふものは、其の時と処に由つて相異なるものである。委しく言へば、今日の必要或は要求と云ふものは、二十年又は五十年昔のものとは既に違ふて居る。又今日日本の危険なる、困難なるものと云ふことは、亜米利加のもの、独乙のもの、又は支那のものとは異つて居る。日本には日本特殊の困難があり、障害があり、日本国家の敵手がある。

故に其の時の要求に従ひ、其の国家の危険を除き、其の成長、発達を遂げ、其の危険を免れ、最も適切有効なる教育を施さねばならぬ時代であります。

[我國今日の傾向]

然らば、今日我國の国家の必要、我國家将来の危険、我國の運命を支配する処の傾向と云ふものは、果して何であらうかと云ふ問題が解決せられなければ、其の教育の目的、方針も定まり難いのであります。

そこで私は、我が國家が第一に世界の大勢に、全世界人類

の大勢に順応する事が出来なければ、我國の運命を開くことが出来ん。第二の発展を遂げることが出来ん。其の世界の大勢は如何なるものであるか、又其の世界の大勢に應ずる教育の新傾向は何であるかと言ふならば、此の前の終りに私が少し述べました処の Industrial tendency、即ち工業的傾向、或は社会的、実業的傾向である。即ち今日は商工業的競争の時代である。換言すれば、平和の戦争時代、即ち今日は武的文明の基礎は一掃せられて、工業的基礎が之れに代つたと言ふことが出来る。其の結果、習慣、風俗、人民生活の状態悉く変化せんとして居るのである。実に世界は一変せんと言ってもよいのである。旧世界は去つて、新世界が生れんとして居るのである。そこで、今後の国民、今後の国家の必要に應じ得る国民の資格は、工業的品性、能力、堪能、即ち Excellency は絶對的に必要なりと言はんければならぬ。

そこで今日の文明の尺度は、及び列強の強大の標準は、是迄のよ一に武力に非ずして、商工業発達に由るのである。如何となれば、商工業の進歩は即ち教育の進歩、即ち人文の進歩である。故に今日は、教育或は学問、此の間から申した修養と云ふことと、經濟が接近して來た。否、互に手を取つて來た。一つに融合して來たと言つてよろしい。夫れから、道徳と經濟とが又同じものであるよ一になつて來た。そこで今日の教育の傾向を、社会的実業教育などと言ふのである。

[古今經濟思想の差異]

昔は財を愛するは凡ての惡の根なり。經濟思想とか利益問題を言ふものは俗人である、町人であるとして、輕蔑したのである。武士は食はねど高楊枝。武士道を修むる者は利欲を離れねば、經濟思想から超然しなければいけない。武士道と經濟、或は徳と商売は兩立することは出来ない。如何となれば經濟と云ふことは、実業と云ふことは富みである。富を愛するは欲を恣にすることである。欲を恣にすることは無論惡である。恣にしないで、欲望夫れ自身が既に惡の根である。仏教の道徳も、耶蘇教の道徳も、多くは此の人間の自然の欲望に従ふことを、凡ての惡の根源であるとしたのであります。そこで此の利を言ふものは、利を目的とするものは、其の宗旨が拜金宗である。拜金宗は惡魔の教へである。無論利を言ふものは品性下劣であるとし、道徳と經濟とは一致しなかつたのであるが、そ一云ふ時代は、も一去つて居るのである。武的時代、迷信的時代が去つて、今日は事實の世界を現出せんとして來たのであります。そこで一言、經濟学と倫理学、商工業学と教育学との關係を考へておく必要があると思ふ。

先づ此に仮説から言へば、今日の学問では、經濟学は人間学と言ふ。經濟学とは實は人間の Nature を研究し、人間を取り扱ふことで、其の目的は人間の狀態を改善し、即ち精神的生命を養ふにあり。今日の經濟学の目的は活動である。

昔は經濟学を扱ふた人は空想的で、教育としての価値なく、小説的であつたが、今日の經濟学は複雑であり、實である。Real man、實の人間を研究するものが經濟学である。

[我國目下の問題]

故に今日の社会問題は、最も人間に關係ある個人問題、道

徳問題、政治問題、外交問題で、之れ等は悉く経済問題である。今日社会に現はるゝ所の凡ての悪徳は何であるかと云ふと、此の経済問題である。宗教教育に及ぼせる悪も此の問題で、此の社会の沈衰、社会の困難も亦之れである。

今や我国は世界の列強から圧迫せられて、非常なる危険が国家の上に臨んで居る。如何なる危険が我国家の前に横たはって居るか云ふと、やはり経済問題であります。

[今日の経済学的前提]

そこで今日の経済学の拡張は、大に教育学と密接なる関係を持って来たのであります。故に私は、今日の経済学は人間学なり、今日の経済の研究は人間の研究である。即ち人間の必要、其の必要を感じずる人間の欲望、其の欲望を満たすに必要な労働、或は生産分配、斯くの如き欲望にかられて活動して居る、又斯くの如き複雑なる問題を研究して居る人間の研究である。故に今日の経済学的前提は、富にあらずして人間なり。其の経済問題は悉く人間に關係あるものである。

今日の富は、今日の財産は人間である、力である、知力である。故に今日の経済問題は即ち教育問題であり、又教育問題は即ち経済問題であります。故に此の立場から判断を下すならば経済学の終局の目的は、凡て人類の活動の目的である。故に経済学は人間の活動学なりと云ふことをも得るであらうと思ふのであります。又今日の教育の意義は必ず経済的意義を含むものである。如何となれば教育の結果は、教育の影響は必ず人間の理想、感情、及び品性、活動の上に影響を及ぼすものである。其の人間の理想、活動の結果は、必ず生産又は其の生産の分配、消費に必ず影響を来たすものである。そこで今日は昔の Culture education 人文教育から、將に実業的、工業的教育に移らんとして居る。即ち昔の人文は古文学に由って感化を受けたのである。今日の教育は、生きて居る処の万有の Nature、社会實際の命に順応して生きて居る処の其の教育時代となって来て居るのである。つまり古文学の教育が変つて来て、Nature study となって来たのである。

[教育の変化]

即ち、生きて居る処の学問、夫れで文学の傾向も変らざるを得ないのである。之れが教育に非常なる影響を及ぼしたのである。只実業的のみならず、人間の修養、人格を作る、即ち人文教育になって来たのであります。之れが大変必要なる傾向である。其の今日の境遇に順応しなければ、ほんとの文学の教育は出来ないであります。

[Cooperation]

そこで今日の社会は協同生活、団体運動の世の中となり、工業は Systematize industry、或は有機的、工業的、即ち委しく言へば、分業時代となったのである。是れ等のことを表はす詞は Cooperation と云ふことである。

America に於て、今日都会人は全人口の 1/3 であると、之れを前と比較すると 100 年間に 75 倍となって居る。其中には紐育の如き百幾万と云ふ人が一つのかたまりとなって居る。夫れで我日本に今後世界と競争して進歩するには、やはり工業的国民 Industrial nation とならねばならぬ。一致協同することの出来る、生産力の優れたる、即ち四囲の境遇に順応

し得る国民とならねばならぬ。

然るに我が日本の危険は何であるかと申すならば、最もよく此の頃の社会の出来事が其の真相を暴露して居るのである。我国の将来に就て考へるならば、今後は此の経済的、即ち社会的、工業的教育が必要である。之れに適切な教育は自然科学、自然研究を目的とする教育が必要である。

之れに就ては、彼の America の独立の如き、明かに国家に於て其の特色を發揮して居るのであります。こゝに於て本校教育部を中心として、本校教育の傾向を導かんと苦心する処であります。

此に於て工業的、社会的手工教育が問題となるのである。Nature study の方は大分おわかりになったから、此の Natural tendency について論ずるつもりであります。此に其の手工教育の価値について、一言、言はねばなりません。

[心理学的価値]

第一に、之れを Psychological value 心理学的価値、即ち教育的価値。個人の自我を發揮するに欠く可からざるものである。之れは殊に此の心理学の方で論ずる、Mental activity の一番の本である中枢に關係あることは、皆さんのよく御存じのことである。

[工業的価値]

第二、Industrial value 工業的価値。

即ち経済の品性を養ふて、我国今後の発展を促し、今後の経済思想を開拓するには、之れに由るの外はないのである。

[倫理的価値]

第三、Ethical value 倫理的価値。

労働の神聖、至誠。今日我国の虚栄、虚業と云ふよ一な不道徳な習慣を直すのは、実にこゝ云ふものに由らなければならぬ。此の品性を養はんければ、此の国民にならんければ、我国を清めることは出来ないのである。之れは独り我国ばかりではなく、世界各国が此に着眼して居る処であります。

[米国に於ける工科大学生]

今日最も此の方面に進歩を致しました処の America の近状を調べて見るならば、只今 U. S. A. に工科大学がある。其の数は実に州立大学が 60 ある。私立は未だ沢山ありましょ。其の進歩の有様を見るに、1889 年には工学を学ぶ学生が 3000 人であった。夫れが 1899 年には 3 倍半の増加をして、1905 年、今から三年前、其間 6 年間に 20000 人になって居る。之れを十六年の前に比較すれば、7 倍になって居る。我国の凡ての大学の学生を皆よせた処が、20000 人ない位でありましょ。之れを以て、如何に此の工業教育と云ふものが進みつゝあるかと云ふことがわかるでありましょ。

[我國の發明]

夫れから、国の發達は如何にして進むかと云ふと、機械の發明、此の自然力を応用する処の働きであります。此の前、あなた方教育部の方は、我日本帝国の發明博覧会へ見にお出でになりましたが、ど一云ふ感じがありましたでしょ。私も一寸其の翌日行って見ましたが、我國のものは翻訳的ではあるまいか。未だ其処迄も行かないで、殆んど直訳的であると、一寸此の間批評したことがあります。併し之は仕方な

い。我國の程度であるから。二十年間に我國で特許を得た人が20000人あると云ふことであるけれども、私がAmericaに居る間に、一年に特許を得た人が20000人でありました。之れを先づ一年に20000として、10年につもれば二十万でありましょー。

之れは、専門家とか商売人とか或は大学の教授などのすること、一般婦人などの出来ぬ事と云ふのではありません。けれども之れが一般の風俗とならねば、到底不可能のことです。

[農業教育]

其の次に盛んになったものは、農業教育であります。Americaに今から40年前に、Michiganのランシングに始めて出来ました其の農業学校が、Americaの生産力に及ぼした影響は、実に非常なるものであります。即ち一年間の収入が60億と云ふ金目のものである。そーして此の教育がどー云ふ風に其の国の富みを増し、生産力を加へたかと云ふと、之れが為めにWisconsinにあるLaboratoryに、創始的研究をなす大きな建物が六棟もあって、非常なる金を使って研究をやつて居るのである。

[商科大学]

夫れからも一つは商科大学である。今日の高商問題の如きは、世界の大勢のわからん議論である。今日の学問は人間を扱ふことである。世界各国の関係である。科学の研究である。けれども只是迄のよーなBook knowledgeに由つて、二十迄も三十迄もそーして居れば大変なことである。つまり今日、不必要を論ずる人は、其の弊害を見て言ふのである。

今後我國の教育はどーしても此の傾向を直して、此のIndustrial tendency、所謂Scientific tendencyの其の特色を発揮するにあらざれば、其の目的を達することは出来ないのである。けれども此の教育の発達する其の前に発達すべき処の自然研究と云ふことを、一言せねばならぬ。

此の自然研究と手工教育については、是迄幾らか私が論じた事がある。講演集の中とか、Americaのモーズレーの報告とかに由つて御覧になれば、略ぼ分ることであろうと思ひますが、今日も一層強く此の傾きをお話しておきたいのである。

[自然教育の価値]

此の自然教育の価値について、Clark University教授のHodgesと云ふ人は書を著して、

- 第一、経済的価値
- 第二、心理的価値
- 第三、教育的価値
- 第四、倫理的価値
- 第五、宗教的価値

此の五つについて論じて居ります。之れを約めると、

第一、利益がある。品性の方から言ふと、労働を受する様になる。有用なる働きを好むよーになる。

第二、自然にある処の美を愛する、趣味を養ふ効力がある。

第三には知力即ち観察力。自然及び事象を正確に認識し、其の関係を見出し、其の意義を明らかにすると云ふよーな、

品性を養ふに屈々なものである。之れは一般に言ふたのであるが、殊に私は之に一言加へておきたいのは、女子教育に如何に関係があるかと云ふことである。即ち女子の欠点を補ひ、女子の天職を感ぜしめ、健全なる文学及び健全なる宗教的思想を養成するに如何に大切であるか。即ち四季の変化に伴ふ処の千変万化の興味とを起さしめ、婦人の副業を為し、殊に婦人の経済力、経済的品性を養ふ上に、誠に大切なものであります。此の自然教育が、又之れを広めて行きました処の子供の自然教育、或は人間の自然教育、社会の自然教育が、如何に修養に人文教育に必要があるか、又昔の古文教育が段々此のNatureに代らんとして居ると云ふ暗示を与へるが為めに、私は詩人LongfellowがHerbert大学のAcaginに送つた詩を御紹介致しましょー。

1. "Nature, the old nurse, took
the child upon her knee,
Saying 'Here is a story book,
the father has written for thee.
2. 'Come wander with me' she said,
'Into region's yet untrodden,
And read what is still unread,
in the manuscripts of God.
3. And he wandered away and away
with nature, the dear old nurse,
Who song to him night and day
the rhymes of the universe.
4. And whenever the way seemed long,
or his heart began to fail,
She would sing a more wonderful song,
or tell a more marvelous tale."

[訳]

老いたる、老練なる乳母、此の人類と云ふ子供を育てゝくれる処の老練なる乳母は、此の子供を其の膝の上に抱いて歌ふて言ふには、此に一つの御話の本がある。其の本は汝のお父さんが御前の為めに書いて下さつたのである。

おいでなさい。私と其処等を徘徊しよー。未だ人の踏まざる処の地に徘徊し、未だ人の読まざる処の頁を読まう。神の原稿に書いてある、未だ人の読まざる処を読ましめよ。

此の愛すべき乳母と段々段々歩いて深く進みました。其の間乳母は何時も、夜も昼も此の宇宙の詩を歌ひきかせつゝ進んだのであります。此の宇宙に書いてある処の詩を、昼夜歌ひつゝ進んだ乳母と子供は、段々段々深く其の歩を進めて参りました。

段々道が余り遠すぎて、少しく彼の心が倦まんとして来たときには、此の乳母は猶一層驚く可き処の歌を歌ひ、又一層不思議なるお話をして聞かせます。

併し此の自然教育は畜に我々を教育するとか、我々の美的趣味とか、Natureと我を愛し、又只事実を観察する習慣を養

ふのみならず、科学的傾向とか科学的品性とか云ふすべて、我々の知識を正確なる事実にして行つて、又夫れから拵へた仮説を段々事実によつて証明して再び事実に戻る、即ち事実を重んずる、誠、眞実を愛する処の性質である。若しも我々の信仰、我々の立論が事実と云ふ土台を持って居なければ、如何なる大度高樓を築いても忽ちに崩れてしまうのである。

此の自然教育が實に此の科学的品性の土台を養ふものであつて、つまり終局の目的は Science にあるのである。

そこで私は、此の自然教育は Hodges が言ひました其の五つの価値を有して居るものである。今私が説明した外に、工業的、実用的、実利的価値、之れも亦甚だしいものである。我が日本が今後國家の土台となる処の實力を養成するには、此の自然教育と云ふことは實に大切なことであると言はなければならぬ。私は自然教育が如何に教育に大切なものであるか、又科学的頭腦を養はんとすれば如何に必要であるか、又此の自然教育が文学にも、哲学にも、宗教にも大なる關係があり、又之れが如何に經濟的価値を現すものであるかと云ふことを、实例によつてお話ししたいと思います。

[Burbank]

それは今年満五十八才になる人で、其の名は Burbank と言つて、此の人の Home は、California にあります処の Santa Rosa と云ふ処であります。此の人は Massachusetts に生れた人で、生れてから一寸 story にでもあるかのように、大層自然を愛した人であるが、子供の時から如何に動作したか、研究したか、成功したか、又此の人の専門が修養となつたか、又ど一云ふ信仰を抱いたかと云ふことが、ちゃんとわかるのであります。

殆んど此の人は模範的の人物とも言ふべき人でありませう。つまり彼れは遺傳的に非常に自然を愛しました。も一つ、彼れの子供のときの境遇と云ふものが、彼れを其の様に育てたのである。彼れが未だ搖籃に居るときに、母と姉妹とが一枝の花を与へましたときに、其の花を手握つて非常に喜び、其の花が萎れる迄手から放さなかつたと云ふことがあります。そして、一人で立つ位、未だよ一歩まない頃に、Crocus (さふらん) の花を小さい植木鉢に植えて、お母さんが与へた時に非常に喜んで、昼も夜も離さないよ一にして居た。然るに過つて此の鉢を机の上から落として、鉢は割れ、花は幹からはなれて、花卉を破つたときに、犬とか鳥とか云ふよ一な Pet が死んだときのよ一な、悲しみに陥つたと云ふことであります。斯様に、彼れが小供の時に一番好んで愛したものは花類、植物であつた。故に彼の母や姉妹などが何時も花類を与へたと云ふことであります。

そして學校は我國の中学校程度の Academy で教育を受け、其の後は独学を以て研究した人である。彼の研究と彼の生涯の事業として、一つは只利益と云ふことではない。非常に自然を愛する所から、植物、野菜類に非常なる改善を施したので、彼は之れを創造と言つて居ります。そして彼れは California の最も適当な処に、幾百エーカーと云ふ地面を持つて、人が何十本と云ふものを以て研究するならば、彼は幾万本と云ふものについて研究するのである。それで今迄の

學者の研究したものと同様の結果を見るよ一になりました。彼の働きは、實に三つに分れるのである。

第一は、年数のたった最初や古びた植物を新らしきものに改造するのである。

第二は、Election。其の中にある悪いものを除いて、善いものを加へて改善すること。

第三は、異種類のものをつにして、第三者を生み出だすと云ふよ一なことをするのである。

[彼の働き]

其の中には日本の梅と America の Beech-plum と云ふものを一緒にして、非常に大きなもの、そして味も全く別なものを拵へることが出来るのであります。

夫れから木でも二十八年かゝつたものを、十三年かゝつて七倍の大きさのものを作ることが出来たのである。つまり、こ一云ふ Nature を研究して、是迄よりも非常によい穀物、食物、並びに非常に立派なる枝なり、葉なり、実なりを拵へることに成功したのである。

[苦心]

そこで此の人の畠は非常に大きなものである。こ一云ふことは、只昔から先祖から伝來した処の事をして居つても、出来ないのであります。如何に此の人が成功したかと云ふ事は、彼れは本年五十八才であるが、三十五年間皆て避暑の爲めに旅をしたと云ふことはないと言ふ。East の方へ三度行つたけれども、何時も急行で行つて、直ぐ様帰つたのである。America の沢山の大學から招かれるけれども、未だ夫れに應ずる暇がない。彼の家は極々小さな処に住んで居るが、其の周囲は美しい草花や木で以て蔽はれて居るので、彼は實に Nature の中に生活をして居るのである。之れを聞いて来る者、又は手紙を送る者、数限りない程である。

それで手紙を送る者に一々返事を書く暇がないから、其の返事は必ず端書より出さないこととして、又手紙を送るものは、返事を望む者は其中に十弗を封入することとなつて居る。其の手紙が一年間に四万である。故に此の返書を出す爲めに、一年に八十万円の収入があるのである。

そして畠を見に来る人は五分間しか見せない。其外研究の爲めに来る者には、一時間に 10 弗を課し、三十分間見る者には五弗を課すと云ふことである。

之れを以ても、此人は非常なる天才を発揮したものである。夫れと同時に、學術界に如何に大なる貢獻をすることが出来たかと言ふことが出来るのであります。

又此人は文明人の努力、勇敢等の事が欠乏して居ることを言つて、之れも植物と同じく進化を來す爲めに、人種と人種との混合を計らなければならぬと言つて居ります。それであるから U. S. A. の國民は今後益々発達すると云ふ説であります。1904. U. S. A. に移民した人は 752864 人であつて、50 種程の人種であつた。其の中で日本人は 14264 人行つて居る。之れ等は段々殖える処の人民であるが、是れ等異種の人が混合して境遇をかへることになると、植物を支配する処の法則が人間をも改良するものであると言つて居ります。そして此の人は、宇宙間に於ける Nature study をして居ると言つ

でもよい。

[目下の急務]

今後我国の教育が、此の傾きを帯びて来なければならぬ。我が校の教育部が、其の中に立って原動力ともならねばならぬ。夫れを又實際社会の生活に応用して、牧畜部に及ぼし、養鶏部に及ぼさなければならぬ。実は此の目的を全うするには、今後我校に農芸部と云ふものを起して、其の Nature force を応用して日常生活を進むる処の研究をすることに着手するのは、実に今日の急務であると云ふことを、私は深く感ずるのであります。

之れは教育の方から言っても、婦人の趣味を高める方から言っても、亦社会一般の爲にも甚だ有益なことである。

[世界における最大の幸福]

之れは凡ての家庭に、学校に、又凡ての村に、此の考へを応用して行きたいと考へます。之れは誠に趣味あり、興味あり、必要なる学問であると思ふて居るのであります。此の人は、無学と云ふことは許す可からざる罪惡である。No と云ふことを言ひ能はざるものは、Yes と云ふ機会を得ることが稀である。世界に於ける最大の幸福は、人をして幸福ならしむることで、人をして不幸ならしむることは、我最大不幸である。次に最大なることは、人をして考へしむるに在り、と言つて居る。

彼れが食事をする部屋の上にかゝつて居る額の詞は、Emerson の詞である。

Ignorance is the only unpardonable Scene,

The man who cannot say "No" seldom gets the opportunity to say "Yes."

The greatest happiness in the world is to make other happy.

The next greatest is to make them think.

Write it on your heart that everyday is the best day in the year.

Emerson.

汝の心の中に書き記しておけ。其の日は一年中の最大吉日である。

其の日にすることは其日にせよ。一生懸命にせよ。最もよきことなり。

我々が其の日のことを最もよくする、其の日の勉強を充分にする、之れが秘訣である。決して延ばさない。今日の義務はどんなことがあつても明日に延ばさない。

之れが此の人の主義であります。之れが又我々の凡てのことに勝ち、凡てのことを成就する、第一の秘訣であります。

[中表紙]

第三学年に於ける御話

明治四十二年六月二日

明治四十二年六月二日

第三学年にて

今日は、初等教育で言へば手工教育、高等教育で言へば専門教育、其の意義について、又實際本校教育部並びに全体の傾向が、今後の我国の教育に如何なる特徴を發揮すべきものであるかと云ふことを、問題にしておいたのである。其の問題の深い意義について、即ちあなた方の御疑問の点を、充分御研究が行き届いて居ないかも知れぬけれども、時につけて幾分か其の概要を申してある。夫れで、仮説なり結果なり又何か疑問でもあるならば、初めに於て発表してもらひたいと思ひます。手工教育、英語で Manual training、此の詞は今日世界の一の教育の傾向、即ち此の間私の申しました、五種類の世界の教育の大勢を言ひ顕す奴の標語とも言ふべきもので、之れを我国の詞では手工教育と言ひますが、之れは猶ほ不充分である。けれども西洋の Manual training と云ふよりも、猶一層の意義に我々は使つて居るのであります。

[手工の詞の意義]

先づ其の意義を説き明かす前に、其の詞の意義を明らかにしておかないと、今後其の詞を自分のものとして自由に使うことが出来ないのである。そこで此の手工教育と云ふ詞は、大体あなた方におわかりになつて居るけれども、今日私が用ひんとして居る詞の意義は、猶ほ夫れよりも広いのである。

手工と云ふ詞があるが、充分でない。其の次に工業、英語で言ふ Industrial education, Jew などは Social industrial education などと言つて居る。

又 Professional education 高等専門教育と云ふ詞もある。又人工、Artificial と云ふこともあるが、此の人工とは前に申した自然研究に対して言つた詞である。其の他、工と云ふ字の付いたものを挙げれば、工夫と云ふこともあり、夫れについては発明と云ふよ一な詞がありますが、之れ等の詞は今我々が言ふ手工教育、皆夫れが包含せられて居なければならぬ。

そ一して其の内容を挙げたならば、凡ての Art、技術に関する学問は悉く其の中に入るのである。手工、工学、数学、美術、文学、論理、教育、倫理、政治、経済、宗教、広義に解する時には今申した未だ外にもある。凡て Art、人工に関する処の学問、技芸は、悉く此の中にもつて居るのである。

併し此の教育の主義、今日世界の大勢の傾きを今、も少し具体的に又断片的に之れを言ふたならば、今日我々の稱へて居る又非常に日頃改善を切望して居る処の点を挙げたならば、ど一云ふことになりましてしょ一か。

只今何誰か仰つたよ一に、之れは今日の試験学問、Book knowledge、暗記的学問の弊を矯正せんとして居る処の主義である。之れも一つの特徴であります。あなた方が此間からお考へになつて、其の他にど一云ふ考へをも包含して居るであ

ろ一か。思ったことを言つて御覽なさい。文学の方から言ふと、今日の自然主義に対する研究である。之れに由つて病的の傾向を癒すことも出来るのである。此の事を深い問題として、殊にあなた方に課したのは、其の本当の立場を見出ださせんが為めである。之は文学部にも深い関係のある問題であります。猶ほ其の他にありますか。

・知、情、意の三方面。

そ一云ふこともある。又我々は今日の教育が余り空想、空理にはせて、一向其の實際社会に効果を現すことがない。之れは一昨年、私が田舎回りをして後に、度々公にしたこともある議論である。世間にもある議論です。此頃は又教育が、實際と云ふことに傾いたのである。或地方では高等女学校に入るものが三割以上減じたと云ふことであります。

之れも亦間違つて居る。学問はいらない、只実地さへ出来ればよろしい。之れは、女子ばかりでなく男子にもある議論であるが、之れは誤つて居る。又今日のよ一に試験を受ける為めに、二十五迄も或は二十八迄も此のつめ込み教育をなさしむることは、誤りであります。此の實地的即ち実地的方法と、研究的方法即ち学問と云ふことが、一つにならねばならないと云ふのが、我々の主義である。否、之れは世界の大勢であります。そ一云ふことを直さうと云ふ考へもあるのです。そ一云ふ部分を挙げて来るならば、未だ沢山ありますが、併し乍ら我々の言ふのはそ一云ふものを悉く含めて居る処のもので、之れは少しく説明を要することと思ふのです。私は之れを、此の間申しました自然即ち Nature と、今日説く処の人工 Art との関係を明らかにし、其の調和統一を得て、此に人間の目的を達せよ一と云ふ処に在る。之れはわかり切つたよ一なことであるが中々わかりにくいので、之れを今日実行して居るものは誠に少ないのです。

今日の教育が工業的、即ち中等教育に於ては手工教育、高等教育に於ては専門教育なり或は工業教育となり、時代が工業時代となり、人間の生活が工業的、社会的となる。昔とは大に違ふ生活状態となつて来た。斯くの如き結果はど一云ふ原因から発生したかと云ふと、広い意義で言ふと、即ち Nature tendency 又は科学的研究の結果である。

故に此の科学的、工業的教育と云ふことと、又研究と云ふことは離る可からざるもので、一にして二を含むものであります。

Science には研究を要し、研究には工業即ち人工の力を要するのである。今日は政治も、経済も、教育も、宗教も、皆此の力に由るの外はないのである。然るに猶ほ昔の夢を食らんとして、今日の道徳、或は仏教、或は数世紀前の Christ 教、又は封建時代の圧制主義を以て、世界の競争場裏に立たうとするのは誤りである。

今日国家の武力、富力、又は知力を増進するには、最早や是れ迄の旧道徳、旧制度、旧知識は不可能となつて来た。然らば今日の世界の大勢に向つて、如何にして其の必要に依じて行かるゝかと云ふと、無尽の財源を開拓するに非ざれば、今日の世界の大勢に向つて己を保存し、発表し、永久の運命を開くことは出来ない。社会の凡ての進歩、発達 は Nature

study、Science から来るのである。

独り之れのみならず、人間力を研究するにも人間の Nature を研究し、子供は子供の Nature を研究して、Nature と一致協同して、始めて其の目的は達せられるのである。道徳も経済も宗教も社会改善も、万般の事を此の以上に発展させると云ふことは、皆此の力に由る。即ち万有の中に無限に潜伏する処の自然力に由るの外、道はないのである。

然らば文学も Naturalism、道徳も是れに叶ふ快樂説に限り、教育も自然に放任するかと言へば、そ一ではない。之れは皮相の観である。之れでは人間社会から動物社会に落つると云ふ事になる。凡て宇宙に在る進化には制限がある。只自然の儘に放任するならば一定の程度に進みまして、夫れからは又段々と退化する。夫れで、自然の力によらんければならぬ、自然の法則に由らんければならぬけれども、其の自然の法則を利導して行くには、之れに人工を加へなければならぬ。自然の働きをも一つ完全に、も一つ有効になるよ一に、人工を加へねばならぬ。人間の働きを加へねばならぬ。之が即ち Art である。ど一しても Art を加へねばならぬ。之れは世界の事物を細かく観察なさんと直ぐわかる。天然其の儘のものは一番劣等なものである。例を挙げて言へば、此の間申しました Burbank の畑にあるものの如く、人間が之れを助けるよ一に境遇を与へるならば、彼の実験した処に由ると、十三年の間に其の木は二十八年かゝつたよりも七倍にし、又其の回りも七倍にすることが出来る。昨日土倉君が來られて、其の人の話に、天然林と人工林との差は、其の産出高が百倍になると云ふお話であります。斯くの如き違ひが生ずるのです。独り植物、動物がそ一であるのみならず、自然の中で最頂上に達して居る人間の中で、天然の儘に育つたものを野蠻人と言ひ、其れに反して Culture を加へて発達した人を文明人と言ふ。此の文、野の差は実に大きなものである。

我々は生れながらにして目と手とを與へ、手と手とを與へられて居るけれども、之れに人工を加へて望遠鏡を作るならば、幾百里の遠方をも見、又顕微鏡を作るならば、到底見ること能はざる物迄も見ることが出来る。我々の聴力には限りがあるけれども、之れに人工を加へるならば、幾千里と云ふ遠方の事も聞こえることが出来るよ一になる。斯くの如きことを数へるならば、数限りもないのです。其の他草でも木でも自然の儘に任せておくならば、段々退化して来るのである。宇宙の理想は真善美に向つて段々進みつゝあるけれども、之れには一定の限りがあり、いろいろの Stage がある。故に人間社会が進歩した以上は之れと協同するにあらざれば、充分の効果をあげることが出来ない。之れを以て見ても、文学に言ふ Naturalist が只自然を有りの儘に歌ふがよいと云ふのは誤りである。鳥の鳴るのも美でござります。又人間が想像に由つて Music を組み立てたものは、即ち人類に由つて出来た処の音楽、美術と云ふものは、到底自然のものが及ぶことは出来ない。そこで人工と云ふものは自然を排斥し、又は自然を遠ざげるものではない。益々自然に近づき、益々自然に親しみ、益々自然を発揮するのである。其の自然と人間との関係を明らかにし、益々人格を発揮し、自然の状態を発展するの

である。

其の教育の思想を言ひ表はす時に只だ工業とのみ言ふが、尚ほ之れには深い意味があるのである。

〔天然と人工との一致〕

手工と言へば、只普通一般的のものではない。我々の言ふ意味は、今の天然と人工との一致を謀るのである。

之れに由って、教育でも宗教でも政治、道徳も皆、今後は此の両方の協同に由って、確実な効果を挙げて行くことが出来るのであります。そこで第一に、之れを人間の教育にあてはめて見るならば、人間が段々発達することは Darwin の詞で言へば Evolution、今日の学術語で言へば進化である。其の進化は即ち自然である。然らば人間は自然の傾向を妨げねば、夫れだけで教育が出来るか。France の Rousseau が エミール を書いて、形式的教育、伝説的教育、権威的教育を排斥して、自然を学びました。之れには確に真理がある。併しながら人間は只自然に放任しておくならば、夫れだけで人間とはなれないのである。故に、此の自然と人工との両方面が常に働いて居なければならぬのであります。

〔トーマス・ダビッドソン曰く〕

哲學家の Tomas Davidson、此の人が教育の歴史 History of education と云ふ本を書きました。その中に自然と教育との関係を論じて居るものの中に、我々の参考とすべき詞がある。此の人の説によると、人類が此の世界に到来する以前の凡ての宇宙の発達は、無意識教育の結果と考へることが出来る。此の人の説に由ると、進化は無意識教育である。人間が意識になる迄の凡ての進化は、無意識教育の結果である。又之れを反対に申すならば、其の論鋒で行けば教育は意識的進化なり。即ち教育は自覚せる進化作用なり。有意識、有意義の発展作用なり。目的を立て、理想を画して発展して行く処の作用である。

〔教育の二種〕

そこで、世界の歴史以来の事実を考察して見れば、教育に二種あると言ふことが出来る。

一を、進歩的教育。

一を、停滞的教育。

〔停滞的教育〕

蛮人の如き又は半開國民の如き、又我国に於ける或時代の如き、少しも先きに進むことの出来ない、同じことを繰り返して居る教育を、停滞的教育と言ふ。

其の停滞的教育は或意味に於て、人工、人意を加へない本能的、習慣的である。其の習慣、風俗が本能的になって居る。只其の遺伝を繰り返して再現して居る処の状態を、停滞的教育と言ふ。

〔Nature people〕

そこで、そ一云ふ教育で出来た処の人間を Nature people 自然人と云ひ、未開の民と名付けるのであります。其の停滞的教育が進歩的教育に移るには、第一に自然研究、即ち個人研究、人類が個人を発見する、即ち自知である。己の中にある能力 Individuality を知ると云ふことが、先づ第一である。其の個人を知りまして、之れを自分の修養に又他人の教

育に及ぼし、即ち個人と社会との関係を見出だし、教育が過去よりも将来を重んずることとなる。即ち遺傳的のものを棄して将来の理想を描き、目的を立て計画を案出して、之れを以て己を修養し、世を教育せんとする。即ち人間の進化に人工を加へることとなって始めて、此に人工的教育、即ち文明的教育が生れて来るのであります。

そこで教育に、広い意義と狭い意義との二種の意義を持つて居る。広い意義の教育は、人生の諸感化の人間に及ぼす処の結果である。最も広義に言へば、教育は世界的進行なり。其の教育者は自然であると言ふことが出来る。凡ての四圍の境遇は人間に感化を及ぼす。此の間も申したよ一に、Nature は我々を育てる処の Nurse である。

併し狭義に言へば、教育は学校或は個人が目的を立て、有意的に人物を養成せんが為めに努力し、又は一致共同する働きを言ふのである。

そこで今日の教育は Nature を研究する。殊に児童を研究し、人間の心理を研究して、先づ人たるもの生理及び心理の性質を研究致しまして、其の研究から得た処の法則を応用して、益々人間の生活を完全に働かせる作用を言ふのである。故に教育と言へばど一しても自然の働きに人工を加へたものである。つまり人工、人間の意志に由って修養が出来る。此の修養に由って始めて人格を発揮することが出来るのであります。

つまり手工教育と云ふものが今日の教育の傾向となりましたのは、生理学、心理学の研究の結果、子供と云ふものを只大人の考へて束縛したり、空に物を教へなどしてはいけぬ。印象を受くるならば、必ず発表がある。故に児童に直接物を見せ、物と与へるのみならず、更に進んでほんとの意志が出来、ほんとの習慣が出来るのは、労働に由る、努力に由る、活動に由ると云ふことがわかつたので、此の手工教育の働きを作つたのも、やはり自然研究の結果であります。

〔Will の活動に由って作らる〕

第一人間の意志を作るものは活動であり、其の活動の本源は精神である。其の精神も亦必ず夫れの宿る処の身体を要する。そこで身体の Nature、及び精神の Nature の関係を研究して、年齢にも由るのであるから、其の時機に欠く可からざるものを見出だして、此の手工教育と云ふことを始めたのである。

此の間も申したよ一に、我々の脳細胞の中で大切なものは運動中枢と感覚中枢であるが、殊に今日の教育に最も重きをおく可きものは、運動中枢である。人間の手腕は頭の中にある。手の働きの本は、実は脳細胞の周圍に在る繊維の働きである。故に此の繊維は、我々の頭の中の手と言つても宜しいのです。そこで人間の教育に第一気をつけねばならぬことは、此の教育である。然るに其の教育はせずして、只暗記的の試験学問ばかりして、或時は野蠻の如く只自然のまゝに任せておいて、四十位になって気がついた処で、も一仕方がないのである。

〔何故に手工教育を主張するか〕

私共は何故にこ一云ふ教育を主張するのであるか。殊に御婦人の教育を主張するのでありますか。又何故にそ一云ふ教

育が必要でありますか。此の頭の中の教育が必要であるからです。夫れには此の教育が誠に大切であるのです。故に此の手工教育と云ふものは只だ絵を畫くとか、只家を建てるとか云ふことではなく、此の頭の中の教育を言ふのであります。

そこで、此の手工教育を主張して居る処の要点を説き、又其の利益を説き、又其の教育的価値、其の実用的価値、其の國民を養ふには、獨立自營の態度又は自尊心を作るに大切なものであります。そ一云ふいろいろ大切な点もありますが、之れはもはや時が来ましたから省いておきます。

其の次は、此の教育の第三の目的と致しまして、經濟的國家的の価値を持って居るのであります。

猶ほ一言申しておかんければならぬのは、如何に此の主義が、此の Nature と Art との関係が、道德、宗教に大切であるかと云ふことであります。

[ゼームス曰く]

Harvard の Professor James は、凡て教育に於ける大事は、我々の神経系統をして我々の讐敵となさずして、吾人の同盟者たらしむるに在り、と言つて居ります。我々が日露戦争の時に於て、America や英吉利を我々の同盟国としたのである。之れから受けた利益は莫大なものであります。今日と雖も是れ等の國を友邦とし同盟国とするのと、敵国とするのとは、國家の爲に大なる違ひがあるのであります。

夫れと同じよ一に、我々の欲望、衝動を起こして居る処の神経系統が、我々に同盟して居ると、讐敵となつて居るとは、非常の違ひである。我々の心理の中に働いて居る処の Nature が、一致共同して我々と共に働くよ一になる。我々が其の Nature に順応すると云ふ処にあるのであります。

或哲學者は、宗教は宇宙に在る処の神聖なる自然力を我々の精神に合せしむること。恰も我々の太陽力を身体の上に合せしむるが如し、と。つまり宗教と云ふものも宇宙の實在を學んで、其の宇宙を統御して居る処の Divine energy に我々の精神が觸れて一つになる、之れが即ち宗教である。此の哲學者も心理學者 James の詞も、其の奥儀は同じことになるのであります。道德、宗教とは第一に、我々の中にある精神力、即ち潜伏せる可能性を發揮すること、即ち人格を發揮する。之れを自我實現と言ふ。又之れを大きく凡ての関係から申すならば、社会並びに宇宙の目的を達するので、其の方法から言へば社会實現、或は宇宙實現と云ふことになるのです。

そこで道德教育と言ひますならば、此の前に教育の目的を三大別して、其の第一にあげました道德教育、或は人道教育、或は品性修養、人格發揮と云ふことは、如何なる方法に由つて出来るものであるかと言ふならば、やはり自然を研究して之れを応用する処の人工です。即ち教育では之れを Culture 修養と言つて居ります。我々の自然の上に努力を加へることである。故に英語では此の修養を Build と言ひ、Building character と申します。如何にも此の煉瓦を積み上げて建築をするよ一なものである。

[遺伝]

併し此の人格修養と建築とは、少し趣きを異にする処があ

る。夫れは人間と云ふものには先祖代々の遺伝がある。之れが人生に徳、不徳があり、又盛衰、退化、進化の存する所以であります。そこで品性の建築と云ふのは、從來誰にもあります処の遺伝の悪いものを排斥し、或は之れを滅殺致し、ますます善い傾向を育て、行き、又之れ迄ない処の品性を加へて行き、新しい良習慣を育て、行く処の働きを取らんければならぬ。恰も Burbank が接木の方法により、又は花粉を混交することに由り、是れ迄のわるい遺伝を改めて、新しい果物を生み出すと云ふこと、之れが此の人のやつて居る植物の教育法であります。

我々も之れに類似することをするのである。我々には誠に臆病であるとか、意地がわるいとか、いろいろ悪い遺伝のあるもの故、之れを取り除く処の方法がなければならぬ。之れは只一朝一夕に改めることは出来ないけれども、彼の Burbank の致しました、旧習慣を破壊する処の働きをしなければならぬ。そこで我々の品性修養に必ず経験しなければならぬことは、死んで蘇る。古き人が死んで新しき人が此に生れて来る。精神の中に非常なる新らしき変化を起こして新しき人が生れること、之れは毎年三年生が経験することで、之れを生れかはると言ふ。此の過程を踏まんければ出来ないであります。其の人間の品性を建築するに、植物を改善するよ一に、接木を以て或は花粉を交ぜるよ一には出来ない。Burbank は、America に移住する多くの人種に由つて America を改造することが出来ると云ふことを予言して居りますが、人間は只夫れのみではいけない。猶ほ此間に精神的變化を起さねばならぬ。其の方法は、私は、手工教育に由つて頭が出来ねばならぬ。我々の品性の出来まことは、つまり我々の頭の中に考へを拵へたもの、此の信仰、理想、此の考へが、我々の傾向となるのである。

之れが成長して我々の品性となり、人格となるのである。故に先づ此によい習慣が出来、理想が出来、信仰が出来始めて我々の人格となり、徳となるのであります。

之れは、我々が自分の品性を作り、徳を養ふに非常に大切な事柄であります。此の奥儀を悟らなかつたために、多くの親は我が子を夭死せしめ、折角志を立てた青年、學生は失望或は失敗の淵に、果敢なく最後を遂げた者は數限りなくあるのである。

此の道理を明らかに説くには、生物学から心理学、社会学等に亘つて、其の道筋を明らかにしておかんければならぬのであります。其の時間が無いために、只だ我々の経験する所、又今日迄人類の経験した所を挙げて、其の道理が眞にあなた方に明瞭になるよ一に致したいと考へるのであります。我國に於ても、外國に於ても、是れ迄の修養の仕方が第一に生れ変わる、或は悔い改める。此の生れ変わり、悔い改めをするには深く自ら省みる。自ら省みるとは己の欠点を見出だして、之れを改めることであるが、夫れが己は罪人なり、己は悪人なりと云ふことを反省せしむる。之を懺悔し、之れを悔い改め、再び悪いことをしないと云ふ決心をするのが、其の結果は益々弱くなり、益々小さくなって、益々悪くなるのであります。之れを改めさせんとして我國では克己主義を以て欠点

を賈め、折檻して、親に由っては日に幾十度となく小言を言ふ。之れが、生れ変はらしむる第一の方法であると考えて居る。けれども之れは、恰も病人に対して親切、丁寧に診察をし、薬を与へて、あなたは病氣であると言はれて、其の病氣が忘れられない為めに病氣になる人が沢山あります。そ一云ふ風に自分の考へること、行ふ事が一々欠点であり、罪であり、汚れであったならば、其の欠点は益々深く養はるゝのであります。

[常に愉快なれ]

之れに反して、之れは自分の欠点である、仕損ひであると心付いたならば、直ぐ様自ら改むると共に人にも詫びて、過つて改むるに憚ること勿れで、も一憚らない。そ一して成功であった事、誠に愉快であったことを考へるならば、ど一でありましょ一。我々の習慣を作る上に、非常に大切なことでもあります。又先祖伝来の習慣、遺伝、悪い傾きがある。之れを早く取り去らねばならぬ。我々が苦しみがあるならば喜びと云ふ種を、不幸があるならば幸福と云ふ種を、我々が失敗するならば成功と云ふ要素を入れて、高尚なる理想、善良なる意志を満たして、始終心が愉快である様に、向上心に満ちて居ることが必要である。之れが何時の間にか我々の品性となるのである。故に先づ人格を作らんとすれば、立派なる美しい想像を描き、愉快なる感情を以て満たすと云ふことが必要である。夫れでど一しても、人に対して親切なる行ひをした、或は三日前にど一ど一成功したと云ふ考へを夢にでも見ることが出来たならば、実に幸である。之れに反して親が毎日、又わるい事をした、お前は実にわるい子である、と言つて賈めたならば、其子は遂に発達することは出来ないのです。

[品性修養も一種の人工なり]

そこで私は、品性修養と云ふことも一種の人工である、工業であると思ふ。故に先づ、我々の頭の中に高尚なる觀念なり、思想なりを築くことが大切である。

[真面目となるべき能力]

然らば、我々は如何なる品性を築かんければならぬか。如何なる考へ、如何なる希望を築かんければならぬものであるか。此の頃先づ我々の必要であると認めて居るものを挙げれば、第一、至誠、忠実。之れは我々が本気となり、真面目となるべき能力であります。之れを具体的に言へば、

第一、友には親切であり、主義には忠実であり、思想には柔順であり、真理には忠義たれ。

第二に、勇氣。勇氣は主義を行ひ、信仰を遂ぐるの力であります。仮令人には愚と見え、時には狂と見え、或は不都合と言はるゝ時があつても、必ず実を行へ。人の毀誉褒貶を顧みず、真理のある処を踏んで進むならば、必ず最後の勝利は得らるゝものである。

第三には、内に守つて居る。内に守ると云ふことは、自信力を障害に當つて保存するの力であります。殊に我々は、こ一云ふ世に生れて、深い考へを又理想、目的を成就するには、此の徳がなくてはならぬのである。

第四には、研究的態度を築け。此の意味は此の前の Nature

tendency、つまり研究と云ふことが伴はなければならない。さうでなければ、如何に実行につとめても結果は挙げられないのです。

第五には、善意を確立せよ。即ち善を以て惡に戦へ。時に冤罪を被ることもあり、中傷離間に逢ふこともあり、利己的行為の災害を受くこともある。之れに報ゆるに、犠牲的行為を以て、凡ての善意を以て敵に対する。つまり俗に言ふ、負けて勝たんければならぬ、と云ふことであります。人を感化するにも、やはり暴なる人には、やはり礼を以て交はる。反対するよ一な人には、却つて親切なる態度を以て向ふ。又弱い人には、欠点多き人には、積極的な实例を示すよ一に注意する。人を感化するにも亦自分の品性を築くにも、精神的の理法を応用して、先づ我々の思想を清くして頭を高尚に持つ。人に交はるに、又愛する家庭に帰るに、又之れから友達と卓に向ふに、又人と相談會に臨むに、自分の欠点を考へたり又人に怨まれたりして居る、そ一云ふ想像を除く為めに、高尚なる頭を作り、又之れを助くるに足る程の立派なる人格、或は歴史的の聖人君子に近付いて、先づ自分の心を立派にし、高尚なる理想、愉快なる想像を描いて、我々の頭に真善美と云ふよ一な理想を描いて、家に帰り、人と交はることは、我々の品性を築き、人格を発現する為めに、欠く可からざることであろ一と思ひます。

此の事に就いては猶ほよく考へになつて、Nature study 及び Manual training と云ふことは、実に大切なものである。故に先づ其の關係宜しきを得て、其の奥儀をよく御研究になつて実行なさることを希望致すのであります。

[中表紙]

第四回父母招待會
明治四十二年六月五日

第四回父母招待會
明治四十二年六月五日

御多忙且つ御遠方の所から態々おいでを戴き、父母、保証人の方を歓迎致します為に、附属高等女学校生徒一同は喜んで、今朝以来、自分の製作したものを總めましたり、今傾いて居ります傾向を皆さんに御紹介致す為に、統計等を陳列し、幾らか茶菓の用意を致してお待ち申して居ります。少し天候も思ふ様になりに拘はらず、斯く沢山お揃ひ下さいましたのは、一同深く満足致す所で在ります。

[招待会の主意]

今日おいでを願ひました主意につきまして一言申述べました後、暫くの間各級別れまして、相互に御紹介を致し、御懇談を願ひ、又いろいろ御注意を仰ぎたいと存じます。大体、本校教育主義については御承知のことであろ一と存じますが、我々は銘々の十数年の経験と、我が国の歴史及び現状に鑑みまして、猶種々問題になつて居る所を研究する為に、世界列

強の教育の現状を取り調べまして、一の本校の教育主義を定め、方法を立てて、今より八年前に附属高等女学校並びに大学部を開設致しました。其の以前に我が国の女子教育については、いろいろなる未決の問題を持って居りまして、又度々一進一退致しました経験を持って居ります。殊に教育の弊習について議論が喧しかったのであります。又我々自身も教育を進めなければならぬと云ふことは疑ひないことであるが、之を如何にして進むべきであるか、今後日本の国状には如何にして適切することが出来るかと、深く考へて居ったことであります。其の時の現状から考へまして、我国の教育を、殊に本校に立てました教育主義を適切に行ふには、家庭と学校と社会と、此の三者が一致協同するにあらざれば、不可能であると云ふことを信じまして、先づ我々の力の及ぶ範囲に於て之を試みんが為、本校教育機関を、家庭と学校と社会の三要素を考へて、其の三方面の一致協同の働きを試みることに決しまして、先づ校内に二百名許りの寮舎を作り、段々夫れを拡張しまして、今日では八百名以上の寮生を収容し得る所の設備を致しました。

[本校寮舎の内容]

之を二十七軒の家族とし、一家族凡そ二十人内外の家族制度と致しまして、其の家族が種々の仲間となつて一の部落をなし、部落が又相よつて一社会をなし、一國に擬へらる様な仕組みに致しまして、学校で学ぶ所の知識を、家庭生活、社会生活に実行するに最も適切な制度をとつて参りました。未だ日が浅くて経験が幼稚で在りますが、先づ我々が八年間試して來ました結果、今後の我国の教育が此の方針に向つて進まねばならぬと云ふ確信は、益々堅くすることが出来まして、多くの父母方は其の真意をおわかり下さつて、市内に立派なる家庭をお持ちになつておいでも拘らず、子供の教育の為に態々此の近傍に居を移された方も、一、二に止まりません。其の中には高等女学校を卒業し、或は大学部を卒業したものも在りますが、ど一してもこ一云ふ学問経験をさせることが大切であると云ふ、父母からの御話しを度々聞いたこともあるので在ります。漸く八年の経験を積みまして、此に益々改善の実を挙げて、猶有効なる教育を施したいと云ふことは、我々教職員一同の切望する所でござります。さて此以上に有効なる教育を施すには、如何にすれば宜しいであらうか。此の以上に教育を適切に致しますには、我々が八年間経験致しました事は、広く家庭及び社会と連絡をつけまして、殊に父兄、保証人方と協力致しまして、一致協同の働きをとつて行かねばならぬと云ふことを、深く感じて居るのであります。夫れで今日は其の必要につきまして、聊か我々の考へを述べまして、いろいろ御協同を願ひたいと切望して居るのであります。此家庭、学校、社会の三者の一致協同を願ひました第一の理由は、此に生徒の最も大切なる精神的境遇、即ち健全なる校風を培養すると云ふ所にあるのである。此の方針は設立の当初から重きをおいた処で在りまして、漸くに致して、生徒を感化し得る所の充分有効であると認めることの出来る校風が出来ました、と申し上げる事が出来る位に進んだかと考へるのでござります。併し校内に生活して、日夜此

の中の空気を呼吸して、不知不識の間に感化を受けて居ります生徒は凡そ半でござりまして、其の半は多くは父母の御宅から通学をして居り、其の他は親類、又極少数の者は保証人の宅から通学致して居りますが、八年間の経験によりまして、我々の教育の目的はも一つ、家庭と連絡を致し父母、保証人のお方とも少し親しく相わかりまして、も一一層深い一致協同の働きをとらんければ、も一一つの目的を達することが出来ぬと常に感じて居る所であります。未だ本校の校風も充分とは申しませぬけれども、猶今日の我国の風、及び我国の家庭に行はれて居ります家風と云ふものとは、大分等差のあることを信じて居ります。折角校風で温めて、一発展をしようとして居るにも拘らず、家庭及び社会では大に其の熱をさまさると云ふよ一な感じを、致す事も度々ござります。折角品性を建設し始めて、之を社会に出て破壊せらるると云ふ様に思ふたことも屢々あります。此には私は真面目に皆様の御愛子を教育すると云ふ責任を負ふて、忌憚なく意見を吐露するのであります。ど一しても破られない品性を築き、健全なる意志を練り、今後の婦人の責任を全うし得る処の本性を養ひ立てますには、ど一しても此の以上は家庭との連絡、即ち父兄の御協同を仰ぐより外に道はないと云ふ事を、殊に此の頃感じて居ますので在ります。詞をかへて言へば、教育は独り校風のみによつては為し能はぬのである。之に伴ふて健全なる家風と、又相成るべくは、之は急には望むことが六かしいけれども、國民を教育し得る青年男女を真に感化し得る國風を興すにあらざれば、我國家を進むることは出来ません。之は学校の校風のみによつて、充分なる効果を挙げることは六かしいのである。私が此の三者の連絡を切望し、父兄、保証人方の御協同を願ひたいと懇願するのは、此に斯くの如き國風を建設しよ一、つまり教育の根本を培養しよ一と云ふに外ならぬのである。然らば斯くの如き校風、斯くの如き家風、國風を興すには、如何にすれば宜しいであらうか。斯くの如き光り、斯くの如き太陽の熱は何によつて来るのであるか。

[第一]

第一に、教育に対する父母の熱心、教育家の子弟に対する熱心、國民の教育を重んずる傾向、之に外ならぬと思ふ。

[アメリカの女子教育]

私が之について深く感じましたのは、先年即ち今から十七、八年前にアメリカ合衆國の教育を視察致しまする、殊に初等教育及び彼の國の女子教育を観察致した時に、深く感じたことがある。私は實に、将来アメリカの國民は恐るべき発達を為すであらうと信じたのは、彼の國民の教育を受けるに熱心であること、又其の父母の子女の教育に熱心なることであります。

私の一年半ばかり居りましたアンドヴァーに近い一のTownであります、其の國の政治も宗教も実業も殆んど教育の為に行はるるかの感がある。そして其所では、遣れたるを拾はず、と云ふ有様であるので、其所の家庭を段々訪問して見ると、實に熱心である。或る父母は數百里の所から家邸を売り払ふて、転居して来る者も珍らしくありません。其の訳

をお母さんに聞きますと、其の答へは、此のアンドヴァーの空気、其の校風が自分の子供を教育するに最も適して居ると考へますから、と申して居ります。即ち其の人は三人の子供達を教育する為に、態々家を遷して居る。財産の半を失ふことも余り惜しいと思つては居らない。そこで私は、支那には孟母三遷と云ふことを聞いて居つたが、之は西洋にも、やはりあることであると感じて居りました。併し之はアメリカのことのみ思ふて居ましたが、今日では極少数ではあるが我国にも、そ一云ふ御方を見ることが出来るのである。只今此の堂にお会しになつて居る父母の会、或は其の生徒の父母のお方の中には、教育の為に態々此の近くにお転じになつたのは一、二に止まらない。又或るお母さんはさ程教育を受けた方でもない、又さほど腕のあるお方でもないが、其の御子さんを教育することについては如何にも熱心であり、其の家風を興すことに日夜苦心して居らる。其の御婦人の熱心は遂に良人をも感化して、一家中のお方が其の奥さんの精神の感化に由つて一変して居ります。私は其のお方と七、八年御交際をして居つて、其の御家風が如何に改まつて参つたかと云ふことに驚かざるを得ないのであります。子供を教育して感化し得るのは、父母の熱心、否お母さん、姉さんの熱心に由つて出来るものである。我々が其徳を慕ふて常に其の名を称へて止まない Pestalozzi の如き熱心なる教育家があつて、始めて出来るのであります。斯くの如き教育家、斯くの如き母親が多くなつて、始めて教育に熱心な国風を作ることが出来るのである。アメリカに参りますならば、有力なる幾つかの大学が悉く富裕なる人の義援に由つて出来て居ります。猶其の上、アメリカでは子弟の教育の為に九億と云ふ金を抛つて居る。是に由つても、如何に彼の国民が教育に熱心であるかと云ふことがおわかりでありませう。

アメリカの如き又は逸逸の如き教育を重んずる国民は、今日最も強大なる国家であり、偉大なる国民であると云ふことは、論を待たないのであります。私は今日父母のお方又保証人のお方に、お願いを致したいと考へますのは、ど一か今後、教育の為に一致協同を願ひまして、又つまり一言で申せば、ど一か我々がお互に修養致し、お互に奨励しあひまして、今より一層健全なる校風、家風、並に国風を培養致したいと云ふことを、深く希望致して居るので在ります。猶、実は私は、此の家庭、学校、社会、三者をも少し密接な關係を保つよ一に致して、此の父母、保証人のお方にいろいろ御協力を願ひます為に、も一一、二点も申し上げたいと存じましたが、今日少し始まりが遅れましたので、最早其の時間になりまして、遺憾ながら其の時を得ませんが、ど一か今後は其の実を挙げます為に、誠に御多忙ではござりますが、此の会には成るべく御出席下さります様に。猶、平日に於ても、寮舎並に課業の有様を時々御覧下さりますならば、非常に有益であらうと考へます。又、受持の教師並に寮監等が之迄もど一か夫れを願ひたいと存じましたが、何とか都合をつけまして、寮監又は担任教師等が御宅の方へも伺ひまして、御教育について成るべく御相談を致してすることが必要であらうと思ひます。女子の教育を進めること、即ち高等教育が国民の土台である

と云ふことについても、いろいろ議論がある様であります、之は殆んど誤解である。故にそ一云ふこともおわかり戴いて、お子さんの長所、短所等につきましても、子を見るは親に如かずであるから、出来るだけ其の辺が学校へもよくわかります様に致し、又学校の精神も出来るだけ御両親におわかり戴くことが出来たならば、誠に有益であらうと考へます。猶、各級にわかれます、其の席で御懇談を願ふ様に致したいと存じます。

[中表紙]
桜楓会正会員会
明治四十二年六月六日

桜楓会正会員会にて
明治四十二年六月六日

此の事が問題となつたのは、只経済の都合や人がないからと云ふ事ではありません。大橋の方から言つても、之迄講義録を出し、其の他に機関雑誌を出すに云ふことは、編集の費用から言つても、月百円で出来て居つた。夫れを今度桜楓会の事務所【注：複写された他の綴りの当該箇所には、事務所を編輯部と赤字で訂正されている】ですることになると、之にも六十円を要するので、つまり百六十円の金を出さねばならぬこととなります。又桜楓会の方から言ふと、漸う経済が立つ様になつて、借財も払ふことが出来る様になつたから、何にも合併の必要はない。

第三に、人が足らぬなら殖やせばよいではないかと云ふ問ひもあろ一けれども、週報ばかりなら今迄の人でよい。夫れから講義録の方では、今度男も入れたのであるから、猶此の上経験ある人を入れることも不可能の事ではない。之は大橋の方からも言つて居りましたが、桜楓会員も益々油断することなく、お勉めになることが必要である。講義録や家庭週報では是々の人を使つて居ると云ふことを話しますと、大橋が言ふに、私共の方で男を使つて居りますが、給料も是だけですむで居ります、と言ひます。安い人間を僅かの人數で事を足すと云ふことも、世間にはある。又女学世界【注：複写された他の綴りの当該箇所には、女学世界を婦人界と赤字で訂正されている】の編集も、純粹にかかつて居る人は只二人であるそ一です。処が桜楓会の方では、純粹に取りかかつて居る人は二人で、其の他の係もあるのである。故に只経済の点から、或は編集力と云ふ様なことでもないが、今は大変大事な時である。ど一しても今我々が突進して行かねばならぬと云ふことを、皆さんが看破して下さることが必要であります。

物は必要がある為に、其の必要に應ずると云ふことに由つて、力が発達するのである。今日週報が此所まで発達して参りましたのも、皆さんが自ら深く使命を感じて、其の必要に應じて下さつたからであります。

夫れて、今日も同じ精神で進まうと云ふのである。茲に今

迄両立して来たものが合併して一つになると云ふと、一寸其の形の上から見ると退化の様であり、週報の方から見ると一時中止をしてしつゝ様に見えるから、或はそ一云ふ様に感ずる人があるかも知れぬが、決してそ一云ふ訳ではない。茲に週報の最初の目的を遂げる。も一つ、茲に週報を發展する。夫れから、其の仕事中止するのではなくて、も一つ其の仕事を拡大すると云ふことからして、此の仕事を変革しよ一と云ふことになったのである。是迄五年の間、週報が桜楓会のために、並に母校の為に尽して居られたことはいろいろあります。又其の必要に応じたと云ふこともいろいろありしよ一。けれども其の中で一番大切であったものは、会員の為には、確に精神の命を續けて行くに必要な糧を運んだものである。若しも週報といふものがないと致したならば、桜楓会の命を此迄に保つことも、亦育てることも出来なかつたであらう。又夫ればかりではなく、本校の学生の間も、週報に於て確に Organize する、即ち凡ての人心を繋いで行く処の働きを取ったに違ひないが、も一つ大切なことは、学校と其の家庭とです。父兄と学校と云ふものとの關係を養ふて行くことが出来た。又社会と学校の關係を繋ぐことも出来た。之は遠方に離れておいでになる方はわかりかねるかも知れぬけれども、未だ本校の主義、方針が社会に認められて居らぬ。中傷離間に遭逢して、事實を誤る様な報告がいろいろ社会に伝へられて、種々の妨げに出遭ふたと云ふことがあります。こ一云ふ場合に、学校の生活とか本校の精神とか又毎日の出来事とかを、出来るだけ社会に紹介するに勉めたと云ふことが、確に本校の生命を培養し、又いろいろ父兄の誤解を導いたりしたことは、非常な有益なる働きであつたと思ふのであります。

然らば今日となつては、週報がそ一云ふ任務を尽さないでも、桜楓会を養ふことも、会員を養ふことも、亦学校と父兄の關係をつけて行く必要もないかと云ふと、大にあるのである。否、今後益々大切であると思ふ。是迄は校風の基を開いたのである。極根本なことをして、漸くにして我々が望む所の、是ならば将来進むことが出来るであらうと云ふ本を作つたのである。そ一して家庭と学校と社会との關係を、此の中に作ることが出来たのである。今後は猶、實際の家庭と連絡を結ばなければならぬと云ふことになります。そ一して此の必要が益々急になつて参ります。又大学擴張の事業として、此の夏からは巡回講義と云ふよ一なもの、名古屋とか大阪とか云ふ有力な支部に及ぼして行かうと云ふ計画のあるもの、其の目的の爲である。故に此の大学擴張のことを全うして行く為に、私は学校にもあなた方にも計らうと思ふ案もあります。其の中には物質的の方面もあります。又精神的の運動を擴張して行く上にも、ど一してもなくてはならぬものは、家庭とか週報とか云ふ様な印刷事業によらねばならぬ。今後此の学校と云ふものを、社会に打ち出して社会と連絡をつけ、産業組合と云ふものをも家庭と結びつけて、之を大きな団体の事業として擴張する上に、ど一してもなくてはならぬものは、此の印刷事業によるの外、も一他に道はないのである。之は只我國ばかりではなく、真に國家に世論の力があつて、一致団

結の働きを盛んに行つて居る所の國は、必ず其の機關が発達して居るので、夫れに代るべき会はない。夫れで私共が今計画を立てて居るのである。其の目的を全うするには、夫れの本となる機關には印刷物を盛んにして、之を利用するの外、道はないのである。つまり大学擴張と云ふことは、私が余程前から発表して居りますが、之を今度もも一つ具体的にして行かうと考へる。其の必要からして、此の家庭と週報とを合併したらど一かと云ふ相談も出たのである。夫れからも一つ、只今の必要もあるのである。定めて会員は、今日我國の女子教育の傾向をお感じになつて居らるであらうと思ふ。其の一つは經濟界の恐慌からである。今一つは当局者のとつた方針から来て居るのである。地方によりましては、知事も高等女学校長も、女子大学に来ることを止めたと云ふことも事實である。夫れから一般に、女子の學問はさ程必要でないのみならず、却つて弊害があると云ふ考へもあつて、其の爲に女子は勿論、男子も高等の教育を受くる者は三割以上減じたと云ふ傾きになつて居ります。之は今日の學問の弊については我々も度々論じたのであるが、其の弊を論じて、教育夫れ自身も役に立たぬと云ふ様に考へたのは、両方とも間違つて居るのである。こ一云ふ傾きが出来て来ると、余り物のわからぬ國民でありますから、一番先きに女子の高等教育に影響して来るのは明らかな事實である。此の際、大に世論を起して、社会の傾向を改むると云ふこともなくてはならぬ。即ち今、桜楓会が会員を導いて、学校と家庭との關係を育てて行くことと云ふことも大切であるに違ひないが、茲に健全なる考へを以て、其の方に導くと云ふことも必要であらうと思ふ。之には皆さん御異存はあるまいと信じます。

健全なる世論を喚起し、本校の精神を社会に紹介して行く家庭も週報も、必要であるのではないかと云ふ考へもありしよ一。夫れは我々もよく考へましたけれども、ど一しても只今の家庭を広めて行き、週報を堅固に育てて行くばかりでは、ど一しても是れ以上に進むことは出来ないのである。又其の数を増す事も出来ないであります。之にはいろいろ訳がありますが、週報は之迄桜楓会の機關として成長して参りましたが、段々発達した時には之を社会的のものとして擴張しよ一と云ふことも、素からの希望である。故にど一しても今発達しなければならぬ時機であります。

又營業事務迄も此方でしたらばと云ふ説もあつた様であるが、夫れはとでも出来ません。大橋は博文館との続きもあり、資本もあり、最初から此の擴張の爲には一万円を抛と一と云ふことも申して居りました。も一大方四、五千円も使ひましたでしよ一。之を一萬と云ふ数に広げて行きましたならば、此に世論を作つて、我國の不健全なる思想を改めて行くことも出来る。も一つの希望は、講義録に添へて此の精神を広げて行かう。又桜楓会から必要な読み物と与へて行かう。ど一しても印刷術に由るの外はない。之によつて我出版部も広げて行くことが出来るのであらう、と云ふ考へもあるのである。是等のことはど一しても單獨にして居つては出来ることではありません。故に力を合して進まうと云ふことである。

も一つ大事なことがあるのです。是迄女子の読み物、例

へば女学世界、婦人世界、或は婦人界、其の他の婦人の読み物と云ふものは、実は是迄皆男子の手に由って出来て居って、思想を導かうと云ふよりも、寧ろ之は雑誌を広めて行かうと云ふ考へから来て居るから、世論を喚起しよーとか、思想を導かうとか云ふ考へはない。夫れでどーしても之は婦人から起らねばならぬ。夫れは女子大学の桜楓会のよーな処からせねばならぬ。夫れでどーしても読み物を作らねばならぬと云ふことを私は度々申しましたが、今度の講義録には止むを得ず男子の手をかりましたが、此の上家庭の方に男子を入れることが出来ないかと云ふと、そーではない。併し将来夫れでは、どーしても発展することは六かしかろーと思ふ。そして会員の為にはどーしても、一週間一度の週報は必要である。故に之を廃するのではないが、猶週報の力を養ふ為に、先づ月刊のものを出して先づ今日の必要に応じて、段々力が出来て参りましたならば、無論月刊の家庭も出しますが又週報も出すことに致したい。夫れで、此の印刷事業を縮めるのではない。大に力を養はう、展ばさうと云ふのである。こー云ふ訳で、いろいろ理由がありますので、只経済上の都合や人が足りないとか云ふことではない。此に非常な必要がある、大なる目的を持って居るのであります。就ては先づ、其の道を以て力を養はうではないか。そーして始めの目的を全うしよーではないかと云ふことである。此に一番の精神があるので、之が相談となつたのであります。夫れでどーか其の精神をとつて、考へを仰つて戴きたいのであります。

[中表紙]

第三学年にての御話
明治四十二年六月十日

明治四十二年六月十日
第三学年にて

(教育学部並びに文学部 学部係より報告あり)

斯う云ふよーに、一つの組織と組み立てゝその内容を明らかにすることは誠に大切でありますけれども、も一つ大切なことは、夫れがも一つ統一せられて、今年のカの入れ処は此処であると云ふことが、皆の頭にはっきりして貫徹することが必要であろー。但し之れは組々でよく考へて話して下さるならば、自らそー云ふ結果が現れるであろーと思ひます。

此頃度々御客が参りまして、本校の実際を見て、あとでいろいろ話を聞きましたが、此の学校の生徒は余程華美なもの考へて居つたのに、実際を見ると予想外で、誠に質素であると云ふことをきゝます。私の見た所でも確にそーで、決して我が校の生徒は華美でない。或人は身分よりも遙かに質素であると言ふことが出来ます。

[美と醜]

そこで華美はよろしくないけれども、あなた方は御婦人で

あります故に、ほんとの意味で言ふ美と醜と、どちらが善いかと言へば、醜はよろしくない。美と云ふことが、確かに婦人の徳でありませよ。所が今日私が此処に参つて、皆さんにお目にかゝつて幾らか醜を感じましたと云ふのは、何を意味するであろーか。之れを詞に表はすと、却つて本意を伝へにくいよーな感じも致しますが、つまる処私が考へるに、成る可く質素にして、銘々に適當なる服装を整へて居りまして、さうして如何にすればほんとの婦人の徳から輝き出づる処の美が発揮せらるゝかと云ふと、心の中から発揮する光りであるのです。私は此処へ来まして、皆さんが少し曲つて居ったり、幾らか疲れて居ったり、気がだれて来るときの、其の人の様子は誠に醜いものである。自分の顔はわからぬものであるから、御婦人はよく鏡を御覧になる。美と云ふことは婦人の反映であり、醜と云ふことは一つは不健康の反映である。も一つは何か心の中に心配があり、所謂不徳な処があるであろー。此の前私が申しましたよーに、何か心配をし不平を持って居るならば、その人は必ずそー云ふよーな品性になると申しました。我々の心の中に何か不平、不徳、不愉快を感じて居るならば、其の人の顔は必ず醜になるのである。故に外から何物かをつけるよーなごまかしのものを廃して、ほんとの高尚な徳から発する処の美を増すことが必要であります。そーして人が美と云ふときは自分の心の内も必ず愉快であり、腹を立てゝ居るよりも厚意を以て活動することが確に愉快である。其の愉快であると云ふことが誠に大切であります。故に願はくば、我々は華美と云ふことはよろしくないけれども、御婦人でありませよから、其の徳から発揮する処の美を発揮したいのであります。

過日来、大分此の今年の計画について、貴重な時を使ひました。夫れは、先づ初めに於て充分其の精神がおわかりになることが必要である。夫れで未だ之れで尽きて居るとは言はれない。も一つ一層深い処に入りたいと思ひますけれども、段々御話をして、終りに於て全校によくわかつて戴きたいと思ふのは、実行の方面であります。私が今学年からは実践社会学を説くと申しましたのは、桜楓会と共同致しまして、是非一つ実行の結果を挙げたいと存じましたからであります。それで今学期に実践倫理を終つて、夏の間充分用意をして、秋から少し着手したいと考へます。

今日は逆も時間が許しませんから、此の間中致して居りました事の結びをつけて、夫れを具体にする準備をする位に、止めなければなるまいかと思ふ。故に今日は少し問答体に致して、此の考へを纏めるにも、余程皆さんが働いて下さるよーに致したいのです。

私は一年に、普通大学教育、英語で言ふ Liberal education、婦人の高等教育は之れを二つに分けて、高等普通教育と専門大学教育とについて申しました。

皆さんは此の二つを此処で受けて居る筈であります、其の中の高等普通教育又は修養教育と云ふものは如何なるものであるか、其の意義をどー解釈しておいでになるか、聞いて見たいと考へます。

其の高等普通教育と云ふことの大体のわかった者は……
……全体

高等教育は我々に必要なものであると信ずることの出来る者は……全体

高等専門教育については、過日来、工業的教育と云ふことを少し申しましたが、之れは手工教育と云ふことについて申したから、夫れが工業的教育の事であるとは少しわかりにくいかも知れぬ。けれども本校に於て言ふ処の手工教育とは、非常に広い意味で申して居るのであります。其の真意が大体とれたとお考へになる方は……多数

印象	発表
自然研究	手工教育
科学	工芸
理想	行為、人格
哲学	宗教、信仰

高等専門教育と云ふ意味なり目的なりの、おわかりになった方は……多数

[女子に高等専門教育は必要なりや]

其の次には、高等専門教育と云ふものは、婦人のために必要であるか。男子には今日此の専門教育が必要であるが、婦人には不必要ではあるまいか。主に婦人の天職は賢母良妻となるにある。故に此の高等普通教育をしたならよいではないか。高等専門教育は不必要ではあるまいかと云ふ議論は沢山あるのである。前文部次官、沢柳君なども、本校には高等普通教育と云ふものがある。之れは確に必要であるが、高等専門教育は不幸の女子の受く可きものである、と云ふよな説がありました。あなた方はど一お考へでありましょーか？

必要であると思ふ者は……多数

夫れでは、其の理由を問ひましょー。

- ・自分の発達のために。
- ・今日の社会は凡てのことが分業になり行けるを以て、婦人の天職を全うする上に必要なること。
- ・社会、国家のために、やはり婦人が専門教育を受けねばならぬこと。

夫れでは、第一 自分のために、第二 家庭のために、第三には国家、社会のために、婦人も高等教育を受けねばならぬと云ふことになりましょー。

此の三つとも大切な理由であると信ずる者は……多数

夫れで間違ひはないのですが、自分にはわかって居るけれども、他から問ひつめらるゝと返答に困ることもありましょー。又先輩から不必要の理由などを聞かせらるゝと、迷ふと云ふよなこともありましょー。此の間も普通学務局長のお話には、高等普通教育、即ち例へば本校にある家政学部の如きは、出来れば婦人が受けておく必要があるけれども、其の他の英文、国文、教育学部の如きは、さ程必要はあるまいと云ふことで、つまり之れは沢柳君の言はるゝ不幸の女子と云ふことになりましょー。何故に一家の主婦となるにしても専門教育が必要であるかと云ふ理由を、少し考へておく必要がありましょー。

之れは大分説き明かしを致さんと、皆様によく飲み込めましょー。私は皆さんが一つの仮説をお作りになるために、極簡短に申しましょー。

[我国今日の傾向]

私は今日、我が国の傾向に就いて斯う思ふ。ど一も万事が丁度よく調和、平均がとれて居ない。例へば、実際の生活は必要上文明の生活をして居りまして、頭の中の信仰は二世紀も三世紀も前の事を繰り返して居ることが沢山あります。之れにはいろいろありますが、我国の家庭と云ふものも社会の推移変遷に由つて進んで居るに拘らず、其の理想とする処はやはり女大学式で、何百年も昔のことを続けよ一として居る。

今日の社会に順応し、世界の趨勢に遅れないよ一に国民を進めよ一と考へるならば、我国の家庭がも一層只今のものよりも進化して来なければならぬ。然るに、一般社会の家庭と云ふものも又主婦と云ふものは、極昔の風に叶ふものを要求しよ一と云ふ傾きになって居る。然らば、今日の家庭は如何に傾きつつあるものであるか、又今日の我国の負債を償却し国力を貯へるために、凡ての国民の教育を進め、凡ての国民の働きを有効にするには、如何に高等専門教育が必要であるかと云ふことがおわかりでしよー。

一言で申しますれば、今日の家庭を司る処の賢母良妻の働きと云ふものも、実業の変遷の影響を被りまして、又分業的・団体的、即ち社会的になりつゝあり、又そ一ならんければ、ど一しても国家が要求して居る処の国力を生み出す事が出来ないと云ふことになりましょー。

先づ賢母の一番大切な仕事は、女子の教育である。之れも昔は母親の責任でありました。即ち家庭に於て、子供の教育はお母さんがしたものである。然るに今日は其の子供の教育に必要な複雑なる境遇は、多くの人に由つて分業的に行はるゝこととなりました。先づ産まるゝに當つては産婆と云ふもの、産科病院と云ふものもある。夫れから子供を育てるについては、Nurse と云ふものも一つの専門となりました。次に教育するには、今迄は家庭に居たものが、今日では半日は幼稚園に出すことになりました。夫れから進めば初等教育となるので、昔は寺子屋のお師匠さんが何もかも教へたけれども、今日は幼稚園と雖も決して一人では出来ないのであります。又昔は主婦は必ず糸をひいて、夫れを機に組み立てゝ、かちから織つて反物にして、夫れを裁ち縫ひしたのである。足袋もお母さんが仕立てたのであるが、今日ではも一お母さんが糸をひく必要はなくなつたので、文明に進む程分業になって居ります。又食物にしても、私は昔西洋で自炊をしましたが、何も六かしいことはない。つまり衣食住と云ふものを作り上げることから皆、昔は主婦がしたのであるが、今日はそ一でない。之れが自ら経済になるのであるから、西洋あたりでは皆そ一なつて居ります。

是れ位世の中が變つて居るのに、我国ではやはり貝原先生の女大学主義で、女はお針もしなければならぬ。女は夫れだけでよろしい。其の上に専門の学問などの入るものではないと云ふ考へがありますけれども、賢母良妻の仕事が進んで来ましたから、そ一云ふことではど一しても今後文明の競争場

裏に立てるものではない。之れからは、ど一しても御婦人の社会と云ふものが開けて分業的にならねばならぬ。

[分業]

分業になるには、ど一しても専門の知識の深い人がなければならぬ。丁度あなた方が係をなさるよ一に、今後は専門家が必要になって来る。そこであなた方が主婦としての天職を全うなさる上に、ど一しても高等専門教育が必要であると云ふことになる。其の上に婦人の仕事が減じて来る。男子は多分外に出ますでしょ。子供も学校に行くのである。其の時を婦人と雖も只遊んで居るよ一なことをすべきものではない。

小人閑居して不善を為す、と云ふこともある。故に必要上婦人も出来るだけ専門の知識を養ふて、分業して立つと云ふことが必要であります。此に文学部と英文学部、或は家政学部と教育学部と、其処にいろいろの特色を持って居りますのも、今後の発達に資する為で、猶音楽部、美術部、医学部、農芸部なども開設しなければならぬと云ふことは、そ一云ふよ一な必要から申すのであります。

夫れで、ほんど一に婦人の世界を開いて行こ一と云ふには、ど一しても高等普通教育、高等専門教育を受けた所の御婦人が沢山出来なければ、其の考へは行はれないと云ふことになって参ります。

[中表紙]

大学部全部の為に
明治四十二年六月十三日

大学部全部の為に
明治四十二年六月十三日

今日は大学部全体及び卒業生全体にも御話しを致すつもりであります。故に時々私の方からお尋ねをすることもありましょ一が、そ一云ふ時には正会員の方からも、そ一云ふ区別なしにお答へになる事を希望致します。今日申す事は寧ろあなた方に御相談をするのであります。此の御相談を具体的に申す為に、私が昨学年の終りから本学年の始業式の日よりも今日迄続いて、其の考へを中心として講義を致したのであります。

夫れで今日申しますのは、理想、或は将来の大計画を発表するのではないのです。つまり是迄立てました計画に愈々着手してはど一であろうか。最早、之を実現する時機に到達したのではあるまいかと考へるのです。猶私は其の時機を確める為にいろいろ尋ねて、あなた方の考へを聞く様に致したらど一かと考へます。此の間から、あなた方の計画を簡短に書いてお出しになる様に申しておきましたが、此のお出しになったものによって、大体の傾きを察知する事が出来ます。今日申すのは、私が多分あなた方に由って行ふ事が出来るであろう一、今日から多分皆さんに由って着手する事が出来るであろう一、つまり、あなた方のお力に相当する所の計画を私がか

りに立てまして、猶皆さん銘々で御研究になったならば、悉くでなくても其の中の或部分は必ず出来るであろうと思ふ事を申します。夫れで其の事柄は解しにくい事でもありませんけれども、其の事柄を以て只一時的の瑣末の事であると云ふよ一に早飲み込みをなさると、私が早くから考へていろいろ計画を立てて申す所の真意が、おわかりになるまいと思ふ。故に深くお考へになる様に。

そして一一つは、只之は一場の話ではない。我々が真に国家の為に各々の責任を感じて、其の感、計画を実行することであるから、余程の研究、努力を要することあります。故に之をど一したならばよかろ一と云ふ事を、よくお考へになる様に。つまり之はあなた方の天職、使命となり、も一層深く進むならば、今日最も深く考へておいでになる銘々の運命に関する問題であります。

今日申すことは何も新しい計画ではないのである。是迄度々理想としてあなた方に御話をし、又度々其の道理を説明して参った事ではありますが、今日は夫れを極具体的にお話をして、私共が今から為すべき事、又私共の力のあるだけの事を、始めかけて見てはど一であろうかと云ふことである。そこで始めにはおわかりにならぬかも知れないが、段々考へを進めて、終りに於て結論をつけるならば、今日は皆さんが其の終りに於て、其の考へがわかって下さる事が出来よ一かと思ふのです。

[大学拡張の要素]

つまり今日申すことは、六回生の終りに於て、私が其の大体を申しました大学拡張の要素を、

- 第一は経済的要素、
- 第二、教育的要素、
- 第三、精神的要素、

と、三つに分けて申しました。先日、本校の教育について申します時に申しました、つまり夫れである。

[拡張要素の内容]

其の内容を分けて、

第一に、経済的方面は、如何に開いて行つたならば其の実行が出来るであろうかと云ふ事を申したい。

第二に、教育的方面、

第三に、精神的方面、と云ふ事を申しますから、其の全体をお聞きになると、よくおわかりになると思ひます。

此の経済的方面が教育にも、国家社会にも、家庭におきましても、精神界の即ち道徳と云ふ立場から見ましても、誠に大切なものであると云ふ。此の経済と云ふ教育、此の傾きが凡ての方面に欠く可らざるものであると云ふ事は、之迄再々申したのである。故に之は、も一おわかりになった事としておくのであります。其の様な教育的価値、道徳的価値と云ふよ一な事は、わかりきったこととしておきまして、其の国家社会にとつての直接なる関係、積極的の関係についてだけは、之は一寸考へておかんければなるまいと思ふ。

[目下の急務は何か]

此の前に、其の国の教育は先づ其の国の必要に應ずる。其の中で、其の国の教育は其の国の目下の危急を救ふと云ふ所

に重きをおかんければならぬ。之が世界列強の傾向である、と云ふ事を申したのであります。今日、我国の危急又其の一番危険であると思ふ点は、何であらうか。又我国前途の運命を開くに、我国民的生命の保存に欠く可らざる目下の急は何であらうかと申すならば、やはり何を以て言ひ表すのが一番適当であるか又一番人にわかり易いかと言へば、つまり経済と云ふ事、即ち商工業にかかつて居る。我国の貿易商工業の勝敗は、今後我国の競争場裏における勝敗を決する所の要である。之が其の難関であると云ふ事は、今日誰も感じて居る事である。私は此一云ふ事を我が国民が少しく意を用ひる為に卒業式の日にて、アメリカが二十年後にはど一なるかと云ふことについて、我が对手国のことを少し申しました。之は隣国の事であるが、我国はど一であるかと云ふと、今後我国が世界の列強と勝敗を決する所の平和的軍備は、茲に少くとも二十五億の新財源を要求して居るのである。其の上に今負ふて居る二十五億と云ふ債務を果さなければならぬ。然らば二十年間にど一かして、此の五十億と云ふ金を生み出す所の働きをしなければならぬ。そ一すると毎年ど一しても、二億五千万と云ふ富みを作り出さなければならぬ。我国の貿易はど一であるかと云ふと、一億以上の輸出〔注：複写された他の綴りの当該箇所には、超過と鉛筆で加筆されている〕は六かしい。否、輸入超過に動もすれば傾いて来ると云ふ有様に居るのである。之に対して、つまり二億五千万と云ふ新財源を開拓する事は、猶我が国に於ては困難である。他国の利益を妨げても、東洋を己の貿易市場としなければ已まない所のアメリカ合衆国はど一かと言へば、彼等は新財源、新殖民、新商業市場を毎年加へつつある。我国の相手国は只アメリカのみではない。英吉利、独乙の如き、皆そ一である。其他侮つて居る支那、露西亜と云へども、決して油断は出来ない。此の平和の軍は、軍艦はつまり富みの力、新財産である。然らばアメリカは今日三千〔注：複写された他の綴りの当該箇所には、億と鉛筆で加筆されている〕噸と云ふ噸数を持って居るとすれば、我国は二百億と云ふ噸数を持って居る。我国は毎年其の危機を脱することが出来ないのである。茲に於て、吾々は此の平和的戦争に見込みがつくであらうか。二十年の間見込みが立たないとするならば、我国はど一なるであらうか。ロシヤの軍艦と我国の軍艦とを比較するならば、到底及びもつかないのである。も一其の時を待つならば如何にしても勝算が立たないので、已むを得ず戦争を開いたのである。其の戦争を開くに當つて、我国民は已むを得ず斯くの如き元気を奮起して、已むを得ず干戈の戦争に勝つたのであります。今日は、ど一であらうか。

〔我国現時の状態〕

我国民は干戈の戦争には実に忠君愛國、犠牲の精神に満ちて、國難に殉じたのである。併し夫れと同じ元気を以て、犠牲の精神を以て、果して此の戦争にも忠勇武烈なる国民であるか。我国現下の実業界は如何であるか。其の國家の軍議に参与する參謀官たる代議士の心状は如何であるか。我国民は干戈の戦ひには実に忠勇、実である。武勇なる国民であるが、平和的戦争には経済的戦争には、実に臆病であり不忠不義である。國の利益、公共の利益を犠牲に供して、我腹を肥やす。

我國の利益を賭して、私欲を逞うする売國奴である。露探の如きものである。其の危機に臨んで猶目を醒す事が出来ない。猶一日の安き食を食つて居る。此一云ふ我国は状態に居るのであります。若し此有様が二十年続くなれば、若し此の敗北を續けて居るならば、此の危急存亡を免れ得るかと云ふことは、誰も少し深く考へたならば感ぜざるを得ないのである。之を思ふたならば、恰も日露戦争に老若男女一致して戦ひました様に、今日も老若男女の區別なく、本校学生が或は寄附金をし、或は包帯を作って、夫れ相当の働きを致しました様に、今日は婦人と雖も立つべき時である。殊に高等教育をお受けになつた、國民たるべき資格を養ふておいでになる、幾らか我国民の指導者たる任を負ふておいでになるあなた方は、如何なる態度を取るべきであらうか、此の状態に何物を貢献すべきであらうかと云ふ事をお考へになるべきではあるまいか。

次に、小國家である我が母校、学生と桜楓會員と云ふ國民を以て出来て居る我国の女子大學は、經濟の方面は如何なる状態に居りますか。國の状態を知らねばならぬと同じ様に、母校の状態をも、あなた方は出来得るだけお知りになる必要があると思ふ。自分は我國の教育の根本を改め、國の元気を養ふには、ど一しても國民が自ら教育に興味を感じる様にならねば、教育は興らない。私は、ど一しても立派なる私立の大學が出来ねばならぬ、殊に女子の高等教育は民間から興らねばならぬ、と考へた。併し其の時には、此計畫は不可能の如く考へられました。此の間、土倉さんも言はれた様に、大阪府知事 内海君は、女子教育の為に十五万円を募ると云ふことは不可能の事である、と言はれ、又今日では最も熱心なる評議員の一人である濫澤男爵も、夫れは六かしい、伊藤公と私とがさかんになって奔走しても、女子教育の為にそ一云ふ大金の集まるものではない、と言はれました。然るに、我國の必要は益々人心を刺激致しまして、又我國の御婦人も案外に向上心が盛んであり、主義に忠実であつた為に、最初我々が予想したよりも好結果を見ることが出来たのであります。そ一して間もなく財団法人となりました。財団法人と言へば、此の中の基本財産も土地も建物も皆、法人の持ち物である。つまり女子教育の為に一致した所の団体である。其の目的の外には、一文たりとも何人も使ふことは出来ぬ。其の時集りました基本財産は五十万円でありましたが、夫れ迄に建物や設備の為に使ひました金高は四十万円、残りの十万円を基本財産として居りましたが、其の後、化学館を建てたり裏の地面を買つたり致しましたが、夫れは皆今日では非常に高いものとなって居るから、此の敷地や建物は今日では七十万円以上であらう。併し熱心なる人々の寄附せられたものは、五十一、二万となって居りましたけれども、大學の程度を高め、設備を完全にし、教授の人選を致しまするについては、ど一しても多くの費用を要するので、斯う云ふ大學が生徒の授業料のみで維持し得るものではない。そこで先づ附屬高等女學校と家政學部とは、ど一にか補助なしでも行かれます。

けれども英文學部は毎年六千円、文學部は五千円、教育部は五千円以上、つまり毎年一万五千円の補助を與へて居ります。高等師範學校はど一かと云ふと、月謝を差引いて毎年

政府から十四万円と云ふ補助を与へて居るのである。此の学校は私立であるから誠に経済的に出来て居りますが、三十幾棟と云ふ建物についての保険料並びに税金を積って見るならば、ど一しても毎年五、六万円を要するのであります。私立学校と言へば、営業的にして居るものもある。けれども此の学校では誰も儲けて居るものはない。皆捧げて居るのである。之を生徒で維持することとすれば、皆さんの月謝を只今の二倍と致しても未だ足りないであります。そこで毎年少くとも五、六万円の補助を要するのですが、現在基本金五万円の利子は僅かに三千円しかない。故にど一しても夫れだけで此の学校を維持することは出来ぬ。夫れで基金を拵へておかねばならぬと云ふことは前からわかつて居りましたが、此の不景気な時に中々出来るものではない。併しど一しても本校の十年祭迄に三十万円の基金を作り出だすと云ふことを、私は過日の評議員会にかけました所が、案外にも評議員方の間に非常なる熱心が現れまして、忽ち其所で寄附せられました。其の高は十一万五千円程出来ました。夫れで是迄の五万円をよせると十六万円ばかりの基金が出来たのであるから、其のあとを他の有志家に謀って、募らねばならぬ。女子大学の十年祭に三十万円と云ふ基金を募ることが出来たならば、夫れは実に例のないことであります。

男子の学校と言へば、慶應義塾はも一五十年祭をやったのである。早稲田は二十五年祭をやったのである。此の女子大学が生れてから、斯くの如き元気が起つたと云ふことは、私は実に国家の為に賀すべき事であると考えます。其の十五万円は何方が出したのであるか。又其のあとの十五万円は如何にしてよせるのであるかと云ふことは申しません。之は十年祭の時に於て御報告を致しますけれども、あなた方は此の小国家の国民であるから、あなた方にだけ、今日の我校の経済的方面は如何になって居るかと云ふことの大体を御報告致しておきます。此のことをお聞きになると同時に、我々国民たるものは如何にすべきであるか、国民としての義務はないものであるかど一かと云ふことも、やはり此の経済的教育からお考へになると、段々おわかりになりますでしょー。将来あなた方は銘々一家を経営なさるのでありますが、人生は常に幸福ではない時には病氣にもかゝり、災難にも出遭ひ、天災にも拘ることがある。若し病氣にかかり、天災に出あひ、其の病人が斃るとか、財産が傾くとか云ふこともある。其の時に當って、一家の主婦たり妻たり母たる、即ちあなたが経営力がなかつたならば、ど一であるか。子供を餓死せしめ、或は無知文盲に終らしめてよいものであるか。

斯くの如き時に於て、幼少なる息子とでも或は自分の瘦腕を動かせてでも、何かを作ることが出来て其の急を救ふことが出来たならば、女であるから働かんでもよいと言はれよーか。又は天災にあひ火難にあふた時に、必要なる家具も、衣服も、書籍も、皆燃えんとして居る場合に、女であるから働かないでもよい、走らないでもよい、男に任せておいたらよい、と言ふことは出来まいと思ふ。然らば婦人と云へども、危急の場合には男子と協同して、少しにても力を合して其の急に應ずると云ふことは、為すべき事である。又世界いづれ

の国でも為したことである。

[我国婦人の義務、責任]

然らば今日国家の急に際して、二十五億の借金を償却する為に、又小国家である我母校の為に深く考へるならば、今日は女と雖も茲に大に覚醒して、我国の財政の為に新財源を開き、新勢力を加へることが能ふならば、此に奮起致して、其の急に赴いて我国の危険を救ふ、其の働きをとらなければならぬと云ふ義務、責任が、我国婦人の双肩にやはりかゝつて居るのではないか。今、そ一云ふ Calling を受けて居るのではあるまいかと考へるのであります。

私は昨年以來深く考へまして、ど一しても男子だけで出来ない所は婦人も之を助け、我国の急に応じ得る所の教育を授けねばならぬと考へる。私が卒業式の時にも申しましたことは、其所に大分意味があるけれども、人には一寸わからない、只抽象的の事の様考へられるかも知れない。けれども私は深重なる考へから申したのである。茲に我国の二千五百万の婦人が同盟して、非常なる勤儉、貯蓄を致しまして、二十一年間に二十五億位の物を積み重ねて、そ一して男子が二十五億の新財源を作り出すことは六かしいことではないけれども、之をするには、ど一しても一致協同の働きによらねばならぬ。

そこで私は、大きな組み合ひを作ると云ふ様なことを計画致しました。けれども夫れを実行するには、ど一しても団体の力によらねばならぬ。そこで今日は、之をあなた方に御相談致すのであります。

真にあなた方の精神を鍛ふと云ふことは、之に由つて出来るのである。夫れで、之をど一云ふ方法に由つて着手するかと云ふことが問題であります。之が即ち大学拡張になり、寮舎生活の改良になるので、之が今後の我国教育の傾きとならねばならぬと、私は信仰して居るのであります。

先ず、第一に、勤儉、貯蓄、英語に言ふ所の Saving をせねばならぬ。勤儉、貯蓄と云ふことは無益に物を消費しないと云ふことと、一方には生産力を作ると云ふこと、即ち積極と消極と両方をしなければならぬ。之は男子はやる事ですけれども、婦人殊に学生は、そ一云ふことは仕ないでもよい、そ一云ふ義務はないかの様に考へるものが多いけれども、ど一しても今日の教育は、そ一云ふ傾きにならねばならぬ。今此の中で貯蓄をして居るものは、立って御覧なさい……

・貯蓄をして居るもの……… 1/10

そ一すると、少し茲に貯蓄の必要を説く必要があると考へる。之は、あなたがなさる決心があるならば、必ず茲に出来る方法があると思ひます。

[貯蓄の必要]

何の為に貯蓄が必要であるか。

第一に、貯蓄することは自然である。此の間から Nature study と云ふことを申しましたが、動物を調べても、植物を調べても、貯蓄と云ふことは自然である。独り金銭を貯へるのみではなく、我々の品性も貯蓄であり、能力も貯蓄である。そこで力が出来て来るのであります。夫れが出来なければ力を養ふ、富みを作る、境遇を開拓すると云ふことも出来ぬ。其の時に拵へたものを後の用に備へよと云ふ考へ、夫れが

あるから始めて歴史があり、風俗習慣も出来るのであります。一番近い例は蜜蜂で、花のある時は一生懸命に自分の食物を集めますが、夫れと同時に冬の花のない時の為に貯蓄をする。蟻も其の通りで、之は自然であり、万有の Nature であります。

[第二]
第二に、貯蓄は他日の用途に備へる計りではなく、他日の危難、災害から免れる所の方法である。国家で言へば、戦争の如きこともある。之をやらなければ、そ一云ふ場合に独立を失ふたり、生命を亡ぼしたりしなければならぬのである。

[第三]
第三には、之に由って吾人の物質的境遇を豊かにすることが出来る。即ち家庭を拵へ、道路を修繕し、機械を改良し、電信、汽車を架設すると云ふ様な、必要機関を備へる。其の機関に由って、我々が非常に精力を増加することが出来る。そ一云ふことの為に先づ勉めねばならぬことは、此の貯蓄であります。

[第四]
第四、精神的境遇の開拓。即ち教育を受け、修養を積む上に必要である。昔から言ふ様に、衣食足って礼節を知る。衣食足って始めて修養が出来るのである。文明は即ち貯蓄の結果である。

[第五]
第五、貯蓄は進歩の基礎である。第一に之に由って人生の便宜を増し、幸福を加へることが出来る。第二に之に由って人類の境遇を改善することが出来る。我々の作った家は古び、発明した機械はすたれて、益々新らしき機械、新しき方法、新しき建築をする。夫れに応ずる事は、只此の貯蓄の結果である。独り個人の境遇を進めるのみならず、之に由って国家、社会の境遇を改善し、其の安寧を加へることが出来るのである。詞を換へて言へば、國家の富みは個人の貯蓄に由って出来るものである。故に國の借金をなくするには、個人の貯蓄、銘々の働きによるの外、道はない。

[Time is money]
夫れから貯蓄と云ふことは独り金と云ふことではなく、其の他のことをも皆意味するのである。たとへば、時の儉約と云ふことがある。如何となれば、時は金に化することが出来る。故に西洋では、Time is money と云ふ詞がある。故に時を無量に費すことは、金を浪費するのと同じことである。其の他、知力にも能力にも精神力にも、よく貯蓄すると云ふことと浪費すると云ふことがあります。併し又一方には、似て非なる所の貯蓄がある。之は、教育のない國民の陥り易い弊である。故に其所はよく用心をしなければならぬ。夫れは、Over work で過勞は宜しくない。又節すれば宜しいけれども、節し過ぎるのは宜しくない。之は却って Waste である。貯蓄と云ふことは無益に費さないことであるが、夫れと同時に有益に費すと云ふことが富みである。經濟の目的、貯蓄の目的は消費に在る。使はねば何もいらないのであるけれども、よく消費するのである。併し又、よく養ひ、よく用ひ、よく着ると云ふても、養ひ過ぎる、眠り過ぎる、着過ぎると云ふことは、やはり健康を害し、華美に流れて贅沢になるのである。

御婦人は消費、經濟を掌るのであるが、夫れについては後で申します。けれども茲に猶一言御注意しておかねばならぬことは、浪費と云ふことである。御婦人は時間を浪費し、健康を浪費することがある。其の次に徳を浪費し、食物を浪費し、裝飾を浪費し、薪炭、瓦斯、水等を浪費することが多い。貯蓄と云ふことは此の浪費を防がねばなりません。あなた方は比較的に浪費を防いでおいでになるけれども、あなた方の日常生活について言ふならば、僅かの不注意の為に沢山の浪費となる事があります。之は、貯蓄と云ふ事について必要なことだけ申しましたが、猶其の他に申さねばならぬことが沢山あります。

今一寸聞きますが、我國の現状、母校の實際からいろいろ道理を申して、婦人と云へども、やはり經濟的品性を養はねばならぬ、ど一しても貯蓄の習慣を養ふて、出来るだけの力を加へねばならぬと云ふことに信仰のおける者は………全体

然らば、其の方法になつて来ますが、之には二つある。時なり金なり出来るだけ省くと云ふことと、今一つは、一寸遊んで居れば無益になる時間を、教育の為に修養の為に必要なことをすると云ふことと、両方あります。例へば、日に一錢貯蓄するならば、一年に三円六十錢、二年の後には七円二十錢となるのである。本校の學生一千人と桜楓會員一千人、合せて二千人が毎日一錢づつ貯蓄するならば、二年の後には一万二千元となるのであります。夫れで金は一錢から始め、時は一分から貯蓄せねばならぬ。茲に於て、団体の必要が起るのであります。そこで桜楓會で貯蓄銀行を起して、大學擴張の一要素としたいと云ふ考へもあるのであります。

[中表紙]

高女修身講話會にての御話
明治四十二年六月十四日

明治四十二年六月十四日
修身講話會にて

本學年の始めに當つて、あなた方全体自分でお考へになつて、此の學年一年間の大体の目的、及び其の目的を達する為めに計画をお立てになりました。其の事を覚えて居るお方は？夫れは何でありましたか。

- ・善と知つたら行へると云ふ事でありました。
- ・知ると行ふとは、どつちが大切ですか。
- ・両方とも大切であります。

知	行
印象	発表
Impression	Expression
理想	自動
Ideal	實現

[印象]

印象には二つある。其の一つを試験的、又鸚鵡の学問と言ふのである。けれども斯う云ふ仕方は直ぐ消えてしまうから、皆さんは深く印象して、必ず行ひになり、品性になり、人格になる様にしなければなりません。そこで学問をするには自分から興味を持って、深く心に感じてしなければならぬ。夫れで此の印象とは行ふとか、実物を見せるとか、深き感動を以て行ふとか云ふことを意味するのである。故に一旦此の印象をするときは、も一磨滅すると云ふことはないであります。

発表と云ふことを知って居る人は…………

・外に表すと云ふこと。

内に動くところがあれば、必ず外に表はす、行に由って表はすのであります。

[本校の主義]

本校の主義は、規則で仕方なく従ふ、先生の命令であるから父母の言ひつけであるから嫌であるけれどもする、と云ふよ一なことは違ひます。そ一云ふよ一なのは他動とか受動とか言ふべきものであるが、本校の主義は自動である。故に皆さんは喜んで真面目に事を自らするのである。そこで善と知らば行へと云ふことも、あなた方自らが自動的になさるのである。其の善は即ち心にある、即ち考への中にある善である。若しも考への中に善があったならば、よい想像を描いて居ったならば、よい事を仕様と憶がれて居ったならば、必ず夫れを行ふて来る。夫れから品性となり人格となって来る。夫れで立派なる人になる一と思ふならば、よい理想を持って居なければならぬ。夫れであるから、善くなる一と思へば頭をよくしなければならぬ。考へをよくしなければならぬ。考への習慣をよくして居ったなら、必ず善い人になれる。故に悪い想像を起すよ一な本は読んでならぬ。悪い事を見てはならぬ。聞いてはならぬ。私共は何時ともよい考へ、よい想像を持って居らねばならぬ。

其の習慣を持って居る人は………… 多

未だど一も時々つまらぬ考へが起つたり、よくない想像に馳せる者は………… 多

夫れでは、其の習慣をお改めになることが必要であります。

学問をするのは其の為めである。或る可く誠を考へることの出来るよ一に、又高尚なる趣味を養ふことの出来る為めに学問する。夫れが誠に大切であります。あなた方が此の学年の始めに、善と知らば行へと云ふ標準をお立てになった。そ一して此の学期も終りに近付きましたから、夫れは実行せられたかど一かをきく為めに、私はいろいろ申して居るのである。

未だ充分ではない、いろいろ足らぬ処があるけれども、先づ、その習慣だけは出来たと思ふものは…………

未だ出来ないと思ふものは………… 多

[Punctuality]

此の間、父母の会を致しまして、其の時には少し前から支度をなさって、出来る文厚意を以て父母やら姉さん方をお迎へになった。其の時に、一、二の方から少し聞いたことがご

ざりますので、之れについてあなた方は實際ど一感じておいでになるか、聞いて見たいと思ひます。

之れは我国の道徳には欠けて居るが、英吉利とか亜米利加とか独逸とか仏蘭西とか云ふ文明國に行くと、そ一云ふことは非常に盛んに行はれて居ります。夫れは英語で言ふと、Punctuality。此の詞の意味のわかつて居る人は…………

時間を違へないこと。

之れは時間を守ること、約束を違へないこと、又凡て物事をきちやうめんにすることでありませう。外国では之れが非常によく守られて、人と集まる時などには五分前には必ず揃ふのである。時には此の学校のよ一に鐘を鳴らす処もあるけれども、多くは鳴らさないのです。けれども先生がおいでになつて事を始める時に、遅刻するものは一人もありません。そ一して時が来ると、ぱつと散る。こ一云ふ事を Punctuality と申します。

学校の時を間違へない者は…………

内へきまり通りの時間に帰る者は…………

帰られない理由は…………

・会のある時。

会のある時は帰られないが、会のない時にはきまり通りに帰ります、と言はれるものは…………

之れは私の聞いた苦情の一つであります。も一一つは、裁縫がお母さんのお望みになる程出来ないと云ふこと。之は如何でしょ一。裁縫は他の学科のよ一に出来ない、自分は下手であると思ふ者。

好んでするもの。好まないもの。

体操は…………

台所の事は…………

之れ迄、印象と発表と云ふことを申したのは其の為めである。私共が一度印象として受けたことは、必ず行はねばならぬ。何か身体の仕事に表はさねばならぬ。是迄の教育には、頭で物を考へる、物を知ると云ふことに重きをおきましたけれども、今日では活動に重きをおく。殊に手の働きを教育しなければならぬ。

教育と云ふ方から言つても、裁縫をすること、体操をすること、料理をすると云ふよ一なことは、なくてはならぬ。又あなた方御婦人の実用と云ふことから考へても、いろいろ芸術の教育を受けておくことが必要であります。必要であるならば、善であります。善であると知つたら、行はねばならぬ。行はねばならぬと知つたら、皆熱心にすべき筈であると思ふ。ど一も今聞くと、裁縫が上手でないよ一である。そ一して Punctuality と云ふこと、之れが中々六かしいのである。

Punctuality と云ふことは、只時間通りに宅へ届くと云ふこと計りではない。お母さんから何かお言ひ付けになったなら、丁度其の時に遅れないよ一にすると云ふことも大切であります。夫れならば、此の裁縫ももつと上手になつて、時を違へないよ一に出来ると決心の出来たものは…………

然らば、夫れは如何にすれば出来るでしょ一か。

・忠実と熱心、我儘を去り、時を無益にせぬこと。精一杯にすること。健康に注意すること。努力すること。

今皆さんが仰ったことをすっかり実行するならば、必ず上手になることが出来るであろうと思ふ。私は今朝一寸、どの組であったか裁縫の時間に見に参りましたが、あゝ云ふ仕方では、ど一も上手にはなれまいと思ふ。

昨日私は或名高い画家の仕事を見て参りましたが、一口に言へば、其の人は一生懸命である。そ一申すと皆さんは、夫れは其の人の天職であるから、と仰るでしよ。併しあなたが裁縫をすべきものときまったなら、夫れは我々のつとめである、本務である。私共本務に向つたならば、全力を注いでMy bestを尽すと云ふ熱心なる態度を以てしなければ、進まれるものではありません。私は、ど一も裁縫が思ふよ一に出来ないと思ふ人は、も一一つ熱心にすることが足りない、も一一つ集注力が足りないと思ふことに基因するのではあるまいかと考へます。

又此頃こ一云ふ説がある。其の裁縫が下手であり、常識が乏しいと云ふのは、学問をするからである。故に成る可く学問はそこそこにしておいて、裁縫学校に行くとか技芸ばかりを習ふがよいと、そ一云ふ傾きがある。其の原因は二つあります。

一つは、今日の学問の弊で、試験学問、鸚鵡的学問の弊を言ったものである。も一一つは今年の文部大臣の演説の詞が誤解せられたと云ふこともあり、幾分か偏見もあつたのである。けれども、之れは大きな間違ひであります。我々の知る処、経験したことによれば、小学校で終つた人は夫れだけの事が出来、女学校は女学校だけに、又大学教育を受けた人は其以上の事が出来て、学問をした人程何事もよく出来る。裁縫もよく出来るのである。夫れを知らずして、女に高等な教育は不必要であると言ふのは偏見であります。一番教育の真髓は物をする事、成る事である。故に教育は大切である。さて教育に必要な事は境遇であるから、教育は人間になることの出来る処の境遇と与へるのである。

大きい人間になる人と小さい人間になる人と、完全なる人格になる人と誠につまらない人間になるのとは、其の人の教育に由るのであります。

[Plasticity]

夫れであるから、人間と云ふものは限りなく育つことが出来るのです。之れに由つて文明人と野蛮人ととの区別を生ずるのである。Plasticity、之れは可塑性、即ち其の物を拵へ上げることの出来る性質であります。人間で言へば、教育期である。其の時期の少しもないものは、下等動物である。例へば魚で言へば、鯛の大きいのと小さいのとは形こそ違ふけれども、小さい鯛でも大きな親と同じよ一に、餌を取つたり泳いだりすることが出来るのみならず、其の身体の各部も全然同じことで、只だ大小と云ふ違ひのあるばかりである。けれども人間は小供の時には何も出来ない。併し大きくなるに従つて、二十五迄は教育に由つて進むことが出来、猶ほ其の上にも教育に由つて、其の時機を何時迄も延ばすことが出来る。之れを忘れてはなりません。之れに由つて文明人と野蛮人と、人間の大小との区別を生じ、従つて自分の将来の運命もわかれて来るのであります。あなた方が将来、或は美術家にな

り、或は文学者になり、或は賢母になり良妻になつても、此の道理を解して、限りなくお進みになることが必要であります。夫れがわからずに、余り教育はいらないと云ふのは、之れは野蛮時代の信仰であつて、大に根本が間違つて居るのであります。故にあなた方は益々お進みにならねばならぬ。

も一一事だけ、聞いて見たい。皆さんが整理と云ふことについて、段々骨をお折りになつたのであるが、整理の中でも遺失物を減ずることが出来ましてしよ一か……

・数に於ては、前と余り変りませぬ。

未だ時々置き忘れることのあるものは……

わるい癖を只のけることの出来るものではない。ど一しても善い習慣を加へることが必要である。夫れで、も一少し工夫をして軽便に持つてあるくことと、も一一つは、置き所をきめる、物のきまりをつけると思ふ習慣を養はねばなりません。置き所をきめて、必ず夫れを守ると云ふ習慣の出来たものは……

其の習慣を作りましょ一と云ふ決心の出来たものは……
……多数

[良知]

も一一つ大切な事がある。今皆さんは知が大切であると仰つたのですが、其の知の上に良と云ふ詞を添へて、良知と言ふと、之れは王陽明の言つた詞で、知と云ふ中でも一番大切な知と云ふ意味であるが、之れは何でありましょ一か。

之れを私は、皆さんに出来るだけおわかりになるよ一に、深く印象しておきたいと考へましたが、も一四時十分前になりますので、やはりPunctualityでなければならぬから、今日は成るべく早くお帰りになることと致して、之は宿題として上げておきますから、銘々として又は組として、調べらるゝ限り研究なさることを希望致します。

[中表紙]

桜楓会准会員例会の御話
明治四十二年六月十六日

明治四十二年六月十六日
准会員例会の御話

只今皆さんから、いろいろ御感じをお述べになりました事を一とまとめにして、一寸申し上げて見たいと思ひます。今日あなた方はあなた方の責任を感じ、又桜楓会の前途を思ひ、深い感じに打たれて居らるゝやうでありますから、私は、時間が来ましたから極簡短に申し上げたいと思ひます。

昨日一人の評議員を尋ねました処が、花紅葉の会報について御話でしたが、段々と桜楓会も発展し、余程会報の内容も整ひ、又団体的の働きの進歩は他に類がない程発達しつゝあることは、誠に國家の爲めにも女子の爲めにも喜ばしいことであると申され、又外に二人の方が、今後國家、社會を進めて行くのも亦女子教育の発展も凡て桜楓会であると、

強く桜楓会に信頼をして居ると申されました。

[団体力]

又私も本校を創立するときにも、とてとても一個人の力では立てることが出来ない。ど一しても団体の力に依って立てられるのである。又今後、女子大学の限りなく発展する本は、日夜苦心して永久に育てんとする桜楓会の力である。実に女子大学の発展のもと、桜楓会であると思ひます。故に桜楓会の発達には、本校の前途を思ひ我國の現状を考へても、日夜忘るゝことが出来ないのである。

それでど一しても此の精神を育て、是れを培養して、限りなく発達したいと日夜苦心をして居ります。

[七回生の責任]

今皆さんが桜楓会の准会員となつて、桜楓会の一部を組織して居りますが、其の關係は何処にあるかと思ひますと、今日我國の現状を思ひ本校の前途を考へますと、今七回生は本校の永い間苦心して居った真の實を結ばんとする、其の實の形を作ると云ふのが、第七回生の責任ではないか。實の熟し結ぶのは十年期とは思ふけれども、七回生は實の形を作り、又根を今一層深く下す時ではないか。又七回生は此処に尽さなければならぬと思ふのである。

又今日桜楓会が如何なる時期に接して居るかと言へば、此の間私は極寒の時候に譬へて申しましたが、実に外の嵐が烈しい時で、実に妨げの多い時であると思ふのである。

実に我々を常に妨げる抵抗力、又我々を苦める敵は多いのである。又我々を迷はし、我々を恐れしめる悪魔は実に多いのである。私は三十年間一日たりとも安き日とはなかつた。殊に七回生は其の反抗の烈しいときである。然し今皆さんが此の烈しい敵のあることを知り、此の敵と戦ひ、此の極寒の苦みに堪へる決心をして居るよ一で、実に喜ばしいのである。やはり茲に桜楓会の精神があり、光が輝いて居るのである。然し今後はなかなか困難があるのである。此の困難は独り我等のみならず、我國又世界各国にも精神的種々なる戦ひがあり、困難、暴敵があるのである。

それで折角育てんとする桜楓樹も、暴風の爲めに倒れて了うかもしれぬのである。又吹き倒される感もないでもないのである。故に今後共に永久発達する命を得んとするには、如何なる極寒にも、如何なる嵐、如何なる気候にも、堪へ得る充分なる力を養はねばならぬのである。此の力を如何なる処で養ふかと言へば、即ち根を養ふ、深く健全なる根を養はねばならぬのである。根が深くなり強くなれば、地から養分を吸収し、又如何なる嵐にも堪へ得られ、発達することが出来るのである。故に七回生の Mission は、根を猶一層深く強く養ふ処にあるのである。

根とは何？ 根を養ふとは如何にすべき？ 之れは第六回生の終りに委しく申しましたし、又此度発刊されたる会報に少しの意味が顯はれて居りますから、大体おわかりのことと思ひますが、根を養ふとは各々の精神を養ふ、即ち各々の命を養ふのである。桜楓会の精神は各々の力にあるのである。

[内に求めよ]

今後全体が大に力を入れなければならぬと思ふことは、

各々の内の力を養ふ処にあると思ひます。つまり我々は外部に求めず、己の内に求める。即ち我々の頼るものは父母兄弟でなく、友人でなく、多数の人の評判でもない。又人に知られ、人に助けられ、人に愛せられ、又人に保護せられるでもない。又我々の財産でもなく、金でもない。我々の真の力は我々の中にあるのである。若し我々が病人となり、死に至り、また逆境に立つに至つた時にも、頼るものは外でない。皆我々の内にあるのである。

[愛は我等の中に在り]

如何なる嵐にも如何なる困難にも堪へて発達する永久の命、即ち God と云ふ神、至善、即ち我々の永久不朽の命と一致した我々の中にある深い力である。即ち誠である。我々の内には至誠があり、善があるのである。愛は我等の中に在り、実に此の深い精神の力である。又我々の困難と戦ふ力、恐れと争ふ力は内にあるのである。然し我々が日夜育てんとするものを妨ぐる敵も、亦内にあるのである。我々の苦みも、我々の敵も皆内にあり、我々の進歩を妨ぐるものは無知、即ち Ignorant である。Selfish、利己である。悪である。悪は暗きである。暗きは夜である。夜は光りが無い。我々の暗きは我々の心に、善なく真なく美なきことである。

故に我々の恐れ、我々の苦しみ、我々の敵も我々の中にあり、又永久不朽の力も我々の内にあるのである。

故に全体が此の力を養ふのは、自ら桜楓会を思ふ。即ち此の深き不朽の力を養ふのは、団体を思ふ心である。此の力は一致協同に由つて得らるゝのである。

殊に今年桜楓会が養はなければならぬ力は交感神経である。即ち有機的關係をよくし、一致協力して、全体心に満ちた処の精神を作らねばならぬのである。七回生の一 Mission は茲にあるのである。之が精神的方面であるが、もっと七回生は知力、実力、即ち研究力を一層深く養はねばならぬのである。又七回生は實を結ばなければならぬのである。其の實は実に我々個人の努力である。故に之れから此の美しき団体的の努力活動を始め、而して実行をし、實を結ばなければならぬのである。之れが七回生の使命であるのである。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十二年六月二十日

大学部全部の爲に
明治四十二年六月二十日

此の前に經濟的要素を申しかけて、其の貯蓄の必要、並びに其の習慣の養成の法を言ひまして、其の消極の方、つまり浪費を省く、即ち勤儉と云ふ事を一寸申しかけたのでありますが、其の貯蓄と云ふも一つの積極的方面を申しまして、之を如何に學校生活に應用せねばならぬかと云ふことを申したい。

貯蓄と言へば人間の Art であって、之を働きとも言へば人間の労働とも言ふ。其の習慣を養ふ為に、此の働きの教育的価値について既に前回に度々申しましたから、其の真意が皆さんにおわかりになったと思ひます。

第二、道徳的価値、即ち精神的価値、之は少し問題でありましょ。故に一言、之について説明しておく必要があろ一と思ふ。如何となれば旧道徳は、生産の目的を以て働くこと云ふ事は道徳的理想に反して居るものである。旧道徳では、生産の目的を以て労働する事は尊くない事である、理想に反するものであると考へました。之は東洋のみならず、孰れの国でも其の階段を通して来たのであります。如何となれば、労働と云ふ事は婦人と奴隷のすることでありました。人間の価値を持って居る学者、哲学者、貴族、或は僧侶と云ふ如き者は、労働をするのは非常なる恥辱と云ふ考へがあつたのである。独り野蛮、或は未開の時代のみならず、欧米の中世紀時代におきましても猶、労働を賤しき業として居つたのであります。中世紀の道徳は、財産を作ると云ふことと夫れから結婚をすると云ふこととは、当時の道徳の標準に背いたものでありますけれども、之は人間の弱点、罪の結果として止むを得ず存在することであります。賤しい人、徳の低い人間が止むを得ず罪の結果としてすることと考へて居りました。併し今日の道徳では全く趣きを異に致しまして、此の前にも申しした様に、今日は Industrial age と名づけて居る工業的時代。即ち労働は神聖なり、労働は実に有徳の本源であり、又教育の真髓であると云ふ様になつて参りました。

[Ruskin 曰く]

労働の価値につきまして、文豪 Ruskin が言った詞を御参考の為に一寸ひいて見ますならば、

There is a working class—strong and happy among both rich and poor. There is an idle class—weak, wicked and miserable among rich and poor.

金持ちの間にも貧乏人の間にも、労働をする階級と名づける丈夫にして且つ幸福なる者がある。之に反して又、金持ちの間にも貧乏人の間にも、なまけ者と名づける遊惰的階級がある。夫れは弱く悪なる且つ悲惨なる者である。故に働くこと云ふことは強く幸福なる階級であり、なまけ者は弱く悪く且つ悲惨なる階級を来たすのである。之は長い間人類が経験をしました所の確實なる事実である、と言ふ事が出来ると思ふのであります。

[第三]

第三には経済的価値であります、之は説き明かしをする迄もないことである。然らば此の労働する、働くこと云ふ習慣は、労働即ち働きの習慣を養ふて、懶惰なる悪癖を除く事は人間修養の上に大切な事である。労働と云ふことは只人間身体の筋肉を養ふのみならず、神靈の手腕、精神的労働も其の内に在るのである。否、其の筋肉的労働と精神的とは常に離る可らざるもので、必ず伴ふべきものである。故に此の筋肉的労働と云ふものは、我々の修養に最も大切なものであります。そこで今日、此の前に申しした半面であります所の、働きを始める、労働の習慣を始めると云ふことは、貯蓄、勤

儉、浪費を省くと云ふ習慣を子供の時から養はんければならぬ様に、此の労働の習慣は学校教育と同時に、成るべく幼少の時から始めて行かんければならぬものである。今日は独り経済的価値の為に言ふのではない。先づ根本は、教育的価値、精神的価値から申して、之が大切であると云ふことを私は始めから申しておくのである。

次に其の方法を申す前に、あなた方の此の労働に対する態度を確定しておく事が必要である。

第一は、今日から今より之を始めると云ふことである。明日或は卒業後と云ふ将来に之を延ばすことなく、今より之を始めるには奮闘、努力を要するのである。如何なる仕事といへども、始から骨折れぬものはない。

然らば此の労働の習慣を養ふには今日から決心をして、此の尊い品性を養ふ為には如何なる労をも辞せぬ、と云ふ決心をすることが大切であります。

[第二]

第二には、熱心と云ふこと、英語で言ふ Enthusiasm、夫れから Jealous と云ふことは嫉妬と云ふことである。之は親が子を教育する時に、或は我が大切なる者を保護する時に起るもので、此一云ふ熱情も亦必要である。

[第三]

第三には、労働に対しては終生変らないと云ふ態度であります。

[Gladstone 曰く]

彼の名高い Gladstone の標語には “Never be do nothing” と云ふことがある。之は我々が生涯忘れてはならぬ主義である。此の主義を持たぬ者は成功を望むことは出来ぬ。物を仕遂げること、又強固なる性格を養ふと云ふことは出来ないものである。

次に之を学校生活或は大学生活におきまして、如何なる方法を以て日常生活の上に之を實行する事が出来るかと云ふことである。之は極身体的な事ではあるが、中々に複雑な關係になつて居りますから、よく皆さんがお考へになり、猶深く御研究になることが必要であります。私は、時間が少ないから極要領を申すのである。あなた方が御計画をお立てになる所のお考へを暗示するつもりでありますから、其の真意をおとりになる様に願ひたい。

其の目的は今言ふた様に、やはり三つある。道徳的価値、教育的価値、経済的価値を発揮する為であるから、其の考へは何時も持って居らねばならぬ。つまり此の三要素を養ふ為に、猶桜楓会の三部の働きをよく Organize して調和、統一して行く為に、いろいろなる關係を其所に有して、之を計画して行きたいものであると思ふのです。

そこで極簡短に言へば、仕事をも一つ始めるのである。是れ迄は其の仕事始めるに、即ち此の Manual training、即ち手工とか裁縫とか或は彫刻とか云ふ様な必要なる技術を授くる為に、茲に殊更に時間を設けて居りました。又夫れをするに、自分なり学校なりから必要なる材料を供給して居りました。併し私の今の計画によれば、夫れをすっかりやめるのではないが、も少し其の結果を有効にしよ一と思ふ。此の

間も申した様に、時は財産なり。如何となれば、時は財産に
変ずることが出来る。故に、時を浪費するのは財産を浪費す
ると云ふことと同一である、と云ふことを申したのであります。
本校に於ては、時を浪費すると云ふことは宜敷ないと考
へて謹んで居りますが、未だあなたの時に二分や三分は無益
になって居ると思ふ。夫れを二倍か三倍か有益に使ふことが
出来るであろうと思ふ。例を挙げれば、夕飯後、箸を下すや
否や直ぐ様読書をするとか、六かしいことを考へるとか、又
は直ぐ様労働をするのは宜しくない。故に少くとも食後三十
分は、最も愉快に又有益に使ふことが必要である。例へば音
楽に堪能なる人があるならば、面白い音楽を奏して、皆に聞
かせると云ふことも宜しかろう。併し音楽を聞くにしても、
只聞いて居るのは手持無沙汰である。故に之を聞きながら何
か有益なことをしたなら、最も有益であろう。又寮舎の会を
なさる、そ—して人を待ち合せると云ふ様な時、又は脚氣の
気味等あつて激しい労働はせられないと云ふ様な時に、何か
適当な仕事をするならば之亦面白いことでありましょ—。然
らばと云つて、或は造花をしよ—、縫物をしよ—と云つた所
で、其の材料にも亦一寸困るのである。そこで私の考へでは、
つまり今後我国婦人の副業を起して行くにも、労働を進めて
行くにも、亦貯蓄の習慣を養ふにも、ど—したらよいかと云
ふと、之は組合組織によるの外はない。畑を作るにも牛を一
匹飼ふても、一つの大きな組合となつて、其の一部分一部分
をよくして、そ—して全体の目的を達しよ—と云ふのである。
そこで私の考へでは、此の学校生活と云ふものが幾つかの寮
舎となり、其の間には各係があり、夫れがよつて一つの村と
なつて居る。之を一つの社会と見做し、小国家と見て、其の
間に組合組織を持つて行ふて見たならば、之はやがて世間に
応用することの出来る土台となるのである。そ—申すならば
あなた方は、先年我校で致しました所の Bazar の時の様にす
ればど—かと云ふお考へがあるかも知れぬ。けれども私の考
へでは、成る程夫れに似た所もあるけれども、Bazar の如く
する時は夫れが—時的になるから、今我々が計画して居る所
の目的を達することが出来ぬ。故に今ここで私が申すことは、
慈善の如き目的を以てしても構わないけれども、一体から言
へば貯蓄の習慣を養ふとか又自分の学資を作るとか、或は國
家の為に捧げるとか云ふ目的を以てしてもよい。否、此の三
つの目的は何時もあるべきことと思ふ。只自分の為にのみす
る時は吝嗇に陥り、只公共の為と云ふ事のみを思ふてする時
には独立と云ふことを失ひ易いからであります。

[五回生の起業]

五回生がお始めになることも、つまりは婦人の副業と云ふ
ことを興さんが為であります。夫れは先づ會員が幾らかの
基金を出して、華主は此の学校を目あてとして、実業部の注
文に応じて需要品を作ると云ふ計画であるらしい。夫れも宜
しいが、我々の仕事は世間一般の需要にも応ずる、又外國の
市場にもはかすと云ふ計画を立てねば、大きく出来ないの
である。さて之をするには其の計画を立てる人がなければなら
ぬ。之は五回生がなさる、夫れでも宜しい。又桜楓会がなさ
つても宜しいのである。例へば私は洗濯を覚えておきたい、

裁縫をしたいと云ふ人があるならば、そ—云ふ人達の所へ夫
れ夫れの仕事を纏めて渡すのである。こ—云ふ Organization
が出来ない為、我國婦人の仕事は誠に手間がとれては、力
が行かないのである。私はど—かして、そ—云ふ習慣を養ひ
たいと思ふのであります。夫れをすることに由つて、銘々を
教育することも出来、其の仕事覚えて銘々が金を儲けるこ
とも出来るのであります。此の間、私は日に一錢の儉約をす
ることが出来ないかと申しましたが、日に一錢の儉約をする
上に、又日に一錢の働きをしたならば、5000 人かかつて夫れ
をすると、二年の間に七万幾千円と云ふ金を拵へることが
できるのである。夫れに利がつくと五千人の間に幾らの金が出
来るかと云ふことも、亦想像せらるるのであります。私の計
画には、桜楓会で言ふならば家庭部、学部で言へば家政部
の方であつた方の研究なさつた子供の衣服、或は改良した機械
と云ふ様なもの、その他化粧品、歯磨などを売り広めて行く
ならば家庭改良の実行になり、又同時に経済と云ふことも、
そこで段々伴つて来るのであります。

教育部の二部で申すならば、動物や植物を研究なさる、夫
れを応用して、ど—したならば鶏をよく養ひ立てることが出
来るか、蜂蜜は如何にすればよいものが出るか、その他園
芸、牧畜のことにしても、此の間 Burbank の事を申ししま
したが、之は外國のみではない。我國でも出来ることである。
学校には是だけの華主があり、之だけの地面がある。よく使
ふならば出来ない事ではない。

又教育部の一部は其の牧畜、農芸に必要な所の機械の発
明、帳簿の整理、計算の方法等を研究するならば、夫れに由
つて自活も出来、世の中をも益する事が出来るのである。其
の他最も需要の多いものは玩具であるが、此の玩具の Design
が (空 白)
出来、夫れを製造するならば確に需要もあり、其の仕事も発
展するのでありましょ—。

[文学部]

然らば文学部はど—云ふ仕事をしたならばよかろうかと云
ふ問題である。此の文学部の仕事は多くは精神的労働であり
ます。故に平均を取る為めには筋肉的労働、即ち何かの手工
をなさることが必要である。之れに最も必要なるものは彫刻
とか絵画とか、最も高尚なる趣味を表はす処の労働をなさ
つてもよいのです。

[Mental labor]

けれども文学部としての特徴を申すならば、夫れは Mental
labor である。筆で書き、口で話すことは、之れは Labor で
ないと思つて居る人が多いけれども、決してそ—でない。筆
で書き、口で話すと云ふことは、非常なる Labor である。即
ち構成するとか発表するとか云ふことは、大に脳力の労働で
ある。夫れで今後は、此の Mental labor の価値は益々顕れて
来るのであります。

外國に於ては之の必要を認めて、其の方面に着手されて
居りますが、我國でもやはり其の必要が非常に盛んになつて
来るのである。今度、家庭と家庭週報を共に合せたことも夫
れである。今後婦人の為すべき事は家庭に健全なる読物を入

れて行くこと、健全な少年文学、お伽譚又は趣味ある雑誌を作ると云ふよ一な事が、最も必要であると思ふ。此の精神的労働をお取りになることが特に文学部の本務である。恰も裁縫や編み物を課して夫れが幾らか生産となるよ一に、文学部の方で精神的労働をなさって、夫れを幾らか生産的のものとすることが出来る処の方法がないではない。

[英文学部]

殊に英文学部の方は翻訳である。翻訳などは余程力がなければ出来ぬ。夫れを直ちに一頁幾らと云ふ約束をしてすれよ一いことです。

[社会部]

又社会部は、商業部に於てそ一云ふ計画をなさって、実行に着手すること。

[教育部]

教育部は又、之れを如何にすれば丁度教育の目的に適合して行くことが出来るか。之れが即ち学校と家庭及び社会との連絡ともなるのであります。

之れは一時の思ひ付きでなく、長い間研究も致し、世界の大勢をも参酌致して、今後かうならねばなるまいと云ふことを私が考へて申すのでありますが、先づ之れを手近い学校の内から始めて行くならば、つまり組合組織と云ふよ一な Movement を起こすことが出来るかと思ひますが、其の根本の目的は我々の教育の目的を全うすると同時に、我々の経済的品性を確立すると云ふことが大切である。其の方法として、今申したよ一な組織によって貯蓄と云ふ習慣を養はうと云ふのであるが、之れを又本校の十年祭迄には三十万円の基金を作る為とか又は団体に捧げる為とかと云ふのではなく、其の品性を作る為めに、茲に組織ある団体となつて、そ一云ふ仕事を始めて行くこ一ではないかと云ふ御相談であります。

- ・大体の意味の取れたお方は…………… 全体
- ・斯くの如き計画は出来能はぬことではあるまいと思ふ者は…………… 全体

[教育的要素]

第二段は、教育的要素である。即ち大学拡張運動の第二の要素、即ち教育的要素を申すのである。之れも中々関係が広いのであるから、僅なる時間に其の考へを発表するのは困難であります。けれども、ずっと以前から本校の教育主義に就いては、大体は皆さんにおわかりであろうと思ふ。我国教育の危機であると云ふことも、多分皆さんお感じであろうと考へます。

[新要素]

然らば如何に改善し得るかと言へば、大問題である。恰も我国維新前に封建制度を以て根を固めたよ一に、我国教育にも四十年來養ひ來つた痼疾がある。之は國家の柱石とも言ふよ一な政治家でも、同感であると思ふのです。又今後の教育が是れ迄のよ一な只学校教育のみを以て出来るものではないと云ふことも問題ではありません。然らば如何にしたならば有効なる改善を加へて行くことが出来るのであるか。又一方には我国教育の欠けて居る処をど一すれば補ふことが出来るか。之れに答へるに、私は最早他に方法はないのである。

只新要素を投入する。人種改良にしても植物改良にしても、皆此方法より外はないのである。最早や我国の教育は学校教育、即ち教室内の教育のみでは出来ない事になりました。之れは独り我国の大勢のみではない。欧米各国皆然りである。

[社会教育]

大きく言へば、家庭の教育、社会の教育、つまり教室以外の教育である。之れに我国では未だ力をつけないのであるが、夫れに着手するのが我が桜楓会の急務である。夫れをなさるのが御婦人の本務であります。今後の生きた教育は、教室以外に行はれる処の広い意味の教育であります。即ち此の大学拡張の運動である。即ち教室から出ました処の境遇、及び男女卒業後の教育である。一番人間の教育の土台は家庭に由つて出来るのである。之れはも一層高等教育を受けた婦人に由つて出来るのである。幼稚園教育は今後、学校教育と趣きを異にして来るのである。之れは今の学校に似て居る処の幼稚園ではない。山や河の辺に遊んで居る守り子、歌をうたひながらまゝ事をして居る処の子供、即ち社会教育である。

私は、巡回講義と云ふものも今後御婦人の手に由つて出来る。巡回図書館も其の通りであります。又今後各地方に起る処の私立の学校と云ふものを始めとして、此の教室以外の教育と云ふものが、ど一しても御婦人に由つて出来ねばならぬ。

即ち人格に重きをおき、実力あり品性あり熱心ある処の、全体に捧ぐる処の教育家となつて、今後国民に必要な処の教育を全うして貰ひたいと云ふのである。そ一かと言つて、学校教育をほつておくことではないが、つまり学校と家庭と社会と連絡することの出来る道を開いて行くのであります。

そこで此の考へを校内にも施すのである。我高等教育を広く、社会にも亦教室外にも施して行くのである。此の目的をあなた方に由つて全うして戴かねばならぬ。此の具体的案を申す時間がありませんから、之れはあなた方の研究に任せしておくのであります。

そこで一言桜楓会の仕事をも申しておかねばなりません。桜楓会の研究、之れが即ち教室外の教育であります。此の中に少し教場以外の幼稚園、即ち子供を親がつれておいでになつて、家庭部の会に於て、其の Ground に於て子供を以て組み立てられた幼稚園に於て之れを行ひ、又どの部の研究会に於ても、たとへば其の目的を以て講義録を出し、銘々夫れを持って来て、互に質問をし研究することも出来るのである。大学の門に入らなくても、大学教育をすることが出来る。こ一云ふ仕方によつて、先づ東京市内から始めると云ふことが大切であります。

又音楽会、健全なる Amusement を桜楓会員が開いて、多くの人を不知不識の中に感化すると云ふことは、教室外の最も大切な教育であります。

夫れから料理会、裁縫会などを開くことも必要であります。其の外、大阪、神戸と云ふよ一な有力なる都会に於て巡回講義を開き、其処で会員が集つて、実地に之れをなさんと云ふことも適当なことであります。此の夏期休業中に校内で英語、料理、西洋裁縫の講習が開かれるのも、夏期学校の土台

である。こ一云ふよ一なものも皆よく出来るならば、大層有益なものであろうと考へます。

今後教育部の働きは、教室以外の教育に骨を折る。之れがあなた方御婦人の使命であります。

第三は精神的要素である。之れを述べておきまして、夫れから結論をつけるつもりであります。そ一すると時が足りなくなりますから、直ちに結論に入りまして、夫れに第三要素を一つにして申す方がよろしかろうと思ひます。結論に行く前に、も一言申しておかねばならぬことがある。

今後、桜楓会と並びに銘々の働きを、も一層有効にして行く、其の Organization をよくして行くには、第一、其の Organization を作る処の原素、其の細胞である処の各自が有力でなければならぬと同時に、其の細胞は必ず全体の組織を為さねばならぬ。即ち自分が全体の適所に居て、自分の分を全うしなければならぬと云ふことである。即ち自分の生存活動は、全体の精神活動と和合一致して居なければならぬ。其の関係宜しきを得て居なければならぬ。即ち詞をかへて言ふならば、今後の活動はも少し健全なる分業的、専門的にならねばならぬ。夫れで皆さんは、凡ての働き、凡ての研究に必要な修養が大切であると同時に、あなた方は何かの個性を発揮しなければならぬ。即ち今後あなた方は何か一つの専門的技術がなければならぬ。夫れで皆さんは何かについての堪能が願われなければならぬと云ふことでもあります。之れが独り教育とか社会事業に一身を捧げると云ふ人のみならず、嫁して人の妻となり母となるにも、夫れが必要である。今後の家庭を完全にし、賢母良妻の職を全うするにも、何か一つの特徴がなければならぬ。

[特徴發揮]

そ一して学校以外の教育を全うし、第三、精神的要素を發揮するには、皆さん銘々何かの特徴があつて適才を適所におくと云ふことが必要である。

私が思ひ付いた儘を言ふならば、第一、講師。あなた方の中で一人として Professor となつた人がない。そ一云ふことで教育の出来るものではない。夫れであなた方卒業生の中から、近き将来に於て Professor が出なければならぬ。之れは家を持って居つてもよろしいのである。ど一かそ一云ふ人の出来ることを希望するのであります。

巡回講師の候補者となる一と思ふ者は……………

發明家、意匠家となる一と思ふ人は……………

実業家（商人、農芸家、工芸家、化学者等を含む）にならうと思ふ人は…………… 七人

音楽者…………… 一人

美術家（絵画、彫刻家等）…………… 十一人

教育家…………… 稍多

著者、或は記者と名付くべきもの…………… 四人

医師、体操教師

寮監、組合長、銀行頭取

書記

未だど一も応募者がないう一であります。ど一しても今後はそ一云ふ専門家が、最もよい分業が行はれ、ちゃん

と一つの有機的団体とならねばなるまいと考へます。

此の学年の始めから用意を致しまして、此の前の日曜日と今日の僅かな時を使ひまして、今年新たに改革して行かうと思ふ範圍と、も一層進まうと云ふ階段とを各々申したと思ひます。夫れを行ふに當つて我々の間に是非欠く可からざるものは、力である。

[力、健康力]

私は、經濟、貯蓄は健康なる身体を築くことも含むのである。其の目的はつまり我々の入用なる力を得よ一、不經濟にならぬよ一に無益なる浪費をしないよ一にしよ一と言つたのは、つまり其の力を浪費しないよ一にしよ一と云ふことになります。其の一番大切な力、我々の幸福、安寧、理想、實現の基となる処の力の本は何であるかと言へば、いろいろあるけれども、第一は健康である。我々の労働をし、又頭を働かせるに必要な健康を築かねばならぬ。故に我々は其の力を築くために健康は得られたであらうか。其の反対の病に勝ち得る健康は出来たであらうか。何事にも之れが問題である。婦人に高等教育を与へよ一と云ふときに、そ一云ふ働きに堪へ得る処の力が婦人にもあるであらうか、婦人の身体は健康なものであるであらうかと云ふことが、最初の問題である。

教育に由り學問に由つて、あなた方は身体の力を段々發展することは出来ると言ひ得るお方は……………

[知力]

第二は知力である。之れは偽をすて、誠につき、偽或は無知に戦ふて真理を見出だす力と言ふのであります。人間力とは即ち Mind の力である。研究して行くことの出来る力である。其の知力を得た。之れで知的生活、研究的生活が続けて行かれる。其の芽が発生した。之れを發育させて行かれると云ふ見通しがつけばよいのである。其の自覚の出来るものは……………

[精神力]

第三に進みまして、之れを Spiritual power 精神力と言ふのである。其の淵源が開けて來たと云ふ経験のある人は……………

其の精神力とは大抵一致したものである。けれども見方によつて少し違ひますからわけて申しますが、Social force、団体力、即ち凡ての精神の一致結合した処から出来る処の一種の精神、此の力が得られたと感ずるお方は……………

我々個人の生涯も、亦人類の生涯も、今私が申しました処の階段を必ず通して出でて昇進するのである。先づ身体力が出来たと云ふ中には、必ず精神の力が出来たと云ふことも意味するのである。

又知力も決して出来ないとは申さんのでありますけれども、一言で言へば、精神の舍る処の健全と云ふものは出来かけて來、又夫れを拵へる処の道をも學んだが、未だ其の深い処の精神力と云ふものに至つては甚だ幼稚であると云ふことを、皆さんは自白なさつたのであります。

此の結論が最も大切な処である。是非とも之れを今日了りたいと思ふて、どんどん省いて参りましたが、も一十二時になりました。こ一云ふことは只一言で申すことは出来ぬ。充分皆さんに徹底するよ一にするには、やはり時を要するのであります。故に精神的要素の一段及び今日の結論は、更に他

日申すことと致して、今迄申したことを一寸約めて言ふならば、第一貯蓄をすること。之れは、も少し先きでよい、時が来たならばしよ一、と云ふのでは出来ない。今日は今日丈けの出来ることから始めればよろしい。夫れで、先づ今日から少しでも勤儉、貯蓄をしよ一と云ふ決心の出来る者は……

それで衣服などは最も質素にすることが必要である。けれども質素が過ぎて、礼を欠くよ一なことがあってはならぬ。例へば式に列するときなどでも、質素であるからと云って、人が礼服を着て居る処へ、自分だけは普通の着物を着て出たりなどしては、人に対して失礼に当るのであります。然らば学校の式日、或はあなたの生涯にたった一度ある卒業式の時にはど一すればよいかと云ふと、或学校のよ一に其の時だけ木綿の紋付を着るのも宜しいけれども、他の場合に用ひられないから、やはり不経済である。も一一つは、偽善の風を養ふから、ほんとはではない。又学校の規則などでしばって其の精神を養はないならば、一時的になつて了うと云ふことになります。そこで、誰にも出来て質素でもあり且つ失礼にもならない処の、よい風をきめると云ふ様なことは必要ではあるまいか。夫れについては私の考へもありますが、夫れは又他日お話しすることと致しまして、第二には、是から何か労働の習慣を養つて行こ一、何か生産的のこををして幾分か貯蓄をしよ一、と早速決心のつくお方は……全体

第三には、夫れをするために一つの組合組織としよ一、之れは必ず出来ることである、と思ふ方は……全体

夫れでは此のことを皆さんでよく御研究になつて、次の水曜日と土曜日との時をあげますから、あなた方が自動的に其の考へを纏めて出して貰ひたい。其の間に私は一寸旅行をして参りますから、あなた方、今年の全体は益々健全に有望にお進みになることを希望致します。

[中表紙]

第三学年にての御話 *
明治四十二年六月三十日

* 注：本文の表題と一致していない。

明治四十二年六月三十日
大学部全体の為めに

此の前に、貯蓄と云ふことは終局の目的は力の発現と云ふことにあると云ふことと、其の階段を上つて行く道筋を一寸注意する為めに、第一健康、第二知力、第三精神力、第四社会的能力と云ふことをあげて、あなた方の経験をきゝましたが、先づ健康と云ふ身体力を浪費せずして夫れを進めて行く経済、又夫れに伴ふて財を消費せぬことは先づ出来るが、第二の知力と云ふことは少し問題になり易いよ一であり、第三の精神力に至つては殆んど確信がおかれないうよ一でありました。

我々の経済と云ふことは、精神的の境遇を開拓する為めである。其の目的はやはり此の精神力と云ふ人間の理想を発現すると云ふのである。

此の精神的精力、即ち Spiritual power と云ふ社会的勢力、即ち Social force とは、二にして一である。只だ之を主観的に見た時に精神的勢力と言ひ、客観的に見た時に之れを社会的勢力、或は団体力と申すのであります。其の団体と云ふことと神と云ふことは、客観に言へば神であり、主観的に言へば人である。

God is subject man.

Man is object God.

神は主観の人であつて、人は客観的神である。神は精神的勢力となつて、我々の中に現れたものである。又我々の主観を大なる人格に拡張して、大なる人格となつた時に、之れを神と言ふのである。

故に精神的能力と云ふことと全体の力と云ふことは一つのものであるが、只之を主観的に見たと、客観的に見たとの違ひである。つまり我々の力を浪費せぬよ一に貯蓄して行くことと云ふことは、終局の目的は其の精神的生命、一番高い力を実現せんが為めである。そ一云ふ偉大なる力を此に貯へて行くことと云ふことが、やはり此の貯蓄の目的になるのであります。

そこで貯蓄と申すならば、必ず消極と積極との二方面がある。其の一方を Saving 救ふと言ひ、他の一方を Development 発展、蓄積と言ふ。此の二つは経済については皆さんがよくおわかりですが、我々の身体にも精神にも此の両方面があるのである。故に今日は精神的要素の中に入るのであります。

私は此の間から貯蓄と経済と云ふことを以て始めて参りましたから、やはり其の筆法を以て進みたいのである。精神力の蓄積と云ふことについても、やはり消極と積極との両方面にわけて申したいと考へますが、此に一寸誤解を防いでおかねばならぬことは、消極と積極と云ふ個々別々のものが其処に実在して居ると云ふ訳ではないのです。身体で言へば、消極の方を病氣と言ひ、積極の方を健康と言ふのである。併し我々の命に健康と云ふものと病氣と云ふものとの二つが存在して居るのではない。病と云ふのは健康の欠けて居ることであり、健康と名付けるのは病の部分の少ないのを言ふのである。我々の身体の中に病と名づける悪魔が潜伏して居るのではなく、病とは健康の力が減殺せらるゝのを言ふのである。我々の活力がそかれ、浪費せらるゝことを病と称するのであります。

昔は病氣と名付ける処の一つの悪魔のやうな者が居る。又は病と云ふ毒のよ一なものがあると考へて居りました。之れは古い処の説明である。

[身体と精神との関係]

私は此の身体のことを精神のことにあてはめて説きたいのであるから、此の身体のことを少し委しく申しておきたい。独り精神のことに、たとへとなるのみではない。身体と精神とは分つことの出来ないものである。身体の健康と精神の健康、又は身体の病氣と精神の病氣とは、之れを二つに分けることは出来ないのであります。

〔病気の不経済〕

そこで病気と云ふのは、生命と云ふ力、即ち我々の身体の中にある処の活力を滅殺せられ、我々の生命が消極に傾いたことを病気と言ふので、此の病が凡ての経済の中で最も甚だしい不経済であるのです。つまり不経済と云ふことを金銭の価で計って見ましても、此の病と云ふこと程不経済なものはない。皆さんの案の中に、食物の経済と云ふことがあります。

病は最も此の食物を不経済にするのみならず、我々の一番必要であります処の健康力と云ふものを、非常に滅殺する処の結果を生ずるものである。夫れで其の我々の健康力を滅殺する処の原因、即ち病の原因について学説がいろいろ分れて居りますが、先づ此の頃の科学の研究の結果で見出だしました処の著しい原因をなして居るものは、バイキンであります。我々の身体の組織を破壊して健康の力を食ひつづす処の多くの病気の本は此のバイキン、或はバクテリア、或は広い意味の詞を使へば、Microbe 微生物である。夫れよりも一つ深い原因は、Microbe 其他のバイキンが我々の身体の中に一揆を起して、我國家に斯くの如き敵を侵入せしむる。も一つ深い原因は我々の頭である。無知の結果と精神力の欠乏である。即ち不道德の結果であります。そこで此の身体の病気、身体力を無益に浪費すると云ふのはバイキンの所作である。併し其の敵を我が國家に入ると云ふのは、國王である処の精神力の欠乏と云ふことに帰するのである。そこで我々人間は我々の要求する処の力を浪費せず之れをよく貯蓄して、今後益々之れを蓄積、発展しよと思ふならば、我々の精神と我々の知力とがよく働いて、我々の身体をして、我々の心をして、其の四圍の境遇に順応せしむる。英語で言ふ Adjustment、即ち我々の内的生活と外的生活の順応、融合と云ふことが大切であるのである。

〔健康〕

先づ第一に健康と云ふのは、我々の身体、我々の生命が四圍の境遇に順応することであり、四圍の境遇とは何であるか。我々が呼吸をして居る空気、呼吸とは何であるか。我々が四圍の境遇に順応し反応するのである。もし身体を屈め腰を縛って此の呼吸を妨げるならば、其の人は忽ち肺病になる。或は心臓病になるのである。故に健康と云ふことは、我々の身体が四圍の境遇に順応し反応することである。

〔Ozone〕

夫れに此の順応と云ふことは、我々が生れてから墓の中に入る迄、一分でも止めることは出来ない。其の中にはバイキンと云ふものも、Microbe と云ふよ一なものも沢山ある。夫れで光り、熱がよく部屋に通るならば、そ一云ふものを殺してくれる。是れから雷が鳴るよ一になった時には、そ一云ふものが沢山発生するけれども、Ozone と云ふものがそ一云ふものを殺してくれるのである。

〔太陽〕

其の次は太陽の光り。我々には二つの目がある。遠方の月華をも眺めるのです。其の上に温と云ふものがある。此の光り、温熱と云ふよ一なものも、亦我々が反応して居る処の境遇であります。

〔飲食物〕

又我々が一番気をつけねばならぬ境遇は何であるかと言へば、我々の飲食物である。此の飲食物を最もよく我々の身体に順応させる処の働きを掌るものは我々の口である。二丈余りある処の消化機能を順応せしむるものは、只我々の口であります。之れが非常に大切であります。消極的から言ふと、我々の身体に Microbe などが発達して胃病を起し、腸をわるくし、心臓病或は肺病など、いろいろの病気の本をなす処の Microbe なりバイキンなりは何処から入るかと云ふと、多くの本は口であり、又多くの原因をするのである。

そこで皆さんが衛生学をなさって、其の食品を研究し、献立などに注意なさることが大切である。けれども、も一つ大切なことは、よく之れを噛み砕いて唾に交ぜることが必要であります。其の唾を待たずしてお茶漬などを食べて、大急ぎでやって来るのはよろしくない。そ一云ふことをするならば、我々の身体に敵の侵入する処の助けをするのである。

も一つ悪いのは、食べすぎである。食べ過ぎをすると、我々の身体の建設をした残りのものが腸や腎臓にいて、其の働きを過勞させて、我々の身体の害になる。毒物を拵へて之れを体内に散布するのみならず、斯くの如く一種の毒となり又一種の妨げをなして、無用の長物を惹き起こして来ると云ふことになるのです。其の他に、空気の中からも我々の身体によくない処のものが入って来るけれども、我々の身体の中に力が充実して居る時には、そ一云ふものが発生する余地がないのである。けれども我々が無知であって、精神力が滅殺して居る時には、さう云ふものが発生する処の余地を作るのであります。故に一番深い病源と云ふものは、やはり我々の無知と云ふことになる。我々が精神力、知力を使ふのは、丁度此の身体が四圍の境遇に順応せねばなりません。若し此の噛むことを怠るならば、食物と云ふものに反応することが足りなかつたならば、之れから先き夏になると恐る可き病を惹き起こすことになりまますから、あなた方はよく注意をなさねばならぬ。

〔罪と悪〕

これは健康と病気との関係を言ふたのであるが、次に此の精神の健全なると不健全なると、即ち昔から言ひました、我々の罪と徳、善と悪、此の罪と悪とは昔から悪魔と言ひました。或は我々人類の祖先である処の **アダム**、**イヴ**の昔から、**イヴ**の罪が遺伝して居るのであるから、之れは到底人力を以て免れることは出来ない。そ一云ふ罪と云ふものが我々の中に実在して居ると考へたのであるが、之れも古い考へである。罪と云ふものも徳の消極的の傾きであることは、恰も暗きと云ふものが別にあるのではなく、光の衰へたものであると同じことです。此の罪と云ふもの、悪と云ふもの、不正、不義と云ふものは、即ち之れが我々の精神力の浪費であります。即ち之れが我々の精神的生命の病気であります。其の病気を救ふ、其の浪費を助ける、其の消極的傾向を矯めると云ふことを先づ致さんければ、我々が望む処の精神力を貯へる、即ち理想の実現を遂げると云ふことは出来ないと言ふことになります。

夫れで今迄、私は始めに経済と云ふことを申しました。其の次には身体力の経済を衛生と言ひ、第三に精神力の経済を修養と申しました。之れは三つであるけれども、一つである。如何となれば、健康を維持する、身体を全うするのは何の爲めであるかと云ふと、やはり我々の精神力の境遇を開かぬが爲めである。又経済、財産と云ふことが何故に大切であるかと云ふと、其の精神の身体である処の四囲の境遇を開くことである。夫れで私は四囲の境遇、即ち経済が我々の大なる身体、つまり英語で言ふと、The environment is our longer body.

そ一して、健康と云ふことは何であるかと云ふと、A sound mind is in a sound body. 健全なる身体の中に舍れる健全なる精神、之れが即ち健康である。之れを全うするが爲めに、経済、衛生、修養の三つが大切であります。此の経済、衛生、修養、三つのものは三位一体と言ってもよろしい位で、一つのもの三方面に現はれて居ると言ふことも出来るのである。其処に於て前に申した、Savingの目的は力を養ふ、実力養成、或は人格発展と云ふことになると申したことが、皆さんにおわかりになるであります。殊に此の学期に於てあなた方が最も渴望する処のものは、実力である。我国女子の能力をも一層発現しよ、此の以上の階段を如何にして上ることが出来るかと云ふことが、今日あなた方の問題であります。徳、知力、精神と云ふものは、ど一して其の力の土台を得ることが出来るか、如何にしたならば此の以上の発展を遂げることが出来るかと云ふことを、あなた方、今日重大なる問題としてお考へになることでありませう。

[中表紙]

第一学年にての御話
明治四十二年七月三日

明治四十二年七月三日
第一学年にて

第九回生は、本校の第二世紀の第一回卒業生。即ち過日申しました、十年を一小世紀。今日は世界が長足の進歩を致して、十年の中には万事が殆んど一変するのである。昔百年でなし遂げたことを、十年の間に仕上げてしまうと云ふ時代であるから、私は十年を以て一小世紀と致すのであります。

[九回生の責任]

第九回生は、本校の十年を終りました、その後を次ぐ所の、最も充実した結果を表はさねばならぬ責任を負ふて居るのであります。即ちあなた方は分量よりも品質。此の時代に於て、我国に最も大切な任務を負はされました。最も精選された、又最も本校の教育法を試みました処の、結果となって表はれて下さらんければならぬ番にお当りになったのである。

[第二]

第二には、其の時代の精神、即ち其の時代の境遇も、最も

よく我国婦人として其の境遇に順応しなければならぬのであります。

[第三]

第三には、来らんとする大日本、最も我国の運命に関係ある、今後の活劇に當る処の国運を養ひ来らんとする、大日本国民の母たる人格を發揮なさらんければならぬ。斯くの如き大業を皆さんはお始めになったのである。斯くの如き国民となり、斯くの如き賢母良妻となる態度をおきめになったのである。然るに、昨日各級からの代表者の御報告に由れば、斯くの如き能力が著しく發揮したよ一に聞こえましたのであります。簡短に此の一学期間の変遷、進歩の有様を一す聞いておきました。夫れで我々の心配をして居る処のことは取り去られて、我々の永い希望に添ふてお進みになることが出来るであらうと思ひます。

けれども、なほ私は夏季休暇の前に於て、あなた方の態度に就いて尚ほ深く決心なさるよ一に致したいと思ひまして、こゝに数ヶ条の問題をたづねて、私の希望することを加へておきたいと思ふのであります。

昨日の御報告に由ると、入学当時は修養をする、殊に自動的に修養すると云ふ興味もなく又よい結果も得られなかったが、其の結果の大切なることを知り、其の興味も出たと云ふよ一に私にはきこえたのであります。果して夫れに興味が伴ふよ一になりましたか、之れは問題である。又毎年修養に重きをおき學問に重きをおくと云ふ傾向と、両方面が出来て永く調和しにくいよ一な時代もあった。こんな困難又は相反する傾向はど一云ふわけ出来るかと云ふと、之れは永い間の問題であったが、此の頃広く我国の學風の傾向を観察するに至つて、一層さう云ふTemptationが学生の間に起る。

[我教育界の二潮流]

夫れは我国學風の一般に、斯くの如き二潮流がある。其の中に人格に重きをおくと云ふことは誠に微々たるものである。之れを我學校の傾向から言へば、正反対であると云ふことがわかつたのであります。過日關西地方に行きました時に一日、京都大学に行きまして、菊池総長に面会して我国の高等教育について数時間話しまして、日頃私の考へて居ることを話しました所が、総長は同感であります。

そして男子の教育も、今日のよ一では将来の日本國民を作るに不適當であると言つて、実に深き心配を抱いて居られることは矢張同じである。人間を作る教育、英國のCulture、米國のGentlemanの教育は我國に欠けて居る。

故に私は総長に、あなたの學校は人数も少ないから、こゝに人格修養につとめて貰ひたい、と申しました。処が総長の答へは、不可能であると云ふことであります。

夫れはど一云ふことかと云ふと、千人の學生の間に修養と云ふことに重きをおくのは、実に微々たるものである。又夫れ等を輕視して、劣等なるものとして居る。夫れ等のものは學力に於ても劣るのである。之れに反して學問、勉強、知識と云ふことが彼れ等の學問である。彼れ等は其の目的は点数である。其の目的は、高等官又は会社の高い月給と云ふことより外にないのある。我が學校で修養と学科の離れるこ

とをきくが、成る程世間の有様はこ一である。

然るに総長の詞では、之れをやるには女子教育である。婦人の教育に重きをおくことが必要である、と言はれた。併し之れを如何にするかと云ふことに付きては、疑問を持って居ると言つて、永い間御話を致しました。菊池さんは嘗て文部大臣もなさり、現に大学総長をして修養教育に重きをおかれて居りますが、之れが中々実行が出来ない。此の教育をするには一致協同の力に由り、学生銘々之れに向つて責任をつかさねばならぬと云ふことであります。然し之れは小学校にも女学校にも大学にも行はれて居ないので、皆さんが此の学校に入って、始めに修養と學問とが一致しないと云ふのは無理からんことであります。

夫れが此の一学期間に於て、此の修養に重きをおくと云ふことに就ての経験をなさったことと思ひます。果して夫れはど一であったか、こゝに私は御尋ねをするのであります。

今申しました修養と云ふこと、教育は人となると云ふことが根本である。之れは我國の教育に大切なものであると云ふことが信じられるものは……全体

次に、自動的に修養すると云ふことに就いては、銘々に経験も出来、興味も出来たと云ふものは……多数

始めは分らなかつたが、段々分つて来たると云ふものは……多数

始めから幾分か興味を持って居たものは……少数

第二に、皆さんの精神的態度を聞いて見たい。此の一学期間に如何に態度が變つて来たか、其の態度は如何に確立して居るかと言ふことを聞いて見たい。つまり男で言へば、志を立て、郷関を出づ、学若し成らずんば死すとも還らず。

其の志と云ふことは身を立て、道を行ふ。何か銘々志を立て、後、笈を負ふて此の門にお進入りになつたと思ふ。そして之れ迄の誤つて居た処を改めたと云ふ人もあろし、始めから同じ態度であると云ふ人もあろしと考へます。

Ambition 野心家とも言ふ。Vanityを除いた処のものを、何と言つたらばよいでしょ一か。

Aspiration 向上心、熱望。

此の区別を知つて居るものは……

[Ambition]

Ambition は、えらい人になりたい。学生で言へば、人にまけない人間になりたい。試験の時は優等生になりたい。組の Head になりたい。働きから言つても、其の中で人の頭に立ちたい。人に遅れないよ一になりたい、と云ふよ一な人である。そこでこ一云ふ野心を持つ人は、人のよく出来ることを悦ばない。人が尊敬されると云ふことを不快に思ひ、甚だしきは、かくの如き人を折りがあれば傷付けて見たい。出来ることなれば、排斥運動迄も仕度いと云ふよ一になる。外の者よりも勢力家になりたいと云ふのが、即ち Ambition と云ふのである。

[Aspiration]

此の Ambition は外の人と自分とを比較して、夫れよりも進むと云ふことを望むのであるけれども、Aspiration は向上心、即ち外と比較せず、自分を自分に比較して、自分より進みたい、即ち今日の自分より明日の自分をも一層力ある人間に

なりたい、又自分が入学したときより今日の方が余程物が出来て来た、三月前の自分よりは進んで来た、自分は墓場に入る迄毎日毎日進まんければならぬ。之れが自分の熱望であると云ふ、之れが Aspiration である。

あなた方が本校へ入学なさつたのは此の Ambition であつたでしょ一か。又は Aspiration であつたでしょ一か。本校は此の点数に重きをおかない、本当の其の人の価値を發揮しよう一と云ふのである。それで皆さんがど一云ふ態度であつたかをきくのであります。

あなた方は Ambition で退入つたと思ふ人は…… 1/3

Aspiration で退入つた人は…… 1/3

両方混合であつたと思ふものは…… 1/3

丁度皆、三分の一づつの割合であります。

夫れで修養に由つて、其の様な態度になることが出来たと云ふものは…… 大多数

未だ出来ないものは…… 少数

併し Ambition に勝たんければならぬと思ふ者は…… 全体

此の Ambition は、自分が野心家であるから人の善きことを願はない。人が困難に陥ると喜ぶ。即ち人の悪しきを喜び、己の事計りを思ふ。之れに反して Aspiration は、自分のことを思ふよ一に人のことを思ふ。自分が進むことを願ふよ一に友達がよくなり、他人が出来ることを願ふ。人を助ける、同情をすと云ふ態度である。

[維新後の日本]

そ一して其の態度は、独り個人たる他人の善を願ふのみならず、我れと他人とで出来て居る団体の完全を願ふものが、ほんとの Aspiration である。我が日本帝国は過去五十年間におどろく可き進歩をなし、數千年来の悪弊を打破し、こゝに新文明を作り、封建制度を廃して立憲政治となし、其の目的を達するには尊王攘夷の未曾有の大戦をなし、又外に対しては日清、近くは世界を驚かす日露戦争をもしたのである。此の明治四十年の半世紀に於て、我が日本が興した歴史は実に偉大なものであります。猶ほ今後の半世紀に起る処の事は、今日の比ではないのである。

[今後の活動]

日本が東洋に於ける使命を全うするには、今迄以上の事を仕なければなりません。世界各国の今後の活動は、実に計る可からざるものである。此の予言は、少しく事理に通じたものは容易に出来る。斯くの如き社会に生れ、生活に加はる処の者を作るのは、即ち御婦人であります。其の母となり教育者となります婦人、又は高等教育を受くる婦人は、如何なる力、人格を現はすべきであろ一か。眠つて現状に安んずるの時ではない。我が帝国を思ひ、世界を思ひ、婦人を思うならば、修養もせず、進歩もせずには居られないのであります。之れを思へば人の進歩、友の發達を思はざるを得ない。互に手を取つて、進も一とせねばならないのである。之れが即ち Aspiration であります。其の態度を完成して、堅固なる意志を以て生涯の責任を全うなさることを希望します。夫れに就いては健康にも注意をなさつて、十分に深く考へをお作りに

なり、此の夏の間、身体と精神を強固にし、又あなたの力が今日から幾分でも他に感化を及ぼすよ一になって戴きたいと考へます。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十二年七月七日

明治四十二年七月七日
大学部全体の為めに

此の前に健康のことを少し述べておきました。之れも時間が充分でない為めに、丁度其の意味が取れましたかど一か聞いて見たいのでありますが、時を取りますから省きます。此の前に Nature Study, Art のことについて、或は教育について関係を言ったことがある。其の原理は夫れとちがはない。身体をよくする医学と云ふことは病を癒すのが目的である。其の病を癒すにはど一云ふよ一にしたかと云ふと、即ち健康の法則 Life の……Principle を見出すと云ふことに由つたので、古のよ一にまじなひをしたり又は神様に由つたり、迷信の信仰に由つたりしては、確實の効果を見ることが出来ない。科学的に研究して始めて、有機的研究をすると云ふことが進んだ。夫れと同じく精神の事も、我々の精神的生命及び其の消極的の傾きを救ふ、即ち其の力の浪費をはぶくと云ふことも、出来るだけ精神力を貯蓄し、可能能力を発現して行くことも、之れからは研究的態度にならなければならない。其の一番のもとを見出ださんければならぬ。其の中から永久不朽の法則、即ち真理の発見をすることが大切である。夫れには先づ、Reality を確めることが必要である。そこで此の間の問題が此に研究されんければならぬ。

之れ迄の我国の教育に由つて、毎年幾分かづつ歩を進めて来ましたが、も一階段を昇る、今迄進んだ以上の Level に出ることが、なぜ出来ないであらうか。つまり今日迄或る処迄は行くことが出来たが、其の先に行くことが中々むづかしいと云ふことになる。之れは何故であらうか。之れをするには只想像ではいけない。確實なる実在を求めて来んければならぬのである。此の前に、今から三十五年前に世界の女性が知力の束縛、意志の束縛、経済の境遇の奴隷と云ふ有様にあるのを開放し、人間たる自由能力、人間たる永久の価値を現はそ一としたときに先づ問題となつたのは、Mental labor が不可能であつて、身体の組織が女性は男子よりも異なる責任を負ひ、生れつき薄弱で到底高等教育に堪へないと云ふのであつたが、体育を研究して、遂に之れに適することを見出だしたのである。夫れと同じく、今日は婦人の力が何故に発現し得ないであらうかと云ふ問題が起つたと考へる。私は三十年間女性を研究し、人間を研究して、一つの仮説を作ることを得たのであります。之れが真であるか否やは、大に研究を積んで行きたい。夫れで今日は、具体的にあなた方と之れ

を研究して行きたいと考へます。

[Christ 曰く]

今から 2000 年昔に、Christ は人間の研究をなさつて、私は言ひ方がちがうが、其の真意は同じことである。人間の境遇、人間の死は何であるか。夫れは、Original sin を救はなければならぬと云ふことを唱へられたのである。先づ人間に永生限りなき命を与へて価値あらしめんには、先づ之れを与へなければならぬ。幸福を与へんとすれば、即ち此の Sin を救はねばならない。Christ は之れを見出だし、之れを購ふ為めに自分を犠牲にして、家も衣服も金もなく、名誉をも傷けられ人間の無知に苦められても、其の Sin を救ふ為めに其の身を捧げ、遂に命を失はれたのである。

[釈尊]

東洋では、釈尊も其の人間の力の出でぬ原因を究める為めに、王宮を捨てられたのである。そして遂に其の原因を見出だし、又生涯を捧げて此の死から此の人類を救はうとなつたのであります。

仏教も Christ 教も其他の宗教も哲学も、其の生涯を捧げて努力した処は此処にある。人間を研究し、苦を見出して救ふことである。苦しみ、煩悶し、失望し、精神力の破壊さるゝのは矢張、Christ 教で言ふ Original sin、東洋で言へば五病、科学的の詞で言へば Insane と云ふ病気に由るのであります。

人間は果して斯くの如き病に把へらるゝか。人間の生活する社会には此の病毒を除ける処の清潔法がなければ、人間はほんとの幸福を得ることが出来ない。真の力を見出すことは能はないのであらうか。そこに於て観察をしなければならぬのであります。

先づ之れを順序から言へば、Self-knowledge から言ふのであるが、私は社会と云ふ方から始めたいのであります。

今日我々の生活して居る社会の経済界の恐慌、之れもやはり社会の病氣であつて、之れを呼吸して居る人は矢張、病氣の中に陥つて居るのである。学校で言へば、高等商業を始めとし其他の学校騒動の如き、このよ一な事は外国に於ては見ぬことである。夫れから段々之れを大きくし、世界、人類、其の中でも一番先きに進んで居る欧米などは、健全であらうか。將た病的であらうか。

[軍備]

我国は二十五億の借金をして今日の Panic に出遭ひ、其れの利子を払ふ為めに、其他の軍備の為めに、年々重税を課せられ生活難に遭遇したが、此の國家の借財は何の結果から出来たのであらうか。又今各国が争つて製造する軍艦、即ち英国では二百万近く、France では百幾十万と云ふ数、独乙では凡そ三億五千万、其の中に常備兵四百万、戦時には二千万に垂ん垂んとして居る。斯くの如き軍備、壮大なる軍艦、又之れに費す費用は、実に二十五億から三十億近くを使ひ、欧州をぬいて政府の借財は六百億に達して居るのである。

それならば何故に此のよ一にするかと言へば、即ち戦争に供へる、国防である。国防とは人類間に存する消極的傾向、自己的、惡意的から起る処の相互の衝突、互にしのぎを削つ

で戦ふと云ふことに供へるのである。此の軍艦、国債、重税、Panic、社会主義などの社会上の問題は何の徴候かと言へば、即ち人類間の病的傾向である。

亞米利加が外人排斥を起し、尚ほ夫れ以上に学理を応用し、空中飛行器を作り、無線電信を利用し、潜水器を発明し、益々破壊力を貯へて行くのは Egoism になり、充分力を貯ふるけれども、一朝其の衝突を来すや、其の恐れは益々進みて激しくなることは明らかである。斯くの如き破壊力が世界に爆発すれば、人類は如何なる災害を被るでしよ一か。商工業の上には如何なる影響を来すでありましよ一か。彼の日露戦争の結果を見ても、其の将来を予想することが出来ないことはないのである。

[離婚]

又此頃米國から来た新聞に、欧米に於ける夫婦、家庭の状態を報じて居ります。夫れに由ると 1885 年、今から約 25 年前 U. S. A. に於て離婚されたものが二万三千四百七十二人、英國では五百八人、仏國では六千二百四十五人、獨乙では六千六百六十四人ある。然るに二十年の間に非常に離婚が増加して参りました。外の國も殖えたが、合衆國は著しきものである。まだ今年になつてからの集めることが出来ませんが、各 S. に於て結婚に対して離婚が 1/10 になつて居る。我國で四、五年前の調査に由れば 1/4、今日では 1/5 であります。之れは世界第二である。之れは非常なる現象である。又離婚をしない家庭の中でも非常に混乱して居ると云ふ事を現はして居る。家庭の中にも混乱、社会にも相争ひ、相戦ふことを現はして居る。

離婚の原因は嫉妬心である。其の他の罪惡も人間と人間との間の調和が敗れて、其の關係が破壊されて起るのである。夫れから Egoism が盛んになり、女子が男子に柔順なるもの、又は如何に虐待されても死すか止まるかの外はない。一端嫁したならば其の家は第二の家で、再び歸ることは許さない。又両親の許さない処であつたならば、行くことが出来ない。此一云ふ処に自由の精神の頭はるゝ苦はない。此のよ一な処に価値の發揮する筈がない。

此の社会の源たり、又教育の淵源たる夫婦の感情が斯く迄破壊されたならば、其の子弟から成り立つ学校、政党、宗教、婦人団体が腐敗し、争ひを起し、衝突、混乱を来すのは自然の勢であります。

各國が軍艦を増加し、兵力を加へ、軍備を為すと云ふのは何であるか。利己的、即ち人間の病的傾向を示すではありませんか。此の病気が我々を苦める。此のもとを救はんければ、人間を救ひ、立派なる人格、高尚なる徳を養ふことは不可能であると言はんければならないのである。

[我が心状態を顧る可し]

今迄申した事実は我々の境遇である処の社会のことであるが、次には、も一層近い自分の真髓である我が心の状態と云ふことを顧るならば、如何なるものであろ一か。此の我々の心にある其の苦悶或は心配、之れ等は病気の著しいものであるが、其の身体の病気を報告するに、心に不満足があれば、それは心の病気の報告である。

[病源]

故にからだの病氣、心の病氣のもと、やはり前に言つたことに起因するのであります。

例へば呼吸器病にかゝるものも、なぜこんなことになつたかと云ふと、其のもととは失望、落胆がもとである。胃病は頭の不消化から来るのである。

肝臓は鬱憂から、咽喉は不足、不安の処から来ることが多い。此の頃身体の弱る人々の原因の多くは、やはり心の状態から発生して居ると云ふことが多い。まして精神的の欠陥、薄弱、不完全なる原因は、悉く此の我々の中に潜んで居る。之れは尚ほ此の次に其の治療法について述べるときに、其の關係を申すことに致しましよ一。

そ一云ふよ一に事實を集めて行くと、やはり人類は一種の病に犯されて居るので、其の困難の原因、精神力の浪費の原因が矢張、其の心の中にある。誰れも一度は此の風土病に犯され易い。又遁れ得ない。殊に我國の家庭の困難は貝原先生の言はれた、五病は多く婦人の欠点より惹き起こすのである。健全なる家庭が少い、立派なる婦人の出来にくいのは、そ一云ふ我れを悩ますものがあるからである。之れを癒さんければ本當の婦人の力を發展することが出来ない。然らば如何にしたならば其の病をなほすことが出来るか。之れを癒すには二つの方法がある。即ち、積極的と消極的との二方面であります。

[治療法]

私は医術語を借りて、一寸説き明かしをして見たいと思ふ。其の一つを Allopathy と言ひ、他の一つを Homeopathy と言ふのであります。A の方は異と云ふことで、H の方は同じと云ふ意味がある。同じ病氣の状態を以て、之れを癒すのである。

眠りにくいと云ふ時には、眠り薬で以て眠らすのが普通であるが、H はコーヒーを吞ます、又毒を吞ますのである。例へばカンフルを吞ませなどする。

Allopathy	Homeopathy
結果	原因
薬に重きをおく	他の状態にて直す
薬にて苦しめ又は	精神を以て癒す
權威にておどす	楽天
厭世	Activity
受動的	自動的
非科学的	科学的

そこで二つある一つは、薬を持ってせめるけれども、も一つは、薬も使はないことはないが、重きを置くのは精神で、積極で全体を養ふと云ふことにある。よい境遇を与へて自分の中から力を發達させよ一として、消極に打ち勝つ、即ち Adjustment に由つてするのである。其のよ一に我々が精神的生命に Adjust するのは、我々が幸ひなる、喜ばしいと云ふ善意的なることを考へる Bright thinking, Right thinking で、其の反対は Wrong thinking である。

先づ我々の心の病氣の本は、不和と云ふ処にある。強く言へば、敵対拮抗する人に対し、事物に対して調和しない人と

我と争ひ、四圍の境遇が順応する道がちがって居ると云ふことにあるのである。そこで其の力が出ないもと、煩悶するもとは自分の中にある。天を憾みず、人をとがめず、我中であり。失敗、病氣、弱きもとは己の中にある。之れを改めるのは即ち Adjust、即ち Harmony、身体の中の調和である。

健全なる心の調和を Happiness、人との調和を愛、調和せる社会を天国と言ふのです。此の調和を取ることが病氣を根治すると云ふことになるのであります。茲に於て此の Happy を取る為めには、我々の心の命を養ふことが必要であります。之れを開くには先づ、銘々に注意して Good suggestion を受け、自分から自分に受ける suggestion が大切であります。悪い考へ又は病氣を思ふものは病氣にかゝり、ひき考へを持つものは病氣にかゝり易い。故に考へを高尚にし、善意を貯へて幸福なる状態を持し得るよ一に心掛けるのみならず、之れを日常生活に応用し、相互に助け、同情し、相互にゆるし合ひ、相互に相愛することが、即ち Good suggestion を起こすもとなる。故によき暗示を常に受けるよ一になるには、銘々の態度を一変するにあるのです。

我々の心の態度には二種類ある。

其の一を酸性的態度。之れは物を破壊する態度。我が周囲の態度を悪くする。其の反対をアルカリ。之れは即ち調和する、常に Bright side を見る。斯くの如き人は必ず酸性を中和し、健全なる空気を作る。此のアルカリ的態度を作ることが必要であります。

[安心]

次に病氣をなほすには安心、時々安らかに眠ることが必要であります。安眠は心配を殺し、心配は安眠を殺すのである。

安眠するときは心配はなくなるのである。或る人がこ一云ふことを言つて居る。

Death is more easy to support, if we do not think it than to fear of death, when there is no danger of death.

若しも死を考へなければ、死を忍ぶことはもっと易い事である。其処に死の危険が少しもないならば、死を忘れて居ることは、も一少し易いことである。

今言ふことは決して思ふな。

I have no friend.

I have no money.

I have no time.

I have no power.

I have no opportunity.

私にはこ一云ふものがたつぷりあって、親切ないゝ友が沢山ある。目の前には機会が沢山あると思つて居れ。

[勝てよ負けよ]

次には敵対と云ふ境界から通れねばならぬ。先づ第一に、勝て、己に克て。第二に、神経質に勝て。之れはあなた方をして恐れないと云ふ度量を作らしめるものである。恐いと云ふ暗示程悪いものはない。此のよ一な消極的態度を改めて、積極的に清きものを納めて精神を内に確立せよ。抵抗力ある処には、ばいきんは育たない。健全なる思想ある処には悪念は生じない。今一つは、負けよ。負けて勝て。人と喧嘩をす

るな。成るべくならば軍を止めて、人と調和をするがよい。

[Schiller 曰はく]

Schiller の詞に、

The enemy who is overturned will rise again, but he who is reconciled is truly a conqueror.

斃した処の敵、打ち勝った処の敵は再び我れに刃向ふであらう。併し、講和した処のものは決して再び抵抗することはない。

[Seneca 曰はく]

Seneca が言つた詞に、

Anger is like rain which break stone.

怒りは雨の如きものである。雨は高き所から落ちて石や机にぶつかると、其の物は破壊せずして雨自身が碎ける。故に怒りを制するは城を取るよりも優る。又愛、親切は必ず成功するものである。愛と好意を以て失敗したものはない。

又アルフレッド・オースチンの詞に、

Silence and stillness are the sweetest of all our joys.

沈黙と従容の態度は凡ての喜びの中、最も甘きものである。トマスチングスは、

If you could let men go other way, they will let go yours.

若しも汝が人の道を妨げなかったならば、人も亦汝を妨げないであらう。

次に又、精神力の浪費を防ぐに大切なことは Self-control、自分を支配することである。我々は積極的に進む、突進する、将来に急ぐ、活動を激しくすると云ふことは、我々の勝利を得る上に必要であるが、その急ぐ時に、進撃的態度になった時に一番大切なことは、自制であります。自動車に大切な事は break である。

進むことが必要なよ一に、又止める力も必要である。我々が進撃的態度になったときに此の止まる力がなかったならば、精神修養は出来ないのである。

[真善美]

つまり之れを結ぶならば、精神力と云ふものは精神的生命となつて、一言に言へば、調和である。換言すれば真善美と云ふことである。愛は救ひ主であり、健康であり、富であります。其の調和を整へるが為めに、前に申した Right thinking 善を考へる、又真理を見出すことが必要である。

如何となれば、此の真理の光りが我々の精神をして、我々が生きて居る宇宙全体の音楽の調子に適順する。其の大なる全体の音楽の一つの部分に入る。之れが Right thinking 及び我々の Self-control で、大調和を求むる所以である。併し其の大調和に入る前に、家庭から出来、親子、夫婦の間から出来一つの細胞、又は Friendship 友情又は仲間と云ふものに結んで、其の関係を広めて、此に大調和を作るのである。故に吾人は Friendship の間にも Home の間にも、健全なる細胞を作ることが必要である。其の目的に叶ひ、其の全活動に一致協力するのである。若しも之れに反して、只私情と云ふもので Friendship を作り又は Home を作るならば、只一時的の

ものとなって却って身体に害を及ぼすのである。故に我々は此の細胞を作るに、家庭を組織する時に果して大きな全体 Organism に入り、一致協力することが必要であるが、調和と云ふものは己に属して居る凡ての仕事を安く、快く尽した処の結果である。も一つ衝突を避けるに覚えて居らねばならぬことは、パスカルの、

We must learn our limits.

We are all something, but not everything.

我々は自分の分限を学ばなければならぬ。我々は大いいものも小さいものも何かである。悉く此の世の中に必要なものである。けれども如何なる人と雖も Everything ではない。故に己の分に安んずることが必要であります。つまり、精神は積極であり、心配、恨、短気の内情は消極である。信望、愛、即ち真善美と云ふ理想、全体の完全を希望して居る生きた態度が必要である。

そこで後に戻りまして、Homeopathy、常に幸なる状態に育つて暑い空気を満たさせた、其のよき境遇の中に其の力が進むよ一に、先づ此の皆さんの集合の正、准会員の会は、如何にも精神の糧を貰ふ処の説教とか講談とか云ふものとは少し趣きを異にするが、そ一云ふお話を与へてもらひたいと云ふことでありましたが、夫れと丁度同じものを軽井沢の夏季寮で作り、又地方の会も願はくばそ一云ふものを作りたい。夫れを作るには皆さんが精神的になって、調和を求めて充分誠を満たし、今後、前から言つた三要素はど一しても入るのであるから、お互に之れを作るよ一にすることが必要である。毎年一学年の眞の自我を見出すと云ふ夏季学校又は銘々の境遇におきまして、願はくば充分我々の妨げになる病を退けて、効力ある処の境遇を作りたい。又此の精神の生命の發揮が毎年どれ位迄育つて居りますか、未だ其の結果を充分見ること出来ませんが、も一つ我々は階段を上らねばならぬ。あなた方御婦人の美德を發揮しなければならぬ。其の本は何処にあるかと云ふと、我々の内にある。

美なる音楽を奏すると云ふ其の役者を作らんければならぬ。今年の第七回生の中から夫れを發揮したいものである。

此の生命の現れた、此の精神の發揮した御婦人、之れが出来なければ、如何につとめても及ばないのであります。

此の夏に此のよ一な力が發揮するよ一に、七回生はど一か夫れを得て、眞に其の光を發揮して自ら其の一人となるよ一に希望致します。

銘々自ら内に之れを得て、全体に及ぼすよ一に致したい。此の精神的要素を全国に広めなければならぬ。此の調和が出来なければだめです。私は之れを試験して居るのである。努力奮闘して居るのであります。ど一か此の夏に此の理想が実現せらるゝよ一に。之れが私の最後に、あなた方へ切望することです。

[中表紙]

明治四十二年七月十日

第一学期終業式

明治四十二年七月十日

修業式

昨年の七月十日より今日迄の一年間は、我が国におきましては経済界の Panic 恐慌と云ふ、近年に稀なる困難なる年でありました。其の影響は人心を萎靡せしめ、精神界をも不安に陥れたと云ふ如き困難なる一年でござりましたが、本校教職員諸君、寮監、指導者及び全校の各係の忠実なる、又熱心なる努力によりまして、今年も可なり否、昨年よりも一層進んだ結果をあげる事が出来ました事は、此の夏期休暇に入らんとする前におきまして、深く感謝の情に堪へん処であります。之は只一時の感情でありませんで、私には其の進歩と云ふ事柄を計る一つの標準を以て、本年の進歩を考へて見たのであります。殊更に今調査をしたのではなく日頃から気をつけて居りまして、今日感ずる処を申すに過ぎないのであります。今年の進歩の程度は、大学の方は是迄少し私の見る所を申して居りますけれども、高等女学校については之迄機会がなかったのでござります。無論大学部も一緒に申すのであるが、殊に高等女学校に重きを置いて申したい。

[校風発達の程度]

我々の日々学びます所の真理と、現実或は實際との調和、或は一一致。併し此の真理と現実とが必ず一致するものではない。其の間には懸隔があるが、其の間の近くなった時を申すのである。其の真理と現実との調和の程度が、此の学期の校風の発達の程度、品性、学芸の発達の程度と見ねばならぬ。過去一年間の進歩の度を量る物尺に致したいと思ふのであります。之が本学年に高等女学校の方針としてお立てになったもので、無論大学も其処にお立てになったのであるが、殊に高等女学校に於ては、そ一云ふ詞を選んでお立てになったのである。其の方針は実行する事が出来たのでありましょ一か。此の学期の終りに調べました所の成績は之を証明する事が出来たのでしょ一か。試験の成績だけで之を定める事は出来ぬ。私はいろいろの点から気をつけて見て居るのであるが、其の成績に由つても半分力は見えて居るのである。併し今一つの反面は、私の申したはかりに由つて見なければならぬ。其のはかりにかけたならば、動かない事実も確かに含んで居るものと考へて居る。私が自ら見ました事も幾らか其の中にあり、他の方が御覧になった事も参照して居りますけれども、あなた方自分の批判、及び自分の確信、自分の計画を立てて、夫れを此の夏に行ふと云ふ態度、及び決心、又生涯に対する所の自分の確信と云ふよ一なものを意味するのである。そこであなた方は昨日以来いろいろの報告をなさつたのである。大学部に於て主任総会をなさつたのですが、又今朝高等女学校からお出しになったものに由つても、大体はわかるのであります。

只今、松浦教授から有益な御注意がありました。又其の中

には幾らか御心配になる点もありました。之は我々も日頃から心配する点であります。其の中で健康の事ではありますが、昨日高等女学校からお出しになったものに由れば、昨年から段々健康になったと云ふ事ではありますが、之も見様によるのであります。今寮舎に残って居り又通学をして居らるる学生の全体の統計から言へば、今年は脚氣と云ふものは大に減じて居る。夫れから赤痢、チフスと云ふ様なものは此の春からなかった様である。尤も類似した様なのは一人あったけれども、ほんとの一はなかったのである。其の他の病氣も比較的少かった様であるが、之は体育係、衛生係が余程骨を折って御注意なされた結果であると思ふ。けれども未だ少々頭が疲れたと云ふ様な人もあるから、皆さんが御注意をなさる事が必要である。夫れから、欠席と云ふ事は数に於ては多い様である。けれども遅刻即ち此の間申した Punctuality、即ち時を違へぬと云ふ事は大分出来た様であります。

之はやはり、あなた方の行ひが大分真理に近づく様になったしるしではあるまいかと思ふ。夫れから清潔、整頓と云ふ事も大分よく出来る様になりました。之を大坂などの様な砂の多い処に比べれば未だ劣って居りますが、此の東京の境遇では是迄になった事は、整理係のよく御注意をなさった結果であると思へます。之等は統計に於て直ぐ目に見える事であるが、こゝ云ふ事は大分考へが実行になったと言ふ事が出来るであらうと思ふ。けれども遺失品の如きは整理係が余程骨をお折りなされたけれども、ど一もなくする事が出来ない様である。之はど一か今日からよく気をおつけになって、秋からは充分此の整理の方も進む様に致したいと考へます。之等はあなた方の自分で判断をなさった事で、私は之に重きをおくのである。先生方はど一御覧になるか、其の意見も聞きたいのであるが、此の間の教員会には私は欠席を致しまして、夫れを聞く事が出来ませんでした。此の二、三日、文部省の視学官と東京府の視学官とが此の学校へおいでになりまして、朝八時から午後の四時頃迄委しく見ておいでになって、其の視学官の御覧になったお感じを高等女学校の教職員にお話になったと云ふ事である。

[服部視学官のお話]

是迄度々視学官も来られ、又時には大臣もおおいでになったのでありますが、二、三日前においでになった視学官は随分委しく御覧になって、しかも其の批評が積極的であつて、こゝ云ふ私立の女子大学のある事は我國の誇りとすると云ふ事まで言はれたと、伝聞致しました。そして其の御話が日頃我々の主義として居る事と一致して居たと云ふ事でもあります。学校を見て行く人は沢山ある。けれども其の真相の見える人は幾らもありませんが、其の視学官は余程深い所迄御覧になったものと見えて、第一、会などをして自動的に忠実にいろいろ相談などをして居る事などは誠によい事である、と少からず賛成の意を表せられたと申します。

私は夫れが認められたと云ふ事よりも、高等女学校が自分から物が出来る様になった事を非常に喜ぶのである。そゝ云ふ事を総合して見て、我々の主義とする所、真理とする事と現実とが大分近づいたのである。大分校風が進んだのである。

そゝすれば学生個人も進んだと言っても宜しいと思ひます。そこで皆さんよい処も自覚し、悪い処も自覚するが宜しい。そゝして其のわるい方が段々少なくなつて、よい方が加はる様に勉めねばならぬ。

次に大学各部、其の他英文予科、普通予科、及び高等女学校からも報告があつたと思ひます。其のあなた方の報告によつて、あなた方が此の夏期休業になさるる処の計画をお立てになつて、充分用意をして取りかからうとしておいでになる其の皆さんの計画、態度等について、私は大体に於て賛成をしたいと思ふ。又此の計画、目的、理想と云ふものと、之から夏の間あなた方がなさるる所の実行と云ふものが、充分近く様にと云ふ決心はなさつておいでになるのであるが、其の中で私が所々感じた事、こゝありたいもの、そゝあろ一かと考へた事を二、三申して、あなた方の御参考に供したいと思ふのであります。

あなた方の計画を総合致して見ますと、之を二つの方面に大別する事が出来よ一かと思ふ。其の一つは自分の修養と云ふ事である。自分を養ふ、自分の問題を研究する、自分の健康を増進すると云ふ様な方面である。之は無論一日も忘れてはならない事で、此の夏、皆さんが非常に注意をなさる事で、実力を養ふと云ふことは此の間にあるのである。之は充分皆さんがお考へになった事であるから、余り御注意をする必要はないと思ひますが、其の中で健康と云ふ事、自分の身体及び精神を健康にする、いろいろ計画を立てて此の夏の間に見ると云ふ事でもあります。之をなさるに、凡てのことに注意をして全体の事の平均を取り、身体と精神との調和を計らねばならぬと云ふことは無論の話でありますけれども、あなた方が毎々お行ひになることが一つの特珠なもの、具体的なものになると云ふことが必要である。之に御注意なさる事を希望するのであります。

夏、二月の間に充分費へた所を補ふておくと云ふことは大層必要なことであるけれども、之は銘々の身体に由つて違ふのである。殊に此の年に於て何か銘々がしななければならぬことがある。夫れで秋になつて皆が此校によつた時に、私は此のことに苦しんでこゝ云ふ経験をしました、と云ふ報告が出来る様でなければ役に立たぬのである。私は二つの時に、一度死んだ者である。そゝ云ふ死残りの身であるのみならず、いろいろ困難な境遇に戦つて来たものであるから、ど一も弱いと思つて居りますが、私の頭の非常に疲れた時に見出した処は軽井沢で、軽井沢は実に私の頭も身体も一変した処である。夫れから毎年幾分かよくなつたのであります。

食物のことで言ふならば、食物をこなして血とし、肉とし、神経とするのは三丈もある管で、其の消化器の支配は何処に由つて出来るかと云ふと、口によるのである。経済と云ふことから考へても、唾の交らぬ食物を入れると、十のものを入れても真に消化するものは五つよりしかない。其の余は Microbe と一緒になつていろいろのものを製造し、其の入りぬものが或る部分は毒を作り、或る部分は腎臓、肝臓に行つて邪魔をすると頭が悪くなつたり、腸胃をわるくしたり、頭痛を起したりして、いろいろの害を及ぼすのであるが、之等

は不経済でもあるのです。之を如何にすれば丁度よいかと言へば、ど一しても Adjustment によるの外はない。私は食事をするにもどれ丈け嘔むかと云ふと、蒲鉾と御飯とを 159 噛みました。烏賊も 157 噛み、御飯も 75 計り噛まねばならぬ。そ一すると、より寝られて翌朝頭がはつきりするのです。今一つ、私の此の頃経験して居る事は、食物も成るべく少量をとることであります。

[第二の方面]

第二の方面は、夏の間生活する四囲の境遇に注意し、適切に順応することが大切である。之迄の学説によると、人間は非常に遺伝力に制限せらるるもので、遺伝の力は人間の力を以て制御することは出来ぬとしたが、之はも一古くなりました。

[遺伝に就きて]

身体のこと而言へば、肺病とか癩病とか云ふものも皆遺伝であるとして、我国で結婚に系統を調べると言へば、其の肺病ではないか、癩病の統ではないかと云ふ様なことを調べるのであるが、今日では之は遺伝であるまいと云ふことになりました。孰れが真であるか。之を充分に保証することは出来ないが、其の遺伝を防ぐこと、殊に人間の精神、我々の品性と云ふものの中には、遺伝よりも社会的遺伝の方が猶一層強いのである。社会から、書物から、理想から信念が大に我々の頭を作るに關係するのであります。遺伝が其の儘伝はるのは低い動物のことであるが、併し教育に由って改善し得る性のあること、之が人間の人間たる所である。人間の可能性を持って居るのは其所に在るので、教育は四囲の境遇に反応し、順応する事に由って出来る。其の反応を自ら制し、行ひを自動的にし、判断を自立的にして最もよく順応する事が出来る。此の順応が非常に大切であるが、其の中で気づかぬことがあります。

[第一]

あなた方の計画の中に、

第一に、日常生活に應用する、

第二、長上に仕へ、弟妹の教育をする、と云ふ事がありますが、先づ此の学んだ所の真理が日常生活に適合する様にならねばならぬ。例を挙げますならば、此の学校の中で衛生を学ぶ、又料理をもなさるのであるが、あなた方のお拵へになるものは宴会の料理であつて、日常の料理は出来ないものである。毎日食べる日常の料理が出来る様にならねばなりません。最も普通な事を特殊にして行く、具体的にして行くこと云ふことが必要である。その他、あなた方の報告にもあり、松浦君の御話にもあつた様に、今日は女子の高等教育についていろいろ誤解があり、反対のある時である。

高等女学校、殊に上級生のお方には、之から普通教育を終つて猶進んで高等教育を受けよと云ふ希望はあるけれども、国の方で反対せられて許されないと云ふお方もあるが、つまりあなたの熱心とあなたの行ひ、あなたの徳に由つて御両親の許しを受けて、高等教育を受けることが出来るのであります。又世間の高等教育に反対して居る人々もあなたの実行を見て、其の誤解を解くことが出来るのであります。高等女学

校の上級生の一人で、学校へ来ては誠に忠実な学生であり、学芸もよく出来る、組の事も一生懸命にすると云ふ御方である。其の御方が家に帰りになると、お母さんやお姉さんがお言ひつけになることはよくなさる。けれども、ど一も冷いと云ふことがある。冷いとはど一云ふ事かと云ふと、暖かな所、清い美はしい、誠に懐しい様な、慕はしい様な徳がないと云ふことです。

[学校騒動に就きて]

此の頃学校騒動と云うことがある。近くは高等商業の如き学生一同が申し合せをして、校長に反対をするのみならず、文部省にも甚しきは文部大臣にも反抗をしたのである。昔は師弟の間が非常に親密であつて、先生に背くのは君命に背き、親に不幸をすると同じ事でありました。弟子が先生を敬慕し、之が為に心身を尽くすと云ふことは親に対すると同じものであつた。けれども今日は実に冷いものとなつたのである。之はど一云ふ訳であるか。あなた方学生の方から言へば、我々学生の態度が宜しくない。故に之は改めねばならぬと心得て下さらねばならぬ。けれども校長とか先生とか云ふ方から言へば、今日の学生が何故にそ一云ふ反抗をするのであるか、之は我々の徳が薄いからであると自ら責むる事が必要であります。私考へるに、之は両方がわるい。今日は子供の方も親達も先生も改めねばなりません。今日は高等女学校の小さいお方も一緒でありますから、此の真相をよくおわかりになる様に申すことは出来ぬけれども、大学部の方はおわかりになるであらう。高等女学校の上級生は略ぼ察しがつくであらうと考へます。

青年は冷たい者ではない。殊に御婦人は清いもの、美しい者、済々たるものである。両親や先生には柔順でなければならぬ。其の言ひつけはよく守らねばならぬと考へて居るけれども、実は心には心服して居ないのである。お母さんのなさる事に感心せぬことが多い。夫れではないと言っても、言ひ方が違つて来る。親の方ではなに子位と思つて居るけれども、中々子位でない青年と云ふもの、殊にあなた方女の十七、八と云ふものは中々批評的なものである。そこで何が真であり、何が偽であると云ふ事がよくわかる。此の真理に忠実なと云ふことが大切であります。

そこでど一も違ふと思つて居る所から、甚だ返事がわるくなるのである。今日は過渡の時代であるから、人の子となるのも、校長となるのも甚だ六かしいのであります。

こ一言ふと、若い者が大層よい様に聞こえるかも知れぬが、そ一ばかりは言はれぬ。やはり此方の仕方が悪いとか、欠点が多いとか云ふことがある。故に銘々自分が悪い、我が心が未だ足りないと思つてねばならぬ。あなた方国へお帰りになつて、いろいろの批評を受ける。其の時に何方の批評を最も謹んで聞かかと言へば、先づ第一に自分の批評である。自分の批評を受ける、即ち Self-criticism でなければならぬ。夫れを努めずに人を批評し、他人の攻撃を恐れると云ふ様なことばかりをして進まれるものではない。故に何時も自ら戒め、自ら匡して進むこと。そ一して他から受ける処の批評が果して真であるか、偽であるか。若しも夫れが迫害であるならば

喜んで夫れを受けて、益々善良なる人となることが必要である。之が出来れば、あなた方は如何なる境遇をも切り開くことが出来るのであります。猶あなた方が弟妹を御教育なさることについて申したいと思ひましたが、時がありませんから省きます。ど一かあなた方は充分健康に注意し、精神の力を養ふて、益々発達なさることを希望致します。そ一してあなた方の行ひをも一層適切にするには、も少し特殊なもの、具体的なものにしなければならぬ。人を訪問なさるにも、成るべく具体的な詞を使ふてお答へなさることが必要でありましょ一。殊に衛生に注意なさつて、汽車中等にもよく用心して、此の夏を最も有益にお過しになり、そ一して益々健康になつて再びお目にかかりたいものと考へます。

[中表紙]

在京正会員親睦会の御話
明治四十二年八月九日

明治四十二年八月九日
在京正会員親睦会にて

此の夏に巡回講義、講習会、夏季寮、其の他家庭で会員が直接に、間接に、熱心に、親切にお働きになり、之れに由つて新らしい経験をお積みになり、又夫れ相当に効果を顕すことが出来たのは、實に一同が謝し且つ喜ぶ処でありますと思ひます。又此の夏におきまして各寮舎、各正会員方の間におきまして、桜楓会の将来について深く考へる所があり、又其の一人である処の銘々について深く反省する処があつたのは、今の時機に於いて最も適當なる、且つ最も大切なることでありと思ふのであります。

[來らんとする十年期]

今、母校の過ぎ來し方を省みて見ると、最早や年を経ることが九年に垂んとして居る。將に皆さんが此の間から、いろいろ考へになつて居る処の、満十年が近付いて参りました。

此の十年期を迎へるについて、会員は母校に対し如何なる誠意を表はすべきか、又会員として母校の爲めに如何なる責任を負ふて居るかと思ふことについて、深く考へになつて居ることと私は考へます。私自身についても自分の学校と云ふものばかりでなく、我が国家と又今日の我々の生存して居る社会と云ふことを考へて見ましても、今日は實に我が国に取つて大切な時である。

[國家の危機]

又之れを強い詞で申せば、今日は殆んど我が國の危機と言ふべき時に遭遇して居る。其の危機を救ふについて、其の責任の一部は我々銘々が背負ふて居る。又之れは銘々の運命の決する所であると思ふことを考へると、種々の問題が起つて來ると思ふのであります。

[諸子の態度]

此の時に當りまして、私はあなた方桜楓会員に対しまして

過去九年間、創業以來如何に銘々の修養に努力し、母校の爲めに、桜楓会の爲めにお尽しになつたかと云ふ皆さんの態度、及び主義の爲めに如何に戦ふて來られたかと云ふ熱心、忍耐については、私は一方には感謝して居ります。又不充分ながらも其の結果についても認めることが出来ると思ふ。又今日皆さんにお目にかゝつて、尤も在校の方々には一昨日からお目にかゝつて、銘々のお考へを伺ふことに致しましたが、私の殊に注意をして聞きましたのは、桜楓会の今後の發展について、又銘々の今後如何に進歩すべきかと云ふことについて深く考へて居る、其の實際についてよく知ることが大切であると考へて居ります。夫れで今日、外からお出でになつた方からいろいろ経験を伺つたならば、又将来幾らか皆さんの御相談相手になることも出来るかと思ひます。けれども今学監の仰つたよ一に余りお話の出ないのは残念ですが、凡そ私が推察に由つて大体だけは見當がつけられんことはないと思ふて居ります。

先づ十年と立て、我々の生涯の第一期を終了したと云ふ時に、今後我々は如何にすべきであるか、桜楓会の今後の發展は如何にすればよいか、又桜楓会員は将来如何にしたならばよかる一かと云ふことについて、今日は私共が深く考へねばならぬ時ではあるまいか。桜楓館内で働いておいでになる方、地方で働いておいでになる方及び校内に居る学生も、等しく之れは深く考へて居ることであると思ふ。そこで之れは本校の現状から明らかにせねばならぬ。

[本校の現状]

今や我が校は十年期を迎へよ一として居る。我々は如何なる階段に進んで居るか、銘々の現状は如何であるか、と云ふことは余程綿密に考へねばならぬ。又私が今考へて居ることだけをお話するにも余程の時を取りますから、極簡短に要点だけを申したいと思ひますが、本校の創業以來、我が桜楓会員は最も真面目なる、又最も熱心なる態度を以て努力奮闘なさつた。つまり銘々の修養、今学監も仰つた自信力、確信、銘々の實力を養ふことと同時に、犠牲の精神をも育てることが出来た。凡てのものを擧げて、出来るだけ全体に尽したいと云ふ精神をお養ひになつた、と言ふことだけは出来るであると思ふ。我が國に於ては最も出来にくい時に於て、幼稚ながらも我が桜楓会では母校の健全なる土台となる可き精神を養ふて、出来るだけ犠牲的精神を以て今日迄働いておいでになつたと云ふことは信ずることが出来る。併し今会員にはどれだけの力が出来たか。今大学擴張の一部として巡回講義なり講習会なりを始め年々に進んで行くのであるが、会員の力は果して夫れを為し能ふだけの力があるかと云ふと、問題であります。

も一一つ行き悩んで居る処を進むには如何にすればよいかと云ふと、誰れも謙遜ならざるを得ないのである。

も一一つ此の会を如何に進めて行く可きであるかと云ふと、銘々個人個人の實力に由り、徳に由らねばならぬ。又是れ迄よりも以上に全体を進めて行かねばならぬ。今後自分を進めて行くと云ふ自信力については、大に問題である。

今日は我々がも一一つ考へを注ぐ爲めに、私は其の一方を

強く言ふならば、余りに重い責任を担ひ過ぎて桜楓会員は力不相当に重い責任を負はされて、是迄の用意以上に複雑なる、又数の多い仕事を取り過ぎて来はしないかと云ふことである。之れは私は無論大体から申すのである。犠牲と云ふ方に余り傾き過ぎて自分の力を養ふ、自分の修養をも一つ完全に修めると云ふ方に余力を存しない。一言に言へば、使ひ過ぎた。余りに発表を仕過ぎて源を涸らした。木で言へば、其の木全体の營養、根の培養を怠つたではないかと云ふ味がなかる一かと云ふことを考へねばならぬ。

何故そ一云ふ感じが出来て来たかと云ふと、も一つ此に我々の望み通りに力を展ばして行くことが困難である。無論今日は我が国全体が沈衰して居る。其の社会の影響を受けて居ると云ふこともあるが、も一つ発展しなければならぬ。も一時機は来て居るのであるけれども、之れをつき破つて進むと云ふ元氣は乏しい感がある。之れは皆さんの境遇からも来るでしょーが、も一つは余りに皆さんの責任が複雑過ぎて、自分を磨くと云ふことが出来ない。やはり之れも努力しなければならぬ、時をかけねばならぬ。其の本を与へずしては出来ないことであります。

故に私が過去十年間の経験に由り、皆さんのお考へによると少し考へて見ねばならぬと思ふ。私は皆さんよりも少し年を取って居りますし、いろいろ経験もして参りましたが、男女と云ふ区別も無論或処にはあるが、自分を磨くとか、社会の爲めに尽すとか、自分の精神を作るとか云ふことについては余り男女の違いはないと思ふ。けれども今迄私は自分が修養をして来た処の経験を示して、其の通りにして行くならば必ず出来るものであると考へたのであります。何となれば、私は十三の時から独立をして、一方には学問をし、一方には修養をして、しなければならぬ処の Duty と云ふものが何時もあつて、自分を養ふと云ふことと全体の爲めに尽すと云ふことを、今日迄ずっと一緒にして参りました。或時には、少し学校へ入つて学問をした方がよいと勧める人もありましたけれども、私は何時も前申した通りにして参りましたから、皆さんも自分の修養をすることと公共の爲めに尽すと云ふことを一緒にしておいでになつたのであるが、一昨日も聞いて見ると、始終仕事に逐はれて居つて、自分の爲めに読書する時を持つておいでになる方は殆んどないのである。

こ一云ふことは是迄、時に聞いたのであるけれども、私は未だ夫れは決心が足りないからであると申しました。何となれば、私は自分の経験からして出来ぬ筈はないと申して、鞭つて来たのであります。

私自身に始終鞭に鞭つて来たと云ふ感じがありますが、あなた方にも少し犠牲と云ふことが過ぎて、其の日暮しのよ一なことをして、力が尽きて来たのではないかと。夫れではど一してもほんとの事は出来ぬ。犠牲と云ふことにも、一方には利己と云ふことがなければならぬ。生存競争と云ふこと、自分を保護して自分を完全にし、人に負けないよ一にすると云ふことは人生の Reality である。

[真の犠牲]

然るに、自分を救ふことが出来ない、一向役に立たぬと云

ふことでは、犠牲にも何にもなれないのであります。自分がほんとの一に立派な人格を作り、之れを現はそ一、価値ある人にならうと云ふことがなければ、真の犠牲とはなれないのである。人間の生涯の目的は何であるか。競争である。走ることも働くことも決して人の後へにはつくまい、早く向ふに到達しよ一、と云ふことであります。然るに是迄の教育には其の傾きを減少しよ一、抑へつけよ一とすることが多かつた。之れが婦人の進むことの出来なかつた原因であります。そこで大切なものは相互扶助主義である。之れがなければ全体が進むことは出来ないのであるが、桜楓会では是れ迄ど一も銘々を養ふと云ふ余力がなかつたのであるが、是れから十年期迄には銘々大に決心して、も少し会員を養ひ立て、全体の力をつける、自分を拵へると云ふことに骨を折ることが必要であると思ふ。

夫れについて方法を申したい。も一つ深い覚悟をし、も一つ堅い決心をし、も一つ態度を改めて、つまり生れかはるよ一な経験をすることが必要である。之れは度々申したことでありますが、併し夫れだけでは足りない。何となれば、今少し醒めたけれども、少し時がたつと又眠りかけると云ふことになる。故に何か此に新しい処の材料を加へるとか、今迄ない処の活動を起こして来るとか云ふ方法を講じなければならぬと考へる。之れは桜楓館内に働いて居る人でも、教育事業に携はつて居る人でも、亦家庭の中に入って人の妻となり、母となる人でも同じことである。

[道徳と標準]

今講義録に書かうと致して居る道徳と標準と云ふことについて、倫理学説を快樂説、克己説及び合理説と三つに大別致しますると、其の快樂説とは欲望を満足して、其の愉快に由つて身体も慰安を覚え、そして満足するよ一になる。之れも確に欠く可からざることである。之れと同じよ一に我々の精神にも欠く可からざる欲望がある。夫れを満す時には満足して幸福を感じると云ふことになる。そこであなた方も幸福でなければならぬ。満足が出来なければならぬ。あなたの理想として居る処のものが実行せらるよ一に、あなたの事業が成功しなければ決して満足は得られないのである。

[吾人の真の欲望]

其の幸福、満足が得られなければ、人間と云ふものは決して進むことは出来るものでない。其の幸福、其の満足は何に由つて得らるよ一か、我々の真の欲望は何であるかと言へば、つまり進むと云ふことである。我々の倦怠の情、生涯が嫌になる厭世観を生ずるかと言ふと、つまり宇宙の目的であり全体の傾向である処の進歩に伴はないからであります。我が国には何故離婚が多いかと云ふと、あきたからである。之が夫婦喧嘩の本であり、離婚の原因であると思ふ。此のあきると云ふことは同じことを繰り返して居るからである。妻が嫌になり、友が嫌になるのも無理はない。同じことばかり繰り返して、少しも進みの見えぬ時は、自分が自分で嫌になるからである。そこでど一しても主婦となつた人は同じことを繰り返さないよ一に、毎日毎日進んで行かるとよ一にならねばならぬ。夫婦間でも進まねばあきるのであります。

[進歩]

其の他社会でも友達でも同じことである。学校の先生でも何時も同じことを繰り返して居ると、生徒は自然其の先生を尊敬しなくなるのであります。故に益々善い方に、益々強くなるよ一に変わる、進歩して行くと言ふことが大切である。是れは若い時程よく出来て、年取ると変り難いと申しますが、自身の心掛けに由つては、墓場に入る迄変つて行かれるであろうと考へます。私があなた方の御参考に供したいことは、如何にすれば古い人が死んで、新しい人が生れて来ると云ふよ一に変わり得られるかと云ふと、之れは只自分の態度ばかりでは出来ない。ど一しても我々の生活する境遇に変化を与へねばならぬ。私は十三の時から独立をして三年毎に所を変へて、教育と云ふこと、女子教育と云ふことにきめてからは夫れは変へないけれども、時には伝道をし、時には青年を率いて、仕事も段々変へて参りましたが、御婦人の生涯は単調子である。そこで此の学校でも、三年位に此の境遇をかへて行くと言ふことが理想的ではあるまいか。ほんとの意味に於て読む物から、交はる人から、執る職業から、すっきりかへて見る必要ではあるまいか。苦楽と云ふこと、幸不幸と云ふことは、やはり我々を教育する処の自然の刺激であります。故に之れを深く考へて、ど一か私共は毎日自分を發揮し、自分の人格を展ばすと云ふことを勉めたいものである。我々は実は努力せざるを得ないのである。

[努力]

努力はひとりで出来る活動である。ど一か此の道理をよく了解して、今後の大勢に加はつて今後の活動をすることの出来るよ一に。今後大に銘々を完全にして、秋から充分目をさまして十年期には必ず一つの結果を現すよ一に致したいものであると考へます。

[中表紙]

始業式に於ける御話
明治四十二年九月十一日

明治四十二年九月十一日
始業式にて

第二期の始業式に於て、一言挨拶を述べたいと思ふことがあります。又此の夏季休暇中に、あなた方が最も真面目に且つ熱心にお尽しになったことについて、茲に一言認めておきたいと思ひますが、今日は大分時が少なくなりましたから、夫れを申す暇がありません。

[諸子の態度]

併しあなた方の境遇と此の夏の働きについては、充分認める処があります。且つ今朝、此の堂で皆さんにお目にかゝりまして最も深く愉快に感じますことは、皆さんの態度が此の収穫の時に於ける実の如く、充実したる処がある。何か大に考ふる処あり、将来に計画する処があつて、何か新しい経

験を積んで心に悟る処もあり、希望する処もありまして、自からあなた方の頭は下に下がる。よく熟した稲が段々低く頭を垂るよ一に自ら謙遜に、自ら真面目な態度が一同に現れるよ一に感じまして、私は今朝、皆さんにお目にかゝることを愉快に感じます。夫れで幾分、今朝私がお話しよ一と思ふことが變つて参りました。

此の一年中の最もよい時候、学問にも修養にも最も多くの収穫を見るべき好時機にあたりまして、充分なる決心と考へとが出来て居ると考へまして、私は今日は極打ち明けて、私の真相であると思ふことを申して皆さんの参考に供して、今後のあなた方の為めに批評的に申そ一と思ふ。批評的とは改善を意味するので、今後の結果をよくしよ一と云ふのである。そこでよい方は言はないで、欠点について申したいと考へる。

今岸本教授より有益なお話がありました。我々の深く考へんければならない理想について、殊に我国婦人の高等教育をお受けになるあなた方の理想について、懇々とお話があつた。之も誠に必要なことであり、あなた方は夫れからいろいろお考へになる処がある一と思ふ。又第一期におきまして各教授からお受けになった学問、又銘々研究調査なされた学問、又は此の学年及び将来の為に立てになったいろいろの計画も、充分あなた方の心に確立して居よ一と思ふ。その他、夏期寮に残り、又宅に歸つて、いろいろお尽しになったことに就いても、多くの新しい経験をお積みになったことと考へます。

且つ、本校創立以来九ヶ年、將に十年期を迎へんとして居る。此の間に我々はいろいろ経験を持って居ります。是れ等のものを総合致しまして、茲に一つの理想が描かれ、又夫れに達せんとする計画も描かれて居る。之れを全卒業生に比べて見るならば一層明確であり、又貴重であると思ひます。夫れで此の期に学問の仕方、運動の方法、即ち我々は何を為すべきか、第二に如何に為すべきかと云ふことについては、大分明瞭になつて来た。全体のことを見る目が明らかになつたと言ふことが出来ます。

[Clear ideas]

之れを一言で言ふならば、Clear ideas が出来て居る。今日の学生、あなた方には明晰なる頭が出来て来た。明らかなる考へが立つたと言ふことが出来ます。之れは前の校風に比べては著しい進歩であると言はれましょ一。併し其の裏には欠点がある。私は時を省く為めに単刀直入に言つて、之れを改めることが必要であると考へます。

[Vivid ideas]

夫れは、Clear ideas は出来たが、Vivid ideas が欠けて居る。Clear ideas とは其の主なる要素は知的である、学問である、知識である。之れから先き歩む可き道はどの方向であると言ふことは、銘々明らかに分かるよ一になつたと云ふことである。併し夫れだけで、力が出来るか。夫れだけで、あなた方の前にある計画が成し遂げらるゝか。今日我國学生の力の出ないのも、我国社会の計画の遂行せられないのも、全く此に歸因するのである。計画が出来ても熱心が足りない、意志が薄弱である、遂行する勇気が足りないのである。Vivid

と云ふ中には活発とか、熱心とか、迅速とか、精気盛んなるとか云ふ意味があって、我々の行路には幾多の難山があり、限りなき反対、障害が横たはって居るのである。之れに勝つ力、其の困難に勝つ力、妨げに打ち勝つ力、即ち只わかったのではない、其の考へを行ふと云ふ熱心です。之れから我々が其の計画を成し遂げると云ふ態度です。Vivid と云ふ英語の中には成し遂げると云ふ力が湧き、其の活動が起って居ることを意味するのである。如何なる困難にも打ち勝ち、如何なる誘惑にも戦ふて、之れを成し遂げよ一、之れを全体に及ぼして行かうと云ふ態度を言ふのである。私が何故之れを申すかと言へば、皆さんも一過去を考へ、現在を思ひ、未来について深く決心する処があったでしょー。

[本校の過去十年間を分けて]

私も此の夏、深く考へました。此の女子大学の十年間を分けてば、凡そ第二期に分けられると思ふ。其の前半期、過去五年間にはど一云ふことが出来たかと云ふと、此の Vivid ideas と云ふものが充実して居ったと思ふ。其の代り Clear と云ふことが欠けて居りました。桜楓会に於ても、学校に於ても、何事も辞せない、喜んで母校の爲めに尽すと云ふ精神には満ちて居ったのである。側目をふらずに突進して行くと云ふ有様であった。其の熱心が評議員を動かし、世間を動かしたと云ふことは、疑ふ可からざる事実であります。Clear ideas を欠いて居りました。

然るに其の Clear ideas が足りない爲めに、其の決心は妄断ではないかと云ふよ一な考へも起って来て、余程用心深くなって来ました。之れは第二の発展に欠く可からざる要素でありました。今日では其の代りに幾らか臆病になって来て、危険に妨げられないと云ふ様な決心が鈍って来たのではあるまいか。善と知らば行へと云ふよ一な力が鈍って来た。之れは大に覚悟しなければならぬことであると思ふ。

[天災地変]

併し之れを私が申すのは、あなた方が真面目に此の夏を送っておいでになったのみならず、各々何かを決心して帰られたと思ふ。此の夏は炎天焼くが如く、其の上に加へて大阪の大火を始めとして諸所に地震などもあり、其の他腹膜炎、血膜炎などになったと云ふよ一なものも、少しはある。此の学年に、三年の一部分は軽井沢に暑を避けて夏季学校を開くと云ふと意志薄弱のよ一であるが、そ一ではない。我々の同胞である農民は此の炎天に身を晒して、朝は早く、夜は遅く迄働いて居るのであります。

殊に其の結論会の前夜には、凄まじい落雷が二度迄もあったのです。此の一年に一度の結論会、五十年の計画に対しましても、亦我が国家の危急存亡に関する覚悟に対しましても、も一自覚を要するのである。つまり其の Clear ideas を拵へて、之れを實現して行かうと云ふ熱心なり、希望なりがど一も不足に感ずる、浅く感ずる、鈍く感ずると云ふことになります。

併しあなた方は決心は持って居る。之れからやってみますと云ふ決断は持って戻ったが、いざ実行すると云ふ場合になると、又ど一も出来ませんと云ふ事になりはしないかと、之

れが今日の問題であります。此の問題を深く此の季の始めに考へて、我々は此の期の業に取りかかり度いと考へます。

第一に、之れから非常によい気候になる。二た月の間、大に境遇を変へて、健康も非常に増進して帰ったから、一年中最もよい時、最も働きの出来る時。又三期の中で一番長い学期に於て、出来るだけ力を充実して行かうと云ふことは、皆さん考へて居らるゝに相違ない。併し夫れを實行するには空ではいけない。故に其の具体的案としては、先学期の末に桜楓会の方で通信の終りに印刷してお分けになったのであるから、貯金とか手工とか云ふことについても、いろいろお考へがあらうと考へます。

之れ等のことは、まだまだ大に考へなければならぬ余地があるけれども、そ一云ふことについて凡その研究、取調べ及び計画等は出来て居るから、今日最も大切なことは、之れを行ふと云ふことであります。

[今秋実行すべき仕事]

さて、大体のことは省いておきまして、此の秋実行せねばならぬ仕事の一、二を申しておきたい。

[洋風寮に就きて]

此の秋から充分研究しておいて、来年四月から学生生活の第一要素の境遇に改善を加へたいと思ふことは寮舎生活であるが、休み中の一つの変化として今日申さねばならぬのは晩香寮であります。予て本校に西洋風の寮舎と純日本風の寮舎とを設けたいと云ふことは創立当初からの理想であつて、其の洋風寮の方は Osborne さんにお頼みすることになりました。それで Osborne さんは此の寮舎を建てる爲めに態々一年間彼方の寄宿舎を調べておいでになつて、お引き受け下さつたのである。こ一云ふ事は我が国に始めての事でありました。故に我が国では経験のない事であり、又彼方とは事情も違ふ。故に非常のお骨折れであつた事は事実です。

夫れから第五回卒業生の中の五、六名の方も、自分達は之れから眞の研究を始めたい。夫れには英語の都合もよいからと云ふことで、之れを成り立たすには大に尽力せられたのであります。併しこ一云ふ寮舎を建設して、全校に感化を及ぼすと云ふことは中々困難である。其の困難の原因にはいろいろありましたでしょー。併し謙遜に言へば、ど一しても之れを成し遂げると云ふ勇気が足りなかつた、決心が足りなかつたのである。夫れで再び人を入れて、そ一云ふ寮舎も亦純日本風の寮舎も出来ると云ふ暁が来なければならぬ。其の中途にして Osborne さんが Mission の爲めにお辞しにならねばならぬことになつたので、Osborne さんは始めから別に Mission がおありなさるのである。故に我々は其の事情を察して辞表を容れましたので、Osborne さんは今日限り寮監をお辞しになつて、猶英文科に数時間だけは教員として、Friend としてお話し下さるのであります。夫れで誠に十三人の方にはお気の毒でありますけれども、もとの寮舎に帰って貰ひたい。又夫れに近い折衷寮においでにならうとも、夫れは随意であります。

[日英博覧会]

夫れから来年四月に開かれます処の日英博覧会に、東洋の

女子大学を代表して出品することになりました。之れは今年十一月迄に用意して出さねばならぬ。其の第一は予て拵へかけて居りました本校の一覽であります。その他、生徒の製作品なども出来れば出したいものである。之れを何故あなた方全校に申すかと云ふと、其の責任はあなた方全校にあるのである。

文部省に於ては、本校を東洋唯一の女子大学として世界に紹介すると云ふことである。そこで之れは本校に取つても、世界の大学と顔を合はせることであり、人類文明の爲めに一致協同する処の仲間入りをする端緒を開くのである。然るに一覽に於て、写真に於て、表に於て紹介するのみで、其の實が伸びねば有名無実となるのであります。昨日私の所に参りましたハーバースの雑誌に、我が女子大学のことが斯う云ふ風に紹介せられて居ります。

(本文を省く)

此のよ一に、此の女子大学は世界に紹介せられつゝあるのです。承認せられつゝあるのです。賛成せられつゝあるのです。然るに我国に於てはど一かと云ふと、未だ余りに此の女子大学を認めないお方もある。甚しきに至つては、反対説を称へて居らるゝ人もあります。故にあなた方は此の夏の間、ど一云ふ批難攻撃を耳にして歸られたかも存じませんが、夫れは兎に角、我々の方針は世界の趨勢を見て定めねばならぬ。けれども、あなた方は此の日英博覧会の爲めに如何なるものを出すべきであるか、之れが我々の此の秋に於て爲すべき仕事の一つであります。

段々時が過ぎましたから、今日申さうと思つて居た事は又他日申すことに致しますが、あなた方は此の秋、大に決心する処があつてお歸りになつたのであるから、ど一か之れを何処迄も遂行すると云ふ考へを以て、充分覚悟をなさつて着々其の實を挙げて戴きたいものと考へます。

[中表紙]

第三学年及び第二学年にての御話
明治四十二年九月十五日

明治四十二年九月十五日
第三学年及び第二学年にて

今、各部から此の夏季休業間の経験、又はお立てになつた所の計画等についてお話になりましたが、之れについて疑問のあるお方、又各部から代表して仰つた事について少しく補つておきたいと思ふ方があるならば仰つて戴きたい。なければ引き続き個人の経験を述べて戴きましょー……

今各部から御報告なさつたことで、大体此の夏の間ど一云ふことをなさつたか、ど一云ふ事を見ておいでになつたか、又此の学期にど一云ふ希望を持つてお歸りになつたかと云ふこともわかりました。又我が国家の上から考へても銘々の希望から言つても、ど一しても此の儘では居られない。是れに

ついては斯うしなければならぬ、今の經濟の事にしても我々は斯う云ふ意見がある、も少し力をつけるには斯うする、会は斯う云ふ様にしなければならぬ、と云ふ考へなり方法が出て来なければならぬ。も少し何か其処に發明する処があるとか、発見する処があるとか、又我々が今学期の全体を導いて行くに必要な材料が続々現れて来なければならぬ。

其の新しい考へが銘々の心の中に充ち満ちて居るならば、ど一しても発表せずには居られない。そ一して喜びに満ちて現れる筈である。故に私は、も少し具体的にした案とか、又銘々の計画して居る処の方針とか云ふものが続々出て来べきものと思ふ。二ヶ月の間、全く自分で使ふ時を用ひて、新しい経験と新しい力を持つて此処においでになつたのであるから、時が足りないとは言はれない。一年の中で此の二ヶ月は皆さんが最も自動的に用ひた時である。故に若し夫れがないならば、未だ熱心が足りないのであつたと云ふことになる。そこでど一しても斯うせねばならぬ、明日から此の事に着手すると云ふ風に、之れを聞く総ての者が奮起するよ一に準備した会が開かれねばならぬ。又二ヶ月間別れて居つて久しぶりに相会したのであるから、社会心のある人、忠義心のある人は皆喜んで聞きたい事と思ふ。故に私は時間も少ない事であるから、極簡単にでも少し銘々から言ひ表して下さることを望むのであります。

(生徒の答へを省く)

いろいろ聞き度いのですが、時を取りますから少し全体に問ひをかけて、挙手して表してもらひましょー。

- (1) あなた方が夏休みの当初にお立てになつた計画は、充分に成し遂げたと思ふ人………無し
- (2) 充分に出来なかつたと思ふ人………多数
- (3) 其の出来なかつた原因にはいろいろありましょーが、其の責任は自分に負ふべきものと感ずる者は………多数
其の責任は他にあると思ふ者は………無し
- (4) 然らば其の原因を問ひましょー。

一年中に一番自動的に事をして行くべき時に、意の如くならなかつたと思ふならば、其の原因は何処にあるか。之れは第二期の業を始めるに當つて、最も真面目に考ふべき事と思ふ。皆さんは、ど一お考へになるのですか。

- (い) 村なり町なり、あなたの四囲の境遇の經濟難に基づくと思ふ者は………
其の經濟難を自分の生活上に感じたと思ふものは………無し
- (ろ) 時の不足を感じたる者………一人
- (は) 健康の足らざる爲めと思ふ者は………稍多
- (に) Clear ideas の欠乏………少数
- (ほ) Vivid ideas の欠乏………大多数

[Vivid ideas の欠乏]

私は之れが出来たならば、經濟も時も健康も皆足りて来ると思ふ。然るに夫れが足りないならば、やはり最後のものゝ出来て居ない事に歸すると思ひます。ど一しても學問をしよ一と思ふならば、も少し研究を進めよ一と思ふならば、又も少し健康を増進しよ一、便利なる住居を拵へよ一と思ふなら

ば、どーしても金を要するのであるから、是非働かねばならぬ。も少し皆さんがよく考へて御覧になるならば、裕かな人でも経済については、やはり困難を感じるのである。併し第五のものが出来たなら、其の勇氣があるならば、経済も自ら整つて来るのである。あなたが此の夏お考へになつた様に、幾分か貯金もしよ一、又お始めになつた事を成功して行かうと思ふならば、どーしても此の最後のものを養はねばなりません。

- ・困難に打ち勝ち得たと言はるゝ人は……無し
- ・勝つことは出来なかつたが、奮闘はして居ると云ふ者は………稍多

私が経済難に戦ひました経験を申すならば、夫れは非常な奮闘をしなければなりません。私は十三の時、親の許を辞してから少しも助けは受けません。只私が大阪で女学校を建てた時だけは、父が既に没して居りまして、少々遺産を売り払つて其の資金にあてました。私が先祖から伝はつたものを用ひたのは此の時だけで、其の前後少しも親から学資を受けないのみならず、他人からも助けは乞はぬ、そして借金もしないと云ふ主義で今日迄参りました。其の頃にも米と塩とだけはなくてはならぬものであるから買ひましたが、よく人の詞に、生活が困難で食へぬと云ふことを聞きませうけれども、私は口すぎの出来なかつた事はない。夫れには米を搗くとか、薪を割るとか、自分の専門でない事を人に教へるとか云ふこともせねばならぬけれども、必要があるならば斯くの如き生活をもして、其の困難に勝たなければならぬ。時間は足りないが、其の時間を足らして学問をしなければ、到底勉強は出来ないのです。故に私は、あなた方が時が足りない為めに、或は健康が弱い為めに出来ないと云ふならば、やはり熱心が又其の努力が足りないからであると考へます。

日英博覧会出品に就きて学監のお話の後にて

此の前に、仏蘭西人でカソと云ふ有力な富豪が日本の教育を視察に来られた事がある。其の動機を聞きますと、欧羅巴其の他の Christ 教国民は、Christ 教を広める為には財産を捧げ、又生命をも抛つた人があるけれども、そ一云ふ風な宗派と云ふ狭い考へに由らずして、人種とか宗教とか云ふ区別なしに人類と云ふ目的を以て、世界に人類を扶植すると云ふ考へを以て来た人はない。然るにカソと云ふ人は、今迄自分で拵へた資産を我が子孫に遺すと云ふ考へはない。自分は独身者であるが、之れを宗派、人類と云ふ区別から超越して、何か人類の為に、自分と主義のあふ処に捧げたいと云ふ考へであつた。そ一して一日、此の女子大学を見て歸りまして、規則や其の他小冊子のよ一なものを取つて歸りましたが、其の後國に歸つて悉く之れを仏語に翻訳して、我が女子大学を世界に紹介して居るのみならず、此の学校でとつた写真、其の他旅行中に撮影したものを合せて千余枚の自然色の写真を、此の間送つて参りました。又 Chicago 大学総長の Bolton と云ふ人も、やはりカソと同じよ一な考へを持って来られたのである。極広い、極高尚なる目的を以て、莫大なる金を投じて東洋の青年の為に一大学を起こしたい。之れは支那におくか、何処におくか未だ決しないと云ふことである。此の人も

女子大学の主義を聞き、又實際を見て、非常に感じられたよ一である。

博士は軽井沢滞在中、態々三泉寮に来られて、寮生の為めに一場の話をし、又私とも二時間余り教育上の話をして、いろいろ意見を交換する所がありました。

其の時私は、我國の教育は精神教育を欠いて居るが、之れが凡ての本である。夫れをど一して行かふかと云ふと、此の女子大学でして居る処の實際について、是非斯う云ふよ一に導くことが大切であると話しました所が、Bolton さんと非常に考へが一致するのである。

今我が女子大学と云ふものは、東洋に於て唯一のものである。殊に其の精神的生命と云ふものを養ふに、孰れの宗派にもよらず、又凡ての宗教をも敵視せずして、東西両洋の宗教の真髓を入れてやつて居る。此に一つの生命があり、特色がある。斯う云ふことについても、如何にして表すかと云ふ事を考へておく可きであらうと思ふ。

此の事に引き続いて私は、晩香寮のこと、其の寮監の Osborne さんのことに就いて、一言述べたいと思ふ。

Osborne さんは米國の御婦人であるけれども、私共は決して之れを他所の御方とは考へない。殆んど兄弟姉妹のよ一に思ふ。人種が違ふ、色が違ふと云つて、人格の高下のあるものでない。

[偏見を去りて万国主義となるべし]

併し人種に由り、宗派に由つて、やゝもすれば偏見がある。我々は此の人種及び宗教に対する偏見を取り去つて、世界万国主義とならねばならぬ。

此の頃段々そ一云ふ偏見が薄らいで、新しい調和の起ころ一とすることは誠に喜ばしいことである。其の空気を養ふに最も大切な力のあつたのは、Osborne さんであります。

此のお方は私の知つて居る中で一番日本のことがよくわかり、日本人と一番よく調和の出来るお方であると思ふ。其の他、此の近辺に居を占めて、子供を此の学校に入れるとか、共に意見を披瀝するとかして、凡ての Nationality が一つになつて来ることは誠に賀すべきことである。そ一云ふ空気を作り、調和を計る為めに最も力をお尽しになつたのは、即ち Osborne さんである。

[Miss Osborne]

Osborne さんは御承知の通り Christian であり、其の精神は Christian spirit である。そ一して、一つの Yankee spirit と云ふ亜米利加魂がある。兎角外國の人は日本人を輕侮し、日本人から学ぶと云ふことは少ないものであるが、Osborne さんは極謙遜な同情ある態度を以て此の實踐倫理にも出席して、分かれぬ所は英語の出来る人に聞き、宗教家であるけれども宗教家くさくない。そこで無理に勤めるとか、所謂、我田引水と云ふよ一なこともない。唯だ英語を教へるばかりでなく、出来るだけ此の大学を外國に紹介して、所謂大調和の為に大に力を尽して下さつたことは、私の日頃感じて居る所であります。

[徳の人]

其の外、誠に女らしい親切な御方である。所謂、徳の人で

あって、出来る丈の親切を尽しておいでになると云ふことは、皆さんの等しく認める所である。然るに、今度止むを得ず寮監を辞して、所を変へらるゝにも拘らず、やはり此の学校の人として、学校を自分のものとして尽さうと云ふ態度の表れて居ることは、我々の深く感謝する所であります。又あとについてもいろいろ心配も致しましたが、皆此の秋からの計画を立て、折角希望を持って歸られたのに、余儀なく解散するのであるからど一であるかと心配しましたけれども、皆さん直ちに決心して、夫れ夫れ寮舎にお入りになりましたから、Osborne さんも之れだけは御安心が出来たことと思ひます。

これから Osborne さんに一言御話をして戴き、通訳は平野さんに御頼み致します。

[中表紙]

第一学年にての御話
明治四十二年九月十八日

明治四十二年九月十八日
第一学年に於て

〔夏休みの経験及び今学期の計画に関する生徒の報告を〕
省く

[実力とは如何]

今段々お話を聞いて居りますと、実力が足りないと言ふ御話ですが、実力とは一体どんなものでありましょ一か。

- ・ 臨機応変の処置の出来ること。
- ・ 常識。
- ・ 経験。
- ・ 役に立つこと。
- ・ 境遇に順応し、且つ之を開拓し得ること。

今我が国で博士と云ふ号を与へる、又学校で Weak と云ふことはどれ丈のものを知って居るかと言ふことであるけれども、今あなた方の考へて居らるゝことは夫れとは少し違ふよ一である。

あなた方の仰った詞は皆違ふけれども、根本のことである様です。そこですな。今世間で学者と言はれる人は、本は沢山読んで居るけれども、事をさせて見ると出来ない。活問題に対しては判断が出来ない。又其の判断が間違ひ易い。困難にあふて挫折する。仕事を始めて終始一貫することが出来ない。そ一云ふことを力がないと言ふのです。

然るに今日の我が国の教育は、国民の要求に適しないよ一に出来て居る。之れが、私は我が国民の力の発展しない所以であると思ふ。之れは詞には言ひ易いが、之れがほんとい一にあなた方の頭に Vivid にわかつて居るかど一か。之れがその非常に複雑な問題である。之れがほんとい一によくわかれば、非常に力が展びる。又学問をする上に、修養をする上に非常に興味が出て、非常なる元気を以てすることが出来る。之れ

が活きた考へ、活きた知識になって居るである一か、之れが問題であります。

・ 活きた考へになって居ると、自信の出来るお方は……………

私は、此の期からは大に此の力を養ひたいと思ふ。も一一つは、あなた方に一つの特権がある。卒業迄に大に此の実力を養ひ得る特権がある。今日迄、其の教育をしたいけれども中々六かしかつたのですが、真に実力ある教育を、あなた方の卒業の時には発揮したいと思ふ。今少し夫れを申しかけやうと思ひましたが、も一時が参りましたから今日は之れを申す暇がありませんが、宿題にしておきましょ一。

(1) 実力とは如何なるものか。

(2) 真の実力は如何にして養ふ可きか。

(3) 特権があるとは何を意味するのである一か。

之れをほんとい一に Vivid ideas にして、此の次の論理迄に皆さん残らず書いてお出し下さい。

[中表紙]

第三学年及び第二学年にての御話
明治四十二年九月二十二日

明治四十二年九月二十二日
第三学年及び第二学年にて

此の夏休みに論文を起稿した人は……………無し

題目の定まったものは……………少数

未だ夫れの定まらないものは……………多数

論文を草するに當って、一番困難を感じることは何でありましょ一か。

・ 結論をつくること。

出版部の方の経験を聞きましょ一。

・ 題目を選ぶことでありまして、既に題目の定まった頃には、其の内容も略ぼ出来上って居る位でござります。

私もそ一云ふ経験を屢々するのである。其の題目を選ぶことが大切である。これには先づ、此の間申した Hypothesis 及び Postulate を作る事が最も必要であります。彼の Newton は或る一つの問題を以て、始終其の事を考へて居りましたが、或る時林檎の落つるのを見て、俄に Suggest されて、遂に夫れが基となって引力の発見を致しました。

[仮説]

Kepler と云ふ名高い学者(天文学)は、我々の目に燦然として映る処の火星に就いて、彼れは 15 ばかりの仮説を作ることが出来たと云ふ。此の仮説は何事にも必要なことであります。此の間お話致しました Burbank の最も苦心したことは、或る植物について一つの仮説を作ること、其の仮説の証明をするには凡そ 10 年かゝると云ふ。10 年試して後に始めて其の仮説を証明することが出来ると申して居ります。之れは誰れも大切なことであるが、殊に Burbank などは其の天才を持って居ると言つて宜しい。

【題目と結論】

あなた方の論文にしても、其の仮説を作ることが即ち題目の成る所以であります。故に一つの論文を草するにも余程苦心をしなければならぬが、殊に意力を要するのは題目を選ぶとか、結論をつけるとか云ふときであります。其の力を養ふことが、真の活きた力を養ふことになるのであります。

【女子高等教育の結果を証明せざる可らず】

其の力を充分此の秋に於て皆さんがお養ひになることを希望致しますが、夫れのみならず、此の秋から明年の春に亘つて我々は、此の女子高等教育の結果を証明するに足る可き一大論文を草せんと欲するのである。

【一大論文】

我々は今より十年前に一つの女子教育に対する仮説又は要求仮定を拵えて爾來十年の間、愈々建築を始め、教職員を組織し、生徒を募集することを始めましてから、来る四月に於て満十年となります。開校から言へば明後年が満10年になるのである。故に其の結論をつけねばならぬ時機に到達致したのであります。其の論文は如何にして作らるゝのであるか。800余名の卒業生、及び在校の大学部を集めて約1000人以上の人々、之れが其の材料となるのである。

【論文の材料之大別】

其の材料を大別して、

(1, 2,) (3, 4, | 5, 6,) (7, 8,)

と致します。第一回、第二回は先づ大学の長老であり、三、四、五、六回は中老である。之れに対して第七回、第八回は小老と名づけてもよろしかろ一。本校の十年期の働きの結果として現はる可きものは何であらるか。私は第七、八回生と一緒にして言はうと考へる。そこで此の大論文の結論をつけるに就いては、私ばかりではない。全校生徒及び卒業生につけて貰ひたい。そこで一番長い証明は第一回、第二回生にあると思ふ。今社会は、女子高等教育を受けた所の婦人達は如何なるものであると云ふことに注目して居る。夫れで第一、二回生は本題をきめる処の一番有力な材料として用ひらるゝのみならず、我々自身も亦其の問題に自ら解決を与ふべきものと思ふ。そこで私は校内に在るものと否やとに拘らず、第一、二回生の将来に就いて深く考へるのである。故にあなた方自身も深く反省してもらひたいと思ふ。

又今後、母校の第二の発展は如何にすべきものであるかと云ふことも、大に考へて置きたい。夫れでど一か私共は此の高等教育の結果、即ち卒業生の価値を充分此に見出したい。そ一して此の論文の結論を付ける所の最も有功なる材料とならねばならぬ。そこで三、四、五、六回は又、両方面に協同して、大に価値ある結果を見たいと思ふ。

此の取調べをするに、卒業生の力、高等教育の結果を取調ぶるに就いて、二方面がある。夫れは外に現はれて居る処の結果と、内に充実して居る処の両方面を見なければならぬ。そこを出来る丈調べて見たい。併し先づ第一に考へてもらひたいことは、自分である。故にまづ先きに銘々から始めて貰

ひたい。夫れを始めるにいろいろな事がありましょ一が、自分達は真に高等教育を受けた価値があるであらるか。之れは先づ自分の人格である、徳である。徳が備はつて居り、徳の力、其の感化力と云ふ我々の一番希望して居るものが出来たであらるか。之れが長い間の女子教育の問題であつたのです。

婦人に高等の学問をさせると、高慢、生意気になる。殊に婦人と云ふものは、名誉とか位とか云ふ表面的の事を好むものである。そ一云ふものに教育を施すならば、益々虚栄心を増長せしむる事になるであら一と云ふ説があつた。之れは今日も猶あることである。然るに我々は夫れに反対に、仮説を立てたのである。即ち婦人が生意気であるとか、傲慢であるとか、又は虚栄心に駆られ易いと云ふよ一なことは、皆教育が足りないから起こることで、之を改むるには、ど一しても高等の教育を授くるより外はないと云ふことを公言致しました。即ち、凡ての学問の土台に於て、我々は教育を施して来たのである。あなた方は修養と云ふことについて、一番勉めておいでになつたのである。此の親切とか、柔和とか、人に対して誠に謙遜である処の婦人の美德、恒徳と云ふものは、果して我々に出来たであらるか。如何に学問、技術は出来ても、未だど一も少し我が儘であるとか、生意気であるとか、人に対して不親切であるとか云ふことがあるならば、だめである。

故に第一、此の永久不変に価値ある処の徳は備はつたであらるか。第二に実力。之れは何に由つて計り得るかと云ふと、自分達の毎日働いて居ることが有益であるか。学校に対し、寮舎に対し、或は自分の家に対し、友達に対し、或は自分の仕事に対し、桜楓会に対して、真に自分は有益なる働きを為し得るか否や。又仕事をする上に、人と交際をする上に最も常識に富み、且つ熟練なる働きを為し得るか否や。又此の複雑なる社会に生活して、間断なき判断を下す上に正当なる判断を為し得るか否や。又生涯の自分の天職として居る仕事についての研究は、はかか行くか否や。自分の職業に必要な知識は発達しつゝあるか否や。種々の困難に打ち勝つ力、如何なる困難にも忍耐して撓まないと云ふ、極鞏固なる不撓の力を養ひつゝあるか否や。又論文を書くに、丁度よく仮説も出来、結論もつくか否や。又本を読むに、誠によくわかつて、所謂 Vivid ideas となつて統一せられつゝあるか否や。此の大学教育は卒業後に於て、其の効果を現すものである。卒業後に於て、限りなく進歩し得るものであると云ふことが、銘々の実際に於て証明せられつゝあるか否や。之れが問題である。

第三に、意志=永久不朽なる人格、即ち自分達の生活は感情に支配せられたり、境遇に制せられたりすることなくして、却つて自分の意志を以て境遇を開いて行き、又時々刻々に起る処の感情を支配して行く処の意志、或は人格と云ふ様な力が、日々に進んで行きつゝあるか否や。我々が10年前に立てました仮説は、此の1000人余りの卒業生に由つて大抵証明せられて来ました。併し其の中で薄弱なるもの、未だ其の証拠が不十分であると云ふ部分が残つて居るのであります。

今日之れから一番努力して貰ひたいと思ふ点は、之れであります。私の考へでは、之れが凡ての困難の土台であると思

ふ。故に其処迄達することが出来たならば、我々が女子教育について初めて安心することが出来る。又ほんとの信仰、御婦人の御方について我々がほんとの信用をおくことが出来る。物を任せることが出来ると思ふ。私は過去 30 年の間、毎年多くの御婦人と同盟を作って来たのであります。

極固い約束をするのである。そ—して其の態度なり、其の詞なりが少しも真面目を欠いて居ない。本気である。其の決心と云ふものが少しも浮いては居らぬ。偽りではない。非常に着実である。故に私は何時も必ず其の時に信を置くのみならず、其の人の生涯に就いて非常に嘱望するのである。之れは絶対に対して相誓ふのであるから、誠に固い約束をした処の大きな団体を有して居るのであります。

[Friendship]

然るに其の約束を履行して、生涯の間少しも変らない、其の時の決心、其の時の態度が少しも変って居らないならば、我々は其の人をさして、意志の人、実行の人、人格の人と言ふのである。そ—云ふ人ならば生涯変ることなくして、必ず遂行し得る処の力ある人である。或は今其の力はないけれども、将来必ず其の力が発揮して来るのである。其の力あって我々は始めて、Friendship と言ふことが出来るのである。我々の最も強き会員と称するに足るのであります。然るに此の大学が出来ましてからは未だ日が浅いからわかりませんが、其の前から、即ち 30 年来の事を言へば、中等教育及び初等教育であつて、之れは未だ力が薄弱であるけれども、其の時分に於ても相誓ふ心は決して偽ではない。けれども直ぐ境遇に制せられて変るのである。又感情に支配せられて動いて来る。直ぐ襟涙が溢れて来る。此の感情に動かさるゝと云ふことと、境遇に制せらるゝと云ふことは、一つ事でありませぬ。

[不変の人格]

此の生涯変らないと云ふことでなければ、我々は信をおくことは出来ぬ。又親であるならば、此の娘は何処に出しても生涯変ることはないと安心することは出来ぬ。故に教育の實として生涯変らない人格を出さねばならぬ。其処迄行かねば家庭の改善とか、世の中を進めるとか言つても、逆も出来るものではない。所がそ—云ふ人物が中々出来にくいと云ふのである。皆さんのお考へでは如何でござりませうか。生涯変らぬと云ふのは、其の決心を生涯続けて行くと云ふことであります。

ほん—toに身躬を律して行くと云ふ人格ある婦人を、此の女子教育に於いて養成し得るか否や、婦人は果して其処迄進み得る者であるか否や、と云ふことが今日の問題であります。之れが中々六かしいことである。今日迄幾度か出来かけて、さて出来にくいものであります。二十才迄は婦人の中々元気な時であるが、一朝人の妻となり、母となる時は忽ちにして依頼心の奴隷となり、委縮してううのである。或は一度逆境に立ち、苦みに逢ふならば、直ぐ襟志を変じて挫折するのである。我々が今日迄あなた方と共に力を注いだのは其処である。其の原因は何処にあるであらうか。其の病原を治す為めに繰り返して繰り返して此処に叫び、あなた方も日夜努めた所であるが、夫れを明らかにする一つの考へは出来たのである

か。夫れを意志とすることが出来たのであるか。之れは知識でわかるのみならず、自分のものとなる迄にわからねばならないのである。

此の頃、朝日新聞に女子教育について掲ぐる処があつたけれども、私は教育を受けたものが無教育の者と同じとは思はれぬ。故に夫れは必ず教育を受けただけの効果があると証明し得るゝけれども、我々が理想として居る 10 年前に立てた仮説、要求仮定について、満足するだけの証明が出来たかと云ふことについては、未だ少しも此処に疑問を残すのである。多くの点について全く出来ないとは言はれぬが、是れ迄の経験に照らして見て、果して其処迄出来て居ると言はるゝであらうか。其の出来にくいことが出来て始めて真に人としての婦人が出来るのである。之れは男子でも中々六かしいことである。併し夫れは何処から出来るかと言ふならば、之れは婦人から出来て始めて、國家が要求し我々の希望する処の結果が得らるゝと思ふのであります。

然るに其処に至らずして、中途に挫折するのは問題である。皆さんは其の間に対して何とお考へになるか。お気付きになって居ることがあるならば、何でも仰つて戴きたい。

- ・ 意志の薄弱、自覚の不足。
- ・ 真剣の態度になって居らぬこと。
- ・ 自信力の欠乏、信仰の薄弱。

[第一回生の努力]

我々は、内から湧き出づる処の力、如何なる境遇に変わつても益々其の境遇に反応して、内から出づる処の力は益々増進する。之れが如何なる忍耐をも続け、研究をも励まし、行ひをも支配する。之れが一番自分を満足させ、一番自分を助けて、凡ての事に於て一番自分を守ってくれる。其の無限の力、永久の信仰を拵へる、生涯人格を養ふて行くと云ふ其の原動力を養ひ、そ—云ふ信仰を築くことについて、第一回生は確に努力奮闘したのである。

最初に於て、確に一般の空気を作る基となつたに相違ない。然に夫れだけに誓つておいても、今日に至る迄にど—も力が現れないのみならず、銘々を満足せしむる迄に実現が六しかつたものもあると考へる。其の後、毎年の卒業生に於ても一つの天職を見出だして、其の為に生涯を捧げると云ふ迄に進んで居る。之れは、ど—しても信仰の力に相違ない。所謂自覚とか、自力とか心の中に養ふ処があつて、自分の中に銘々の力となるものを求めて居つたと云ふことは、必ず是迄経験をして来た所であらうと思ふ。

そこで是れ迄に余程信仰を築いて出ても、猶ほ且つ夫れを続けかねると云ふことは、之れはど—も云ふ訳であらうか。我が國の家庭も社会も、猶ほ適切に言へば、遺伝も教育も風俗も習慣も、此の信仰、人格を作るには誠に不便に出来て居る。故に、あなた方自身が変るか、然らざれば其の境遇を改善するより外はない。二者の間に調和の道はないのであります。そこで、ほん—toの人格ある婦人は、如何にすれば現はるゝのであるか。之れが問題であります。

こ—云ふ境遇、ど—しても自分の考へを行ふことの出来ない境遇、ど—しても人に依頼しなければならぬ境遇、即ち

子供のときには親に依頼し、嫁しては夫に依頼し、老いては子孫に依頼する。若し親も夫も子もなければ、親類に依頼する。親類がなければ社会に依頼する。仕方なく養育院にでも御厄介になると云ふよ一な、依頼しなければ生きて行くことも出来ぬと云ふ境遇に在って、自信力を養ふ、人格を作ると云ふことは誠に困難である。併し今日は立派に志を立て居るが、明日になれば忘れて了って出来ませんと云ふよ一な人間と、ど一してTrustが出来るものでありましょ一か。我々が之れを一人前の人間として、共に事をする事が出来ましょ一か。私は所謂賢婦、徳のあり人格の備はった御婦人に面会をしたいと思ふけれども、我が国にそ一云ふ御婦人が出来て居りましょ一か。若し出来て居るならば、私は喜んでお目にかゝりたい。あなた方は実に模範として尊敬なさる可きであろ一と思ひます。之れは無論、程度に於て申すので、我が国にはそ一云ふ人格の人が誠に乏しいのである。けれども私は之れは出来得ることと信ずるのであります。ど一か第七回生、第八回生は自ら其の人となつて戴きたいのであるのみならず、今迄の卒業生によって確に之れを証明したいと考へます。故にそ一云ふことに就いて此の一週間お考へになつて、斯うすれば出来るのであると云ふことを答へて戴きたい。今日は是非十年の結論をつけねばならぬと云ふことだけを申しおきまして、是迄我々が仕かけて参りました凡ての事の結論をつける、又人格の方から言つても、将来枯れることのない、永久発達して行く処のものを作ると云ふことに、今後益々努めて戴きたいのであります。

[中表紙]

第一学年に於ての御話
明治四十二年九月二十五日

明治四十二年九月二十五日
第一学年にて (答案の批評)

皆さんの答案を見ますと、字の書き方から凡てよくなつて参つたよ一に考へますが、併し此の頃の果実に、やはりおいしいのとまづいのある様に、此の中にも甲乙はあるよ一であります。

私は此の間、我々の思想に二つある。其の一つはClear ideaであつて、今一つはVivid ideaであると云ふことを申しました。

其のVivid ideaと云ふものはど一して出来るかと云ふと、ど一しても熟して来なければならぬ。故に我々の言ふことも書くことも其処に非常に考へが熟して来て、言はざるを得ない、書かざるを得ないと云ふよ一になつて、然る後、之れを詞に、文に現はす可き筈であります。一向熟しない考へを筆にし、口にする者は其實がないので、之れが人に喜ばれない所以であるけれども、熟したるものを発表するのは誠によいことでもあります。詞は力であり、又種である。

英国の有名なる文豪 Carlyle は、夫れに就いて斯う云ふことを言つて居ります。

No man has right to speak and what he has to say so ripe with meaning and the season for his saying. It is so compel that what he says will result in a deed, - a thing accomplish now all after while.

之れは、誰れでも言ふべき詞に意義を持って、熟して来る迄は言ふべき権利がない。そ一して、彼れの言ふべき秋、熟したる刈り入れ時は、ど一しても行はなければならぬ。何かの行ひに影響し、今か将来かに於て、何かを為し遂げなければならぬと云ふことを圧迫せらるゝよ一な熟し切つた時である、と云ふ意味である。即ちVividになつた時は、何かを成し遂げるために、ど一しても行ふために強制せらるゝよ一な、も一ど一しても言はねばならぬと云ふときである。

夫れで、之れを書くには実が熟すると云ふことが大切であります。其の次に余り冗長にならぬよ一に、不適当な詞を使はぬよ一に、又誤解などせられぬよ一に書くことが大切である。夫れで皆さんが一緒に研究をするときにはよいけれども、さもないときに不適当な英語や學術語などをお使ひになるのは、よろしくない。而已ならず、御里の老人などに向つて話ても一向意味をなさないのであります。

此の中に御答へになつた実力と云ふものは、いろいろの詞を以て表されて居りますけれども、其の實在が違つて居ると云ふ訳ではない。故に茲に其の誤りを正しておかねばならぬと云ふ必要はありませんが、併し、も一少しははっきりとしておきたいのである。

此の前に、ど一云ふ所から斯う云ふ問ひが出たかと云ふと、世間で、此の学校の卒業生は実力に乏しいと云ふ評もある。之れは果して真であるか、偽であるか。其の世評は兎も角、実力とは如何なるものであろ一か。又之れは如何にして養はるゝものであろ一か。真に実力と云ふものを量るには、其の標準がなければならぬ。夫れで先づ今日世間の批評、或は世間一般に学生の実力と称して居るものは何であるか、夫れを研究したいのであります。

[実力の標準]

・ 実力の標準、之は力と其の結果とを挙げねばならぬ。

(一) 世間の標準

(力) 記憶力
(結果) 月給、金

(二) 女子教育の標準

嫁入道具
裝飾

之れは、世間の実力の標準であろ一かと思ふ。

第三は、我々の標準である。識者の標準、及び女子教育の標準は何であろ一か。之れが此間、皆さんに尋ねたことであります。

つまり前に言ひましたよりも一層高尚な、一層広義なる標準を言ふのである。夫れで私は今便宜の爲めに、此の実力の標準を三種に分けて、皆さんの頭の中に入れてお置きになつたがよかろ一と思ふ。

第三は、我々の言ふて居る実力のも一つ根本であり、も一つ広い、も一つ深い、凡ての力を総合して居る処のもの、凡ての力の原因となつて居る、も一つ根本的のものを言ふのであるが、今日あなた方にお尋ねしたのは第二種のもので、第三種のもは丁度此の間、三年生に尋ねておいた所であります。

今世間で言ふて居る、又一番大事に考へて居るものと、我々の言ふ力とは如何なる差のあるものであろか。夫れに対して、我々のも一つ深く考へねばならぬ事は何でありませうか。ど一云ふ力を我々は実力と言ふのであろか。又ど一云ふ力を貯へて、将来に発現しよ一として居るのであろか。[吾人の所謂実力とは何ぞや]

(3) 人格の種類

世間で言ふ処の力、又世間で行はるゝ処の教育は機械的、職業的の教育でありますが、我々の言ふ処ものは、そ一でない。之を一言に言へば、人、即ち人格である。其の人格と云ふのはど一云ふものかと云ふ標準をあげねばわからない。茲に大切な意義があるのです。之を委しく申す時間がありませんから、其の要素だけを申すならば、

[実力の要素]

第一、明晰なる観察力。

之れは、物の真相を看破する力である。

[Insight]

此の Insight の見えぬ人は如何に試験に及第しても、如何に博識のよ一に見えましても、物の真相のわからぬ人、こ一云ふ人をさして、心斯にあらざれば見れども見えず、聞けども聞こえず、食へども其の味を知らず、と言ふのです。そして本を読めども其の真相を解せず、所謂、論語読みの論語知らずである。

第二、敏活なる想像力。

此の間から申しました Vivid idea を作る力である。此の力が文学にも、美術にも、道德にも、科学にも必要である。

第三、健全なる理解力、Sound reason.

第四、鞏固なる意志。

[其の養成法]

此の力を養ふ方法には、

第一、明晰なる観察。即ち其の中に自分の経験、事物の観察、研究的実験等である。

[科学的判断力]

之れに由つて科学的判断力を養ふのである。即ち、帰納的推理に由つて、一番人の陥り易い迷信、誤解、誘惑等に勝つ事が出来、自ら守り、自ら決する事が出来るのである。此の科学的判断力は日常生活に誠に必要であります。

第二には、其の観察経験。帰納的判斷を明確に記述することである。明確に書くと云ふことは正確なる人格を養ふのである。

第三は、正当なる論結を為すこと。

第四は、満足の出来る発表を試みること。即ち実行することです。

此の四つの仕方によつて、創始力、発明力、応用力、実行

力、向上心を養ふことを得るのである。

独り機械的の働きが出来るよ一になるのみならず、人として淑女として國民として、立派なる、高尚なる、尊ぶべき人間の価値を発揮することが出来るのであります。人間らしい生活を全うして、世を進め、人を益し、己れを向上、進歩させて、自分の理想、目的を実現して行く事が出来るのである。其の力を我々は実力と言ふのであります。其の實力を養ふについて、此の第九回生は如何なる特権を与へられて居るか、又夫れについてど一云ふ責任があるかと云ふことについて、極簡単に申しておきませよ一。

夫れは、皆さんが此の答案にお書きになつたよ一なこと無論論んで居りますが、殊に皆さんに自覚しておいて貰ひたいと思つたこと、又私共がど一しても皆さんの卒業する迄に今申した實力を養ふて貰ひたいと考へる訳がある。之れは設備も略ぼ整ふて参り、良師、良指導者も出来、八年間の経験も積んで参りましたが、あなた方自身に之れを勉めておいてになるならば、確に実行せらるゝであろ一と思ふ訳がある。夫れは本校教育の主義である処の自動的、自律的、今申したよ一なほんとの一の観察、実験活用、実践躬行して極適切な訓練、修養をするには、ど一しても良境遇を要するのである。ほんとの一に之れをするには多くの時もかけねばならず、沢山の設備もしなければならず、中々金をも要するのであります。

私が Worcester の クラーク University に居りました時、学部は凡そ五つ程に分れて居り、学生は六、七十人で、教授は遙かに多い。夫れで設備も非常に行き届いて居りますから、勉強には持つて来いである。之れは大学であるが、初等教育も其の通りである。之れが理想的境遇であります。

今日の本校も其の通りで、先年迄は非常な希望者で、殊に家政科の如きは到底収容し切れない程でありましたが、今年のあなた方は幾らか数が少いのである。そ一して各学部とも根本の力を養ふに適當なる教授に由つて、適切なる研究をして居らるゝ。故にあなた方は最も適當な境遇におかれて居るので、之れは今日の女子教育を受くる上に、最も適當なる特権を与へられて居ると思ふ。斯くの如き境遇にあつて、望む通りの力が養はれないと言ふならば、其の責は皆さんにあると思ふ。故に皆さんは之れをよく自覚して、最も円満なる発達を遂げられんことを希望するのであります。

其の力、殊に第三のものは如何にして養ふ可きかと云ふことに就いては、三年の方で申しかけて居りますから、成る可く都合をつけて水曜日の二時から一緒におきゝになるよ一にしてもらひたいと考へます。

[中表紙]

大学部及び予科全体の御話
明治四十二年九月二十九日

明治四十二年九月二十九日
大学部及び予科全体の為に

此の前に、自覚が足らぬと云ふこと、信仰の薄弱と云ふこと、並びに憶病と云ふことが出て居りましたが、未だ外にもあります。

- ・ 果斯の足らぬこと
- ・ 知力の不足

其の本は如何にすれば根治せらるゝであらうか。婦人に一番多い病氣はヒステリーである。其のヒステリーとは心配病であるが、夫れ等の本はやはり依頼心である。其の依頼心を婦人から取り去るならば治るであらうと云ふ考へもありますが、皆さんはど一お考へになりますか。近来 Christian Science と云ふことに由つて、治つたと云ふ人も沢山聞くよ一であります。

何が出来たならば自分を悩ます所のものに勝つことが出来るであらうか。日頃皆さんの要求して居るものがあるであらう一。夫れは何ですか。

[テニソン曰く、自尊、自知、自制]

Tennyson と云ふ詩人は此の問ひに答へて、Self-respect、Self-knowledge、及び……Self-control、此の三者を有する者は最上の権勢を得る者である。此の意味はおわかりになると思ひます。

此の間も何方か仰つたよ一に、ほんとの力とは知情意の円満に発達したものである。

Tennyson の言つた自尊と意、自知と云ふことと知、自制と情、孔子さんの言はれた慎独善を為すを楽しむ、又は自強と云ふこと、夫れから英国などでよく言ふ Self-help、自助と云ふこと、西洋の詞で言ふ Self-satisfaction、皆同じよ一なことであります。

修養の方から言ふと、英語では Self-culture、我が較では之れを自修、或は自治と言ひます。又自修、自治で品格を拵へた人を Self-mode man と云ふのである。

こ一云ふ風に皆分類して組織的に言つたものではないが、併し Tennyson の詞の内容が必ずそ一云ふものを含蓄して居ると思ふ。若し此の力が出来たならば臆病にも勝ち、煩悶にも戦ふことが出来、神経病にも勝つことが出来、物を研究すると云ふことも、亦果斯の習慣も必ず出来ると云ふことは疑ひがないと思ふ。夫れでやはり此の知と云ふことが自覚、自知と云ふ処に至らねばならぬ。意志が自強、自制と云ふ処に至らねばならぬ。又感情の方は必ず自奮、或は自樂と云ふ様に、幸福と云ふものが自ら出来るよ一にならねばならぬと云ふことは、皆さんにおわかりであらうと思ひます。

併し此の意味が極明瞭になるには、少し其処に使ふて居る処の意味を解剖して見んければわかりかねるのである。私は、斯う云ふことが、此の力が我々に皆具はると云ふことが、一

番土台である。凡べての力の之れが根本である。即ち知と云ふものが自知とならねばならぬ。

意も情も修養も、やはり夫れが大切である。そ一すると、凡ての力が共通になり、根本となつて居るものは自と云ふ字、即ち自己であり、英語で言ふ処の Self である。

[Self とは如何]

先づ此の Self と云ふもの、真に人間の価値であり、人間の凡ての力の根本である自我と云ふものは、果して何であらうかと云ふことを解決しなければ、其の根本がわかつて来ないのであります。

そこで先づ第一に、此の Self、自己と云ふものは何であるか、自己とは抑も如何なるものであるかと云ふことをきめねばならぬ。併し其の前に、此の自己と云ふことに就いて陥り易い所の誤解がある。故に夫れを防いでおくことが必要であります。女性の欠点を捕ひ、其の力の根本を見出すには、其の自己がわからねばならぬ。Self-knowledge、自知と云ふものが出来ねばならぬと言ふと、此の間のお説のよ一に私と言ふと、つまり力で言へば自力と云ふことを言ふと、他力と云ふものゝ反対になり、自と言へば個人主義になつて、其の一方の社会全体と云ふことの反対になる。そして自と言ふと之れが主観になり、客観と云ふのは其の反対となるのである。其の様に言ふと、宗教にも自力を信ずるものと他力を信ずるものとがあつて、Christ 教でもそ一であります。故に自力を言ふと他力に反対し、自己と言へば全体に反対し、主観を言へば客観に反対しはしないかと云ふことになりませんが、今私の申す自と云ふのは其の両方面を申すので、主観も客観をも含むのみならず、寧ろ客観に重きをおくのであり、個人よりも全体を意味するのであるから、一方に偏するものと思へば間違ふのである。

そこで自己とは知情意の円満に発達したもので、主観と客観との融合したもの、自力と他力との一つになつたものであります。故に我々の言ふ知、知識と云ふものは我々の自己の客観的方面である。我、自と云ふのは広い意味の意志、及び活動、即ち意志である。其の意志を客観化したものが知であり、夫れを統一したものを科学と言ひます。其の客観化する活動を我々の知力と言ふのである。其の意志、即ち自己の活動の主観的方面を感情と言ひ、情緒と言ひ、情操と言ふのであります。

そこで個人と全体と融合致しまして、其の感情の方面に現れたものを動機と言ひ、知力の方面に現れた結果を知識と言ふのである。そ一して、此の働きに由つて得た処の客観を感じる所の主観に化するものを、意志と言ひます。此の故に、自と云ふものは決して一方に偏したものではなく、凡ての活動、諸能力の統一であります。

然らば此の我れ、自分と云ふもの、即ち自分の人格と云ふものは何であるか。先づ一番先きに必然的に感ずるものは我れと云ふものゝ真髓は永遠不朽なもの、変らないもの、即ち限りなく永続すると云ふことにある。又其の自我と云ふものゝ真の価値は其処にあるのである。変らない、動かないと云ふことにある。之れを英語で言へば Self-identity と申し

ます。

[Self-identity]

Self-identityとは昨日も今日も同じ物がある。即ち過去、現在、及び未来を通して時と云ふ条件の下に、又空間と云ふ広がりの中にも限りなく通じて変らない、動かない、死なない所の永遠に生きて、向ふに行く所のものである。之れを指して Self-identity、人格的の同一と云ふ詞を使ふのであります。

若しも此の自分が十年後に変るものであったならば、今と同じ Self と云ふものがないならば、即ち Self と云ふものが変わつて了うならば、ど一して学問を続けることが出来よ一か、百年の計画を立てると云ふ考へが起ろ一か。一番人間が力を出す処の希望と云ふものはなくなつて了うのである。何か我々の中に永久変らない同じ処のものがある。仮令外形は變じて、身体は變つても Self と云ふものは變らない。我々が小供の時には今のよ一な大きな力の強い者ではなかつた。嬰兒であつたのが青年になり、壯年になり、年寄りに變るのである。或は病床に伏し、或は愉快に働くのです。

そ一云ふ身体には變りがあるけれども、自我の真髓は變らない。何時迄も続く処のものがあるのです。此の自我とは同一のものと云ふことは、我々が必然的に感ずるのであります。夫れは誰れにも異存はない、又疑ひもあるまいと思ふのである。又先きもわからないが、我々の命と云ふものは肉体を以て限られて居る、死と云ふものと共に消滅する、とは思はれない。其の証拠には百年後のこと、或は二百年後の事、死んでから後の計画を立て居る。寧ろ我々は死んでから後の事の爲めに働いて居る。夫れは、死んでから後も我れと云ふ同一な実質があると云ふ考へがあるからである。

然らば、其の永久変らぬもの、同一なものゝ実在は果して如何なるものであろ一かと云ふと、此の前から言ふ理想主義の派と実在派と、其の説を異にするのである。倫理学で言へば快樂主義と理想主義と、其の立場を異にするのであります。快樂説の Self-identity と実在論の Self-identity は物質にあるのです、身体の現象にあるのです。併し理想主義の Self-identity は我々の靈魂、精神力にあるのである。此の委しい話は今少し説き明かしますが、先づ始めに何れが真に近いものであるか、確かなものであるかと云ふ事を、一寸批評しておくことが必要であります。

先づ一番變らない処のものに立ち歸つて来ると、原子と言ふ。之れが 19 世紀の科学が証明した処の仮説であります、併し今日では其の仮説の証拠が薄弱になり、議論の根拠が覆つて来たのであります。

仮令ば水の原子には、水素と酸素と違ふもの二つのものによつて成つて居る。之を水素の原子と酸素の原子と別々に離して了うのであります。然るに此の両方の原子が同一の境遇のもとに逢へば、相引いて水素にもあらず、酸素にもあざる水と云ふものになる。之れは果して何なるのであるか。其の間に親和力があると説明するのであるが、今日は之れを Water と言はずして Force と言ふのである。其の力は何であるかと云ふことになると、大に問題となつて来るのでありま

す。

そこで今日は其の物質と云ふものは力であると云ふことになつて居る。宇内は凡て力であると言ふ。併し其の力は何であるかと云ふと、六かしい。之れが 20 世紀の問題であつて、此の力の研究が又新しい科学を組み立てるのである。そ一すると物質論者の原子と云ふことは議論が立たなくなつて来る。然らば Idealism の言ふ Identity は何であるかと云ふ問題につきまして、彼の独逸で Kant 以来、其の派の最も進歩発達した処の説、Paulsen などの主義に由れば、Teleological energy と言ふのである。

[目的学]

Teleology とは宇内の目的 final cause を研究する処の形而上学であるので、目的学と訳するのであるが、Energy と云ふのは力と云ふことで、之れは活動主義である。此の二つを結び付けて、Paulsen は目的学的活動主義と稱するのであります。之れもやはり字は甚だ不充分であつて、ど一も深い意味を現すに足りないと思ひますけれども、今日の処では先づ之れが一番近い詞であります。

そこで私共が人生の価値として居る処、即ち何の爲めに我々は生きて居るか、我々は何の爲めに努力奮闘して、如何なる犠牲をも供して生きて居るのであるか。快樂主義の如く飲めよ、食へよ、明日は死すべきものなり、と云ふことに満足することは出来ぬ。又人格として何故に親を尊敬し、生涯變らぬ親友として何故人を信用するか。我々の中に又人の中に永久變らない処の、何時迄も続いて行く所の価値があるからである。夫れは何であろ一か。何があるからに続いて行くであろ一か。何が土台となつて居るからに永久進んで行くのであろ一かと言へば、Paulsen の如きは之れに答へて、目的と言ふのであります。

[パウルゼン氏の説]

人は目的を立てることが出来る。目的を有して居るからである。我々の価値ある処は The identity of purpose 目的の同一である。又他の詞で言へば、活動の本である理想を客観視して、全体として不変体として見て居る処の理想、或は目的です。そこで永久不易なる同一不動の自我と云ふものは、目的の同一、目的の不動、目的の永続、活動の不易は其の目的追求の向上心であります。

此の Identity と云ふ即ち同一變らないと云ふことは、独り我々自識を持って居る処の自我が有して居る計りでなく、万有悉く一種の此の Self-identity を持って居ると云ふことが言へるのです。

天然物は別として、我々の生活して居る家屋、我々の通行して居る道路、日常使用して居る処の道具に至る迄、悉く昨日と今日と明日と變らないものを有して居る。其の家屋や道路や道具を始めとして、其の他人間の財産と言ふて人間の価値を備して居るものは同じであると云ふことは何を意味するかと云ふと、其の物を作つて居る処の材料の同じいと云ふことに非ずして、其の目的の同じいと云ふことにあるのです。

例へば、私の目が昨日の目と今日の目と違はないと言ひ、又十年前の目と今日の目と違はないと云ふのは、眼球を作つ

て居る分子が同じいと云ふことではない。之れは確に幾度か変わったのであるけれども、其の目として用ひらるゝ処の目的が同じであると云ふことを意味するのであります。

そこで人間が働きを以て拵へて居る処の道具も其の他の物品も、其の Purpose、之れが人間の境遇であると云ふことを言ひ得るのは、よく其の真相を調べて参りますと、やはり人間の目的に叶ふ様な性質が同じいと云ふことであります。其の他いろいろな天然物にしても、皆其の性質が宇宙の目的に適ふ様になって居る。其の凡ての物が宇宙の目的に適ふ様になって居るのをさして Natural law と言ふのであって、其の性と云ふのは即ち宇宙の目的であります。猶ほ之れが明らかになるために、實在主義及び快樂派の Identity と云ふことについて少し申しておきたいと思ひます。

[スペンサー曰く]

快樂派の特色は、自我と云ふものと自我でないもの、有意識物と無意識物との違ひに余り重きをおかないのであります。此の問ひに対して Spencer は、Self is that group of impressions which remain same throughout experiences.

我々の経験を通して等しく存在する処の印象の総合が即ち自我である、と答へて居ります。故に快樂論の Self は、つまり此の身体の Self になる。そこで其の満足は身体の要求になる。故に理想派の主張する処の人格の同一と云ふことは余り認めないのである。故に快樂論の主張は Self-interest 自己を全うすることで、利己の満足が永久の要求となり、其の内容が原子に歸して来るのであります。之れに反して理想派の称ふる処のものは目的にある。故に自我の不易とは目的の不易であり、自我の保存は目的の保存であり、目的の実現であります。

故に此の主義に由れば、人間の運命は其の人の目的に由って定まり、其の人の人格は其の人の目的に由って出来るのである。善人とは目的に適順する人と言ひ、善行とは其の目的に適ふ行ひであります。目的と言ふだけでは未だ其の深重な意味がわからぬのであるが、其の目的は個人の目的と全体の目的、國家社会の目的、宇宙の目的、全能者の目的と一つになつて参ります。

此の目的と云ふことがわかると云ふと、目的が銘々に確立すると云ふと、目的の為に生存すると云ふと、之が実に人生の大切な処である。之が我々の生活に価値のある処であります。猶此の目的と云ふことを深くあなた方に印象する為めに申したいのでありますが、時を取りますから、之れは他日申すことと致しましよ。

[如何にして目的を求むべきか]

人間は如何にして其の目的に向ふものであるか、我々自己は如何にして其の目的と云ふものを見出すやうになるのであるかと云ふことを、一と通り説き明かしておきましよ。

夫れは我々の中に活動性と云ふものがある。我々の中に Energy capacity、或は之れを Talent、天才とも言ふ。いろいろの力がある、天賦の力がある。今日の科学から言へば、遺伝的に先祖から又社会から伝はつた処の、いろいろの力が一つになつて出来た処の一種の力がある。銘々に適する処の

活動を取るとする処の傾きがある。之れを指して可能力又は潜伏力と言ふ。其の偉大なる力があつて此の力が一定の方向に向はんとする此の Energy、此の力が各自の目的を求めしめ、各自の目的を選択せしむるのであります。未だ充分に發育しない処の少年少女、或は少年少女に類した未開の民、又充分に教育を受けない処の女性等にして、此の目的を自覚しないものがある。併し自覚しないにしても不知不識の間に自分の目的を探し、自分の方法を求めしむるのである。故に我々凡人と言ふべきよ一な当り前の能力を具へた人にも、亦天才と称へらるゝよ一な非凡なる能力を具へて居る人にも、人たる人、人格たる人は、必ず此の目的を抱かざれば、又此の目的を追求せざれば満足を得ることが出来ない。又其の天賦に適ひ、力に応ずる処の己れの特別なる目的に叶ふ処の道を見出ださんければ、決して其の人の事業に成功するとか、社会の為に貢献するとか云ふことは出来ないのみならず、己の内に真に満足を感じずると云ふことは出来ぬ。然るに今日迄教育の方法を誤り、又四壁の境遇に圧迫せられて其の目的を見出だすこと能はず、一生を煩悶の中に終る者が沢山あるのである。時に由つて天才と雖も親や社会の制裁の為に、自らを晦まして居ると云ふことが間々あるのである。

[Schiller]

一例を言へば、彼の名高い文豪の Schiller の如きも、親は彼れを外科医とせんとして居つたのであるが、丁年以上に及んで、自分はど一しても文学に行かねばならぬと云ふことを自覚して、遂に彼れは成功をしたのである。天才に於ても斯くの如きことがあるから、まして凡人に於ては猶更のことである。幾度か躓いて後に、漸うほんとの道を見出だすことが多いのであります。故に我々は余程よい導きを得て、真に行くべき道を見出ださねば、其の方向を誤つて呵責有為の生涯を、空しく朽ち果つると云ふことが珍らしくないのであります。

時間も参りましたから凡てを省きますが、併しこゝにも一言、我々銘々の直接必要なる目的について申しておきたい。夫れは前に歸つて、何故に我國婦人には力が出ないか。学校に居る中は有望なよ一に見えても、一朝嫁して人の妻となる時は力を失ふのであるか。又何故に我が國婦人には心配病が多いのであるか。一度困難に出遭ふならば折角築き上げた信仰をも志をも、忽ちにして失ふのであるか。之は抑々如何なる訳であるか。何故婦人は恒徳がないのであるか。其の仕事は断片的になつて統一を欠くのであるか。其の頭は部分的、一時的になつて了うのであるか。之れは私は、我が國婦人は自分の目的を見出すことが出来ないからである。又確立した処の目的を遂げることが出来ない。如何なる境遇に陥つても一旦立てた志を貫くことが出来ないかと云ふと、凡てのものを捧げる処の主人を見出ださんからである。即ち、目的を見出ださんからである。目的を遂げる為に生きると云ふことがないからである。之が煩悶の多い、心配病の多い、之れが人格の出来ない、成功の出来ない、信用の出来ない最大原因であると考へるのであります。

之れ迄比較的熱心に力が出来、比較的活動の出来たの

は、ど一云ふ時であるか。比較的に目的のわかった時である。自分の目的に従って進んだ時であります。独り我々の経験のみならず、凡ての国家社会の興亡も悉く歴史に徴して明らかであります。

そこで偉大なる人格は、遠大なる目的を懐いて居る人である。鞏固なる人格は、円満完全なる目的を懐いて居る人である。心より健全なる人は不撓なる精神に満ち、死して後止むと云ふ覚悟を持って居る人であります。之れが即ち我々の人生の価値、人間の土台である。此の土台を失ふて了ひ、此の力の淵源を失ふて了うて、如何に働いても、如何に細かい事に注意しても、如何に形式的の学問をしても、得る処はあるまいと考へます

果して皆さんは、明らかなる目的が見えたか、です。動かない処の信仰は確立したか、です。即ち永久不朽の我れと云ふものが自覚して居るか否やと云ふことが、今日の問題であります。いろいろ此の問題について皆さんを導き、いろいろ此の問題について迷いを除き、其の障害に打ち勝って進む処の勇気を導きたいと考へましたが、今日は思ひの外時間が早く立ちましたから、果して銘々の目的は明らかになったのであるか、又夫れに向って進む処の方法も見出だされたのであるかと云ふことについて、此の一週間深くお考へになつて、次にはお答へを願ひたいのであります。

[中表紙]

正会員修養会に於ける御話
明治四十二年九月二十九日

明治四十二年九月二十九日
正会員修養会にて

先日桜楓館開館記念日に、例年の通り菓子で模型を作らうとして幾度か失敗して、と一と一成功なされたのは誠に嘉みすべき事でありませう。之は菓子で館の模型をお拵へなされたのであるが、我々個人は皆全体の模型である故に、其の全体を銘々が表す様にならねばならぬ。

[或る哲学者曰く、個人は普遍なり]

又或る哲学者の詞に、The individual is the universal. 即ち、個人は普遍である。

之は我々の生涯の目的をよく言ひ現したものであります。其の目的に向って努力して居る状態を、短い詞でよく表白したものであります。此の小さい個人の中に無限な全体、平たい詞で言へば、神と言つても宜しい。其の神を個人に模造して居る故に、個人は全体であり、有限は無限であり、無限は有限を大に延長したものであると云ふ事になります。個人は普遍と決して同じものではないけれども、此の個人は普遍であると云ふ意味は、個人は無限に達しよ一として居ると云ふことを意味するのである。又宇宙は一層大なる無限に到達しよ一として居り、又之れが宇内の Moving power である。そ一

して、此の個人と無限とがど一して一つになり得るか、果して個人の中に無限を実現し得るか否やと云ふと、必ず其の処に失敗が起つて来るのである。

そこで個人が其の目的を達し得なかつたならば、直ちに自分が骨折つて今迄拵へかけた製造品を破壊してしまうのである。そ一して又更に新しいものを造らうとして居る。之が The individual is the universal の意味で、之が我々の修養の目的であり、又之が桜楓会を改造しよ一として居るのである。幾度か失敗を来し、矛盾を来して、茲に一層新しい物を建設せんとするのが我々の努力であり、活動である。之を幾度か繰り返し、繰り返して其の経験を重ねまして、自分達が段々と目的に近づき、段々と理想に似よつて行くのであります。

桜楓館は何かと云ふと、も一一つ大きな無限の模型である。故に桜楓館を銘々の内に建設しよ一と云ふのは、今の哲学者の言ひました、一層大きな無限に到達しよ一と云ふのであります。故に、桜楓館の記念日に於て幾度か其の模造に失敗して遂に成功したと云ふのは、我々の仕事によく似て居るのである。

我々が日夜に此の桜楓館を建設しよ一と努めて居るのは、成るべくよい模型を造り出したいと云ふ事で、夫れと誠によく似て居るのである。

[吾人の目的は偉大なる無限を実現せん事にあり]

私共は茲に大なる結合をして、偉大なる無限を実現しよ一と云ふのであつて、銘々の修養は銘々の中に大なる普遍を実現しよ一と云ふことであります。

処が夫れは一朝に出来るものではないから、時々深く反省することが必要である。そ一して低い考へを除き去つて高尚なる考へを再建して、此の普遍的意志を妨げる様な分子を改造して、時々生れ變りをしなければならぬ必要がある。夫れで自分達が完全にならぬ以上は、其の普遍と合体しない以上は、幾度か幾度か其の思想を改造しなければならぬ。又幾度か自分の品性を生れ變ると云ふ程の變化を与へんければならぬと云ふことである。今此の桜楓館の記念日におきまして、又先日来申して居ります本校の十年期、一期限の結論をつけねばならぬ時に當りまして、我々の仕事の結論をつけて、茲に新しい活動を開始し、も一段我々の品性を改造しなければならぬ。そこで私共は十年前に計画し、決心致しました処の目的、理想を考へまして、此の目的、理想を達するに今後十年の発展は如何にすれば宜しかる一か。銘々個人は如何に修養すれば宜しかる一か。如何に学問を研究して銘々に必要な力を養へば宜しいであらう一か。之をするにはど一しても銘々に反省をしなければならぬ。そ一して茲に内外の改造をすることが必要である。そこで私共は第一に銘々を反省し、並びに桜楓館の前途を考へて、如何に之を改善すべきであるかと云ふ事を考へんければならぬと思ふ。

今私が水曜日に大学部に説いて居る事と、其の晩皆さんと修養会を始めて行かうと云ふことには、皆目的があることである。夫れで私が申すことを皆さん銘々で行ふて下さるならば、屹度出来ると云ふことを私は信ずるのであります。其の

銘々の働き、実行と云ふのは必ず協同一致することを意味するので、銘々の働きは必ず全体に関係を有する処のものであります。そこで今晚の問題は、

- (1) 如何にすれば桜楓館を、も一一層進歩せしむることが出来るであろうか。
- (2) 会員銘々は如何にすれば、も一一層進歩、改善し得るであろうか。

と云ふことであります。

[困難の原因]

其の困難の原因は何でありませうか。

イ. 結婚。

ロ. 四囲の境遇。

ハ. 女子の独立心あることは、一般の男子の好まざること。

目的を生涯一貫して行くと云ふこと、之が婦人に困難のみではなく、男子にも甚だ六かしいのである。家族と云ふものは人々の目的を達する為めにあるので、決して之が目的を妨げるものではないのです。目的を有するあなた方は桜楓会に連ることが大切である。又目的を果して行くには必ず仲間を持つことが必要である。故に共に働いてくれる処の夫と云ふ Friend のある事は、誠に大切である。之は、目的と云ふことを委しく申せばおわかりになるでありませう。

併し今いろいろ仰った様な困難もあるからして、目的の為に妨げとなる様なことは、犠牲にすると云ふことが必要である。犠牲は即ち忠と云ふ事で、国家に忠であると云ふことは、自分としてもやはり正道であります。故に嫁に行くことでも目的に反した行き方をするならば悪であり、不幸である。然るに、行きさへすればよいと云ふ嫁ぎ方をするのは、誠に間違いであります。

私思ふに、目的を持った人は却って縁が早いと思ふ。目的のある人程、家がよく治まるのである。故に凡ての我が儘に勝って、ちゃんと自立して物を為し遂げて行く事の出来る人が家を持つならば、其の徳と云ふものは必ず家の内、友達の間に見えるのであるから、夫れ丈の徳が満ちて居るならば、必ず自ら敬服する様になる筈である。

時間がない為めに今日行かうと思った処迄進まれませんでしたが、併し最も困難なる原因を一層明らかに知る事の出来たのは、大層有益な事であると考へます。銘々の目的を成し遂げて行く上に、此の結婚と云ふことが決して軽い事ではない、重大なる関係を有するものであります。故に目的を立つると云ふ事と、結婚を決めると云ふことは、其の選択と云ふ点に於て一つである。そこでそ一云ふことも誤らぬ様に、お互によく保護して行くことが必要であります。夫れでは、自我と云ふこと、及び目的と云ふことの意味の分つたものは……

そ一して凡て人たるものは、此の人格を築くことが大切であると考へる者は……

自分と云ふものを、ど一しても進めて行かねばならぬ。又そ一して桜楓会と云ふものを、今後益々発達させて行かねばならぬ。そこで銘々自知と云ふものを明らかにして、大に自我と云ふものを確立せねばならぬと云ふ決心のついた者は……

……

夫れではど一か、次にそ一云ふ事を銘々よくお考へになつて下さる様に。そ一してお互によく助け合つてお進みになることが必要である。猶此の問題について次の水曜日に私が説いて進みましたならば、其の目的と云ふものが一層明らかになるであろうと考へます。

[中表紙]

桜楓会例会の御話

明治四十二年十月三日

明治四十二年十月三日

桜楓会例会にて

私は今迄も大層興味を持って、あなた方のお考へを聞いて居りました。又もっと広く聞きたいのでありますが、今朝は抛ない事で十時から出なければなりませんから、一言、私の感じを申しておきたいと考へる。故に其の後は猶よく皆さんでお話なさつて、此の会を有益になさることが必要であります。

今皆さんの経験を考へますと、一寸適当な詞を見出だしません、大抵おわかりになるであろうと思ふ。只今一同が生活して居る現実世界、つまり之を衝動的な生活の世界と言ってもよからう。風俗、習慣に支配せられて居る、強く言へば、束縛奴隷の生活を送つて居る世界から逃れて、目的ある生活も一つ我々が是非達して見たい。若し其の彼岸に達することが出来たならば、安心立命の根拠が出来る。そ一すれば我が国婦人にも力が出来ると信じて、渴望して居るのであります。

夫れで今、船出をして冒険的航海を試みて居ると云ふ状態にある。処が今日のよ一な穏やかな天気ばかりではないのである。寧ろ風も荒らく、波も高いと云ふよ一な有様である。そこで其の海を渡つて彼岸に達するには、目的を示す磁石のよ一なもの、又灯台の光りのよ一なものが必要である。又其の目的を見出だす為めには楫の如きもの、又楫になる可き良心の如きものがなければならぬ。又夫れだけでもいけない。自分の身体を凡ての動搖に支へるだけではいけない。其の次には怒濤に反抗して船を進める力がなければならぬ。困難に勝つて船を進めて行くだけの力を要する。茲に大なる決然たる決心が必要であります。

そこで行く手を定むる楫も入る。遥かに行く手を示す光りも入る。其の抵抗、総ての妨げに勝ち得る処の偉大なる力も入用であるのでござります。是等の凡てのものが我々に揃ふたならば、目的地に達する事は疑ひないのであります。如何に天が曇りましても、如何に怒濤が鳴りましても、我を妨げることは出来ないのです。果して皆さんは彼岸に達することが出来るであろうか。其の目的を一貫することが出来るであろうか。其の点について、聊か心配を致すのであります。

・ 未だ何か不安な様な感じを持つ者は……

【影法師】

私はあなた方に対して、実に同情に堪へないのであります。且つ我が国の御婦人に対して、実に同情に堪へないのであります。困難はそ一云ふ処にあるのです。實際其の心配は影法師ばかりではないけれども、半ばは影法師である。我が国婦人は非常に神経過敏になって居って、心配が多いと思ふ。實際其処に鬼や悪魔などが居るのではないけれども、自ら迎へて、そ一思ふのである。女が學問をすると生意気になる、頑固になる。そ一して虚栄心が強いと言ふけれども、実は恐怖心である。之れは我が国の社会が遺傳的に養ひ來つた処の痼疾であります。殊に此の頃は益々婦人をして、恐がらしむるのである。私の所に十月号の新聞や雑誌が沢山参りますが、夫れ等に書いてあることは悉く婦人をして、委縮せしむるよ一な暗示のみを与へて居る。若し不幸に遭ふならば、筆を極め、口を極めて、攻撃批難を加へ、殆んど世に立つこと能はざらしむるのである。そこで婦人の方では志あるものと雖も、万一途中で失敗したならば悪名をきせられたならど一しよ一、親に対しても学校に対しても甚だ申訳がないことであると云ふ考へから、益々心配は多くなる。勇氣阻喪して了うのであります。

此の恐怖心の為めに全身麻醉して狼狽して來ると、も一其の人は無能力となるのである。此の心配程、我々に毒なものはない。其の心配に服し、其の心配の奴隷となることに由つて、其の人は運命を開くことが出来るであろ一か。又もとの衝動世界に立ち歸ることが出来るであろ一か。どちらも出来ないのである。私思ふに、この恐怖心に勝ち得なければ、皆さんが安全に目的地に達すると云ふことは保証が出来ないのであります。之れは皆さん、おわかりでありませよ一。

若しもあなた方が之れに勝ち得なかつたならば、今後の女子教育、我が国一般の婦人、我が国将来の母親の上に、容易ならざる蹉跌を來すのであります。敵は此の機に乗じて、益々暴威を逞しうせんとするのであります。若しも我々が敵に欺かれ、其の勢ひに辟易して一朝蹉跌をしたならば、我が国婦人、否、我が国家を破滅に陥らしむることとなるのであります。

【背水の陣を張れ】

私は今日、窃に天に向つて熱望する処は、あなた方が極力一致、此の敵に勝つて下さることである。

此の恐怖心に打ち勝つには如何にすればよろしいか。若しも我々が敵の毒矢に中つて茲に狼狽を起し、茲に軍列を乱すよ一なことがあるならば、先づ自らを亡ぼし、併せて我が国家を亡ぼすことになる。我々は茲に背水の陣を張らねばならぬ。も一後にふり返ることは出来ないのである。然らば如何にすれば其の根本の力を得らるゝであろ一か。此の事に就いて少し申したいと考へましたが、も一時が大分過ぎましたから、ど一か皆さんよく考へなさせ、此の敵に打ち勝つ処の軍略と勇氣とを養つて、団体の力に由つて勝利を得られんことを切望致すのであります。

【中表紙】

正會員修養會に於ける御話
明治四十二年十月六日

明治四十二年十月六日
正會員修養會に於て

時が段々迫つて参りましたが、大分今の現状がよくわかりかけて來たと思ひます。卒業生の困難を感じて居る原因は境遇から來たのもあれば、半は自分の中にもあるのである。そ一して今の經濟と云ふ事もあれば、幾らか身体の弱いと云ふこともあり、家庭の治まらないと云ふ事もありませよ一。

【教育改善】

夫れで我々の今最も勉むべきことは、先づ會員から救つて行かねばならぬ。そ一して九年間の經驗からして、学校教育も寮舎教育も凡てに亘つて、も少し適切な教育を施して行くことが必要である。そこで是から改善して行くには、どの点からすべきであろ一か。夫れを考へることが、大切であります。

いろいろ困難なる中にも頭に属するものか、情に属するものか、手足に属するものかと、どつちかわからないと云ふ人もありましたが、私思ふに、此の学校の人が不勉強で出来ないと考へられぬ。一体我々はど一云ふときに力が出ないかと云ふと、熱心の足りない時である。其の熱心が足りないと云ふのは、興味が浅いのである。丁度食物でも心に喜ばない時は消化が遅いと同じ様に、頭の力を養ふと云ふことも、其の処に其れだけの興味の惹き起して活動を勵まして來る処の興味が起らねばならぬ。

そ一して多くの會員をも、社会からいろいろ圧迫せられたり批難せられたりする処の境遇から救ひ上げねばならぬ。併し彼れ等の經濟を自由にしても、よい職業を与へても救ふことは出来ません。そこで、ど一しても人間を作らねばならぬ。そ一して全体を引き立たせる処の生活の興味を与へねばならぬ。

【婦人の信仰目的】

人間の働きが鈍れて來るのは、命の源が涸れて居るからである。其の処に至つてはやはり宗教になるのであります。夫れがなければ、目的の爲めには命を捨てゝも成し遂げると云ふ様なことは出来ぬ。元來御婦人の信仰目的は宗教に由つて養はれ來つた事は、事實である。

其の宗教の信仰と云ふものも、昔はキリスト教とか、仏教とか、或は神道と云ふもので養はれて参りましたが、今日では、も一そ一云ふ單純な信仰で満足させることは出来なくなりました。夫れで、昔からの精神に代るべきものが興らねばならぬ。此頃地方より來る人々の中にも、修養と云ふことを頻りに言つて居るのみならず、我國の政府も只物質主義ではいかぬ。ど一しても精神を呼び起さねばならぬと云ふ風になって居ります。其の哲学も、宗教も、文學もそ一云ふ傾きになって居ると云ふ事は、皆さん看破することが出来るであろ一と思ふ。

【原動力】

そこで今の経済に困って居る人や、境遇上の困難に苦んで居る人達を、どーして救って行くべきであろーかと云ふと、やはり其の本は精神である。故に凡ての原動力となる精神、即ち生活の興味を与へねばならぬ。

若し精神の満足を得なかつたならば、如何に金があつても、名誉があつても、如何に位が高くとも、夫れで満足することは出来ないのであります。其の精神の本を養はずして力あれと云ふことは無理である。故に、どーしてもお互に其の本を養はねばならぬ。

【感化力】

そーして、も一つ茲に勉めねばならぬ事は、Good atmosphere を作る と云ふことである。之が所謂、感化力である。我々の感化力が人に及ぶと云ふ様にならねば、どーしても私共の精神を養ひ立てると云ふことは六かしいのであります。

【Atmosphere】

之は私が余り説きませんが、皆さんよくおわかりのことでありませう。今は世間でも、Atmosphere が甚だ宜しくないのである。全く低気圧である。又いろいろ妨謀となる処の陰謀も顕れて居ると云ふことを、我々は言ひ得るのであります。そこで、も一つ茲に回復を計って健全なる本校の空気を作ると云ふには、どーしても Good atmosphere を作らねばならぬ。夫れは只昔のよーに、教会堂に集まって祈祷をするとか、賛美歌を歌ふとか云ふことに由つて出来るものではない。どーしても美はしい精神に満ちた会合をして互に温め、互に励まして、立派なる感動に燃やされて進むと云ふことが必要である。夫れを如何にすべきかと云ふことは非常に大切な事で、又銘々が深く反省せねばならぬことでもあります。

【協同一致】

我々は茲に九年間の経験を統一し、又其の他の知識を材料として方針を示し、夫れを出来るだけ学校にも、寮舎にも、亦桜楓館にも現して行って、大なる協同一致を全体に迄及ぼすことの出来る処の高気圧を先づ此の所から起して、大に四方に拡張して進む様にすることが一番大切なことと思はれる。どーしても此の力の本を拵へると云ふことは、知識、力、銘々の実行、経済、何事も必要であるけれども、其の凡ての力の本はやはり精神と云ふことになる。夫れでどーしても茲に精神の復興を計らねばならぬ。之はやはり宇宙の傾向であり、且つ永久的のものであります。故に、も一層精神的の原動力を養ふ事に協同一致して銘々出来るだけを尽す。如何なる境遇にあつても、如何なる職業をとつてもすると云ふことが大切であります。之が、決して銘々の為めに損な事ではない。自分の力もやはり、そーして養はれるのである。故に先づ、茲に皆が一致して精神的の運動を開始すると云ふこと、即ち飢えたる会員から救ふて行く と云ふことが必要であります。人間と云ふものはどーしても木石ではない。故にやはり其の精神を養つて行かねばならぬ。そこで若し皆さんが此の事に賛成であるならば今一層凡てのことを改善して、本校の教育を有功にすることが出来るであろーと考へます。

【目的】

皆さん此のことには賛成のよーであるが、夫れをするには、どーしても銘々の目的が確立しなければならぬ。故に生涯の目的又は天職と云ふことに就いて一つの論文を草し、二週間内にお出しになることを希望致します。

【中表紙】

大学部及び予科全体の御話
明治四十二年十月六日

明治四十二年十月六日

大学部及び予科全体の為めに

あなた方の心の中にある問題を挙げて見るならば、

- (1) 目的とは何ぞや。
- (2) 大目的と小目的との矛盾、衝突。(も一少し之れを露骨に言へば、生涯の目的と結婚問題、又は銘々の家の事情との矛盾である。)
- (3) 目的と個人主義。(目的と言へば個人主義のよーに思はれると云ふ点もあろー。)
- (4) 目的と他の諸能力との関係。(目的と他の諸能力、即ち全体の解釈が出来かねると云ふことであろー。)

先づ此の四種類に歸するかと考へられる。

- 第一に属する人 …… 稍多
- 第二に属する人 …… 同上
- 第三に属する人 …… 殆んど無し
- 第四に属する人 …… 少数

夫れでは、第一の問題から説き明かしをすることに致しましよー。

実は今日は、も少し適切な問題に入ろーと考へましたが、未だ大きな目的についてはっきりと分かつて居ない為めに、大きな統一が出来ないよーである。夫れが出来て居ないと、躊躇、逡巡することが多くて進まれませんから、も一少し大きな目的が頭にはっきりするよーにしておかねばならぬ。

【目的とは何ぞや】

先づ第一に、目的とは何ぞやと云ふ問題がはっきりわからねばならぬ。其の次には、目的は如何に銘々の実力に、即ち銘々の進歩、発達に関係あるものであるかと云ふ問題がわかることが必要であります。

私は、先づ始めに目的は凡べての人生問題を開く鍵である。又目的は人間を無限に向上させる原動力である。総べての力の源である。誠に大切な、殊に我が國の御婦人に自覚を与へて、総べての困難より救ふに最も大切な条件である。故に願はくば、皆さんが其の深い誠をほんとうに見出だして、之れを實にあなた方の自分のものとして下さるよーに、私は切望致すのであります。

つまり之れが出来まして、あなた方にはっきりと見えるよーになりまして、始めてあなた方は人生の行路を見付けるこ

とが出来る。又あなた方が遭遇して居る処の凡ての困難を排除し、又あなた方の凡ての敵に打ち勝って、あなた方の生涯行く可き道に進むことが出来る。即ち此の過渡の時代に、非常に輻輳、矛盾、衝突して居る処の凡ての思想を統一して、今日の困難なる、複雑なる銘々の生活を簡易にし、又豊富にして行くことが出来ると信ずるのであります。

[大我と小我]

つまり目的ある生活と目的のない生活との差は、此の間から申して居る、自我に大我と小我の区別が出来て来るのであります。

大我とは即ち目的ある生活を言ひ、小我とは衝動的、本能的、矛盾的の生活を言ふのであります。そこで先づ初めに、目的と云ふことを知るには、其の目的ある生活がどの点に於いて衝動的、本能的の生活と違ふて居るかと思ふ点を、明らかにせんければならぬ。

[目的ある生活の三要素]

つまり目的ある生活は其の要素として、第一に思想。或は能力から言へば、之れを理性と言ふ。やはり其の生活が合理的である。平たく言へば、思慮あり考へある生活である。

第二に意志。

第三に先見。

此の三つの要素が、其の中に必ず存在して居るのである。活動して居るのであります。夫れから、目的を欠いて居る生活、即ち無人格、小我、小人格の我れと云ふものは、其の活動は衝動的であり、本能的であり、嗜好的である。其の理想は誠に幻形であり、或は妄想であり、現実的であります。

現実的生活は静止的であり、繰り返的である。目的的生活は動的である。其の態度は向上的、先見的である。其のSightはFear sightであります。

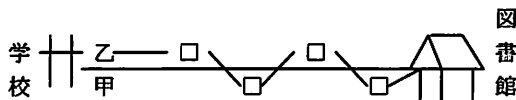
大きな目的は第四に於て説くのでありますが、先づ此処では、目的ある生活と目的なき生活との差を示すのであります。如何に物事をするのに、巧拙があり、優劣があり、遅速があり、成敗があるかを申すのであります。此の目的を懐いて居る人の日常生活と、目的を懐かない人の日常生活とは非常なる差がある。又活動の種類が、大に相異つて居るのである。

如何となれば、生涯の目的を懐いて思慮と意志と先見とを持って生活する人は、事々物々必ず其の目的に叶ふ様に計画を立てるのである。故に百年の計画を立てる者は必ず其の日、其の日の計を立てて進む者である。一日の計を立てた人は、必ず一時間の目的を立てて動くのである。之れをMrs. カボットと云ふ、此の十年計り青年教育に身を捧げ、人の妻となつて立派に家庭を営み、著者として有益なる書物を著し、即ち生涯を目的の為に一貫して、女子でも目的を立つことが大切である、又夫れを一貫することが出来ると思ふ、生きた手本を示した処のMrs. カボットの言つたことを、今説き明かして使ひたい。

[目的有無の差異]

こゝらに住むお方、学生でも構はない。此の前に秋季皇盃祭と云ふ休み日がありまして、茲に二人の学生がある。一人は夏季講習会に深く考へまして、此の秋集中すべき問題があ

る。其の中には論文を草すると云ふこともある。そこで半日は上野の図書館へ本を読むために参りました。其の人は其の日に丁度調べねばならぬと思ふ問題を持って居る。



其の人は真つ直ぐに行つて、其の間には運動も出来て、四時間一生懸命に本を調べて、約束の通りに十二時に帰つて来たと思ふ。

他の一人は出かけた途中に友人の宅がある。そして友達の声が聞こえたので二分ばかり立ち寄り一と思つたが、つい話をして居る中に三十分計りたつた。夫れから其の家を出ると向ふに活動写真があつて、楽隊が面白く囃して居る。暫く夫れに聞きとれて居つて、今度は途に不忍の池を過ぎると、恰かも蓮の花が満開して居るので一首歌を詠まうと思つて、其処らに腰をかけて三十一文字を練り、夫れから図書館に行くと、直きに時間が来て帰らねばならなくなつたと、斯う致します。そすると、ど一でありませう。甲即ち四時間勉強した人は確かに目的の為に本を読み、何か考へを構成して帰ることが出来るけれども、乙は終日何ばかりの得る処もなかつたのである。

[何をか善と言ふ]

然らば甲の人は目的の為に行動した人である。乙の人は衝動的の人である。然らば我々は目的の為にした人の行動をさして善と言ふのである。乙の行為は友達を尋ねて交情を温めたことはよい様であるが、大きく考へると悪である、罪である。何となれば、乙の人は衝動により本能に由つて動いて居る。外の境遇、事情に由つて左右せられて居る。けれども甲は目的に由つて動いて居る。此の夏休みに、夏期講習会の後におきまして運動が必要であり、外界の空気を吸ふと思ふ必要もあつて、多摩川に出掛けたいお方がある。此のお方の行為は目的に叶ふたことである。けれども此の前の秋季皇盃祭の日に、或る団体が多摩川に行きたいと思ふ希望があつたけれども、私は夫れを許しませんでした。

夫れで人間の行為は、其の行ふた結果に由つて善悪を定めることは出来ぬ。其の多摩川や鎌倉に行ったことは、立ち留まって花を見たと思ふことは目的の為にしたのであるか、衝動に従つてしたのであるか、只好きと思ふことに由つてしたかと思ふことに、在るのです。

Mrs. カボットは人格の定義を下して言ふのに、

The essence of manhood is fitness for the purpose.

人と云ふものゝ真髓は何であるか。つまり其の人の人たることは目的に適合すると云ふことである。故に其の人の目的を知らざれば、其の人の価値を計ることが出来ない。如何となれば、其の人の善、其の人の尊いと云ふことは、其の人の目的にある。其の人の行ひが其の人の目的に一致して居るか、適合して居るかと思ふことにある。独り人間のみならず、其の他の万事万物がそ一である。其の物の善とは、其の物の目的に適して居るか否やと思ふことにあるのです。今世界で称

揚せられて居る飛行機の中で最もよい物は、一番よく空中を飛行することの出来るものであります。

つまり人間の価値も万物の価値も、悉く此の目的に由って判断しなければならぬ。其の活動と云ふものは、目的に一番よく適しなければならぬと云ふことである。つまり人間であるものと人間でないものと、人格ある人と人格なき人との違ひは自動と云ふことで、Kant は之れを Autonomy と申しました。

自ら選択する、或は之れを Self-chosen と言ふ。自ら目的を持って、其の目的に叶ふよーに自動することが必要である。人の目的に叶ふ様に動くこと、之れを機械と言ひ、又奴隷と言ふのである。自分の目的を立てずに、確たる考へを立てずに外から使用せられる、之れを機械と言ひ、奴隷と言ふのであります。

此の機械的人間をよく面白く感ずるよーに、彼の名高い Shakespeare が Hamlet の中に引いて居る例が、余程面白く出来て居ると思ふ。彼れは斯くの如き人間を海綿に譬へたのである。彼れは、阿諛なる君に阿容る宮内省の佞臣の事を、丁抹の王子 Hamlet にこー云ふことを言つて居る。

Take your me for a sponge my lord?

Ay sir, that soaks up the king's countenance, his rewards, his authorities. But such officers do the king best service in the end. He keeps them, like an ape, in the corner of his jaw, first mouthed, to be last swallowed. When he needs what you have gleaned, it is but squeezing you, and sponge, you shall be dry again.

君は私を海綿と思召すかと云ふことを尋ねた。

Prince Hamlet は、どー答へたかと云ふと、

「左様。然り汝は王の恩顧、王の称誉、王の權威を海綿の如く吸ひ込む。然し斯くの如き臣下は王の爲めには、最も忠義な働きを王の爲めにするものである。王は彼れをかへて置いて猿が胡桃を持って居るよーにする。夫れは猿が胡桃を自分の顎の片隅にくはへて、つまりは自分の腹に揉み込む為である。併し若し王が猿の骨折つて集めたものが必要なときには、王は其の海綿を絞上げる。そーすると海綿に入つて居た水は皆出てしまうから、海綿は何にもないものと乾燥したものに戻つて了うのである。」と。斯くの如き宮内官は、ほんとの忠と云ふ目的を持って居ないのである。自分の中には何にもないものである。君から受けた寵愛、威光と云ふ様なものは時あつて、皆はがれるのであります。斯くの如き臣下は君には必要であるけれども、自分には何もないものである。

其の他議員でも何でも賄賂を以て買はれるよーな人は、人格はないのである。何かの用はするよーであるが、自分の目的ではないのである。茲に人の価値は別れるのであります。

[奴隷的生活]

又我が国の婦人が如何に犠牲になって居るよーでも、自分の目的の爲めに、忠義の爲めに、貞節の爲めに、或は孝行の爲めに仕へる、忍ぶ、従ふと云ふことでなければ、人間の価値を有しないのである。人格のないもの、奴隷的のもの、機

械的の生活と云ふことになるのであります。

そこで是れ迄の旧道徳では、伝説的の習慣、風俗に叶ふことが善であつたのです。然し今日の如く旧道徳は廢れる。其の Essence は廢れないが、其の形式、其の働き様は已むを得ず移り変らざるを得ないのである。其の旧道徳がすたれ、新道徳は未だ興らざる爲めに行くべき途がわからず、其の間に迷ふと云ふことが今日の社会を不健全にし、人格の出来ない原因であります。

斯う云ふ時に當つて、我々は如何にすべきであろ一か。目的に叶ふ処の行為が善であり、忠であり、目的に叶はない行為は悪であり、不忠である。然らば我々は我々の行為、我々の目的の爲めに如何に此の目的を見出だすべきか。又之れを見出ださねばならぬと云ふことが、皆さんに感ぜらるゝであろ一と思ふ。

其の話で、此の目的と云ふことが我々銘々に非常に深い關係を持って居るものである、離る可からざるものであると云ふことが、略ぼおわかりになるであろ一と思ひます。

[Life work]

次に起る問題は、其の目的の大きい關係がどー云ふものになるか。目的と云ふことを申す時に必ず人のよく使ふ詞は、我が国で言へば生涯の目的と云ふこと、西洋で言へば Life work、天職である。目的と云ふものは、此の天職でなければならぬ。生涯変ることなく一貫して行かると云ふものでなければならぬ。そー申しますと、自分の生涯の目的を定めると云ふと、文学部の人ならば自分の目的は先づ文学。美術の中でも彫刻、或は音楽、絵画、其の他の技芸家。科学の人は何か一つ自分の専門の學問を修めることである、とお考へになるであろ一。そー考へると、自分は生涯一つのものとなつて社会に貢献し、指導に捧げるには、自分に特別にある処の天賦の力を大に發揮しなければならぬ。そーすると男女の區別はないから、男子の大家に肩を並べる程の者にならねばならぬ。故に我が国で大に腕を磨いて、其の後七、八年も外國に行つて立派なる指導を受けて勉強せねばならぬ。其の七、八年の修業の後も猶ほ自分の家に閉ち籠つて、専心勉強せねばなるまい。夫れ位に勉強しなければ、到底其の人に与へられてある処の特色を發揮すると云ふことは出来ないのであろ一。然らば若しもそー云ふ目的を懐いて生涯に成し遂げよーと思ふならば、万一結婚して他家に嫁いで子供の世話をし、一家の事を引き受けて行かねばならぬ身になったら、外國に行くことも出来ず、家に閉ち籠つて勉強することも出来ぬ。そーすると其処の一つの疑問が起る。自分の生涯の目的を一貫しよーと云ふには将来の幸福を打ち捨て、家庭までも犠牲に供しなければならぬと云ふよーに考へるならば、大なる矛盾を來するのである。若し目的を立てるならば非人間的、非人情的、即ちお釈迦様のよーに出家をせねばならぬかと云ふよーに考へて来る。之れが私思ふに、あなた方をして非常に躊躇せしめることであろ一と思ふ。之が即ち我が国婦人が何事も男子に劣る、そーして生涯の目的を立つる事の出来ない大きな原因であろ一と考へます。

そこで目的を立てると云ふことは非人情的でなく、却つて

其の偏見の反対であります。最も人生を円満にし、最も人間と人間との間を宜しくし、真に人生の価値を現はさしむるのであると言はねばならぬ。

[忠孝]

夫れで私は、之れをど一云ふ点にまとめるかと云ふと、我が国道德の真髓、大和魂の真髓、二千五百年養ひ来った処の国民性、我が国の命である処の忠孝。私は勅語の中に在る処の、克く忠にと云ふ事に帰することが出来る。

克く忠にと云ふ中に、克く孝にと云ふことも、夫婦相和しと云ふことも、博愛衆に及ぼしと云ふことも悉く含まれて居るのであります。

[Loyalty]

Harvard 大学の哲学の教授、ロイスと云ふ哲學家の詞を以て言ふならば、Loyalty to Loyalty. 之れは忠の爲めに忠と云ふことである。我々は忠と云ふ目的に、忠でなければならぬ。目的の爲めに忠でなければならぬ。そ一すると目的とは文学とか美術とか、科学とか云ふものではない。真に科学と云ふものが自分の目的であるならば、死物ではない。つゞまる処は、生きて物である。やはり人間に関係あるものであります。愛国と言つても、国民の主權者たる 天皇陛下、国民の親である 天皇陛下、及び其の子供の如き凡ての国民全体、即ち社会に忠と云ふことでなければなりません。

つまり私は、此の克く忠にと云ふことに纏めて、之れを哲学的に説き明かしておいて、諸能力との関係にも説き及ぼしたいと考へましたが、段々時を取りましたから、結婚問題、之れが中々あなた方の困難の大部分を占めて居るよ一に考へましたから、之れを極簡単に申しませよ一。

今言ふよ一に、あなた方が茲に生涯の目的をお立になるについて、生涯の間に最も大なる、又最も価の高い犠牲と云ふことが出来なければ、何かを犠牲に供すると云ふ覚悟が出来なければ、目的を決することは出来ぬ。犠牲を敢てすると云ふことが出来なければ、目的を生涯に一貫すると云ふことは出来ぬ。如何とならば、目的は克く忠にと云ふこと、Loyalty である。昔から忠臣、孝子、貞婦、義人、我が国にその例は乏しからぬのである。目的の爲めに凡てを捧げる、之れがなければ終始一貫することは出来ぬ。犠牲の精神のない人は忠と云ふことは無い。然らば犠牲とは何を言ふのであるか。

[犠牲とは如何]

大目的、即ち生涯の目的の爲めに、他の目的、或は他の欲望を犠牲に供することが必要である。

即ち真正の目的は、必ず犠牲と云ふことが必要である。如何となれば、自我実現、即ち目的の実現は犠牲と努力に俟たなければならぬ。

之れを具體的の事実にあてはめて考へるならば、此の前に申したよ一に、茲にあなた方女子に譬へたならば、美術か何かの技術家になると云ふ、國家に要求があるならば、桜楓会の将来を思へば茲に何かの専門家になる必要がある。又其の目的、其の専門に適する特性がある。自分は確かに一つの専門家、文學者になる才能がある。又自分は婦人の将来の爲めにこ一云ふ職業をとる必要がある。そ一云ふことのために生

涯の目的を定めよ一と云ふ意志が勃々として興る。併し一方には年老いたる母があり、病身なる弟があり、教育をしなければならぬ兄弟がある。親に仕へて兄弟を教育する処の要求がある。自分の技量を展ばすと云ふことを目的とするならば、一家の事情、親に仕へると云ふこと、幼弱なる弟を教育すると云ふ、人生の義務を欠かねばならぬ。尚ほ其の上に、自分は嫁して夫に仕へ、第二の國民たる子供の養育に従はなければならぬと云ふことも起つて来る。若しも其の目的を違しよ一と思ふならば、自分の天才を発揮する処の目的を犠牲としなければならぬ。之れをきめると云ふことは、非常に思慮を要する。即ち理性の働きを要します。又先見の明が入るのである。其の上に非常なる決断が在るのである。其の特殊の問題になると、大に考へないと云ふと目的を誤まる。目的を誤まれば生涯を誤まると云ふことになる。其の特殊の問題をきめるにつきましての心得となるべきことは、是非必要なる指針となるべきものは後に譲ることと致します。

[如何なる目的を定む可きか]

今日は、目的をきめる時に犠牲が必要であると云ふことと、又我々はど一云ふ目的をきめなければならぬかと云ふことだけ、申しておきたい。つまり、自分の大目的の爲めに、其の他の小目的、凡ての目的を統一して、生涯全力を捧げて終始一貫すべき目的は何であるかと云ふことを定めること。之れが一番六かしいのである。之れがきまれば、時とか経済とか実力とか云ふよ一な其の他のものは、皆出来て来るのであります。彼の日露戦争に於ける廣瀬中佐は、我が子孫、我が家、我が父母と云ふことを犠牲にして、國家に捧げる国防の爲めに戦ふ軍人となつて、其の軍人たる目的を全うすると云ふことが大目的であると考へられたのである。又女性の中にも斯くの如き例は乏しくないのであるけれども、亦老いたる父母の爲めに、父母を失ふて保護者なき弟妹の爲めに、即ち保護者たる処の目的を立てるが爲めに、自分の技術家になりたいとか、學者になるよ一とか云ふ目的を犠牲にして、其の欲望を犠牲にして、生涯を未成者の爲めに捧げたと云ふ婦人も少なくないのであります。

其の意味は大体おわかりになるであら一と思ひますが、併し母親が老いて居る、或は不治の病にかゝつて居る、我が弟妹が保護者を失ふた爲めに彷徨して居るとか云ふことは、余り大きな問題ではない。併し家を持つと云ふこと、結婚をすると云ふことが、目的の一つとして数へられる。詞をかへて言へば、女と生れたものが結婚して國民を生むと云ふことは、どんな犠牲を供しても此の目的を遂げなければならぬかと云ふことが、問題になるであら一。之れを目的と言ふと、皆さんの中に或は疑ひを起すお方があろ一かと思ふ。併し夫れを何故目的と言はねばならぬかと云ふと、前の問題を明らかにしてからわかることとあります。

つまり我々の目的は婦する処は一つになる。道は各々分れても、目ざす処の頂上は一つである。先づ之れを前提におかねばならぬ。そ一して目的と云ふことは、協同でなければならぬ。美術家になつても、文學者になつても、如何なる職業を取つても其の目的は大きく考へると、協同にならねばなら

ぬ。其の大きな目的、即ち人類の調和、統一して進む処の目的は、Eternal perfection、永久無限の完美と云ふ処にある。つまり、人類の目的は益々人間を完全にしよと云ふことである。宗教の目的も茲にある。Christの天国を此の地に建設すると云ふこと、神の国を世界に來たすと云ふこと、又神の御心、天の意志を人間社会に成就すると云ふことも、社会学者のUtopiaと云ふことも、皆Eternal perfectionとなるのであります。

ところがChristが目的を立てられて、其の目的の福音を世界に宣言して2000年になるのであるが、其の国は建てられたのであろ一か、其の人類の國は実現せられたのであろ一かと云ふと、実に遅々たるものである。故に世界の平和は望むことの出来ないことである。今社会の間に行はるゝ処の軋轢、紛擾、社会の細胞たる家庭の紊乱、夫婦間の破綻、離婚の増進、人間の病氣、煩悶の伝染等の現実が、如何に其の目的が相反して居るか。これを改良せんがために、宗教家も政治家も道德家も哲學家も、等しく之れが改良を計らんがためにあらゆる奮闘を続けましたけれども、今猶ほ其の功を奏することが出来ぬ。此の矛盾は如何にして調和せらるゝのであろ一か。此の病原は如何にして根絶せらるゝのであろ一か。19世紀は婦人の世紀と云ふことを歴史家は稱へました。婦人の開放、婦人の教育、婦人の自由と云ふこと、之れが社会の問題でありました。然るに20世紀の今日はど一かと云ふと、子供の世紀である。

The centry of children 又は
Emancipation of children 或は
Holiness of generation

子供の生れることの神聖と云ふことが稱へられて居る。人間の根本の人間性を新にし、進化させる処の、つまり新しい國民を生む処の、國民的生れかほりを促す処の本となる婦人、即ち母親から生れる処の、種である子供の大切なことを気づかしたからである。

根本的國家の改良、根本的人類の改良と云ふことは何によるかと云ふと、今日は動物でも植物でも同じことであるが、まして尊い人間の改良は、一に婦人の結婚の仕方に由るのである。即ち此の結婚問題に由って、凡ての事が改良せらるゝのである。婦人の結婚の仕方がわるかったならば、其の選択を誤ったならば、之れ迄の悪しき遺伝を高めるのである。故に婦人の結婚の仕方が宜しきを得たならば、國民を改造することが出来るのであります。故に此の結婚と云ふことも、そ一云ふ大きな問題に拘って居るのであります。此の事は今茲に委しく申さなくても、皆さんにおわかりであろ一と思ふ。

之れが私の如き男子であって、政治家になろ一、一つの専門家になろ一と云ふ目的をも抛って、女子教育に生涯を捧げた所以であります。女子の結婚、之れがやはり経済と云ふ問題にも重大なる關係を持って居るのである。之れが女子に人格を高めさせねばならぬ、之れがあなた方に目的を見出ださせなければならぬ、犠牲的精神を生み出ださんければならぬ、忠と云ふ魂が出来ねばならぬ、所以である。

真に我が日本國民を改造しよ一、我が國民を新にしよ一と

云ふことに、重大なる關係を持って居るのであります。然らば結婚はど一してもよいと言ふべきものではない処が、之れが問題である。やはり習慣、風俗に束縛せられ、國家に忠と云ふ事が無いために、多くは誤るのである。皆さんが桜楓会の事業としていろいろの婦人の組合を組織したり、婦人に新しい職業を紹介なさることなども、其の婦人は我が國民の母と云ふ点にある。將來の國民の母たるべき婦人を教育して、國民的改造を試みんと云ふことに外ならぬのであります。

其のためには、音楽家も出来ねばならぬ。其のためには、専門家も出来ねばならぬ。其のためには、教授も出来ねばならぬ。其のためには、美術家も出来ねばならぬ。其のためには、ほんとの母たるものも出来ねばならぬ。故に目的を立つると云ふことが、天職と矛盾すべきものではない。多くの分れて居る目的を、一つの大きな生涯の目的に統一するのである。其のために、生涯の行為を支配すると云ふことなのであります。詞が足りないために、よくおわかりにならぬかも知れませんが、結婚はど一でもよいと云ふことではない。其の結婚を定むることと、目的を立つると云ふこととは、選択と云ふ点に於て同一である。真に賢母良妻となり得る人は、生涯を捧げる所、天と仰ぐ凡べてのものを犠牲として、捧ぐる処の良人を選ばねばならぬ。普通の結婚は人間たる者、凡てがしなければならぬとは言はないけれども、此の大きな結婚は、人たる者凡てがしなければならぬ。

其の結婚とは、自分の生涯の目的の為に結ばなければならぬ。其の人にして始めて真によく家が治まり、立派なる母となり得るのである。

不幸にして良人に先き立たれても、或は独身で居っても、決して淋しさを感じない捧ぐる所があるので。

故に、我々は其の大なる目的に結婚し、同主義、同精神のもの互に深く相愛して、始終新らしき者を生み出して行かねばならぬ。新らしき國民を年々歳々に育てゝ行く所の者とならねばならぬ。即ち、母たる徳を備ふることが必要であります。

[中表紙]

桜楓会正会員会に於ける御話
明治四十二年十月十日

明治四十二年十月十日
桜楓会正会員会

[団体の力を要する事]

殆んど内のお方がおもの様で、外のお方が少なうござりますが、今日は天気も悪い故でありましょ一か、今の幹事の御経験で、よることがさ程六かしいのではないが、其の会を有益にすることが六かしいと云ふことであります。も一其の会の目的が達せられんければ、会合が盛んになると云ふことは到底期せられんことである。又夫れで會員を育てゝ行くと云

ふことも六かしいのである。之は我々も前から聞くことで、銘々の力を要する事、又団体の力を要することで、殊に大切な事柄であります。

[美術家の話]

此頃自分の専門を研究する為めに、七、八年外国に行って帰って来た人の話、倫敦あたりで美術家と名の著れて居り、人からも大家と許されて居る位の人話には、若しも二年位苦心して、夫れで未だ進歩と云ふ事が見えぬ様なら、筆を折って自殺すると云ふ考へで始めたことと云ふことである。之は独り画家のみではなく、世界の凡ての方面に修業して居る者の決心であると思ふ。我々も此の前の正会員会の時に一寸申した様に、是から二年間に残って居る処の一年半の間に、銘々の修養の上に、銘々の学芸の上に、一段の進歩を計らなければならぬ。

[今日の大問題]

若しも会員が此の以上の進歩を見ることが出来ない、従って桜楓会が此の以上の発展を遂げることが出来ないと言へば、之は容易ならぬことである。我々は皆履腹をするとか、銘々の生涯は失敗に帰すると云ふことになるのである。故に此に余程の決心を以て銘々を深く考へ、大に計画を立てて居られることと思ふ。ど一したならば我々は真に力を養ふことが出来るか、ど一したならば会の仕事を発達させることが出来るかと云ふことが、今日の大問題であると思へられる。夫れで今日は、内の会員は先日いろいろな事について御相談もして居り、又いろいろなあなた方と共に働いて居るのであります。外の会員共も、益々一致協同して進みたい、そ一して、も一層効果ある結果を生ずる様に働きたいと思つて居りますが、今日はあいにく外からは沢山おいでになりませんのであります。今後ど一云ふ風に働いたならば其の効果を挙げることが出来るかと云ふことを考へて見たい。

夫れを致しますには、先づ会員を進めて行くこと、又会員の傾向と云ふよ一なものについて、も一層会員が今日の現状を明らかに知ることが大切であると思へます。之には何か秩序を立て、極深い処迄わかる様に致しますには、今日御出席の皆さん方と御相談を致して、何かもっとよい方法をとることが必要であると思ふ。沢山の卒業生になると幾らか年代によって特色を異にして居るかと思ひますが、級別にして一寸立って御覧なさい……………

[全体活動]

私は斯う考へますが、ど一でしよ一。第一回、第二回から第六回に至る迄、府下に居るゝ方は残らず集まることとして、其の前に一回は一回、二回は二回と云ふ風にして、一人も残さず悉く訪問して、病氣とか経済とか云ふことに由つて困難に陥つて居る様な人があるならば、ど一か夫れを相よつて助けねばならぬ。そ一云ふ貧民と云ふ方でなくとも、品性がわるい為めに家庭が乱れて居ると云ふ様な人があるなら、夫れをど一かして治すと云ふこと。又そ一云ふことではなくして会などに出る事の出来ないのは、いろいろの境遇上、外に出る事は出来ぬと云ふ人もある一。夫れで先づ一回は一回で校内にある主なる方が委員となつて悉く訪問して、大抵全

体が残らず都合のつく様な時機を見計らうて、第一回なら第一回の目的を確立することの出来る様な相談会を開くこと。夫れを又全体の級に移して行くと云ふ様に致したいものと考えます。二回、三回、其の他にもいろいろ深く考へて、広く意見を集めて夫れを委員の所で纏めて、そ一して愈々全体の活動を開始すると云ふことが必要ではあるまいか。之は私が今の御報告を聞いて、皆さんに御相談を致すのであります。之について御意見があるならば、成るべく時をとらぬ様に仰つて戴きたい。

・全会一致を以て、是れを始むることに決す。

夫れを始むる前に先づ仮説と云ふ様なものを立て、全体に及ぼすことについて皆さんと御相談を致して見たい。若しも煩悶をして居る様な、何かに困んで居る様な人があるならば、之れは我々の身体の中の痛みである。又同じ事ばかりを繰り返して居るとか、ど一も思ふ様に発展が出来ないと云ふ様な人があるならば、其の原因は何処にあるかと云ふことを見出して、夫れから全体を救ふ方針はど一すればよいかと云ふことにならねばならぬ。故に先づ銘々を興し、其の次には団体の事業、一致協同の働きを、も一一段進めねばならぬ。是は如何にすればよいか、斯うしなければならぬと云ふ事を定める事が必要であります。そこで先づ我々は十年祭を期して、も一残る処、僅に一年半程の間に出来るだけ研究をして、一つの方針を定め、又次の十年期に於て如何にすべきかと云ふ方針をも立てることが大切であると思ふ。

[英国の婦人]

英国では國家の弱点、社会の罪惡と云ふものは、子供と婦人が猶未だ解放せられない。経済的にもせられないし、教育的、道徳的に解放せられて居ない。故に先づ、ど一しても夫れを解放しなければならぬ。そこで婦人も、やはり國家の腦髓である処の政治にも干渉しなければならぬ。政治は凡ての國に關係を持って居るから、婦人も此の國家を支配する事の出来る力を養はねばならぬと云ふことで戦つて居りますが、毎年失敗に帰する。そ一して随分、識者の間にも笑はれて居るけれども、ど一しても此の Franchise と云ふことの為めにたゆまず、倦まず運動して居るのであります。此の Franchise がよいとか、わるいとか云ふことは、茲に論ずる限りでないが、此のど一しても抹消することの出来ない力がある。之が Anglo-Saxon を生み出す本であります。其の他、米國に於ても非常なる反対のある中で、女子高等教育を興して来たのである。

[我々人間に必要なり]

我國に於ても、ど一しても此の力を養つて、婦人の美性を養はねばならぬ。今日迄に進む事の出来たのは、やはり英米婦人に負けない処の魂があったからである。元來、我國の婦人にも斯う云ふ力があったのであるから、今日と言へども、やはり消滅はして居ないのであります。之はど一しても我々人間に必要なである。其の本が枯れて来るならば、連も経済とか、病氣とか、其の他の困難に勝つことは出来ないのである。夫れと同じ様に、若しも我々の会員の中に Poverty と云ふ様な段階にあるとか、ど一も心の病に勝てないと云ふものがあ

るならば、其の力が失はれたからではあるまいか。

昔から、一つの人格を顕し、一つの事を為し遂げた人は、必ず其の処に源があるのである。夫れは宗教によつた人もあろ一。忠義と云ふことによつた人もあろ一。けれども今日は只だ迷信によつて救ふことは出来ませぬ。ど一しても心の敵に勝つと云ふ力を養はねばならぬ。そこで魂の命を育てると云ふ空気を作って、会員を救ふにも、根本の所に手をつけねばならぬと云ふ事……

今大橋さんの仰つたことも其処に歸するであらうと考へます。夫れに同意の方は……全体

次に問題になるのは、如何にして其の新しい命を養ひ立てることが出来るかと云ふことである。其の方針を立てることが必要であると考へますが、夫れについても皆さんから意見を出して貰ひませう。

私の國に斯う云ふ話がある。或る剣客の高弟に非常な名人があつて、撃剣に於ては其の人の右に出る者はない位であつた。然るに、いざ真剣勝負と云ふ時になると、最も下手であつた者が見事勝利を得たのであります。日露戦争も、そ一である。國の大きさから言つても、軍艦の数から言つても、兵士の数から言つても到底比べものにはならぬ。我が國は實に小さい島國であるけれども勝つことの出来たのは、やはり日本は大きい露西亜を恐れなかつた、覚悟を決めて奮然として立つたからである。

[自分の敵]

之と同じく、我々は何時でも心の中で戦をして居るのである。時間が出来ない、勉強が進まない、力が展びないと云ふのも、いろいろ明日の事が氣にかゝる。人の事が案じられる。又先きの事が心配になる。其の心配は、つまらない事である。之は感情である。之は皆、自分の敵である。

[心の敵]

故に此の敵に勝たねばならぬ。処が負けて了うのである。負けたがために物が出来ない、成功しないと云ふことがある。此の心配、或は恨む、怒ると云ふよ一な心の敵が自分を苦めるために、物が出来ない。そ一云ふものを、心の敵と言ふ。昔から、一方を天の使と言ひ、一方を悪魔と言ふのである。其の悪魔がいろいろ我々を悩まして時間を消費させる、力を殺がしめる、又してはならぬことをさせるのである。我々の頭の中には夫の使、聖靈のよ一なものもあれば、悪魔の様なものもある。此の敵に勝つ得る人は、何にも勝つことが出来るのである。精神一到とは是を意味するのである。我々には兎も角も弱い処がある。故に夫れに勝つことが大切である。皆さんの反省は、ど一云ふ様になつて居りますか……

我々も反省をすると云ふことを、自分の欠点を考へる様に思つて居つたことがある。多くは、そ一云ふ欠点がある。我々の生活の上には随分失敗が多いのである。故に大抵は、そ一云ふ事が心配になつて、頭の中に悪魔の様なものが出来て来て、そ一云ふ考へが頭の中を支配する。其のために、事が出来なくなるのであります。自分の性癖と、つまらん、ど一しよ一、やり損なつたと云ふ様な心配が、我々を苦めるのである。

[積極的の修養]

夫れと戦はう意志を以て征服しよ一と思ふけれども、中々誰れにも六かしいのであります。けれども只自分の欠点を悔むだけでは、ほんとの修養は出来ぬ。故によい方面を見て進んで行く方の仕方、之を積極的の修養と言ひますが、私は調和と云ふ詞に由つて、之を申したい。

[調和]

調和とは二つのものがよつて、一つの新しいものを作り出すことを言ふのである。人間をど一してよく進めて行くことが出来るかと云ふと、私は此の間、結婚問題と云ふことを申しましたが、此の結婚によると云ふことが非常に大切なことである。我々の頭の中の、いろいろな汚ない分子をど一して清めるかと云ふと、ど一人をけ嫌ひして憎むと云ふよ一な性癖を治すには、其の反対の愛、親切と云ふ仮説を作る。夫れからど一人判断が下らないとか、心配になるとか云ふ時には、其の反対の勇氣、決断と云ふ様な薬を飲むのである。此の部屋が暗ければ戸を開いて光りを入れるのである。寒ければ Stove を焼くのである。我々の心が冷淡であるならば暖かになるのである。是迄の修養法が、ど一人其の欠点を責めると云ふ方であつたが、夫れで治る者ではない。丁度酸性の中にはアルカリ性のものを入れる様にするならば、茲に中和と云ふことが行はれるのであります。人の心をかへるのも、自分の悪い癖を治すにも、亦空気を改めるにも此の方法が大切である。つまり之を調和、融和と言ふのであります。

[感化力]

銘々の個性を發展すると云ふ事も、やはり銘々違ふ処のもの、私にある処のものを自分のものに貰ふことである。感化力と云ふのも、人にない処のものを与へて行くことであります。我が國民性に欠けて居る処のものは、此の大きな調和力であります。そこで、も一一つ立派なる品性を作る、も一一つ完全なる団体を作ると云ふことは、此の大きな調和に進むと云ふことにあり、世界は段々大きな調和を作らんとして居る。あなた方が其の大なる調和に向つて進むと云ふことは、宇宙の大調和に合致せん為であります。今私思ふに、各自の困難から救ひ出し、各自の實力を展ばし、各自の個性を發揮せしむることも、其の調和を計る、中和すると云ふことに由るの外はありません。夫れでど一か皆さん、銘々でよくお考へになり、そ一して相談をおきめになつて、段々着手なさることを希望致します。

[中表紙]

全校生徒に対しての御話
明治四十二年十月十三日

明治四十二年十月十三日
全校生徒の為に

今日は、第九回秋季運動会を今年如何にすべきか。

第二に、日英博覧会出品製作、及び前の期からお考へになつて居る経済的品性を養ふには如何にすべきか、及び大学拡張事業の一つである処の通俗講演会、及び本校十年期の終りの結論会。之れに関しては三年生の卒業論文及び前回よりもっと完備した参考館を作ること。先づ之れ等を数へますと、凡そ五つばかりの問題がありますが、こゝ云ふことを御相談致したいと考へまして、皆さんおよりを戴いたのであります。

只今は或る人の説には、五十年來の豊年であると申して居ります。近来稀に見る処の非常なる収穫で、我が国全国にわたりまして国民の非常に満足を表し、又非常に喜ばしい此の収穫の時に当りまして、我々が本校創立以來十年間に於ける収穫を計るのみならず、我が国十年間の収穫を見ること、猶遡つて、我が国女子教育史の三十年間の結果について考へる時におきまして、深く喜び、大に満足を表する如き結果を見ることは、誠に喜ぶ処である。丁度此の時機におきまして、三十年の昔の我が国女子教育がど一云ふ有様であつたか、又其の頃種蒔きをしておきました種が、今日迄にど一云ふ成長、発達をしたかを見ることを、大層喜びと致します。

さて私が今日の問題に入る前におきまして、今日の収穫の上に必要なることと考へますので、今日偶然此の校へおいでになつたお方を御紹介致すことは、最も有益であらうと思ひます。

丁度今から三十二年前、大阪に梅花女学校と云ふ学校を設けまして、夫れから二年程を経て、小学校に極小さい子供が入学せられて、其の年は僅かに八つの娘さんでありました。夫れから段々勉強を続けて、第二の卒業生となつて出られた其の時、将来有望な人と思つた方が三人計りありました。

其の卒業式の時に各々志を述べて、第一の人は矯風事業に、第二の人は文学、殊に家庭の読み物に、第三の人は女子教育事業に尽すと云ふ決心をして、お互に其の約束をして校門を出られたのである。其の女子教育に尽そ一と云ふ決心をなさつた方が米國の一番古い大学、即ちマウントホーリヨークを御卒業になり、其の後、欧米を漫遊せられて、帰朝後は岡山の高等女学校長となられた。関西地方では婦人で校長になられた方は実に珍らしいのであります。爾來、其の目的の爲めに忠実に、熱心に働いて居られると云ふお方は、稀に見る処である。そ一云ふ關係から本校に同情を寄せられて、其のお弟子の中で本校に来て居る者が十三人計りあると云ふことである。そして此の学校の主義、方針として居ることを出来るだけ入れて居らるゝのであります。今日此の堂にお入りになつて本校出身の方のよ一な感じがする。又日頃あなた方を友人として同じ精神を以て尽して居らるゝので、日頃から地方に於ける会員であると云ふ様に思つて居りますが、今日殊に私の実践倫理の席にお列りになりまして、私は実に今昔の感に堪へないのであります。お名前は上代さんと申します。一寸皆さんに御紹介致しましよ。

[運動会に就きて]

本校第一回、秋季運動会を王子の渋沢男爵邸で催しました。其の時の運動会に出席しておいでになつた方は、一寸起立して戴きたい……

第二回の運動会に列つた方は……

第三回……

第四回……

第五回……

第六回……

第七回……

第八回……

次には、今年四月に入学なさつた方で、其の前に度々本校の運動会を見においでになつたことはありましょ一が、夫れは省きまして、今年入学以來、未だ一度も本校の運動会を見たことのない人は……

如何でありましょ一か。毎年何かの責任を持って充分尽して見たお方は、運動会についての経験がある。故に今年は何時と同じことをしないで、少し違つた処のものにしても宜しいと云ふよ一になつて居る傾きもあるかと思ふ。併しながら、今年入学なさつた方の中には、世間でも名高くなつて居り、殊に深大なる感化を受く可き運動会をいつものよ一にしなければ物足りないよ一な感じがする、と言ふお方もあるかとお察するのであります。

処が第九回の今年に限つては、少し變へて見たらど一かと云ふ問題もある。故に、夫れを皆さんに御相談致すのである。尤も品性修養にも、學問研究にも有功であるよ一に致したい。併し教職員の方、我々の方で考へをきめて、あなた方に命令すると云ふことは面白くあるまいと思ふ。故に教育の方から考へて、皆さんの判断力に由つて此の事を決めたいと思ひます。

其れで先づ、其の事を考へるに當りまして、虚心平氣になつて、よく道理を考へて、誤らない判断力をお下しになることが大切である。此の判断力は誠に大切なもので、大学部並びに高等女学校に於て如何なる判断をお下しになるか。之れに由つて、あなた方の品質がきまつて來ると思ふ。唯だ平生に於て誤らないお答へをするとか、日常広い關係を考へて適當な判断を下すと云ふことは、品性もあづかり、其の人の人格も与かることであるから、よくお考へになることを希望するのである。然らば先づ、前にど一云ふ標準をきめて、然る後判断をすべきかど問題であります。

[判断を下すに大切な二方面]

我々が生涯の目的について、又日常生活について、其の時々の判断を下しますに大切なものが二つあります。其の一つは我々の生れつきと言はうか、品性と言はうか、之れを本能と言ふ。本能に由つてきめるか、第二は、こ一云ふ問題は我々の生涯の目的、又は國家の爲め、全体の爲めに、いろいろ考へをめぐらして、我々の正しいと思ふこと、公平と考へることをよく考へて、所謂理性に由つて、我々の爲すべきことを成し遂げると云ふことを意味するのである。

本能できめると云ふ方は、我々秋季運動会は何やらしたいと考へる。面白い運動遊戲、面白い遊びをやつて見たいと考へる。毎晩疲れたから休みたい、故に休むと云ふことが、本能である。毎年秋と云ふよい時節に、お母さんもおいでになるから面白い遊びをしたいと考へる人もあるであらう。之れ

は所謂、興味を以て勉強する、熱心に物を調べると云ふのが目的である。今一つの方は、目的に従ってきめる。如何に我々が好んでも我々は道理に従ふ、目的に従って居ると云ふならば、之れは我々の理性と云ふものゝ判断に従った考へと言はねばならぬ。彼の人はいい人であるとか悪い人であるとか云ふことは、此の理想に由って定めるのである。

我々はど一して修養するかと云ふと、其の理想を本能にしよ一と努めるのであります。

つまり理想派と功利主義とが、よく一つに調和して行く処に定めねばならぬと云ふことになる。

先づ第一に、此秋の秋季運動会は如何にしたがよかろ一か。今年は春のよ一に内端だけでして、毎年のよ一に、七、八千から一万人と云ふ大きなお客をして、弁当やら何かを拵へることをよしたがよかろ一か、ど一である一。殊に今年は経済界も振はないのであるから、凡ての傾きが質素儉約と云ふことになって居る。

そこで東京の主なる学校はど一かと云ふと、学習院女子部は今年のみならず、ずっと運動会はやめると云ふことである。そしてお茶の水の高等女学校は来年はど一か知らないが、今年だけは兎に角、何処かに修学旅行でもして、運動会はしないと云ふことである。世間はこ一云ふ風であるが、我が校はど一したがよいである一か。之れを理性で考へて、

せぬがよいと思ふ者は……………少数

した方がよいと思ふ者は……………稍多

夫れでは、お客を呼ぶことはよして、内端だけでした方がよいと思ふ者は……………多数

次には、本能から言へば、

致した方がよかろ一と思ふ者は……………多数

運動会などをして遊ぶよ一なことは無益である。我々はそ一云ふことは好まないと云ふ者は……………なし

[運動会の利害得失に就きて]

今年、運動委員からお出しになった計画に、勉強と運動とを一致すると云ふことが書いてある。何時ものよ一な運動会をすると、之れが為めに時を取られると云ふことは確であるが、其の為に勉強の上にも非常な妨げとなるである一か。又忙しくはあるけれども、其の代りに有益なことが多いと言はるゝである一か。あなた方の中には、四、五回も運動会に経験をもつて居る方があるから、従来の運動会に就いての利害得失を簡単に言つて御覧なさい。

- ・ 一致協力の精神を養ふこと。
- ・ 労働と云ふことを教へらる。
- ・ 忙しき間に如何にして修養し、学問すべきかと云ふことを学べり。

昨晚、代表者がおいでになりましたので偶然尋ねて見ましたが、家政科の如きは、一万人からの弁当を拵へると云ふよ一なことによつて、大層団体の精神を養ふこと。

又他の組では、平生は少々纏まりにくいと云ふよ一な級でも、此の運動会によつて、非常に一致協力出来るよ一になると云ふこと。

又幾らか勉強の時間を取るゝと云ふ考へもありました。

つまり予習をしたり、又其の前になると余程運動に熱中して来るとか、一万人からの弁当を拵へる為めに、そ一云ふ働きの取らねばならぬとか、又お客を招く為めに案内を出さねばならぬと云ふ様なこともある。

又是れ迄の批評によくありました華美になるとか、浮くとか云ふことはなく、世間でいろいろ考へて居ることは事実が大に違ふのであつて、こ一云ふ時に非常に国を愛するとか、高尚なる理想を築くとか云ふ点に於ても有益であると云ふ説と、随分時間もとることであるから、そ一云ふことに使ふ時間をもつと有益なことに用ひたがよかろ一と云ふ説と、両方あると思ひますが、

した方がよいと考へる人は……………多数

[日英博覧会出品に就きて]

第二の問題、日英博覧会出品のこと。

是れに就いて、学生として興味を持ち、又学校教育としてこ一云ふことを奨励し、出品すると云ふことは必要である一か、ど一である一。

そ一云ふことはよしておいてゞも、運動会をした方がよいであろう一か。皆さんは如何お考へになりますか。

今学問から言へば、実力を養ふと云ふことを各自が求めて居る。修養から言へば、高尚なる人格を養ふと云ふことを期して居る。其の実力を充実すると云ふことは、社会的の強大なる興味を養ふと云ふことである。人格を養ふと云ふことは、社会的の大なる同情を持つと云ふことである。そこで我が国が盛んになり強大になると云ふことは、我が身が榮え、我が身が幸福になると云ふことと、一つである。我が国のみならず、世界各国が共に進歩すると云ふことを計らねばならぬ。故に此の日英博覧会の為めに表を作るとか、いろいろ成績品を拵へると云ふことは大切であるのみならず、此の博覧会は日英同盟に非常に深き関係を有して居る。そ一して我が国が世界に雄飛することが出来るよ一になったと云ふことは、誠に我が国にとって大切なことでもあります。

此の前に、万国博覧会があつて日本から出品しただけでも、最も力を尽して出金したことが、百万円に過ぎなかつたと云ふことである。然るに此の度は國庫が支出するものが三百万円、其の外に地方から支出するものを合算すれば、約五百万円と云ふことである。是れによつて、日英博覧会と云ふものが如何に重大なるものであるかと云ふことが想像せらるゝである一と思ふ。そこで我々も、此の事の為に出来るだけの力を出してした方がよいと云ふものと、夫れは不必要なことであると考へるものとありましょ一。

出来るだけ力を入れたがよいと思ふ者は……………大多数

其の次には、如何なるものを出したがよかろ一か。此の頃西洋から帰りました美術家の話に、倫敦あたりでは、苟くも絵画を以て立たうと決心して、修業を始めてから二年の後に未だ進歩の跡が見えないならば、も一筆を折つて自殺すると言つて居るとのことである。

所謂、専門職業的自殺をする。夫れ丈の腕が磨けねば、も一己れの終りであると云ふことを覚悟するのである。夫れのみならず、鉄鎚を拵へる職人でも、毎日同じ金鎚は作らぬ

と云ふ決心である。故に Anglo-Saxon の作った物は誠に強固である。価は高いけれども、其の代り、此の衣服の色が変るとか、道具が損じ易いとか云ふものは作らないのである。我が同盟国では職人から専門家、大学教授に至る迄、斯くの如き決心を持って進みつゝあるのである。之れに対して、あなた方は如何なるものを作らんとせらるゝのであるか。外国から帰った美術家の申しますには、失望、落胆して、も一少しも活気のない者や、満足して更にして更に向上の望みのない者の顔程画きにくいものはない。横顔にしても、仮令後姿にしても、勇氣に満ち、希望に溢れて居るものが画き易いと云ふことであります。

つまり技術は、自分の理想を表はす処のものである。故に私は、あなた方が外国に向つて、我が国の女子高等教育を代表して居る処の出品物は無論幼稚ではあるが、出来るだけ手を尽して、粗漏なきことを期す可き筈である。

〔経済的品性〕

第三に、あなた方には経済的品性を養ふと云ふ計画をお立てになつたのであるが、夫れは如何にして実行すべきであるか。我々の手の働きは直ちに我々の頭の働きに影響するのである。

之れは、時々御話したことがあります。故に今日之れを委しく申す必要はありませんが、昔から其の人の人相、其の人の品性は、大抵手にわかると云ふのである。夫れは人間も、もとは動物から進化したものである。故にもとは四つ足で歩いて居つたに相違ないが、今日ではそ一でない。動物は四足で歩むけれども、人間は二脚で歩いて、両手は機械使用の働きをするよ一になつたのであります。

〔手の教育〕

つまり手の教育をしなければ、知力の錬磨が出来ないと云ふことになって居ります。殊に今後、経済的國民を作るには、又経済的品性を養ふには、前に申した遊びも必要であるが、此の手の働きを教育すると云ふことが、猶一層必要であります。

・ 夫れは必要なことであると思ふ者は……… 多数

〔科外講演〕

第四は、大学拡張の仕事の一部の科外講演であります。今講義録を出して居りますが、夫れだけでは未だ目的を達することは出来ぬ。実験とか実習とか云ふことがなければならぬ。故にそ一云ふ会をして、丁度あなた方の日英博覧会出品の機会を利用して、参考館を作るならば百聞一見に若かずで、いろいろ其の實際を紹介したならば、家庭の爲め、社会の爲めに尽すことが出来て、誠に有効ではあるまいか。又三年生は論文を草し、且つ其の上に十年期の結論をつけると云ふ傍ら、そ一云ふ働きをとることは、最も有益なことではあるまいか。之れは重に桜楓会の仕事であります。併し学校が協同して、此の秋、そ一云ふ会を開いてはど一かであるかかと云ふ考へであります。やはり、

第四の事も必要であると思ふものは……… 全体

そこで、教育の目的からこ一云ふことを皆關係をつけて、最も有効にしよ一と云ふのであるが、斯う云ふよ一に数へて

見ると、余程仕事が多過ぎるのである。故によく連絡をつけねばならぬ。私思ふに、今年の運動会は成る可く研究的に、成る可く体育の目的を達するよ一に。そ一して成る可く実力をつけ、九年間の結論をつけるよ一に。しかも平等に劣らないよ一に。内端だけで致して、お客をお招きすることは、其の講演会、参考館と云ふよ一なものに譲つてはど一かであるか。詞を換へて言ふならば、凡てが質素儉約を旨として振はないと云ふ時に當つて、女子教育の世論を喚起すると云ふ大きい目的に関連して、此の秋の運動会をすると云ふことにして、お客は此の校の評議員、教職員、及び通信教育会員とに限つて、お招きをするよ一にしたならばど一かと考へられる。

夫れでは、其の結論は今申したよ一にして、運動会は外からの多くのお客をお招きすることは、今年だけはやめにしよ一と云ふことに賛成の者は……… 全体

夫れでは満場一致を以て賛成のよ一であるが、何時もは多くのお客をお招きして、本校の實際を世間にも紹介するのであるから、茲に一種言ふ可らざる精神が現れるのであるが、今年は内端ですとしても、出来るだけ熱心に、且つ最も精神的にしよ一と云ふお考へのお方は……… 多数

夫れでは、ど一かそ一なさることを希望致します。今年は十年期の結論ともなるべき、誠に大切な時機でありますから、出来るだけ研究的に且つ精神的に、一致協同致したいものであると考へます。

〔中表紙〕

正会員修養会に於ける御話
明治四十二年十月十三日

明治四十二年十月十三日
正会員修養会に於て

〔天才の發揮〕

天才を發揮すると云ふことに就いて、いろいろお尋ね致しましたのは、最も誤り易いことであるからなのであります。我々共も若い時には、よくそ一云ふ考へを起したことがある。今聞く処によれば、あなた方皆さんが何か非常に優れた力を現したいと云ふ事である。一人人間はそ一云ふ傾きを持って居ります。一人として同じ顔はない様に、心の傾きも銘々違つて居るのである。けれども自分の目は人の目に二倍にもならうと考へるならば、夫れは不具であつて、面白くない。天才と言へば、一つ非常に飛び抜けた者になりたいと考へ易い。所が夫れが考へ物である。大きい事から言へば、象は大変大きい者で兎も我々人間には及ぶ処ではない。又牙で言へば、虎の様なものは我々の齒では比べ物にならぬ程のを持って居る。彼等はそ一云ふ特色に於ては非常に優れたものを有して居るけれども、夫れよりもっと敵を防ぐことが出来、彼等に優ることの出来るのは、人間である。故に我々の力は象の

如きものにも、鯨の如きものにも勝つことが出来るのである。又人間社会に於ても、一つの Profession とか遊戯とか云ふ様なことは、男子の間に於ては非常に発達するのでありますけれども、角力取りとか Champion とか云ふものは一番短命であり、病気に抵抗する力が最も薄弱であって、我々の如き普通の体格のものが遥かに健康を保つのであります。軍人で言へば、ナポレオンの如きは非常に雄名を轟かした人であるけれども、其の末路を見ると決して強い人ではない。やはり彼れよりも遥かにえらい人があったのであります。そこであなた方が非常にえらい天才であると考えても、そ一云ふ人は決して大した勢力はないのである。数等下な人、何の役にもたゝぬと思つて居た人が、案外にも此の世を支配することが出来るのであります。例へばワシントンの如きは、戦争に於てはナポレオンよりも優れて居たとは言はれないけれども、其の事業、其の感化は遥かに上に在るのである。

[リンコンに就きて]

又、名高き大統領、リンコンの如きは、其の読書力から言つても殆んど One book man であつて、バイブルとイソップ物語位なものである。学者としても Self-made man であつて、大学を卒業した事もないのである。けれどもリンコンは今日未だ死なゝいのである。夫れは何故かと云ふと、極端でない。一方に偏しないで、最もよく中庸を得た処の力の豊かな人であつたのであります。其れで天才と云ふことは、極端に、不具合に、一つの力が展びて居たと云ふことではないのである。故に我々も、其の人の特性を発揮するけれども、一つのものゝ為めに他の凡ての物を犠牲にして、不具的に展びたのではなく、よく調和、平均した人でなければならぬ。昔から、國を治むるものは先づ家を齊へよ、家を齊ふるには先づ其の身を治むることから始めよ、と申しますが、私は、あなた方御婦人で六かしいのは、天才は或は出るかも知れぬが、自分の心の中に起る感情を自制するのは中々骨が折れると思ふ。併し夫れの出来る人であつて始めて一家を支配し、天下を支配することが出来ると思ふ。

[上代氏に就きて]

今日、此の校に来ました上代と云ふ人は、そ一深い學問をした人でもないが、相当の教育もあり、誠に謙遜な人である。そ一して今日逢ひましても、歌羅巴を回つて来ましたと云ふ様な顔は少しも見せないであります。それだから、ちゃんと校長となつて、其の下には學監も高等師範卒業生の男子を使って皆に喜ばれて居らるのである。故に、真に勢力のある人は Self-control の出来る人、Balance を失はない人である。そ一云ふ人の家は、必ずよく治まるのである。そ一云ふ人の國は、必ず國民悦服の状態にあるのであります。リンコンも始めは非常な quick temper で、氣分のいらいらする様な感情家であつたが、彼れは其の非常な quick temper を制することを勉めて、非常に柔かな親切な人となつた。之がリンコンをして、非常に六かしいアメリカ合衆國を統一して支配することを得させたのであります。

[リビングストン氏の母に就きて]

彼の名高い冒険家のリビングストンのお母さんも、非常に

自分の心を修めることの出来た人である。此の己をほんといに支配する、自分の心の主人となることが出来て、始めて寮を治め、事業を成し遂げることが出来るのである。此の間申した様に、Good atmosphere を作るにも、弱い會員を助けるにも、此の力が大層必要であります。如何に大きな力を養ふても、如何に一方に偏した人となつても、此の自分を支配すると云ふ力が出来ねば何にもならぬことである。之がない中は、少しく物に困ると失望、落胆し、又少し物が出来ると直きに高慢になつたりして、己と云ふものは中々扱ひにくいものである。故に、此にほんといに自制することの出来る人があつたならば、假令一の力であつても、十の力を以て自制の出来ぬ人よりも遥かに強いのである。此の人が必ず衆人を支配し、人の頭となるのである。そ一して又、一番長生きをする人である。永久の命に入る人であります。故に自分の力を發揮すると云ふことは、先づ自分を支配する。夫れが出来て自分の頭の中が統一して来て、始めて何事も出来る様になるのであります。此の Self-control が出来たならば銘々満足して、夫れ相当に天分を全うし、力を展ばして行くことが出来るのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十二年十月二十日

明治四十二年十月二十日
大学部全体の為に

此の前には、目的とは何ぞやと云ふ問題を主に客観視して、客観化した方面を説きましたが、時間が足りない為めに其の意を尽さなかつたのであります。今日は之を内面の方から見まして、つまり是れ迄と方面をかへて説きましたならば、も一少しあなた方の心の中にはっきりするかと思ふ。そこで始めに外面から見た考へ、又は内面から見たお考へでも宜しうござります。つまり、目的と云ふことについて、はっきりとなりました自分の考へ、自分の主義、又は目的と言ふべきものが、何かも一出来て居るのであると考へられる。夫れで始めに、自分でお考へになつて、今纏めて居ります考へを少しあなたの方から聞きまして、又問題があるならば夫れをお問ひになりまして、段々其の問題に入る方が宜しかろ一と思ひます。

夫れで今一番深く自分の心にお感じになつて居ること、又は目的と云ふことについて問題となつて居ることを言ひ表はしてもらひたい。

[Self は目的なり]

此の前には、自己、英語で言ふ Self と云ふこと、此の我れは目的である。我々の自我同一と云ふことは目的の同一である。銘々の生命の永久不朽と云ふことは、目的の永久不朽を言ふのである。即ち自分と目的は同一なものであると云ふことを

申して、我々は此の自分即ち我れを客観に化して、目的と云ふことについて考へたのであります。然らば其の自我である目的を、今度は方向をかへて内面的の観察を致しまするならば、目的は自我である。も少し委しく言へば、目的とは己の如く愛するもの、同情するもの、興味あるもの、之れを其の動機を銘して言へば、目的とは我々の愛、同情、興味、或は我々の良心である。故に我々の目的とは、即ち我々が生命よりも大切なる、自分の全身全力を尽して慕ふもの、尊敬するもの、仕へるものである。此の関係を最も巧みなる詞に、心理学者の James が言ひ表はして居ります。

[ゼームス曰く]

其の詞は、

In its widest possible sense a man's self is the same total of all that he can call his, not only his body and his psychic powers, but his clothes and his horses, and yacht and bank account, all these things give him the same emotion.

If they wax and prosper he feels triumphant. If they dwindle and die away he feels cut down, not necessarily in the same degree for each thing but in much the same way for all.

James.

自我とは彼れの物であると言ひ得る物の凡べての総称である。独り彼れの身体、或は彼れの心力のみならず、彼れの衣服、彼れの妻子、彼れの土地、彼れの馬、及び彼れの遊び、船、或は貯蓄金をも皆、其の中に含めて言ふのである。総べて之れ等の物は彼れに同様の情緒を与へるのである。是れ等の彼れの物が若し増大し繁昌するならば、彼れは大に自分の勝利を感じるのであるが、若しも其の彼れのものが衰へて、或は墮落して滅びて了つたならば、彼れは必ず失望、煩悶を感じるのである。必ずしも同じ程度に於てではないけれども、必ず同じ種類の同様の情緒を感じるに相違はない。我々の自分と云ふものは、独り我が身体、或は我が精神を言ふのではない。我がと云ふ冠詞のつくもの、我々学生で言へば、我々の講堂、我々の寮舎、我々の花園、我々の図書館の書物、我々の筆筒にある衣服、我々の銀行に預けてある処の貯金と云ふよなもの、凡てを含むと云ふことであります。

我が國に於ても此の二、三年の恐慌の爲めに、折角拵へた財産を失ふたことに由つて、精神に異状を來して自殺をした者も沢山あります。之れは欧米にもよくあることである。夫れから我が子を失ひ、或は我が友をなく致しまして、夫れが爲めに病氣になり、生涯忘るゝこと能はずして苦にして居る人も沢山ある。

我が子、我が妻、我が夫、我が財産、我が知識、即ち我が最も愛し、我が最も慕ひ、我が最も大切に居る物悉くを、一番広義に解して、自我と言ひ得ると云ふことであります。

[自治的]

そこで目的を内面から見れば、自我である。目的は我が愛、我が同情、我が趣味である。そこで、これを内面から言へば、目的は自動的、即ち自治的意志と言ふてもよろしい。自治的

と言へば、即ち Kant の所謂 Autonomy で、自ら選択し、自ら動き、自ら向ふ所の動機である。

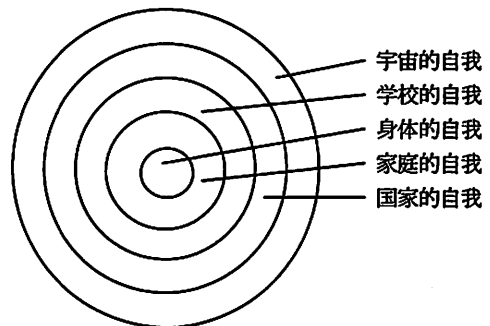
第二に、目的とは自我の広さを言ふのである。即ち興味の幅であつて、我が興味の広がる処、即ち我が目的であります。

第三、目的とは自他の融合である。即ち強き、熱烈なる愛情に由つて、自他の區別を除き去つたものである。目的とは、他の人、或は社会、団体を我れと同一化したものである。そこで人は目的に由つて、己れと人とを同一に見ることを得て、我々の弱点である嫉み、憎しみと云ふ反感は悉く消滅せしめて、真に人の善を喜ぶことが出来、真に内心の平和を実現することが出来る。故に先づほんとの目的を立てんとするならば、ほんとの知識、即ち目的を明らかにすることが出来なければならぬ。即ち、人に対し、事物に対し、社会に対して、ほんとの同情を持つことが出来、興味を感じるよ一にならねばならぬ。如何となれば、我々の知識は同情より又興味より出来るものである。そこで我々の力を増し、人格を高めると云ふことは、自分の興味及び同情を上げると云ふことになる。

そこで目的とは我々の内から見れば、人格を建設することになる。人格を建設するとは自我を拡大すること、意志を拡大することになる。そこで目的に達する、即ち自我を実現するとは、我々が事をなすに當つて全力を尽す、即ち自我を投げ出す、己れを忘れて熱心に忠実に尽すと云ふことと、我々の交はる人、我々の面会する人、我々の社会の人、我々の關係する人に対して至誠を尽す、同情の範囲を広げて行くと云ふことが、即ち最上我の実現であります。

[最上我の実現]

そこで、今の James の説と、及び此の Mrs. カボットの自我に対する意見とを図解して見ますならば、



自分の飲食、衣服、金銭と云ふことより目的のないものは、小人である。君子、偉人と云ふ人は社会、國家より始めて、宇宙、人類をも我と感ずるのである。夫れで其の城壁を破つて了ひ、そ一して無限と有限、我れと神との間の隔たりを除いて了つて、茲に大きい無限な自我を作るのが、内面的から見た処の自我実現である。即ち我が意志、我が愛、我が興味、我が同情が、斯くの如き全体に及び又及ばんとする処の傾向を言ふのであります。

そこで、之れを大別致しますと云ふと、Personal consciousness、或は Individual consciousness 即ち個人的

自我と、次に Social consciousness 即ち社会的自我、第三を Public consciousness と云ふ。

第二の社会的と言へば未だ人間と云ふ範囲であるが、第三の Public consciousness と言へば即ち国家政治制度、或は人道と云ふよ一なる、少し超人間的の自我と云ふものになって、此のよ一に分けることも出来ます。

そこで此の前に申しました我々の目的と云ふものは、之れを統一して一つに致しまするならば、つまり此の個人と普遍体とが一つになるのである。又一つにならんとする処の自動的意志を言ふのである。

そこで個人とはやはり普遍体である。社会学で言へば、社会である。社会が自分の意識となったものが、即ち個人である。故に個人は此の有限の中に無限を舍さんとして居るのである。無限と融合しよ一と努力して居るのであります。

[安寧、幸福]

そこで之れを目的から言へば、之れを無限の完成と言ふのである。自己を完成し、社会を完成し、全体を完成せんとして居る。其の動機を内面的から言へば、向上心と言ひ、其の働きを改善、進歩と言ふ。其の完全に近付いて毎日少しづつでも進みました。其の動機の満足を幸福と言ひ、此の社会的の満足を安寧と言ふのである。此の安寧、幸福の生命を理想とも名付けるのであります。

[最終目的]

つまり我々の目的は Universal、即ち普遍的になる。其処に至る理想を大別して、昔から真善美と言ふのであるが、真善美とは即ち普遍体である。Universal truth、之れが知的理想である。

夫れから Universal harmony of emotion、即ち感情の普遍が美的理想である。そして Universal harmony of volition、即ち意志の普遍的調和が道德的善の理想である。此の三つのものゝ調和がも一つ大きな普遍であつて、無限とでも申しましょ一か、名状す可からざるものである。そこで内面から見た我々の愛、興味、之れを目的と言ひ、其の調和したもの、普遍的理想が私共の最終目的であります。

之れを客観に致しますると、我々の愛するもの、我々の君、我々の親、我々の子孫、我々の学校、我々の桜楓会、我々の国家、我々の社会と云ふものが目的であるのみならず、銘々の努力して養ふ処の学問、銘々の技芸、銘々の専門と云ふもの、悉く目的と称することが出来るのであります。

[忠]

我々が生命のよ一に大切に思ふもの、尊敬をするものは、是れが即ち我々の目的である。其処で其の目的に向つて活動致しまする其の働きの状態、或は其の過程、即ち其の内から出る活動を、此の前に使ふた詞で言へば、忠、又英語で言へば Serve と云ふのである。我々の目的を果たすことは忠を尽すことであり、其の働きは我々が目的に向つて奉仕することであり。そこで此の忠と云ひ、又は仕へると云ふことの中には、同情、名譽、或は功名心があるのである。此の名譽と功名心と同情と云ふことは、即ち目的と言ってもよろしい。目的を達げるものには必ず名譽と云ふことも功名心と云ふこ

ともあり、競争心もあり、同情もある。之れが、目的と云ふものは社会的であると云ふことを証明するので、つまり我々の目的は社会的目的である。そ一して銘々の個人的目的は其の社会的目的を達するに必要な役目を、即ち仲間同志で協同して全体を組み立てる処の役を選ぶと云ふことが、銘々の役であります。

之れをわかり易いよ一に、小さい又皆さんに適当な例をひいて申すならば、只今全体が計画を立てゝ居る秋の催しであります。

[経済的戦争]

陸海軍が秋に於て大演習を行ふことと、全校が銘々組織を立てゝ、各々其の任に當つて此の秋小演習をしよ一と云ふのも、同じことである。去る日露戦争に世界の平和の爲めに正義を全うして、我が国家の目的を達げんが爲めに挙国一致して他の国と戦ひをした。其の国家の爲めに働くのと又今日国家が集中して居る目的は、経済的戦争である。

こ一云ふ風を立てゝ居る目的と程度は違ふのである。種類は違ふのである。けれども歸する処は一つであります。

此の秋の演習、日英博覧会、講演会、参考館と云ふよ一に、数へるならば余り複雑に聞こえるかもしれない。そこで先づ運動会と限つて、其の中の Basketball の団体と云ふことについて申すならば、白と赤とに分かれて勝つと云ふ目的を達するには、いろいろの係を要するのである。そこで先づ Basket を持つ人に由つて勝敗が決すると仮定する。彼の日露戦争の時に、連合艦隊を率いた処の東郷大将の地位は、実に国家の運命を歸する処である。誰れか其の地位に適当な人が出て来ればよろしいと云ふことは、凡ての人の要求であります。Basket を持つ人も、夫れと同じことである。

[大統領と司令長官]

米国では其の地位は大統領である。彼方では大工の子に生れても、お前は大きくなつたら何になるかと言へば、大統領になると言ふのである。そこで America で言へば大統領となり、日露戦争で言へば連合艦隊の司令長官となつて、全体をよく統一して余りありと云ふのは、非常に名譽なことであり

ます。そこで目的と云ふものは、団体から言へば忠と言ひ、個人から言へば Ambition、功名心と言ふのである。故に其の地位に立つて最もよく其の事に尽したならば凡ての人の要求に叶ひ、自分から言へば非常に榮誉なことである。故に其の務めに最も適当した人が其の地位に立つならば、団体的目的をも達し、個人的幸福をも感ずることであるから、目的とはど一しても団体の中の一人となつて、其の団体的目的を果たすのに適当な部分となることである。そ一して Basket を持つ人は、球を投げる人に最も深き同情を持つことが必要であります。

其の他の Game をするにも、必ず役がある。其の役は必ず人と協同して、最もよく其の目的を果たすことであるから、目的とは其の役を選ぶことである。又学校で言へば、係を選ぶことでもあります。例へば、あなた方の級に傾向係と云ふものがある。夫れに最も適した人が當るならば、全級悉く引き立てて来るのであります。丁度東郷大将が我が国に出でて全軍

が奮ふたよ一に、各級に最もよき其の道々の指導者があるならば、全級悉く面目を新にするのであるけれども、卑劣なる仕方は宜しくない。人を傷けるとか、暗殺をすとか云ふよ一なことをしてはならぬ。正々堂々と飽く迄も自分の技量を認めて、其の地位に立つと云ふことは、人間の職分であります。故に名誉心と云ふものも、よい意味に解すれば尊ぶべきものである。そこで同情、名誉心、よい意味で言ふ処の競争心と云ふよ一なもの、此の目的と云ふものゝ内面に働いて居る処の力であると云ふ譬へが、皆さんによくわかりでありますよ一。

此を以て、目的は我々の社会的自我の住所である。又目的の内面的、我々の愛情、名誉心、興味、正義等の住所である。故に此の功名心、同情、興味等の動機が働いて、我々の人格が公共的目的の化身とならねばならぬ。そ一なると己の天職は自家の拡張たるのみならず、自家は其の目的の一部を組織することになる。今の競技的団体で言へば、自家が其の団体の一部たるのみならず、其の団体が又、自家の一部になるのであります。

[中表紙]

正会員修養会に於ける御話
明治四十二年十月二十日

明治四十二年十月二十日
正会員修養会に於て

私もいろいろ考へて見ました。あなた方の御経験も今晚のみならず長い間の経験もお考へになり、大抵其の原因がわかった様にもあり、一層深く考へ研究もし方針を立てゝ試みるのでありますが、そ一してやりかけて又ど一も進まないと言ふ事になると、又問題が起るのであります。けれども、ど一も此方の仕方がわるい為めに、思ふ様に実現が出来ないであろ一と考へますが、併し私は、あなた方が怠って居るとか、現状に甘んじて居るとは思ひません。やはり出来るだけのことをなさるとは信じて居りますが、も一一つ根本の事をすると言ふことについて、足りないものがありはしないであろ一か。

[目的]

此の前に自制力と云ふ事を申しかけましたが、私は、今修養して、朝夕飢え渴く如く渴望しておいでになること、最も皆さんが修養に由って達して行かうと云ふ処の目的が、ど一云ふ所に置いてあるかです。いろいろありましょ一が、自分の為めに又全体の為にど一云ふ様に進んで行かねばならないか。つまり、も一一つ物足りないと言ふのは何であるか。夫れだけでもわかると思ひます。誰れでも言つて御覧なさい。

- ・ 青年の意気
- ・ 信仰

[信仰]

一言で言へば、燃ゆる様な信仰。即ち、生きておる精神が一番欲しいのであって、又充分満足に得られない。故に、ど一しても夫れを養はねばならぬと思ふものは……多数

之は昔から人類の一番深い要求である一と考へる。宗教の方から言へば信仰である。昔から山を移すと言つて、病氣も罪人も信仰に由つて活すことが出来る。大抵の事業も信仰に由つて成就することが出来、腐敗した社会も信仰に由つて改良することが出来るのである。そ一して如何なる障害をも排して凱旋すると云ふことも信仰に由つて出来る。燃ゆる様な興味を以て進むと云ふことも信仰に由つて出来るので、其の信仰のあることが、家庭としても団体としても一番幸である。[熱心]

是は皆経験する処であります。つまり矛盾があつたり、疑ひがあつたり、感情の衝突があつたりすることは、誰も苦むことである。其処に燃ゆるが如き信仰があり、如何なることにも堪へると云ふ熱心があるならば、何をしてても愉快であり、幸であるに違ひない。人間の力と云ふものは、ど一してもそ一云ふ処にあるに相異なる。夫れを妨げられたり、圧迫せられたりするのには確に苦みであり、不愉快であると云ふことは事実である。故に昔から人間が非常なる修養をなし、信仰を築くと云ふことは、其処に原因するのである一と思ふ。そこで、其の信仰を養ふのには如何にすべきかと云ふことが問題である。

[西洋の宗教]

其の燃ゆるが如き信仰と云ふのは、社会を離れて了つて、他の友人を離れて了つて、そ一して自分一人で山へでも引込むとか、座禅でも組むとか云ふ様に、仏教の仕方もありますし、西洋の宗教の仕方にもいろいろありますが、夫れでつまり、仮令世の人間から離れて了うても、其の以上の超絶した神と云ふ様な尊いものと合体して了つたならば、其の精神が発揮すると思ふて、其の燃ゆるが如き信仰を得んが為めに、始終、無限絶対に入る為めに、其処に自分を Absorb さるる為に修養すると云ふ仕方を取つた者が、今日でもあるのであります。即ち女で言へば尼になつた人とか、人間社会とは全く違つた生活をする人間が昔からあるのであります。夫れで安心をして居るかも知りませんが、併し夫れが当り前の人間の性を踏して居るとは言はれない。斯う云ふ人は変り者で心状態の偏した者である。釈尊とか Christ と云ふ様なお方でも、一寸考へて見ると形式が似た様な処もある。けれども深く考へるならば、大に違ふのであります。そ一云ふ偏した仕方をとる事が誤つて居ると云ふことは、皆さんおわかりであろ一と思ふ。然らば同じ精神によつて、同じ形式に叶ふた活動を取ると云ふことも、一つの安心の如きものを与へ、信仰の様なものを与へることがあります。

[一時的の信仰と實際的生活との矛盾]

例へば、此の間から流行しました日蓮宗の如きものでも、大勢集まつて太鼓を叩いて火をつけて歩むならば、有難いと云ふ様な感じが起る。そ一云ふ様なもの、一つの信仰の燃やし方である。併し斯の如き仕方を以て燃やした処の情は、皆

さんが仰った様に、一時的のもので冷めることがある。そ一して實際的生活と一致することが出来ぬ。即ち宇宙の實在とは一致せぬもので誤りがあり、迷ひである。昔は小供の時は夫れでよかつたとしても、今日は、大人の時代となつては、夫れではいかぬ。然るに、猶是れで通そ一と考へたり、或は後戻りをしてもそ一云ふ信仰に止まろ一として、そ一云ふ事を口説いて居るのは愚痴である。そ一云ふことは今日の我々には出来ぬ相談である。併し其の燃ゆるが如き信仰と云ふものは、ど一しても我々になくはならぬものであります。

[精神的生活]

然らば其の信仰と云ふものは、何に由つて得らるゝのであるかと云ふことが、今日最も進んで居る処の各国識者間の問題となつて居るのであります。処が尤も、此の凡ての人類の経験を統一して、一番進んだ考へを研究して見るならば、確に我々の理性が満足することの出来る今日の精神的生活と云ふものを求めることが出来るが、ど一云ふ事によつて Realize が出来るかと申すならば、之を一言で言へば、銘々が直接に精神に触れ得るのである。つまり神と言へば、宇宙の Essence である。Reality である。其の Essence、其の精神に、我々自分が直接触れ得るのである。之が今日の信仰の道であり、修養の仕方であります。

[信仰の道]

其の仕方はど一して得らるるか云ふと、昔は一つの儀式であつたけれども、今日はそ一でなく、道理ある仕方である。私共が自ら取るのである。又自ら其の真理を考へるのである。

[精神教育によつて]

神を見ると云ふことは、やはり理性の働きである。平たく言ふならば、銘々が深く考へるのである。Meditate するのである。つまり私共が今日迄とり來つた処の、精神教育の方針であるのであります。

[Meditation]

今迄儀式によつて祈りをする云ふことはあつたけれども、我々の言ふ所は、銘々がほん一と深く考へて、其の道をとつて進んで行くと云ふことである。あなた方が學問をすると云ふことも深く考へるのであるけれども、非常なる忠義心を以て、己れを忘れて働きかけて行くと云ふ様な Meditation、信仰、考へが出来て始めて、実行力を与へらるゝのである。此の世の中は非常に複雑である。衝突が多いのである。故に之れがど一しても出来ぬばならぬ。此の深く考へると云ふことは、心配をすることゝは反対であつて、其の心配を除き、ほん一とに物を考へることである。其の力が足りない云ふことではあるまいか。皆さん中々考へもある。研究も出来ないのではない。併しも一一つ大きな力となつて、少々の波や風には動かない処の力となる深い考へ、其の Meditation が出来ないのではないか。其の温い空気を作り、己を支配すると云ふことは、人を支配し、人との関係を完美すると云ふことと違ひはないのであります。

[Right thinking]

此の Right thinking、Deep meditation と云ふことが足りないのではあるまいか。

そ一考へるものは………多数

[大乘に就きて]

つまり我々が今説いて居ること、導いて居る処は、第一義である。仏教の詞で言へば、大乘であります。今日は政治家でも、宗教家でも、教育家でも、大抵第一義は説かないのであるけれども、我々は第一義を説くのみならず、信じて居るのである。ど一しても出来ぬことはないと思ふて居るのであります。併し夫れがよくわかつて実行し得らるゝ人は極少数である。私は、夫れのわかる人、夫れを信じ得る少数の人が一致して団結したならば、其の空気を作られぬことはない、其の精神を養ふことが出来ぬと云ふことはないと思ふのであります。之は随分六かしいことであるけれども、今日はど一も夫れより外に道はあるまいと思ふから聞くのであります。夫れよりも未だ他に道があるのである一か、ど一でありましょ。

ど一しても他に道はないから猶續けて、夫れを説いて貰ひたい。そ一して我々は益々夫れに就いて研究するのみならず、夫れを信じて且つ実行して行かうと云ふお方は………全体私共も他に道はないと考へますし、夫れについてはど一も疑問になる点があるから、今晚皆さんにお尋ねを致したのであります。

[Meeting の必要]

私は、西洋の斯く文明に赴いたのは、確に宗教に関係があると思ふ。そ一して我々が深く修養をすると云ふ時には、ど一しても Meeting が必要である。其の空気を作らると云ふのには、ど一しても Meeting なくしては出来ない事であり。夫れを如何にすればよいかと云ふことは、猶研究を要することであると思ひますが、私は独断にならぬ為に、広く世界の大勢に参照して居ります。あなた方もど一か此の事に一致して、全校の先導者となつて戴きたい。

[Enthusiasm]

我々は微弱なものであるけれども、Enthusiasm になれば如何なる事でも出来るのである。故にど一か其の本をよくお養ひになることを希望致します。

[中表紙]

大学部一年及び予科全体に於ける御話
明治四十二年十月二十三日

明治四十二年十月二十三日
大学部一年及び予科全体の為

[大目的と小目的との關係]

先づ初めに、大目的と小目的との衝突、或は大目的と小目的との關係と云ふ事をきめるにつぎまして、大目的とは何を言ふのであるか、並びに小目的とは何を意味するのであるかと云ふことを、わからしておかねばならぬ。そ一して私から説き明かすにも、成るべく問答的に致したいのである。そこ

で第一に、大目的とはど一云ふことであるか、凡その考へを言ふことの出来る人は手を挙げて御覧なさい。

- ・ 真善美、又は一番高い、完全と言ふべきものであると思ひます。
- ・ 人生の目的。

[目的]

夫れでは小目的とは如何なるものですか。

富みを作ると云ふことは手段である。併し我が財産を殖やそ一と思ふて稼ぐと云ふ時には、其の富みが目的となる。之と同じ様に職業は手段であるが、其の職業を全うしよと勉める方から言へば、やはり目的と言はるゝのであります。大、小とは物の程度に対して言ふことであります。又此の大を全体と見る時は、其の部分をして小と言ふのである。そ一して普遍的、或は大目的と言へば国家とか人類とかの目的を言ひ、小目的とは個性の発現、即ち専門と云ふことを意味する場合にも使ふのであります。此の意味が必ず其の内容に籠って居ると云ふことも言ひ得るのであります。

此の前、私が一寸図解を以て申しました小我は、即ち身体我である。我が身体、我が衣服、我が快樂、我が名誉、之が小我であり、小目的である。其の次に、家庭我と云ふものがある。之は夫婦とか親子、兄弟などを意味します。夫れで程度から言へば、小我を目的とする人よりも家庭我を目的とする人は、少し大きいのである。今、英文科から出ました質問の様に、婦人の目的は家庭にあるかと言ふと、之は家庭我を目的とすることになるのです。世間には一家の破滅も構はず、我儘をして自分一個の安樂を求むる人もある。之は小我、身体我を目的とする人である。斯様な人に対して、賢母良妻と云ふ様な一家の調和を目的とし、孝貞の為に尽くすと云ふ様な人は、家庭我を目的として居ると言ふことが出来ます。

[宇宙我]

其の次は学校、或は社会、国家、及び人類、又は宇宙的我和云ふことになります。そこで、ど一でありませよ一か。婦人と云ふものは、実は小我に止まって居る人も多いのであるが、家庭我迄、進める人もある。然らば、婦人と云ふものは決して家庭我を越ゆ可らずと言ふことが出来るであら一か。又女子と雖も男子と同じく人類である以上は、其の上に出ることの出来ると思ふ人は……… 全体

[宗教的]

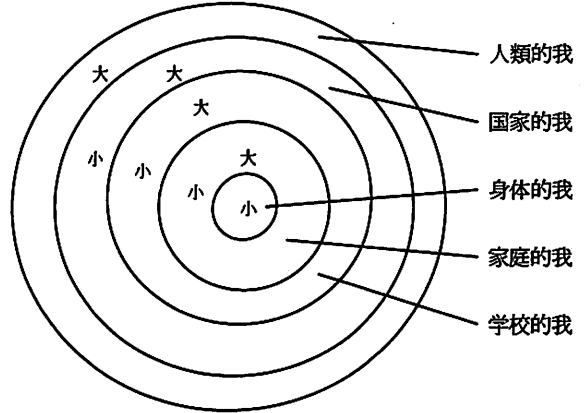
そ一すると、夫れよりも学校或は社会我は大きいですが、之を又、国家的我、宇宙的我に比べると小になつて、つまり宇宙的目的が一番大きいことになる。此に至つては、も一宗教的である。無限、絶対を自分の中に、此の個人の中に実現しよ一と云ふのである。

[大目的]

自分と云ふものと宇宙とを融合させよ一、宇内の目的と個人の信仰とを一つにしよ一と云ふ様になつて来ると、之を大目的と言ふのである。此に於て、大と云ふ字は、も一無限の様になつて居るのであります。

も一一つお尋ねの普遍的と云ふのは、英語の所謂 Universal 又は General 或は Whole と云ふことで、全体とか

公共とか又は世論、即ち Public opinion と言つても同じ事でありませよ一。



[常識]

Common sense と云ふことを、よく言ひませよ一。常識とは誰れでもわかつて居ること、誰れでも持つて居るものであるが、其の誰れでもわかつて居ることがわからないと、彼の人は常識のない人と言つて、即ち馬鹿と云ふことである。馬鹿となると、も一之は一般的ではありません。そこで Common aim と云ふ様な詞もある。故に普遍的と云ふ一般的、宇内の、人類的と云ふことになります。

[大目的と小目的との関係]

そこで男と言はず、女と言はず、凡て人間らしき人間の目的は、此の人間の共同の目的である。通有の軌道である。即ち社会、或は国家、或は人類、或は此の宇宙の完全になること、其の調和、安寧を計ること、其の進歩、改善に貢献したいと云ふことが目的である。其の宇宙の目的、人類的の目的が我々の大目的であり、我々人生の目的であります。

[社会と個人につきて]

そこで大目的と小目的と云ふこととの関係をわかる様に致しますには、私は先づ、宇内と言ふと余り大き過ぎ、家庭と言へば余り小さ過ぎるから、社会と云ふものと個人と云ふことについて申すならば、社会と云ふことが大目的であり、個人と云ふことが小目的であると云ふ様に考へても宜しいのであります。

例へば、私が子供の時から危険を冒して冒険な事が好きである。夫れから余り物を怖がらん。そ一して子供の時、維新の軍があつた。男と生れた者は、少し胆力を備へて居る者は国家の為に捧げよ一、犠牲に捧げよ一と云ふ考へがある。そこで軍人になるものは太鼓を持つ事、狙ひを定めて大砲を打つと云ふことが必要である。故に子供の時には M11 形と云ふ大砲は抱へられないから、手にあふだけの物を親から戴いて練習をする。馬があるなら乗つて見たい。剣があるなら撃剣をする。そ一して軍人にならよ一と云ふ望みがあつた。其の軍人になると云ふことは、只自身にそ一云ふ技量がある、趣味があると云ふことだけではない。国家の為に、そ一ならねばならぬと云ふ考へがあるから、そこで自分の目的をそ一きめ

てくるのであります。夫れから、あなた方の中に音楽について非常な興味を持って居る人がある。又先生にも親達にも、音楽の天才がありそーに見える。そこで自分も将来音楽家になる一と云ふ目的を立てる。そーすると之は、只自分の品性を円満にしよーとか、自分の理想を現はそーとか云ふだけではない。やはり社会の為に何かを貢献しよーと云ふ、社会的目的があるのである。社会の人心を高めよーとか、社会の風儀を美化して行かうとか、大きな社会をよくしよー、多くの社会の人と共に楽まうと云ふことにあるのである。

或は文学者にならう、英語に熟達しよーと云ふことも、只自分の為ばかりではない。何か社会の為に貢献しよー、社会の人と思想を交換しよーと云ふことにあるのである。文章を練ると云ふことも、亦専門に対する技量と云ふものも、社会の人と共同して働いて始めて練らるゝのであります。そこで自分の個性を発現しよーと思ふならば、やはり社会と協同しなければならぬ。社会と共通しなければならぬ。人と共に同情し、人と共に助け合ふ。之が出来なければ、個人の目的も実は達せられないのである。

如何となれば、社会は大きな協同事業である。そーして多くの分業から成り立って居る。故に其の一部分として選んだ所のものが専門である。之が即ち個人的の目的であります。夫れであるから、真に社会の為に尽す、社会の為に何かを貢献しよーと思ふならば、どーしても夫れに必要な技量を養ひ、そーして個人の特性が発揮せられねばならぬ。

[修養教育と専門との調和]

そこで我々の目的が二つある。一を Culture education 修養教育と言ひ、一を Professional education 専門教育と言ふ。此の二つがよく調和せられなければ、どちらも完全に発達することは出来ないであります。

是迄我が國に於ての教育、此の急激なる変化を被つた社会が個人的に傾き、私欲に走せた。之が為めに大きな団体が出来、又破綻が起る。そこで近世大きな煩悶が起つた。今日の青年は、どーしても之で満足は出来ぬ。故に昔に帰らうか、どーしよーと云ふ考へ、之が今日の問題であります。

[社会性]

人間は、只個人的、只私欲と云ふことに由つてのみ満足は出来ぬ。どーしても社会性が出来ねば、満足は出来ぬ。銘々に其の二つの調和が得られなければ、人間の心の奥底に安心を与へ、満足を与へることは出来ぬ。之が今日どーしても試験学問ではいかぬ。どーしても学校と云ふものが一つの社会になって、互に相関係し相調和することが出来ねば、真の発達は出来ぬと云ふことになりました。

其の關係がよくわかつて夫れに貢献するには、夫れに忠ならんと欲するならば、如何なる修養をし、如何なる学問をし、如何なる目的を選ぶべきかと云ふ事が問題であります。

凡そ之に由つて、大目的と小目的との關係のわかつたお方は………全体

夫れでは時間も参りましたから、今日は之丈けに致します。

[中表紙]

大学部及び予科全体の御話

(嗚呼伊藤公)

明治四十二年十月二十七日

明治四十二年十月二十七日 嗚呼伊藤公

大学部並びに予科全体の為に

本校最初の発起人の一人でござりました、満州の野に於て遭難に斃れられた伊藤公爵の訃音に接しまして、我々は実に哀悼の情に堪へないのであります。公爵は本校の起りましたことに最も深大なる關係を有せられ、又最も有力なる贊助を与へられたお方であります。故に、此の大切な実践倫理の時間の幾分をさいて、此に私は、皆さんと共に公爵の御横死について哀悼の意を表したいと考へます。

多分、今日の新聞或は号外に由りまして、事の大体は御承知のことと考へますが、只今新橋からの帰りに最終の電報の号外を手にして居るので、皆さん、其の最終の有様を聞くことは切望なさることである一と考へますから、一寸読み上げましょー。

これは、公爵がどー云ふ理想に生きて居られたかと云ふ、一端を知るに足る所のものであります。

(本文を略す)

[女子大学に就きての公の意見]

私が America から帰りまして、一番始めに女子大学の計画を話したのは、伊藤公爵でありました。その時公は、東京では六かしいから大阪に興じた方がよかろ一、と云ふ助言を与へられました。夫れから一年程たちまして、自分の決心を定めまして公を総理大臣官舎に訪ねまして、今や地方長官を集めて一場の訓示演説をせられよーと云ふ數十分前にお目にかゝりまして、私は、此の女子大学創立のことは、

第一、我が國の為に必要であるか否や。あなたの政治上の見地から御意見を伺ひたい。

第二、若し必要であると認めらるゝならば、一臂の力を貸して戴きたい。

第三に、斯の事業が民間の事業で成り立つものであるか否や。閣下の御意見を伺つて、そーして進退をきめたい所存である、と此の三ヶ条をお尋ね致しました。公爵は直ちに解決を与へられて、此の事業は我國に急務なるものと認める。又我が國の制度は家族制度である為めに、公共事業の為に巨額の資財を抛つては容易ではないが、併し、もと我が國民は義侠的精神にみちて居るから、将来二十万、三十万の資を投ずることは六つかしくない。猶、自分は一臂の力をかそー。猶ほ、時の文部大臣西園寺公爵、外務大臣大隈伯、並びに板垣伯にも、賛成を求めるよーに話そー。此の事業の為めには在朝在野、又政党的の如何に拘はらず協力して、成就せしめねばならぬ、と云ふことを述べられました。其の後におきまして、公爵の御尽力に由つて有力なる発起人を得たことは、枚挙する邊がありません。

猶ほ公爵は、此の事業が成り立った暁には、國庫の補助を

も行く行くは与へるよ一にしたい、と云ふ意味の御話がありました。此の時万一公爵が此の態度を示されなかつたならば、今日の結果を見るのが出来たかど一かは疑問であります。

其の後も、やはり世論を喚起するに当って、此のことが大切な勢力となつたのであります。独り女子大学に力を添へられたばかりでなく、我が国女子教育の発展に非常に有力なる、関係ある華族女学校の創立、此の歴史について語る暇がござりませんけれども、我が国に女子教育を起さねばならぬ、婦人の地位を進めねばならぬと云ふことは、公爵が欧米を漫遊せられたをりに深く感ぜられたことである。公爵は政治家の立場から、国の女子教育を進めねばならぬと云ふことを主張せられたのである。独り我国の教育を進展せしめられたのみならず、公は、我が国を憲法政体に革新せしめられ、代議政体を組織すること、枢密院を開始することを始めとして、あらゆる我が国の創業機関に有力なる力を与へられたことは、国民の斉しく認むる所である。斯くの如き関係よりして、私は十数年の親しい御交際を受けて居った縁故もありましたので、先頃韓国から帰朝せられた際に、自分の深く國家の爲めに憂へて居ったことを話しまして、自身の意見を訴へました。其の時公爵は態度を改めて、其の訴へは私の所に持つて来ることではあるまい、と私の言についてお戒めになりました。猶大切なことと思ひまして暫らく公爵と議論を戦はしたのが、私のお目にかゝりました最後のものとなりました。公爵が戦場に斃れたことは、公爵の御一身については、公爵の御生涯については、誠に立派なる最後であります。

併し我が國家の上から考ふるならば、公爵を失ふたことは非常なる損耗であります。公爵は実に穩健なる進歩主義を以て、よく内外の進歩を導き、発展を促されたお方であります。実に公を失ふたことは、國家にとって非常に悲む可きことである。殊に我々教育と云ふ方から考へましても、實に女子教育界の恩人を失つたと云ふ感に堪へません。我々は、此の公爵の本校に払はれた親切なる同情、有力なる助けに対しまして、茲に我々は敬意を表す可きであらうと考へます。これには多分皆さん御同意のことと考へますから、我々は茲に謹んで諸君と起立して、公の靈に対して弔意を表したいと思ふのであります。

此の前の水曜日に、今年の運動会は内端することに御相談が纏まりましたが、併し其の後よく考へて見ますと、運動会を内端で致し、又通信教育会の会員を招き、更に展覽会を開くとすると、余り度々客をすることになりますから、いっそのこと之を一日にして、午前九時から十一時半迄講演会を此の講堂と化学館とで催し、十一時半から十二時半迄休憩時間を取り、其の間に弁当などを供し、午後一時から第九回秋季運動会を催し、猶ほ四時から生徒の成績品展覽会を催すことにしてはど一かと云ふことを、昨日の委員会で相談致したのでござります。丁度公爵の薨去があつたので、多分国葬になりますでしよ一し、其の模様によつては多少變へねばならぬかとも考へますが、先づ、今の所予定は十四日として、若し雨が降るならば二十一日と云ふことになって居ります。夫れでやはり、平年の通りお客も招くがよかる一と云ふことに

決しました。これには多分、皆さん異存はあるまいと考へますが、其の事に御賛成のお方は、一寸手を挙げて表はしてもらひたい……………全体

……………

此の前に、目的を内面から見てお話を致しましたが、猶ほ一層深く進みまして、今日は良心と云ふことを申したい。良心とは目的の内面的方面、或は内面と言ふことが出来る。猶ほ其の関係をよくわからせる爲めに、良心とは目的と理想と現実、此の三つを一つにする力を言ふのである。良心とは英語で言ふ Conscience であると云ふよ一に、説き明かしをしたいと考へます。

良心又は本心、或は Conscience と云ふ字を、知つて居つた者は……………全体

我々は本心を持って居ると自覚するものは……………全体
倫理学、宗教又は道徳の上から、良心は如何なるものであるかと云ふことの言へる者は……………

宗家は、良心は神の声なり、心に神の命ぜらるゝ命令であると云ふ詞をおきゝになつた方は……………

又良心は心の目である。自分は如何なるものであるか、自分は何を為すべきであるか、自分はどの方向に向ふべきものであるかと云ふことを明らかにするもの。そ一云ふ詞はいろいろあつて、茲に一々引く暇はありませんが、良心は確に人間行為の原動力である。我々、行為の審判官である。又は我々の修養の指導者である、先生であると云ふことは、皆さん御承知のことと思ふ。實に良心は大切なものである。其の大切な力は如何にして養ふべきものであるかと云ふことを、成る可く今日の学説に近いこと、又此の間からお話して参りました方面から、今日此に説くことが必要であると考へます。

[良心]

私は、良心とは、
第一に、我々の目的を選定するものである。
第二に、其の目的を理想化するものである。

Cause of the ideal
第三に、其の理想を実現するものである。

Realize the ideal
詞を換へて言へば、良心は目的と理想と現実とを一つに化する力であると云ふことが出来る。然らば、目的と理想と現実と三者の關係は如何なるものであるかと云ふことを解しておかねばならぬ。

目的	理想	現実
Aim	Ideal	Actuality
	End	

目的と理想とは同じものに言ふこともあるけれども、違ふことがある。夫れは第一、目的と理想とは、現実と違つて居る。現実より遙かに向ふに在るものである。又、大理想、大目的と言ふ時は、同じ意味に使ふのであるが、普通我々が言ふ処の少し區別を立てゝ用ふる時は、理想とは大目的に進む道である。大目的に到達するに必要な精神、人格であります。

けれども、やはり理想も向ふにある、我々の望みの中にある、将来にあるから、此の理想に当る字を End と言ひます。目的を先づ山の絶頂として見るならば、其の目的に行く迄に是非我々が通らなければならぬ道を、理想と言ふのである。其の道に行く迄には是非斯う云ふ理想を実現しなければならぬ。故に理想はやはり目的から出来て居るものであると言ふことが出来るのであります。其の目的に行く処の必要なる手段を拵へ、又其の手段を実行する処の働きを、良心と解しても宜しいのである。

[良心]

吾人の生活は目的によって統一せらるゝもので、之れを良心と言ふ。即ち良心とは我々が目的に忠ならんと熱中する意志であり、理想に柔順ならんとする傾向を言ふのである。そ—して忠あり良心ある処には、必ず個人的目的が—生活に成形せる人格、即ち自己と云ふものがあつて、存するのである。語をかへて言へば、一意識が—種の忠を成形するものがある。故に良心は—目的を実現する力、即ち理想、要求仮定とも言ひ得ることである。

そこであなた方に聞きましょ—。

此の頃の生活に満足して居るものは………

其の反対に不満足を感じるものは……… 稍多数

其の不満足を感じるのは、あなた方の中に理想がある。要求仮定がある。実力を要求するのである。処が、も—一年半程になる。ど—かして淑女になりたい。自分が願ふて居るよ—な人になりたいけれども、思ふよ—な人になれない。そこで何やら不安を感じるのである。何故不満足であるか。子供のよ—な花に戯るゝ蝶の如きものであつたならば、決して不満足はないのである。けれども不満足を感じるのは思ふよ—に進まれない、何時も良心がお前未だ足りないよと戒めてくれるからであります。苟くも人らしき人には、此の理想に忠ならんとする傾きがある。此の傾き、此の不満足が即ち良心である。之れあればこそ人間が自ら目的を立て、又其の理想を実現することが出来るのであります。

然らば理想は目的から来るもので、行為の標準である。之れが、吾人の行為が真に目的に達するに足るや否やを検し、其の価値を定むるものである。即ち吾人の行ひを批評し、其の善を褒め、怠りや失敗を咎めるのである。斯く論じつめて行けば、我が目的、我が理想は我が良心である。我が良心は我が目的なり、我が理想なりと言ひ得るのである。夫れから茲に、良心とは必ず個人的目的が—人格の中に成形せられたものであると申しました。其の中には深い意味があります。

一個人の生涯に會つたのが、即ち良心である。夫れで政治家には政治家の良心があり、教育家には教育家たる処の良心があり、文学者には文学者の良心があり、芸術家には芸術家の良心があると言はねばならぬ。無論大理想、大目的があるよ—に、大良心がなければならぬ。けれども我が専門のあるよ—に、其の人、其の人の目的に叶ふ良心があり、理想がある。夫れを行ふが即ち実現であります。例へば、伊藤公爵は良心ある政治家である。政治家たらんとする理想を懐いて居られた政治家と言ふことが出来ます。

[犬養毅氏の談]

伊藤公爵の政敵たりし犬養毅君の談話に、自分は公と政敵であつたために、一度も其の門に足を運んだことはないが、併し伊藤公は實に大西郷以来の清廉潔白なる政治家であつた。公平無私なる人であつた、と言つて居られます。公は如何なる場合にも、感情によって動かない政治家であつた。

賄賂をとつて國家の事を左右するのは政治家の理想ではないのです。私は始終公爵と親しく交際をして、其の傍で外務大臣の話もあり、文相との談もあり、私は其の話を傍で聞いて居たこともあります。公は人の感情を害することがあつても、我が位地が危くても、自ら信ずる処があれば決して動かないお方でありました。私の郷里の山口の人が、曾て公爵に対して熱心なる忠告をしたことを聞いて居ります。あなたが健在しておいでになることは、國家の爲めに必要である。然るに其の老軀を提げて遠く異域に向はるゝのは、國家の爲めに自愛せられぬと云ふものである、と止められたそ—である。今の多くの政治家の中には、此の良心を麻痺した者が沢山あるのです。公爵は外に瑕瑾はあるでせう。人間であるから他に欠点はないとは言はれないが、政治家として飽く迄も正々堂々たる人格を具へて居られた。之れが、個人的目的が—生活に成形したもので、即ち其の人の良心となつたものが其の人の生涯を支配して居ると云ふことである。

教育家には、教育家たる可き良心がある。母になれば、母たる可き良心を養ふて居らねばならぬ。芸術家は芸術家たる良心がなくてはならぬ。

そこで良心をさます、良心を養ふと云ふことは、目的を見出だすことから来る。如何となれば、良心は吾人に生活の理想を与へ、生涯の計画を立てしめ、常に吾人の日常生活が此の理想、此の計画に適合するや否やを問ひ、諸種の衝動及び本能を統御して、之れを目的に集合、統一するものであるからである。然らば良心を有するとは、目的を有し、目的によって確定する理想に由つて生活を統一し、常に理想と現実とを比較し、兩者の一致を得んとして努力するのである。實に此の良心、即ち生涯の理想が、吾人の道徳的人格、即ち合理的自我を作るのであります。故に私は、良心は我が目的を内面より見たるものである、と申したのであります。

故に、良心の責め或は賞賛は、此の目的より来る理想と個々の行為を比較するとき起る感情である。併しながら此の良心について、我々の内に起る処の Paradox がある。わかりにくい声が聞こえるのである。夫れは我々の行為が我々の良心に、即ち其の理想に従ふことが出来ないものである。

如何となれば、我々の理想は我々現在我よりも遙かに高尚でありまして、到底其の間に完全な一致を見ることが出来ないものである。之れが我々の内に起る煩悶である。之れが我々を苦める呵責である。之れが修養と學問とが一致しにくいとか、高尚なる理想を懐いても実行が伴はないとか言つて、又學問をした処の人を世間から責める処の道具となつて、其のわなに陥つて歩を進むることの出来ない學生をも数多見るのであります。併しながら、我々は理想がござりませぬならば、良心がないのです。良心のない事が判断を誤らしめ、元氣を

阻喪せしむる原因である。我が國の御婦人に判断が出来にくい、良心が乏しい、元気が續いて行かないと云ふのは、茲に於て冷されるのである。良心がなくなるならば、理想が見えないならば、幾らあせっても、幾ら実行、実行と言つて賁めましても、力は出ない。人格は發揮しない。到底満足は得られないのであります。

我々の内に目的が明らかになり、理想が生きて来まして、始めて我々は自分の行く可き道が明らかになり、歩を進むべき実力が出来て来るのである。其の人格に相当した満足、實現美が發揮せらるゝのである。茲に修養の実が挙がるのである。人間が成長するのであります。

そこで我々は、如何なる天才を与へられて居る人と雖も、直ちに我が理想に成功する、始めから満足の出来る行ひが出来ると云ふ者は、天下には一人としてないのである。只良心の鈍った人、空想に耽る人、不完全なる人と云ふのは、一言で言へば、不忠実なる人、不注意なる人、其の良心の指導に従はない人である。良心に従ふとは、盲目的衝動に従ふの謂ではなくして、思想、同情、意志の選択に由つて行ひをきめること、即ち注意周到なる判断をなすことである。之れを怠る人、即ち不注意なる人が良心に背く人、罪を犯す人であるのであります。

[如何なる良心の声に従ふ可きか]

夫れから第二に、夫れが果して良心の声であるか否や。又孰れの良心の声に従ふか。我が行く可き道であるかと云ふ判断に苦しむ折が多いのである。今例を挙げました、公爵が異域に老軀を齎すことが忠か、もう少し國家の爲めに安全なる道を取るが忠か、と云ふことは問題である。之れをどちらの判断がよかつたか、結果に由つてきめることは出来ぬ。ほんといに知るものは公爵より外にはない。之れを定むるものは、公爵の良心であります。

公爵は大に思慮を以て、同情を以て、意志を以て、注意を払ふて熟慮の上できめられた判断とすれば、彼れの判断は忠である。理想に叶ふた勇氣ある行ひをせられた政治家である、と言はねばならぬ。あなた方が今日、今晚迄に論文を提出しなければならぬ。又試験を受ける爲めには其の用意をしなければならぬ。良心は実力をつける爲めに集注せよと命ずる。此の良心の命令に従ふは、よいことであります。

併し學生が目的に忠ならんが爲めに、過度の勉強をして夭折したと云ふことは、公爵が異郷に斃られたのと結果に於ては同じことである。けれども私は、其の學生は不忠であると言はねばならぬ。つまり不注意である。思慮が足りない。何も彼もよくなるよ一に考へてせねばならぬのに、夫れは考へが足りなかつたと云ふことになるからであります。

夫れならば、孰れの良心に従ふべきかと云ふと、つまり思慮と同情と意志、之れ丈の条件を悉く備へて、然る後、判断を下し、そ一して実行するならば、たとへ間違ひましても其の人は立派なる者である。其の人格は尊ぶべきものである。其の行ひは義務を全うしたものと言はねばならぬ。

我が國維新の際に、開港と攘夷との二論があつた。どちらがほんといか、わからない。開港と云ふよりも却つて攘夷の

方が、忠であつた。今日の忠臣は皆其の人であつたのです。

其の時代の思想を以て定めたもので、其の人は決して悪と稱することは出来ないのである。そ一云ふ場合に躊躇、逡巡して孰れとも決しないのは、不忠である。故に、私は斯う申したい。

第一に、大目的を確立し、小目的を其の周圍に集合するにあらざれば、正当なる判断を下すこと能はず。

第二、偏見を去らざれば、正当なる判断を下すこと能はず。

第三、其の事件に關係ある大切なる事實の真相を糾明するに非ざれば、正当なる判断を下すこと能はず。

此の判断は即ち良心の働きである。思想と同情と意志とを以て選んだ処の、目的ある人、目的に熱心なる人は、實に良心ある人と言ふのである。そこで人は良心に従ふことが加はれば加はる程、益々尊く、益々大きく、益々完全に近付くのであります。

併し其の良心に柔順なる人も、其の小心翼翼の人も、其の度を過ぐす時は不安に陥り、其の結果は無能となるのである。之れは皆さんがよく注意なさる可きことである。之には指針とす可き詞がある。

ジエレーテラーと言ふ人の言つた詞に、

"A scruple is a great trouble of mind proceeding from a little motive and a great indisposition by which the conscience through sufficiently determines by proper arguments, there is not proceed to action, or if do can not rest. Very often it has no reason at all for its inducements, but proceeds from indisposition of body melancholy, a troubled head, the society of timorous ; from solitarities , ignorance inprudent motives of things , indigested learning story fancy or weak judge ; from anything that may abuse the reason into irresolution or restlessness."

[訳]

之れは、此の小心翼翼の度に過ぎた神経過敏は、小心より来る心の大なる煩悶である。彼は適當なる証拠に由つて、充分なる判断が出来んのではないけれども、其の判断を行ひにする勇氣がない。若し夫れを行つても安心することが出来ないのである。一向其の様な誘惑に逢ふと云ふ欠点を持つて居ないけれども、そ一云ふ神経過敏は何から来るかと云ふと、身体の不安、憂鬱から、又は心配、寂寞、暗愚、不当なる警戒、不消化なる學問、強烈なる想像、及び薄弱なる判断から来るのである。又理性を濫用して、定見なき動揺多きことから来るのである、と云ふ意味であります。

[中表紙]
正会員修養会に於ける御話
明治四十二年十月二十七日

明治四十二年十月二十七日
正会員修養会に於て

如何にして恐怖心を去るべきか。

先づ第一に、失敗によって学ぶ事、人に同情をよせることが出来るようになることが大切である。

[Hegel の詞を引きて]

夫れから、如何にして人を恐れ、神を恐るゝ恐怖心を去ることが出来るかと言へば、Professor James の著書に Hegel の詞を引いてあります。其の意味は、

知識の目的は、我々の客観的世界より他人と云ふことを除き去ることである。そ一して其の客観的世界の中に於て、人をして親しく感ぜしむること。そ一して親友を作ることである。

何が恐ろしいかと云ふと、物がわからぬと云ふことである。つまり我々の無知の結果であります。昔は神を恐れ、雷を恐れたけれども、今日は此の電気を応用して、少しも恐れないのであります。つまり、知識がだんだん進んで来て、此の世界は皆、我が家庭、我が姉妹となるのである。Christ、釈尊の如きは、是れ皆我が姉妹、と考へられたのであります。天道、正邪、非邪など言つて恐れたり、苦んだりするのは皆、無知の結果である。そ一して James は斯う云ふことを言つて居ります。

[James の説]

党派の間に行はるゝ処の奇体なる反抗心について、今少し注釈を下すならば、

此の党派の間に行はるゝ反抗心は、誠につまらぬものである。如何となれば、此の総ての党派、或は学派は同じ兄弟である。悉く同じ考へ、同じ主義を持つ者である。よく反対党が、反対の人を全く邪悪なる悪魔であると想像する如きものではない。孰れの党派も、此の世界を支持する為めに忠義なるものである。孰れの党派も、夫れを害しよと云ふ考へは少しもない。孰れも、此の世界は狂氣的な矛盾、衝突したものと居る。孰れも、此の世界を一つの宇宙としよと望んで居る。其の違ふ所は唯だ、此の一番深い処の一致に対しては、第二に属する枝葉の部分のみである。

と申して居ります。

夫れで、此の人を恐れるとか、神を恐るゝとか云ふことは、やはり我々の知識の不足の結果である。若しもほんとの知識が出来れば、恐怖心と云ふものは少くなるのである。我々の知識を広げる程、我々の世界を広げるのである。我々の他人は無知の世界であり、我々の家族、親友は知識の世界である。故に若しもほんとに人間を知り、人の性を知ることが出来たならば、益々親友が多くなり、益々世界を広げることが出来るのであります。此の Hegel、James の詞は短いけれども、誠

に味はうべきことであります。我々の最も勉むべきことは、物の真相を知り、ほんとに人を知る、知識及び人に対する同情を拡大すると云ふことであります。

質疑につきて

経験派と云ふのは全体を部分に由つて説明する習慣を有し、合理派は部分を全体で説き明かす処の習慣がある。之に由つて争うて居るのであると。

畢竟するに、我々是我々の世界を作つて、其の範囲で満足して行くより外に仕方はない。そ一せぬと懐疑に陥つて終るのであります。

[中表紙]
天長節祝賀式々辞
明治四十二年十一月三日

明治四十二年十一月三日
天長節祝賀式々辞

[豊明小学校及び幼稚園に対して]

今日は、我が日本帝国の三大佳節。即ち日本全国、我が國の男も女も子供も大人も残らず、國中の人がお喜び申す、お祝ひ申す、國の誕生日であります。此の天長節と云ふ誕生日は何方の誕生日でありましょか。知つて居る者は手を挙げて御覽なさい。

天皇陛下の誕生日であります。

其の通りと思ふ者は………全体

あなた方のお父さんの誕生日には誰れがお祝ひあげますか。

子供やらうちの人。

天皇陛下の御誕生日には、國中の人がお祝ひ申すのは何故でありますか。

皆のお世話をなさるから。國のお父様でいらっしやいますから。

今読みまして此の箱の中に納めました勅語は、何方の御詞でありますか。

天皇陛下の御詞であります。

其の中で何か覚えて居るお詞がありますなら、仰つて御覽。

父母に孝に

親に孝行をする孝と云ふ字を知つて居るものは………

天皇陛下によくお仕へすることを何と言ひますか。

忠と言ひます。

天皇陛下によくお仕へをして、國の為に最もよく忠をお尽しになつた方を知つて居りますか。

伊藤公爵です。

伊藤公爵を知つて居る者は………全体

あなた方、お父さんやお母さんに孝行するには、ど一すればよいのですか。

お父さんやお母さんのお言ひつけを、よく守ります。

天皇陛下に忠を尽すには、ど一すれば宜しいのですか。

お父さんやお母さんのお言ひつけを守って、よい人になります。

そーです。夫れではあなた方、よくお父さんやお母さんのお言ひつけを守って、よい人におなりなさい。そーすると夫れが 天皇陛下に忠を尽すことにもなるのであります。

[大学部並に予科、高等女学校に対して]

竹越興三郎君を紹介す。

今日、最も深い意味ある此の佳辰を祝ふに当りまして、本校の親友、衆議院議員、竹越興三郎君に祝賀の演説をお願いしたいと思います。

[竹越君に頼みし理由の三]

私が此の天長節のお喜びを竹越君に頼みました理由が、凡そ三つ計りあります。

第一は、君は二千五百年史の著者であります。我が国の歴史を研究せられて以来、数回欧米を漫遊せられて、我が国の位地に就いて最も深くお調べになった方であります。

第二は、竹越君は、我が国に女子高等教育を興すに当って、最も深き同情と賛成とを以て、最も有力なる助力を与へられ、今日、識者の中で最もよく女子教育に通じて居られ、又明らかなる眼識を持って居らるゝ御方であります。

第三には、此の天長節をして、最も精神的たらしむるに有力なる感化力を持って居られた伊藤公爵とは、最も深い政友であり、最もよく公の心事を解して、其の真相を最もよく知られた親友であります。

此の三つの理由を以て、私は、此の天長節の祝辞を竹越君にお頼み致す事の最も適当であることを信じて、皆さんに御紹介致す次第であります。

[中表紙]

故伊藤公爵記念会の御話

明治四十二年十一月四日

明治四十二年十一月四日

故伊藤公爵記念会

只今、子供にも申しましたよーに、伊藤公爵は我が国にとつては最も功勞多き元勳であったのみならず、今日では世界の政治家たるのみならず、偉人世界の人と致しまして、今日国葬が営まれたのであります。故に我々は国民と致しましても、此の日に於て弔意を表す可きであります。殊に公爵は本校の為に深き同情と助力とを与へられた関係から致しまして、茲に追悼の意を表すことは必要であります。のみならず、我が校風を養ふ上にも至極有益な一種の感化力があることであるよーと考へまして、殊に此の時間を設けまして暫くの間、伊藤公爵の生涯につき、其の目的につき、及び其の目的を一貫せられた所の至誠について考へることは、誠に我々の深く心に要求する処であるよーと思ふのであります。

此の前の水曜日の朝、公爵が哈爾濱の野に斃れられたと云

ふ確報を得まして、午後二時からの実践倫理の少しの時をさきまして、暫くの間茲に弔意を表し、公爵の此の本校の為に尽された功勞について御話致したことがあります。其の時に本校との関係を簡短に申しましたので、大学部の方は大体おわかりになったことと考へますが、高等女学校のお方は、まだ公爵がど一云ふ関係を以て此の本校に尽して下さったか、御存じない方もあろ一かと考へます。

実は今から十五年前、其の時には未だ我が国の教育は高等女学校程度のものすらも高過ぎる、不必要であると云ふ頑迷なる考へが世論となつて居りまして、其の高等女学校も僅に十二、三よりはなかつたのであります。其の少数の学校にも、今日のように生徒が充満すると云ふ勢ひではなかつたのであります。

[本校の今日ある所以]

其の時に当たりまして、我々は此の女子大学創立の事を公にしましたから、殊に高等の教育を受けた学者達は、尚早論、不必要論を称へて、之れに耳を貸す者はないと云ふ有様でありました。然るに時の総理大臣たる伊藤公爵、文部大臣西園寺侯爵、こ一云ふお方が、此の女子大学の熱心な賛成者となられた計りでなく、自ら発起人となつて、此の創立を助けよ一と云ふ態度を示して下さったこと、及び有力なる人に賛成を求めて下さったよ一なことが、我校をして今日あらしむる大なる勢力であつたと信じます。

若しも公爵が頑固なお方でありまして、之れを認められなかつたならば、果して我々は斯くの如き女子大学を創立することが出来たであろ一か、甚だ問題である。故に私は、伊藤公爵は本校の最初の有力なる発起人の一人であつた、と申す所以であります。

併し公爵が本校の為に、ど一云ふ方法、ど一云ふ力を以てお助けになったかと云ふよ一なこと、之れについても申す可きことが段々ありますが、之れは大体先日申したことであり、且つ昨日も竹越君からお話もあつた訳でありますから、今日は之れは省いて、我々は伊藤公爵の生涯を我々の修養の為に益するよ一に考へることが、最も必要であるよ一と考へるのであります。

私は伊藤公爵とは同国であり、且つ十七の頃に巡回訓導となつて、伊藤さんの生れた熊毛郡に小学校長として、又郡視学となつて回つたこともあり、其の後、二嶋と云ふ処の小学校長となり、又湯田と云ふ処へも参りまして、其の都度いろいろ公爵の御話をも伺ひ、又訓戒を与へられたことでもあります。公爵については、いろいろなる感ずべき話があるのでありますが、此の間から時間も無い為めに、之れを纏めて丁度あなた方に明らかにわかり、且つ興味あるよ一に、用意をしてお話することは出来ないであります。

只私が今日送葬に列しまして、いろいろ感じましたことどもをあなた方に申しまして、そーしてあなた方が、今迄におきよ一になった処の材料と合せてお考へになったならば、凡そ公爵の人格と云ふものが、おわかりになろ一かと思ひます。

[公爵の生家]

公爵は今申した熊毛郡と云ふ田舎の百姓の微賤な家に生れ

まして、父を林十蔵、母は秋山琴子と言われました。そーして両親は一家を支へることが出来ず、子女を教育することも出来ませんで、彼の維新の際、諸豪傑の集まりました萩の伊藤と云ふ家の養子となりまして、せせせと稼いで、漸くのことで糊口を凌いだのであります。

[足軽]

其の伊藤家と云ふものは足軽である。足軽と言へば、おわかりにならぬ方があろ一かと思ひますが、昔は土農工商と言つて、士と云ふものが一番えらかったのです。百姓、町人は低いもので、士からは呼び捨てにせられ、お互をせぬものであったのです。誠に賤しいものであったのです。其の士と町人との間に足軽と云ふものがあって、之れは士のお伴をする役である。足軽の中にも四つの階級がありましたが、伊藤公爵の家は其の一番下の足軽でありました。

漸く十六の年、吉田松陰先生に弟子入りを致しましたが、其の前は寺子屋で教育を受けて居られたのであります。斯くの如き卑賤な家に生れ、斯くの如き下等な階級に生れた処の、即ち平民である処の斯くの如き家に生れた此の子供は、今や枢密院議長、大勲位公爵と云ふえらいお方になって居られるのである。そーして其の死するや、国葬となつたのである。

[国葬]

国葬と言へば、宮さんと同じことであります。宮さんと雖も有栖川宮熾仁親王、北白川宮能久親王、小松宮彰仁親王の三殿下が国葬とおなり遊しただけで、臣下では岩倉具視公、嶋津久光公、三條実美公、毛利元徳公、及び嶋津忠義公丈けで、其の外、木戸公、大久保公の如き方でも、今日迄国葬となつた人はないのです。そーして、我が 聖上皇后、両陛下の勅使を御差し立て遊ばされたのみならず、各国の皇帝が御代拝をお立てになつたと云ふことは、今迄に例のないことあります。

第一に、我が 両陛下、両殿下の御代拝より、英国皇帝の御名代を始めとして各国皇帝の御名代に引き続き、其の以下維新迄の將軍時の覇王とも言ふべき職にあられた徳川慶喜公が、此の足軽であった処の伊藤公の柩のあとに徐々と徒歩せられて、公爵に頭を下げて敬意を表せらるゝ。否、伊藤公爵の死は世界を震動したと言ふてもよろしいのである。世界の偉人として認めらるゝ処であります。伊藤公の如く世界を動かし、斯くの如く光輝を放つた処のお方は、我国有史以来ないことである一と考へます。併し公爵の生存中には多くの敵もあり、反対もあり誤解もあつたのであるが、棺が覆はるゝや否、党派の区別もなく、敵味方もない。国民挙つて公爵の功労を認め、国葬の御裁可あるや、一人の之れを不相当と考へる者はなかつたのである。実に我国では珍らしい、成功したお方と言はんければなるまいと思ふ。茲に於て、我々は伊藤公爵と云ふお方はど一云ふお方であろ一か、どんな訳を以て斯くの如き大偉業を成功することが出来たであろ一かと云ふことは、必ず問題となるのである。公爵は幸運な方であると言ふ人もある。又彼れは天才である、えらい人である、えらい知力の潜勢力を持って居る、偉大な可能性を有して居たと思ふ人もある。果して公爵は幸福なお方であつたら一か。

特別に天が此の人に幸して、斯くの如き天才を与へたものであろ一か。昔から往々、傑出した人の伝記には牽強附会の説をなす者が多いのでありますが、伊藤公も其の一人で、あれは林の子ではない。拾ひ子であるなどと、其の生れたことが当り前でないよ一なことを言ふ人もある。

[公爵果して天おなりしや]

果して公爵は斯くの如き天才であつたら一か。果して公爵は幸運の人であつたであろ一か。伊藤公爵は果して天運の恵みに由つて斯くの如き偉業を成功せられたのでありましょ一か。成る程、幸運な人であつたと云ふ処も感ぜられぬことはない。又此のお方の学問、知識、英才などを考へて、天才であると云ふことも間違ひもないことであります。併し私は公爵とは数回お目にかゝりました。且つ自分の意見を最もよく聞きとつて下さるお方は、此の方の外にないと思へましたから、四、五度随分議論を戦はしたこともある。最後にも一番強い議論を戦はしたのである。私の考へでは、公爵が非常なる天才人よりも格別に天の恵みを受けた人であるとは言はれんのである。公爵が斯くの如き異数の成功をなされたと言ふことも、決して奇蹟ではない。当り前の事を公爵は忠実に熱心に尽された、と言ふ外はないのであります。

そこで私が公爵について存じて居ります材料によりまして、公爵がど一云ふ目的を立てゝ、其の爲めにど一云ふ修養により、ど一云ふ学問によつて、斯くの如き能力を発揮せられたかと云ふことを、あなた方に少し御紹介を致したいと思ひます。

其の本論に入る前に、私が子供の時、郷党に於て如何に伊藤公爵や其の他の先輩の方から感化を受けたかと云ふことを申しますならば、当時の国風、学風と云ふものが如何なるものであつたかと云ふことがわかりましたならば、凡そ伊藤公爵はど一云ふ径路を取つて行かれたものであるかと云ふことが、想像せらるゝのであります。

[幼時の記憶]

私が幼時の記憶の中で第一の出来事は、私の母のなくなつたこと、之れははっきり記憶に残つて居ります。其の次に微かに覚えて居ることは、所迄も覚えて居る。薄暗い頃に役所から使が馳せて来て、今敵が何処で発砲を始めたから油断はならぬ、又或は戦争になるかも知れぬ。最早敵は段々近づいて来て、何時兵火にかゝるかも知れぬ。故に若しそ一なれば何処に逃げる。支度をせよ、との知らせである。其の時私は、七つか八つかの子供であつた。之れが私の一番始めの記憶である。夫れから後の記憶は悉く戦争、或は忠義、討死、割腹と云ふよ一な、殺風景なことばかりであります。

[奇兵隊]

私の生れた処からは、奇兵隊と云ふものが沢山出ました。此の奇兵隊と云ふものは、裸体で鉄砲をかついで敵に向つたものである。私の宅の向ふに庄屋の内で或る者が、一銭の卵を一銭五厘であると言つたので、其の者は庭に引き出されて今にも殺されんとする所を、人々の嘆願に由つて漸う許されたと云ふことも、實際目撃して居ります。又奇兵隊の中の一人が誤つて発砲して、友達のを落したと云ふことの謝罪に

割腹をしたことや、又私共が教はった先生は激しい議論をして腹を切った。夫れを其の方の兄さんが介錯をした。私の従兄が議論をして、久しい間、閉門せられたと云ふよなこともあったのです。そして私の近くに寺がありました、此のお寺は怪我人や死人を運ぶ処である。山から見て居ると、大砲が鳴る。人が殺される。そーすると、死骸を此の寺にどしどしかつぎ込む。そー云ふ殺風景な中に、我々は教育を受けたのである。故にどー云ふ考へが起るかと云ふと、我が従兄も先生も国のために命を捧げられたのである。故に、我々も国のために命を捨てると云ふ決心をしたのであります。

我々は其の時に、そー云ふ子供の時に、どーしても国のためには命を捨つ可きものである。男と生れたからは、何時でも国家の為に命を捧ぐべきものであると云ふ考へは、士の家に生れた子供は必ず肝に銘じたのである。之れが、我々子供の時に自分が軍人となる一と決心をした訳である。併し私の親は軍人になることを欲せず、文学の方、即ち学問の方に導いてくられて、夫れから自分の志を立て、生涯の目的を定めまして、十七の時には今の熊毛郡の小学校長となり、次には、今の伊藤公爵と三人で我が国禁を犯して英国に渡ると企てた処の、後に子爵となった山尾庸三、井上聞多、之れが今の井上侯爵であります、どー云ふ訳か其の山尾庸三君の建てられた二嶋の小学校に行き、其の後参りました湯田と云ふ処は、井上侯爵の別荘があった。そー云ふ処で、度々お話を聞いたことがある。即ち伊藤公爵とか山尾子爵とか井上侯爵と云ふよな方、斯くの如き先輩の話聞いて居った我々子供は、将来何か志を立てなければならぬ。何か国家の為に尽さねばならぬ。仮令低い士である一とも、貧しい家に生れよ一とも、そー云ふことは意に介するに足らぬ。何ぞ志があったならば、遂げられないと云ふことはない。出来ぬと云ふのは為さぬのであると云ふことを、悟られたのである。故に我々は、唯郷党にぶらぶらして居ってはならぬ。人の奴になる一が、何をしようが、自分の志は遂げなければならぬと云ふよな決心は、伊藤公爵の如き先輩から深い印象を受けたのである。其の話に由って、我々青年の時代、殊に伊藤公爵の十五、六の時の国風、又其の郷党の学風と云ふものの想像がおつきになることと考へます。しかのみならず、我々が十三、十四の時に親から助けを受けずして学問をしたり、米搗きになったり、或は医者との調合生などになって、働きながら勉強致しましたのも、やはり伊藤公爵方が例を示されたから出来たことと思ふのであります。私は、伊藤公爵は如何にして斯くの如き人格を築かれたかと云ふことについて申したい。

[公爵の成功の秘訣]

第一に、決して彼れは非凡な天才を附与せられたとか、非常なる幸運児であったとか云ふことではない。寧ろ公爵も当り前の才能を備へて居られた人で、殊に賤しい家に生れて、当り前の人よりも不運な境遇に生活した人であると言はんければならぬ。其の不運な境遇にも構はず当り前の才能を備へて居られた伊藤公は、如何にして斯くの如き勢力を養ふことが出来たかと言ふならば、私は先づ其の要素、秘訣は何ぞ

やと言へば、勉強である、努力である、働いたのである、と申したい。公爵は非常なる勉強家であったのである。

公爵が十六の時に吉田松陰のお弟子となり、十八には木戸孝允公などに従ふて尊王攘夷之論を称へ、一年間に東西を奔走したことが十六回で、席の温まる暇はなかつたのである。其の青年の苦心、其の間の勉強と云ふものは名状す可らざるものであったと思ふ。夫れから彼れ等は果して攘夷と云ふものは誤らぬ国是であるか、世界の大勢から考へて見ねばならぬ。夫れには先づ自分の活眼を開かんければ何事も為し能はざることを悟って、国禁を犯して三人英国の船に頼んでやつの事と連れて行ってもらふこととなり、洋行せらるゝ間もなく長州砲撃のことを聞いて、之れは国家の一大事と思ふて、忽ち、旅装を整へて帰朝の途につき、其の乱を治むるや其の戦争に身命を賭して働き、僅に二十六、七で参与官となり、続いて明治元年には兵庫県知事に任命せられたことを始めとして、其の後、公の生涯は如何に難局に折衝したかと云ふことが容易にわかります。然るに公爵は寸暇を窃んでは学問修養につとめられたのである。此に掲げてある此の詩も、五月に京都で作られたものでありますが、其の意味も誠に感ず可きものがあり、公爵の人となりを知るに足るものであります。[公の読書]

公爵は実に此の漢学に通じて居られたのである。独り漢学を勉強せられたのみではない。私がお尋ね致しました時にも、五、六冊の新らしい洋書が必ず公の卓子に載って居りまして、公は忙しい間に始終読書をして居られた。非常なる勉強家であつて、年をとりましても決して世に後れないよ一に、世界の大勢からはづれないよ一に、常に自ら学んで広く知識を世界に求めて居られて、非常なる勉強家であつたと云ふことは確かであります。

独り学問に勉められた計りではない。公爵の一生は一日として、おぼやけのことを忘るゝことは出来ない。昨年憲法発布記念式の時でありましたが、或る伊藤公を知って居る名あるお方が、一場の演説をせられた。其のお話の中に、こー云ふ懺悔談がありました。私達は薩長が余り暴慢である余り、薩長が自分のために名利を食ふものとして反対であつたが、段々伊藤公爵方に交はつて見て、始めて彼れ等の成功するのは当り前で、自分等の反対したのは間違ひであつた。不平を言ふのは自らを知らないのであると云ふことを悟って、悔い改めたのである。私共が時々お尋ねを致しても、御面会を断られることがある。夫れは無理からぬこととあります。或時の如きは俄に 陛下の御召しで夜中参内し、午前三時に帰つた公爵は、五時にはちゃんと起きて居られた。或る時は殆んど徹夜をせられたと云ふことは、珍らしくないのである。そー云ふ実に勤勉努力せらるゝお方であつた。夫れだけを考へても、決して我々が及ばぬ所である、と云ふ御話があつたのです。之れは国民の一般に認め得らるゝ処であらうと思ひます。我々も一番初めに大磯へお尋ね致しました時、お風気であるとのことで、五分間を期してお目にかゝらうと云ふことでありましたけれども、公爵でなければ外に訴ふる人はないと思つて、お疲れをも憚らず私は意見を申述べました。

然るに公爵は、何故之れは山縣に言はぬか。之れは誰れ夫れに言はぬか。私に訴へて来べき筈のものではあるまい。そ一何もかも私に持って来て出来るものではない、と言はれました。此の御詞に由つても、如何に総べての方面から公爵を煩はしたかと云ふことがわかります。

韓国の統監を首相副統監に譲り、枢密院議長に転ぜらるゝや、間もなく韓国に旅行せられ、お帰りになって間もなく哈爾濱に出かけらるゝや、忽ち一凶手の為めに斃れらるゝ其の日迄、殆んど寧日はなかったのである。私と同郷の吉富君の如きは度々其の事を氣遣ふて、公爵に忠告をせられた。そ一云ふ諫めが有り、危険を忠告をせらるゝにも拘はらず、國家の為に身命を捧げられた以上、自らの安危を顧みらるゝ暇はなかったのです。

[努力]

公爵は成る程非凡な所もあつたに違ひがないが、ど一して斯くの如き目的を以て一貫せられたか、ど一して斯くの如き大なる勢力を扶植せられたかと言へば、全く學問、勉強である。努力、働きにある。斃れて後、已むと云ふ決心を以て勉強し、働き、一生懸命に努力すると云ふことが、公をして斯くの如く大ならしめたのであります。

独り伊藤公のみならず、世界の偉人は皆そ一である。其の偉人の一人として、やはり公爵も茲に勉められたのである。伊藤公の成功は実に、斯くの如き勉強の力に由り、斯くの如き努力の結果であると云ふことが、誠である一と感ずるのであります。

[忠]

第二に伊藤公をして成功せしめたものは、忠と云ふことです。國家に身を捧げて、終始一貫して、論らない幼少の時から志を立て、目的を立てゝ一日も怠らない。如何なることにも屈しない。只忠、只義と云ふ公爵の精神に由つて、斯くの如き偉功を奏せられたのであります。私は此の前、大学部の実践倫理の時に、公爵は良心ある、良心の鋭い政治家であると云ふことを申しました。之れは伊藤公の書かれたものゝ中にも、詞の中にも、亦多くの結果の証明する処にも、伊藤公は実に立派なる良心を以て、穩健なる主義を抱いて行く処の政治家であつたと云ふことは、挙國一致して認むる処であります。

我國一般の人々、否、世界の政治家も、伊藤公を斯くの如き至誠な人であつたと認めて居ることは、今日、列國から表せられた同情に由つても、わかることと思ひます。

夫れで私は、今日殊に公爵の立派なる政治家であつたと云ふことについては、余り申す必要がなかる一と考へます。併し其の人の思想は、其の人の美術、其の人の行為、其の人の人格、其の人の思想に、最もよく現れるのである。否、其の人の思想、其の人の美術、其の人の行為は、其の人の人格と言つても差支へはないのである。

私は二、三日前一寸通りかゝりに、伊藤公が此の頃立ち寄つて書き残された、木戸公を弔ふ詩があると云ふことをきゝまして、村井吉兵衛氏の所によつて、氏の居間にかゝつて居つた軸を見て、之れは誠に公爵を知るによいものであると考

へましたから、借りて参りまして、此の席に持って来まして一寸あなた方にお見せ申したのであります。

追憶往事感無窮。 三十三年夢寐中。
顔色威容今尚記。 名聲輿望古誰同。
蕭曹房杜忠何比。 蜀相楠公義暗通。
墓畔題時新綠樹。 山閣叫盡血痕紅。
題 松菊先生墓 春畝山人

第三に、私が公爵に接して居ります時に、又その間に公使、其の他の人々と談話をせらるゝ間に深く感じて居ることは、実に公爵の度量の大きい処であります。即ち寛容なる、人を容れる度量の大きかつたことである。人の為めに忍ぶ、人の為めに其の過ちを赦す、人の弱きを助ける、人と喜びを共にすると云ふよ一な、雅量があつたと云ふことであります。

今日は実に数万の人が出まして、凡そ八時半から十二時半迄立ちつめであつたけれども、実に静肅で一糸乱れずと云ふ有様で深い追悼の情を顯されたと云ふことは、大そ一感ぜられたのであります。

私共は、伊藤公爵が生涯殆んど席の暖まる暇のない程に殆んど勢力を尽きらるゝ程に、お尽しになつた功績を考へると同時に、最も敬意を尽して考へるべきであら一と考へます。之れについては、感ずべき話を私は随分沢山持つて居りますが、今日は之れを申す暇がありません。併し只一番最後に起りました公爵の態度を考へましたならば、其の全般を察知することが出来るのであります。

[公爵の最後]

公爵の最後は度量の広かつた処、及び外國に対する寛大なる態度は、実に感激すべきものであると思ふ。Russiaの大蔵大臣と挨拶をすまして、多くの本邦人の歓迎を受けらるゝ刹那、即ち思ひがけもない時に、突然ピストルの音を聞かれたのみならず、三丸は必ず確に命中したと云ふことを意識しながら、神色自若として少しもうたへることもなく、逃げると云ふこともせられず、猶ほ数歩前進せられて、將に斃れんとする処を二、三の人に助けられて、じつと踏みしめて居られた。古谷君がお怪我はありますまいと言つた時に、いや確に二、三発やられたと言つて、皆助けて汽車に入れたときに、も一全身蒼ざめて冷汗におそはれて、事きられたのであります。

[最後の詞]

さて、公爵の最後の詞は、誰れがやつたかと問はるゝので、傍に居る人が、韓人です。も一捕縛致しましたから御安心なさい、と申しますと、公爵は、馬鹿な奴ぢや、と言はれた。馬鹿な奴と云ふ詞は人を恨んだよ一であるが、そ一ではない。最後に至る迄、猶ほも韓国を思ふて居られた。最後に至る迄、猶ほ韓国の前途を憂ひ、之れを啓発しよ一と勉められたのである。何故馬鹿であるか、何故頑迷であるか、何故斯く迄に無知であるか、何故ほん一のことがわからないか。我れは韓國の敵ではない。韓國の敵どころではない。之れを指導し、啓発し、助けよ一と思ふて居る。其の人を敵と思つて殺すのは、実に馬鹿なことである。お前の敵は、韓國の敵は日本で

もない。外国でもない。自分の無知である。お前の態度、即ち働くことの嫌みな、優柔不断な、隠遁的な、不正直な、利己的な、現在の事しか見えない、世界の大勢と隔離主義をとり、文明と隠遁主義をとって居る。最早斯くの如き考へを以て、立つて行かぬものではない。彼等には其の真意がわからぬために、斯くの如き恩人を妨害すると云ふよーな其の行為、其の真意を知らざる彼等は、一国の利害の拘はる処もわからぬのである。馬鹿な者程、憫むべきものはない。仕方のない者はない。之が、公爵の最後に出された韓国に対する警戒であります。

我が命の危い事後に言ひ遺す遺言と云ふよーなものは、少しも考へられない。只自分の使命について、責任について深く考へられて、誰れがやったか、馬鹿な奴だと云ふ詞を吐かれたことと思ふ。此の寛大な心、人の過ちを赦してやり、人の弱きを助けよーと云ふ大なる心が、伊藤公をして、斯く広い同情と無数の世界の友人を有せしめた所以であらうと思はれるのである。

伊藤公が志を立て、今日迄、一日として心を休む暇なく、一時と云へども席の暖まる時がない程に熱心に尽された、力のあらん限りを尽されたと云ふのは、君の為め、国の為めにと云ふことは無論の事、世界人道の為に、弱国たる朝鮮、支那、印度、一方には英国、米国、露国を友として、世界平和主義、調和主義をとられたのです。此の大目的の為につくされたことは、即ち列強の帝王が御名代をお立てになって彼の靈を拝せしめられ、世界各国の新聞が同情を寄せ、政党的区別を離れ、朝野の別なく全国民が公爵に好意を表する所以である。つまり、斯くの如き広い同情を寄せられたのは、実に公爵は己れを捨て、己を捧げて、独り我が国家の為めのみならず、世界人類の為に、あらん限りの力を尽されたが為めである。

之れは、大きい目的の為に忠義であったと云ふことを証明するものと言はねばならぬ。此の寛大な心、即ち自分を世界大に拡大する処の根本の修養が、斯くの如く公爵をして大ならしめたものである。無論人であるから完全無欠ではない。多くの欠点があったに相違はない。然れども公爵が其の大目的に捧げ、終り迄一身を捧げられたのは、其の小瑕を補ひ、小欠点を償ふに足ったことであらうと考へる。併し、公爵は斯くの如き最後を遂げられ、斯くの如き名誉ある有終の美を顕されたのであるが、公の靈は夫れを以て瞑すべきでありましょーか。

【公爵の生涯】

終りの一言。韓国に対し、又我が日本帝国に対して志を遂げ、理想を実現して、充分なる安心を以て眠られたものかと言へば、私は一言で言へば公爵の生涯は忙殺せられた、知恵も力も忠義心も使ひ尽された、即ち斃れて後已まれたと言ふが、適当であらうと考へる。

実に公爵方の熱心なる働きによって、何千年来遺伝の如くなっていました封建制度を打破して、我が國を憲法制度の國とせられたけれども、之れによって公爵の働きは終りを告げないのである。公爵の心を満足せしむることは出来ないの

であります。朝鮮を導くに熱心なる如くに、我が國民をして真に憲法國民たらしめんことに勉められた。其の理想を追ふて止まらなかったお方であるが、未だ其の望みを全うすることは出来なかったのである。恰も我々が桜楓会を結び、過去九年間努力して養ひ立てた処の校風に満足することが出来ない。どーか茲に我々の理想の校風を実現し、桜楓会の理想的の団体的生活を実現しよーと努力して居るが、我が國数千年の遺伝を破って、茲に我が國に必要な校風、我が國婦人に必要な一致団結を実現することの困難なると、同じことあります。之れを実現せんが為に、其の有力なる生命を生み出ささんが為に、十数年我々は皆さんと共に努力して居る。否、殆んど力を使ひ尽して居る。脳髓を絞り尽して居る。けれども、やはり未だ望洋の嘆きを免れない。其の原因にはいろいろありますけれども、其の帰する処は、人物が乏しいと云ふことになるのであります。

【人物の不足】

伊藤公爵は学校よりも大きい國風を作り、大きい団体を作らんとして生涯努力して居らるゝのと、我々が日夜に力を尽して居るのと大小の差はあるが、目的に忠なる至誠と云ふ一段に至っては、同一である。我國家は物質的にも貧乏である。危機であります。猶ほ夫れよりも一層危険なることは、精神、人格の出来て居ないことあります。私共は、伊藤公の不幸にして凶手に斃られたことをききまして、実に感慨に堪へないのであります。併し此の突然の死、此の犠牲的精神は、我が國民を動かすに足ると思ふ。多くの枯れんとする精神を復活せしめ、多くの尽きんとする力をも回復するに足ると思ふ。我々公爵の薨去を弔ふに當りまして、公爵の意志を深く感じて、公爵の如き勢力あり、公爵の如き力あるお方にすら猶ほ能はなかつた処の責任を、此の時に於て深く感じて、我々は我々だけの力を尽し、我々だけの一致協同の働きをとりまして、國家の為に尽し、人類の為に忠ならねばならぬと云ふことを、深く感ずるのである。

私は今日、伊藤公の人格の三要素を述べまして、我々が深く公爵の手本に習ひたい。

第一に、勉強です。銘々、力がなければ何事も出来ないのです。努力しなければ、何事も為し得ない。到底立派な人格を築くことは出来ないのです。又生れつき境遇の困難なることも、亦貧しいことも嘆くには及ばない。如何なる境遇の人も、公爵の生涯を考ふれば、階級にはよらないのである。精神一到何事か成らざらん、であります。

第二に、我々は伊藤公爵の抱かれた如き忠義心を以て、大きい目的の為に全体と一致協同する。己を捨て、人の為に尽すと云ふ精神を鼓舞したいものと考へるのであります。

今日は全国民が公爵の犠牲の精神に感動し、深く國家の將來を考へる時におきまして、我々も願はくば公爵の生涯を描いて、採るべきものを採りたいと考へたのであります。

[中表紙]
正会員修養会に於ける御話
明治四十二年十一月四日

明治四十二年十一月四日
正会員修養会に於て

[人格の必要]

私考へますに、御婦人もど一しても此の儘ではならぬ。さて、も一一つ婦人の世界を発展するには、何か一つの Genius、一つの人格が現はれることが必要である。西洋では Artist と云ふ詞と Artisan と云ふ詞とある。其の Artist にならねばならぬ。あなた方はも一二十才ではない。大抵二十五位である。故に大分経験もしたし、今決心すればそ一動くこと、変ることはないのである。そ一して結婚問題と云ふことも起つて参ります。男にしても女にしても同じことである。生活すると云ふこと、地位と云ふことも考へずには居られない。けれども私は、今迄給料と云ふことを心配したことはありません。

[私立学校]

自分が女子教育に身を捧げよ一と決心してから、一番六かしいのは私立の学校と云ふこと。此の私立には基本金を要するのである。之は、内海も濫澤も六かしいと言ったのであります。けれども私は是非之を作つて、私立の女子大学を起すと云ふ事を決心致しました。そして洋行もしよ一と云ふことをきめました。其の時は如何にして洋行するかと云ふ道は、少しもついて居なかつた。けれども私はそ一云ふことには拘らなかつたのであるけれども、やはり決心すれば出来るのであります。

[各自助け合ひて進め]

あなた方も第一に、ど一しても銘々何かにならねばならぬ。夫れも只だ今迄の様に追ひ使ふて居つてはいけなから、方法を講じて、又銘々が助けあつて、皆を何かにして行かねばならぬ。

[一致団結]

第二に、ど一しても出来ねばならぬ事は、一致団結と云ふことである。女徳にしても何にしても、も一婦人と云ふ一つのものになつて、社会に何かの力を及ぼして行く様に大きな社会性を養ふて、銘々が分業に何かを引き受けて行く事の出来る様にならねばなりません。

今度は皆さん大分真面目になつて、よく考へてお書きになつたのであるから、私も夫れを読んで非常に力を出して居ります。あなた方も中々力を出して居らるゝが、今日迄の事を考へて見ると、ど一も御婦人と云ふものは、弱ること、挫かれることが多く、わるい暗示を受け易いのである。故に此の心理がよくわかつて、自制することが出来る様にならねばならぬ。

[Subconsciousness]

英語で言へば、Consciousness に Subconsciousness 及び Unconsciousness と三つがある。此の Subconsciousness と云

ふことについて、あなた方の調べた知識、調べ得らるゝ知識、及び如何なる人に就いて研究しつゝあるかと云ふことを、書いて貰ひましょ一。そ一して二人づつ順番にして、其の調べ方、調べた材料の總め方、及び発表の仕方などをも、お互に直して行く様にしたらど一かと思ひますが、夫れについて意見のある方は…………

Subconsciousness、夫れが六かしければ暗示でも宜しい。又信仰と云ふ問題でもよい。信仰を科学的に調べると、其の処になるのであります。

[中表紙]
高等女学校修身講話会に於ける御話
明治四十二年十一月八日

明治四十二年十一月八日
高等女学校修身講話会に於て

[予習会に就いて]

今朝、私の処へ運動委員の方が見えましての話に、此の前の予習会は、体ですることとはよく出来ましたが精神が足らぬ様である、元気が乏しい様な感じがすると云ふことでありましたが、自分達もそ一感じたと思ふものは…………少数

そ一ではない、出来るだけ力をこめて面白く喜んでしたと思ふものは…………多数

今、体操をするにも精神が必要であると云ふお話が、塩井さんからもありましたが、何をしても精神がなくてはならぬ訳は、そ一説き明かしをしなくても、おわかりになると思ふ。これは我々銘々が一人としてするときにも、仲間として大勢でするときにも、我々の組と云ふとき、日本と云ふ大きな仲間間で事をする時にも、之が必要であると思ふ。大きい方はおわかりでしよ一が、小さい方は余りよく覚えて居らぬかも知りませんが、後世、我が国の歴史を書く時には、大なる出来事として持筆大書するでありましょ一。我が国の一番勢の出た時、近來での日本の一番力の出来たのは日露戦争である。ロシヤは商売から言つても我が国より大きく、国の広さから言つてもロシヤは世界で一番広いと云ふ国である。其他軍艦や機械の多い事、又人数の上から言つても較べ物にならぬ。ロシヤと云ふ大きな国と戦つて此の小さい日本が勝つと云ふことは、誰れが考へても悉く疑問であつた。其の他の勝敗をきめるに有力な關係を持つて居られた山縣元帥でも、悉く疑つて居られたのであります。然るに不思議にも、我が国が勝つたのである。其の原因は何であらうか。夫れは我が国が維新以來、世界の新知識を入れて教育が進んだと云ふこともあるけれども、教育が進んだと云ふことはロシヤにもある。只金がある、機械があると云ふだけではいけない。其の機械の後に隨つて居る処の力があつたのです。只鉄砲があるからと云つて、軍の出来るものではない。其の機械の後に立つ人間が居る。其の人間の精神が勝たしめたのであります。夫れと

同じ様に、此の女子大学も世間と戦をして居るのである。今、世の中が不景気で、其の為に凡てのことが消極的になって居ります。夫れと一所に一番影響を被るのは、女子教育である。女は、も一お針が出来れば沢山であると云ふことになる。昔は小学校で充分であるとして居りました。そ一云ふ考へが多くなると、も一女子は夫れ以上に進むことは六かしくなる。其の臆病と言はうか、沈衰と言はうか、不元氣と言はうか、斯の如き時に於て、我々が茲に運動会を催さう、或は通俗講演会を開いて新知識を呼び起さう。今我々は暗きと戦って居る。臆病と軍をして居る。此の時に於て、只我々の身体を動かすだけで出来るものではない。我々は大に奮起して愛國心を燃やして、熱心に一致協同せねばならぬ。私は、今年卒業なさる五年生がど一も元氣が足りないと言ふよ一では、何事も思ふ様には出来ない、學問も技術も成功することは出来ないのであろ一、と考へる。そこで大学部の方では、今日熱心に元氣を養はねばならぬと云ふことに気づいたと云ふことは、誠に大切な事でありませう。我々高等女学校の者も、ど一かそ一云ふ精神が欲しいものである。ど一か茲にそ一云ふ熱心が燃えて、そ一云ふ空気を作りたいと云ふことは、誰も異存はありませんまい。

[精神を養ふ法]

然らば、ど一したならば此の精神を鼓舞することが出来るか、ど一一致したならばそ一云ふ元氣を起すことが出来るであろ一か。若し此の事について考へがあるならば、何方でも簡短に言ふて戴きたい。

我々が精神を養ふには、いろいろあります。併し夫れを委しく申す時がありませんから、一つだけを申すならば、日露の戦をして、やはり日本が優勢であった。露國よりもやはり日本が強いと云ふことになった。其の前には、支那と云ふ大きな國と戦つて、やはり日本が進んで居る、日本がえらい、まして朝鮮は比べものにならぬと云ふことが、明らかになりました。我が日本をして斯く進歩せしめたのは、やはり其の時の日本青年の元氣である。

其の元氣はど一して出来たかと云ふと、伊藤公爵の如き國家の元勳、愛國の指導者があつたからであると思ふ。朝鮮には、一人として私欲をすて、國家を開発すると云ふ様な先覚者が無い、と云ふことに歸するのであります。

此の前、ポルトンと云ふ博士が支那を六ヶ月間研究して、日本に来ました。其の時に支那には Strongman と言ふべき先導者が無い。日本には此の文明の先覚者がある。夫れ故に強いと云ふことがわかつた、と言はれました。私は、伊藤公爵とか山縣公爵とか或は吉田松陰先生の如き、維新の際から國家に命を捧げると云ふ覺悟をした者が長州には沢山ある。無論そ一云ふ人々の私行には欠点があるけれども、國家の為に生命を捧げて、仮令國は焦土となつても、山口と云ふ藩はつぶれても、國の為、天子の為には何物をも厭はない。其の結果はど一なる一とも構はぬ。只為すべき事の為に命を捧げると云ふ覺悟をきめられたのである。伊藤公の如き、身は微賤であっても、才は乏しくとも、國家を進めよ一、世界の大大勢に通じよ一と勉めて、凡ての改革を行った。如何なる論難、

攻撃も少しも厭ふ所でない。こ一云ふ決心をした人が、吉田松陰とか廣澤とか大村益次郎とか云ふ様な有力なる先覚者が、悉く刺客の為にやられたのである。夫れにも屈せず、益々勤王の志を厚うせられたのであります。其の頃、西洋の學問はせられないときまつて居ましたから、中村敬宇先生の如きも福澤先生の如きも人に隠れて時を窃んで、英學を捨て、了うた人が多い。夫れから國論が引つくり返つて、洋學でなければならぬと云ふ時に、漢學を捨て、了うた人が多い。夫れから後、又漢學でなければならぬ様になつて、忽ち英學を捨て、了うた人が沢山あります。

[進歩と保守]

斯様に進歩と保守とは始終相戦つて、上つたり下つたりして行くのであるけれども、其の戦ひにも反対にも恐れずに、國を引き上げて行くのは何であるか。君に忠、國家に忠であると言ふ真心を以て、人心を醒まして行く処の先導者があるからして、日本が強いのである。あなた方のなさることも同じことである。そ一云ふ始終一貫した所の行ひある人が出て、始めて全体が蘇つて来るのである。人々が力に満ちてくるのであります。

茲に一人の親切なる人、忠實なる人があつたならば、必ず全級を動かすのである。我々の仲間斯の如き目的に忠なる、人に親切なる、天職に熱心なる人が出て、始めて我々全体が熱心になり、忠實になるのである。故に我々皆が其の先導者にならねばなりません。

又此の女子大学が熱心になつて目を醒まして来たならば、始めて我が國婦人を醒ますことが出来、婦人が目を醒せば我が國を救ふことが出来るのである。故に我々銘々が自分の係について、責任に対して、熱心に忠實に其の本分を尽すならば、私共勝利を得ることが出来る。そ一すると國家が勝利を得るのであります。

[信仰と云ふこと]

次に、此の精神を養ふと云ふことは信仰です。信仰と云ふことは目的をきめまして、次に自分の力を見出しまして、そ一して其の目的を成し遂げることが大層必要なこと、其の價值を知つて夫れを成し遂げることが自分の義務であることを信じて、二心なく終始一貫することが信仰であります。然るに運動はつまらぬものである、運動の予習などをするのは學問の妨げである、と云ふ様な考へがあると熱心は出ないのであります。之は東洋流の偏見から来たもので、昔は學問と言へば、只机にすがつて本を読むことのみ考へて居りました。我が國の力が出たのは、此の偏見を破つた時である。此の間大村君も、今日堀井君も言はれた様に、勉強と云ふことは只本を読む計りではない。其の中には必ず、運動して身體を鍛ふことが含まれて居る。故に本校では此の體育を教育の大事な要素として行くのであります。

今日は寒いにも拘らず、天皇陛下は陸軍の大演習を御統裁遊ばす為、栃木県下へ行幸遊ばされて居ります。

之は陸軍の大きな遊びである、遊戯である。夫れ故に我が陸軍であります。我が東郷大將が海軍を率いて偉功を奏せられたのは、其の前に於て海軍が大なる予習をしたのである。

其の時ロシヤの海軍は、酒を飲んで遊んで居たのである。

熟々東西の歴史に徴しまするに、遊戯に熱心なる国民にして始めて、世界に優勢を持って居るのである。遊戯は我々をして書物を離れて、興味を持って実践的に熱心ならしむるものである。故に可塑性を持って居るものは、此の遊戯を年とる迄廃しない者が長生きするのであります。然るに之を不必要なる事の如くに考へるのは、大なる誤りである。

[善く学び、善く遊ぶ]

私はこゝで言ふ、善く学び、善く遊ぶと云ふこと、此の意味をよく解して、善く遊ぶ者はよく学び得る所の、其の道理がよくわかりになったならば、運動会を信ずる心を以て、二心なく一つの勇気を以て皆さんが熱心にお働きになったならば、必ず何事をも成し遂げることが出来ると信ずるのであります。

夫れで私は、此の秋季の運動会、講演会及び参考館も、皆さんが非常に興味を以て熱心に、勇気を以てなさることを希望致します。其の応用の方法について申したいことがいろいろありますが、時もありませんから、只一條を申しましょ。

[運動会の目的につきて]

此の運動会の目的は第一に体育であります。此の体育と徳育と知育及び意育の関係は、分つ可らざるものである。此の体育の目的を遂げるならば、必ず意育をするのである。又、知育をするのであります。夫れと同時に、殊に我が国で欠けて居る処の共同の精神を養ふのである。之は最も著しきものであります。夫れから、只此の内のみならずお客さんをするのであります。其のお客さんに対して親切にする、礼儀を欠かぬ様にするに云ふことが大切であります。夫れで、お互に力を合せてする、共同一致と云ふことと、上に表はるゝ処の礼儀と丁寧、親切と云ふことが大切であります。其の丁寧、親切と云ふことは心の標である。故に其の内を修めずして、形を幾ら注意してもだめであります。此の丁寧、親切と云ふことは人に不快な感じを与へない、嫌な心持をさせないと云ふことです。先づ第一に氣のつくことは、あなた方が華美になさると此の学校は華美である、虚栄であると云ふ感じがする。之は人に不快を与へるのである。又夫れと反対に余りわるい衣服をきるのも、粗野になって宜しくない。一番人の目につくものは顔である。昔は身仕舞と言つて、薄化粧をするのが礼であつたけれども、此の学校で言ふのは、そ一云ふ事ではない。此の頃、美術術と云ふものもあるが、間違ひである。姑息であります。顔色と云ふのは皮膚の色ではない。皮の中にある血の色であります。故に最もよく心身を養ふて血の循環をよくすれば、其の美は直ちに顔に現はれるのである。そこで我々の美と云ふものは精神にある。顔色は血の色である。故に我々は心身を清潔にするは宜しい。白粉は形式的である。我が校風は精神的であります。夫れから、も一つある。手を叩くこと。赤々、白々と云ふことも、余りひどくすると醜になる。醜なれば、やはり人に不快の念を与へることになるから宜しくありません。競争の時に余り勝たうと思つて、人に不利益なことをしてはいけぬ。人には目

があるから、不正なことをすると直ぐ目につくのみならず、校風をも害する事になりますから、夫れ等の点にもよく注意してなさることが必要である。

そして運動の一番大切な事は健康でありますから、明日はお客さんをするとか、運動会をするとか云ふことが楽しさに、寝られないと云ふ様なことがあつてはならぬ。故に時間を守ること、眠ること、食事をするにもよく注意をして、お働きになることが必要であります。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十二年十一月十七日

明治四十二年十一月十七日

大学部全体の為めに

Subconsciousness とは、意識の届かない処、意識の及ばない処の世界である。夫れに我々の意識する処のもの、即ち Kant の所謂、Practical reason 科学で言ふ処の本能、Schleiermacher の言つた感情なども入れて、極広い意義に解釈するのは矛盾するのではないかと云ふ疑問が起りはせぬかと考へますが、之れについて答へて貰ひたい。

我々の日常の行為には本能的のものも沢山ありますけれども、我々の適性、傾向と云ふよ一なものも、我々の意識に上らない処の深い処に根底を下して居るものであると云ふ意味で申したのであります。又 Kant の言つた所の実践理性と云ふよ一なものも、その本は此にある。之れは長い間の人類の経験が積み重なつて、そ一して我々の良心となるのであるけれども、之れは極深い処に根底を下して居るものである。

The universal unconscious mind と云つたものも、此の事である。

我々の此の身体を經營して居ります総ての働きは、殆んど無意識である。例へば血液の循環を掌つて居る所の心臓の働きの如きは、夫れである。一刻も怠つてはならぬ所の呼吸、及び肺の作用などは、早くしよ一と思へば早くすることも出来ませんが、殆んど無意識的に出来て居る。こ一云ふよ一なものを無意識的活動と申しますが、其の中には全く無意識の活動と半意識活動とがあります。其の他、自分の精神の自覚に少しも頭れて来ないものもある。そ一して無意識活動の世界をも一つ超えて行くと、無限の無意識の世界となる。之れは限りない無意識の世界であるが、又之れを少しづつ意識の世界に化することが出来るのである。

Subconsciousness とは、最も広い意味で言へば、意識の凝点に現はれない凡ての意識の総体である。猶ほ、心理学者の名付けた詞を御紹介致しておくならば、御参考になるであらうと考へます。

[Stout 曰はく]

Stout 教授は、之れを Disposition、即ち性癖と言つて居る。

Hamiltonは、之れをUnconscious mental modification、無意識的精神改造と言ひ、此のSubconsciousnessを最も深く研究したMayerは、之れをSubliminal consciousと言つて居ります。

Morganは、之れをMarginal consciousnessと申しました。我々の意識は丁度眼界の届く処で、其の以外の周囲が此のSubconsciousnessであると言つて居ります。

又他の心理学者は、表面以下に深く横たはる要素の根である、而して此の隠れたる源泉なくば、吾人は限りなく進歩向上することは出来ないのであります。Americaの心理学者professor Jamesは、Subconsciousnessは新しき精神活動の源泉である、と言つて居る。之れは大悟徹底とか、(空白)とか云ふよ一なものである。又或人は、Inner working of the mind 精神の内部の働きである、と言つて居るのであります。然らば、此のConsciousnessとSubconsciousnessとは二つあるものであるか、又違ふ処の働きであるかと云ふと、そ一ではない。我々が知ると知らざるとである。我々の知つて居る処の精神的活動も、知らざる処の精神的活動も、亦其の種類のみさま異なることも同じことである。

意識に現れたものも現れないものも、其の实体は一つであつて、活動の有機体である。そこで我々の自分で意識する処の精神の力と云ふものは、其の根本は非常に深いものである。其の顕れる処の働きは、顕れない此の無尽蔵の蔵、或は泉から流れ出たものである云ふことを知らなければならぬ。又我々の生命を営んで居る処の精神的活動と云ふものは、我々の指図を受けないで我々の知識の代理者とも言ふべき、即ちSubconsciousness、一省で言へば次官の如き者があつて、大臣迄届けずして次官の手で仕て了う仕事が沢山あると云ふことを知らねばならぬ。故に我々は人の目の前だけで、若しくは人の知つて居る所だけで、善いことをしても駄目であると云ふことがわかるのである。

そこで我々が築き立てた所の観念、我々の拵へた品性は決して無くなつて了うものではない。必ず必要な場合に又顕れて来ると云ふことが明らかであります。夫れで我々の品性修養は此のSubconsciousnessを養ふことであり、猶ほ根本の開拓、根本の改善と云ふことに力を尽さねばならぬことを、考へねばならぬ。

夫れで其のSubconsciousnessを養ふて、もう少し其の土台を強健にするには、つまりSubconsciousnessの精神活動に注意をしなければならぬ。

其の第一着手として、眠ると云ふことも必要である。安眠と云ふことも積極的の仕事であると云ふことを、此の間申しました。

【催眠】

今日は、其の次の催眠と云ふこと。之れは医者の方であることであるが、之れを知つておくことが心理学上、又教育学上必要なことであります。即ち英語でHypnosisと言ひます。此の催眠と云ふことと睡眠と云ふことも、意識を失ふことは同じよ一に考へらるゝのであるけれども、之れは違ふのである。

Association.
Dissociation.
Organization.

我々の人格とは凡ての経験の統一したものであるから、Associationと言つても宜しい。けれども之れが分離しますと二人格を生ずるよ一なこともあります。我々の経験が統一されて目的に叶ふ処の行為をすると、之れが意志、即ち人格である。所が之れが幾つかに分離すると、無意識の状態となるのである。故に睡眠することも催眠することも、大脳小脳の関係、及び大脳中の相互の働きも分離することでありませぬ。然るに催眠とは、上の中心と下の中心との一部の分離である。故に睡眠の状態は細胞の働きの疲れから来るのであるが、催眠の状態は其の働きの分離によるのである。故に催眠状態の方は活動が非常に盛んであります。そこで夢と催眠にかけた状態とは、非常な差があるのであります。

催眠とは、一種の強烈なる処の集中力である。つまり、我々の意識して居る時には、此の精神活動が全体平均を失はぬよ一に勉めるので、一種の事柄に集中することが困難である。夫れは、種々の反対活動があるからであります。催眠術は其の反対活動を分離して、其の妨げになる活動を除くのであります。丁度此の太陽の光りを強くしよ一と思ふならば、凸面の眼鏡を以て光線を一所に集中すると、凝点に於て点火するならば忽ち発熱、発光するのと同じことでありませぬ。

夫れで我々の精神の力を或一事に集めるならば、非常なる力が出来るのである。何か六かしい病氣にかゝつて治療が六かしいと云ふ場合に、凡ての力を一所に集めるならば、非常なる勢を以て治すことが出来る。つまり之れは精神力を一点に集めるのであります。そこで其の力を起こして来る原動力、之れが所謂暗示である。誠に激烈なる暗示を与へると云ふこともある。之れは後で申しますが、先づ此の第一着手としては、其の妨げをなすものを除かねばならぬ。一つになつて居る処の精神状態を、分離して引き分けると云ふことにせねばならぬ。其の状態に導くには、ど一云ふ仕方に導けばよいかと云ふと、凡そ三種程あります。

- (1) 生理的方法
- (2) 心理的方法
- (3) 生理及び心理を兼ねたる方法

先づ生理的方法から言へば、生理上の働きの鈍くして、少しく脳貧血の状態とする。夫れは動脈を抑へて、血が頭に上らないよ一にするとか、又は湯に入って足の方に送るとか、マッサージ療法に由つて血を他の方に導くとか云ふ仕方もあります。

夫れから心理的方法としては、或る一点に光りを集めて、夫れを見つめさせると意識を失ふて来るとか、又は哲学問題などの六かしいことを考へさせると、其処にDissociationを起すと云ふこともあります。又按摩をすると揉まれて居るうちに心持ちがよくなつて、其の間に睡たくなつて来ると云ふこともあります。

之れで先づ、催眠と云ふ状態、及び夫れに導く仕方を一す申したのであります。夫れだけではいけないのである。そ

して人からして貰ふことも、自分で行ふことも出来るのである。殊に誰れにもある処の、頑固なる精神的の病氣などを治す、其の他の病氣も、此の催眠術に由って治すことも沢山あるのであります。我々の性癖にはよいものもあるけれども、悪いものも沢山ある。此の悪いものは、どーしても治さねばなりません。及び宗教上で言ふ信仰と云ふよーな、強大なる精神力を養はねばならぬ時がありますならば、そー云ふ場合には如何なる暗示を与へるか、如何なる方法を以てするかと云ふことをも、説き明かしをせねばなりません、私は時を省く為めに、第三の自覚と云ふことに移ります。

[自覚]

第三、自覚＝意識

此の意識即ち自覚と、Subconsciousness 即ち潜在意識と、違ふ処の要点を、凡そ四つ程に分けてお話ししたならば、其の区別と関係、並びに両方面のあることが、我々の人格にとって、人生に於て、非常に大切なことがおわかりになるのでありましょー。これは大層深い問題でありますから、只一樣の説明では、おわかりになることが六かしいでありましょーが、私は只要点だけを申しておきまして、猶ほ之れを銘々で研究なさることが最も有益であろーと考へます。

次に此の意識、自覚と云ふことが人生に取って非常に大切なものと云ふことは、之れは自明の真理であつて、誰れも異存のないことであるから、こゝに委しく説き明かしをする必要はあるまいと思ひます。故に Consciousness と Subconsciousness との差を申すならば、其の価値は自ら明らかになるであろーと考へられる。

[暗示]

そこで我々が新活動を起こすには、必ず暗示を受けると云ふことがいるのであります。

其の暗示と云ふことの意味がわかつたのでしょーか。英語で言ふ所の暗示と云ふ字なり、意味なり、其の職分のわかつて居る人は……

刺激と衝動との意味のわかつて居る人は……

[昔の教育]

皆さん、昔の教育は耳で聞くことであり、又本を読むことであった。けれども夫れだけではだめであつて、目を以て観察をし、耳で以て聞くことと云ふことをしなければならぬ。夫れだけではまだいけないので、次には頭で考へたことは手を動かして、筋肉の活動の上に顕さねばならぬと云ふことはおわかりになつたのでありましょー。夫れには刺激が必要である。

[刺激]

此の宇宙は皆、刺激である。我々は衝動を起して、夫れに反応して行かねばならぬ。衝動は主に五官から来るのであるけれども、此の暗示と云ふものは何から来るかと云ふと、無論五官を通して来ることもあるけれども、我々の脳の中に何かの觀念を起して、旧觀念を去つて新しい活動を起こし、之れが新経験を起こすのである。

夫れで、我々の人格を実現すると云ふことは何か。此の社会的精神界に受ける処の暗示に由つて、何かの活動を起こして来る。之れが活動であり、人格であります。故に我々の人

格、行為は此の暗示を受けて、如何に活動するか、如何に行ふするかと云ふことに由つて、きまるのであります。催眠は強大なる力を加へるものである。之れは自分の批評であり、選択であると言つてもよいのである。

そこで私共は此の社会に生存して居り、此の精神的境遇に生活して居る以上は、毎日毎日無数の暗示に接すると同時に、又之れに反応して行かねばならぬ。そこで意識の働きの大切なこと、又意識の働きの特徴は是非、善悪、之れが有益であるか有害であるかと云ふことを弁別することが、最も大切であります。故に我々自ら選択して、最も高尚なる暗示を受けると云ふことである。そこで我々のよくなると云ふことは、自覚のふえることでもあります。故に自覚は批評、選択の力と言つても宜しいのです。

第二の特徴は活動、或は運動。即ち我々が選択した処の暗示に反応する処の活動、運動である。之れは本能的にも必ず運動と云ふものがあるけれども、其の意識的と云ふことは、第一に運動の正確と云ふことである。即ち我々の行為が四圍の境遇に、即ち真理に順応するよーにし、又四圍の境遇を自分の選択した処の暗示又は理想に類化する。人間の発明して器械を改造すると云ふよーなことは、皆目的に叶ふ処の正確なる運動を定める所の力が、即ち自覚であります。

第二、吾人の行為、運動を益々複雑ならしむること、即ち種類を増加すると云ふことが此の意識の働きである。

第三が目的。目的を確立する、理想を描くと云ふことが自覚の特徴であり、又自覚を盛んにする処の本能的、又衝動的の働きは必ず一種の目的を成就しつゝある処の働きであるが、宇宙の目的は進化にあるけれども、其の跡形を見れば実に遅々たるものであります。

併し此の自覚の目的、理想を描いて、其の目的に叶ふよーに生活し、活動して行くと云ふことは、非常に進歩、發達を為さしめ、社会万般の關係を考へて、人類を統一する所の働きが出来るのであります。此の催眠術の場合に起る処の精神活動は、必ず一方に偏するのである。又各自が選択致しました専門にしても、わるくすると一方に偏し、狹隘になる恐れがあります。

然るに、此の自覚が出来ましたならば、社会を自覚し宇宙を自覚したならば、茲に初めて目的も立ち、己を忘れて他の為めにして、精神活動を健全にし又益々其の實力を増進すると云ふ結果を来すのである。

第四、自覚の特徴は改善力である。凡ての生物は改善の目的に叶ふて居るのであります。進化の目的に向つて居るのである。其の法則に支配せられて居るのであります。けれども之れは前に言つたよーに、甚だ遅々たるもので、又甚だ単調である。然るに自覚は之れを複雑にし、又種々の変化を起こして、改善の目的を早めて行つて、一番高尚なる人間を拵へる所の働きを取ることが出来る。又同時に斯くの如き働きは我々の人格を高尚にし、自我實現を高めるものである。例へば我々の日常生活に習慣となつて居るものは自覚がない。たとへば衣服を着かへるとか、其処らを散歩するとか云ふよーなことは、既に習慣となり本能となつて居るのは、繰り返し

繰り返して変化がない。我國婦人に自覚のないのは、昔からの習慣、風俗を脱することの出来ないと云ふことが、主なる原因でありませう。

併し維新の際の如き変動があつて、大名は悉く 天皇陛下に封録を奉還する、士は魂として居た佩刀を廃すると云ふよな事、之れ等は皆自覚である、改善である。

伊藤公が何故に斯く活動したか、斯く進んだかと言へば、あの人は自覚の人である。自覚の盛んな人程、活動が激しいのであります。我々は之れ迄にない処の変化を来して、新しい活動を起こして、新しい行為をする時は、一番変化の激しい、一番の旺盛な時であります。我々は長い間の習慣に由つて繰り返して居ることが多い。併し人間の向上心と云ふものは、之れで満足することは出来ない。こゝに大なる変化が起つたならば其の活動は益々激しくなつて、新しい力を生ずるのである。

全人格をかへ、全社会を改善し、そして宇宙の目的を達して行くには、ど一しても我々が自覚しなければならぬ。之れが自覚の意義で、之れは進歩発達するに大切なものであります。それで私が、Subconsciousness と Consciousness とが一致しなければ完全なる働きをすることは出来ない、と申す所以であります。

[中表紙]

運動会の批評会に於ける御話
明治四十二年十一月二十日

明治四十二年十一月二十日
運動会の批評会にて

只今、塩井及び松浦両教授から、いろいろ御批評がりましたが、大体に於ては私も同感であり、又御提出になりました案についても大体は賛成であります、之は確かに研究すべきことでありませう。

[或る新聞に評して云ふ]

只今あなた方自らの見る処、又委員から御報告になつた事に由れば、大体に於ては満足する処でありませう。殊に今お話のありました通り、精神の方、之は或る新聞には、幼稚園、小学校は無邪気であり、高等女学校は敏活であり、大学部は活発で確実であつた、と書いてありました。多分其の通りでありませう。本年の運動会に於て、斯くの如き結果を挙げる事の出来たのも、いろいろ教師達の御指導を得、且つ皆さん各自の日頃の自奮自修の結果であらうと考へます。殊によく現はれたのは、今委員からも報告になりました、各係の分業を銘々忠実に分担なさつて、一心同体の如くによく連絡をつけて、余程気をつけねばわからぬ様に運用してお働きになつたのは、是はよく出来たと云ふ賛辞を禁ずることは出来ない。併し今、松浦教授の仰つた様な欠点も沢山ありませう。私はそ一云ふことに氣をつける暇もなく、自分の

目には一向其の事は映じなかつたが、必ずそ一云ふ欠点も残つて居つたらと思ふ。

[欠点のありし理由]

其の理由には種々ありませうが、要するに統一の出来て居ないこと、訓練の足りなかつた故もある。其の他いろいろの原因もありませうが、一つは、是だけの人数で背負ふには少し重過ぎる荷物を背負ふたと云ふことである。平年は運動会のみを一日する所を、今年は運動会に加ふるに教育展覧会、又永く置く為に参考館と云ふものを作り、且つ通俗講演会と云ふものを開いて、三通りにも四通りにも使ふて非常に仕事が多かつたのである。夫れで案内の人数が足りなかつたとか、あれ丈けの仕事するには手が足りなかつたとか、又銘々が全体の関係について、はつきりと心得てすることが出来なかつたとか云ふのは、已むを得ぬことであつた。之は、平年よりも仕事が多かつたと云ふことが、一つの理由であつたかと思ふ。

[団体的精神の修養の足らざりし事]

夫れから、いろいろ衝突も起りかけたよ一であると云ふことがありましたが、之は銘々非常に熱心に働いて自分の考へを行はうとする時には、余程の修養をつまねばならぬことである。夫れは、本校で言ふ団体的精神、其の修養が充分積まれて居らぬと云ふこともある。又一方には、各自が Best を尽そ一と云ふことで、皆熱心になつた故であらうと考へる。此の統一の不充分と云ふことも、大に研究して改良せねばなりません。

[一致協同の如何に大切なるか]

又組織も猶一層完全に組み立てる、係もよく連絡をつけて、充分各自の適性を発揮することが、必要であると思ふ。兎も角も、銘々が出来るだけの力を尽して、一致協同して是だけのことを婦人の力で成し遂げる事の出来たと云ふのは、誠に満足すべきであります。

之に由つて、皆さんには大なる目的の為に銘々の特徴を発揮して、一致協同することの如何に大切なるものであるか、如何に之が銘々の為に有益なるものであるかと云ふことを、お心づきになつたと云ふことであるが、私もそ一感じたのであります。多くの人が観察し、多くの人が力を集めるから、是れ程のことが出来たのである。彼処に是れだけの物を拵へたならば、我々の日常して居ることを如何に多くの人に示すことが出来たであらうか。殊に此の複雑なる関係を表した者を銘々がよく考へて見るならば、銘々の為に誠に有益である。故に之は大に進歩したものであると思ふ。夫れからあなた方の発表によれば、今度の事は銘々が自覚を以て意識したものであるけれども、猶無意識の中にしたことがあると云ふこと、之は大切なことであります。自覚、意識すると云ふことは必要であるけれども、あなた方の深い関係、世界を動かす様な精神力の源には、大なる感動、即ち Inspiration と云ふべきものを受けることが大切である。此の一大感動は何に由つて受けるかと云ふと、やはり一致協同の結果である。多くの人の力、多くの人の調和によって、不知不識の間にわからず感化を受けることである。独り此の働いた者のみなら

ず、千人近い多くの客が此の校に来ることに由つて、我々と同じく此の感動を受けるのであります。今年は半日であったが、多くの人が此の偏鄙な処に出かけて来る。電車の箱は幾ら増しても足りないと言ふ様なことは、昨年の印象に由つて、今年斯の如くよつて来るのである。此の感動が互に交換せられ、おし移つて行つて、大なる感動となり、終に社会を動かすこととなる。故に私は、今年の運動会も確に一種の感化のあつたことは私の喜ぶ処であるのみならず、皆さん銘々が是について自覚なされたことは、誠に必要なことであります。

夫れから今年は、実に時世の要求からして、斯くの如く複雑に且つ重なりあふたことをする様になりました。之を分けると、三度お客をしなければならぬ。之を三度にすれば、或る方面から言へば成功であろ一けれども、一方には時と力とを非常に費さねばならぬ。故に今年は之を凝集したのであります。未だ細かく批評すれば、来年からはど一すればよいかと云ふことは余程研究しなければなりませんまいが、今年は事情止むを得ざる為に、かうなつたのであります。之に就いていろいろ研究すべき問題もありますが、今日は夫れを委しく申す暇がない。おもなるものゝ其の一つは、こ一云ふ働きをすることは勉強の妨げにならないかと云ふことである。之は反対であつて、確かに有益であるが、一方に偏しない様にせねばならぬ。深き考へを以て、よく勉強する人にして、始めて最も多くの働きが成し遂げらるゝのである。

[実務の中、最も六かしきは経済なり]

運動会は遊戯であるが、最も困難なことは実務である。実務の中で最も六かしいものは経済である。我が国の経済に係りを持つて居る識者の間には、未だ此の経済界はなほらないと云ふ見込みである。昔は米を以て凡ての税を納めて居つたけれども、今日はそ一ではない。我が国では今百姓に非常に重い税を課して居るのである。そ一して今年には豊作であるに拘らず米価は下落し、猶外國の米を輸入せねばならぬと云ふ有様であります。斯くの如き困難なる場合であるから、女と雖も経済の考へを以て、出来るだけのことをして働かねばならぬ。働くこととは裁縫をする、料理をする、何か技術を学ぶと共に、幾らか生産的の事をせねばならぬ。あなた方は働く、稼ぐと云ふことはお出来になるけれども、経済と云ふことが六かしい。此間、此の校へきましたツイングと云ふ人が、東洋の教育と云ふ書物を書いて、東洋、殊に支那、朝鮮人は経済思想に乏しく、働かないからだめである。斯の如き有様で改めないならば滅亡するより外はない、と申して居ります。

我が国の人々が汗水を出して働くことが、どれだけ結果をあげるのか。西洋の人が一時間働いて十の物を拵へる間に、此方の方は一つの物しか、よ一拵へない。こ一云ふ調子で総てのことをして居るのであるから、我が国の方は大に目をさまして、有効な仕事をする事が出来る様にならねばならぬ。夫れは教育によるのである。知力の問題であります。然らば之を如何にすべきかと言へば、是非國民の母親から仕なければならぬと云ふことは、皆さんのよくわかつて居るこ

とであります。之をするには、ど一しても組合組織などによつて始めなければならぬ。此の秋は是非、之を始めたいものであると考へますが、未だにいろんな方面からの研究を要する為に、延び延びになつて居ります。故に是非、今年の中に着手なさることが必要であります。

之からは文明が進む程、事が多くなる。我々の仕事は益々複雑になる。けれども此の仕事に堪へ得る処の國民となり、其の力を養はねば、我が国は保たれない。皆さんの幸福は期せられないのである。之をするにも、皆さんが此の秋多くの客をしたこと、参考館を作つた手際を見ても、一致協同するならば出来ないことはない、必ず成し得らるゝことと考へるのであります。

[中表紙]

正会員修養会に於ける御話

明治四十二年十二月八日

明治四十二年十二月八日

正会員修養会に於て

今日も全体に、私自身の信ずる所を述べました様に、自分は独りになつても少しも失望しない。斃るゝ迄貫くと云ふ考へでありますから、自分の為には少しも心配しないつもりである。併し、も一今年も終りに近いから、学校の為には心配になりまして、昨夜も代表者を呼びまして、いろいろ聞きましたが、其の処に少しも油断はないけれども、ど一も私の思ふ程反響の起らないのを見ると、今年も亦こ一云ふ調子で暮れるかと、物足りない様な感じがすると申しましたれば、皆深く考へて参りまして、今朝はいろいろ報告して参つた様であります。

私はあなた方校内のお方と心を合せ、力を協せて、ど一か一つのかたまりとなりたい、何処かに一つの力を見出だしたいと云ふことは、実に早天に雲霧を望むが如くに、日夜待ち続けて居ります。ど一か此の寒さにも勝ち、世間の反抗にも勝つて、卒業後、力を失はない、我れにも世にも勝つて進むと云ふことは、之は容易なことではありません。此の間も申した様に、二つの条件が備はらねば時かぬ種は生へぬと言ふ通り、只祈願をかけた所で現はれるものではないけれども、ど一しても私共が待ち望むものが発生しなければならぬ。之は私の為ではなく、同胞の為に渴望するのである。此の共同すると云ふ空気を作らねばならぬ。皆さんが銘々勉強すると云ふことも大切である。之を奨励することは前から申す通りであるけれども、ほんと一に精神的に一致する、心から協同する、其の仲間に入る、其の為に祈ると云ふ態度にならねば、幾ら氣を揉んでも出来るものではない。

[協同一致]

夫れで私は、ほんと一に皆さんが夫れを感じて、協同一致する様になることを日夜祈るのであります。昨夜もあなた方

は論文を書かねばならぬ。又日英博覧会のことに就いて、英文科の人などは殆んど一週間も徹夜の有様である。誠に忙しい。夫れで結構であるけれども、忙しければ修養を怠ってよいかと云ふと、そ一ではない。忙しければ忙しいほど我々は修養をしなければならぬ。其の困難に勝って力を渴望すればする程、力は生れて来るのである。此の第二維新とか、婦人の覚醒とか、誠に六かしい事を成就する処の一致が出来なければ、何時之が出来るかです。又私共が今此の力を作らねば、何処に現れるかです。私共は何処かに其の発光力が現はれねばならぬ。其の力が何処に現はれるかと言へば、あなた方銘々が自分に深く感動して此に力が顕れねば、顕れ様はないのである。先づ校内、卒業生凡ての者の先導者であるあなた方の間から発生しなければ、何処に待っても私は空望であると考えます。

〔我国婦人の欠点〕

形式も大切である。内容を充たす事も必要である。けれども夫れよりも猶大切な事が一つ足りない。ど一しても我が国婦人に欠けて居る処がある。私は多くは望まない。銘々持って居るだけのものでよい。ど一か一つ私と協同して下さって、ど一かも一つ力を出したならば、も一つ決心をしたならば、出来能はぬことではないであらう。三年生もそ一云ふ有様に居り、十二日には通信教育会員を呼んで居り、又引き続き卒業生と会するのでありますが、ど一か今年の中に、是れだけ待ち望んで居る処の熱望を充たし得る様に、銘々も一一層深き反省と全体に対する同情を燃やす様に、又互に燃やしあひ、助けあふ様に皆さんが考へて下さって、ど一か今年の中に一つの欠点を満たすことが出来ないであらうかと、私は希望するのであります。銘々の内に私共は、今日言ふた Self-suggestion を与へて貰ひたい。

〔感化力〕

会員銘々の中に一つの潮流が出来たならば、少々其の中に油断をする人が出来ても、其の生命を支へて行く事が出来ませんが、其の大きな泉源を開いて、一つの大きな流れを作る迄は、余程骨を折らねばならぬと思ふ。多分、皆さん其の信仰もあるであらう、おわかりになるであらうと考へますが、ど一しても一つの感化力がある様にならねば、只おもちゃの様にせられて居っては、だめである。西洋あたりでも、私は始終観察して居りましたが、いろいろわるい暗示もある代りに、善い方の感化力を作る事も非常に骨を折って居ります。夫れあるが為に、向ふの社会は生きて居るのである。彼方では主に宗教に由って居りますが、其の為に家庭も社会もよくなつて行くのであります。我が国でも、ど一しても此の社会で婦人を高めると云ふことが出来ねば、何年経ても同じ事を繰り返して居なければなるまいと思ひます。夫れで私が、此の終りに皆さんに望む事は其の処であります。是は到底詞を以て言ひ尽すことは出来ぬが、私がど一云ふ事を言つて居るかと思ふことは、多分皆さんお察しがつくと思ひます。三年生にしても、皆から一つ力を起して行かねば出来ぬと思ふ。今年はど一も、社会一般に冷たいのであります。一体、世の中が不景気である為に動かないのであるが、今年をよくしなけ

ればだめである。来年の事は今年の大勢に由つてきまるのでありますから、二十五日迄は主に大学部の大勢を作る事に協同して貰ひたいと考へます。孰れ二十五日がすみました上で皆さんと御相談を致しまして、二、三日会をして、年内に何とか一つ纏まりをつけたいものと思ひます。

〔中表紙〕

通信教育会々員招待会に於ける御話
明治四十二年十二月十二日

明治四十二年十二月十二日
通信教育会員招待会に於て

今日は年末でお忙しい時、殊に日曜日に当りまして、おはづしにくい折にも拘らず態々此校において下さいましたのは、誠に喜ばしい事であります。通信教育会員の方は約五十名計り。其の外は校内及び校外の正会員、合せて百名に足らない様であります。講義録の購読者は、東京市では外に六百名、内に三百名、合せて九百名ばかりあると思ひますが、今日は1/10程の会員がお出でになつた様で、之が通信教育会員皆様とお目にかかる始めであります。先日、京坂神で支部会を開きましたが、大坂では三百五十名、其の中で百名計り会しました。神戸でも九十名の中、三十名計り会しました。凡そ1/3。京都でもそ一云ふ有様でありました。実は先月にも此の会を開きたいと考へましたが、私が京坂地方へ参りました為に延引致しました。併し斯くおいて下さつたことは、会員一同の喜びとする所御座ります。今日は始めての事でありますから、お互に御紹介を致したいと存じます。

実は此の前の運動会、及び講演会を開きました時に、一寸皆さんに御目にかゝりたいと考へましたが、御承知の通り当日は大層雑踏致しましたから、其の時を得ませんで、今日おいでを願ひましたので御座りますが、今日も年末で皆さんお揃ひになることが出来ませんから、孰れ又其の内、日を選びまして、いろいろお話を伺ひたいと考へます。我が国が女子教育を試み、其の方針を研究し始めましてから、年を経ること凡そ三十七年になるかと思ひます。此の三十七年の経験を考へて見ることは、今後我国の女子教育の方針をきめる為めに、非常に大切な事であらうと思ひます。殊に私は明治八、九年頃から殆んど三十年以来、日夜此の問題について考へて居ることでありまして、其の間の変遷、進歩、発達と云ふことは非常に興味あることであり、又今日我々の目的をきめるために最も有力な材料となつて居るのであります。之を簡短に述べたならば、今日の女子教育の現状がよく皆さんに感ぜらるることであらうと思ひます。併し之を詳しく又深く考へる程にお話をする時間を持つて居りませんので、其の内容に就いては皆さんの想像に任せておくより外に仕方がないと思ふ。併し我が国の女子教育は如何なる変遷をして進んだのであるか、及び今日の女子教育の現状、及び婦人界の発展の程

度が何処迄進んで居るか云ふことは、凡そ皆さんに見当がつくと思ひます。確に外面だけを見ましても、我国の女子教育が此の三十七年間に長足の進歩をしたと云ふことは誰れも疑はぬことである。

[十年間に於ける女子教育の発達]

殊に此の十年間、我国の女子教育が、今日の世論の認めて居る中等程度の教育、即ち高等女学校教育の普及と云ふことは、非常に発達したのである。丁度、此の女子大学創立の事を企てる曉に、我国の女子教育は高等女学校程度のももの猶高しとせらるるので、其の頃全国に高等女学校の数は十二、三に過ぎなかつたのであるが、十年間に百六十以上となりました。夫れと同時に数千の女学生が急に数万の大数に上つたので、今日では先づ女子が主婦となるのには高等女学校程度の教育は受けねばならぬと云ふことになり、私共が訪問致しまする家庭、即ち今日二、三人の子供を持って居らるる奥さん方は、多くは高等女学校の卒業生であると云ふことになって参りました。のみならず、我が国の女子の結婚の時機も段々遅くなって参り、男子の家を成す迄の教育も段々延長せられました結果、女子教育は高等女学校だけでは不充分であると云ふことは、一部に認めらるる様になりました。今から三、四年前には本校の如きも、殆んど志望者の望みを容れることが出来ないと云ふ程に希望者の数が殖えて、一時は大学部に属する数が八百、九百と云ふ風に高まりまして、非常なる勢でありました。此の三、四年以来、殊に昨年から経済界の不振が影響して、前の如き女子の向上心を見ることが出来ませんけれども、此の四月に開きました通信教育会の講義録によりまして、女子の高等教育の普及を計ることとなりまして、ど一云ふ結果が現はれたかと云ふと、第一期の入会員は殆んど四千に達しました。夫れに由つても、女子の向上心はやはり続いて居るのである。以前の盛況は、只だ好奇心に駆られて一時の流行に過ぎないものではないと、私は信じて居ります。

[女子教育の過去及び現在]

そ一云ふ我が国の過去と及び現在とに徴しまして、女子教育を外面から見ますれば、統計の報ずる処によれば、確に我が国の女子教育は非常なる勢で進みつゝある。女子の高等教育もいろいろの方面から進みつゝあると言っても誤りはあるまいと考へます。

然し果して、学校教育に現れた如き勢ひ、及び学校に居る時の元気を以て、果して卒業後、今日の高等女学校を卒業して家を持たれて居る家庭の上に、子供の教育の上にも、家事経済の上にも、即ち女子の日常生活の上にも、其の女子教育は結果を現はして居ると言はれるであらうか。其の卒業生自らが、自分は真に教育を受けたものである。真に自分の修養は満足に出来つゝあるか。自分の婦人としての力はほんと一に現れ、其の徳は發揮しつゝあるか。即ち自分の内の精神的生命は満足に出来て居り、又希望の如き歩を進めつゝあると云ふ自覚が出来たものであるか、否や。ほんと一に我が国婦人が婦人の価値を現しつゝあるか否や、と云ふ深い問題になりますと、茲にいろいろな疑問が起らざるを得ない。私は此の

問題を考へるに當つて、決して独断的に論ずるのではありません。又酷評を下すことをも好まない。殊に自分は若い時から始終女子の友となり、女子の世界を開きたいと云ふ確信を懐いて居りますから、女子の世界には最も深い同情を抱いて居るものであるから、決して悪意を以て、又輕蔑の念を以て、独断的に消極的判断を下すと云ふ考へは決してないつもりであります。只私は真に我が国女子教育の前途を心配致しまして、明治三十年以来教育を受けられた其の御婦人の境遇、及び其の家庭の状態を考へまして、同情に堪へぬ所があり、又非常に私が御婦人に対して望みを嘱して居る事があります。御婦人に対して一理想を懐いて日夜渴望して居る所があるので、其の極深い同情から致して私は、二、三年前から憂慮に堪へんことがあるのです。又今ど一か其の困難に戦ふて、ど一か将来我が国女子の為に進歩の道を開きたいと考へて居ります。そ一云ふ態度からして、我が国御婦人がも一つ進まれない原因は何であらうか、及び夫れを如何にしたらよからうか、並びに其の原因について、いろいろ研究して居る事柄があります。之を皆さんに訴へて、ど一か私と共に其の問題を研究して、女子教育の為に一つの結果を来したいと考へるからであります。

私は長く外国に居りまして、世界の女子教育の効果を研究して居りましたが、帰朝後は此の女子大学創立の事に奔走して居りまして、殆んど三十年来の女子教育の結果を調べて見る暇がありませんでした。只だ、高等女学校程度の学校卒業生に就いて観察して居つたのであります。処が漸くにして、大学教育を受けた処の卒業生の結果を幾らか見ることが出来、又此の三年前に三十五年ぶりに郷里に帰つて、田舎の生活、殊に高等女学校を卒業した処の卒業生の家庭を訪問し、男子の師範学校とか、中学校とか、専門教育を受けた処の男子の職業等を調べて見て、実に我が国の教育は其の教育の効果を奏して居ない、つまり我が国の教育は適切でない、其の方針を誤つて居る処があると云ふことを、深く考へました。

[今日に於ける我国女子教育の結果]

夫れに引き続いて、我が国女子教育の結果について調べて見ました処が、我が国の女子は、学校に居る間は人間として美しい生活を営むことが出来るのであります。卒業して社会に出て、家庭に入るに及んでは全く其の力を失つて、教育ある者の生活を続けることが出来ないと云ふことを感じます。一言で言へば、今日の我が国女子教育の程度では満足することが出来ない。我が国御婦人は夫れだけに止まるべきものではない。極露骨に言へば、私は他人と云ふことをすてゝ真面目に我が事として、我が娘の事として考へますならば、決して茲に安んずる事は出来ないのである。是で婦人の徳が發揮した、婦人の人格が建設せられたと云ふことは、充分自信を以て証言することが出来ないと思ひます。露骨に言へば、私は未だ我国の女子に対して満足が出来ない。卒業生の女徳、卒業生の人格について、満足が出来ないと申すのである。之は外から申すのではない。御婦人御自身にも、確に満足が出来ないであらう。是で宜しいかど一かと云ふ感じがなざるであらうと信じます。之は只私が独断で申すのではない。深い

訳がありますが、其の訳を申すことは今日の目的ではない。又夫れについて、深く反省なさることを促す為でもない。[今後如何にして我国の発展を計るべきか]

つまり、私が今日皆さんに申すことは、積極的にどーして我が国の婦人を進めることが出来るか、如何にして我が国婦人の徳を進むることが出来るか、どーして今後我国の発展を計るべきかと云ふことであります。

私は我国の女子教育が何故に表面に現れた程に、学校教育に於て現れた程に、女子の性行に女子の徳に現れることが出来なかったか、何故に其の教育が女子の人格に真の力を与へることが出来なかったかと申すと、いろいろな訳がある。又其の救済策もあるのであるけれども、其のいろいろな原因、其の又奥の原因について、私はいろいろ研究しつゝあるのであります。

其の根本について皆様がお気づきになる、猶其の根本をなして居る根を養ふことの大切なる点についてお考へになることを希望致します。私は我が国の女子教育が、も一つ有効に出来なかった、も一つ発展して其の根本の力を現はす事が出来なかったと云ふ事に就いて、先日来いろいろ考へて見ましたが、之には二つの、今迄気づかなかった処の本があると考へます。

[卒業生に対する家庭並びに社会の態度、及び女子の性情]

先づ私は、一方には女子の卒業生の家庭及び社会の女子に対する態度、即ち女子の境遇に就いて観察して居りますが、又一方には女子の心理、即ち女子の性情について研究して居ります。此の二方面について、三十年来考へて居ります。其の研究の結果と致し、及び自分の三十年来の経験から總めて見まして、今言ふ様に私は、其の根本の原因に二つある。其の二つの原因を研究し、其の二つの原因を改善すると云ふことに手を着けねば、此の以上に発展することは出来ないと思ふのであります。

[二方面に於ける二原因]

其の一つの原因とは、内にあるもので、我が国御婦人の銘々の内にある原因であり、第二の原因とは、自分の外にある原因であります。之を研究するにはいろいろありますが、先づ第一着に我々が研究しなければならぬことは、銘々の心理状態、自分の精神の内にあるのです。是迄女子の心理を研究すると云ふことはど一致したかと云ふと、女子の後天的に、即ち自分で意識する処の経験を調べ、其の経験に重きをおいたのである。女子の活動、女子の知識、女子の徳と云ふものは何処に骨を折ったかと云ふと、自分の目に見え、人の目に見える処の、即ち意識の境に現れる処の活動範囲であります。御行儀を直すとか、詞に気をつけるとか、手で物を拵へるとか、我々の目に見える処に注意して、夫れを直すことを教育と思つて居つたのである。又心理学と言へば、意識の範囲に現れた所の現象である。之が之迄の心理学であります。

我々の自我と云ふものは、自分で考へ、自分で感ずる所の経験である。教育と云ふものは、其の意識を広げる、其の意識を強める、其の意識の連合関係を複雑にすることと考へて居つたのである。処が段々世界の交通機関が発達し、人類の

知識が交換せらるゝ様になり、学問が唯物論的から唯心論的に進むに従ひ、多くの学問の協同の働きにより、各学問の比較研究の結果が段々現れて来るに従ふて、人間の心、精神と云ふものは決して、意識に顕るゝ処の活動、意識に現るゝ処の傾き、意識に現はるゝ処の働きには止まらない。

[教育とは一時的の現象のものに非ず、猶其の上には一種測るべからざる奥義あり]

之等は一時的の現象に過ぎないので、猶其の上に、一種測る可らざる深い奥底のあるものであると云ふことがわかつて参つたのであります。夫れで是迄の心理学、是迄の教育学に見ない処の、も一つ深い原因があると云ふことが見出されたのであります。私は此の新しい考へをとつて、之を我が国女子教育経験に應用致して見まして、茲に大に見出だす処がある様に感じます。然らば其のも一つ深い源と云ふのは何であるかと云ふと、我々の品性、我々の天才と云ふものは、決して只我々が生れてから後出来たものゝみではない。又我々の欠点と云ふ様なものも、決して只我々自分の欠点、自分の過ちと言ふべきものではない。夫れで我々婦人の弱点である処の五病と云ふ様なものも、決して之は自分一身で出来たものではない。故に其の本を治療しなければならぬと思ふ。[知識、品性、行ひに就きて]

然らば、今日我々の意識に上る知識、品性、行ひと云ふものは何であるかと申すならば、之は丁度此の室を照らす明かりが、其の本は太陽により、夜中室に燈す処の電光は必ず其の電流の本があつて、其の処に現れる光りや熱は其の本から来て居る一時の現れに過ぎない様に、我々の今日持つて居る意識は、猶其の本に於て測り知る可からざる深いものがあると思ふ。之は私が内の会員に先日から説いて居りますので、之は後に冊子にでもなりますでしよーから、お望みのお方には分つことが出来よーと考へます。

之は、我々の中に深く隠れて居るものがあるのである。之は皆さんが此の頃の心理学をお読みになるならば、必ずおわかりになるであらうと思ひます。之を術語で言へば、Subconsciousness と申します。之についても我が国には丁度よい訳語がありませんから、原語で覚えておく方が便利であらうと思ひます。

[我々の品性及び性情につきて]

我々の今日の品性、今日の性情と云ふものは、決して自分で拵へたものではない。之を昔は遺伝とか、本能とか天賦の性とか云ふ詞を使って、漠然とさして居りました。けれども今日は我々の傾き、我々の行ひ、我々の品性と云ふ様なものは自分で拵へたかの様に思ふて居るけれども、実は自分の親の生れぬ先きの親、つまり人類の経験の協同から出来たものである。西洋でSelf-made man と云ふことを申しますが、之は実際あることである。又人間の価値と云ふものは、Self-direction 或は Self-determine、自分で自立すると云ふ様な事。之は決して間違ひではないが、何が夫れを選ばしむるか、如何なる困難があつても何故に夫れを執つて屈しないかと云ふと、其の土台は、決して自分一人から出て居るのではない。昔は之を天と言ひ、Kant は Practical reason と申

しました。

[Subconsciousness]

今日の詞で言へば本能とか、理性とか、傾きとか云ふものは、其の本は長い間かゝって、否、人類的協同に由って、夫れが意識に上って来る様になつたのである。夫れであるから、我々の経験と云ふ中には只自分のものではない、我々が知らない所の数万人に由って出来たものがある。之を称して Subconsciousness と云ふ。又わるい方から言へば、ど一も婦人が立ちにくい、志を貫くことが六かしいと言ふが、之も決して一人で出来たものではなく、昔々人類の先祖から教へられたものであります。故に之は、今日女子を進めるとか、改善するとか言つても、只意識に上つたもの計り、形に現れたものばかりに氣をつけてもいかぬ。其の本から養はんければならぬ。其の本に持っていて、多くの充分なる材料を注ぎ込まねばならぬと云ふことを、申したのであります。

[目的論]

然らば女子教育は、其の Subconsciousness、即ち深い処の本に遡つて品性修養、人格改善計りをすればよいかと云ふと、夫れだけではいけない。も一つ深いものがある。夫れを申したいのが、私の今日の目的であります。之はど一云ふことを申すかと云ふと、決して別のものではない。同じものを二つの方面から申すのであって、一方を主観的と言へば、一方を客観的と言はねばならぬ。之は私が講義録にも、其の意を少し洩らしかけたのである。之は私が目的論と云ふことを申しかけたのである。何故に婦人の力が展びないのであるか。或る所迄は進まれるけれども、其の以上に出られぬは何故かと云ふと、つまり客観的方面の目的が立たないからであります。私が今迄申したことは、過去の経験を言ったのである。人格の深い根を申したのであるが、今度はも一つの境遇を申すのである。我々の品性、我々の行ひ、我々の考へと思ふことも、之は決して自分だけのものではない。やはり今、Subconsciousness の方に少し申しかけた様に、人と人との一致協同の働きに由って出来たものであります。

是迄、修養をすると云ふこと、又は學問をすると云ふことは、自分の勉めにより、自分の考へに由って出来るものであると考へて居りました。夫れで、山へでも入つて座禪を組むとか、天地の神に祈りをするとか、全く世間を離れて身を神聖に保つたならば出来ると思つて居つたのであります。所が今日の心理学では、我々の心理と云ふものは我々の考へ、我々の行ひ、我々の信仰と云ふものは、決して自分だけでは出来ないものである。今迄は自分たちで出来るものと思つて居つたが、若しも我々人間を人生からひき離して孤立の境遇に置いたならば、品性も修養も成り立たないものであると云ふことになりました。つまり之迄は、極單純なる觀念が出来て、夫れが段々複雑なる觀念となると云ふ考へでありました。

[Bacon]

Bacon の如きも、人心は白紙の如きものであるが、夫れが段々觀念の連合によつて進むものである、と考へて居りました。又教育は銘々の心をよく教へてさへ行けば夫れでよい、と考へて居つたのであるが、今日はそ一でない。我々の品性、

我々の力は、人と協同することによつて、所謂社会と云ふものの中で人の心と自分の心と關係を持つ様になつて、始めて發達するものである。非常なる天才となるべき人でも、若し之に孤独生活をさせたならば、低能児と選ぶ事はないと云ふことを見出したのであります。

[ヘレンケラーの話]

之にはいろいろ適例がありますが、私はアメリカに居りました頃に、直接觀察したことがあります。彼の名高いアメリカのヘレンケラーと云ふ婦人は、生後十八ヶ月にして明を失ひ、其の後間もなく耳も聞こえなくなつて、耳と目と一時に感覺を失ひました。其の上に皮膚の病氣で味感と嗅感とがきかなくなつて、五官の中、四官を失ひ、残る所は唯だ触感のみとなりました。此の人は今二十九才であります。触感に由つて大學教育を受けて後、更に進んで、いろいろの研究を重ね、多くの著述をして居ります。此の娘に由つて書かれた著書は、如何に多くの数に上つて居るか。最近のものが私の所へも来て居りますが、其の他雜誌などにも屢々寄書して居りまして、確に此の人は學者として世界に紹介せらるべき人です。其の先生の話を聞きますに、此のヘレンケラーは七才になつて未だ我れと云ふ考へが出来なかつた。そ一して世界の凡てのものには名があると云ふことも、見出すことが出来なかつたのであります。然るに彼れの先生は或る冷たい朝、水を汲み上げた時、例の觸覺に由つて Water と云ふ名を通じ、其の冷たいものが流れる、寒いと云ふことに由つて、始めて物には名があると云ふことを悟つた時に、其の顔には名状す可らざる喜びの色がさつと面に輝いて、一日の中に數十の名詞を覚えたと云ふことであります。是に由つても、人と交際する、人と考へを通じあふ、人と仲間になることが出来た時に、始めて此のヘレンケラーは我れと云ふ自覺が出来たのであります。独り我々は考へを起すのみならず、其の考へを起す本となる刺激が必要であるが、其の刺激は又社会から受けることが最も多いのである。

[Descartes の詞]

Descartes は何と言ひましたか。I think therefore I am。我れ思ふ、故に我れ在り。其の思ふ、考へると云ふことは、即ち社会的生活を営んで考へを通じ、経験を交換すると云ふ働きである。此の考へることが出来ることに由つて、始めて我れと云ふ考へが出来る。即ち自覺が出来るのである。故に此の考へることなしに自覺の出来るものではない。然るに其の考へると云ふものは、人と關係し、人と思ひあひ、人と助けあふて仲間となることに由つて出来るので、ヘレンケラーに若し斯くの如き恩師がなかつたならば、触感に由つて斯くの如き教育を受けることが出来なかつたならば、只一個の白痴として終つたに相違ない。社会の罪人、低能児と云ふものゝ出来るのは、其の考へを与へないからである。婦人の進みにくいと云ふことは、つまり、其の境遇を与へないからであります。

[協同的生活]

個人の出来るのも、此の団体的、協同的生活を俟つて始めて成長、發達するのである。

然るに我国では、ど一しても境遇が斯くならんのである。又自分から夫れを拒んで作らないと云ふことと、両方の原因から斯うなるのであります。つまり之は今日世界で弱国と言ひ、保護国と言はるゝ様な亡国、譬へば埃及とか印度とか、近くは支那、朝鮮の如き弱国がど一しても国を成す事の出来ないのと、我々人間中で進み得ない者とは、境遇が同一である。之に反して英国とか、米国とか、独逸とか云ふ様な先進国はど一かと云ふと、最も広い境遇に立って、世界的交通を開始して居るのであります。

[交通機関を發達せしむる目的]

近頃最も広い場所を以て、世界を凌駕しよ一とする独逸は、夜々として国力發展を講じて居るにも拘らず、猶ほ英国に及ばない処は、世界の交通機関を得ないことである。故に十年計画として、も一二、三年は過ぎましたが、多くの大船巨艦を造る為に民設官設の夥しい造船所を起し、内国の運河を開いて、交通機関を開くことに腐心して居る。其の目的は何かと言へば、つまり彼は世界の海を支配しよ一として居る。海を支配するものは、実に世界の商売を支配するのである。世界の商売を支配すると云ふことは、とりも直さず海上権を掌握することになるのであります。今日の鉄工場、今日の科学応用は悉く交通機関を發達せしむるためにあり、交通機関の發達は世界文明の本となるのである。何故に世界の強国が此の交通機関の發明に全力を注ぐかと云ふことは、皆さん略ぼわかるであらう。も一つは、昨今の經濟状態の關係であります。今我が国の經濟界を見ますと、内国の凡ての銀行には金が余って居るが、銀行家は夫れを思ふ様に引き回すことが出来ないと云ふことである。農民の方から言へば、今年は珍らしい豊年である。麦迄も豊作であつたに拘らず、夫れを買ふてくれる人がない。工業家は一生懸命に機械や道具を作つたけれども、之れ又買ひ入れる人がないと云ふことである。つまり世界的交通が出来ない、信用がない為に、実業家は必要な金を借ることが出来ず、銀行家は金を貸すことが出来ない。

[文明は社会的交換によつて出来る]

斯様に社会のあらゆる方面が行きなやんで、じつとして交通が出来ない間に、実業は此の為に蹉跌するのである。貨物計り其処らにごろごろして運輸の道が開けぬならば、我が国は亡びるのである。如何となれば、文明と云ふものは社会的交換によつて、即ち交通によつて出来るのである。我が国は昔から儒教、仏教を輸入し、西洋はリナイサンスによつて大なる進歩をなし、我国から西洋へ向つては、仏教とか武士道とか云ふものが渡つて、東西両洋の文明は相接触して、一大發展を成したのであります。

然るに我国の婦人界はど一であるかと云ふと、少しも交通の道が開けないのみならず、婦人の頭は社会的交通を断たれて居る。又此の交通の機関の支配権がない。又婦人と婦人、家庭と家庭との交通が許されてないのであるが、其の本は婦人の交通機関の本が鈍つて居る。只自分だけで感じたり、考へたりする。其の結果、感情的になり、偏頗的になり、人の嫌ふ五病などになる。故に此の交通機関を断つて、そ一して

婦人を進めよ一と云ふことは、不可能であります。

[婦人にも社会的、協同的生活必要なり]

そこで私が皆様に望む処は、御婦人も今後は、社会的共同生活をなさることが必要である。婦人の世界は只台所にある、うちの台所にあると云ふ様に孤立するのは、誠に宜しくないであります。そこで私が第一に皆様にお勧め申したいことは、交通機関を得ること。其の最も大切なる交通機関は何かと言へば、語学、読書である。然るに今日迄の教育が注入的であり、分量的である。あなた方の学校で学んだ知識は、も一古びて居る。故に交通機関によつて新しくすることが大切であります。即ち世界の思想に通じ、自分の考へを外に通ずる処の交通機関を拵へる。其の交通機関を支配する処の力を養ふこと、及び其の交通機関を使ふ処の読書力、思考力、研究力を養ふと云ふことが、目下の急務であります。

独り交通機関は通信教育会の講義録のよ一なものばかりではなく、図書館もいり、御婦人の協同的研究をもやし、御婦人の組合と云ふ様なものもなくてはならぬ。之が出来れば、御婦人の發展は不可能である。故に私は、ど一しても皆様が其の処にお気づきになつて、其の道をお開きになることあります。私が通信教育会員に切に希望致します事は、も一つ我が国の女子を高めることに、も一つ御自分を進める為に一致協同なさることあります。其の考へも、其の経験も、今日迄養ふことが出来なかつた。之が、今日迄進む事の出来なかつた原因であらうと信じます。故にど一か皆様は、婦人と婦人、家庭と家庭、婦人と社会、及び御婦人と宇宙の精神的境遇との交通機関を見出すことに、充分御注目あつて研究をなさることによつて、此の御婦人全体をお進めになることを切望致しますのであります。

[中表紙]

高等女学校修身講話会に於ける御話
明治四十二年十二月十三日

明治四十二年十二月十三日
高等女学校修身講話会に於て

[歳暮に於て]

明治四十二年と云ふ年も最早暮れんとする時に當りまして、殊に此の年の暮は、此の学校が出来まして第九回の歳末である。此の年が明けると、即ち我が母校の第十年目、即ち来学年は十年目の学年を迎へることになる。夫れで此の暮に於て、近くは今年一年の過去の経験を考へ、遠くは過去九年間の歴史を考へて、来らんとする十年目の、即ち明治四十三年を如何に迎ふべきか、明年に於て我々の為すべき責任は何であるかと云ふことを、深く考へて見るが必要であります。

夫れで私は皆さん一同に、此の年の暮に於て、銘々自分の行ひについて深く考へて見ると云ふこと、我が輩として、我が学校として全体の為すべきことに達して居るであらうか、

未だ残って居るであろうかと云ふことを、考へねばならぬと思ふ。

先づ始めに、今年目的として立てられた、又銘々の理想として立てられた考へが、成し遂げられたであろうか、ど一である。之は、此の年の暮の結果として見る事が出来るかと思ひます。此年あなた方のお立てになつた其の目的は、善と知らば行へ。善いと知れたならば、善と考へるならば、必ず力を尽して全力を注いで之を行ふ。其の行ひを全うすると云ふ考へをきめたのである。此の考へが果して実行せられたであろうかど一か、考へて見る事が必要であります。

先づ初めに二つに分けて、全体として、尽した働きは全うすることが出来たであろうか。次には、銘々の行ひとして、深く考へて見る事が大切である。之は銘々に深くお考へになることに致し、私は明年を迎へる希望、決心を聞きたいのである。之は皆さんが深くお考へになって、明治四十三年の元日の書き初めとして、書いてお出しになることを希望しますが、猶其の考へを導く為に、今日あなた方の考へを聞きたいものと思ひます。

次に其の訳は追々と聞いて行きますが、先づ今年した事、お互で協同して力を合せてしたことを考へて見まして、組と致して又学校の全体と致して、此の学年の初めに全体としてきめたことは先づ成し遂げることが出来た。無論其の成したことが完全無欠であると云ふことではないが、大体から考へて、成し遂げたと思ふ方は……

出来ないと考へる者は…… 少数

[協同事業としては]

皆の協同事業として、此の四月から何を致したでありましょか。

日英博覧会出品 秋季運動会 父母招待会
特別教室 参考館 教育展覧会

[日英博覧会出品につきて]

日英博覧会の出品については、何を拵へよ一か、夫れを如何なる方法に由つてしよ一か、其の品を作るには先づ第一に意匠を考へねばならぬ。又日英博覧会に加はると云ふことに就いては如何にすべきかと云ふことを考へて、加はる、すると云ふことを決心しました。そして何か面白いものを拵へると云ふことについて工夫を凝し、其の工夫と考へを纏める為に会をすとか、材料を集めるとか云ふことをして、書とか表に作るとかして教育展覧会を開き、其の結果を批評し、選択して、愈々全校として出品する所のものを作り上げたのである。之を為すについては、高等女学校は出来るだけの善を此の為に尽して、博覧会の出品物を拵へました。其の中には未だ不十分な所はあるが、併し之は我々の出来るだけの力を尽したものであると云ふことが言へるかど一か。夫れが言はるかど一か。夫れが言はるゝならば、之は善である。之は為すべきであると信ずる所を出来るだけの事をしたものであると考へますが、夫れを信ずる事の出来る者は……全体

[運動会に於ては]

次には運動会。之も同じことで、皆が出来るだけの力を尽したと思ふ方は…… 全体

[父母招待会に於て]

父母招待会も、夫れ相当に出来るだけの善を、其の会の為に尽しましたと信じらるゝ方は……

[特別教室に於て]

次には特別教室。之が昨学年の終りから、自動的教育の機関として設けられまして、其の教室の棚に、出来るだけ其の学課に必要な標本、機械などを備へると云ふことは、必要なことでありましょ一。之が、教育参考館を作る処の素地ともなるのである。其の必要に就いては、前に私が申したことがある。故に今日は夫れは申しませんが、其の為に此の学年の始めに、及び夏休みの間に、其の標本ともなるべきものを出来るだけ集めて、之を整へる為に、出来る為に厚意を尽したと言ひ得るものは…… 少数

注意を怠つた者は…… 少数

参考館を運動会の時に拵へたこと、之に就いては出来るだけの事をしたと言ひ得る人は…… 多数

私は今、皆さんが気づいた事だけに就いて聞いて見たのですが、我々は之だけの事は出来るだけ力を尽した、全体と心を合せて同じ目的を立てゝ、善であると思ふたことは出来るだけ実行したと思ふ人は…… 全体

併し猶不十分な所もあるから、今後は猶一層勉めねばならぬと思ふ人は…… 全体

第二に、銘々自分の悪い癖と思ふ事は改めたと言はるゝかど一か。我々は善と思ふ事は致したと思ふ人は、先づ夫れは何でありましょ一か。

勉強することは出来る様になりましたと思ふ人は…… 少数
未だ思ふ様には出来ませんと考へる人は…… 稍多

怠惰と云ふ古い癖が残つて居ると思ふ者は…… 少数

勉強が大切な事であるならば、しなければならぬ。之は善と信じて居る者は…… 全体

夫れが分つて居るのに、何故勉強が出来ないかと云ふと、興味が乗らないのである。運動会と云ふ様なことは興味がある。面白いから、明日は運動会があると云ふ前の晩などは寝られないのである。昔の人は勉強をし過ぎて健康を害したこともあるのである。好きこそ物の上手なれと云ふことがあつて、好きになると上手になり、上手になると好きになります。

[興味ある学問を得んには]

何方も勉強が面白くなる様に、興味を以てすることはお望みなさるであろう。然るに、其の興味を以て学問をする事の出来る様になるには、ど一したら宜しいでありましょ一か。

- ・熱心になること
- ・忍耐、努力
- ・克己
- ・出来るだけ調ぶること
- ・目的を立つること

[注意力]

私は之を注意と言ふ。注意と云ふことが一番の土台であつて、是れあればこそ興味が起り、熱心が出る様になるのである。故に此の力ある人は、必ず物を成し遂げる人である。必ず興味を起し得る人である。此の力ある人は、必ず自分の心を統一し得る人であります。此の子は賢い、此の子は少し馬

鹿であると云ふことは、何に由って定めるかと言へば、其の子供の注意力である。注意力ある人は、礼儀ある人である。注意力のない人は、粗暴な人であります。故に注意力がある人で、不行儀をする人はないのです。

故に、斯う云ふ協同の働きをすることも大切ですが、注意力を養ふと云ふことは、も一つ大切です。凡ての事の本であります。夫れで自分の一年間の行ひを、此の年の暮に於て深く考へて見るのが大切であります。

夫れから此の前にも申しました様に、時間を違へぬ様にする、約束を違へぬ様に、学校に遅刻せぬこと、家へ帰るのにお母さんと約束を違へぬ様にすることも、大切である。又学校で答案を出すとか、人に頼まれた事などをするにも、約束より一寸前に仕上げると云ふことの出来たと思ふ者は……

未だ出来ない者は…… 少数

夫れでは未だ出来ない人もある様ですが、此の年の暮に、古い着物を着かへる様に改めて貰はねばならぬ。そ一云う風に改めましょー、と言ひ得る人は…… 全体

此の外に未だ聞きたい事があるが、時がありませんから、あなた方自身で見出だして、出来ないことは改めて下さることを希望致します。

も一つ、私はあなた方に聞きたいことがある。夫れは本校の過去九年間の歴史を考へて貰ひたいのみならず、此の頃の社会の空気は如何なるものであるか。其の中に呼吸して、あなた方はど一云ふ感化を受けて居るのであるか。之は子供にはわかりにくいであろ一が、来年卒業すべき五年生には多分分つて居ることと思ひますが、大切なことでもありますから、深く考へになることを希望致します。

私は数へ年にすると五十二、満五十年と何ヶ月になりましたが、明治になってから四十二年間の事は、よく記憶して居ります。其の間には、我が国の凡ての事に大層激変があつたので、殊に女子教育についても、始終上ったり下ったりして居りますが、私共の友人の中に、其の時々の流行に由つて動いて居つた人は、一人として物になつては居りません。あなた方も其の通りで、其の時々の動きにつれて、風のまにまに、波のまにまに漂ふて居る人は、将来望みはないのである。殊に此の四十二年と云ふ年は、女子教育について最も社会の動揺した時であります。此の時に當つて、果して我が高等女学校は如何なる感化を受けて居るのであるか。こ一云ふ空気の中に生存して此の年を送るに當つて、ど一云ふ覚悟を以て、又ど一云ふ目的を立て、志を定めなければならぬものであるか。そ一云ふ事もいろいろ聞きたいと思ひましたが、段々時が来ましたから、之は銘々で深く考へになることを希望致します。

[中表紙]
大学部全体の御話
明治四十二年十二月十五日

明治四十二年十二月十五日
大学部全体の為めに

今日は目的論に入りまして、此の前に数回説きました事の結論と致します。即ち応用の方面を説くことと致したいと思ひます。其の間に Subconsciousness の問題に入りましたが、之れは目的論と関係のないものではない。つまり目的論が客観の物であるならば、Subconsciousness は主観、即ち内面の方から入つたものである。夫れで皆さんも此の間からずっと内面を通して、目的論に就いて深く考へになつたことであると思ふ。

第一に、目的を立てる、目的を確立致すと云ふことが、我々銘々の実力培養、及び品性修養の為に如何に大切なものであるか。そして実は目的と云ふことと、価値と云ふことは殆んど同一のもので、之れを二つのものに分けると云ふことは出来ない位、密接な関係であります。併し茲に目的を立てることの必要、我々人生に目的を立てることの価値を自認する為めに、目的が如何に大切であるかと云ふことを考へる必要がある。皆さん多分考へになつたと思ふ。

先づ、我々の學問に就いて目的を立てると云ふこと、目的の為に學ぶと云ふことが、誠に大切である。之れは深く銘々の経験を考へることも必要であるが、先づ今日の學問の傾向を少し察知して見たならば、直ぐ様大体はわかるであろ一と思ふ。

此の頃、學問に於て目的論を認めた傾向、之れをば Pragmatism と言ふ。心理学に於て、此の目的論を認めて其処に根拠を有する傾きを主意説と言ふ。其の以前は心理についても、教育についても主知説に重きをおいて居たが、今日では主意説になつたのである。人生観で目的を認めたものを、人格的唯心論、又は理想主義と申すのである。之れは學術界における最近の傾向とも見る可きものである。十九世紀の如く唯物論、或は機械的説明で満足が出来ないよ一になつて参つたのである。此の大勢を見ても、如何に人間は目的を追求するものであるか、有極的、即ち目的的活動の生物であるかと云ふことを考へらるゝのであります。

第二に、我々の品性修養、及び実力培養の為に目的を立てると云ふことが如何に大切なことであるか。少し考へるならば、直ちに明瞭になることである。一言で申せば、目的は我れ等の行為、即ち活動の原動力である。夫れで目的を確立し得る者は、何事をも成就せざることはない。目的ある者の為めには、Impossible と云ふことはない。Impossible と云ふ字は、目的ある者の為めには不必要である。之れに反して、目的を決定する勇氣なきものは、何事にも失敗する者である。一として成就することなく、長く一貫する処の働きは出来ぬのである。

第三には、目的に反対する処のもの、目的を立つることを

好まざる者、己の職務の呼び声に耳を覆ふ者は、何事にも狐疑する者、何事をも否定する者、何事にも懷疑の念を懐く者で、己の目的を変ざる者、困難に遭ふて目的を捨つる者。誘惑にあうて横道に迷ふ者は人格を有せざる者、卑劣なる価値なき悪人、非人とも言ふ可きものである。斯う云ふ一般的人間の経験は、如何に目的が我々人生の価値、人格建設の上で大切なものであるかと云ふことを証明するに足るのであると思ふ。幾らでもそ一云ふ多くの証拠を集めると云ふことは、誰れにでも出来ることである。

[我国婦人の進歩せざる二大原因]

第四に、一寸考へておく可きことは、婦人と目的との関係で、之れは前にも一寸申したことがある。又過日の通信教育会で私は、我国婦人の進歩の鈍き二大原因と云ふことを申しましたが、其の一は此の Subconsciousness で、第二の方面は此の目的論と云ふことを少し他の方面から申したのである。

是れ迄は此の教育と云ふこと、及び教育の原理を定める上からも、教育は各自に由つて出来る。各自の意識、換言すれば、銘々の努力、銘々の実行に由つて出来るものであると考へたが、我々の意志、我々の実行、我々の真理は決して個人的に出来たものではない。社会的に、即ち多くの同胞の協同に由つて出来たものである。即ち人類共同生活に由つて、考への交通に由つて、感情の融合に由つて出来たものであつて、只此の個人の働き、個人の経験に由つて出来たものではないと云ふことを、申したのである。之れが即ち目的論である。我々は目的を立てる、目的を実現する、目的を遂げると云ふこと、即ち社会的関係を結ぶことに由つて、理想と現実との接合をつけることに由つて出来るのである。つまり、目的と云ふことは、此の間から説いた Subconsciousness を客観に見たのである。此の我々の人格、我々の力、我々の人生と云ふものは、只個人の Consciousness で出来たのではない。即ち我々の Subconsciousness、多くの先祖、無数の人類の経験、社会國家の共同的事業に由つて出来得るものである。又は（空白）し得るものである。又は発達し得るものである。又は改造し得るものである。此に着目して、根本の培養、根本の改造を行はなければ、今後の吾人の切望する処の発展を見ることは出来ないと云ふことを、申したのであります。

何故に我国の婦人は情ない程に弱いのか。誘惑に逢ふて夫れを防ぐことが出来ないか。僅かなることに由つて心が動くか。情ないことに、我が國の婦人は子供のよに保護して居なければならぬ。又低能児の様に嚴重に監督して居なければならぬ。危なくて仕方がない、心配でならない。ど一云ふ訳で無分別なことをするか、何故あゝ云ふ風に知恵がないか、情ないことである。故に今日の女子教育は子供のよに保護しなければならぬ。判断力のない低能児か罪人かのよに監獄へでも入れて、見張りをして居なければならぬとは、何たる情ないことであるか。

[十訓]

我が國の教育者は此の頃、十訓と云ふよ一なものを持つて、益々此の子供の如き婦人を守る、保護して居る。之れも止むを得ないことであるけれども、斯くの如きことに由つて我國

を、婦人を救ふことが出来るであらうか。不可能のことである。

何故に不可能であるか、何故に自ら立つ力が出来ないかと言へば、一言で之れに答へれば、我が國の婦人は未だ自分の生涯について目的を確立することが出来ぬ。自分の理想を実現することが出来ぬ。自分の主義を一貫する力を持たない。此の Subconsciousness にある品性の教育、此の四囲の境遇に適合し得る処の目的実現の教育を与へずして、枝葉の小刀細工を以て我國の婦人を救ふ、我國の婦人を守ると云ふことは、到底不可能のことである。

[欧米婦人]

欧米の婦人も、今から五十年前には我が國婦人の如きものであつて、文藝の自由も与へられなかつたのです。然るに今日では、丁度丁年、即ち二十才頃迄の父母の教育が出来たならば、彼れ等は自ら自らを守る力が出来て居る。否、社会を改善することが出来る。男子の野卑なる動機を高め、社会の空気を清める感化力を持つて居る。之れは事実です。彼れ等には野卑な、卑屈な男子を敬畏せしむる程の威厳を備へて居る。斯くの如き人格の上に發揮する処の力、原動力は何に由つて養はるゝか。彼れ等は目的を持つて居る。彼れ等の持たんとする家庭に、彼れ等の間に生れんとする子孫に対して目的がある、主義がある。瞞されるよ一な愚なものではない。誤らぬ判断力を有して居る。之れは事実であります。

私は多くの親友が出来て、斯くの如き沢山の事実を親友から洩らされて、在米中に聞いたことがあるのです。我國の如き動作が彼國に現れたならば、即ち男女面会するには、ちゃんときまつた処の礼儀がある。握手と云ふことも礼儀である。手を執ると云ふことも礼儀である。時に彼れ等は相携へて野原を散歩することもあるのです。けれども万一札に叶はぬことが起つたとするならば、ど一云ふ結果になるかと云ふと、実に男子は萎縮するのである。数年交際した友人であるけれども、忽ち婦人の方から絶交をしたと云ふことも聞いて居る。彼れ等は只一時の感情に由つて交際するものではない。斯くの如き理性にはづれた男子と交際することが出来るか。嫁すると云ふことは借老の Friendship を結ぶのである。斯くの如きものを夫として、天として仕へるに足るか否やは直ぐわかる。彼れ等は直ちに看破するのである。斯くの如き者を父として子孫を教育することが出来るであらうか、之れは直ちに判断が出来るのである。故に彼れ等は知恵がある。人に瞞されぬ。一時的の感情に動かされて身を誤るよ一なことはない。之れが即ち America に於ては、男子が女子の前に於ては襟を正しうする所以である。之れが彼れ等に社会を清める力のある所以であります。之れに反して、我が國の女子が実に子供の如く扱はるる、低能児の如く見なされるゝは何故であるか。実に情ないことである。之れを根本に救はうと思ふならば、真に我国婦人の人格を表はし、ほんとい一婦人を覚ませよ一と思ふならば、此の二大原因に力を尽さねばならぬ。目的がわかり、目的が出来なければ永久の恒徳を養ふことは出来ぬ。実に女子教育に取りて、我々銘々の中に目的があると云ふ、目的が確立すると云ふことが如何に大切であるかと云ふ

ことは、少しく考へるならば直ぐわかるであらうと思はれる。

[我が國婦人に目的の確立せしや否や]

然らば第二に、我が國の婦人には此の目的ありや。此の目的が胸に存在するや否や、と云ふことを尋ねなければならぬ。此の次に尋ねることは、斯くの如き目的が我が國婦人に確立し得たるか否や、と云ふことである。そこで、

第一の問は、我國の婦人に目的があるかないかと云ふことを尋ねるのであります。

あると思ふ者は…………… 2/3

ないと思ふ者は…………… 1/3

夫れでは今少し狭くして、あなた方皆さんの中には、ありと答へらる人は…………… 多数＝全体

[目的内容]

目的について言つて御覽なさい。

目的の自覚、意志、理想、向上心。

向上心とは目的を追求して、之れに達せんとするのであり、理想とは目的に対する自他の關係、及び夫れに対せんとする活動であり、猶ほ進んで、信仰と云ふことは其の目的を慕ひ、其の目的を愛する所の感情である。之れをもっと自然的、野生的な詞を以て言へば、衝動とか本能とか云ふものもありますが、之れ等を總稱して人性と言ふ。即ち人々の傾き、適性である。

然らば目的と云ふものにも Subconsciousness がある。我々の目的は只我々のみに由つて出来たものではなく、先祖代々努力致しました、人類全体が渴望して働きました所の、人類の意志が我々の生れぬ前から、ちゃんと我々の性の中に潜在して居るのである。つまり此の目的は、一方から言へば我々が拵へたと言ふけれども、実は先祖からのもの、社会的に續いて居るものを我々が受けついたのである。我々が未だ目的を自識しない中に、確立しない中に、もーちゃんと目的があるのである。故に我々の行ひは、自然に目的に叶ふて居るのである。

[吾人は悉く目的を有す]

そこで我々が活動して居ることは、無意識的に目的の支配を受けて居るのである。目的の支配を受けて居ると言ひ得るので、之れから目的となる可き泉源は、我々の Subconsciousness の中に在るのである。

此の意味から言へば、我々は皆目的を有して居る、目的の爲めに活動して居ると云ふことを得るのである。

[目的は確立せしか]

然らば次に、其の目的は確立致したかと云ふのは、其の目的を意識したか、或は目的を Self- (空白) したか、自分で自分を決定致したかと云ふ尋ねになるのであります。

目的を確立するとは、目的を統一し或は組織的にし、合理的にし経済的にする。即ち自然的、偶然的、浪費の有様より経済的、合理的、有効的、有意識的にすると云ふことが、即ち目的を立てると云ふことである。そこで目的を立てると云ふことは、理想を拵へる、主義、原理を見出だす、信仰を築く、良心を發現する、法則を拵へる、計画を立てる、組織を組み立つると云ふ一なことは、皆目的を立てると云ふことで

あります。

猶ほ目的を立てると云ふことが如何なることであるかと云ふ委しい事柄に関しては、目的確立の方法を説く時に少しづつ脱き明かしをする方が便利でありませよ。今日は時を省く爲めに申しませんから、其次に、我々が人格を作ると云ふこと、品性を養ひ、實力を發展すると云ふことは、目的を確立しなければ我々の希望を満足せしむることは出来ないと言ふことは、おわかりになつたでありませよ。

[如何にして目的を確立すべきか]

然らば、如何にして目的を確立すべきか、ど一云ふことを考へねばならぬか、何を材料として其の計画を定めなければなるまいかと云ふことになる。之れを定めるに、二つの方面があります。

第一、主観的方面

第二、客観的方面

第一は、主観的方面とは即ち内部的事情と云ふことである。我々が目的を立てると云ふことは、我々が目的を自分の我儘を以て、勝手氣儘にきめることは出来ぬ。又親や社会の事情や教育者などが命令的に、之れをきめることは出来ぬ。如何となれば、我々の目的は共同的に人類的に出来かけて居るのである。我々の生れつきの中に、我々の Subconsciousness の中に、特殊的傾向と普遍的傾向とあるものである。我々には何か長所であり、何か短所であり、何にか最も堪能であり、何は最も不堪能であると云ふものがある。之れを適性と言ひ、英語の所謂 Aptitude である。之を生れつきと言ふ。

[自覚]

目的を定める前に、自分の適性を考へて自分のことを明にする。之れを自覚と言ふ。自ら自らを知り、自らを明にすると云ふことが出来なければ、我々は此の目的を定むることは出来ないのである。

名高い歴史家の Parkman と云ふ大家は、十数年の間、病床に伏して身体を自由に使ふことの出来ない、性来の病身者であつた。其の上に多くの困難と戦はねばならなかつたのであるが、彼れは自ら自らを知ることが出来て、微弱な中に大業を成就することが出来たのであるが、彼れは目的を成就するに就いて、大切なる法則を我々に残して居ります。其の詞に、

There is a universal law of growth and achievement.

The man who knows himself understands his own power and aptitude, and forms purpose in accordance with them, and pursues these purpose steadily.

[訳]

發達、遂達の普遍的法則あり。己を知り、己れの力、及び己の適性を了解し、之れによりて己れの目的を確立し、不撓不屈の精神を以て之れを一貫する者は、成功する人なり。

[成功]

つまり成功と云ふことは、目的を立てると云ふことである。目的を立てるとは、己を知り、己の適性を了解することである。

[適性は何に由りて発見するか]

此の己の適性は何に由つて見出だすことが出来るかと云ふ

と、己の興味、己の趣味の如何に由って分るのであります。我々の趣味は恰も種の如きものであり、目的は其の根の如きものである。其の Subconsciousness 中にある我々の性、我々の興味が発達して根となる。此の根が吾人の人格を支へる土台となり、之れが己れを永久に養ひ育てる食物となるものであると言ふことが出来るのである。此の興味と云ふことと、我々の嗜好と云ふこととは、意味が違ふ。嗜好とか、好きとか云ふことは一時的であり、断片的であり、感情的である。併し興味は真剣的、至誠的、熱誠、永久的であると言ふことが出来る。そこで人は趣味を有すれば、目的を立てることが出来る。目的を有するものは、人間としての弱徳である処の嫉妬心とか、猜疑とか、高慢とか、其の他の悪徳を凡べて破壊することが出来るのであります。

[特殊の興味]

昔から、小人閑居して不善を為す、と。小人、即ち目的なき人は、怠りを生じ、怠りを生ずれば悪徳を為すものである。そこで己を知り、己を自覚するには、我が興味を培養し、趣味を育て、同情を拡大することに勉めんければならぬ。其の興味には、やはり特殊のものと普遍的のものとのあるので、此の両方面が育たねばならぬ。其の特殊の興味を挙げるならば、

- (1) Artistic interest
芸術的興味、即ち新事業の創作
- (2) Care taking interest
慈善的、保護的興味
- (3) Scientific interest
研究的興味、即ち知識的、進歩的興味
- (4) Executing interest
処理的興味、即ち知識的応用の趣味

我々の趣味は、此の中、何処かに属するのである。特殊の、普遍的興味は、何れも関係を有するに相違ないのである。そ—して我が興味、我が只今選んだ目的が、果して我が Subconsciousness 中にあるものと誤りなきものである—か否やと云ふことを知るのに、大切なことがある。

Mrs. カボットの挙げられた條條を引いて、之れを申すならば、

- (1) Does it rouse and warm me?
自分の今選んだ興味は自分を奮い起し、自分を温めて居るや、否や。
- (2) Does it overflow into other interest?
夫れが他の興味に迄、溢れ出し得るや、否や。
- (3) Does it call out the best in me?
其の興味が我が中に潜める最善の物を喚起するや、否や。
- (4) Does it seem to serve the real need?
其の興味が実地の必要に仕へて居るよ—に見えるか、ど—か。
- (5) Is it progressive and fruitful?
其の興味は進歩的にして、且つ有効的なりや、否や。

之れをお考へになったならば、確に大切な真理を見出だす

ことが出来るであろ—と思ひます。

[関係を明らかにすべし]

第一は、一言で言へば、自らを知ること。第二は、境遇を知ること。即ち人を知り、社会を知ること、客観的方面であります。つまり自分と人との関係、自分と自分の家との関係、自分と我が学校との関係、より進んで、自分と我が国家との関係、より段々及ぼして、世界の各国の関係、世界の大勢、我が国情もわからねばならぬ。其処に於て、我が国家の必要もわからねばならぬ。之れは決して一時的ではなく、五十年先きを洞察する処の先見の明を要するのである。つまり五十年、百年の大計が立つよ—にならねばならぬ。況して、明年はど—なるであろ—か。明年の我が国の関係はど—なるであろ—か。近くは我が卒業後の責任は如何になるであろ—か。自分と社会、将来と現今との関係が明にならねばなりません。

然らば目的を確立することは、本能的に動くことと云ふことではない。習慣的に繰り返すと云ふことではない。合理的、組織的に考をきめ、理想を定め、方針を立て、万難を排し、之れに反対なる衝動、誘惑、之れを妨げる境遇に戦ふて、所謂克己の精神を以て充分なる決心を定めて、自分の行路をきめなければならぬのである。只習慣に従ひ、風俗に順応し、本能的に繰り返して居るならば、何の六つかしいこともない。何の危ないこともない。併し此の目的は将来にある。進歩、向上にある。自分、及び全体の完全にある。然らば我々は其の目的を達する為めに幾分の困難に出遭ひ、其の目的に対して危険を犯す。危ないことに遭ふと云ふこと、即ち強い詞で言へば、冒険と云ふ覚悟をしなければならぬ。

之れを知って之れを果たす、其の道に進む、其の信仰を妨げる敵に戦ふ、夫れから起る危険に当ると云ふ決心がなければ、目的を確定することは出来ないのである。此処が皆さんに六つかしいことである。理想を立つる人、目的ある人は、今後ど—しても家庭を改善し、社会を改善し、教育を改善する。之れが目的である。只世の思ふ通り、傾く通りに従って行く、本能的に動いて行くと云ふことではない。

目的を立てると云ふことは、甚だ危険なこともある。やり損ひをするかも知れぬと云ふことがある。失敗をするかも知れぬと云ふことがある。人から笑はれるかも知れぬと云ふことがある。人から反抗せらるかも知れぬ。否、あるのである。此処が、其の目的を選ぶかど—するか、之れからあなた方が進むかど—するか、と云ふ境に立つて居るのであります。

[Huxley 曰く]

此に名高い Huxley の言った詞に、

If some great power would agree to make me always think what is true and what is right, and condition of being turned into a sort of clock, and wind up every morning, I would instantly close with the offer.

[訳]

茲に毎朝時計の螺旋を巻いて、其の螺旋の動力に由つて全体が動くよ—に我々のねぢを巻いて、之れが善、之れが正と云ふことを行はして呉れるならば、自分は仮令時計になつても、機械的になつても、其の提案に同意す

るであらう。

あなた方、ど一でありませう。そ一云ふ風に、毎日我々の心にねぢを掛けて、其の為すが儘になつて居れば、善を行はして呉れる宗教があつたならば、あなた方は喜んで生涯を其の死物に甘んずるでありませうか、ど一でありませう。若しも斯くの如き生涯になつたならば、人生は如何に無味乾燥したる単調子になるかも知れぬ。斯くの如く単純なる生活に入れば、修養を積んだ如くに思ふ人があるが、之れは人間を機械にしたものである。人間を死物にするものである。我々は斯くの如き生活に甘んずることは出来にくい。

然らば我々は目的ある生活を、理想的、向上的生活を選ばんとするならば、必ず困難に遭遇するのである。やり損ひと云ふことを生ずるのである。如何となれば、理想を実現し、努力奮闘し、是れ迄の習慣にかつことも必要である。必ずやり損ひがあり、失敗がある。そして我々にやり損ひがあり、失敗があれば、必ず人からの譏りがあり、社会の攻撃がある。人からの譏りがあり、社会からの攻撃があれば、必ず困難があり、心配があり、苦痛がある。皆さんは此の困難を甘んずる目的を立て、其の為に真理を求めて進んで止まない。我が婦人の境遇を開く為めに、我が家庭を改良する為めに、教育の根本を改善する為めに、国家社会を清める為めに、我々は喜んで犠牲的に、喜んで困難を辞せぬと云ふ此の目的は、あなたの生涯に実現は出来まいと思ふ。あなたの子供に由つて未だ実現することは、まだ六かしいであらう。そして之れをするには、余り人の知らぬ、縁の下の力持ちを只して居らんければならんかも知らん。目のつかぬ所の、表面に顯れない処の Stage に隠れて居なければならぬかも知らん。あなた方の此の困難、此の危険は見えて居るのである。此の責任を遂げよ一、此の目的を達しよ一とするには、是非とも其の危険を侵して進まねばならぬ。

[Napoleon 曰く]

目的を立てるとは、意を決して背水の陣を張ると云ふことである。Napoleon は思慮七分、判断三分と言ひました。即ち志を立て、考へを練つて目的を定むることが七分で、其のあと三分は我が決心、我が判断、決行である。我々は長くです。我々の女子教育は長く思慮し、熟考致しました。Napoleon の所謂七分通り、否八分通り迄も長く考へたのです。こゝに残つて居るのは我々の判断、我々の決行です。此の目的が立たなければ、此の判断がつかなければ、進歩も実験が出来ないので。成就も成功も出来ないのです。時が参りましたから、只一言で、残つて居る処の二ヶ条の事を申したい。

[忍耐]

其の次に大切なことは、忍耐である。忍耐と云ふことは、我々の今日の決断は絶対的、確定的、最終的と斯う云ふのである。つまり之れは最後の決心である。絶対と云ふのは躊躇しない、二心ない、後へは振り向かないと云ふ、詞をかへて言へば、永久的、奮闘的の目的である。此の我々の意志、我々の目的は社会的、人類的、協同的に永久続く所の、永久発達、進歩する処のものを言ふのである。故に我々の此の目的の為に勉強すること、努力することは生涯。私は、我が櫻撮会

の第二の発展、皆さん銘々の見込みは此の次十年間に顯はれんければならぬと思ふ。そこで先づ第一着に、今後十年の計画をお立てになることである。然らば十年かゝつたならば其の理想を実現することが出来るか、あなたの人格が顯れるかと言へば、未だ足らないのです。私は生涯と云ふことを以て、之れを望むのであります。

[Moltke]

彼の有名な独逸の Moltke 将軍が生涯の目的を画してから、九十才迄かゝつて漸う之れを成就したのである。彼れは其の目的の為に、其の用意の学生々活をしたことが六十六才迄である。六十六にして彼の研究が略ぼ終りまして、愈々自分の Lifework に着手して、自分の目的を達すべき職に就いたのである。夫れから七十の年迄も努力し、遂に欧州の地を征服し、欧羅巴の地図を改め、世界各国の關係を変更したと云ふ如き大活動を顯したのである。我々の目的を達すると云ふことは、生涯少くとも今後五十年間かゝらねばならぬ。ほんといに斯くの如きことをするには、此の間に失敗、困難、障害と云ふものを確に目に認めて、之れに戦ひ、之れに斃れると云ふ決心が出来ねばならぬ。之れが出来ねば婦人の運命を救ふ、我が国の婦人を立たしめる、我が国の婦人に根本の精神的生命を与へると云ふことは出来ぬ。我々は今、夫れ程の責任を負ふて居るのである。そして之れを全うしよ一と云ふのである。併し終りに申すことは、生涯的延長である。目的は永久的継続であります。永久的忍耐であります。

[Today]

併し又一方には、集散的、短日月、即断的、即行的行為である。Ruskin の格言は短い詞、Today と云ふ額を懸けて居たのである。目的を達すると云ふことは、一方には生涯と云ふことであるけれども、一方には今日と云ふことである。只今即決せよと云ふことです。此の速決の出来ない人は生涯志は立たぬ、生涯目的は定まらぬ、生涯自覚が出来ないので。

今日集中の出来ない人、速決の出来ない人、今の事に勝つことの出来ない人、今日考へんければならぬこと、今年の間あなた方の目的が立たんければ、機会は再び参りません。今日之れを決しないならば、時はあつても駄目である。斯くの如き人は、生涯目的を立つることの出来ない人です。

France の文豪バルザックと云ふ人は、彼れの父は彼れに向つて申しますのに、「お前が文学を選んだが、お前は只今乞食になるか、帝王になるか、其の二途を決せよ。」と。此の時彼れは暫く考へて、父よ、私は帝王となることにきめました、と答へました。彼れは其の後十年間困難と戦ひ、貧乏と戦ひ、あらゆる困難に打ち勝つて、遂に彼れは決心の如く文学界の帝王となつたのである。あなた方も女王になるか、乞食になるか、一つの支配者になるか、寄生虫になつて行くか、此の二つを決せよ。あなた方の生涯の運命は、今日に在るのである。即ち此の決心をして、如何なる敵にも困難にも戦ふと云ふことが、生涯の目的をきめるのです。生涯の意志を建設するのです。眠りを起す処の、生れ変りをさせる処の不思議なる Inspiration を与へるのは、斯の其の時、其の時の瞬間にある。其の時、其の時の態度にある。此の経験をしないもの

は、いつ迄も決心がつかぬ。そこで皆さんは、此の年末に於て深く思慮なさって、自らを知ることをつとめ、境遇を考へ、関係を定めて、此に動かぬ所の決心をお定めになることを切に希望するのであります。

[中表紙]

豊明寮第六回記念会に於ける御話

明治四十二年十二月十七日

明治四十二年十二月十七日

豊明寮第六回記念会に於て

今日は豊明寮第六回記念式を例年の通り挙げますに就きまして、森村豊明会の諸君、並びに豊明村の開くるに當つて地面をおさき下され、且つ其の村の村長たることを御承諾下された所の、寺田君御夫婦もお揃ひでおいで下さいましたのは、私共の誠に喜びとする所であります。殊に今夜私共の喜ぶことは、森村さんが年々御丈夫におなりになる。段々元気がまし、白い髪は益々白くなりますが、御年は六年前に比べると段々お若くなる様に、年々お元気が加はっていらっしゃる様に感ぜられます。且つ明六さんのお母さん、豊さんの奥さんもやはり御丈夫に、且つお元気でおいで下さったことは誠に嬉しい事で御座ります。殊に此の十七日に丁度、我が国の実業団体が米国より帰るゝにつきまして、今朝早くから横浜迄出迎ひを致しまして、其の一行に加はって参りましたが、丁度此の豊明寮の記念式、其の日に於て此の団体を迎へることになりまして、種々の深い感じが今朝以来、私の心に断える所がないのであります。其の感じを一言述べて、此の記念の辞と致したいと思ふて居ります。

[商業道徳]

此所においでになる、あなた方若いお方は感じが鈍いであらう。そ一云ふ事に余り注意が向はないであらうと思ひますが、私は其の歓迎会を見、其の実業家達の談を聞きまして、深く感ずる処があったのである。又我が国が斯く迄、世界の大大勢と共に進みつゝあるかと云ふことを実験致しまして、非常に愉快な感じが起つたのである。

夫れは我が国に於ては、商売と云ふこと、実業をすると云ふことは即ち実業と言ふ。そ一云ふことは誠に卑むべきことと考へて居つた。夫れで実業家に道徳と云ふものは認めて居なかつた。商業道徳と云ふ様な事は新しい詞である。其の奮みを作ること、商売と云ふことの動機が既によく無いものと考へて居つたが、之が我国の旧道徳の廢れて、新道徳の発達しなかつた所以である。ほんとの國家の元氣の出なかつた原因である。故に商業的道徳、商業的勇氣、商業的正義と云ふ様なものは、殆んど見ることが出来なかつたのである。

[挙国一致して百年の大計を企つ]

然るに世界の勢は段々推移致して、我国も昔の夢を食つて居ることは出来なくなりまして、遂に外部からの大勢に余儀

なくされて、我が國家は非常な覺醒をしなければならぬと云ふことになって、挙国一致して此に我が國百年の大計を立て、目的を確定致して、其の第一着として、遂に干戈の戦ひを開かんければならぬと云ふことになって、實に我國の運命を賭して、背水の陣を張つて日露戦争を始むることとなり、此の日露戦争の爲に幾十万人の生命を払ふて、未嘗有の努力奮闘致しまして、漸くにして其の一時の危險を逃るゝことが出来た。國家の運命を救ふことが出来たのであります。併し、我々は其の時から申して居つた様に、此の戦争は五年や十年で解決することは出来ぬ。只國民の血を流して生命を捧ぐると云ふ犠牲を供したのみでは、最後の勝利を得ることは出来ぬ。我が國家を泰山の安きにおくことは出来ないと言ふことは、國民の育しく感じて居つた所であります。其の國民の血を流して、多くの犠牲を供して開始した処の戦争は、我國実業家、否、我國青年が引き続いて戦はんければならぬのである。

[商工業の戦ひ]

今後の戦ひは實に、商工業の戦ひであると云ふことは誰れも気づいて居る処であり、自覺して居る処である。然るに、我が國の商工業と云ふものは甚だ幼稚なものであり、其の戦争に対する処の國民の態度は甚だ薄弱なるものであつて、將來の結果については、一同が心配して居る処のものであります。殊に戦後の財政の不振については、識者も一般も心配に堪へん所である。此の心配は始めから覺悟をしたことである。此の困難は當然の事で、銘々が負担しなければならぬことであると云ふことは、皆始めから覺悟して取りかゝつたことであつたにも拘はず、其の實際の敵に対しては甚だ意志薄弱の姿に見え、臆病な様に思はれる。前の干戈の戦争の時の勇氣はどこに行つたかと云ふ事を、思はざるを得ないと云ふ有様であります。此の四十二年を送るについても、一番心配になるのは其の点であります。今は弓矢とか鉄砲とかの戦争ではない。實力の戦争である。知識、學問の戦争である。此の干戈の戦争にしても今日では、昔の様は一騎打ちの戦争をして居ては間に合はぬ。ど一しても団体でなくてはならぬ。又昔の商人の根性では、到底今日の戦争に加はられるものではありません。今日の実業家、今日の商工業家は實に今日の軍人であり、戦士であるのです。今日の商工業家は、昔の様に只自分の私利を営む、只財をためると云ふ様な考へで、此の大戦争に勝つことは不可能である。其れにも拘らず、依然として昔の根性が改まらぬ様に、猶私利を営むことにしか気がつかぬ。之は非常に心配な姿に見えたのであります。猶之に対する我が國民全体の態度、之に対する方針、國家の傾向と云ふ様な点についても、ど一も物足らぬ感じがありました。然るに今日は実業団体も、我が國家を如何せんと云ふ様な刺激を受けて、歸られた様である。又我が國の政府も國民も段々其処に気づいて來た様である。斯くの如き実業家は國家に忠なる人、國家の干城である。今日は恰も、凱旋の時に我が國の武勇なる人を歓迎するかの如く、國務大臣も識者も、こ一云ふ団体を歓迎する為に會せられました。斯う云ふ風に我が國風が進んで來たかと云ふことは、今日私が非常に愉快に感じたことであります。

[平和的、文明的戦争]

即ち商工業の精神が茲に始めて発達せんとして来た。我國民が始めて平和的、文明的戦争を開始した所の自覚を得て来たかの様に、自分は感じたのであります。此の感じが起ると同時に、我が國が開國以来殆んど文武、即ち役人と行政と云ふこと、軍隊と軍政と云ふこと、此の文武官と云ふ二つ、教育も道徳も風俗も凡て、やはり此の昔の士族の風を受けつぎまして、之が文になり、武になり、官になり、之が両途になった。之が我が國の風をなしたかの様に感じて心配致しましたが、夫れは杞憂であつて、商工業の中にも武士がある、紳士がある。其の中にも忠と云ふ心を以て、今後國家の為に尽くそと云ふ精神が出来、只私利を営むのではなく、國家の富みを作ろと云ふ考への出来たと云ふことは、實に我々の喜ばなければならぬことであり、祝はなければならぬことである。

[通商、世界の貿易と内國の富み]

此の喜びを感じると同時に、斯くの如き氣風は如何にして生じたか、斯くの如き精神は何に由つて出来たかと考へて見て、私は之は、實に濹澤男爵の如く、又森村さんの如き、只維新の際、役人になるか、軍人になるか、國家に尽すと言へば此の両途より外にないかと云ふ空氣の中に浴しつゝ、呼吸しつゝ、富國と云ふことはど一しても實業に由らねばならぬと考へて、茲に森村さんは通商、世界の貿易と云ふことに着目せられ、濹澤男爵は役人をやめて、内國の富みを計ると云ふことに一生を捧げられたと云ふことは、實に我々國民の感謝せねばならぬことである。独り斯う云ふ先覚者の先見の明が原因となつて、そ一云ふ動機を我國に培養せられたと云ふことばかりでなく、實に自ら商人となつて、自ら其の困難と戦つて、今日の我國に現れました。此の必要な時機に現れました此の商工業家の精神、此の第二の戦争の武士を興す処の動機を養ふことに貢献されたと云ふことは、實に感謝に堪へんと云ふよ一なことを、いろいろ感じたのであります。

[一致協同して以て學理應用の力を以てせざる可からず]

独り商売が大切である。又商売も団体的に一致協同の力を以て致さんければならぬ。益々學理應用の力を以て世界の大勢に後れぬ様にせねばならぬ、と云ふことだけで今日の戦争は勝てるかと云ふと、夫れだけでは足らぬ。恰も我が海陸軍が外國の軍隊の制度を入れ、世界の軍隊組織を應用し、世界の艦隊組織を見習ふたゞけではいかぬ。其の背後に武士道、大和魂と云ふ精神があつて、始めて大勝利を得たのである。此の精神がなければ、此の國家の為に命を捧げると云ふものがなかつたならば、何事も出来なかつたのである。幾ら文明の利器を使ふても、幾ら人数が多くてもだめである。夫れと同じく、商売にしても只己の家ではない。國家の為に、日本の為に、人道の為にと云ふ勇氣があつて、犠牲の精神があつて、始めて此の戦争を成し遂げることが出来るのです。此の武士道がなければ、此の商工業の軍も勝利を得られない。軍隊にもそ一云ふ人は少ないが、商工業界に至つては實に乏しい。然るに此の豊君の如きは、國家の為に、世界の通商の為に、最も困難な時に、最も其の城の落ちない時に断然意を決して為すべきことの為に奮闘し、遂に其の生命を捧げられた

のであります。實に斯くの如き人は我が國にとって、最も忠勇なる名譽の軍人である。

敢て此の廣瀬中佐の功績と等差はあるまいと思ふ。そ一して富みを積むと云ふことは、只私利を計ると云ふことではなく、國家の為、世界の為に實業に従事されたと云ふことであるのです。私は、貿易家の中に世界の大勢に順応する為に斯くの如き努力奮闘された、遂に斃れて後止まれたと云ふことは、此の精神、此の目的、此の行為は實に我が國、今後の戦争の為に最も必要なものである。此の我が國に斯くの如き理想を自分が感ずると同時に、私は、此の明六君や豊君が討死する迄に自分の天職の為に尽され、又豊明会の御方が此の意志をついで努力奮闘される、又其の目的は國家の為、永久の為と云ふ精神を以てお尽しになるのは、實に國家の為に賀すべきことであると思ひます。私は、我國に於てもやはり商工業の大切なることを気づく様になり、世界の大勢に着眼する様になりました。けれども其の本はやはり、こ一云ふお方の精神が大原動力であると云ふことを考へて、此の第六回記念日を迎へるに當つて、此の實業団体を迎へたことは私の非常に喜ぶ処であり、又將來大に望みを属するに足ると考へ、又森村さんの御健康が長く続き、今後の商工業の為に大に貢献なさることを切望するのであります。

夫れから私は、こ一云ふ記念日におきまして、少しでも斯くの如き尊い行為を全うし、且つ不朽の目的を立てられた人の人格に接しまして、我々の品性、校風の培養を致したいものであると考へて、少し両君の詞や行ひ等につきまして、昨年から今年の間にも又私が新らしく感じたことを、あなた方に紹介したいと思ひますが、併し段々後に催しがありますから、時間が後れると宜しくないが、若し時間が余りましたならば、後で両君の詞や行ひについて、御紹介を致したいと考へます。

[中表紙]

大学部一年及び予科全体に於ける御話

明治四十二年十二月十八日

明治四十二年十二月十八日

第一学年並びに予科全体の結論につきて

今日は一年の一番終りの日ではありますが、今年中得る所がどれ丈けありましたか。猶、先日来三年と共に研究して居りました問題について、わからぬことがあるならば質問をなさる様にと云ふ事にしておきましたが、各部から全体として纏めた質問は出て居りませんでした。組の方ではど一云ふ様にしておいでになつたのであります。其の後の経験、其の後の問題などをお出しになつても宜しうござります。

各部から、自分の組として其の組の生命がど一云ふ様に出来て来て居るか、今日はど一云ふ様に向いて居り、ど一云ふ様子になつて居るか、及び銘々の経験を發表なさることも必要である。猶問題になつて居る点があるならば、夫れをお出

しになっても宜しい。先づ教育部の方からお話しになる事に致しましよー。

[教育部]

社会の傾向が消極的になりたと共に、私共の組も消極に傾きまして、実力が得たいと言ひながら、実行が足りなかったと思ひます。組全体の有様は、個人としては平和に、幸福に、美しくなりましたけれども、団体と云ふことに欠けて居る様に感じます。夫れで三学期には、希望に満ちて銘々の確信する所を行ひたいと申しあつて居ります。

[家政部]

家政部も社会と共に消極になりましたけれども、Subconsciousness とか目的とか云ふことを説いて戴きまして、ずっと元気が出まして、真面目に修養して、目的を立てゝ進まねばならぬと云ふ風風が出来ましたので、未だ充分とは申されませんが、組の大体としては、わかつて参りましたと考へます。

[英文科]

今学期の計画として、個性の發揮と云ふことと実力の養成と云ふことをとりましたが、団体と云ふことをおろそかに致しました為に、活動を欠きまして、個性の發揮と云ふことも充分には出来ませんでしたから、来学期こそ団体的精神を養ふことに勉めよーと思つて居ります。

[文学部]

組としては、実践倫理を本として進んで参りました。入学の始めから銘々目的と云ふものを立てゝ居りましたけれども、夫れは小さいものでござりまして、ほんとの目的は何であるか。今迄は大層低いもの、狭いものを目的として居たと云ふことを心づきましたのは、倫理のお話に由つて悟らして戴いたことと存じます。夫して来学期からは、個人と云ふことと団体と云ふことについて充分勉めよーと申しあつて居ります。

[普通予科]

一学期の時には好奇心と云ふ様なものからされて、何と云ふことなしに過し、実践倫理は六かしくてわからぬものと思つてばかり居ましたが、今学期になりまして段々深く考へる様になりまして、平野先生や指導者の先生方からいろいろお話を伺ひまして、少しはよい組になったと思ひます。未だ其の考へもばらばら致して纏まつては居りませんが、今一学期で大学部にもなることでござりますから、出来るだけ立派な組になる様に修養致そーと思つて居ります。

[英文予科二年]

私共の方は、始めから元気はありましたが、級の全体が団体の力を養ふと云ふことについては、人数の少ないと云ふことを非常に感じて居ります。実践倫理を段々伺ひますにつれまして、大分考へも纏まつて参りましたから、此の元気を續けて行きたいと考へます。

[英文予科一年]

今学期になりましては親睦も出来ましたし、銘々の勉

強も出来る様になりましたから、今ではよい組であると思ひます。実践倫理は此の学期から大きい方と一緒に伺ひましたが、ちつともわかりませんでした。

茲に、実行すると云ふことの六かしかつたことと、其の実行すると云ふことが如何に大切であるかと云ふことに就いてお述べになりましたが、之は誠に大切なことであります。

昔は学問をするると云ふことは、先生から本を教はることであり、其の人格に接すれば、感化に由つて力を得るものと思つて居りましたが、今日では心理学、社会学等の研究も進みましたので、只目で見、耳で聞くだけではいけない。感じを受けたなら、何か発表しなければならぬ。つまり其の印象を受けたことによつて、実行すると云ふことがなくてはならぬ。殊に此の我々の意志が筋肉の働きに現れなければならぬ。且つ、考へると云ふ事、決断すると云ふ事、熱心になると云ふ事は、必ず筋肉の働きが夫れに伴ふものであると云ふことになって、ど一しても銘々の感じ及び考へを外に向つて発表すると云ふことが出来る様にならんと、ど一も本当に力がつかないと云ふことになって居るのです。そこで考へがほんとうに実現する、Realize するとも言ひますが、其の考へがほんとうに自分のものとなり、行ひとならねばならぬ。又真理がほんとうにわかると云ふことは人に教ふる、人に説くと云ふことが出来る様になって、人に現すこと、人に与へることが出来る様になって始めて受けることが出来る。人に上げる様にならねば自分には貰へないのである。人に上げると云ふことは価を払ふことである。外に向つて、対象物に向つて発表することがなければ、ほんとうに自分のものとはならぬのであります。そこであなた方が人に向つて与へる様になり、且つ発表することが出来る様な傾向をお作りになつたと云ふことは、私の非常に喜ぶ処であります。又今日、簡短ではあつたけれども、あなた方の今日の発表は、一年生の程度としては私は満足致すのであります。

殊に過日來說きました Subconsciousness 及び目的論等については、普通予科、並びに英文予科にはよくおわかりにならなかつたと云ふことである。之は只断片的なものではなく、推理するとか、総合するとか、人間の余程高尚な脳力を使はなければわかりにくいのである。殊に之は三年の程度に説いて居る問題であります。之を一年なり、殊に予科がお聞きになつても、其の真意をとると云ふことは困難であるに違ひない。併し六かしいにもかゝらず、一学期間、之と一緒にして説いたと云ふ理由は、前に申したことによつておわかりであるから、今日茲には申しません。併し其の六かしい問題と一緒にお聞きになつた態度、及び夫れをお考へになつて質問としてお出しになつた問題は、孰れも大切なことで、私は満足致しました。そして今日六かしかつたと仰つた経験はほんとの事であり、又深くお考へになつたと云ふ証拠であります。

又一年が之をお聞きになつて、三年と同じ程度におわかりになると云ふことは望む可らざることでありますけれども、一年の程度としてわかつただけを実行すると云ふことにお勉めになつたのは、誠に私の喜ぶ処であります。此の経験を以てお進みになるならば、あなた方卒業の頃迄には誠に立派な

組となることが出来るであろうと、私は深く望みを属するのであります。

[分量と品質]

又一年の終りに於て深く考へねばならぬことは、英文科の人数が是迄にない少数であると云ふことである。併し此の一年は Quantity 分量よりも、Quality 実質、品質である。ど一云ふ力が養はれつゝあるか、銘々にど一云ふ品性が発達しつゝあるかと云ふことで、寧ろ我々は品質に重きを置いて考へねばならぬ。併しながら、分量も決してかまはないと云ふのではない。之も充分考へねばならぬ。けれども如何なる品質を養はうと云ふことに、最も力を入れなければなりません。今年分量がど一して少なくなったかと云ふと、第一の原因は、我が国の消極の傾きで、経済難もある。又日露戦争に大勝利を得て一時各国から賞賛の声を聞いたので、少し油断を生じたことと云ふこともある。之が今年の不振を来した原因で、其の結果、消極に傾いたのである。即ち我が国には儒教がある、武士道があると云って、保守になったと云ふこともあります。併し今後我国を進めると云ふことは、今あるものだけでは到底現状も維持せられないのである。夫れにも拘らず、古に復ると云ふ様に導いて、余程気分を弱らせたのである。

[社会の影響]

其の結果、一番影響を受けたのは女子である。早稲田の如き男子の学校でも二割以上を減じ、官立学校でも余程影響を被ったと云ふことであるが、殊に女子教育は一番先きに影響を受けたのである。其の本はつまり経済と云ふことが本となり、夫れが保守的になり、沈衰と云ふことになったのであります。夫れで今年の世論は、女子には高等の教育は必要でないと云ふことになった。けれども其の割合には、女子教育には影響を被ることが少なかったのであります。アメリカでは今日、女子高等教育も盛んではありますが、昔はそ一ではなかった。女子大学の中で最も古い学校はスミス大学で、今日学生数は七千人以上である。併し最初の募集に応じた学生は、僅かに十五人でありました。其の総長のシーリーと云ふ人の談には、最初此の十五人の学生を得てから、二十年祭迄に五十人となれば自分は満足であると言って居られましたが、今から十余年前、私の行った時には、七百人以上となって居りました。

我国に於て私共の息の通って居る中に、数百の大学生を收容すると云ふことは、多くの識者、評議員達も等しく疑ひとした処であるが、本校は未だ十年祭も挙げないのに之だけの人数を有し、猶高等教育を受けんとする志願者を持つて居ることは、敢て少しとするには足りないのであります。

[英文科につきて]

併し兎に角、一年生の中で英文科は少ない様であります。我が国で英文科を修めよ一とする人の少ないのは何故であるか。夫れに就いて説のある人は……

此間、此校に長く居た人で、其の人の奥さんも高等の教育を受けた人である。其の人の話に、あなたの学校にも英学科がある。其の他の学校にも英学科があるが、英学を修めた婦人は外交官の奥さんになるか、然らざれば用ひ処があるまい、

と言はれた。我が国の識者と言はれて居る人の中に、教育と云ふことの少しもわからぬ人がある。人を作るとか、婦人の生涯を発達させて行かう、世界と交通するには外国語の一つ位は是非わからねばならぬ、とか云ふ考へを以て教育する人は、誠に少ないのであります。ど一も其の教育と云ふ考へがわからぬ為に、子供が望んでも親が許さぬと云ふことも沢山ありましょ一。男子が試験を受けて何かをしよ一と云ふ時には、何に限らず外国語は必ず受けなければならぬ。夫れにも拘らず、親が教育と云ふことを認めない為に、女子には殊に此の教育を受けさせないと云ふこともあるのである。又外国語を修めるならば、成るだけ外国人の多い宣教師の学校に入れた方がよいと云ふ考へがあると云ふことも一つです。

[分量的教育]

夫れから実力と云ふことについても、今日は力を見るのに悉く試験を以てする。其の試験は分量を見るのであります。つまり出来るだけ耳を慣らし、口をならし、出来るだけ物を沢山覚えておく。即ち心の蔵に出来るだけ知識の富みを積み、貯へておくことと云ふことが、今日多数の人々の傾きであります。

そこで教育に二つの方法がある。一つは分量的で、今日行はれて居る試験に自由に及第すると云ふ仕方でありました。けれども、そ一云ふことでほんとの力を養はれるものではない。如何なる人と云へども、今世界にある分量を悉く頭に入れることの出来るものではありません。人を試験すると云ふことは、自分の知って居ることだけを問ふから出来るけれども、其の人達がそ一云ふ試験を受けることが出来るかど一かは問題である。そ一何も彼も覚えて居らるゝものではない。又そ一云ふ試験をすることは、他の力を非常に害するもので、人間を矮小にし、知的生命を短くするものであります。第二の国民を作るべき母となる処の婦人に、斯くの如き学問をさせるのは、其の人の為に考へても、国家の上から言つても、大に考へねばならぬことで、私共の非常に躊躇する処であります。

そこで世界の大勢から考へても、此の校でとって居る教育の方針によるより外はない。又此の方法を他の学校ですること出来ぬ。此の人間を作ると云ふ、四囲の境遇を作ると云ふことは、決して他の官立学校では出来ないものであります。今日の教育は長くかゝる様であるけれども、将来大きな物に発達するのである。此の仕方によるときは、一つの事が出来る様になったならば、他の多くの事が皆出来る様になる。故に此の校の教育では出来上ることはないけれども、所謂大器晩成である。其の大成の域に達するのには生涯かゝるのであります。夫れで、ど一しても此校の英文科の仕方に由らねばならぬ。ど一しても根本から人間を作るには、此の方針によるの外はないのであります。併し世間では、力と言へば分量的にはかるのである。又教育と言へば職業的に考へて、我々の様な考へを以ては施さないものであります。けれども、あなた方一年の組は今年に於て益々其の品質をよくする、其の品質を高めると云ふことに、充分骨を折つてお進みになることが大切であると思ひます。

[中表紙]

大学部二年に於ける御話
明治四十二年十二月十八日 *

* 注：本文の内容から推して、十二月十九日の誤記と思われる。

明治四十二年十二月十九日
大学部二年にて

今日は皆さんから、私が講じて居りました深い考へをとって、最も深い印象を述べる様な態度、及び詞を聞くことが出来て、私は誠に満足すると共に、深く考へて居りました。独りあなた方が考へをお總めになって発達なさったのみならず、其の中には銘々の新しい経験も加はって居ることと思ひまして、私は誠に満足致します。皆さんの経験を聞くだけの時間のないことは残念であります、併し之れだけの人数が代表なさった訳であるから、其の外は凡そ之に由って推し測ることが出来ると思ひます。併し猶今日お述べになった外に未だ考へがあるも、少し違ふ考へがあると云ふ方があるならば仰やうて戴きたい。大同小異はあるが、今お述べになった様な考へもある。大体同感であると言はるゝ方は………多数
[第八回生の責任]

第八回生の責任はど一云ふ傾向を示すのであるか。其の中にはど一云ふ種が替んで居るか。其の健康、其の力、其の境遇は果して我々の希望に副ふことが出来るかど一かと云ふことは、深く問題にもして居り、心配もして始終気にかけて居るのです。如何となれば、皆さんは自分も仰る通り、我が女子大学の十年祭、我が国女子高等教育の第一期の結果を証明する所のものである。之に由って、我が女子大学の運命がきまると言ってもよい。従って、我国女子教育の運命が決せらるゝと言っても宜しいでありませう。其の訳は余言はないでもおわかりになり、又ど一云ふ理屈を聞かないでも自から感ぜざるを得ないであらうと考へるのであります。

昨日、一年にも申した様に、アメリカの様な自由の国、斯くの如き共和国であつてすらも、亦人間の平等を称へ、本能的に婦人を尊敬すると云ふ歴史ある國に於てすらも、其の初め、女子を人とする高等の教育を与へると云ふことについては、識者の間にも意見がまちまちでありました。スミス大学、第一の校長シーリー氏の如きも今から三十年前、女子大学を立つるとき、最初僅かに十五名の入学生を得て、二十年祭迄に五十人となれば自分は満足すると言はれましたが、今日では七千人以上となつて居る。私が参りました時、即ち今日より十余年前には七百人計りありましたが、到底二十年にもならない中に斯くの如き有様を以て、アメリカは進んで参つたのである。

[女子高等教育]

我が国におきましても、女子の高等教育がそ一早く発達し、そ一早く出来るものとは予想もしなかつたのである。然るに案外にも多数の入学志願者があつて、年々非常なる盛況を呈

し、殊に日露戦争の前に於て第二の発展も遂げることが出来ました。併し斯くの如き勢で進むと云ふ事は、一方には随分世間の嫉妬心をも受け、多くの有力なる反対をも受けたのである。其の後、経済界の不振から社会が保守に傾いて、女子には余り教育を施す必要はないと云ふ様な論も起り、夫れのみならず、丁度嫌ふ所にいろいろな風説を立て、事実を捏造して頭を抑へつける様な事をし、直接、間接、随分の妨害を被つて居るのである。夫れで果して、此の沈衰して居る傾向を挽回し得るか否や。此の敵に対する我が軍の作戦、計画の中には、ど一云ふ勝算があるかと云ふことを考へたならば、随分困難である、六かしいと云ふことはわかつて居ります。けれども、ど一しても我が国の世論を挽回する、我が国婦人の教育を進むる様に導くと云ふ事は、我々の任務である。然らば其の挽回策としては先づ第一に、斯う云ふ婦人の徳が発揮する、斯う云ふ婦人の力が現れると云ふ結果を挙げんければならぬ。猶是だけの責任を成し遂げ、も一一つ発展するには、ど一しても、も一一つ根本の力が出来ねばならぬ。ど一も未だ女子の力は薄弱であると云ふ感じを持って居る上に、いろいろ萎縮せしむる様な暗示を与へるのである。時候で言へば、今は丁度冬の真盛りであります。此の最も困難なる時機に生れて、最も重大なる任務を背負ふて居る皆さんは、恰も旅順に向つて居る。殊に八回生は、二〇三高地を下すと云ふ任務を負はされたものである。そこで我々は果して、よく之を占領する処の力があるのであろうか。若しも此の二〇三高地を占領する迄に行かなかつたならば、我々の目的地に達することが出来なかつたならば、我が軍を進むることが出来なかつたならば、我が国家はど一なるであらうか。之は我が国の忠勇なる男子の、一日も忘るゝことの出来ない事柄である。故に我が多くの青年は此の爲には喜んで犠牲となつて、殆んど海を埋むるに屍を以てしたのである。二千人の一隊は残る所、僅に五、六十人になつて、屍を野に曝したのである。此の勇氣に由つて、此の忠義なる精神に由つて、と一と一最後の大勝利を占めたのである。今我が国の女子教育の運命は、恰も旅順の最後の戦争に彷彿して居るのであります。内外共に随分多くの困難を被つて居るのである。如何にして我々は勝利を得ることが出来るかと云ふことは、日夜忘るゝことは出来ないのである。併し丁度此の月に於て、是れ迄進んで来たのです。是れ程もやはり我が国の精神は鼓舞して来たのである。如何に困難に見えても、如何に敵が強くあつても、之で負けることはない。退くことは出来ない。併し如何にして勝ち得るか云ふことは問題である。斯くの如く大切なる時期、斯くの如く困難なる時に於て、あなた方は第八回生の任務を全うしなければならぬ時に當つて、あなた方はど一云ふ決心であるか、ど一云ふ態度を以て居らるゝのであるかと云ふことを心配して居りました。然るに皆さんのお話を聞きまして、実に私は今日皆さんに意志が出来た、確に私はあなた方の中に今後大に発展すべき力を備へて居ると云ふことを認めまして、此の勢で進むならば、之より驚くべき大なる力を発揮するであらうと云ふことを自ら信ずることが出来て、深く喜ぶ処である。併しながら未だど一も決心の足りない様な所もあ

ったが、今朝私は皆さんと茲に会しまして、大に意を強うすることが出来ました。我が国、第一維新は吉田松陰先生を始め、近くは伊藤公に至る迄、多くの青年が志を立て、国家の為に生命を捧げたのである。国家の為に斃れたのである。伊藤公は七十年で斃られたけれども、彼の人が志を立てたのは十七、八の時である。夫れから大に決心して、五、六十年の間、一貫して進まれたのである。今や我が国の女子を高めよ一、進めよ一と決心して、其の先きに立った御婦人にして男子と同じ決心をし、ほんとに我が国の女子教育の為に生命を捧げる、其の為に討死をすと云ふ婦人が、我が国にあって宜しいことである。又なければ我が国を救ふと云ふこと、我が国婦人の運命を拓くと云ふことは到底出来ない事でありませぬ。

此の八回生の中から一人でも此の責任を感じて、此の時を見る事が出来て、一人でも生命を捧ぐる事が出来たならば、実に国家の幸である。願はくは一人ではなく、第八回生はこゝをほんとに自覚して、茲に此の責任を全うしよ一、出来るだけ尽そ一と云ふ処の大決心を、ほんとに生命を捧ぐる処の、ほんとに忠と云ふ精神を確立して進むならば、此の勢を挽回し能はぬと云ふことはない。如何なる敵にも勝ち能はぬと云ふことはない、私は深く信ずるのであります。我國には国難の為に生命を捧ぐる武士に、乏しくはござりませぬ。実業の為に、政治の為に一身を犠牲にする志士も、乏しくはない。けれども、猶茲に欠けて居るものがある。夫れは精神である。宗教と云ふこと、又は国民の教育と云ふこと、つまり此の精神、道德の方面である。我が国の政治家に道德家に欠けて居ることは、是れである。も一つ高尚なる人格、も一つ高尚なる団結、人間の最も高尚な、最も根本な処の働きが、も一つ発揮することが出来ないのです。さて此の任務を全うし得る者、其の新しい処の世界を開拓し得る者は何処にあろ一かと言へば、私は実に我國の婦人にあると思ふ。今後の我が国の文明の発展、今後の我が国の第二の発展と云ふことに新要素を現すもの、新要素を加へるものは、実に我が国の婦人である。

此の高尚なる戦争の為に、此の高尚なる天国を成らせんが為に真に犠牲となつて、真に一身を捧ぐるものが我が国の婦人界から現れまして、其の人々に由つて其の婦人の徳、其の婦人の力を顕しまして、始めて我が国の困難に打ち勝つことが出来るのであります。又之れは世界的、平和的大戦争に勝利を博することが出来ると、私は信ずるのであります。

[八回生の目的及び理想]

夫れで私があなた方に望む処は、ど一か此の四十二年の暮に於て、皆さんの位地の如何に大切であるかと云ふことがおわかりになつて、茲にあなた方がほんとの決心をなさつて、茲に八回生の目的、理想を確立することが出来たならば、今後驚くべき力を発揮しよ一と思ふ。併し第三年生の第一期に入らぬ前に、即ち此の年の暮に於て、深く此の事を考へ、其の責任がわかつて第二年生が三年生と同時に深くお考へになり、堅き決心をなさつたならば、私はあなた方に対して望みを属するに足ると思ふ。又我々が第一期の結果として現そ一

と思ふ実力、第八回生の品性及び全体の校風を作る上に、非常に有力なる感化の源となることと思ふ。夫れは、只私はあなたの決心にあると思ふ。只あなた方の一致協同の精神に由ると思ふ。故に今日此の決心、此の精神が出来たならば、決してあなた方は此の働きに由つて出来んと云ふことはないであらうと、信ずるのであります。夫れで私は今、あなた方の此においでになる数を数へて見ると、欠席して居る人も合せて第八回生の数は百三十五人あります。此の人数は是迄の卒業生に比して、さ程少ないとは言はれぬ。又多いとも言はれません。一番頂上に達した数は第六回迄でありました。夫れに比ぶれば幾らか少ない様ではあるが、此の中で奮闘努力して途中で討死するか、又はいろいろ家の事情の為に志を捨てて討死してはしまひますまいけれども、卒業迄には幾らかそ一云ふ者もあるかも知れぬ。併し乍ら願ふ所は、お互に助け合ふて、途中で斃るゝ者のない様にして戴きたい。病氣や家の事情の為に斃るゝのは、之は討死でありますけれども、之は斃れても決して斃れたのではない。けれども敵に負ける、困難に挫折すると云ふ様な、此の人の少ない時に一人でもそ一云ふ者があつてはならぬ。そ一云ふ様な臆病なもの、操を變ずるものは、此の八回生の中に一人もないと云ふ様になりたい。若し臆病なもの、意志の定まらない者があるならば、組全体の力に由つて、ど一かそ一云ふ弱いものを助け、相救ひ、相励まして、此の同盟軍に加盟させる。ど一しても意を決して志を定めて、今後迷ふ事のない様に充分此の際に導く。そして来年を迎へる時には、私共が希望に満ちて、勇ましく進軍することが出来ることを望むのである。

是からの問題は実に困難であり、四圍の空氣が冷たい為に、そ一云ふ氣に感染すると云ふことも起らうけれども、組を考へ、全体を考へ、又銘々の将来と云ふことを考へて、充分此に背水の陣を張つて、最後の戦争に戦ふ、銘々此後の方針を立つと云ふ決心が出来るかど一かと云ふことである。けれども、今朝皆さんの御発表になりましたことを以て見ますれば、只考へと云ふばかりではなく、夫れは信仰になり、深い感情になつて、つまり Emotion と云ふのは、力である。何事にも勝つと云ふ一つの精神が、やはりあなた方の中に発揮して居ると云ふことは、私の深く感ずる処であります。多分皆さんの中には、そ一云ふものが出来て居りはしないかと思ふ。[永久不変の意志、及び精神]

之は、皆さんおわかりでありませぬ。あなた方は八回生の責任、今申した大なる關係の為に、如何なる困難も堪へ忍んで出来るだけの事を尽す。又如何なる危険にも屈せず、斃るゝ迄已まない。即ち、永久変らない意志を以て、永久消えない処の精神を以て尽すつもりである。又自分計りではない。多くの考へを容れて、互に相助け、相協同して進むと云ふ決心を今日お持ちになつて、今年中に其の考へが明らかになり、其の態度が出来たならば、明年から著しく働きの上がることと思ひます。

終りにおきまして、今私が申した意味がおわかりになつて、我々は茲に其の決心が出来た。又夫れを深く考へて其の決心をして、一致協同しよ一と云ふ考へであると云ふお方は、一

寸起立して戴きたい。夫れでは其のしるしに、此処に書いてある唱歌を歌って閉会致しましょー。

海原はるかに漕ぎ出でよと 大舟と楫のよそひなりぬ
さらば我れ等がもなにしたゆまむ 波は高くとも風あらくとも
目ざせる行手を示す光りは 暗きを照せり
変らで永久に 進めよ 我れ等が彼岸は遠く たれあと
つけぬ 海路はるか いざ共に祝はむ けふの船出を

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十二年十二月二十二日

明治四十二年十二月二十二日
大学部全体

今から三週間前の水曜日、即ち十二月の一日に、私が大坂から疲れて帰りまして、三年生の例会を催しました。私はいろいろ学校から招きも受けて居りましたし、其の他いろいろの仕事もありましたけれども、大事な時でありますから、少しは無理をして帰って来まして。其の十二月一日の会には必ず今年の結果がわかるであろー、此の年の収穫を見ることが出来るであろーと、楽しんで居りました。然るに、思ふた程に力が現れなかったのです。けれども私は失望は致さなかったのです。併しまだわからなかったのです。どー云ふ傾きがあるか、どー云ふ潜伏力が出来て居るやら、どれ丈けの内容が籠って居るやら、或は居らんやら。出来て居るやら居らぬやら、或は又今年も希望して居る処の、切望して居る処のものが出来て居るか、出来ないかと云ふことは、少し心配を致したことであります。

其の時に、石黒さんがお目にかゝりたいと云ふことでありますから、夫れでは明日お出でなさい、とお約束をしたのであります。処が其の翌日、日英博覧会の出品を見に参りました処、どー云ふものか其処で急激な腹痛を感じましたから、支度をといて居ります中に手足が冷えて逆上して参りましたので、脳充血で、もあろーかと実は考へましたから、も一是れきりかと思ひながら、何も心残りはありませんでしたけれども、どーも此の年の暮は充分でなかったが、今年も之れでしまひかと云ふ感じが起つたのである。けれども之は自分の判断違ひで、腸胃の方から原因して、あたりものをしたのである。夫れから間もなく全快致しました。

其の時に、今石黒さんが言はれたよーに、私の約束を履行することは出来なかったが、其の後お書きになったものを見ると、少しも心配はするに及ばなかったのである。そーして急いで面会をする必要もなかったから、其の儘になりました。其の他の方との御面会も未だ其の儘になって居りますが、御面会の必要ある方は、二十四日後ならば何時でもおいで下さい。夫れから引き続いて私は、今年の事については心弱かに心配して居りましたが、之れは杞憂かも知れぬと思ひながら、

わからぬ為めに大に心配をして居りましたが、此の前の土曜日に一年の横全体に面会を致しまして、其の一年生全体の経験を聞き、又質問などを聞きました。此の時には、私は予想外であった。実は二年生はどーなって居るか日頃心配して居りましたが、之れも亦案外でありました。考へも実に、私が非常に皆さんに望んで居た処のもの、即ち婦人の頭の開けることを望んで居りましたが、考へも深くなり、熱心な態度が現れたので、大に満足することが出来ました。

夫れから昨夜以来、あなた方のお出しになった歳暮の感を、極ざつとではあるが、悉く目を通しました。此に至って私は、今年是非常に満足を感じました。丁度二日の日に、今年も之で終りか、働きも之だけか、大層早かった喃と思つたのは、之れは杞憂であつたよーに、今年の結果も案外に満足な、今年の結論を結ぶことが出来たと云ふ感じを充分に感じて居ることである。夫れは毎年此の暮れにおきまして、全体の先導者たる処の三年生に於て、著しき特徴を発揮する、案外に力が現れると云ふことは、殆んど毎年経験する所である。殆んど之れは当り前の事よーになって居ります。

然るに今年には普通予科、英文予科等の最下級から最上級に至る迄、大体から見た処で申しますと、全校が力もよく揃ふて、よく調和し、よく統一して、我々の希望して居る処に余程向ひかけて参りました。殊に普通予科の如きは、是れ迄一年と一緒にして修養を進めて行つたのでありますが、今年は一つの必要の為に、つひ一年も三年と組を合せたから、已むを得ず予科並びに予科一年も、やはり三年と一緒に倫理を聞いておいでになったからして、之れは余程かかしいことと思ふたのです。

併し答案を見ると、中々よく出来て居る。一言で言へば、其の考へも大切な処に触れて居る。且つ、頭で只冷静に理屈を考へたと云ふ計りではなく、其の中には随分決心が出来た処もあり、生涯について考へた処もあり、根本の修養について経験をなされたと云ふよーな真面目な処も見える。夫れで普通予科から一年、二年と程度が違ひ、又学部によつて幾らかの等差がありますが、先づ大体に於て私は深く満足し、感心して読んで居りました。

猶ほ三年生に就いてもどーかと云ふことを少し心配して居って、どーも働きも形の上に見えることには大分出来て来たよーに見えるけれども、其の真髓たる可き思想の上に、感情の上に、充分内容が現れて来なかつたよーな感じもある。然るに、此の二週間のうちにお出しになる Note の上にも、亦所感の上にも大分思想が現れて参り、いろいろなる決心や目的の定まつた所も見えて、昨夜は誠に愉快に寝に就くことが出来、又今日此の時間も、大に楽しんで出席したよーな次第であります。

夫れから今日の三年生の段々発表になりましたお考への中には、少しく幾分か出来た、或は誠に力が不十分であった、充分に第七回生の責任を全うし得なかつた、或は其の特徴を充分に発揮し得なかつたと云ふよーな詞。充分に確信した処の感じが鈍くはあるまいかと云ふよーな感じが、二年、一年或は予科あたりに起りはせぬかと思ふけれども、之れは一年、

二年にもあった。併し私は、目的を見出した、生涯の方針が定まると云ふよ一な積極的の態度を示し、大に元気を發揮したよ一な態度を現して居られる。之れは全体の傾向であります。

其の若い、其の妹達の、そ一云ふ元気ある処の考へに対して、三年生の答へがも少し力が出る可きではないか。も少し積極的の態度が発現す可きではないか。全校を動かす処の熱心、熱情が足りないではないかとお感じになるかも知れぬ。夫れには、私は訳があると考へるのです。

[仕者と老者]

責任を全うすることが出来なかった、大に第七回生の特徴を發揮することが出来なかったとか、或は其の幾分を自覚致した、幾分目的を確立することが出来た、幾分卒業後の方針をきめることが出来たと云ふ、幾分と云ふ字が大分つく。又少し遺憾であったと云ふ詞があるのです。之れは事実であるのです。成る程、未だ充分、未だ之で充分な決心が出来た、充分此の責任を全うしたと云ふことは、言へない処があるのです。若い時には前きの方を急ぐのです。又先きの方を始終見るのです。けれども年を取ると、段々将来の責任を重く感ずるよ一になる。此に於て後方を顧みれば、猶ほ足らぬ処がある。前途を思へば、猶ほ微弱なる所があると思ふのであります。之れが真実なる、誠実なる所であるのです。又自ら深く考へて見られて猶ほ足らぬ所がある、猶ほ不十分な処があると云ふのは、之れは謙遜なる態度です。第七回生が真面目な態度をとり、且つ自分を謙遜にし、凡ての人の弱点である処の、虚を去りて実を現す、実を自覚して、ほんといに之れから決心しよ一、ほんといに之れを実現しよ一と大に決心した処である一と、私は思ふのである。自をほんといに茲に見出して今後の決心をなさたと云ふことは、此にやはり大きい力の潜んで居る処である。

[三年生の重任]

又三年生が今迄努力せられた、又深く考へたしるしである。其処に、やはり深いものが貯へられて居る証拠である。猶ほ銘々で四学部から書いてお出しになったものにも、幾分出来た、又は不十分であった、足らなかつたと云ふ処に、やはり実があると云ふことを認めなければなりませんと思ひます。又三年生は仕事が多いのである。組に由っては夜も寝ずに責任を全うしよ一として、努力して居ることもある。又論文を書くこと云ふ重任もある。将来の方針を考へ、第七回生の責任を全うする。此の間に立って、此の九年間の仕事と校風、其の間の精神等を伝えておかねばならぬと云ふことがある。

卒業後、社会に立って勇氣を失ひ、自ら頭が下り、自ら沈み勝ちになると云ふこと、之れも已むを得ぬ自然の勢ひである一か。斯くの如きことも、我々は悲しむに足らぬのであります。

今年の結果は、大に満足を表することが出来る。否、満足ではない。此に我々の久しく待ち望んで居た、彼の力が見えかけて来たよ一に思はれます。此の明治四十二年は我が国の女子が生まれたる、誕生の年ではないか。我々の待ち望んで居る賢婦が將に生れんとして居る。或は呱呱の声をあげたかと

言つてもよいと思ふ位に、いろいろなる事実と、傾向と空気が出来たかのよ一に、私は感ずるのであります。

第一に、大分に頭が纏まって参りました。大分其の考へが深く入らんとして参りました。理想が覚醒せられて来て、是れ迄我が国の婦人の頭に考へることの出来なかつたこと、又考へる興味も持たなかつたのであります。其の考へが考へらるよ一になり、味ははるよ一になった。只一時的のものではなく、永久的なる根本的の力を発現せんとして来た。悉く之れを総合すれば、此の中に現れたものを一つにまとめて見ましたならば、私は大に満足に思ふ点があるのです。

力の根源が開かれました、婦人の自覚が覚醒せられんとして参りましたと言ふことは出来るかと思ふのです。今日迄そ一云ふ考への起つた経験もあるが、併し今度のよ一に深く、其の感じがあなた方御婦人の頭の深い底に、ほんといに意志となつて、深い思想となつて、深い考へとなつて現れたことは、私は今度が大方始めてある一かと思ふ。併し、然らば真に婦人の人格が此に生れて了うたか、其のよ一な我が国婦人は真に生れたものであるかど一か、斯くの如き団体、斯くの如き有機体は果して成立したか否やと云ふ問題になったならば、或は躊躇する点もなきにしも非ずである。又之れが将来如何に發展するかは、誠に心配である。

併し自分は、確に出来ること云ふことを信ずるのです。我が国の婦人の中に、斯くの如きものが確に胚胎したものである。今、此の堂にお出でになるあなた方の中に、將に現れんとするものがぎざして来たこと云ふことは、信じ得ると思ふのであります。そ一云ふ抽象の詞ではわからないかも知れませんが、いろいろ分類して証拠を挙げれば、直ぐに分かることが出来るのであります。此に、終りに臨んで皆さんに望む処は、ど一か今萌した処のものを挫かれぬよ一に。將に起らんとせるものを破壊せられないよ一に。其の生命を奪はれないよ一に。銘々に注意し、全体一致協同すると云ふことが大切である。万一油断をなし、誘惑に陥り、敵に辟易致したならば、是れ迄にして折角生れんとするものも、折角の出でんとする力も消されて了うと云ふ恐れがあるのであります。

第一に皆さんに御注意しておきたいこと、今から暫時の間お別れするに當つて、決心して充分な用意をして別れたいと思ふ処はいろいろござりますけれども、第一に、今銘々にお持ちになつて居る処の決心、お立てになつた所の目的、燃えて居る処の其の信仰を失はぬよ一にすると云ふこと。一言で言へば、今後の方針、發展に就いては、此の萌さんとする処の萌芽を育つことに就いては自ら守り、自ら為し、自ら動くこと云ふ自信です。自ら信ずる信仰、或は目的、理想、精神と云ふことは、いろいろ詞はあるが、其の實在は同一のものである。つまり我が内にある処の力に依ると云ふことである。[何故に真の力は出でざるか]

何故、あなた方にこゝで、も一いつ力が出ないかと云ふに、他の訳ではない。つまり自分の中にある処の力を信ずることが出来ないからであります。自分の中には非常なる可能性を持つて居るのである。此の可能性を見出して、若し自分が自分の生涯を捨てよ一と、夫れの為めに捧げると云ふ決心をきめ

ることが出来たならば、能はぬと云ふことはないのである。恐るゝものはない、心配になることはない。其処を思ひ、夫れを見出だしたならば心配はないのです。つまり力のないのは、夫れが足りないのです。

[人生の意義]

不満足な、無味乾燥な、単調な、倦怠な生涯、又は無力なる人、弱い人と云ふのは、其の信仰の甚だ乏しい人である。其の信仰と云ふもの、人生の意義と云ふものは、其の信仰にある。其の信仰と云ふものは其の人の目的、其の人の意志、其の人の目的の實在にあると云ふことは、確に信ずるのであります。夫れはお出しになった答案に由つてもわかるのである。其の目的が確立して意志が強固になり、信仰が固まると云ふことは、何に由つて出来るか。私は非常に満足して、非常に私は喜んで、安心の出来るお方もある。けれども、も一つ安心の出来ない処がある。成る程考へも纏まって居るよ一である、筆には現れては居るけれども、熱烈なる感情が伴つて居ない。非常なる熱心なる覚悟はあるが、未だ生命が出来たと云ふ訳にはいかないのである。

此の間から大分此の中には、目的をおきめになることが出来た、又自分の為す可き責任も感じて来た、又夫れを為すには無限の力を要し、又人に譲ることは出来ない、人に代つて貰うことの出来ぬものであると云ふことは、わかつて来たよ一です。併しながら、も一つ遺憾なことがある。一言で言へば、皆さんの其の目的に対する態度、又他の詞で言へば、他に対する、団体に対し、国家社会、又は桜楓会、及び同胞に対する処の愛、熱誠が足りない。私共銘々は、今此に山の如き困難でも、苦痛でも、亦如何なる敵が攻めても恐るるに足らぬと云ふものは何であるかと云ふと、即ち愛、熱烈なる愛です。私共が目的を確立して之れを達しよ一、或は我が国婦人の世界を開かう、あなた方皆さんが此の桜楓会に対し或はお友達に対して尽さんければならぬと云ふ、其の責任がある。夫れを思ふて夜も昼も忘るゝ時なく、夫れを望んで一刻も忘れることが出来ない。其の熱望、其の渴望、飢え渴く如き義を言ふのであります。此に私は力があると思ふ。丁度、慈母が愛子の為めにならば生命でも捧げる、子の為めにならば死ぬる所の彼の母の愛のよ一に、此の目的に対する処の燃えるよ一な愛、熱情、其の目的を立てゝ慕ふ所の何物でも捧げる、此の為にならば生命でも捨てるよ一な愛が、熱心が燃えて来なければ、力は出ない。目的の為めには、斯くの如き愛、斯くの如き忠を尽そ一と云ふ熱情、目的の為めには止むことの出来ない精神が燃えて来なければなりません。

目的の為めの努力奮闘は、夫れから出るのであります。之れがあれば、如何なる大責任と云へども堪へ得ないと云ふことはないのです。銘々の中には此の力が内にあるのです。それ故に皆さんは、其の力を信ずることが必要です。若し皆さんが信仰を失へば、其の翌日から力を失ふのです。何、女である。実につまらないものである。又お前のよ一なひ弱いものはこのよ一なことが逆も出来るものではない、と云ふよ一な暗示を与えられると、自らを疑ひ、自らを卑しんで、力を失ふのであります。

故に私は、皆さんがいゝ暗示を受けて、夫れから其の信仰は、やはり自分だけのものではない。人に与へる。人を愛すると云ふ熱烈なる他愛心、益々自分を人に及ぼして行くことに由つて、益々我々は自分の内に自分の力を貯へることが出来る。此の自分の中にある力は、又我々に唯一の特徴がある。価値がある。決して自分に代る人はない。銘々の中に皆違つた力を持って居ると云ふことを信じ、其の信仰を失はぬよ一にすることが大切であります。

其の信仰があるならば、私は熱烈なる愛を起すことも出来、山をも移す所の力が出来、殊に御婦人の特性である処の精神的生命を発揮することが出来るものであると云ふことを、信ずるのであります。

[中表紙]

第二学期終業式の御話

明治四十二年十二月二十四日

明治四十二年十二月二十四日

第二学期終業式にて

此の明治四十二年は非常に忙しい年であり、又内外から非常な圧迫を受けた時でありましたが、又社会は之れが為めに甚だ沈衰して振はなかつたのでありましたが、本校に於ては教職員、卒業生、大学部生徒、及び高等女学校凡てが全力を集中致しました為に、著しく深い処に強い力を現したと云ふことを、一同が感ぜらるゝであらうと思ふのであります。殊に今年は平年に比べて、非常に仕事の多い時である。其の上には是れ迄経験のない日英博覧会の出品を案出し、又之れを生徒の手で拵へ上げると云ふよ一な、重い責任を負ふたのであるにも拘らず、又其の外非常にせはしく仕事をしたのにも拘らず、思想の方、即ち考へる力、学ぶ処の力も同時に現れて来ましたのであります。此の前に、大学の方では私の見る処を申しておきましたが、高等女学校のお書きになつたものは昨晚、極大体目を通して見ましたが、之れも案外考へが纏まって居て、之れ迄高等女学校卒業の時にも多く見る事の出来なかつたものである。又今年の暮の学業成績を見ましても、平年に劣らないのみならず、一段だけは確に進歩することが出来ました。之れは我々が深く喜ぶ所、一同の満足に感ずる所である。殊に日英博覧会の仕事は不慣れなること、経験なきこと、其の上に本校に於ては全く学生の考へ、学生自身の働きに任せたと云ふことである。其の仕事を世界の公衆の前に見せる、現すと云ふことであるから、甚だ責任の重いことで、大に注意を致さんければならない。十分に批評を加へなければならぬ。出来るだけ之れを精選して拵へなければならぬ。之れを其の他の学校、即ち教職員の力や、専門家の力によって出来た処の成績に比較するならば、及ばない所もあろ一。殊に英語のPrintの如き、書くと云ふことは見えにくい。之れを押すと云ふことは不慣れである。果して此の手

際はよいかと云ふことになって、も一つよくしよと云ふので、も一時が後れて了うたのにも拘らず、やはりも一度やり直して、今度はも一つよく仕上げて見よと云ふことで、昨夜は三時頃迄かゝったと云ふことである。

[英国氣質]

英国に於ける画家の経験を聞くに、社会に名を知られ、自信も出来て、一つの理想を描かんとして三年の苦心を積んだ。そして出来上った所の絵画について其の欠点を見出だすや、立ち所に三年の苦心を引きさいて、躊躇なく之を抛って、更に力を入れ、更に精神を籠めて、再び第二の製作に着手すると云ふことは、沢山聞く処である。或は十年間かゝって書き上げた原稿を失ふて、又は数年の精力を尽した産物に失敗して、少しも失望する所なく、再び借旧の元気を養ふて自分の志を成し遂げたと云ふよな氣象は、実に英国社会を支配して居ると云ふことが言へるのである。

又此の頃、私の家の水道口が続々こはれる。Lampのほやが破損する。呼び鈴がきかなくなる。ど一も我が国で拵へたものは損じ易くて困るのに、一つ、こはれないものがあります。夫れは自転車です。英国で出来たものは、誠によく出来て居ります。之れを思ふても、英国に出すものは余程工夫をしなければならぬ。精巧を極めねばならぬ。念を入れねばならぬ。凡て事を充分にすると云ふことは宜しいが、経験を積まない事をよくするのは、甚だ困難である。

私は夫れだけに、皆さんがよく骨を折ったと云ふことを知って居っても、随分批評をする。氣にかゝる処は遠慮なく、改めたい所は打ちあけて批評を加へたのであるが、今年あなた方の仕事は其の批評を喜んで受けて、幾ら誤まっても、又幾ら不出来であっても、幾度でも改め、幾度でも改良し、幾度でも仕かへて、出来るだけ完全なものにする。飽く迄も自分の技を進めなければならぬと云ふ態度を以て、之れをお拵へになったと云ふことは、之れは独り一部の仕事であるのみならず、全体いろいろ仕事の種類はちがふが、出来る丈けの力をお尽しになった。其の態度に由つて、其の熱心によつて、今年の先づ結果はあげることが出来たと思ふ。

[経済的方面]

最初我々の立てた方針、計画の八分通りは仕遂げることが出来た。其の中で、其の結果を外部に発表することの出来ぬものがある。夫れは経済的方面であります。経済と云ふことが如何に人生に大切なものであるかと云ふことは、之れ迄余り感じのない女性、即ちあなた方に迄、実験することが出来るである。此の社会の不振、人心の沈衰、四圍の境遇の圧迫、今年我が国が被つた所の被害凡ての困難の本は、今年の経済的困難に原因して居ると云ふことは、わかりにくいことではない。又近くは一家の不和、不幸と云ふこと、甚だしきは一家の破滅と云ふよな出来事は、多くは此の経済の困難と云ふことから、又その経済の困難に勝つ処の知識と勇氣とのない為めであると思ふことは、我々の多く見る処、又我々の多く経験する所でござります。

然るに明治四十二年は其の困難に遭遇致して、之れに所するの途を講ずることが不充分であつたよな感がする。此の

時に於て、教育の上に、校風の上に入れることが大切であると云ふことを、経済係は殊に苦心して居られる。其の研究、働きは充分に現れて居るのであります。桜楓会の研究部に於ても、其の職業についても出来るだけの研究をし、又大学部三年に於ても、いろいろ此の夏以来研究をお積みになって、其の結果を実際に行はうとし、努力せられたことは確に事実である。けれども容易に出来ることではない。いろいろの困難が沢山に其の道に横たはつて居るのであるから、非常なる決心もいり、非常なる研究をも積んで、之れを組織して実行せんが為めに出来るだけの力を尽したいと云ふことは、充分我々の認めて居ることでもあります。

故に此の経済的方面も、決して等閑になつて居たのではないのである。私は斯くの如く實際の仕事が着々挙がつたと共に、思想の方も段々と深くなつて参りまして、あなた方自ら考へること、自分で自ら判断をすること、並びに自らを信ずることが出来るよになつたのは、即ち此の学問と行ひとが一致するよになる、修養と学問とが一つにならんければならぬと云ふこと、此の理想を実現するには本校の如き方針、組織でなければならぬと云ふことは、実に過去九年間の研究の結果、此の真理が大分証明せらるゝよになつたと云ふことは、我々が深く悦ばなければならぬことである。此の過去九年間に、殊に今年の困難なる四圍の境遇の烈しい時に當つて、斯くの如き結果を挙ぐることの出来たのは、偏に教職員熱心なる働き、生徒各自の熱心なる自動的、精神的の活動とに由ることと深く感謝し、深く喜ぶ処、深く将来について考へなければならぬことであると思ふのであります。

そこで今は本校に取つても、我が国家に取つても、実に大切な時であるのです。又あなた方の責任は殊に重大であるのであります。此の時に於て、あなた方の考へる処、あなた方の計画する所のものは明治四十三年の為めに、今後十年の為めに、目的を確立すると云ふことは誠に大切なことであります。之れについて私は一言申したいが、併し今日は高等女学校の小供も一緒に居りますので、余り六かしすぎるよになりますから、殊に高等女学校の小供の為めに、此のお休みは如何に用ふ可きか、此の暮を如何に過す可きかと云ふよな御注意を挟みまして、終りに大学部並びに高等女学校上級生の為めに申したいと思ひます。

高等女学校生徒の為に

之れは大学、高等女学校を通じてお尋ねするのでありますが、此の冬休みに、学校なり東京の地を離れて、郷里に帰る人は……

お歸りになる途中、又再び上京なさる道中、又家に帰つて冬休み中に注意をす可きこと、此の女子大学の学生と致して守る可きことなどについては、改めて私がこゝに御注意を致さんでも、毎年申して居ることであり、又寮舎なり組なりでして居ることであるから、銘々殆んど之れは習慣になり、又校風になつて居ることであるから、各自御考へになつて、帰る迄にちゃんと方針を立てゝお立ちになると云ふことが大切であると思ふのであります。そして今申したよ一に、仕事と思想と

は大分真面目になり、有効になったよーに見えるのである。然らば健康も増進したに相違ないが、此の二週間計り非常に寒かったので風を引いたり、咽喉を傷めたりしたものがあるかと思ひますが、どーでしょー。

先づ健康と言ひ得る者は……

夫れから此の冬になつて、咽喉を侵さるゝ人と、手を侵さるゝ人（志もやけ）と、ある様であります。之れは余り重い事ではない、直きに直ると思ふ人があるかも知れぬけれども、風をひくと云ふことは、やはり氣をつけんければならぬことです。夫れから、いろいろなる病氣が侵して来るのです。

[手の教育]

此の手です。寒やけをすると云ふことは、之れで生命を取らるゝことはないけれども、手と云ふものは身体の中で顔や頭の次ぎに大切な所である。又、頭に関係の深い処である。昔は目と耳とを教育すればよいと考へて居りました。併し今日では頭を発達せしめ、意志を強固にし全体の統一を計るよーな教育を施すには、是非手を教育することも併せて行はねばならぬと云ふことになりました。即ち頭の中の働きを筋肉に及ぼして、手に顕すと云ふことである。其の手を虐待して、血が出るよーなことがあつても構はぬ、所々傷を拵へても構はないと云ふよーなことは、小さい時はよいが大きくなつての傷は生涯治らないものである。又働き過ぎて一向構はない為めに、甚だしきは曲つたりするのである。夫れで此の手を奇麗に保つと云ふことは、自分の威厳を保つ上に、品性の上に大切な事でありませう。故に寒さを防ぐと云ふことが大切である。併し只寒さに当らないよーに手袋をかけて、仕事をする部屋は Stove を焚き、身には毛衣を纏ふて防ぐと云ふことではない。手袋をはめなくても、襟巻をせんでも、少々薄着をして居つても一向構はない、差支へはないと云ふよーな、強い身体にならねばならぬ。若い者が炬燵に入るよーなことはいけな。之れは健康の上から言つても、風儀の上から見ても宜しくない。然らばどーすればよいか。炬燵に入らないでも、手袋をはめないでも、Shawl を掛けなくても構はぬよーになるには、どーすれば宜しいかと言へば、之れは大抵わかつて居ることであるから、夫れを實行すればよい。つまり血液がよく循環し、夫れが為めに我々の身体に起る温度が、Stove にも縋袍にも勝るのである。其の健康から起る処の抵抗力を得るに何がよいかと言へば、運動が一番よろしい。今小供の歌ひましたよーに、忙しいと云ふことは誠に宜しい。此の年の暮及び正月は、あなた方の為めには年中の最も大切な時である。最も深く考へるべき時、最もよく働く可き時である。そして正月の第二日は、年中の仕事の仕始めを為す可き時であります。

そこで寮に居ても、家に帰つても、あなた方の義務を完うするには働かねばならぬ。朝早くから夜遅く迄、充分に力を込めて、充分働かねばならぬのです。食事の用意から、お客のもてなしから、凡てを引きうけて此の仕事をする、働きをすると云ふことが、一番病氣にかゝらない業であります。

私はあなた方が充分働いて、充分健康が増進して、充分精神が発揮して、内からも外からも病魔の襲ふことが出来な、

内からも外からも敵の狙ふ時がないと云ふよーにならねばならぬ。どーか風をひかないよーにしてもらひたい。又風をひいた方は早く養生をして、治つてもらひたい。此の年の暮、殊に正月と云ふ時は、誰れでも一番心の盛んになる時である。此の時に於て病氣などして居るのは、甚だまづい。どーかあなた方は心と働きとに由つて、充分病氣にお勝ちになることを私は希望するのであります。

夫れから第二には、お歸りになる方も、寮舎にお残りの方も、東京の家庭にお止まりになる方も、皆さんが此の四十二年と云ふ意氣消沈した空気の中にも、斯かる元氣なる、斯かる壯快なる、斯かる強固なる校風を作りました。斯かる精神が銘々に養はれたのです。此の精神、此の校風を以て家庭にお歸りになる皆さんが、銘々自分のお暮しになる処に、斯くの如き家風を作る、斯くの如き氣分を我がうちに作ると云ふことを、お勉めにならねばならぬ。之れは積極的です。私は今皆さんとお別れするに當りまして一番心配することは、今年社会の空氣が宜しくない。そーして感染する。折角温められた熱心を冷されて了いはせぬかと云ふことです。

私が思ふに、今年よーに高等女学校が志を立てた、生涯の目的を立てた、確信が出来たと云ふことはないのです。大学部は無論の事、あなた方はお互に会をして、組や寮舎の氣風を作ると共に、自分の家が元氣に満つるよーにならんければならぬ。学校に尽すよーに、御友達に親切を尽すよーに、家庭の為に尽して、お母さんに同情してお助けしなければならぬ。妹や弟や兄さんや姉さんに親切を尽さねばならぬ。又あなた方は学校で会をするよーに、自分の家に於ての相談会、夫れは出来ぬが、其の考へを以て積極的態度になつて、学校に居る時と同じ考へ、同じ精神を以て自分の家の為めに尽さんければならぬ。同じ犠牲の精神を以て、両親に、兄弟姉妹に仕へんければならぬ。殊に我が國に於ては、正月は遊ぶ、かるた会をする時となつて居る。此の間に悪交際、悪關係が始まるのである。そーして情氣を生ずるのである。何故に此の正月に遊ばなければならぬか。何故に此の大切な時になまけねばならぬのであるか。身体が一番強壯になり、精神は最も満ちて居る時である。即ち正月は計画を立てる時、物を始むる時である。此の時に當つて、遊惰になり不規律な僻をつけると云ふことは、甚だよろしくない。殊に我が國に於ては、お雑煮を沢山食べるのを以て誇りとする風がある。あなたは二十か、私は三十であると言つて暴食をし、お雑煮を出来るだけ多く食べるのが、何のえらいことがあるものか。之れは蛮勇である。之れは放恣である。放蕩である。何も誇ることはない。けれども亦正月には大酒を飲む。此の風は大分改まりましたが、大酒を飲んで酔つぷれになつて、之れが榮譽であるとして居る人達もある。そして暴飲暴食、又は無礼講をやつたりして、之れが無邪氣な処である、之れが一年中の楽しみであると云ふよーな風がある。是れ等は甚だ宜しくないことです。

[東西正月の差]

此のお正月の風については、私は寧ろ西洋の風がよいと思ふ。西洋に於ては、お正月は感謝の日である。先づ第一日は

総ての人を宥し、自らを改め、昨年における感謝の祭を捧げる日である。

第二日は、一年中の計画を立て、総ての事の仕初めをする日。そして第三日、第四日、第五日、第六日、第七日は孰れも、或は家庭の爲め、或は国の爲め、学校の爲め、或は君主の爲めに、世界の爲めに、其の祝福を祈る日である。

即ち一年中の計画を立て、一年中の神聖なる処の感化を受ける所の、自分の精神を養ふ日と心得て、一家の集まりをし又一村の集会をするよ一な風となつて居る。之れが私には最も至当なることと考へる。それで此の暮は非常に忙しい時であり、又非常に大切な時であります。

一月元旦は一年の計をなし、昨年の感謝をなし、一年中の幸福を祈る時である。そ一してあなた方が心身共に元気に満ちて十日に帰る迄には、一國の爲め、一家の爲めに、其の幸福、其の祝福を祈る爲めに最も神聖なる、最も忙しく、最も有効に暮す可き大事な時である。ど一か皆さんが家へお帰りになって、校風を作る時の如き態度を以て家風を作る爲めに、親切なる、真面目なる、熱心なる気分を作る爲めに帰るのである。自分の爲めにも、家庭の爲めにも充分出来る丈の力を尽してお働きになることを、私は非常に希望するのである。

ど一かあなた方が此の社会の空気に負けることなく、夫れに打ち勝つて、来年は実に希望に満ち、元気に溢るゝ年となるよ一に致したいものであると云ふことを切望に堪へるのであります。

私は此の十年間の教職員、並びに学生の一一致協力に由つて、茲に我々が当初に立てた目的を貫いて、此に其の結果を挙げることが出来かけて来ましたと云ふことです。此の間からあなた方が只詞ではなくして、確信となり熱情となつてお表しになったものを見まして、此の精神が一般の空気となり、一般の共同の目的となつたとも言へる。銘々の自觉となつたとも言へる。我が國の婦人に対して久しく待ち望んで居た其の望みが、茲に見えかけて来た。今迄出来なかつたものが出来るよ一になつて来たこと云ふことは、実に之れは喜びに堪へぬ処である。又之れを出来あがらせるには、非常なる努力を要する。我が國の娘を茲に誕生させなければならぬと云ふこと。如何なる困難、如何なる犠牲を払ふても、之れを誕生させなければならぬと云ふこと。如何なる困難、如何なる苦痛をも堪へ忍ぶと云ふ熱心も、盛んになったのです。之れは我が國婦人も物が見えるよ一になつた、わかるよ一になつたのです。聞こえるよ一になつたのです。味はへるよ一になつたのです。

其の第一は、あなた方御婦人が、あなた方の中にあるものが少しわかりかけて来た。自分が少しわかりかけた。即ち自信力、婦人の自信力。婦人もやはり人間たる処の不思議なる力を与へられて居ると云ふことが、少し見えて来た。同時に婦人のほんとの責任が少しわかりかけて来たこと云ふことです。即ち我が國は如何にして救ふことが出来るか。我が國の教育は如何にして改善することが出来るか。あなた方は今年の社会の空気、識者と呼ばれて居る教育家、宗教信者、あなた方は、教育あり学問あり地位ある人、我々が國家を任せて、

我々が最も信任して居る人、斯くの如き人でも此の明治四十二年、此の厳酷なる気候に感染せざるを得なかつた。然るに、あなた方婦人、小人とか悪魔とか言つて居た、否な、寧ろ低能児、物の曲直のわからぬ人、保護者、監督者がなければ実に危なくて仕方がないと思つて居られた婦人と雖も、たとひ世間からは低能児と言はうが、愚痴者と言はうが、実に情ない此の社会の實際をほんとうに見たならば、ど一云ふ感じがするかです。夫れから此の学年に於て学んだ所の、其の学問を実地に施し、又いろいろ人間の目的を考へて、終りに於て始めてそ一云ふ真相がわかつて来たならば、教育と云ふものは只注文的ではいけない。形式の道徳やら又迷信の宗教やらで、此の根本を救ふことは出来ぬ。ど一しても國民を改造することは、數代に亙る仕事である。其の數代に亙る仕事は、只一朝一夕には出来ぬ。

ど一しても母親からしなければならぬ。次代の國民を作る可き母親が、物がわからなければならぬ。母親は國民の先生である。其の先生が無學無知である。母親は一家の帝王である。其の帝王が無能力である。母親は家風の流れの源である。其の源が沈衰して居る。其の源がヒステリーである。斯くの如き母親である以上は、斯くの如き母親の手に由つて此の數代に亙る事業が成し遂げらるる筈はない。故に此の深い原因を改めねばならぬ。それでなければ、教育は出来ないと云ふことがわかつた。又教育の根本の誤りが正されなければ、國の政治が改まらなければ、実業、商工業がなほらんければ、國家の宗教が變らんければ出来ないので。ど一しても社会一般の國民の呼吸して居る空気が、改まらなければならぬ。此の空気を改めることは、ど一しても協同しなければ、個人の方で出来るものではない。ほんとうに日本の教育が教場で母親の一手で出来るものと考えたのは、浅見であつた。此の教育をすると云ふことは、実に婦人の大責任であると云ふことが、ほんとうに見えるよ一になつた。ほんとうに感ぜられるよ一になつたと云ふことです。そこでこゝに於て、ど一しても母親が教育せられなければならぬ。婦人が目を覚さねばならぬ。其の婦人の目を覚まし、其の婦人の自觉をおこすには茲にど一しても、も一一つ第二の發展を起さんければならぬ。第二の發展を期するには、ど一しても我々婦人が自らの内に、ほんとうの知識、ほんとうの考へが出来て来なければ不可能である。其の不可能な困難な仕事は、誰れに命ぜられたか。誰れが任ずるか。外にはない。此の女子大學に居る学生諸子、此の空気を吸ひ、此の声を聞き、此の必要を認め、責任を感じて校風を育てゝ来た処の我々、自分がしなければ、外に當るものはない。我々婦人が自分の努め、自分の責任を自分から立たなければ、自分から行はなければ、自分から決心しなければならぬと云ふことを氣づいたのである。そ一して家へ帰るならば、生意氣なことを言ふ、夢を見て居る、幻像である、迷ひである、氣遣ひであると笑はれるかも知れない。多くの人々は夫れ此の批評に、此の冷笑に引っこまされて了つた。冷されて了つたのである。併し今日は、大分深くなつた内に其の力を養ふて来たと思ふのです。如何に狂人と罵られ、如何に夢であると笑はれても、夫れが爲めに如何に

他から信用を失ふても、自ら信ずる処があったならば、自ら知る処があったならば、決して恐るゝに及ばない。否、此の時に於て充分なる決心、充分なる自信を起して、ど一か私は、あなた方をして此の時に於て、ほんとの勝利を得させたい。此の沈衰して居る処の我が国の勢を挽回したい。此の難関に勝ちたい。此の責任は他に出来るものはない。此の若い処の未だひ弱い処のあなた方に望むより他に道はないのです。

〔維新の偉業〕

若し我國の維新に於て、台閣諸公は逡巡決せず、首鼠兩端して居る時に當つて、伊藤公、井上公は此の危機の時に帰朝致して、独り外敵に苦めらるゝのみならず、仲間からも排斥せられて屢々暗殺を企てられ、井上はも一刺されて息絶え絶えになって、最早や一人の仲間もないかの如く見えた。伊藤公は猶ほ屈せず、飽く迄所信を貫いて、國家の爲めに此の使命を尽さんければならぬと覚悟せられた。斯くの如き青年があつて、斯くの如き多くの犠牲者があつて、我が維新の際、廢藩置縣が行はれたのである。廢刀も行はれたのである。人間が自信を以て誠の爲めに捧げる処の至誠は、えらいものです。彼の維新当時の志士は、仲間から悪漢と目せられ、國賊と呼ばれたのです。けれども其の悪名も恐れず、生命を失ふこともかまはずに國家の爲めに捧げられたればこそ、今日始めて我が國の運命を全うし、東洋の光りを輝かす暁となつたのです。

私は之れを第二の維新と言ふのは、只空想ではない。此の根本の開拓は未だ出来ないのです。此の任に當るものは、今、世間から小人と言ひ、馬鹿と思はれ、氣遣ひと冷笑せられて居る婦人。私は其の婦人の中に、其の力あることを信ずるのです。私は此の年の終りに於て、其の信仰を持ち、ど一しても我々が自分で立たねばならぬと云ふ決心をきめてもらひたい。そ一云ふ決心のつくものが仮令一人でも二人でも、其の信仰の燃ゆる人、其の奮闘に堪へる人があつたならば、山を移すことも、世界を動かすことも出来ぬことはない、私は信ずる。願はくば、其の信仰を益々固め、益々強めて、此の來らんとする年、此の來らんとする十年間に、其の発展の土台の力を我々の中に築き上げるよ一に、又之れが出来ると云ふことを信仰して、私は此の年を迎へたい。此の信仰を以て、此の目的、計画を以て充分力を養ふて、最も新しい、最も強固なる力を以て來年の我々の大業を始めたいと云ふことを、私は切に希望するのです。

今年のあなたの働きと、あなたの信仰、決心を喜ぶと同時に、又之れの結果を氣遣ふのであります。ど一かお互に銘々を謙遜にし、お互が銘々の私を去りまして、ど一か其の目的に向つて努力奮闘し、如何に妨げを受けても、如何に困難に出遭ふても、そ一云ふことによつて力を屈することなく、熱情、熱愛、熱望を以て、飽く迄も我々は此の責任を全うして行きたいと云ふことを、希望するのであります。

〔中表紙〕
正會員修養会の御話
明治四十二年十二月二十八日

明治四十二年十二月二十八日
正會員修養会にて

是れ迄は注意力も統一もなかつた。其の中には積極的態度の人もありましたけれども、大多数は中々幼稚なものであります。其の時から比較して見るならば、非常に進歩したのである。未だ、今日は相済まなかつたとか、桜楓会に対しても自分が発達を妨げたと云ふよ一な悔い改める詞も、其の他いろいろの詞を聞きましたが、併し今日皆さんの仰つたことは告白とも言ふべきもので、只口先きのものではなく、十年の間、真に経験したことや、実験したことである。又感謝すると云ふことも大分聞きましたが、之れも一時の感情ではない。真に実験して、自分の生命となつて居る所のものを仰つたのである。又甚だ足らないと云ふ謙遜な詞も聞きました。又自分を信ずることの出来ない、不満足な感じがすると云ふこともききましたが、之は真面目な態度を以て至誠から仰やるのは、私の非常に喜ぶ所である。其の他の必要とか、決心とか、いろいろな事をきゝましたが、兎も角も此の校の校風は真面目である。未だいろいろ欠点はありますけれども、此の真面目と云ふ、本氣にすると云ふことは出来て来たと思ふ。此の十年の間に何故力が思ふよ一に出来ないであらうか、自分はずまらないであらうかと云ふ感じもあつたよ一であるが、私思ふに、自分の中にある特徴、Something と云ふものが出来て来たよ一である。銘々の中に実を持ち、重りがついて来たよ一である。私は之れを九年前の最初の年の暮を送る時の感と、今年の暮を送る感と及び皆さんの経験とを比較したならば、非常なる違ひであると思ふ。又此の九年の間と云ふものは中々骨が折れた。校風を作ること、及びあなた方が之れ迄になるのには中々困難であつた。併しよく辛抱をして、中途で挫けずに此処迄進んで来たのである。而已ならず、今後も桜楓会の爲めに一致協同して、始終一貫して行くことと云ふ意志をお作りになることが出来た。其の爲めに皆が一生涯命にお返しになつたと云ふことは、私は深く感謝するのである。

又今、大分瘦せ馬に鞭つて来た。出来るだけ尽したけれども、思ふよ一に進まれなかつたと云ふこともあつたが、成る程、之れは六つかしいことである。けれども之れ迄止むを得なかつたのであります。夫れにも拘はらず、猶ほ感謝して此の態度を續けて行こ一と云ふ精神は、誠に喜みすべきものである。そこで皆さんが、ここに此の結果があると云ふことを自覚出来る、今晚之れを感じらるゝと云ふことは、感謝しなければならぬ。そこでいろいろな考へが出たけれども、之れを大別すれば、つまり二つになる。

一方は、我が國婦人と云ふものが、ど一云ふ訳で圧迫を感じるか、足腰が立たないか、何故進歩することが出来ないか、何故卒業後、力を展ばすことが出来ないかと云ふと、境遇が悪い。外へ出ると米のよ一に冷たい。少し物を仕かけると、

[中表紙]
新年祝賀式の御話
明治四十三年一月一日

たゞきこはず。故に何処にか、婦人が境遇を作らねばならぬ。信仰と言ふか、勇気と言ふか、熱心と言ふか、温い誠心を以て、茲に温い Atmosphere を作らねばならぬ。此で力を養っておいたな何処へ出ても風をひかぬ、生命を持ちこたへることが出来ると云ふ所まで、養はねばならぬ。

も一つは、そ一云ふものを作るには、ど一しても銘々の力が出来ねばならぬ。ど一しても自分の根本の力、専門なら専門、ほんと一に Individuality に由って、力を養はねばならぬ。つまり一方は自分、一方は全体と云ふこと。詞をかへて言へば、信仰と研究と云ふこと。一方は、もっと精神的生命を作ろ一、一方は、もっと適性を發揮して力あるものとならなければならぬと云ふことである。

此の二つは、どつちしても離れては出来ぬことである。つまり統一である。統一、即ち Unite が大切である。けれども自分にしかない処の Unique がある。人の代ることの出来ぬものがある。故に桜楓会が発展するには、銘々が発達しなければならぬ。大に其の銘々の人格が顕れなければならぬ。皆さんが此の両方面を仰ったと思ふ。之れは両方とも、なくてはならぬものである。夫れで私は、之れを總めておくことが必要であると思ふ。桜楓会がも一つ発展するに、大きな目的を実現するには、真に温い同情を以て大調和をしなければならぬ。

夫れに賛成の方は……… 全体

も一つは、之れをするには努力しなければならぬ。懶惰者では出来ない。迷信では出来ない。やはり此の校の信仰でなければならぬと考へる人は……… 全体

銘々がほんとの自分を発見して、ほんとに適性を養ふて、何かになると云ふこと。自分もそ一なると同時に、人をも助けて、そ一しなければならぬと思ふ人は……… 全体

こゝに、も一つ考へておかねばならぬこと、即ち志を立てゝも躊躇することは、結婚問題である。此の仕事をする為めに、此の専門を研究する為めには生涯かゝると云ふことと、又家を持つ者はそ一云ふことは不必要であると云ふ考へもあろ一かと思ふ。併し私は、我が国婦人が夫れだけの決心をしなければ、家を持つことは出来ないと思ふ。真に我が借老の契を結ぶに足る人であるならば、之れを助けるだけの力を自分に備へねばならぬ。又夫がつまらぬ人ならば、夫を感化するだけの力がなければならぬ。今日我国に、ほんとの一家庭が出来て居ないのは、男もわるいが女もわるいのである。故に此の決心をする、此の永久の意志を作ると云ふこと、ほんとの一の独立の精神を以て進むと云ふことは、結婚しよ一が、すまいが、ど一しても欠く可からざるものである。故にどちらにしても、夫れだけの決心をしなければ出来ぬものではない。

故に此の天職と結婚問題との関係はわかった。夫れが為めに躊躇することはないと言はるゝ人は……… 全体

夫れでは、休みの間に充分深くお考へになつて、夫れを如何にして実行するかと云ふ具体的案は、来年早々聞く事と致して、今年の会は之れで結ぶことに致しましよ一。

明治四十三年一月一日
新年祝賀式

此の間から、皆待つて居りましたお正月が来まして、今朝は皆さん、早く起きてお支度をして、お祝ひをして、夫れから此処へ皆さんお出でになるよ一に、出てお出でになったと思ふのでありますね。今朝起きて、一番始めにどなたにお目にかゝりましたか？

- ・お祖母様
- ・お祖父様
- ・お父様
- ・お母様

そ一して朝お目にかゝつて、一番始めに何と言ひましたか。

- ・おめでたう。
- ・新年おめでたう。

おめでたうと云ふことは、ど一云ふことであろ一か。

- ・うれしいこと。

お正月は、何が嬉しいのであろ一か。

- ・年を一つとるから、嬉しうございます。

段々年を取ると、ど一なりますか。

- ・おばあさんになります。

おばあさんになる前に、何になりますか。

- ・お嫁になります。
- ・旦那になります。

姉さんのよ一に、お母さんのよ一に、お父さんのよ一に、お祖母さんのよ一に大きくなる。小供もよいが、もっと大きくなって、いろいろな事の出来るよ一になるのが嬉しいでしょ一。一つ年が多くなると、どんな人にならねばならんでしょ一か。

- ・もっと立派な人になること。
- ・えらい人になること。
- ・何でもがよく出来る人になります。

今日はお正月の元旦でありますね。明日は何日ですか。

- ・二日であります。

二日と云ふことを、知つて居る者は………

そ一。今日はおめでたうと言つて、学校へおいでになりましたね。明日は何をしますか。

- ・お早うと言います。
- ・書き初めを致します。

書き初めには何んな画を書きますか。何と云ふ詞を書きますか。夫れのきまつて居る人は………

未だきまらない人は、今日きめると宜しいね。

皆さん、手のあがると云ふことを知つて居りますか。明日よく書き初めをすると、手があがりますね。其の明日書き初めをしたのを、今度十日にいらっしやる時に、忘れないよ一に持つて来てもらひましょ一。

今日は年の初めで、之れから年始に回る方もあり、夫れを受けるに忙しい方もあり、又一年の計画を考へると云ふ様なことにも時を要することありますから、成る可く今朝は簡短に此の式を終りたいと考へます。只今朝は新年おめでたうと云ふことを申し、只口に之れを言ふ計りでなく、ほんとうにその意味をお互によく表して、此の式を終りたいと考へます。

【おめでたうの意味は如何】

今小供におめでたうの意味、ど一した訳で此の元旦におめでたうと言ふかと尋ねましたら、よくわからないよ一である。只鸚鵡的におめでたうと申して居る。それを口によく言ひ表はすことは出来ないけれども、確に何かの意味はあるに違ひない。何かの感じを持って言つて居るに相違ない。いろいろ程度に由つて違ひましょ一が、銘々其の意味を持って居るに相違ない。夫れで此のおめでたうと云ふことを只口で言ふのみならず、皆さんはど一云ふ意味を持って居らるゝか、殊に今年はど一云ふ意味が加はつておめでたいか、夫れを尋ねたいと思ひます。

【めでたいの字義】

其の前におめでたうと云ふ詞の字義を聞いて見ましょ一。始めに高等女学校から言つて御覽。

・新しい、きれいな、よい心になつて年を迎へるから、おめでたいと言ふであろ一と考へます。

めでたいと云ふことを目出度と書きますが、未だ其の他に書き方がありますか。今小供は年が一つふえたから嬉しいと答へましたが、あなた方は早く年を余計に取りたいと感ずるでしょ一か、ど一でありましょ一。年を取ると云ふことは、人には御超歳と言ひ、自分には之れを謙遜して、馬齢を重ね、とか書きますね。此の年を取ると云ふことについての感じを聞きたい。我々も毎年一つづつとつて来ましたから経験がありますが、当時の皆さんの感じをきましょ一。

年を取つてうれしいものは………

高等女学校 —— 全体

年を取るとは、一休和尚の言つたよ一に、
門松や冥土の旅の一里塚

墓所に、即ち死に行く一里塚と云ふよ一な意味も一方にはあるから、あなたは幾つにおなりなさつたかと言ふと、機嫌のわるい人もある。年を取ると云ふことは幾らか老衰に近づくると云ふよ一なこともあるから、幾らかいやな感じを持って居る方は………

それはない。そ一すると、年を一つ取つたから、夫れをお祝すると云ふ訳ではなさそ一である。高等女学校には嬉しいと云ふ人が大分あつたよ一であるが、大学部になると夫れはない。夫れでは、何が此の正月のおめでたい訳でありましょ一か。あなた方の意味は何でありましょ一か。

今新たになつた。心かも少し新しくなつた。是れ迄の好まないものを取り除いた。又是れ迄のよくないことを忘れて了つて、きれいになつて、人間が一変りした。夫れがおめでたいと考へる人は……… 多数

も一其の外に意義はありませんか。

是れは確に、元旦を祝ふ主な事であろ一。一変り自分が致した。一変りしたと云ふことは、一つの進歩を見る事が出来た。或は見る事が出来ると云ふ処の希望。夫れから小さい子が、年を一つ余計に取る。身体も昨年より大きくなる、延びると云ふことは、進歩である。此の進歩、発達。年を取ると云ふことは、一つは進歩と云ふ意味が確にあるのである。我が國の詞に致しましても、めでたいと云ふことは、木の芽が出ると云ふ意味に書いてある。昨年我々の蒔きました種から、昨年我々の考へました、昨年経験致しました種から、何か芽が出る、枝が出ると云ふ希望である。内から何か、是れ迄にない新しいものが出ると云ふ意味もある。

夫れから支那語で言へば、仁恵生育と云ふ意もあり、我國でも、愛甚だしと云ふ意味もある。即ち新しく変ると云ふことは、若く変る、元氣になると云ふ意味もあるのです。

又之れは、こごつけかも知れんが、目が出ると云ふことは、天照大御神が天の窟戸を明けて、目をお出しになつたと云ふことから、目出と言ふのであると云ふ説もある。目が出ると云ふことは光りが出る、明りが出る、も一少し世が開ける、文明になると云ふ意味を含んで居る。

然らば第一に、此の元旦がおめでたいと云ふのは、若くなる、若く変ると云ふことに解せらるゝ。其の中に、一休和尚の言つたよ一にも感ぜらるゝ。年を一つとると云ふことは、老いる、衰へると云ふことも、一方にはあるのである。此の老いる、衰へる、発達の止まると云ふことは、決して人間の望む処ではない。もしも年を取ることが単に老衰すると云ふことならば、おめでたいどころではない。夫れはお悔みを言はねばならぬ。決して年を取ると云ふことが、老衰するのではない。斯う云ふ考へは、我々の考へから除き去らねばならぬ。斯くの如き考へ、斯くの如き観念は、全く掃除して了はねばならぬ。そこで小供の爲めにも、壮年の爲めにも、亦は七十、八十になつた人の爲めにも、元旦のおめでたいと云ふ意味は、若返る、元氣になる、新しくなると云ふことである。益々我々の心が精神化して、神聖になつて進歩する。益々我々の元氣が旺盛になることを言ふのである。ところが一方から考へると、兎も角も年が進むと、身体の働きが少し減じて来る。発達する分量が減つて来る。例へば黒い髪の毛が白くなる。目がよ一見えよつたが、遠眼になる。記憶が薄らいで来ると云ふよ一なことがある。又我々の身体の背骨が、肉質が多くて弾力の多かつたものが、硬質が多くなつて、一度骨がこはれると中々つげないと云ふよ一な変化が起つて来る。そ一云ふ変化はど一して起るかと言ふことを、段々研究して居る学者もあるよ一です。

併しど一でありましょ一か。人間の身体と云ふものは何処にあるか、又人間の生命の一番真髓は何であるかと云ふよ一なことを考へるならば、生物学をした人も、社会学をする人も、人類学をする人も、やはり人間の其の精神、其の身体の諸機関が協力して拵へる処の一番大切なものは、脳細胞である。皆さん御承知の通り、之れは甚だ不思議なものである。我々の先祖、及び広く人類の協同して経験したものがなくならずに、悉く之れが次代のものに継承せられて行く。夫れは

何に由って継承せらるゝかと云ふと、細胞の中の核と、其の原形質が精神的遺伝に由って伝はるのである。

之れは誠に不思議なる自然の働きである。此の我々の遺伝して行く処の細胞の中の心になるもの、又人類の精神の真髄であるもの、又精神の働きに由って変化して行く処の脳細胞、之れが我々の中にある処のものの中の、一番大切なものである。此の脳細胞は芽であり、卵であつて、毎日毎日生れ代つて行く。此の原形質、其の細胞の組織、即ち此の芽と云ふものは、毎日新しくなつて行きよるのである。之れが如何に新らしくなるか、之れが如何に生れて行きよるか。如何に之れが活動しつゝあるか。如何に之れが遺伝して行くか。如何に之れが元気に關係するか。若しも我々が老いるとか、弱るとか、死ぬるとか云ふ考へを取り除くことが出来たならば、ほんといふに身体の真理を見出だすことが出来たならば、ほんといふに斯くの如き精神上の元気が、我々の内に満つることが出来たならば、つまり若くなる、元気になる、進歩、発達すると云ふ信仰が出来たならば、此の原形質の中に直ちに影響して来る。此の脳細胞がよく新陳代謝し、よく毎日毎日変化したならば、人間と云ふものは決して衰へることはない。働きが衰へることはないのみならず、前からのものが遺伝して蓄積して行くから、益々盛んに、益々複雑に、そして益々改善せられて行くのである。我々の脳髓、脳神経と云ふものが衰へないよ一に、老衰しないよ一に、益々之れを養つて行かねばならぬ。

我々の精神の働きと云ふものは、益々、年々、日々に新になる、日々に元気になることと云ふこと、即ち若かへると云ふことが、人間をして限りなき生命を保たしむるもので、此の限りなき生命があつて死ぬるものではないのみならず、之れがあつて始めて人間は毎日若返つて行きよる。是であります。是れが即ち我々の心から新年おめでたうと言ふ、ほんといふの意味であります。我々人間と云ふものは、之れに由つて決して永久に死なないものであるのみならず、此の我々の内に現れた処の価値は永久に保存せられて行きよる。此の信仰が私共の元旦に於て、心から愛して喜ぶのである。之れが我々の愛づること甚だしき所以であります。又我が女子大学の十年になる今年、十になるのである。所謂小供から將に青年期に入らんとして居るのである。故に女子大学の為めにも、おめでたい年であります。

又我国は2570年になるけれども、我が国維新からは新に生れてからは、四十三である。昨年(1912)は四十二であつた。四十二は男に取つては厄年である。いろいろ世の中が不景氣になつたり、矛盾、衝突をしたり、圧迫を感じたりするのは、厄年である。此の厄年は去つて、其の翌年、明治四十三年となりました。いろいろな記念会をしたり、繰返しをしたり、前の功に誇つて先きの計画はないと云ふよ一なことは、青年のすべきことでない。故に此の元旦を祝するのは若かへる。個人も、社会も、学校も、国家も、大に若かへる。元気になることと云ふことである。之れが我々の真に今日喜ぶ所以、お互に祝する所以であると思ふ。然らば如何なる態度を以て、此の年を迎へなければならぬか。又若くなるには、元気を回復す

るには如何にすべきかと云ふことを、今日は考へておくべきであらうと思ふ。

之れについて、私は極簡短に二つの点を申しておきたい。其の元気を回復し、又我々が益々進歩、発達する原動力たる力は何処に潜んで居るかと申すならば、私は一信ずる。固く信ずる。又人類の経験から言つても、一信ぜざるを得ない。つまり人間が衰へるとか、硬くなるとか、所々破れるよ一になるとか云ふこと、之れを死と云ふ、又益々若くなる、元気になることと云ふことも、其の本は確に人間の根本である処の精神が乏しいからである。目的に理想、其の精神が内に燃えて居るならば、旺盛であるならば、我々の希望が大になり、我々の理想が高尚になり、我々の計画が明らかになる。此の理想に生きる、目的を追求して止まない、あとを忘れてさきを望んで行く、向ふを見る。暗きを離れて、光りに移ると云ふことであるのです。

今高等女学校の方から仰つたよ一に、昨年の古い経験を除き、わるい考へを去つてしまつて、新年と共に新しい希望を画き、遠大なる目的を明らかにし、高尚なる理想を確立致して、其の我々の決心を固めねばならぬ。此の我々の確信、我々の精神、我々の決心、之れが即ち我々を元気にする。若くする。凡てのものに勝たしむる原動力である。故に此の元旦に於て今年の計画を立つること、即ち昨年来深く考へた処の種をして此に萌す。我々が昨年来育てゝ参りましたものを、ど一しても今年是实现すると云ふことに勉めねばならぬ。桜楓会の為めにも、此の女子大学の為めにも、我々が大に一致協同して理想を実現せねばならぬ。昨年致した処の過ち、昨年感じた処の矛盾、衝突が少しも入ることの出来ないよ一に、ほんといふの一致団結をして、こゝに有力なる感化を及ぼさねばならぬ。斯くの如き理想に生き、斯くの如き信仰に燃えて、計画を明らかに立てゝ来たならば、益々私共は元気になる。若返る。決して老衰しない処の人間となつて活動するよ一になるのであります。第二には、我国で言ふ、めでる、愛甚し。我国、我愛するものゝ為めには、我が仕へる処のものゝ為めには、至誠を以て熱烈なる、止むことの出来ない、消すことの出来ない、愛甚だしくして、我々は銘々の天職の為めに、又協同一致の為めに、又同胞の為めに、真に私を去つて、真に心から愛し、慕ふて、願ふて、此の年を始めなければならぬ。我々は此の学校を見ても、桜楓会を見ても、又我々のMembersを見ても、欠点多きものである。其の理想は高尚であるけれども、今日の現実はずつと低いものであるに違ひない。けれども我々は斯くの如き現実に止まらない。斯くの如き人の欠点を穴探しをすることをやめて、其の人の主義です。其の学校の理想です。其の信仰であります。其の奮闘して居る処の動機です。ど一か夫れに進まう、ど一か美にならうと勉めて居る処を認めて、心から我々は人を怒ることが出来るのである。故に我々は益々一致協力して、学校の為めにも、亦桜楓会の為めにも、更に進んで国家の為めにも、人類の為めにも、此の愛甚だしい心を以て仕へるのである。捧げるのである。そ一して熱心なる、満足なる心を以て、我々は此の年を迎へたいのである。此の年に於て此の理想、此の

目的を明らかにして、銘々の為すべき処を全うしたいと云ふことを、私は此の元旦に於て、切に希望致すのであります。

[中表紙]

高等女学校修身講話会に於ける御話
明治四十三年一月十七日

明治四十三年一月十七日
高等女学校修身講話会に於て

兎も角も二週間の冬休みは、東京に残った者も、地方へお帰りになったものも、其の前と幾らか境遇が變つた訳であります。夫れで我々は必ず、その境遇の感化により、刺激に由つて、幾分か前よりも變つた処があるに違ひない。昨年此の校を辞する時と、新年此の処に集まった時とは、少しく變りがあるに違ひない。

次には、此の變化はど一云ふ訳である、何の影響に由つて、ど一云ふ變化を來したかと云ふことを考へねばなるまい。昨年の暮から今年の新年にかけまして、善い變りを受けた、又は悪い變り、前よりも宜しくない變化を來したか、どちらかの變りがあろ一と思ふ。之をよく考へる人は、注意の力が大分出來た人であります。學問をするにも、修養をするにも、もう少し深く行くことが出来る。又は其の人の性質が、もう少ししっかりする様になるのです。一寸したことに、直ぐ氣をつけることが出来るのです。併し心の事、自分の内の事を省みるのは、外の事よりも六かしいのである。自分がど一云ふ様に変つて來ると云ふことに氣をつけて見ると云ふことは、誠に大切な力である。其の力が出來つゝあるかど一かと云ふことは、誠に大切なことであります。

[元旦の計画]

夫れでよい感化を受けて來たか、悪い感化を受けて來たかと云ふことを考へて見るのは、大切な事であります。初めに皆さん、此の一月元旦は一年の計画を立つる時であると云ふことは、前からお聞きになったであります。

必ず此の元旦に於て、自分はど一云ふことをしよ一、ど一云ふ人になろ一と云ふ計画を立てることに、一日をお送りになつた方が多かる一と思ふ。元旦は一年の計画を立てると同時に、自分の生涯の事、死後の事、及び子孫の事、又は家と云ふこと、或は國と云ふ大きな目的であります。自分の生涯はど一ならねばならぬか、其の生涯の教育はど一云ふ様に受けて行かねばならぬかと云ふ様な事にも、考へを及ぼして見たお方は…………… 主に五年の方でありますよ一ね。

[人間の目的]

私共の目的は、人間の目的と云ふものは生涯かゝつて尽さんければ、生涯かゝつて勉強しなければ、決して出来るものでない。夫れならば、如何なる生涯を送るべきか、一生を如何に過すべきかと云ふことを考へねばならぬ。

も一一度聞きますが、生涯を如何に送らんければならぬか、

生涯かゝつてど一云ふことをしなければならぬかと云ふこと、又自分の掌る家庭は繁榮する様にして行かねばならぬと云ふことは、誰れも考へねばなるまい。一年の事を考へると共に、生涯の事をも考へた人は……………

又、何かの變りを受けたに相違ないが、少し元氣がなくなつた、心が狭くなつたと云ふ變りがあると感ずるならば、其の原因はあなた方の内にあるのである。も一一つは、外にある。あなた方はど一云ふものを御覧になつたか、お聞きになつたかと云ふことにある。お正月には沢山の奥さんや娘さん達がきれいな着飾つて、御礼回りをして居らるゝのを、あなた方は御覧になつたに違ひない。又きれいな飾りをして、お正月を迎へる人も沢山あつたに違ひない。そこで馬車に乗つて回る奥さんを見、ダイヤモンドの指環をはめて居る貴婦人を見、きれいな着物を着た小供達を見て、自分も成るべく富裕なる、高貴なる家族を持つが幸であると考へ、父母も、ど一かそ一云ふ様に人が見ても誠に幸であると羨み、多くの人が變める様な境遇にならせたいと云ふ様な理想が描かれるであろ一。其の富貴なる家庭を作るには、ど一したらよかる一かと考へる。そこで世間の人の言ふ事が耳に入る。そ一云ふ境遇に入るには、余り高尚なる教育などを受けるのは、却つて為めにならぬと云ふ様な事も考へられるであろ一。ど一でありませよ一。正月と云ふ様に馬車に乗る様な家庭を持ちたい。又、世間一般の父母が望む処である。之が世間に言ふ幸福である。之を世間では華美と言ひ、虚榮と言ふ。そ一云ふ事を見聞きして、折角立てた志を挫き、女子大学で言ふ様な困難な道を取らなくてもよいと云ふ考へが起りはしないであろ一か。

も一一つある。夫れは昨年来の不景氣である。之を保守と言ひ、消極と言ひ、或は復旧とか言ふのである。此の空氣に感染して、謙遜とか柔順とか、名前は甚だ宜しいが、実は卑屈なる女性に甘んじ、引き潮にさらはれて、も一元氣も何もなくなつて了う。之も大きな試みであります。そ一云ふ様な感化を受けて、折角楽しんで居た氣力も忍耐も脱けて了ひはせぬかと云ふことが、一つ心配であります。

夫れからも一一つ、はっきりとして居つて、誰れが見ても消極とか華美とか云ふことには感染しなかつた、又引き潮にもさらはれなかつたとしても、あなた方が志したこと、立てた目的を貫かうとすれば、父母の考へにも齟齬しなければならぬと云ふことがある。友達や親類の意見とも相違しなければならぬことがある。そこで友達や先輩に導かれた其の光明から遠ざかる。之は表面、柔順な様であるが、実は崩されたのである。破されたのである。敗北をしたのであります。

人生の限りを芽生への処に於て、つけられて了う。夫れに安んじて了うと云ふこともありはしないかと云ふことを、案じる。之を私は、悪い感化、悪い影響、悪い刺激と申すのです。之に影響せられはしなかつたと思ふ。

又夫れに反して、大に意志が固まつて、大に将来の目的が見えて來たと云ふ善感化を受けて來た方と、二種類あると思ふ。先づ之について、自分を考へて見ることを切望するのである。

冬期休業中に、外部から悪しき影響を受けて、前よりも幾らか敗北の安を以て今年を迎へなければならぬ、生涯を送らんければならぬと云ふ人。之は無論程度がありますが、私は其の傾きを聞くのであります。

善からざる影響を受けた傾きがあると思ふ者は………なし
善い方の刺激を受けて、善い方に進みましたと云ふことを自信する者は……… 稍多

生涯の事を考へる、生涯の目的を立てるには、未だ我々は子供過ぎる。男にはよいかも知れぬが、女には生意気である。昔から、**生涯の苦業、他人による、**と言ふこともあって、自分の思ふ様にはならぬ。故に不必要であると云ふ様に考へる人があるかも知れぬ。けれども私は自分の経験から申すのであります。高等女学校の二年生は、も一十三である。一年生と雖も満十二才である。私共は親から許さぬにも拘らず、お父さんが学資を出して下さらぬにも拘らず、嘆願して家を出たのは私の十三の時である。そして私共の子供の頃には戦争も多かったから、日本男子と生れた以上は何か国の為に尽さねばならぬと決心して、たとへ番兵でも宜しいから軍人となることを許して下さいと願つたのは、十二の時である。然らば十二、三才から十七、八迄の間に生涯の目的をきめるとか、自分の傾きを自覚すると云ふことは出来ることである。故に高等女学校五年生が、一月元旦に生涯の事をお考へになつたと云ふことは尤もなことであり、又高等女学校一般に出来ることである。夫れ相当な考へが起る時であると思ふ。

[普通女に対する考へは]

然るに、今日の一般のお母さんのお考へになること、及び一般の男の考へることは、女は十七位迄学問をさせればよい。即ち、高等女学校卒業後は只裁縫をし、家事の見習ひでもさせれば夫れでよいと思ふのは、間違ひであります。両親や、先生や、又お友達、此の自分を思ふてくれる親切心を聞いて、多くの娘達は其の心に従ふ。折角立てた志を曲げて、親の心に任せるのが最も柔順なことであると考へる。あなた方はど一お考へになるでしょ一か。

之が男と女の違ふ処であります。又男でも、昔から親の命令と君命とは絶対に背く可らず。親の命令は君主の命と同じものである。私共も親に口答へたことは一度もありません。況して女の子が親の命に従はぬと云ふことはない。又忠と云ふことについても、我々男子たるものは国の為なら、君の為なら、如何なることをも辞さない。何時でも一命を捧げると云ふ腹を持って居りました。

併し自分の目的に就いては、自分の父親の志を継ぐと云ふことの為には、親の言ふこと、先生の言ふこと、先輩の言ふことにも、ど一しても従ふことが出来なかつたのであります。そこで私の郷里では、私と云ふものは氣盛者である、又失敗者である、意気地のない奴であると言つて、皆嘲けて居りました。二、三年前に私が郷里に歸る迄、皆悪く言つて居りましたけれども、ど一でありましょ一。

[Schiller に就きて]

昔から、子を見ること親に若かず、と言ふことがありますけれども、仮令親であつて、先生であつても、ほんとの我

れ、ほんとの自分を知るものは自分よりないのである。Schiller と云ふ文豪はど一であつたか。親は此の子を外科医者にしよ一としたけれども、彼は親の命に従はずして、其の職をかへて文学者となつたのである。其の為に彼は今日、文豪として世界の為に貢献することが出来、真に國家の為に尽し、親を喜ばせることが出来たのであります。そこで仮令親と云へども、悉く自分の子を見ることが出来ぬ人がある。況して眼前の馬車や着物や、所謂一時の幸福を願ふ様では為にならぬ。又年をとつて居るから、従つて其の考へは保守になつて、今後の娘は如何にならねばならぬかと云ふことを知らず、只姑息の愛に溺れて、折角の天才を埋めて了うことも間々あるのである。

其の自分の生涯を誤り、自分の天職を軽んじ、自分の天才を空しくすることが孝であるか、忠であるか、よく考へねばならない。つまり世間の人の希望する処、両親の希望する処は目前の幸福、目前の利益、姑息の愛です。此の偏見の愛、一時の潮流の為に、あなた方が道を誤り、志を曲ぐることがあるならば、私は実に悲しむべきものであると云ふ情を禁ずることが出来ぬ。あなた方の友は感情に由つて、一時的の親切、姑息の愛に由つて申します。

私はあなた方の本心、あなた方の道理、あなた方の向上心に訴へて、ど一か此の大事な時に於て、一時的の幸福を求め、姑息の手段に陥らないことを祈るのであります。

今此に活けてある花と、植木鉢に植えてある花と、雪の中に突つ立って居る花と、一見少しも違ひはない様である。

けれども此の花は挿し花であります。根がないのです。一時的の幸福であります。間もなく萎れて了うのです。此の盆栽は誠に奇麗です。けれども此の盆栽と云ふものゝ中に限られて居ります。

併し、外の雪の中に立って居る花はど一かかと云ふと、広い天地に交り、世界の大気を呼吸して、永久何時迄も成長し得ると云ふ、生命を持って居るのであります。夫れと同じく唯だ世間の人の望みは、あなた方を活け花にしよ一とする、床の間に飾ろ一とする。其の違ひは境遇である。

つまり、あなた方をして高等女学校で宜しい、も一其の上に教育はいらないと云ふのは、家庭と云ふ境遇に飾らんとするのである。其処は誠に温い様である。雨もなく、風もなく、雪にもあたることはない様であります。けれどもあなた方の生涯は之で限られて了う。之で皆終りである。如何に志が堅くても、決心が立派でも、植木鉢の花と同じ様に、夫れ以上には発達しないのである。如何に沙魚や雑魚の如きものが氣ばつても、夫れは小川や池などに果つべきもので、鯨の如き、龍の如き大きなものが大海に泳いで大成するのには、比べられない。

我國の親が、我國の社会が、今日國民の母たる、一家の主婦たるべき婦人を、池の中の魚としよ一とする。之が柔順であり、謙遜であり、真に女徳を発揮したものであると考へて居る。

此の姑息なる愛情に訴へられて、之に勝つことが出来ず、之に耐へ得ずして小成に止まる者は、実に悔むべきものであ

ります。彼れ等はいろいろな情実に駆られ、いろいろな事情の下に圧迫せられて、自分の身を束縛される。之が私の常に堪へない所。殊に今年卒業なさる五年生に訴へたい処は、其処であります。あなた方は多分此の元旦に深くお考へになって、生涯の目的をお定めになったことと考へますが、夫れを成し遂げるために、ど一云ふ方法をお取りになったかを聞きたいのである。ど一か卒業迄に近々お目にかゝって、あなた方の御経験を聞きたいものと考へるのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十三年一月十九日

明治四十三年一月十九日
大学部全体の為めに

昨年終りにおきまして、大分あなた方の思想がふかくなり、態度も大に改まって来ましたよ一で、其の勢を以て進んだならば、今年此の新らしい業を始むるに当って、大に見るべきものがあるであろうと云ふ希望を抱いて居りまして、果して此の学年に於て我々が期待致したよ一な、新らしい元気、新らしい思想、感情及び計画が立って、夫れに相当した処の働きも始まるであろうと云ふ希望は、此の初めに於て、深く自分の心を動かして居ったのであります。

夫れで私は成る可くは、之れを始むるに自動的に進ませたいものである。又其の仕方が一番よく、ほんとの力なり傾向なりが表れるであろうと思ひまして、今日迄、即ち此の学期を始めましてから一番大切な十日間、あなた方がど一云ふ態度に出て、ど一云ふ計画をお立てになるであろう一か、又ど一云ふ元気が発生するであろう一か、私は最も注意して今日迄の経過を見て居り、又あなた方の報告を見て考へて居ったのであります。

夫れで其の十日間に表した処の傾向から考へたならば、我々は今日、深い希望を持って、充分な勇氣を持って、此の学年の業を今日から開始することが出来るであろう一かと云ふことについては、少し深く考へる、も一層自省して見ると云ふことが必要ではあるまいかと思ふのであります。夫れで私の観察と皆さんからの御報告に由って、大体は判断することが出来ますが、猶も一度念の為に、あなた方自身にはど一云ふことを考へておいでになるかと云ふことを確めた方がよかろ一と思ふ。私は一層之れを明らかにする為めに、両方面から考へて見た方がよかろ一と考へる。夫れは積極的方面と消極的方面との、二つであります。

消極的方面とは、冬季休業の暫くの間、皆さんが外氣に触れてお歸りになったのであるが、其の為に消極の結果としては、善い方であるか。満足することが出来ると思ふことを得るか。夫れは委しく言へば、今の沈衰したる外氣に触れて、其の消極な傾向の影響を受けなかつたか。又正月と言ふて世

間では随分、軽佻浮薄に流れるよ一な氣味があるにも拘らず、我々はそ一云ふ様な誘ひを受けて、浮薄な氣分を拵へたと云ふよ一なことはないか。つまり昨年終りに拵へた態度は健全にして居り、其の時の志は決して挫かれると云ふよ一なことはなかつた。つまり消極的に悪影響を被ることはなかつた、後戻りをしたことは少しもなかつたと言はるゝか。夫れだけのことは、新年以来あなた方の態度を観察して、多分そ一云ふことはないであろうと信じて居りますが、併し之れは全校の傾向であるか、一部の事實であるか、よくわかりませんが確めて見たいと思ひます。

- ・ 消極的には成功である、満足することが出来ると思ふ者は……… 多数
- ・ 今度は積極的に、猶ほ昨年決心が積極的に発動して、世間は沈衰して居るに拘らず、我々は元氣勃勃として居る、勇氣が燃えて居る。今年に、将来に目的が確立して居ると云ふことである。昨年よりも勇氣が増したと云ふ満足を懐いて居ると言ふことの出来る者は……… 少数
少し躊躇するお方は……… 極少数

確信の出来るお方、躊躇なさるお方、猶ほ夫れから以外の手の挙がらんお方は、確信の出来たお方と躊躇するお方との中間にあるのでありますから、決心が出来たよ一であるが、猶ほ薄弱であると云ふ状態であるかと思ふ。故に積極的であるか、消極的であるかと云ふことは、皆さんが少し問題であるかと考へます。

今の問ひでは少し漠然として居るから、猶ほ事をわけて聞くことが必要でありませよ一。第三学年の方の御報告によりますと、第三学期の仕事及び目的と云ふよ一なものをおきめになったことは、御報告に由ってわかるのであります。

[千載一遇]

併し他の学期ならば夫れでもよいが、此の三学期は三学年にとっては最後の学期である。他の学年に於ては、一年の計画を立つべき時機である。本校の歴史に於ては、今日は即ち第十年の最後の年であり、従つて今後十年間に於ける計画をきめんければならぬと云ふ様な時であり、広く、又我が帝国の運命と云ふよ一な広い問題を考へるならば、誠に千載一遇とも言ふべき、非常に大切な時機であると言はんければならぬのです。之れは昨年間にあなた方が深くお考へになったことである。然るにそ一云ふ遠き将来、及びも一層拡大せられた自己の為に、計画を立てることが出来たかど一かと云ふことは、報告がないからわからぬのである。之れは級として又は全校として、其の意見をお纏めになると云ふことはなかつたのである。けれども私は銘々としては、そ一云ふこともお考へになったではあるまいかと考へるのであります。そ一云ふこともあまり広く、大きくなり過ぎると宜しくありませんから、先づ之れを本校の十年期と云ふことと、あなた方の今後の十年間と云ふこととはお考へになったであらう。少なくとも第七回生、第八回生、第九回生、此の三年間の目的をお立てになったであらう。銘々を如何にして行かねばならぬか、如何に磨かねばならぬかと云ふことを、お考へになったことと思ふ。只熱心にならねばならぬ、忠実でなければ

ならぬとか云ふよ一に、抽象的のことにあらずして、も少し具体的案が出来たであらう。其の案が立つならば、大に熱心なる働きが伴ふて来なければならぬ。又昨年以來、お考へになった思想に、あなた方の心に何か、経験することの出来る実を結んで居るに違ひない。斯くの如きものがあるならば、此の始めに於て銘々の働きにも、亦級としての活動にも、顕るべきものであるであらうと云ふことを、私は期待して居るのであります。之れが報告に表れて居りませんから、果して實際、何処迄お進みになって居るか、も一度之れを皆さんに尋ねるのであります。若し之れが出来て居らねば、只一年、明治四十三年だけの計でも出来て居ることを希望するのであります。及び第三学期と云ふ将来の爲めにお考へになって、あなたの心に纏まって居る、夫れが確信となり、希望となつて居るものがあるならば、其処を少し表はして下さることを希望するのであります。

- ・ 今の問ひについて、答へとなる可きものゝ出来て居るものは……なし
- ・ そ一云ふことについて、考へて見たお方は……なし
- ・ 然らば此の三学期と云ふことについて、お考へになった方は……全体
- ・ 然らばも一つ聞きますが、一日業を終つて寝に就くと云ふ時に當つて、私は明日何を、明日一日をどうしようと云ふことを考へる習慣のあるものは……全体
只学校の規則を守つてお定まりの課業をし、御飯を食べて寝床を取つて、寝床を上げるのである。何も明日の事を考へておくとか云ふよ一なことはしないで、其の時、其の時に起つて来ることを取り計らつて、衝動的に暮らすと云ふ習慣のものは……

昨年暮に於て、私はあなた方の態度を見て、私は、あなた方は自分の意志を以て、自分の考へを以て、自分の選択を以て働いて行かねばならぬと云ふことを、皆さんお考へになつたと感じて居つたのであります。そ一云ふ風に、あなた方を解して居つたのであります。然るに、僅かに一年目的を考へる、我々は目的ある人格ある自分の意志を以て、自分の目的ある生活を欲する人であつて、元旦に於て一年の計画を立てる能力がないのか、又立てる意志がないのか、どちらか知りませんが、私は必ず大部分、元旦に於て僅かに一年位な事は考へる先見が出来て居る、夫れだけの思考力が発達して居ると云ふことを希望して居りました。然るに猶ほ夫れを考へぬ人もある。僅かに三学期の事しか考へぬと云ふ人が多い。私は其の弊については、昨年暮にも申したことがあります、なほ夫れがわからんでありませうか。猶ほ夫が詞に止まつて居つて、実行にならないのであらうか。只目前のこと、只肉体的要求、只一時的の安きを追求して居る。只目前の勉強をし、只むやみに働いて行く。世間ではよく実行が大切である、常識が大事であると言ひますが、斯くの如きことを言ふ人が、果して実行が出来、常識が養はれて居るか。之れは問題であります。我々が精神を鼓舞するのは、実行の原動力を与へよ一とする、効力ある學問を奨励する考へである。修養に、ほんとの実を結ぶよ一に致したいと云ふ考へである。

夫れだけ我々は苦心して、皆さんと努力して参つたのである。ど一やら物になりかけた、実が出来かけたよ一であると云ふ処迄来たのである。暫く二週間の間、相別れて居り、十日の間あなたの自動的、自発的の働きの現れることを待つて居つた間に、其の差ひ来た、ど一やら出来かけて来ましたの勢を挫かれて了う。之れはど一云ふ訳であるか。非常に此の外気の寒さが烈しい爲めに、堪へ得ないのであるか。未だ其の中にある芽生へが薄弱である爲めに、斯くの如き有様に陥るものであるか。之れは考へんければならぬ問題である。孰れに致しても、あなた方は積極的に昨年以來の考へが成長、発達して動いて居るかとか云ふことには、躊躇するのである。之れはど一云ふ原因であるか。又あなた方が躊躇するのは何故であらうか。あなた方は何処に不充分な処があるでありませうか。夫れを聞きたいのであります。

も一度尋ねますが、我々は今、積極的に動いて居ると云ふことは躊躇する、其の原因は何処にある、何故に躊躇するかと云ふことの、答へらるゝ方は……なし

夫れでは、只気分丈けでありまして、何が原因である、何処にも不充分な処があるのではなく、只気分でありませうと云ふ風に考へるお方は……なし

夫れでは、何か足らぬものがあると云ふことになるよ一であります。

夫れでは積極的に事に就いて、も一度お尋ね致します。明治四十三年に於て、自分の爲めに或は学校の爲めに、ど一しなければならぬと云ふ計画の立つて居るお方は……多数
然らば之れを委しく言ふには、到底時が足りませんから、其の要点だけを言つて貰ひたいと思ひます。

(生徒の答を省く)

そ一すると、此の大学としても、も一層発展しなければならぬ。然るに、自分を顧みるに力が充分でない。之れはど一云ふ訳であらうか。之れを家政なら家政と云ふ縦に通じて、よく考へて、も一層適切な研究法を見出だして、力を増大するよ一な方法を講じなければならぬと考へるものは……多数

- ・ 力
- ・ 勉強法

皆さんの問題は、凡そ此の二つに帰するよ一であるが、先づ世間で力と言へば博識、知識と云ふことを意味するのであるが、皆さんの力と仰るものは此の力、即ち知識であると云ふ者は……なし

- ・ 精神の力でござります。

精神力が足りないと思ふものは……多数

- ・ 知識と精神力と両方が必要であると考へます。

孰れかと言へば、多くの数によつて出来たと云ふ性質のものではなく、いろいろな方面があるので、便宜上知識とか精神とか申しますが、先づ私は便宜上、我々は何に一番怠つて居るか、何に一番不足を感じて居るかとか云ふことをきゝたいのであります。

知識と言つても、いろいろ分類致します。

- (1) 観念力

- (2) 記憶力
- (3) 思考力（統一力）
- (4) 研究力（創始力）

精神と云ふ中にも、例へば、

- (1) 自制力
- (2) 情操
- (3) 信仰、と云ふよーなものがある。

実行は、

- (1) 行為
- (2) 品性と、まー、こーしておきましょう。

夫れでは知識と云ふ方の方に、尋ねましょー。

博識と云ふことの欠けて居る方は……………少数

統一力、思考力、沈黙思考すると云ふよーな深い処迄をこめて、思考力が足らぬと思ふものは……………半分程

研究力。之れも単独な力ではなく、前のものを悉く含むのであるが、其の研究力の出来ないのが自分の一番欠点である。之れが出来ねば、到底第二の発展は出来ぬと思ふ人は……………

……… 稍多

次には自制力。学問が出来ぬとか、時が足らぬとか云ふことは、つまり此の力が足りないために捕はれるからである。つまり自分が自分の主人となり、帝王となって統御する力がないから、之れを養はねばならぬと云ふことを、最も深く感ずるお方は…………… 稍多

[情操]

次には情操。大分物は覚えて居る、仕事出来るよーになった。けれども深い感情が動いて、心からすると云ふ力が自分にないのである。故に、どーしても此の情操を養はねばならぬと考へるものは…………… なし

[信仰]

信仰。やはり此の自分の出来ぬと云ふのは、信仰が乏しいからである。故に、私は此の信仰の出来ることが願ひであると云ふお方は…………… 少数

信仰が出来ても、情操が出来ても、どーも十分に物が出来ぬと云ふのは、実践躬行が足りないからである。故に、実行と云ふことに勉めねばならぬと思ふものは…………… 少数

[品性]

品性修養をすることが足りなかつたと思ふものは…………… 稍多

[人格]

人格を作る働きが欠けて居る。眞の生れ付いて居る適性を発揮し、立派なる人格に築き上げることが欠けて居たと思ふ者は…………… 多数

大多数手の挙がったものは、統一、研究、自制、行為、品性、人格であります。私は、あなた方の其の判断については満足をするのであります。

一番間違ひ易い処を弁明し、あなた方が今仰った処、之れは私も同感である。それから勉強と云ふことについて、今日は誤った考へが世の中、殊に教育界を支配して居る。此の学問知識が如何にあなた方を誤った方に導くかと云ふことについて、区別して置いてもらひたいのであります。

今日我国にて学力、又は博識と云ふことは、多くは此の観

念力、及び此の記憶力と云ふことに偏して居る。之れが我国学生の間にも、一番人間の力の土台である、人格の土台である意志力が発達しない、又知識の真髓である処の其の研究力、創始力の出来ない所以である。そして骨を折る割合に実力が出来ない。彼れ等の知識はしひなのである。其の中に実のないのと同じよーな処の、知識を倉に貯へて居る。此のよーなしひなでも、形式でも、世の試験は通過して居る。否、之れでなければ其の関門は通過することが出来ない。

[形式的学問]

其の暗記学問が学力、知力であると云ふ考へがある。そー云ふ暗記的の学問をして居る処は、西洋では France、東洋では支那、日本である。殊に支那、日本は此の形式的の学問ばかりをするために実力、創始力と云ふものが乏しい。又人格や強固なる意志は殆んど見ることが出来ない。之れが今日の世の時弊を生み出して居る原であります。之れは今度々言ったことでありますから、多分あなた方が気付いて居るであろーと思ふ。

夫れから尚ほ加へて置きますが、無論此の暗記とか記憶力と云ふものは、貯へて置かねばなりません。確に之れは入るのでありますが、其の記憶した処の知識の永続するのは、今日流行して居るよーな学問の方法では得られないのであります。

[力]

つまり我々が実力を要求して居ると云ふのは、決して一部の力を言ふのではなく、其の力の凡て要素を含めて申すのであります。故に之れは、即ち知識も精神力も実行力も、其の中の凡ての力を統一して出来る全人格を指すのであります。つまり我々の言ふ力と云ふものは、Organization である。

我々の身体力、神経力、肺臓力と云ふものは、此の凡ての健全な働きで出来て居るものを言ふのである。そこで力と言ふなれば、精神と仰った中にある自制力、即ち統一力である。全体を支配する、統御する力を言ふのである。

[強国と弱国]

今之れを世界国家に擬へて言ふならば、世界列強と言ふことの出来る国は、其の国が必ず君主に由つて、法律に由つて統一されて居る、一致協同をして居る健全なる国を言ふのであります。之れに反して支那、朝鮮の如き一致団結なき、全体を支配する制度なき国を、弱国と言ふのである。そのよーに我々も自分の中に全体を支配し、統一する力を意力と名付けて居る。之れは Subconsciousness と深い関係を持って居るものである。其の意志を以て境遇を支配し得るものを指して、我々は実力ある人とか、人格ある人とか言ふのである。

[三種の統御力]

薄弱なる人と云ふのは、其の国が乱れ、其の国民が相互に闘いで居る混乱状態にあるを言ふのである。統一なき生活をして居る人を、奴隷の生活をする人と申すのであります。此の我々を統御して居る力に、三種程の強大なるものがあるのです。

[肉体力]

其の一を、肉体力と言ふ。或は肉欲、或は情欲と言ふの

である。我々は生涯 1/3 か、或はもっと此の肉体、即ち本能に由って統御されて居るのであります。之れを動物的、衝動的と言ふのであります。我々はど一しても食はんければならぬ。いかに忙がしくとも、必ず三度の食は取らなければならぬ。時に肉体的衝動は威を逞ましくして、自我の上に非常なる暴威を振ふものである。自制力の薄い人程之れに支配せられ、高尚なる勢力を破壊せらるゝのであります。

[第二]

第二は、我々の境遇、或は社会から統御されます。

[他律的]

先づ七才から十八才迄は、国民教育を受けねばならぬ。丁年になれば、兵役に従事しなければならぬ。此の力を我々は他律的と言ふ。風俗、習慣の権力を以て、我々を束縛する。我々はど一しても、之れに服従すると云ふことはまぬかれないことである。

之れを他律的、或は他動的、衝動的、本能的生活と言ふのであります。併し此の動物的生活から脱して人間と云ふ、人生と云ふ力を発揮するよ一になったのは、自制力、即ち自律的生活を営むよ一になったからであります。我々の力を要求するは、此の自律的生活の出来る人格にならんと云ふのであります。此の己の意志を以て働く時間と程度とを、価値ある生活と言ふのであります。此の自制的能力が実に我々人間を高尚にし、精神的にして人格を発揮し、銘々の生活を価値あらしめ、人生を幸福ならしむる。此の統一力を養ふと云ふことが、実力を養ふ根本である。此の本が出来なければ、如何に他の手段を講じても、結局は失敗に終らざるを得ないのである。尚ほ此の力のことについて委しく言つて、夫れからど一致したならば、其の要求する力を自分のものとする事が出来るかと云ふことを申して、あなたの考へを導くよ一に致したいと思つて居りましたが、始めにあまり時を取つたもので、遅くなったのです。つまり、ど一云ふ原因に由つて力が得られないか。自動的に働くからである、仕事が多過ぎるからと思ふかも知れないが、夫れは間違ひである。其の原因は自守的生活が出来ない、自制的生活が出来ないからである。卒業する迄は大分力が出るが、其の後に於て発達止まるのはど一云ふ原因かと云ふと、あなた方が此の学生生活に於て、真の生活が出来て居ないと云ふことに原因すると思ふ。夫れで三年の間、第八回生、第九回生、及び会員も共に、本当の力を養ふて来なければならぬ。真の婦人の人格を現はすに欠く可からざる本当の学問生活が必要であります。

私は其の原因をしらべて、ど一か大に始めから修養の力を培養して、ほんとの生活を始めて下さることを希望するのであります。

充分にあなた方が研究して、生涯発達し得る経験を以て、今年の卒業をなさることを切に望むのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十三年一月二十六日

明治四十三年一月二十六日
大学部全体

此の前に、力と云ふは何をさすか、又銘々にも一つ力が足りないと言ふことは、自分に取つてはどの方面をさしておいでになるかと云ふことを聞いて見ました。そして其の答へをずつと分類して、いろいろな要素にわけて、其の要素が又一つに組み立てられて、総体の力を意志の力、又は人格の力とか、又は精神とか云ふよ一な、つまり其の時使ふた詞は人格の力と云ふことであります。夫れで大抵、力と云ふことはど一云ふことを意味するかと云ふことが、凡そ分かつたかと思ひます。

其の後におきまして、少し私は観察して居つたことがあります。夫れは時に由つて、力を養ふと云ふことの方法について矛盾を来すことがある。そして其の力を養ふ時に一番困つて居ることは、勉強と修養、即ち品性を拵へることと学問の力をつけることとである。時々、勉強と云ふことを奨励する為めに修養と云ふことを軽く見たり、修養と云ふことをあまり強く言ふ為めに学術と云ふことが少しおろそかになりはせぬかと云ふ感じがあると云ふこともありましたが、今日はそ一云ふことの為めに苦むと云ふことはなくなつたよ一である。其の原因は何であるかと云ふ事は、考へておく必要があると思ふ。

[語学の力]

過日申したことに含まれて居るのであるが、も一つ考へておかねばならぬ方面があると、私は思ふのであります。夫れは何をさして言ふかと言へば、一言で言へば、語学の力、つまり詞を知ると云ふことである。今日、ど一も力がも一つつかないと感ずることは、語学の力である。文字の力が足りないと言ふことになる。又文学部にも力が足りないと言ふことがあります。之れも文字の力が足りないと言ふことである。其の他、科学、経済、其の他の学問の力を養ふお方も、今一つ力が足りないと感じて居るのは、読書の力が足りない、書物を使ふ所の力が足りないのである。其の外、観察とか実験とか、いろいろの事が足りないけれども、こゝに論文を書かうと云ふ時にも、外国の書物を見ることが出来ない。別科を卒業した位では材料があつても、夫れを意の如く使ふことは出来ない。詞を換へて申すならば、も少し読書力が足りない、語学の力が足りないと言ふことになる。其の他、誤解とかいろいろなこと、其の原因は詞の不充分に歸するのであります。詞の上の誤解、詞の上の矛盾、之れからいろいろな間違ひが来て居ると云ふことが分かるのである。そこで今日ど一しても力を養ふと云ふには、語学の力を養ふと云ふことになる。外国語と自國語との語学の力を養はねばならぬと云ふことになる。そこで力を養ふには、此の語学の力を養ふと云ふことを常に勉めねばならぬ。

も一層深く、広く、有効に詞の力を養はねばならぬ。力ある詞が自分になければならぬ。命ある詞を持たねばならぬ。力ある文章を組み立てる処の力がなければならぬ。此の語学の力を養はねばならぬと云ふことが、此の間の所に落ちて居たと思ふ。そこで今年に於て、も一層深く語学の力を養はねばならぬと思ふ。私が学生生活と云ふことを申す時に委しく申す筈であります、之れを一言で言ふと、今皆さんが使ふて居る詞、皆さんがお持ちになって居る詞は、其の内容が甚だ貧弱である。詞の内容が充実して居ない。極端な詞で言へば、しひなである。からである。其の詞に力がないから、思想に力がない。又、詞を養ふと云ふことが只形式になって居る。其の詞の記号を養ふ、形を養ふと云ふことには一生懸命になって居る。けれども其の詞が充分目的を達するだけに用ひられて居ない。之れは甚だ不便な所以ではありはしないかと、私は思ふのであります。そこで只一申しても、抽象になる詞は実は抽象的のもの、又は器械的のものである。そ一云ふものがやはり詞であつて、之れがやはり、あなた方に誤解を与へる本となるのである。つまり今言つたよ一に、あなた方のお使ひになる詞の内容が充実して居るならば、決して間違ふものではない。けれども其の詞の中に充分実が入つて居ないから、力がないのである。

其の訳を申す前に、私は言葉、Language と云ふことを申しました。言葉は何であるかと云ふ問ひに対して、お答へを聞きたい。詞は知識の鍵なり、と言つた人もある。こ一云ふよ一に、未だ他に答へられますか。

- ・ 詞は鍵なり 1/3
- ・ 詞は器械なり 1/5
- ・ 詞は生命なり 1/10
- ・ 詞は祈祷なり 1
- ・ 詞は思想の身体なり 1/5
- ・ 詞は記号なり 1/2
- ・ 詞は思想の表象なり 1/3

詞と言つて使ふて居りましても、其の内容になると斯くの如く違ふのである。然らば詞が集まつて有機的關係をなすと云ふと、之れを文学と言ふ。文学と云ふものは何であるか。文学と云ふことは皆口に言つて居るが、定義は何と言つたらよいでしょうか。

- ・ 思想を文字が詞に表すもの。

皆さん、詞と云ふことについてど一云ふ内容を持って居るか、あなたの詞と云ふものにはど一云ふ実が充実して居るかと云ふことが、人の話をきくにも、話をするにも、人の詞をきくにも、詞に違ひが来るのである。立派に Organize して、ちゃんと一つのものが整頓して居ると居ないとは、非常に違ふのである。そ一して詞があなた方の中にあるならば、ど一云ふ風にその詞の学問をしたればよいかと云ふことも、わかつて来るのであります。

此の詞は恰も記号なり、器械なりと云ふ考へは、我々が物を数へる時に用ふる Rome 字、又は幾何学に用ふる処の記号であると思ふから、数学をする人が数字式、又は方程式によつて行くよ一に、言語学をする人は成る可く沢山覚えねば

ならぬ。故に数学、幾何学をするよ一に、段々と沢山積み上げて行かねばならぬと云ふことになる。そこで詞はもと器械であるから、之れを修めるにも機械的にせねばならぬ。繰り返し、繰り返し、多くの時間を使つて度々 Association をして、字引と首引きをして忍耐してしなければならぬから、時間が足りない。何となれば数字のよ一に十ばかりのもの、又は Shorthand ならばよいけれども、詞は充分にすれば一万以上のものを沢山記憶しなければならぬから、之れを Master するには沢山暗記しなければならぬと云ふ考へがある。果たして詞はそ一云ふ機械の如きものであるか。私は之れが語学をする人に非常なる迷ひとなり、Paradox となつて居ると思ふ。詞は記号なり、機械なりと云ふことは、其の内容の一部ではあるけれども、決して全体を表はしたものとでは言はれないのである。

文学は思想、感情を文字、或は詞に発表したものなりと言へば、文字と云ふことと言葉と云ふことを一つに見た考へであるが、日本の詞はもとが画から来たものであるから、只しるしとなるばかりである。けれども西洋のは Accent があり、Pronunciation があり、思想、感情、其の儘を表すに誠に都合よく出来て居るのであります。故に詞と云ふことを申しても、時には誠に喜ばしいよ一な韻、時には弱つたよ一な韻がある。時には誠に元気に満ちたよ一な、時には恋愛の籠つたよ一な、そ一云ふ光沢が何時でもあるのである。故に只、 $1+2=3$ 、と云ふよ一なものではない。そこで文学には Style と云ふものがあり、又は Idiom と云ふものがある。Idiom とは即ち Mental mood である。之れは人に由り、國に由り、皆違ふのであります。故に詞と云ふものは論理的のものと、文学的のものと両方ある。けれども其のほんとの本になると、即ち詞の Essence は、つまり感情であり、生命である。そこで詞の特色は Style があり、Idiom がある。故に詞の力は詞の生命である。

そこで詞の力を養ふと云ふことは、詞の生命を養ふのである。即ち趣味を養ふ、感情を養ふと云ふことである。夫れを知らずに只数学をするよ一に、字引きと首引きをするよ一に考へるのは大変な誤りである。詞の力を養ふにはど一しても非常に感情が起り、非常に興味を感じるよ一にならねばならぬ。只試験の爲めにした英語はあなた方の眞の力にはならないのである。

夫れから、詞は大きな樹木のよ一なものである。始めは小さな種の如きものであるが、段々根となり、幹となり、枝葉を生ずるのであります。つまり語学の成長は、我々の思想の成長である。彼の名高い所の Goethe の ファウスト と云ふものは、Goethe が 40 年養ひ來つた思想の産物であります。

Shakespeare は実に巧みに詞を使ふて居ると云ふけれども、決して一朝一夕に出来たものではない。故に詞は生命である。此の我々の心理に叶ふよ一に、思想の法則に叶ふよ一に勉強しなければ、ど一しても語学の力は発達しないのである。

そこで此の眞理を応用することが、甚だ六かしいのであります。其の方法がわるいと、丁度時候のわるい時の収穫のよ一に、しひなであつて、一向実がない。其の中に Substance

がないのであります。此の間、我々の力は人格の力である、故に人格の力を養ふことが一番大切であると云ふことになりましたが、之れも其の人格と云ふものゝ内容を知ることが誠に大切であります。

[人格の Essence]

そこで皆さんにきゝますが、人格の Essence となるものは何であるとお考へですか。

- ・ 知情意の円満に発達したるもの。

人格は統一であると云ふ考へもある。其の他、人格は単一である。夫れと反対に、人格は多数であるとも言ひ、人格は永久不変なものである。又人格は、かはるものであると云ふ考へもあります。又、人格的唯心論は個性的精神、つまり永久不滅の分解しない如の、個人性のあるものであると見て居る人も、いろいろあります。

我々が言ふ処の人格の力と云ふものは、必ず精神的のものであると考へて居るものもあれば、又之れを器械的のものであると考へて居るものもあり、其の中に又いろいろの考へがありますが、皆さんはど一考へておいでゝすか。

- ・ 人格は徳の力なり。

人格は単一であると云ふ考へ、之れは Absolute であるが、つまり我々人間の一番尊い処は、即ち Uniqueness である。誰れにもない如の、自分だけにたった一つある処の特色であると云ふよ一な意味で、単一なりと云ふよ一な考へもあり、又多数なりと云ふ考へもある。之れはど一云ふ意味で多数と言ふのであろ一か。誰れでも言つて御覧なさい。人格にも唯物論と唯心論とある。あなた方は人格について孰れを信ずるのですか。其の唯心論と唯物論とを調和した処の一元論と、物と心と両方ある二元論と二つあるが、孰れを信ずるのでありますか。

詞がわからないから、やっぱり分からないのである。詞の力が弱いとは其処の事である。故にど一しても、詞の力を養はねばならないのですね。

我々の身体は物質である。夫れと同じよ一に、宇宙の凡てを物質として、物質的説明を下すものを唯物論と云ふ。宇宙の万物の一番の本は何ですか。

原子ですね。

心の本は何でありますか。—— 精神

唯心論にも一元論と多元論とある。一元論の言ふ処のものは何でありましょ一か。—— 神

世界の万物は、いろいろあるよ一であるけれども、之れは只一つの神が一寸現れたものであるから、死ぬれば又本の神になる迄であると云ふ考へ、之れが一元論である。

多元論の唯心論を Monadology と言ふ。宇宙の實在は Monad である。之れが即ち Organize して、いろいろの Individuality を作り、之れが Organize して我々の人格を作ると云ふ。故に我々の人格のものは精神的のものであります。そこで我々の人格と云ふものは、分つ可からざる単一のものではなく、沢山のもの、Monad と云ふものがある。之れが Organize したものが人格であると云ふのが、唯心論の多元論であります。

唯心論の一元論を信ずる者は……………

唯心論の多元論を信ずる者は……………

も一つ具体的に尋ねましょ一。

人格は永久不易なものだと云ふ考へと、人格は変り得るものであると云ふ考へと二つありますが、どちらを信じますか。

・ 人格は永久不易なものと思ふ人は……………

・ 人格は変り得ると考へる人は…………… 多

哲学者の Kant は、人格は変らないもの、永久不易なものである。そ一して絶対的のものであって、決して夫れに改善を施すと云ふことは出来ない。人格は単一なもので、今出来たものではなく、先天的に伝はつて居るものであるから、変らないものであると称へました。Spencer などの説でも、進化と云ふことはあるが、教育などで易へることは出来ないと云ふことになって来る。夫れから人格と云ふものは実に此の単一なものであって、分解することの出来ない、又改良することの出来ない人間の本性であるとして居ります。こ一云ふ風に人格の内容の解し方が大切である。其の内容が間違つて来ると、我々の人格培養の上に直ぐ影響して来るのであります。

故に、我々の人格とは何であるか、其の人の特性は何であるか、及び如何に之れを培養すべきものであるか、と云ふ内容が充実しなければならぬ。そこで私は始めに、其の試験をしたのであります。そ一して是れから、ほんとの修養の道について、及び力の培養について説き始めよ一と思ひましたが、皆さんはよ一詞を知つて居るわりに内容が乏しい為めに、大層時間をとりました。そして今日は寒くもありますので、あまりおそくなるのは宜しくないから、今日は是れだけに致しましょ一。

[中表紙]

正会員会に於ける御話
明治四十三年一月三十日

明治四十三年一月三十日
正会員会に於て

一体、此の会は此の月の半頃に開く筈でありましたが、今年の方針につきましては、いろいろ重要な問題がありました為に段々後れまして、終に此の一月の終となりました。月末で皆さん御迷惑の事とは察しましたが、止むを得ず今日に致したのであります。今日私が昨年夏以来、研究致しました結論をお話し致しまして、今年の大体的方針をきめたいのであります。之は昨年来、時々大体的意味を話し、又通信などに由つても幾らか御通知を致したことであるから、大体に於てはあなた方がお解しになり、又いろいろお考へになつたことと思ふ。つまり此の母校が我が國に生れ出ましてから殆んど十年と云ふ星霜を経まして、茲に一段落を告げて、今後十年間、即ち第二の発展について計画を立て、又其の計画に対して夫れに應ずるだけの力を、会員が銘々に養ふと云ふことを致さんければならぬと云ふことになる。そこで私は十年

間に於ける我々の経験を出来るだけ集めて見、又銘々自分の力なり、傾きなりについて出来るだけ反省して見て、此の十年期を祝ふについて、母校の第一期の結果を顧し、之を又本と致して今後の発展を期すると云ふ時に当りまして、此の明治四十三年と云ふ年は、我々会員は銘々に於て如何なる態度を以て、如何なる方針を計画致さんければならんかと云ふことを、考へんければならぬ時機である。

【過渡時代】

私は是迄略ぼ其の意を洩らしました様に、今年から明年、明後年間は、第一期から第二期に移る過渡の時代であるから、此の時機に於て一変革をなすことが必要であると思ふ。故に今日は先づ此の三年間、即ち来る四月より三年後の第四月迄の三ヶ年間の計画を確立すべき時である一と、私は考へて居るのであります。

夫れで私が只今長く考へました、又いろいろ考へました結果を皆さんに発表致すに当りまして、先づ其の始めに、此の創業十年間一日の如く、皆さんが非常に奮闘、努力して会の為にお尽しになったことについて、一言感謝の意を表すべきではあるまいかと云ふ様にも考へられる。併しも一層深く考へて見るならば、将来の事を深く考へて見るならば、今日は寧ろ挨拶をせぬ方が宜しくはあるまいか。又是迄の仕事について、此の際少しく批評を試みてはど一かと云ふ感じもあります。併し私は此の場合に過去を顧みて、自分の歴史を思ふことは大切であるが、其の歴史の中の自分の過ぎ去った働きなどを考へると云ふ時機には未だ早いではないか。又茲に幾らか仕遂げたことがあると思ふならば、人間は弱いものであるから、油断を生ずると不利である。故に先づ其の働きを認めて挨拶することは、延ばした方がよいことはあるまいか。故にいろいろ変更を来す必要があると同時に、其の働きについて批評をすることが、将来の為に宜しくはないかと云ふことが考へられる。けれども之は今日にするのは宜しくあるまいと思つて、今日は致しません。そして我が母校の発達から言ふならば、今日は此の計画について研究すべき時代ではないのである。昨年夏から今日に至る迄長い間、研究に研究を重ねたことを実行するより外はない。

【建設時代】

故に今日は、も一研究時代にはあらずして、建設時代である。茲に新しい生命を生じ出ださんければならぬ時である。此の時に當つて批評を試みるならば、其の空気は冷たくなる。故に生命をきずつけると云ふ恐れがある。凡て物は改革しよ一と云ふ時に、新らしく境遇を作ろ一と云ふ場合には、勢ひ批評的になると云ふことは自然の勢である。そ一云ふ時にいろいろ自分を解剖して、過去の自分の足らぬことや、会の弱い処やらが目につき易い。其の結果として人心を猶沈める、猶弱くすると云ふ心配もある。故に、こ一云ふ際には功を思ふことも、批評を試みる事もやめて、我々は益々将来の計画について、益々其の実行に着手する様に、銘々の態度をきめて其処に皆が着眼して、其の暖かい熱誠な空気を養ふ様に、銘々感じなければならぬ。銘々自分を發揮する様に勉めねばなるまいと思ふ。夫れで私は今日之れを申すことはやめまし

て、他日之を申すことがありますでしょ一。そして只今申さうと思ふことは、何も俄かに思ひついたと云ふことではなく、昨年の夏から長く考へて参つたことであります。

且つあなた方から手紙に、論文に、昨年以來度々お話しになった事でもあり、又此後銘々が力を養ふ上に共通に必要な基礎学の事や、其の研究法は如何にすれば宜しいかと云ふ様なことに關係して居りますから、茲に重ねて過去の事に批評を加へる必要はあるまい。及び桜楓会の方針も夫れ位長く考へたこともあり、又昨年以來、研究をお積みになつてお考へになつたのであるから、余り其の計画について干渉する必要もないかと思ふ。故に今日は、なるべく有の儘を打ち明けて相談的に致したい。

夫れで私は、主に此の來らんとする三年間の計画をお話致して、夫れを実行するに必要な力を育てる様な空気を養ふ様にすることが、最も急務なことである一と思ふ。

故に今日私のお話することは、過去の働き振りについての批評とか、又は其の Application とか云ふ意味ではない。そ一して、も一一つは、成るべく皆さんのおわりになる様に、打ち明けてお話を申すつもりでありますから、時間も少ないことでもありますから、皆さんがよく其処を察して戴きたい。

今日、第二の発展を期するには、ど一すべきであるか、又会員銘々が発展なさるには、ど一云ふ方法をとつて進めばよいか、と云ふ様な事をいろいろ考へて、一つの仮説を作つたのである。其の仮説を以て、校内の会員にお目にかゝつた時に謀つて見ました結果、私の立てた処の仮説と云ふものが、ひどい間違ひではないと云ふことが確められ、又其の關係の深い、最もよく会員なり桜楓会なりの事を日頃考へて居る人達にも計つて、私は其の考へをきめたのであります。そして銘々の力なり、傾きなりを考へた上で愈々之を実行することに致しましたから、今度のことに就いては尤もな道理があることと、之は全体の為に余程考へを練つて組み立てたものであると云ふことを、察して貰ひたい。

之は只桜楓会と云ふだけのことではない。我が日本と云ふ問題である。其の國家の細胞である処の、家庭を掌る処の婦人総体、我が國の二千五百万と云ふ婦人の上から言ふことである。其の中には必ずあなた方も籠つて居る。此の我が國婦人の運命を開いて行かうと云ふ、あなた方に関することであるから、甚だ重大なる問題であります。之は古くて新しい問題である。つまりあなた方も志を立て、此の大學へお入りになり、我々も百難を凌いで此の事業を企てたのであります。然るに茲に行きなやんで居る。さてど一しよ一かと云ふと、皆進まうと云ふ考へはあるけれども、ど一しても道が開けない。夫れは何故かと云ふと、境遇が開けない。そ一言つても一時的の幸福は感じて居るかも知れぬ。食べることには困らない、家庭は楽しく営まれて居るである一。けれども、あなた方の足は一步も進まないものである。そこで会員の力と云ふものも定まつて了つた習慣がついて、固定したのである。夫れで一言に言へば、進歩が止まつたのである。あなた方を高等女学校卒業生に比ぶれば、も少し人格が高く、も少し力がある様である。けれども其の目的から言へば、達せられない。

我が国に愛国婦人会もある。女子教育会もある。矯風会もある。けれども、どーして此の以上に進むことが出来るか、夫れ以上にどーして婦人の力を展ばすことが出来るかと云ふと、六かしい。之が私の心配する処である。私は始めから夫れを心配したのであります。

【昨年来の問題】

そこで何とか此の境遇の開けるだけの刺激を受けなければ、夫れだけの思想、感情が動かなければ何も出来ぬ。只ぐずぐずして居る、之は私の一番心配する処です。之で止まるならば益々退歩する、倦怠する。一般の会と何ぞ選ばん、一般の婦人と何ぞ選ばんと云ふ風になるのです。成る種子はあるのです。家はあるのです、衣食には困らないのです。けれども一般婦人の境遇を開くことは出来ないのである。之が私の昨年からの問題である。皆さんは、どーして発展するのでありますか。之が我が日本の問題であり、我が国家の問題であり、我が姉妹の問題であります。之が私の昨年来、も一母校の創立時機が漸くしまひになって、是から目的を遂げて行かんければならぬと云ふ時に、之からどーして進むべきかと云ふ時に當って、どーしても会員銘々の力が内に出来て来なければ、も一つ大きな震動を受けなければ、此れ以上に進むことは出来ないと感じた所以である。之は決してあなた方を叱るのではない。之にはいろいろな原因があるのです。又一言つても、今迄に何も出来なかったのではない。漸くにして此処迄は進んで来たのである。けれども今の様な事をして居っては、其の力も涸れて了うのである。今迄は創業の時代であったから、あなた方の力を纏って来ました。けれども物には程度があるから、此の儘で続けて行くなれば、も一涸れて了うのである。故に少し銘々を養ふて、夫れから大に努力すると云ふことにしなければならぬ。今迄は学校、桜楓会と云ふことを土台にして参りましたが、今後の三年間は、銘々の内を養ふと云ふことにしなければならぬ。之が今度の計画を立てた所以であります。

併し之を實行しよーとすると、いろいろ困難が生ずるのである。今迄私は随分六かしいことを皆さんに課して参りました。其の以上に又重い責任を背負ふと云ふことは、何の必要があるかと云ふ考へが起るかも知れぬ。けれども私思ふに、どーしてもあなた方が国家の必要に応じなければ、一般の婦人ではだめである。つまり、私の理想として居る処の婦人とおなりにならねば、所謂進んで行くことの出来る処の婦人、頭の毛が白うなつても、猶老くない処の人となることが出来なければ、どーしても婦人の境遇を開くことは出来ぬ。どーしてもあなた方は、早く現状に安んずる傾きがある。之が、私の心配に堪へない処であります。

【女子教育の困難】

つまり今我国で女子教育の困難など言ふのも、其処にあるのである。我が国の高等教育は後退りと云ふ風である。そしてあなた方位の教育を受けたお方は、そーでないかも知れませんが、一般の家庭では昔と少しも変つて居ないのである。つまり之は新旧の衝突であります。学校で教育を受ける間は少し變つて居るけれども、家庭へ帰ると昔の通りの風俗、習

慣に捕はれて居るのである。負けて勝てばよいけれども、段々負けて負けて了うのである。人を化して行くよりも、自分が昔の風俗、習慣に帰る方が安いから、段々其の方に固定して了うのである。独り外にお出でになる家庭と云ふことばかりではない。我が桜楓会、及び母校と云ふものも、過去十年間は創立の時機であり、発展の時機であったから、どーしても落ち着いて居ることは許さなかつた。けれども今日は先づ之で落ちついたと云ふ様になり、桜楓会も先づ之で形が出来たと云ふ感がある。夫れで今の儘を継承して行けば、さほど困難はないと云ふ風になった。そこで幾らか校風と云ふものが、其に固定して来たのである。考へも一つの dogma と云ふ様なものが出来て、変らうと云ふことを好まない。幾らか情気を生ずると云ふ嫌ひはないが、之は私の今日迄攻撃を受けた処の本である。余り物を急ぎ過ぎるのではないかと云ふ批評もあるけれども、始終動く、進むと云ふことと、之を統一して行くと云ふ、此の二つは、今日迄一日として忘れたことはありません。

夫れで、只むやみに動かさうと云ふのではない。益々健全になって、夫れを成し遂げる処の意志あるもの、只大きい計りではなく、深いものとなる事に勉めて居ると云ふことは、皆さんが決して誤解することはありません。

そこで私が、昨年来あなた方を促したのは、どーしても、も一つ皆さんが内に力を養ふと云ふことを企ててはどーであるか。即ち、も一つ進むと云ふことは、どーならねばならぬかと言ふと、つまり詞をかへて言へば、茲に一つの変革を起して行かねばならぬ。

是迄と何か變つた処の境遇を開いて行かねばならぬと云ふことになる。夫れで私は、其の計画と致しまして、桜楓会の外部に向つて働いて居らるゝ会員と、内部に於て幹部に働いて居らるゝ会員と、二つに分けて考へたのであります。其の方法としては、私の今度立てた処の具体的案を申したならば、よくおわかりになるであらうと思ふ。も一つ力を進めよと云ふには、何か境遇をかへねばならぬ。今迄の様に、朝から晩迄殆んど自分の時と云ふものはなしに、追ひ使はれて居ってはならぬ。熱心はよいけれども、少し養ふと云ふことをせねばならぬ。夫れで私は会員の力を展ばす為に、大に境遇の変更を行ふて見てはどーかと云ふ考へを立て、皆さんに計つて見ました。処が一番始めから働いて居らるゝ方々は、どーも力が足りないから、も一つ勉強したいと云ふことである。そこで私は尤もと感じまして、今度はそー云ふ希望を許して、都合のつく限りは其の望みにそふた方がよいと思ふ。そーして是迄古く、長く働いておいでになつた方は、すっくりと變りして、銘々目的の事に従つて、比較的若い人と代つてはどーかと云ふ方針を立て、皆に聞きました処が、皆賛成でありましたから、此の四月からは大に新しい人々にさせて見よと考へます。

之は重大な事件であるから、只だ自分だけの事を考へてきめることは出来ぬ。大に全体から考へねばならぬ。又自分は生涯の天職に向つて進むからよいけれども、我が桜楓会は将来、どー云ふ風に組織を立て、行くべきであらうかと云ふこ

とを心配する人もあるが、今度、自分を反省する、修養すると云ふことは、誰れも彼れも最も真面目になさったと思ふ。所が、之を實行するには中々事情が六かしい。又自分の力と云ふことを考へても、甚だ疑問に属すると云ふことが多かったのであるが、漸くにして今日迄かゝって、皆さんが決心して、実行しよと云ふことになりました。

そこで暫く母校を出て勉強しよと云ふ方もあり、留まつて猶仕事を続けよと云ふ方もある。

併し残るお方も、出るお方も容易ではない。残る人も六かしい。出る人も容易ではありません。残るお方も実行が六かしくなり、出るお方も責任が重くなる。今日の会の空気はど一であるか。あなた方は余程、意志の鍛練をなさったのである。故に強い処はあるけれども、愈々事を決するに當つては心配である、不安である、中々躊躇すると云ふことになる。そこで私は、此の大改革を成し遂げるに必要な Atmosphere を作るよと云ふことが、私の今日の目的であります。

之は仰らないけれども、いろいろお書きになったものや何かに由つて、私にはわかる。茲に大改革をしよとすると、衝突が起る。時には戦争も始まるのである。

習慣に従ふのはやさしいことであるけれども、進まうと云ふときには動かねばならぬ。只だ風俗、習慣にのみ従つては居られない。此の風俗、習慣に従ふ方を Conventional、其の反対を Unconventional と言ふのであります。昔から Genius と云ふ人は、此の慣れない境遇に試験的応化をする人であり、夫れに成功する人が大人である。桜楓会も既に風俗、習慣が出来たから、之を改めよとすると、動機に於て衝突を免れない。此の動機の衝突が社会の衝突となり、国の内乱となり、或は広く言へば世界の戦争ともなるのである。我が國が之れだけの進歩を見るのには、どれだけの衝突を重ねたかも知れぬ。どれだけの犠牲を出したかも知れぬ。夫れで何時でも多数の人は習俗に従はうとするが、少数の非習俗的の人があつて、之を進歩、発達せしむるのであります。此の改革の動機は個人的である、自我保存である。ど一しても自分の力が足りない。故にもっと力を養はねばならぬ。腕を鍛はねばならぬ。夫れをするには方法が入る。第一、時間が足らぬと云ふことになる。之を自我保存欲と云ふ。之は誠に強いものであります。

第二に起つた動機は何であるか。自分は勉強しなければならぬが、此の桜楓会をど一するか、自分を養ふと云ふことも、其の本は何か一つの物となつて、桜楓会の為に尽そうと云ふ目的からであるが、自分達、年をとつた者が退くならば、果して之を継続してくれるかど一かと云ふこと。之を社会心と言ふのである。

之と個人的傾きとが衝突をする。其の間に、も一つ動機がある。之は Race、子孫と云ふ欲望である。結婚問題が即ち之れである。此の時に於て自分の力、自分の適性と云ふことは非常に考へる。そして会と云ふことも深く考へる。其の間に結婚と云ふ問題がある。そして此の三つが相争ふて、孰れが重きを占めるかと云ふことになる。殊に我が國の多くの御婦人、我が國の Subconsciousness には、結婚と云ふことは殆

んど自我を亡ぼしても、或は国家社会の為と云ふことを捨てゝも、妻とならねばならぬ、母とならねばならぬと云ふこともあつて、御婦人にとっては非常に重大な問題である。そこで衝突を免れないのであります。そして自我と云ふことも考へ物である。非常に高尚なることを考へて居るつもりで、卑い考へに捕はれる者もある。夫れで真に犠牲と云ふ精神が出来て居ればよいが、不充分であると自我保存欲に捕はれることもあるのである。故に高尚なる動機から進んで意志となる迄には、非常なる戦ひをしなければならぬ。此の軍をしなければならぬ。真に桜楓会の為になるならば、全体の為であるならば、どんな困難な事でもしましよと云ふ決心が出来る。自分の為には不利であるかも知れぬ。不名誉になるかも知れぬ。やり損ひをするかも知れぬ。けれども其の使命の為には、喜んで犠牲となりましよと云ふ同情があるならば、決して人と調和の出来ぬことはない。衝突を来す筈はないのであります。併し茲に衝突があると云ふのは、決してわるいことではない。衝突があるから、道が開けるのである。動機の衝突と新旧の衝突、此の二つの戦ひは何れの時、何れの社会にでもある。此の大なる衝突があつて始めて世界は進歩する。大調和が生ずるのであります。故に、そ一云ふ衝突があるから同胞でないよと云ふことはない。却つて最も親しい間には、夫婦喧嘩も親子喧嘩もあるのである。此の大なる衝突があつて、益々親密になるのであります。

そこで、そ一云ふ動機の衝突やら、新旧の衝突やらが必ず銘々の心の中に起つたのである。そ一して勇気のないお方は、ど一も仕方がない。やはり是迄の習俗に従つた方がよいと考へて、安んずるのである。負けるのであります。併し今度出るお方も、留まるお方も、皆勝つたのである。故に今日の会員の有様と云ふものは、大に望みを属するに足るのである。決して一朝一夕にして消える様なものではないと、私は深く信ずるのであります。

夫れから私が、今年の元旦から桜楓会員に対して切に望む所は、桜楓会並びに母校と云ふものが段々若がへらねばならぬ。今度の改革に由つて、ど一云ふ傾向が生ずるかと云ふと、若い人が出来ると云ふことである。つまり若い人の傾きと云うものは動的である。そして非習俗的である。年をとつた人は固定的、習俗的と云ふことが特色であります。我が國の婦人は学校を出て家庭に入ると、も一固定してう。私は之を嘆ずるのである。

故に今度の改革は、つまり会員を若がへらせよ一、其の若がへると云ふ動機を高めさせよと云ふのであります。新しい境遇、馴れない境遇に応化する程度の強い程、若い人で、其の程度の弱い程、老人である。此の新しい境遇に応化すると云ふことは非常に力を要することで、又古い人には出来能はぬことである。故に老人は固着しよ一とするのであります。そこで我が國の家庭の改まらないのも、政治のも一つ發展することが出来ないのも、我が國女子教育の今日の様になつたのも、皆老人のある為である。故にど一か各会員が新しい境遇を打ち開いて、ど一とか動かねばならぬと云ふことを、私は桜楓会員に希望するのであります。夫れで私は、非常に

六かしいことをあなた方に望む様であるが、此の桜楓会が之を成し遂げることが出来なければ、我が国風を改めることは出来なと思ふ。故にど一か皆さんが協同なさって、今度の改革を實行する様にならねばならぬ。

夫れで、そ一云ふ必要から、いろいろ昨年度以来全体の事を考へ、又会員銘々の事情なり、力なり、傾きなりを考へて、私が案を立てたのであります。其の案は創立以来、母校なり桜楓会なりの為、長く力を尽しておいでになつた方は銘々の希望があるから、其の希望を許して、その後任としては比較的都合が付き、比較的若い人に代つて貰つた方がよいかと思ふ。

つまり、此後十年と云ふものは、も一一つ社会に向つて働かねばならぬ。夫れにはど一しても、も一つ力を養はねばならぬ。

[家庭部]

夫れで外に向つて力を展ばすには、例へば家庭部に於ては衣食住と云ふ様なことも、ど一しても家庭と家庭との連絡をも一層密接にせねばならぬ。

[教育部]

又教育部から言へば、教育の改良と云ふことも、ど一しても社会と共にせねばならぬ。所謂、大学拡張と云ふことも、それである。

[社会部]

そして社会部の方から言へば、婦人の副業とか、産業組合、其他いろいろの事をせねばならぬ。そこで此の三年の間は桜楓会員の力を養ふと云ふことにして、社会との関係は極簡短なことから少しづつ、つけて行かねばならぬ。又銘々の専門をもっと深くしよと云ふ人も、いろいろありましょ。そこで夫れをするには、仕事の上からいろいろ変へねばならぬことも出来ましょ。故に桜楓会の幹事長の如きは、其の任期が四年となつて居りますが、四年では少し長過ぎるから三年にしよと云ふ案がある。そして井上さんは今任期中であります、之は多分、三月頃には帰りますでしよ。併し井上さんは家政学を研究して参りましたから、是には今迄其の人がない為、始めから計画にはありながら、よ一手をつかなかつた処の家政科の家事を受持つて貰ふことに致し、猶東京に家を持つと云ふ様な事情もあるらしい。夫れで幹事長と云ふことは、勢辞任することとなりましょ。

又今代理をして居らるゝ平野さんも、高等女学校の方が中々手がかりますし、寮監長と云ふことも、四月からは段々寮監が新しくなつてくるので、是又骨の折れることであるから、幹事長だけは御免を被ると云ふことであります。幹事並びに幹事長と云ふものも、一と先づ其の改選を更にして、つまり辞任を許して、候補に立たぬこととなる。其の結果はど一なるかと言ふと、新しい人になるのであります。そして三部長も、やはり力が足りないから、もう少し勉強をしたいと云ふことでありますから、其の内、後任者があれば宜しいが、ないのに出ると云ふ人もあるまい。そこで社会部と教育部とは略ぼ後任者がありそ一であるが、家庭部の方はいろいろ考へましたけれども、丁度適当な後任者がなきそ一であるから、

今の処、宮崎さんに留任して貰ふこととして、之は既に承諾せられたのであります。次に会計主任であります、あれは中々責任の重い仕事であります、中村さんはど一しても天職と云ふ程に思ふてすることが出来ぬから、今度はど一か自分の天職と思ふ方へ行かして貰ひたいと云ふ事でありましたが、適当な後任者が無い為、夫れが見つかる迄居つて貰ふ事に致しました。其の下の実業部主任、須田さんも家庭の事情で是非帰りたいと云ふことでありましたが、同じく後任の無い為、段々人を作って、代る迄居つて貰ふことになりました。出版部の小橋さんも、も一勉強したいと云ふことで御座りましたが、直ぐ手をひいては橋本さんも困るから、今暫く二人ですることとなりました。そして園芸部の瀬野さんも、ずっと前から家事の都合でひきたいと云ふことで、段々延びて居りましたが、後任の見つかる迄と云ふことに致しました。次に庶務の出野さんも、四月から勉強したいと云ふことであります、之も後任者が見つかり次第、そ一するより外仕方がありますまい。そ一すると、先づ幹事で早くから事をとつて居られた方は、大部分代ると云ふことになります。併し私はど一も今の会員の望みを入れ、会の発展を計り、いろいろ将来の事を考へる為にも、一つ力を養ひたいと云ふことは至極善いことであるから、大体に於て皆望みを許しましたが、私は成るべく自然にして、段々若い人に代つた方がよいと思ひます。そこで四月からお出になる方も、お留まりになる方も、骨の折れることはわかつて居る。併し願はくば、六かしいに違ひはないであろ一けれども、若い人は、そ一云ふことならば自分達も大に奮発して、出来るだけやつて見よ一と云ふ決心をして、お働きになったらど一かと思ひます。今年着手しよと云ふ方針の大体は、先づそんな事ではありますが、猶おわかりにならぬ処は、簡短にお尋ねを戴きたい。又夫れを實行するについて、何かお考へがあるならば仰つて戴くと、大に参考になるかと思ひます。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十三年二月二日

明治四十三年二月二日
大学部全体

此の前に、人格の内容について説きまして、猶ほ其の人格と云ふことについて銘々でお調べになるよ一に申しておきましたが、其の後、何か自分で研究をなさつて、之れについて自分の説の出来て居るお方があるならば、手を挙げて表はしてもらひたい。

[Monad]

此の Monad と云ふ字を知つてお出でになつた方は………日本語では、ど一訳すればよいであろ一か………原子 Atom と云ふ字を知つて居た方は………

唯物論は、万有は皆 Atom と云ふ原子から成り立って居る。其の Atom の Organize したのが物体であると言ふ。唯心論の多元論から言ふと、Atom に当るものを Monad と言ふ。此の Monad と云ふものが、我々人格の本体である。之れが其の有機体となつて、我々の意識が出来る。我々の心と云ふものは、此の Monad の發揮したものである。

総ての人間の活動の起りは、此の原子である。そして此のモナドは靈的の原子であると言ふ。之れが、その Leibnitz が近世哲学に於て稱へた処の学説であります。併し今日では、研究の結果、其の時の考へよりは段々進んで来た処があるのである。けれども其の学問をやはり Monadology と言ふのは、此の Leibnitz から起つて居るのであります。之れを多元論と言ふのです。夫れから此の間申したよ一に、唯心論と言へば、単一主義、即ち此の Absolute、絶対的本源を信ずるのである。夫れが此の唯心論であります。夫れで、も一つきゝますが、此の Monad と云ふことを始めておきゝになつた方は、多元論的唯心論と云ふことがよくわかつて居ないために、自分の確説がないかも知れぬけれども、人格と云ふものは一元的のものであつて独特な特色を持つて居るもので、分解することの出来ないものであると云ふ説を信ずるものと、人格は沢山の要素、即ち各種の内容から組み立つて Organize されて出来たものであると云ふ説と、二つある。此の人格についての考へによつて、各自の修養に影響して来るのでありますから、一寸皆さんにきゝますが、あなた方は孰れを信ずるのでありますか。

第一説を信ずるものは……………少数

第二説を信ずるものは……………多数

両方を信ずるものは……………稍多

両方とは、James の言つたよ一に、One is many. At the same time, many is one.

即ち、単一であつて、同時に多数である。即ち、部分と云ふことは無数のものであつて、其の無数と云ふことが一つと云ふ全体になつて居るものが、本体であると言ふ意味です。

此の人格について或は品性について、能く其の真意を了解しておくことが、過日来申しました、学生々活或は研究的生活を営む上に非常に大切でありますから、よく之れを明らかにしておくことが必要であります。

も一つ尋ねますが、我々の人格と云ふものは、我々の客観的世界を言ふものであるか、或は主観的方面を言ふものであるかと言ふことをきゝたい。

客観的方面と思ふものは……………

主観的方面と思ふものは……………少数

両方の關係の出来たものを人格と言ふ、と考へるものは……………多数

私も、そ一信ずるのです。主観的方面と客観的方面を具へたものが、人格である。そ一して人格は単一なものではない。其の中には種々様々なるもの、も一つわかり易く言へば、其の他の個体（個体と言へば Organize されたもの）、其の無数のものを以て Organize されたものが、人格である。併し之れは個々別々になつたものではなく、相互に助けあひ、相互

に反応し合ふ処の活動から成り立って居るのが、人格である。夫れで私は之れを、World of personality or world of individuality と言つてもよいと思ふ。

[人格の世界]

そ一して此の人格の世界は、二つに分けて考へることが出来ます。其の一つを客観的世界、或は意識の世界と言つてもよろしい。

も一つの方面を主観的世界、即ち過日申した処の Subconsciousness と申しても宜しい。此の二つの世界が相反応して、相関係して働き合つて居るのが、我々の人格である。夫れで我々の人格は一つの王国である、帝国である、Kingdom である。無数の國民を有して之れを統一し、之れを支配して居る処の、一國家であると言ふことが出来るのである。即ち之れを一つの世界であると思ふことが、も少し私はよく會得し得らるゝと思ふ。

実は、之れを説き明かすに、此の頃調べかけて居ります、も少し深い人格論を紹介致したいと思ふのであります。之れが、前から皆さんがきゝたいと思つて居る処の宇宙本体論、即ち此の神と云ふ問題、我々の宗教の本尊に対する問題、及び我々個性の運命、我々の死後に関する問題、即ち世界の運命に関する問題であります。之れに就いて、も少し先きに進んで、皆さんの用意の出来た頃に、其の深い考へを述べ見たいと思ひます。

こ一云ふ問題については、19 世紀には余り研究せられなかつたが、二十世紀となつてから、多くの心理学者、哲学者、宗教家に由つて研究せらるゝよ一になつて来たのである。之れ迄は、機械的の説明、即ち唯物論を以て人間を改造しよ一と企てた。けれども之れは、不可能であると云ふよ一になつて来ました。人間の思想を又は人間の意識を、脳細胞の纖維の連合によつて出来ると言ふ如き、唯だ器械的の説明をするだけでは満足をすることが出来ない。及び、如何にしても説き明かすことが出来ないと言ふので、今日の傾向は寧ろ唯心的の説明を試みるよ一になりました。そこで十九世紀に於ける世界の説明、即ち宇宙の本体の一番の本は Atom と云うものであると云ふ考へが、今日は寧ろ此の Monad、やはり此の宇宙の本体は神靈的のものであると云ふ思想、及び、いろいろ事実が研究せらるゝよ一になつたのであります。之れは、Leibnitz が始めて説を公にした頃は未だ其の考へが幼稚であつたが、今日では大分其の研究が歩を進めたと言はれる。そ一云ふ思想が、宗教及び心理学が、只人間の想像や Speculation でなくして、思弁計りの方法をとらずに科学的研究、即ち此の心理学に於ても Psychical research、物質的研究を科学者が、人工を加へて実験をして新しく事実を集め、天然の現象をいろいろと観察して、心理学者も実験心理学のみならず、猶ほ此の心理的現象、昔から言ふ幽霊の研究を始めたり、其の他、悪魔や天使や狐や狸のつくつと云ふ心理状態や、いろいろ此の心靈界の事実を観察し、又実験しよ一と云ふことを試みて来ました。又宗教なども Christian Science など言ふ科学的の名称をつけて、只迷信的でなく知識に照らして説明しよ一と試みて居る。そ一云ふ熱心な人の

中にも随分学者もある。そ一して未だ雲を攫むよ一な話ではあるが、之れから月の世界に交通しよ一と云ふよ一な考へではござりますが、こ一云ふ學術上の研究が種々な事実や説明を与へるよ一になって、是れ迄我々のわからなかつたことが、猶ほ少しづつわかる範囲を広げて行くことが出来て居るのである。夫れで私はそ一云ふ研究も面白い。丁度、此の生物学の研究が誠に此の心理の研究に貢献するよ一に、心靈界の研究も我々の心理を研究する上に、何かを貢献するものでありと信ずるのであります。私は今、此の仮説について研究をして居るのであります。之れは空想的なものではありません。確かに幾らかの根拠を持って居るものである。そ一云ふ研究を致してから、自分のほんといにきめて居る処の考へをお話することに致して、只今は其の人格を最もわかり易いよ一に、半ば比喩的に表象的に、私はいろいろな詞を使ふて説き明かしたならば、皆さんがよく其の深い道理を考へて見ることが出来るであらうかと考へます。

此の比喩的ではあるけれども、只頭の中に考へた想像だけではない。確に之れに相当した処の事実がある。確に是れに類した内容があると云ふことを信ずるのである。つまり、ど一云ふことを申すかと云ふと、人格の内面、即ち我々の Subconsciousness の世界は、無数の人民、無数の人格、又無数の人格以下の體を持って居るのである。そ一云ふ無数のものから成り立って居って、恰も客觀的世界、即ち意識の世界、我々の生活して居る処の社会、我々の組み立てる居る処の国家には、無数の國民が居り、無数の動物、植物が居り、無数の物質が相反して居る。斯くの如くに、我々の Subconsciousness の中に、意識以下の精神世界の中にも、誠に無数の國民がある。動物がある。無数の植物がある。無数の力が働き合ふて居る。反応しあふて居る。之れが即ち人格の土台であり、我々の意識と云ふ流れが流れて来る源である。此に、我々の人格の力がある。此に、我々の限りなき処の精神力と云ふものが潜んで居るのである。

此の議論は即ち、無数の國民と云ふものの中に、我がお祖父さんも居れば、曾祖父さんも居る。即ち、沢山の先祖が生存して居るのである。又、犬も居れば猫も居る。其の他の動物、植物も居るのであります。之れは只喩へではない。今の Monadology をもととして研究して行くと、我々の生きた個人は肉体と共に消滅すると云ふことは、ど一も考へられない。

之れを説き明かすに昔は靈體を以てしたが、今日の説き明かしは、我々の Consciousness は宇宙の精神の一中心である。我々の精神は身体と云ふ住家に其の小中心が同棲して居る、合体して居る、相結んで居ると云ふよ一に説き明かすことが出来る。夫れで宇宙の實在、我々の人格のほんといの實在と云ふものは、やはり精神的なものである。身体が分解して了うても、無数の靈的の個体が全くほどこけて了うと云ふ訳ではない。そ一云ふ訳で我々の個人の死と云ふものが常にあるのである。之れも、我々の Subconsciousness の中は無数の國民で出来て居る、無数の Monad から出来たものであると云ふことになる、我々個人の人格的運命の説明も出来るよ一になって来るのである。故に、之れも只比喩的ではない、内容が

あると云ふことを申したのである。我々の人格は無数のものから成り立って居る。

[遺伝]

之れを今迄は、只遺伝と言つて居つたけれども、其の遺伝と云ふものを説き明かすことも、非常に六かしい。我々の細胞の中にもいろいろあるが、先づ此の心理的遺伝をするものは何処に含めておいて次代に伝へて行くかと云ふと、細胞の中にある処の原形質の中に貯へられて、之れが次代の力となり、傾きとなるのである。けれども、此の原形質の中に貯へられて遺伝して行くと云ふ説明も、中々六かしい。之れを只器械的にして行くと、ど一も満足の出来ぬ所を生ずる。併し、この説明はど一であらうとも、我々の中にある処の力、天才、天賦の性能と云ふものは、確に先祖伝来のものである。多くの人々の心理的習慣と云ふものが潜んで居ると云ふことは、確かに一つの事実であります。

そこで此の我々の Subconsciousness の中にあるものには、無数の傾向がある。其の間には種々様々な傾きを呈し、様々な現象が起る。之れを私は無数の國民があり、無数の生物があり、無数のいろいろな性質を具へた要素が其の中に含まれて、之れが互にいろいろな關係を結んで、其の間に起るものが我々の感情、我々の本能、我々の自分と云ふ人格、即ち統覚、人格の全体である処の、我れと云ふ感情である。

之れを今の Psychical research の見出だした事実を応用して見ると、誠に面白いのです。この Psychical research の見出だした処によると、我々は Subconsciousness の状態になりますと、即ち催眠状態になって、之れにいろいろな暗示を与へますと、我々が沢山の幽霊に逢ふことが出来る。又、何十年前に亡くなった処の御祖父さんや、お母さんにお目にかゝることが出来る。之れを心理学では、此の Subconsciousness の中に潜在して居る処の觀念が、暗示に由つて再現する。之れは実は主觀的現象であるが、夫れを客觀的に見て、我々が遠い昔の先祖に逢ふて話をしたと云ふのである。併しながら、果してそ一云ふ具体的な心靈が未だ存在すると云ふよ一なことは、判然と言ふことは出来ないのである。併し自分と云ふものが出来て居るのが、只単独で出来て居るのではなく、Monad の Organize して出来たもの故、其の中に、お祖父さんも、お母さんも居ると考へられぬことはない。其の、Subconsciousness の中に居る処の親なり友なりを我々が呼ぶなら、現れて来ると云ふことも言はるゝのである。

[想像の世界より起る働き]

我々の自分と云ふものは、ど一して働くのであるか。何をするのが目的であるかと言へば、決して主觀的の状態だけでは出来ない。つまり客觀的である。私共が楽しむと言へば、一人考へると云ふことは一人と思ふて居るけれども、そ一ではない。私共は考へることも、楽しむことも、動くことも、必ず其処に何かの對象物があるのである。必ず他人がある。社会がある。周囲の事情があるので。夫れがない時には、ど一ですか。例へば、此に果物がある。そ一すると、我々は食べたいと感ずる。之れは一人で思ふのではないかと言ふけれども、そ一でない。何時か食べたと云ふ経験が内にあるからし

て、直ちに夫れを食べて見たいと云ふ欲望が起る。其の観念が起って、始めて筋肉が運動して来るのであります。之れは即ち、想像の世界から起った処の働きであります。そこで人間と云ふものは重宝なものである。お母さんはなくても、友はなくても、やはり境遇に反応して、お母さんに逢ふたと同じよ一な、友達を得たと同じよ一な愛を起すことが出来るのである。そこで Subconsciousness の状態になって、お母さんに逢ふことも出来るのであります。

Christ を信ずる者は、実に Christ が今世の中に、我の内に生きてお出でになる。Christ は我と共に生き、我れと共に在ると信ずることが出来る。昔、Mary が Christ の説教を聞いたと同じよ一に 2000 年前の Christ を見て、やはり感化を受けることが出来る。然らば、我々の Subconsciousness の中には、我々の国家の中には、無数のそ一云ふ人が潜在して居るのである。故に入用な時には、そ一云ふお方を呼び起こして来る事が出来ると云ふことも考へらるゝのみならず、も少し明瞭な解決を下すことが必要であります。そして今の Subconsciousness、人格の中には、第一人格、第二人格、第三人格と云ふものがある。之れは今の心理学に由れば、Dissociation である。つまり観念の分解、人格の分解である。又、全く夫れが分解して目茶目茶になれば、昏乱の状態となる。之れをさして、狂気と言ふ。夫れから私共が極小供の時に度々聞いたものに、いぬがみと云ふものがあつた。其のいぬがみに付かれると、全くいぬがみ根性になる。其の他、たぬきつき、きつねつきと云ふものがあつた。之れを昔は只だ神経病と言って居りましたが、夫れも Consciousness が現れて、狸根性、きつね根性となるのであります。

[戊の年]

又、年に由っては、申の年や丑の年などもあるが、今年は戊の年と言ふ。之れは迷信かも知れぬが、人間が動物の性情を現はす所から言ふのではないかと思ふ。我々には確かに、犬的の根性もあれば、猫的の根性もある。確かに我々の Subconsciousness の中には動物も居れば、天使も居るのである。皆さん、今年は戊の年と言ひますが、其の爲めに幾らか社会の気分も犬的になりはせぬかと思ふ。今年是我々の校風も犬の気分を発揮するかも知れぬ。若し犬の気分が起れば、私は大に喜ぶのであります。何となれば、犬は誠に社会的であり、人を見れば尾を振って喜ぶものである。我々は人間の友達の親友の感化を受けると同時に、動物からも、やはり感化を受けるのです。犬が狼の種類であるのに、何故人間に近うなるかと云ふと、人間の感化を受けるからである。猫は人の家に飼ふて居るのに何故人間に近うならぬかと言ふと、彼れは人間の感化を受けない故であります。又、昔から犬は三年飼へば生涯恩を忘れぬと云ふことをきゝましたが、此の犬は、可愛がつてやれば実に其の恩を忘れぬのである。けれども猫は、三年の恩を三日で忘れる。又、遊んでも犬は仲間と遊ぶが、猫は一人で遊ぶ。猫は孤独生活を好むが、犬は団体的である。夫れから犬は柔順であり、命令を奉じて人の爲に犠牲となる性質がある。そして廉恥心がある。けれども、猫には之れがない。何とならば、犬は社会的であり、猫は個

人的である。故に、動物にも精神がある。犬には犬の魂があり、猫には猫の魂がある。夫れと同じよ一に、我々も昔は、猫であり、犬であつた爲めに、動物的の性質もちゃんと Subconsciousness の中にあるのです。

そ一云ふ事柄をよく観察して見ると、成る程、我々の Subconsciousness はいろいろの国民から出来て居る。故に、時には大騒動が起る。大反乱が起る。殆んど自分の心を統一することが出来な一よ一になる。丁度、客観的国民がいろいなる国民、いろいなる動物、いろいなる力を以て組織せられて居るよ一に、其の Subconsciousness も無数の物を以て一つの国家をなして居り、我々の良心は其の国家の君主であり、統一者であると、こ一考へて見ると、我々の人格と云ふものは複雑なものであります。又、其の成り立ちがわからないと、如何に之れを統御するかと云ふことがわからぬ。そこで、我々の世界のもとには Subconsciousness である。即ち其の多数の国民、多数の要素の Organize されて出来たものが、我々の人格であり、我々の品性であり、我々の天才であり、我々の適性である。之れを総称して、全体の感情と云ふものが出来る。The whole feeling 之れが我々の内面の世界、我々の意識の世界であり、之れが即ち、全体を支配する処の意志の世界、自制の力と、こ一二つに分けて考へることが便宜であら一と思ふのであります。

そこで、其の我々の力、我々の人格の Essence、本体と云ふものは、無数の Monad で組み立てられた無数の個体、或は人格と云ふよ一なもの Organize して出来た処のものである。夫れであるから、我々の感情と云ふものは、数千万年かゝってず一と養ひ来つた、進化した処の習慣が遺伝して、又、夫れに自分が加へた習慣が集まつて出来たものが、我々の感情である。夫れであるから、感情と云ふものは容易に制することが出来ないのである。如何なる力も、如何なる手段も、之れを根絶することは出来ぬ。恰も宇内の引力、世界の磁石が宇内の Force と云ふものと同じよ一に、我々の人格には偉大なる無限の力がある。此の力は我々の Subconsciousness の中に存在して居る。其の力が其処に明らかになり、波を打つて来たのが、我々の意識である。其の意志は意識がまとまって力を集中したもので、之れを Will power と言ふのである。此の意志が即ち我々を統御するのである。其の統御することの出来る力を活動と言ひ、之れを人間の行爲と言ふのである。此の関係によって、人格は出来たのである。

そこで我々の力を養ふと云ふ時には、ど一しても其の根本である処の Subconsciousness を研究し、第二に、之れを如何にして人間は支配するものであるかと云ふことを研究して、進まんければならぬのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十三年二月九日

明治四十三年二月九日
大学部全体

此の前の所に質問があるならば、お尋ねなさい。

・ 物質と云ふことが、わからなくなりました。

物質は唯心論で言へば、実在の現象であると言ふ。併し、我々の人格でも、物質でも、凡て此の現象をおいては、他に証拠のつかまへようがない。夫れで精神の活動する処には、必ず物質の変化を見る。其の変化、換言すれば、本体の表象、即ちしるしに由つて、我々が本体を知ると言ふて居る。そこで物質と云ふことは、必ず本体に伴ふて起るもので、其の本体と云ふものと物質とを、全く相離して別々に考へることは出来ない。故に精神状態を研究する時にも、必ず其の現象を観察しなければならぬ。夫れで幾ら唯心論に傾いた説を立てるにも、物質に関係を持たずに立てることは出来ません。

そこで此の前に、精神と身体と云ふことを申しかけましたが、我々の身体がなくなった時、即ち死と云ふ時は、我々の人格はどなるかと云ふことを一寸申しかけて、説明の詞が足らぬために多分おわかりにならなかつたかと思ふ。そこで、唯だ比喩的に二元説のよいにお解しになると間違ひであるから、申しておきます。あなた方は其の後、いろいろ人格について、殊に其の深い内容、人格の本体と云ふことについて、お考へになったであらうと思ふ。そ一云ふ考へがおこるよ一に、大分此の前お話を致しました。夫れで皆さん、ど一云ふ考へを持って居らるか、少し始めに聞きたいと思ひます。

此の問題について、大分深く研究致しました近世の学者 Stanley Hall は、我々の精神を解せんと思ふならば、先づ、其の起源を研究せねばならぬと云ふことを申して居る。自我の本質を知りたいならば、その由来を究めることが肝心である。即ち我々の人格は何から来たものであるか、如何に出来たものであるかと云ふことを、よく知ることが出来たならば、必ず我々個人の本体は何であるか、又個人の運命はどなるものであるかと云ふ問題をも、解決することが出来る。故に人格を研究する時に、先づ第一に、何から出来たものであるか、又如何にして其の人格、詞をかへて言へば、意識が覚醒したものであるかと云ふことを、研究せなければならぬ。そこで先づ、私が始めにあなた方に聞かんと思ふことは、人格は何から出来たものであるか。即ち我々の意識、自我と名付けて居る人格と云ふものは、何から出来て居るのであるかと云ふことを、皆さんはど一お考へになりますか。之れに答へをなさることが出来ますか。

・ 意志と思ひます。

一番簡短な答へは、神と云ふのである。宇宙は、全知全能の神と云ふものによって造られて居るものである。我々は、此の神と云ふものによって生れて来たものであるから、死ぬれば又、其の神に歸すると云ふ。之れが最も簡短な答へで、

神秘説から来た考へである。

[Chaos]

物質論で言へば力、力と言っても Chaos を意味するのである。

唯心論の方でも Chaos と言ふ。之れは未だ個体と云ふものが出来ずして、混沌たる有様にあるを言ふのである。之れをさして、宇宙の Subconsciousness とか、又は親和力、或は凝集力とも言ひます。

つまり、永久変ることのない力と云ふ風に立てる説もあるのです。も一一つは、唯心論では Chaos 即ち、混沌たる状態、未だ個体が出来ないで Monad の如き原子が混沌として居る時代を、宇宙の Subconsciousness と言ふ。今、意志と云ふ説が出ましたが、之れは、宇宙の実体は目的を有して居る故に、宇宙の進化は其の目的に従つてするのである。夫れで、其の意志から個体が出来、人格と云ふよ一なものも生ずることとなつたと言ふ。又、夫れと反対な考へもある。宇宙は目的のないものである。其の宇宙の活動は、やはり機械的に活動致しまして、いろいろ目的に従つて進化をするよ一であるけれども、之れは只、回転の作用に過ぎないのである。恰も振子が高く上つたかと思へば下る、下つたかと思へば上るよ一に、或は四季の循環するよ一に、長い間、一定の法則に従つて、其の道を回転して居るに過ぎないと云ふよ一な考へもある。こ一云ふ考へは、今日僅かの時間に充分説き明かすことは出来ませんが、我々の人格の根本を尋ねるに當つて、我々は何処より参り、何処に行く可きものであるかと云ふことを知ることが必要であります。

・ 神から来たと思ふものは……少数

・ 力と云ふものから来たと思ふものは……

・ Chaos からと思ふものは……

・ Subconsciousness と思ふ者は……

・ 意志と云ふ説を信ずるものは……

・ 哲学の説は、未だ自分にきまらないと思ふ者は……大多数
之れを宇宙の Ground と言ふ。宇宙の本を神と信ずる人もあり、Chaos、即ち未だ個体を成さない所の、混沌たるものと信ずる人もありますが、宇宙の本を Subconsciousness と信ずる考へなどは、未だあなた方にわかりにくいから、先づ問題としておきまして、私が人格の本は何であるかと云ふ問ひに對しては、今迄段々説いて参りました事から推して、Subconsciousness であると答へねばならぬ。

私は此の尋ねに答へて、広義の Subconsciousness から人間が出来たものである。又、我々個人と云ふものは、自分の中にある処の Subconsciousness から出来たものであると答へたい。此の考へを以て、我々は人格の起源を説き明かす事が出来、又、我々人間の運命を解決することが出来ると思ふ。

其の Subconsciousness と云ふものは無数の遺伝、即ち、我々の多くの先祖の経験、及び、我々の生後習慣に由つて得ました処の傾きです。其の奥深く潜んで居る処の精神力、之れが即ち、我々個性の発生した処の源である。其の Subconsciousness の中に在る処の力が、如何にして吾人の意識となつたものであるかと申すならば、之れは内から起る衝

動と、外から来る刺激とに由って発生するものである。即ち内の要素と外の要素。此の内から起る衝動と云ふのは、即ち吾人の内にある処の本能であり、外から起る刺激とは、之れを四圍の境遇と言ふのである。其の内と外との媒介となつて、互の交通を与へる機関を、感覚と名づけて居る。即ち我々の内にある処の五官の働きを言ふのであります。

そこで我々の意識の原料となるべきもの、即ち其の意識の Law material と云ふものは、之れを Sensation 感覚と言ふのである。即ち内から起る衝動が、外から応ずる刺激に応化する。之れを英語で Adapt, 又は Adaptation と言ふ。そして、之れが内に深く印象せらるゝことを、類化と申します。其の一番本である、外からの刺激の印象せらるゝ原料は、五官の働きに由って生ずるものである。そこで如何なる外部の刺激が起りましても、若し内に、即ち此の Subconsciousness の中に之れに應ずる処の素因がなかったならば、到底我々の意識、即ち我々の精神と云ふよなものは、其処に発生することは出来ないのである。故に我々の Subconsciousness の中には、今後我々の人格、精神力となるべき処の無数の要素を貯へて居るのである。

[人格の要素]

先づ其の傾向、此の前に申しました、力である。人格の要素となる処の力を大別して、三種と致します。

第一を、審美的傾向。之れは即ち人格の感情的要素である。

第二を、理想的傾向と言ふ。之れは人格の知的要素である。そして、

第三を、実践的傾向と言ふ。

此一三つに分けることが出来るけれども、其の傾向を起して来る、即ち其の傾向を意識するよ一に導く、一番の始まりは何であるかと言ふと、之れを感覚と言ふ。此の感覚が段々内面的に向つて、主観的に動くのを感情と言ひ、即ち(審美的傾向)。之れが客観的に向ふ、即ち知覚的になること、之れが理想的傾向であります。

審美的傾向 衝動	感情	氣質
理想的傾向 知覚 注意	反省	判断
実践的傾向 欲望	模倣	執意

感覚が此の審美的傾向に向つて発達し、夫れが消えないで Subconsciousness の中に印象を残すことを記憶と言ふ。此の記憶と云ふ力に由つて、其の印象が跡を残すのである。夫れから又同じ印象が来ると之れを同化し、違つた種類のものが来て、亦夫れを感覚に由つて記憶するのである。其の様々の感覚が組織せられ融合せられて、夫れが主観的に動いて新しい活動を起す。之れを情と言ふ。情の中には情緒とか情操とか云ふものも、皆籠つて居るのである。此の情と云ふのは、其の時、其の時の個々の行為を支配することがあります。

[氣質]

其の原動力である処の情の中にも、種々様々のものがある。親子の愛もあるし、兄弟の愛もある。動物を愛する処の情もあれば、美術を愛する情もある。夫れが有機的の關係を結んで一つに融合せられて、銘々の氣質となるのであります。氣質とは、吾人の品性とも言ふべきもので、我々の生涯の行為を支配する大關係を有して居る処の、吾人の中に在る処の總体の傾向を言ふものである。夫れで我々の Subconsciousness の本能の傾向が情的、即ち此の審美的に傾いたのが、我々の氣質である。或は気分である。即ち此の Mental mood であるのです。夫れから其の一番原料たる感覚が知的に傾いたのが、つまり客観的に傾いたのが、知覚である。そして知覚の発達したのが、反省。英語で言ふ Reflection です。

知覚 Sense と云ふのは、物体を意識することであるが、感覚は、其の物の性を知ることである。故に第一要素の審美的傾向は、段々と内面に深く進んで行きますが、第二要素の理想的傾向は、外面に向つて段々と我々の意識を広げて行くのであります。

之れを Perception と言ふ。之れが多く重なつて、反射作用が起るのであります。我々が物を考へ、思考するのは、知覚と知覚を比較し、異同を区別するものであります。こゝに、第二の階段の働き、分類、分解、抽象になり、外面になるのである。こゝに於て類化作用が行はれる。即ち觀念の新連合が行はれるのであります。夫れがも一つ進んで、之れを判断と言ふ。此の判断が、即ち我々の知識であり、主義であり、又は理想である。

そこで此の審美的傾向の一番の起りは感覚であり、理想的傾向の起りは知覚であつて、之れが我々の判断、理想となる。又、理性と名付ける知的要素があるけれども、人間は只だ此の二つだけではない。つまり其の本は、人間の真髓となつて居る活動を現す処の一番の起りは、之れを欲望と言ふ。そして、実践的傾向の一番起りとなるものを自動と言ふ。或は反射運動、又は本能的運動とも言ふのであります。一つの刺激があるならば、少しも大脳の働きを要せず、直ぐ筋肉が運動を起すのである。之れは我々が自我と云ふものを自覚しない前に起る処の活動である。其の活動が次の階段に上つたものが、即ち模倣的活動であります。之れは固定した習慣に支配せられ、又固定した社会の習慣、風俗に支配せらるゝのである。之れを英語で Conventional と申します。人類の大部分の行為は、此の模倣的動機に支配せられて動くのである。さて、此の実践的傾向の第三階段に上つたものを執意と言ひ、之れを自立的行為と言ふ。即ち、自分の選択に由つて自分の行為をきめるのである。夫れで先づ、我々の實力を養ふと云ふのは、我々の Subconsciousness の中に潜在して居ります処の此の三種の傾向を養ふことで、之れが益々発達して其の幅を広め、其の深さを進めることをさして、進歩と申して居るのであります。

[力の本源]

そこで、我々の力の本源と云ふものは何処にあるかと言ふならば、第一の審美的傾向、即ち情操、情緒、感情と云ふも

のです。其の感情と云ふのは、長い間の遺伝、習慣から来たもので、之れを広い意味の本能とも言ふのである。此の本能、銘々の内にある処の傾き、気質と云ふよ一なもの最も強い盛んなもので、我々の行為の原動力である。此の原動力を支配することを得るものを、力と言ひ、自制とも言ひ、又執意とも言ふ。そこで、人間の最も猛烈なる勢を遅くして、殆んど制すべからざる所の此の感情を、如何にして人間は支配するものであるかと言へば、実践的傾向と審美的傾向との間にある処の理想的傾向、即ち知識、理想を以て、此の感情を、此の力を改良し、或は統御するのです。つまり自らを制すると言ひ、或は克己と言ふのは、即ち此の作用をさして言ふのである。勢を遅くして最早猛烈になつた処の感情を、直接に我々は意志で支配することは出来ない。けれども間接に、其の間にある思考或は判断に由つて改良をしたり、或は統御する事が出来る。之れが出来るとよ一なることを、修養と名付けて居るのであります。

[感情世界、観念世界、活動世界]

そこで第一の審美的傾向を、便宜の爲めに我々の内にある感情世界と言ふ。即ち美の世界である。第二の理想的世界を観念世界と言ふ。即ち意識の世界である。そして第三の実践的傾向を活動世界と言ふ。即ち我々の行為の世界であります。

此の三つの要素が互に平均調和して一つのものとなつて居るのを、吾人は人格と言ふのである。之れは只、力の関係を明らかにする爲めに大体を区別したに過ぎぬのであるが、是れから後、段々詞を使ふて行かねばなりませんから、初めに其の力の内容を示したのであります。故に、段々之れを銘々の経験に徴して見る必要があります。我々が力を養ふ上に於て、一方に偏してはならない。必ず今申した処のものをわきまへて、自分の生活を完成して行かねばなりません。我々の Subconsciousness の中にある処の、所謂本能的とも名づくべき処の最も勢ひの強い感情と云ふものは、ど一して出来たものであるかと云ふと、数十代の間かゝつて養はれたものである。之れを本能と言ひます。此の本能の中に、美と云ふものになる処の傾向と、知的傾向と意的傾向となるものがある。之れに由つて、凡そ夫れ等の関係がわかつたであらうと思ひますが、之れ迄、抽象的の詞を使って申しましたから、之れをも少し具体的に銘々の経験にあてはめて、ど一云ふものを感情と言ふか、少しあなた方の考へを出してもらひたいと思ひます。我々の本能の中には、自我保存に必要なものが沢山ある。夫れにはどんなものがありますか。

- ・ 恐怖心、嫌悪、愛憎、憤怒、好奇心
- ・ 同情、愛、礼讓、犠牲

こ一云ふものがあると云ふことを考へて行くと、人間と云ふものは決して孤立的なものではない。確に社会的の傾きをも持つて居ると云ふことは、見出しにくいことではない。そこで、こ一云ふ傾きを三つに分けて、

第一を、**自己的本能**。自我を完全にし、自我を幸にしよ一と云ふ傾き。

第二を、**種族的本能**。

第三を、**社会的本能**。

[自己的本能]

此の自己的本能は個人性を發揮する爲めに、銘々の特徴を發揮する爲めに欠く可からざる本能である。若し之れを欠くならば、人間の進歩と云ふものは立どころに止まり、其の生存も外部の圧迫の爲めに、直ちに破壊せられるのである。故に此の傾きを欠いたならば、自我の生命は直ちに消滅して、個人は滅亡に歸するのである。併し此の本能は非常に猛烈なものであつて、人間が之れを制御するには、非常なる力を要するのであります。我々の実力の半分以上は、本能を制するのである。此の制御が出来なければ、自我を完成することは出来ないであります。

[種族的本能]

第二の種族的本能がなかつたならば、人口は段々減じて、遂に人類は滅亡せざるを得ぬのである。

然るに、此の本能も非常に優勢なるものであつて、個人も社会も國家も、其の本能を制御すると云ふことは一大努力である。此の本能と人類、其の他の生物の繁殖力とは、偉大なるものである。故に、少し女子の教育を進めたが爲めに人口を減じはせぬかと云ふ考へは、杞憂に過ぎないのである。之れは段々説き明かしますが、中々有力なる本能であるからして、寧ろ我々は、其の本能を如何にして制し得るかと言ふことを研究することが必要であります。

[社会的本能]

第三が即ち社会的本能です。此の本能も、國家を維持する爲めに、種族を保存する爲めに、及び個人を防禦する爲めに欠く可からざるものである。若しも之れを欠くならば、國家社会の爲めに非常に不利益である。然るに、此の本能も中々強大なものでありまして、一番之れは終りの段階に於て発達した処の本能とも言ふべきものであるけれども、決して心配する程、薄弱なものではない。此の本能の爲めには自己的本能をも、亦種族的本能をも制することが出来る。

又、斯くの如き生活を全うした処の人も、決して少なくはないのです。併し乍ら、此の三つの本能は互に矛盾し、互に喧嘩し、互に相反するのです。そこで我々の人格の力と云ふのは、其の三種の雄大なる勢力の調和を如何にしてすることが出来るかと云ふことにあるのです。此の問題がよく解決せられんと云ふと、時々煩悶に陥ることがあり、一方に偏して自己の目的を達することも出来ず、力の消費をすると云ふことも沢山にある。つまり人間の煩悶、人間の病氣、人間の昏乱、社会のいろいろなる弊害、悪事、不幸と云ふものは、つまり此の本能の衝突から来るものである。其の強大なる本能を統御することの出来ない処から起つて来るのであります。然るに其の間関係について明らかなる知識のないこと、夫れを統御する習慣の欠けて居ること、又一方に偏し易いと云ふ習慣を持つて居る処から、人間は今猶ほ、大に苦んで居るのであります。

之れ迄、勉強と修養が一致しないと、個人と団体とがど一しても一緒にならないとか、道理に於てはわかつても感情が夫れに伴はないとか、日夜努力しても、ど一しても自分の思ふよ一に力が展びないと云ふ苦しみ時々私共が聞くこ

とであります、之は力の根本、及び力と力との関係がわからないことと、も一つの力の展びるよな学生々活が銘々の経験せられないところから起ることである。昔から社会に宗教のあるのは、ど一したのであるか。仏教はど一して起ったか。やはり煩惱と云ふ自我心と、真如と云ふ全体の傾きが一つになることが出来ぬ。人間の苦みは此の矛盾から来るのであります。

耶蘇教の根本は、肉と霊との戦ひである。又、哲学は唯物論と唯心論との戦ひである。身体を支配する、物質を支配する名誉心、或は権利と云ふよな、精神と物質との戦ひが人間の苦しみの本を為して居る。之れは一口に言へばやさしいよ一であるけれども、之れを實際にしよ一とすると、甚だ六つかしいこととあります。

併し仏教の意味、Christ 教の意味、又は昔からある道徳の意味と、今日言ふ処の統御と云ふ意味とは、非常に違つて居るのである。けれども夫れがわからなくて混ざるために、学生々活を如何にすべきかと云ふことの上にも、いろいろ間違ひを生ずるのである。故に私は此の関係を明らかにして、迷ふことなく、悶ゆることなく、一心不乱に努力奮闘すると云ふよ一になりたいと云ふことを今私が思ふて、そ一云ふ関係を少し説き始めましたが、時が参りましたので今日は之れをやめますが、次にもやはり、今日尋ねたよ一なことを少し始めに聞きたいと思ひますから、皆さん夫れ迄に、人格の要素、我々の人格を養ふ、根本に銘々の実力を養ふと云ふことは、斯う云ふ本能にど一云ふ関係のあるものかと云ふことを考へておいでになつて、私の説く前に少し出して下さると、あなたの方の考へも明らかになり、私の申すこともわかり易くなるであろ一と考へます。

[中表紙]

紀元節祝賀式に於ける御話
明治四十三年二月十一日

明治四十三年二月十一日
紀元節祝賀式に於て

此の頃は、一年中で一番寒い時候であります。殊に今日は非常に寒さが烈しい。幸に天気は誠に晴朗で、此の寒い清らかな朝、爽快な心を以て最も深い意味のある紀元節を迎へるのは、一同の深く喜び、深く感動する所であります。こ一云ふ一年に一度、殊に我が国の歴史に最も深い関係ある時日を記念するのは、最も大切な事であると思ふ。併し、此の最も寒い時であるにも拘らず、皆さんが時刻に遅れず此の講堂にお揃ひになつて、今朝は殊に静肅に此の式を挙げることの出来たのは、誠に喜ばしいこととあります。

こ一云ふ祭日に皆が身心共に健全に学校に集まつて、精神力を養ふことに勉め、又最も我々の心に最も深い印象を受ける様に守ることは、銘々の修養の上に、又国民の元気を回復

する上に最も大切なこととである。只儀式でなく、精神的に会をして心と心とを結合すると云ふことは、誠に必要なこととであると考へます。夫れで私は始めに、皆さんのこ一云ふ儀式を守る態度について申して、夫れから此の明治四十三年の紀元節は如何なる態度、決心をすべき時であるかと云ふことを申したい。そこで此の儀式を守る、國の祭りを祝ふ、又必要な集合を催し、或は目的の為にいろいろ此の意見の交換を行ふ、感情の融和、精神の復興を促すと云ふ様な事が、人生にとって誠に必要である。又、之は一朝にして出来たものでなく、人間と云ふものが世に生ずる様になつた其の起源も、やはり其の信仰の傾きから、此の頃申して居りまする、Subconsciousness とか或はSub-instinct から出来たもので、個人的にもあり又社会的、國家的にもある処の、非常に根の深い本能であります。此の本能活動を満足する様に働かねば自分を進歩、発達させることも、家庭の調和を計ることも、更に進んでは、國の福祉を増進して行く事も出来ないのである。故に之は只廢れて了う形式ではなく、長い間の歴史を以て育ちました処の、国民性の中にある処の傾向である。故に之を充分に培養して行く、此の力を利導して行くと云ふことが誠に大切であります。こ一云ふ儀式を守る、こ一云ふ日を記念すると云ふことは、深く言へば、國の宗教である。此の宗教の儀式と云ふものは、人為の宗教的行為である。此の行為にも、一昨日申しました様に、階段があると言っても宜しい。其の階段が模倣的、雷同的、或は習慣的に、此の紀元節を誰れも国旗を掲げて祝ふと云ふことが、も一習慣になつて居る。我々も不知不識に其の儀式を守る。之は習慣的行為である。之が自然である。こ一云ふ善い風俗、習慣が国民の無意識動作となつたことは、國の為に誠に慶すべきである。此の日を祝し且つ記念する為に、最も神聖なる儀式を挙げ、其の儀式の後には又夫れ夫れ喜びを以て祝ふと云ふことは、誠に必要なこととである。不知不識に愛國心を培養し、国民性を発揮すると云ふことは誠に大切なこととであるが、併し此の日を祝ふと云ふことが、只第二の階段に止まつて居つてはならぬ。更に進んで、第三の個人的、執意的発動とならんければならぬ。

今我々が講堂によつて、静肅に敬意を表して此の日をお祝ひ致して居ります。之を私は習俗的、共同的と言ふ。此の中に満ちて居る処の神聖なる空気を呼吸して居ります。此の動作も誠に我々にとって大切なものである。けれども之は共同的である。此の共同的の行為が、極始めから静肅にあり、真面目にあり、又何か深く感ずる所があり、深く思ふ所があり、又何か希望する処があつて、誠に有益な健全な空気を呼吸することが出来れば、誠に幸福である。併し之は何によつて出来るかと云へば、銘々個人の態度である。銘々個人の思想、感情である。即ち、此の式に出る前に何か深く感ずる処があり、深く考へる所があつて、即ち銘々深く内に用意する所あつて会しなれば、只儀式となるのである。故に銘々深く反省し、感動する所あつて、此の堂に会する。即ち共同的、社会的に此の日をお祝ひすると同時に、個人的、執意的に銘々の Private に於て、銘々の中に於て、此の日をお祝ひする。

私は之を執意的と申します。之を皆さん行ふて居るかど一か。此の国の祭り、或は祝ひ、或は集會と云ふものは只形式的ではない。銘々深く内に守る、此の態度を以て、國民と共に此の記念日を守ると云ふことが出来るかど一か。之は問題である。皆さん此の習慣を以て、此の式にお出になるかど一かと云ふことです。

私は此の前から、我が國の婦人の自覚と云ふこと、又は婦人もやはり人間である。是迄は、自身でも亦一般にも、ど一も男とは違ふものと思ふて居りました。男子よりは一層低いものである。又、何か欠けて居る、半人前の人間であると思ふて居りました。けれども女子も人間である。人たるに於ては變りはない。Human と云ふことについては優劣はない。又、女子も國民である、人民である。又、女子たると共に、國家を為すべき個性が発揮すべきものである。つまり之を一言に言へば、我國の婦人も、ど一しても此に自覚しなければならぬ。

【第三、執意的行為】

此の自覚と云ふことにも、いろいろ要素があるが、つまり第三の執意的行為が出来なければならぬ。非習俗的行為が出来なければ、ほんといに人格が出来たとは言はれない。然るに、あなた方の學問がど一も習俗的になる。只講師の講義を暗記して覚えておくことと云ふ階段から脱することを、私は日夜切望するけれども、ど一しても夫れ以上に出られない。夫れは何故かと言ふと、未だ自覚が足りない。自ら考へ、自ら決する、自ら律する、自ら創始すると云ふことが足りない。之をするには、ど一しても自ら Meditate すると云ふ習慣を養はねばならぬ。此の Meditation と云ふことも、宗教的に迄深く行かねば、ど一しても根本的自覚を呼び起すに足る処の力は得られないのであります。

【自我につきて】

さて、我々の自我と云ふものにも、個人的自我、家族的自我、社会的自我、國家的自我、及び宗教的自我と云ふ様な階段がありますが、此の紀元節は何であるかと云ふと、我々の國家的自我である。國家的自我を覚醒すべき今日である。故に我々が真に自我を覚醒し、自我を發展しよと思ふならば、此の紀元節に於ては、國家的自我の反省を促すべき時である。此の紀元節は國家的自我の發現を計り、國家的自我の覚醒を促し、國家的希望を喚起すべき一日である。

【國民的大責任】

然らば、我々は如何にして之を為し得らるゝであろ一か。先づ第一、我が國の歴史を考究し、第二に我が國の世界の地位を觀測し、第三に今日の危急存亡なる要求を満して、以て我々は國民的大責任を全うせねばならぬ。然らば、我々は自分の為に深い印象を受けると同時に、深い企図、深い折りを以て、國家的自我を反省し、國家的自我を此に覚醒すべき時である。皆さん、夫れについて、ど一云ふ考へを懐いて居られますか。恰も宗教家が深く國の為に祈る、世界の為に祈る、友達の為に祈る、學校の為に祈る、又其の關係について深く考へると云ふ如き、自動的態度を以て個人的活動を起して、此の一年に一度の、殊に今年に於て最も深く考へて見るべき

時に於て、皆さんが之をなさつたであろ一か、ど一であろ一。

【記念と云ふことにつき】

此の態度を以て、此の熱心を以て、及び斯くの如き用意をして、いつも我々は人と交際をしなければならぬ。皆さんは、そ一云ふ反省です。國民として、人間として、國家的自我を自覚して、斯くの如き反省をなし、斯くの如き深い考へを回らして、又いろいろ決心をして、又自ら決断をして、又充分なる希望を持ち、充分なる用意をして此の會に臨むと云ふ、即ち此の式、集會、祭り、記念と云ふ様なことを只習俗的、共同的でなしに、個人的、内省的、執意的に皆さんが行ふて居るであろ一か、ど一であろ一。そ一云ふ態度を養ふて居らるゝかど一かと云ふこと、若し時を持って居るならば、私は皆さんに之を聞きたいのである。之を発表なさると、皆さん御自身、及び皆の為になるのであります。

今日は最も神聖なる式であります。けれども亦、我々是一家族であります。最も親しき間柄である故に無邪氣に、又極遠慮なく、何も飾ることなく有の儘に、互に言ふて見ると云ふことが必要であると思ふ。故に大學部であろ一が、高等女學校であろ一が、考へておいでになる儘を言つて欲しいのである。

【彼の Sunday】

外國に於ては、深い意志の教育、人格の教育が出来るのである。又、彼の國民は独り、銘々の人格を培養するのみではない。之が實に國風、國民性、又は校風と編みなされて居るのである。彼れ等は所謂、執意的活動を怠らないのです。彼れ等は昨夜から深く考へて、宇宙の靈と言ひましょ一か、魂と言ひましょ一か、そ一云ふ宇宙の精神に深く接触し、交通して、日曜には身を清めて、若しも邪念が起れば、彼等は罪惡と心得て居る。此の Sunday を神聖なる日として守ると云ふ様なことは、こ一云ふ必要から来て居るのである。故に、日曜日を守る國民は、此の日は店を閉ぢる。世間の俗事を頭に持たない。夫れで彼れ等は、こ一云ふ日には、會に行く前に深く自ら反省して、人に対して不都合なことはして居らぬか、利己的行為はして居らぬか、人の氣分を損ひ、人の感情を損ふ様な行為はないか、自分はこ一云ふ邪念を持ってはならぬと云ふことを深く自ら悔い改めて、心から涙を以て神に祈る。自分の弱きて恥ぢて夜も寝られない、斯くの如く深き考へを胸に貯へて人に対し、會に行く。夫れであるから、始めて人格が発揮する。ほんといの愛國心、ほんといの人道心が其の処に成長して来るのである。決して私は形式的の宗教を奉ずることを奨励するのでもない。又、そ一云ふ信仰を持って居る者を批難するのでもない。そ一云ふ真髓をとつて自ら養はねば、ほんといの人格は発揮するものでないと云ふことを申すのです。

【個人的修養】

此の個人的の修養、此の個人的の祭りを営むことが出来なければ、形式的の低い感情に支配せられ、知識的統一のない、誠に浮薄なる断片的の人間におちぶれるより外ないのである。故にど一か、私は此の態度を以て會を守りたいのであります。又そ一云ふ経験を積まねば、容易に出来るものでは

ありません。夫れで皆さんは昨夜以来、銘々執意的に深くお考へになり、祭りをなさって此の式においでになったであらうか、ど一か。

只儀式的であり、自動的、活動的にそ一云ふ態度が出来たと云ふことを自信し得らるゝ者は……少数

夫れでは此の式に列する前に何でも宜しうござりますが、日本の歴史なり、出来事なり、我が国の位地と云ふことなりに結びつけて、何か我が国と云ふことについて考へたお方は……少数

[自覚に就きて]

いろいろ聞きたいと思ひましたが、夫れでは一つだけ一寸聞いて見ましょー。私共は先づ、教育を受ける処の目的と致しまして、第一着に考へなければならぬことは、自覚と云ふこと。之が一番本になります。そして其の自覚を完全にするには、国家的自我が出来ねばならぬ。此の紀元節の土台となる様な事実を記念する、紀元節と云ふ様な時に於て、此の国家的自我の自己を養ふと云ふことは、ど一してもしなければならぬことである。

日本帝国と云ふことは、国民性の中に必ず潜在して居る。然らば、国民である処の銘々の中にも潜在して居るのであります。けれども先づ、日本帝国の将来先覚者となるべき者ならば、先づ国家的自我と云ふことが明らかにならねばならぬ。自分と云ふことが意識せらるゝ様になって、始めて人間と言ふことが出来る。夫れと同じ様に、私共は何時、我が国の婦人、日本の婦人と言ふことが出来るかです。之が出来て、始めて日本の婦人としての力を生ずるのである。夫れと同じ様に、是れは日本と云ふ國である、日本国民であると云ふ自覚が出来まして、始めて世界の生存競争場裏に立つことが出来る。又、東洋の運命を支配することが出来る。故に、先づ国家的自我を覚醒せねばならぬ。其の国家的自我とは何かと言へば、即ち 2570 年、大和島根に於て養ふて来ました処の国家的潜在精神、国家的潜在本能である。

[自知]

我々日本人と云ふものは、こ一云ふ力を持って居るものである。従つて日本国民たる我々は、自分の中には斯の如きものがあると云ふことを知るので。之を自知と言ふ。又、我が國家は世界の如何なる地位に居るものであるか。又、支那、朝鮮、西藏、其の他の國々とは如何なる關係を有して居るのであるか。又、将来、我が國は如何なる責任を負ふべきものか。ど一云ふ危険に臨んで居るか。又、ど一云ふ本務があるかと云ふことがわかつて来て、始めて国家的自覚と言ひましょー。又、之が銘々の腸にしみ混んで来て、始めて国家的自我の覚醒と言ふことが出来ましょー。然らば、我々は明治四十三年の紀元節を迎ふるに當つて、ど一云ふ國民的自覚を持って居りましょーか。又、我國はど一云ふ位地に立って居るかと云ふことを考へねばならぬ。そこで私は皆さんに、二つのことを聞きましょー。

[国家的自我の覚醒は如何にするか]

第一、国家的自我と云ふものは、ど一して覚醒するものであるか。

自我と云ふ意識が出来るには、同時に他と云ふ意識が出来る。そ一云ふことがわかる時には、ど一しても我れと云ふものが出来て居る。そ一云ふ論鋒をおし広めて、我が日本と云ふ國家が我れと云ふ自我が出来るのには、支那がある、朝鮮がある、印度もある、和蘭もあると云ふ、他と云ふことから起つて来る。Perry が浦賀に来まして、半ば強請的、半ば友愛的に、同情を以て我が國の門戸を叩いた。之に由つてアメリカがある、英吉利がある、未だ他の國があると云ふことを知つたのが、即ち我が日本の自覚であります。他の國のあることがわかつて、始めて我が日本がある。世界のあることがわかつて、始めて我が國家があると云ふことがわかつてのである。今日も其の通りである。我々が國家を知らうと思ふならば、外の國を知らねばならぬ。我が國民性を知るには、世界にある國民性をよく意識しなければならぬ。そこで、我が國家を思ふ、國家を知らう、國家を進めよ一とするには、他を知ることが必要であります。

調度、子供の意識が出来るのも、國家が國家的意識の出来るのも、其の道は一つである。そこで今日は、いろいろそ一云ふ問題を長く説き明かす時間が無いから省きます。つまり我が日本と云ふものが、我と云ふもの、他と云ふもの、隣國があると云ふことがわかつて、之を我が國家の自覚、我が國民の若返りと言ふことが出来る。之が出来ればこそ、我が日本は今日あるを得たのであります。

[國民的元氣の回復]

そこで、我が日本が今日に至つた所以、今日ある所以は、我が日本が如何なる自我を持って居るかと云ふことである。こ一云ふ特性があると云ふ自覚が出来なければ、國民的元氣の回復は出来ない。従つて東洋の運命を開拓することは、不可能のことです。我々日本は支那、朝鮮と違ふ。此の最近五十年間に斯くの如き發達を遂げた、斯くの如き仕事を成すことが出来たのは、何がさしたのであるか。然らば、何が我が國家的自我であるか。何が今日迄我が國家を斯くの如く導いてきたのであるか。此の事について答への出来るものは……

我々の力、我々の特質、我々の氣質と云ふものは、數万年間、子孫に由つて養ふて来た処の遺伝による。之を、Subconsciousness と言ふ。そこで銘々の特質と云ふものは、大きく言へば、天才である。此の天才は數万年の間、我々の祖先、即ち人類が受け伝へて来たものである。之をさして、我が力、我が価値、我が生命と言ふことが出来る。之があつて始めて自任することが出来、之を以て生涯を送ることが出来る。夫れと同じ様に、我が國家にあるものは、誰れにも彼れにもある。之をさして、之が我が國の國民性、之が世界の競争に耐へる処のもの、之を世界に持つて行つて、之が我が日本であると言ふことが出来る。併し之にも、やはり他と云ふものがある。そこで、我々の友邦である処の英國、眠りを醒ましてくれたアメリカ、又、我々のお師匠さんである処の獨逸、こ一云ふ國には、ど一云ふ國民性があるか。之がわかつて、始めて我が國がわかる。段々人と云ふものを知る様になつて、我れがわかるのであります。

英国は、ど一云ふ品性を以て斯くの如き富みを作り、力を顕して居るのであります。之は英国の商業史に、英国の貿易に、英国の外交上に、英国の政治の上に、又英国の学問の上に、英国教育の上に、皆顕れて居るのである。

- ・ 永久的、精神の力、徳の力、公共心、自治自尊、忍耐、国家的観念

其の通りである。忍耐、独立、剛毅、保守の傾きがある。こ一云ふものを集めて言ふと、Character、Gentleman。つまり人格と云ふことである。そこで英国の哲学はど一云ふ居るか云ふと、人格的唯心論である。銘々の人格、特性、個人性である。之が忍耐力となり、保守的傾向となり、之が物を造るに決して破れない岩乗なものを作ることとなる。Anglo-Saxon の特徴、英国の教育は、人格を養ふと云ふことが本となって居る。之が英国人の世界に向って、威厳を持って居る処であります。之が我々の英国を信用する所以であり、之が英国の国家的自我を有する所以である。

[独逸の特質]

然らば我々のお師匠さんにして居る独逸の特質は何でありましょーか。

- ・ 研究的態度

英国は個人的である。独逸は統一主義である。彼の唯心論は絶対的唯心論である。彼の大学は団体的である。国民の活動も、遊戯も、軍隊も団体的である。独逸が軍に成功したのも、世界に優勢を占めたのも、やっぱり此の統一主義である。独逸が世界を支配しよー、国民性を發揮しよーと云ふ力を顕して居るのも、此の統一主義であります。

孰れも侮る可らざるものである。夫れから、やはりAnglo-Saxon のわかれであり、英国からも、独逸からも、世界からもとって居る処のアメリカは、何でありましょーか。非常に進取的、活動的、努力的な気象に富んで居る。之は濫譯男爵や森村さん、其の他の方のお話によってもわかります。非常な努力主義、活動主義である。古い歌羅巴に於て研究せられたことは、凡て此処に於て、大規模を以てどしどし行ふ。凡てのものを直ちに應用する。之がアメリカ合衆国の特徴であります。

[我国の特徴、及び欠点]

我が友邦であり、我が同盟国であり、我が学問に於て指導者である処の、こ一云ふ国々と交際して居りまして、我が日本はど一云ふか。我国家的自我はど一云ふ力、ど一云ふ国民性、ど一云ふ特徴を持って居るのであるか。

- ・ 大和魂

欠けて居るものは何ですか。

- ・ 個人的自觉
- ・ 団体的精神
- ・ 金力
- ・ 創始力

忠君愛國、即ち忠孝。今朝も勅語に読みました、克く忠、克く孝と云ふことと、義勇と云ふこととは、二つの徳であるか。又は一つの徳を両方面から見たものであるか。其の關係のわかって居るものは……

愛國と云ふことと、君に忠と云ふことは、方面は違ふけれども皆一つである。如何となれば、我が國は 神武天皇から

一系の天皇を戴き、一種族、一家族である。故に親である処の君を思ふことは、孝であり、忠である。そして義勇、公に奉ずると云ふことも、君に奉ずると、親に奉ずると同じことである。君の馬前に於て、此の身を捧げる。弓尽き刀折るれば、腹を切る。之は武士道である。之は君の為であり、親の為であり、國の為であるから、我が國では忠と孝、愛國と云ふ念と、君に忠と云ふ理想は、開國以来少しも変わらない処の魂。即ち三千年來、我が國民の腸にしみ込んで居る処の國民的 Subconsciousness である。之がある為に、昔からうちは喧嘩があつても、外寇の襲來があつても皆蒙古の賊をみなごろしにした様に、一度も國威をおとしたことはない。我が國民が忠勇なものである、日本と云ふ國民的自我は渾身、忠であると云ふことは、大分世界も認めて來たのみならず、段々之は習はねばならぬと言ふて居る。我が國民は寧ろ國家的個人主義で、誠に我が國を思ふ。他の國と比較すると、少し極端に迄、國家を思ふ。夫れで我が國家が自覚して、ど一云ふ國是をきめたかと云ふと、國粹は何処迄も保存すると同時に、知識を世界に求めることとなった。そこで、同化力は誠に富んだ國である。即ち英國からは忍耐、独立、個人主義を、獨逸からは統一的と云ふことを学問教育の上に入れ、米國からは同化力、應用力と云ふ様なものを盛んに入れて居る。

[類化]

我が國を自覚したと云ふのは、類化するのである。此の類化と云ふことは、他の長所を入れる能ふべくんば、朝鮮も、満州も、台湾も、我が物としたいと云ふこと。之が為には命を投げ出しても恐れぬ、之が日本の今日ある所以である。そして、此の武士的精神、之が國を今日迄に導いたものであると思ふ。欠点は沢山ある。之は世界と交際して、長を入れねばならぬ。之に由つて、益々我れと云ふものが明らかになるのであります。我が國が斯くの如き特徴を持って居ながら、今日未だ誠に薄弱である。軍事的道徳は發揮して居るけれども、第二の戦争、知的戦争、精神的戦争に至つては、大に敗北して居る。之はど一云ふ欠点が日本にあるからでしよーか。

- ・ 武士道の余弊
- ・ 執着心の乏しきこと

皆さんの仰つたことは皆あるけれども、私は今日の現状から申すのである。我が國は英國とよく似て居るのである。島國であつて、人口は段々殖える。そこで英國はど一して Regulate するかと言へば、諸所方々に殖民して居ります。我が國も、アメリカや布哇へ移住する。そ一云ふことも、いろいろあります。英國でも日本と同盟し、アメリカとも段々近くなって、多くの國々と手をとつて居る。けれども日本人は色が違ふ人種的観念と、Christ 教國でないと言ふ考へとが、彼れ等の潜在意識の中にある。こ一云ふ關係から推して、元の寇をみなごろしにし、日清戦争、日露戦争に大勝利を博した様には行かぬ。今後我國は到底、干戈の戦ひのみではいけない。平和的戦争、精神的戦争に勝ち得ねば、我が國家は保たれないのである。然るに、此の平和的、精神的戦争についての特徴は、我が國の Subconsciousness に乏しいのである。其の原因は、我が國は未だ何でもとりたひ、貰ひたい。一方には喧嘩である。さあ来い、と云ふ性質がある。つまり我が

[中表紙]
桜楓会例会に於ける御話
明治四十三年二月十三日

明治四十三年二月十三日
桜楓会例会に於て

我が国の女子教育、其の他、男子の教育が丁度今、行きなやんで居りまして、国家としても、学校としても、亦桜楓会と致しましても、将来についていろいろ深く心配を持って居る際に、第七回生が卒業生として世にお出になることは、一方には非常に力が加はる様に感じますし、又いろいろあなた方の決心を聞くならば、大変に喜ばしいと云ふ情も起りますが、又一方には、非常に将来について心配に思ふことがある。能う聞きとれん所もありましたが、あなた方の感じを聞いて居る間に、殆んどあなた方の詞を聞くことが出来ぬ程、私の頭の中にいろいろの感じが起るのであります。そして今は、未だ纏まりがつかないのである。あなた方も詞の中に、感謝の辞もあり、充分な決心もあり、悟りもあり、希望もある様であるけれども、半ば不安があり、心配もあり、恐れもあり、未だ何かの其処に束縛を感じて居る所もあり、又自分の弱きを感じて居る所もある様である。夫れで私が心配をして居る様に、皆さんも自分の事について、又我が国の将来について心配して居ることであろうと思ふ。併し桜楓会の事を思ふても、学校の事を慮つても、一番先に考へることは自分である。我れである。我が境遇である。我が境遇にど一して順応することが出来るか、如何にして其の境遇を制御して行くことが出来るかと云ふことである。之が出来ねば、ど一云ふ事をも、ど一云ふ義務をも果たすことが出来ないのである。二、三日前に、此の母校や桜楓会を最も深く思ふてくれて居る人が見えました。其の時の話に、一人の明治の高等教育を受けた処の婦人がある。成る程、漢学も出来る。英語も出来る。何かの自分の習ふた芸も出来る。けれども、ど一しても婦人としての品格が備はらない。教育のない下女にもあるべき常識が欠けて居る。実に無常識であると云ふことを嘆いて居る。高等教育を受けたことが、学問をした結果が此の様では誠に困ると言つて、非常に心配をして居られる。そ一して、いろいろ其の事を聞いて見ると、成る程、常識がないのである。第一、頑固であつて、人と調和が出来ない。何か過失をすれば少しも誤らないで、過ちを飾つて見たい、庇つて見たい、過ちをど一しても固守してやまない。之を頑固と言ふのである。其の頑固な処を以て、之を意志とする。只習俗的の事をするものではないと言つて、突っ張つて居るのである。夫れで人は皆呆れて、其の時は其の人の考へを通させておくけれども、陰では、ど一も情けない。あれでは困ると言つて、嘆息をして居る。そ一して、も一一つは、自分が学問もして居る、物が出来ると云ふことを何処かに顯すのである。其の事も聞きましたが、夫れは此処に表す事を好まない。そ一云ふ誇りを懐いて居ると云ふことがあるならば、自ら人の心に感ぜしむるのである。之が批難の本である。も一一つは、ど一云ふこ

国は、やる、与へると云ふ態度がない。此の中に勢力のある人は、誰れですか。権力を振ふ人ではない。とり主義ではない。Self-givingである。何ぞ全体に与へることはないか、何か貢献することは出来ないかと云ふ考への人が、此の中の勢力家である。我が国の人は、労働者となって海外に行つても、少し金が出来れば持つて帰らう。外国の風儀を乱さうが、外国の商売は繁昌すまいが、ど一しよ一が、少しも構はぬと云ふ風である。こ一云ふ日本人が歓迎せられないのは当然の事である。我国でも、そ一云ふ人を歓迎するでしよ一か。外国の人は日本に来ると、東京では勿論、長崎でも、京都でも、神戸、大坂、名古屋でも到る処、金を落して行くのであります。

[私共の態度を養はねばならぬ]

私共は少しく態度を改めて、全体の為にと云ふ態度を養はねばならぬ。東洋にある道徳と西洋にある宗教とを統一して、又、今日の世界の思想を汲んで、何かをあげよ一、世界の人と一緒に成つて、やはり人道の発展に尽さうと云ふ趣味を養はねば、ど一しても進まれない。国民が小さくて仕方がない。私はいろいろ世界の国風を考へまして、国と国との関係を申しましたが、我が校風もそ一である。Self-givingと云ふ主義でなければならぬ。

我が日本の御先祖は、天照大御神であります。之は御婦人であります。又あなた方の曾祖母とも言ふべき 神功皇后、其の外に沢山の御方がある。夫れで、あなた方の特長、婦人的傾向と云ふものも、決して無為のものではない。古代に於て、既に雄壯活潑な大業を成し遂げられたのである。然るに、儒教、仏教の感化により、又、徳川の封建制度によって沈み込み、之が又明治になつてから上つたり下つたり致しましたが、只今は世界の大波の為に頭を抑へられて居るのである。併し之は一時の現象であつて、真に我が国の婦人にも武士道が伝はつて居ると云ふことを自覚したならば、我が国民性を改造する処の責任あるあなた方が、真に我が国の欠点をも自覚することが出来たならば、次代の国民を改造することも、敢て不可能の事ではないと信ぜらるゝのであります。

私共は東洋に於て、非常なる責任ある処の日本をも一層発達させ、も一層我が国民的自我を拡大して、永久に其の成績をあげることも、敢て六かしいことではないと思ふ。ど一か、此の紀元節の大切な時に於て、深く此の事を考へて、一時的の圧迫に堪へ、全体の刺激に勝ち得る処の力を養ふ様に致したいと考へます。夫れで今朝、私は此の感じを一言述べまして、此の最も神聖なる紀元節の祝辞に代へますが、午後からは各寮舎の催しもあることと存じますから、皆楽しく、且つ有益に此の日をお過しになることを希望致します。

とを申しますかと云ふと、つまり思ひやりが無い。自分の事については興味を持って居るが、人の事について思ひやりが無い。又、社会の事について気がつかない。之は思ひやりが無いと云ふことになる。頑固、高慢、無同情、先づ此の三つに帰する。けれども世間の人は形の上の事を以て批難するのである。ひどう常識がないと言ふて、嫌がるのである。私は此の事を聞いて、我が校の卒業生ではない、自分の教育をした娘ではないけれども、実に身を切らるゝ様な思ひがするのである。夫れと同じ様に、あなた方は世間に出て、そ一云ふ譏りは受けませんが、家庭に入って果して調和が保たれるか、ほんといに人から尊敬せらるゝだけの徳があるかど一かと云ふことを考へると、甚だ心配である。今どなたか、第一回以来の卒業生のなさったことに対して感謝すると言はれましたが、私は卒業生の行ひを見、力を見、又高等女学校から大学に移らうと云ふ希望のある人、地方から高等教育を受けたいと志願する人が出ました時に、第一に人々の心配することは、卒業生の力が乏しい、行ひがつまらぬ、徳が足りないと言ふことが一番問題となり、又其の批難が起る。又卒業生に対して、ほんといの尊敬を払はれるであろ一かと一か。之も心配である。又今、桜楓会、及び母校は寧ろ困難な状態に陥って居るのである。此の四、五年前の勢を持ちこたへて行くことは、甚だ覚束ないと云ふ様に見えるのである。之は何から来て居るかと言ふと、五、六年前の四圍の境遇が、殆んど一変したと言つてもよい程に変わつて来た故である。我々の態度、我々の熱心、我々の努力は少しも変らないが、前程に反応して行くことが六かしい。此の前程に世の中を動かして行くことが出来ない。之れ迄はいろいろ批難も受けながらも、母校が女子教育の先覚者として、世間を動かして行くことが出来た。けれども今日は、此の如き勢を以て此の境遇に応化し得るかど一かと云ふことは、大に躊躇して居る。然らば卒業生はど一かと云ふに、我々は果して社会の求むる処の要求に応じ得るか否やと云ふ心配も持って居るかと思ふ。然らば、皆さんはど一なるか。或る者は直ぐ家庭に入り、或る者は学校に行き、或る者は事業に着手するのであるけれども、果して自分の境遇はど一であろ一か。果して自分は社会から歓迎せらるゝだけの力があるか、徳があるか。又、自分が社会なり家庭なりと充分和合することの出来るだけの考へを、社会は以て居るかど一かと云ふことを考へると、心配になつて来るのである。そ一すると、あなた方は只希望に満ち、感謝に満ちて満足をなさると、一方には言ひたいのであるけれども、一方には不安である。恐れに満ちて居り、いろいろ謙遜な態度に出ると云ふことは尤もなことである。無理からんことである。独り我々が先見の明を以て心配するのみではない。其の實際は、事實は、あなたの予想外であろ一。いろいろ困難であるが、其の困難よりも立派な処の想像を描き得る。一層 Bright な暗示を起し得るのである。けれども今日實際は、も一層甚しきものであると云ふことを覚悟するのが適當であろ一と、私は思ふのであります。

夫れで今日は、二月十三日ですが、二月は二十八日しかないから、此の月も半分は過ぎ去つたのである。三月も二十日

から先きは勘定には入れられまいから、ざつと三十五日位であるが、今日は世が非常に早く変る、凡ての事が誠に迅速に変わりつゝあるから、我々は短い時間の間に非常に多くの事を仕遂げねばならぬ。非常な進歩を遂げねばならぬ。故にあなた方も此の僅かな間に、生涯の基礎となる処の学生生活を全うなさることが必要であると思ふ。夫れで、ど一して皆さんが此の間に修養をお積みなさらねばならぬかと言ふと、此の間から申しかけて居ります。人格の根本を作らねばならぬ、力の淵源を開拓しなければならぬと云ふことは、申す迄もないのであるが、其の仕方については、私は問題にして居りません。皆さんは今、論文を書くことに集中しておいでになる。昨夜も私は或る物を読んで居りましたが、アメリカの独立戦争の主なる原因となり、又一方の大將となつて此の戦争に加はつた処の Samuel Adams は、彼が丁度、其の前に Harvard 大学を卒業する時の卒業論文に、若し母国が此のアメリカの国民の自由を妨げるならば、一國を踏しても戦はんければならぬと云ふことを書いて居る。此の青年の論文が、遂に彼れの生涯を支配して居る。其の時に書きました処の思想が、彼れの一生を支配し、且つ広く一國に広がつて、遂にアメリカの一國の運命を開く結果にもなつたと云ふことを感じて居りました。あなた方の今年お書きになる論文も、あなた方の将来を支配し、遂に一國をも動かすと云ふ程に成長、発達し得るものであろ一。私は斯くなることを希望するのである。併し又一方には、此の卒業論文と云ふものが、やがて一種の虚栄心に由つて、立派なものを書かねばならぬ、人よりも優ると云ふことになつて、他の学校である処の試験勉強の様なことをして、他生の妨げ迄も敢てして、只自分と云ふ虚栄心、自欲心に駆られて、夜も寝ずと勉強する。修養もせず、実力を養ふと云ふ勉強もせず健康を害し、校風をも傷つくる様なことをして居る。たった一つの論文と云ふことに全力を注ぐと云ふことになると、悪くすれば、只時間を空費し、頭を疲らすのみである。只虚栄心のみによつてすると、苦んだ程の結果はあがらない。折角詞に骨を折つても、一向つまらない、内容は少しもないと云ふものが出来ず。之はよく学生間に陥り易い試みである。之もやはり試験學問に捕はれると同じことで、そ一云ふことに捕はれると他の事には手がつかないのである。最も大切なる生涯の事は忘れて了うと云ふ弊に陥り易いのである。夫れで物をするのは、やさしい事ではない。極端に行くとは損ない、悟り損ない、解し損ないと云ふことが、どの方面にも多いのである。そこで私が此の間から言ふ、ほんといの生活です。只力を養ふと云ふこと、學問をすると云ふことが、只本を讀めばよいとか、只論文を書けばよいと云ふことではないのです。夫れでど一か、私は此の僅かなる間に、真に力を養ふ、自分の要求して居る処の生命を見出すことが出来る様に、ほんといの経験、其の生活の経験を皆さんがなさつて、自分の品性となさつて卒業が出来ると云ふ事を、私は非常に望むのである。無論、ほんといの仕事が出来れば、凡ての事が出来る様になるのである。夫れがほんとい出来る様になるかど一かと云ふことを心配するのであります。皆さんも、之を心配なさるであろ一。其の原因

を大別して、二つにすることが出来る。

其の一つの本は、自分の中にある。其の根本のある処を Subconsciousness と言ふ。我々の気質である。気質の出来た本は、猶深く居る処の Subconsciousness の中にあると云ふことを申して居る。

第二の原因は、世界の Subconsciousness の中にある。丁度、此の樹木の出来るのは其の本性である。も一つは、其の種のある処の四囲の境遇である。夫れと同じく、我々には気質がある。次には其の気質の応ずる処の境遇である。其の二つが互に相反応すると言はうか、互に助け合ふと言はうか、夫れがよく出来るのが行為であり、夫れの見える事が知識であり、夫れがよく反応するのが活動である。夫れが丁度よく合ふことの出来るのが、我々の力である。我々の学問をする処の学生生活である。此の力が出来たかど一かと云ふことが、問題であります。

[実現するについての二つの注意]

そこで此の力を養ふと云ふこと、又仮令短い間でも其の生活の実現を我々の物にする、自分の中に実現すると云ふことに、私は二つの注意をせねばならぬことがあると考へる。夫れは先づ第一に、ど一云ふことが大切であるかと云ふと、我々の気質である。気質を養ふのは、我々の気分である。Mental mood である。も一つは、我々の呼吸する処の空気、境遇である。我々の生活する処の団体である。お互の交際する間、お互の感情から出来る処の空気である。之を氣と言ひ、精神と言ふ。我々は之によつて、凡てに勝ち得る。我々は之によつて、凡てのことを果し得る。家に入ります、学校に入ります、事業に入ります、其の来らんとする境遇を支配し得ると云ふ氣、之は我々の氣であり、力であり、精神である。之があれば、我々は力がある、希望があると云ふことを言ひ得る。此の精神的生命の根本になるものは、一つは我々の中にある。其の他の一つは社会にある。此の氣と、我々の Atmosphere とをよく拵へて行かねばならぬと云ふことであります。

夫れで此の気質が一番、何によく現れるかと云ふと、顔に顯はれる。態度に現れる。今朝、私が此堂へ来まして、ど一して見るかと云ふと、あなた方のお話を聞かない前にわかる。即ち、態度である。顔を見れば、ど一云ふ人であるかと云ふことは直ぐわかる。夫れで皆さんがほんといに力を持って居るならば、人を感じさせる。尊敬させる。あなたを見ると慕はしくなる。けれども何か心配を持って居る、或は頭の中にくしゃくしゃした感じがつれて居ると云ふことは、必ず顔に現れる。我々の筋肉といふものは、我々の気分と一致するのである。大抵の人が之を隠さうとするけれども、どんなことがあつても、ど一致しても、心の中を隠すことは出来ぬ。力ある人は直ぐ人を呑む。人を支配する。境遇に勝ち得るのである。けれども自ら捕はれて居る人は、負けるのである。負けたら、も一其の人は人を支配することは出来ないであります。之が出来んければ、ど一しても私共が根本に力を養ふ、根本に人格を作ると云ふことは出来ないであります。そこで私は、お互に充分、銘々に修養致しまして、其の気分を作りまして、其の力が出来る、人を支配する、共同する、

和合すると云ふことが出来たならば、始めて論文も書けるのである。其の他の事も出来るのである。之は余り大切な事ではないと思ふかも知れぬが、実は非常に大切な事であります。夫れで私は、結局あなた方女性に極よい処が在ります。特徴が在ります。けれども之は、改めて此に申さんでも宜しい。故に之を改善しようと思ふのである。夫れを改めるには、妨げとなるものは除かねばならぬ。我々が真に精神を養ひ、氣、世界を飲むとか、度量、海の如しと云ふ様な態度を養ふたならば、も一つ著しい働きの出来るであらうと思ふ。夫れで、一、二の点を申したい。

[婦人の力]

私が長い間、女子の教育に従事して参りまして、始終感ずる経験であります。皆さんを斯う力のないもの即ち臆病者にする感じは、ど一云ふ者と伴つて来るかと云ふと、内に不安が起つて来るから、誠に醜くなって来る。つまり婦人の力は感化力である。人が尊敬せざるには居られないと云ふ徳である。婦人は必ず人に尊敬せられ、人に慕はれる、感心せられると云ふことを重んずると云ふ性がある。之は子供を育てるにも、家庭を治めるにも、誠に必要な事である。余程の力でありませぬ。然るに、今の不安の念が出来て来ると、醜になるのです。之が、婦人と言つて、人に卑まれ軽蔑せらるゝ本となるのであります。其の不安の念の起る本は何かと云ふと、恐怖心とか、心配とか、或は煩悶とか云ふ詞を使ふのである。内に其の心配があるけれども、成るべく之を包んで外に見えない様に飾ることがある。けれども、ど一しても其の不安の念は現れる。其の不安の念は何から起るか云ふと、力の足りないと云ふことである。責任を負ふても、夫れを全うするだけの力が足りないと云ふことである。又、之から卒業するが、卒業しても経済上の困難と云ふこともある。家庭に入るが、ど一も調和が六かしいと云ふこともある。そ一云ふ境遇を考へると、不安の念が起らざるを得ない。今、此の大学の境遇は困難であるけれども、夫れを挽回すると云ふ力はある。万難を排して猶進み得る力があると云ふことを自信すれば、不安の念は起らない。けれども、あなた方が家庭に入り、或は社会に出て困難を感じると、固定して来る。段々、発達しようとする花は美であるけれども、固定して来ると**しぼんで来る**のである。つまり其の不安と云ふことは、自分の意志薄弱、自分の力が足りない。此の戦ひに対する勝算がない。之を平たく言へば、卑屈心である。臆病、煩悶、卑屈心の本は、力が足りないと云ふことである。故に御婦人から此の卑屈心、心配と云ふものを除き去らねば、ど一しても将来、発達の見込みはないのである。之は今だけではない。生涯の間、此の念の去らぬうちは、私共の望む処の立派な婦人を作ることは出来ないであります。

今、桜楓会なり母校と云ふものが非常なる困難に遭遇して、漸う持ちこたへて居りますが、も一つ此に心配することは、之である。母校の基本と云ふものは、余り拡張して使ひ込んだと云ふことがある。そして今、世間が不景気になった結果、四、五年前迄は生徒数も 1350 を算したのであるが、今は一寸 1150 人と云ふことになる。若しもこ一云ふ際に五十万、

百万と云ふ基金があるなら、厳然として維持することが出来るのである。然るに今日、不安を感じると云ふのは、此の学校の弱みである。政府でも何処でも、こゝ云ふ不景気な時には人を減らすのである。そゝすると、一家の主人は扶持がなくなるから、奥さんは忽ち家政不如意を感じる。其の為に、子供の教育も何も出来ぬと云ふことになる。夫れでまさかの時には、夫が職を失へば一家は此の腕で背負ふて行くと云ふ力がなければならぬ。嫁入りをしたから安心と言ふことは出来ない。夫が盛んであつても、何時死ぬるかも知れぬ。故に今日一般の婦人が卑屈になることは、無理はないのである。あなた方も心に此の不安の念があると、立派な気分を養ふことは出来ぬ。従つて、立派なる校風を充実することは出来なくなるのである。之が、どゝしても私は此に力の根本を養はねばならぬと云ふことを申す所以であります。

昨夜、私は西洋の或る新聞を見て居りましたが、向ふの婦人が実に天国の様な家庭を営むことを理想として居る。そゝして、ゆったりとして優美な所がある。之は誠によいことである。立派な家庭を持って居る人は、必ず不安の念のない人です。昨日、私の読みました人は Mrs. Durant と言ふ人で、此の人は余り夫の力を借らずに、いろいろ事業をして居る。そして副業をもして居るのです。夫れを始めたのは今から十年程前に、自分の Pocket から一匹の牛を買つて、夫れを二匹にし、三匹にして、始めは牧夫を雇ふて居ましたが、遂にこゝ云ふことでは自分の力が足らぬと感じて、夫に相談の結果、大学に入り、牧畜科を卒業して、今は百何十頭と云ふ牛を持って居る。此の副業に由つて作った処の奥さんの財産は、日本の金にして五十万円と云ふことである。そして又、地面を買つて幼稚園を建て、無月謝で子供を育て、そゝ云ふ慈善事業をもして居るのであります。

日本ではどゝかと云ふと、学問はするが、一向に實際に結果をあげることは出来ぬ。あなた方が今学校を卒業して、自分の境遇を開くには、どゝしても力が入る。所が、明治の世の中は昔とはすっかり變つて来たのであるから、昔の力ではいけないのである。夫れで自分は之を以て進むと云ふ決心が出来たならば、立派な気分が出来る。そゝすると、凡ての事に勝ち得るのであります。故に、どゝしても試験学問ではいけない。毎日毎日、變る所の境遇に応じて、夫れを打ち開いて行くと云ふ力を養ふことが大切であります。之がないと、卑屈になり甚だ醜くなって、人の尊敬を受けることは出来なくなります。之は又、自信力、自重心を養ふ上に必要なことであるから申したのでありますが、此の間言つた処の自己動力を満足させる上に、如何に大切であるかと云ふことを申したのである。

[婦人は女々しい]

も一つ御婦人で一番、此の自分の気分を悪くし、総体の四圍の境遇を害するものは、さっぱりとしにくい、ねちやつく。之は意地が悪いとも言ふのである。夫れからも一つは、女々しいと云ふことは女女と書いて、女から来たことである。めめしいと云ふことは、よく表面に顯れる現象は、御婦人の涙、泣くと云ふことである。女の日程、泣き易いものはない。

之は、其の若し家を持ったならば、夫を苦める本である。今後あなた方の家がよく治まらなかつたならば、面白く行かなかつたならば、何を以て皆の機嫌を損ねるかと言ふと、皆さんの女々しい処にある。夫れで、必ず之が一番夫を苦めるのである。けれども女の方は、之が一番の武器と思つて居らるゝ様であるが、然るに之が一番、人を嫌にするものです。所が夫れが僻になると、も一回復しない。故に只形体だけの家があつても、ほんとの家庭は営まれなくなるのであります。之は何処から来るかと云ふと、成る程、表面から見ると忍耐力の様である。又、御婦人と云ふものは、よく忍耐して居るのである。そして涙は非常に同情深き物の様に見える。けれども、よく解剖して見ると、実は悔し涙である。

[自己感情]

そゝ云ふ自己感情から女々しく頑張ると云ふことは、誠に醜いものである。そして家の調和を害するものであります。常識のないのは何が本かと言へば、やはり自己感情である。之が自分を支配して居る間は、逆も人の事を思ふ暇はないのである。故に之が常識をなくし、人の気分を害する最も強い動力であらうと思ひます。

夫れで、斯う云ふ感じが起ります時には、必ず人の罪を責める、他の欠点を諫める、他の悪を諫めよとする時に起るものである。故にお互に一家を成し、一会社を成し、大きく言へば、一國を成して行く時には、之をよくして行かう、共同して行かうと云ふ考へは、皆が持つて居るのである。然るに、甚だ我儘なことをする、自分を輕蔑する、自分を無視する、彼れは宜しくない、不忠実であるから諫めよと思ふ時に起る感情である。宗教家はそゝ云ふ時に、祈りをする。神よ、どゝか彼れを救はせ給へ、と言つて祈る。けれども実は恨みがましいこともあるのである。夫れで私思ふに、御婦人には其処が六かしい処である。どゝすれば人が心から改めるものであるか、どゝすれば生れ變つた様に感化することが出来るかと云ふことが悟られない。つまり之は一言で言ふと、自己本位が社会的本能を圧倒して、余り自分と云ふ方になり過ぎて居る弊であると思ふのであります。段々時が長うなつたから、充分之を言ふことが出来ませんが、私共が学校の目的、主義を貫く為には、殆んど身命を賭してゝも、どんな攻撃、反対を受けても屈せぬ処があつて、公共の為には飽く迄も譲らない処の態度はくづしてはならない。けれども我が為に要求すること、自分に拘はる事については、成るべく譲る主義とするのである。そゝ云ふ人であるならば、実に意志の強い人である。又、思ひ切りのよい人である。直ぐ様物がさばけて行くと云ふ人で、之は誰れもが好む処であります。

[涙に就きて]

夫れから、我々が世の中の為に、人の為に憂へると云ふこと、泣く即ち涙と云ふものは、大切なものである。修養の上に欠く可らざるものである。けれども、自分の要求を満たすことが出来ない為に悔しい、悲しいと云ふことは、実に陋劣なことである。そゝ云ふ事の為には、一滴も涙を出してはならぬと思はなければならぬ。けれども自分が夫れだけに働いても、未だ人を動かすことの出来ないのは、やっぱり自分が

足りないのであると云ふ処迄は、皆気づくのである。けれども如何にすれば改めらるゝかと云ふことになると、実に六かしい。之が宗教に言ふ、灰を被り、麻を着て、或は断食をして悲むのである。悔いと云ふのは其処である。ど一しても自分の弱きを改めることが出来なかつたと云ふ、此の涙を持つことの出来る人でなければ改善は出来ぬ。之がない人は、決して進むことは出来ぬ。徳を養ふことは出来ないであります。我々人間は如何なる人でも、決して善人はない。又、積極的に悪人もない。故に我々は誇ることもない。又、罪人であると云ふこともない。神と云ふものも完全ではない。段々と進むものであるから、進むものは決して今日完全なものとは言はれないのです。

そして、も一つ涙がある。国の為、社会の為に同情の涙をこぼす。此の涙ある人でなければ、一家を調和することは出来ぬ。之は我が不運、我が不足を嘆いて泣くのではない。深く世を思ひ、国を憂へて流す涙である。Christ は血の汗を流し、終りには十字架の上に血を流して、つまり全身を此の同情の為に注いで力尽き命尽きて、其の自分の仕事を終られたのである。此の同情が、やはり Christ 教にあれば人を救ふ処の力となつたのであります。我々は仮令血を流す迄に至らないでも、血の汗を流さなくとも、せめては会の為に、家の為に少しも恨みのない、私のない、極深い同情ある涙をこぼす。之が世界を動かす所以であり、又、婦人が夫を諫め、子供を育てる処の力である。此の力は、実に人を生まれさせる処の力となるのであります。

夫れで私共が一方には自分の中に力を養ひ、其の力を自信することの出来る様な学問をすることが、我々の修養の一動機となります。も一つは、自分の力を養ふ、自分を捧げると云ふ全く無私の愛と云ふ処に迄行く事は六かしいけれども、己の如く隣を愛せよ、と云ふ考へを以て、人を思ふ、愛すると云ふ同情の念を満たすと云ふことは、此に至って始めて自分を養ふと云ふことと、団体を養ふと云ふことと一致するのであります。夫れで私は、ど一か第七回生が此の終り迄に此の事をよく経験なされて、全身を其の主義に捧げて進むことが出来る様におなりなされたならば、私は誠に、あなた方の将来について安心する事が出来るのである。其の気分を作ることが出来、其処に迄行って始めて自分を制し、人の為に尽すことが出来るであろうと考へます。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十三年二月十六日

明治四十三年二月十六日
大学部全体

此の前に、実践的傾向の中の本能的運動と云ふのは、即ち反射運動である。第二の模倣的運動は、感情的行為である。

此の本能と云ふことは、此の自然感情が其の運動のもとである。第三の熱意は、我々の気質と、夫れに理想的傾向の発達した判断から出来た知識目的と云ふ、両要素が合体したものである。通常、之れを合理的行為と言ふのである、と云ふことを申しました。

反射運動、模倣的運動は感情であると言ふことが出来る。併し此の合理的行為は、前の二種類と全く別なものでありましょーか。又は、同種類のものでありましょーか。

異種類であると思ふものは……

同種類であつて、前のものが感情、本能であるが、第三の合理的行為には之れがうすいのであるかと言へば、決してそ一ではない。寧ろ、強い位である。

其の度合から言へば、前の反射運動、模倣運動、雷同運動と、決して違はないのである。唯だ違ふのは、知識即ち理想、目的に由つて、本能即ち感情を改革し、或は統御したものである。反射運動は、模倣運動は、感情が知識に由つて統御され、或は改良されたものではない。其のまゝのものであつて、本能が知識及び理想、目的に由つて改良され、統御されたものは、合理的行為である。そこで我々の行為が組織されて、品性、人格と言ふのである。我々の品性、人格は、矢張其の土台となるもの、原動力となるものは、広義に於ける本能、審美的のものであると言ふことが出来る。其の人格の原動力の中心の自的的本能は、如何なる傾向であり力であるかと云ふことから、研究して進まなければならぬ。

[小中心]

此の前に、吾人の人格は宇宙に於ける一要素たる精神界の小中心であると云ふことを申しました。之れは精神界の表象である。此の物質世界を考へたならば、其の説明の助けとなる。此の宇宙の本体の表象たる物質世界は、始めは Chaos、混沌たる Atom でありました時代には、其の Atom 間に相働く処の親和力、或は凝集力、又は其の力が集まって働く所の引力と云ふよ一な、各種の働きに由りまして、之れが無数の小中心を拵へたのである。其の中心を個体と言ひ、物体と言ふ。例へば、毎夜大空に輝く、無数の星であり、人類が生活する地球であり、地球の上に散布する処の物質である。之れが物質界に於ける処の小中心である。

[求心力と遠心力]

之れは何に由つて出来るかと言ふと、凝集力、親和力、引力と言ふ。此の引力とは、小中心を、個体を拵へる力である。一処に一中心となる為めに、互に己の中心点に集合し、己の中心点に結合する処の力です。之れを求心力と言ふのであります。又、我が個体、即ち我が中心点を作るに不必要なる、或は有害なる物質を遠ざける処の力がある。之れを反発力、或は遠心力と言ふ。此の中心に集まろ一とする力と、遠ざかろ一とする力、此の二種の力の働きに由つて、宇内に多くの物体、即ち無数の個体が出来て居るのであります。斯くの如くに我々の精神界に於ける小中心、即ち此の人格は、ど一云ふ力に由つて出来るかと言ふと、精神力と言ふ。其の精神力の種類を大別して、一を求心力、即ち個体となり人格となり己を建設する処の求心力と、己を傷つける又凡ての物を遠ざ

くる処の遠心力と云ふものと、二つと致します。

我々の人格は、此の精神的求心力、及び遠心力、此の二種類の力の働きに由りまして、我々の個人、人格と云ふものが出来る。其の精神的求心力を私は自己的本能と言ひ、之れに反対なる力を精神的遠心力と言ふのである。此の自己的本能を求心力と名付けまして、之れに反対なる勢力を反発力、或は遠心力と名付ける。之れはど一云ふものであるか、よく明らかにしておかねばならぬ。動もすれば、之れは全く相容れない二つのものであって、己に忠ならんと欲すれば、他人に忠ならず、他人に忠ならんと欲すれば、己に忠ならず。斯くの如く相反する傾向と思ふものがある。けれども、そ一ではない。自己的本能に求心力と遠心力とがある。又、社会的本能にも、求心力と遠心力とがある。然らば我々の人格を築く上に、宇宙の小中心を作る上に、欠く可からざるものは何であらうか。夫れを考へついたお方は……

[自我完成]

然らば、此の自己的本能は求心力であると言ふならば、つまり物体が一つの個体を作るには、必ず互に相引き合ふて一つの此の中心に向つて集まるが様に、此の人格の中には我々の人格に必要な処の凡ての物、あらゆる材料を自分に引き寄せる力がある。之れを自己中心と言ふ。此の自己中心は何を要求するものであるかと云ふと、自己を建設しよ一とし、発現しよ一とする。其の動機を自己実現などと言ふのである。つまり此の宇宙の中に、精神的小中心を発現しよ一とする傾きである。其の傾きを総称するならば、之れを自我完成の欲望と言ふてもよいのである。

自我完成と云ふことは、ど一云ふことであるかと云ふと、第一に自我建設、自我発現である。即ち、自我拡大である。夫れから一方から言ふと、自我拡大と云ふことは、自我集中と云ふこと、英語で言ふ Concentration である。

故に人格を作ると云ふことは、Concentration である。此の自我拡大と云ふ Concentration と云ふことは、能ふ限り自我と他とを結び付けてしまはうと云ふこと。之れを他の詞で言へば、凡ての境遇を我れと云ふ中心に集中しよ一と云ふ動機である。出来るだけ我々の境遇を拡大して行かう。出来る限りのものを我が範囲に入れよ一。之れが即ち知識を要求し、或は勢力を希望し、友達を求め、社会、國家を要求する本能となるのである。出来得るだけ、我と云ふものゝ中心に自分の境遇を集中しよ一、此の我と云ふ関係の中に凡てのものを結び付けよ一とするのである。此の自我発現と云ふことには、進歩と云ふことが必要である。其の進歩の中には、我を広げよ一、我に類化しよ一、吸収しよ一、進歩、発達しよ一と云ふ求心力を持って居る。夫れから独り、我を広げよ一、つまり人格を拡大しよ一と云ふ計りではない。自己の深さを増そ一、非常なる自分の深さを深めて行かうと云ふのである。即ち益々大きい人格にならう一、益々深い人間にならう一とするのである。

自我完成と云ふのは其の第一は自我保存で、自我の活動を妨げられると云ふことを非常に嫌ふのである。之れは即ち、自我保存の本能である。そして自我の生存を限りなく続けて

行かうと云ふ本能がある。独り人格を保ち永久にするのみならず、之れを豊富にし、幸福にし、完美にしよ一、益々改善しよ一、益々発達して行かうと云ふ処の動機があるのである。之れが人間に欲望があり、利己心があり、自重心がある所以である。此の利己心、或は名譽心、好奇心、向上心、之が即、我が中にある求心力である。人格と言ひ、我れと言ふ、特殊なる一つの特別な個体を有する処の小中心を実現しよ一、そ一云ふ個体を作らうと云ふ処の深い力を、深い傾向を持って居るのである。之れを私は、我々の中にある小宇宙の求心力と申すのである。之れに反して、我々には遠心力、反発力と云ふものがある。此の反発力は、我々の個体を形造るに不必要なるもの、及び其の傾きに妨害を加へるもの、其の目的を妨げる処の障害物に対して、反感を生ずる。敵意を生ずる。相戦ふ処の傾きをさして、憎み、怒り、戦ふ処の力をさして、之れを我々の人格の中にある処の遠心力、或は反発心と言ふのである。

此の求心力と反発力との二大勢力に由つて、我々の人格が発現するのである。我々の要求する処の実力が培養せらるゝのである。先づ第一着に、我々はその関係を明らかにしておくことが必要であるのです。一寸聞きますが、今申した処の求心力と遠心力とは、あなた方の経験に由つて言へば、何に当るのでしよ一か。答へて御覧なさい。

- ・ 求心力 —— 勤勉 —— 善 —— 愛
- ・ 遠心力 —— 遊惰 —— 悪 —— 憎

之れは皆、概念であるが、我々の求心力に向つて働いて居るのを善と言ひ、遠心力に向つて働いて居るのを悪と言ふのであります。此の善悪が、我々の行為の標準となるものである。然らば善悪の根本は、此の間申しました、理想的傾向であらうか。審美的傾向であらうか。之れに答へらるゝものは……

善は求心力であり、悪は遠心力である。其の善悪の起りは何に起因するものであらうか。言つて御覧なさい。私は、此の土台は審美的傾向であると言つて差支へはないと思ふ。其の審美的満足を与ふるものを善と言ひ、其の満足を妨げるものを悪と言ふのであります。然らば、其の善と悪との根本は何でありましよ一か。

- ・ 自己を拡大するものが善でありまして、自己を縮小するものが悪であります。

[善悪]

自我求心力とは自我と云ふ小中心力を拵へる、自我と云ふ中心を此に集中する、其の働きを助ける、其の働きに協力する、其の働きに益を与へると云ふものをさして、善と言ひ、其の自我実現、自己完成を妨げる、其の自我集中を妨げるもの、其の原因を平たく言へば、自我を傷つけるもの、自己を破壊するものを、悪と言ふのである。

そこで善悪の動機、即ち道德の起源を尋ねて行くと、其の本は自我的本能、即ち此の自我を完成しよ一、自分を保護し自分を永続しよ一、自分を生かそ一と云ふ処の傾き。即ち、情、つまり自分を思ふ情、並びに、自分に反対する、自分に背く情。つまり此の情と云ふのは求心力。其の傾きから出た

情が、善悪と云ふ區別になる。之れが道徳と云ふものゝ起源である。又、今日やはり此の情が、凡ての人間を支配して居る処の原動力である。此の傾きが自覚して今日の風俗、習慣、道徳と云ふ名前を附するよ一になつたと云ふものは、ど一云ふ発達に由つて、ど一云ふ進歩に由つて出来たものであるかと云ふことを、よく究めておくことが必要であります。

此の善悪の淵源たる情は、一方から言へば、自我中心、自己に引き付ける処の引力、己を益する、己の快樂を求める、己の知識を要求する求心力である。凝集力である。けれども亦之れを他の方面から言へば、其の求心力に應ずる、其の自己的本能が応化すること、即ち、人或は他と云ふものが寄り集まって出来た処の社会と云ふものから生じたのである。そこで此の善悪と云ふものは、自他の關係から出来る。人と人との相互の働きから、相互的關係から生れ出たものである。即ち、他の人が又は他の仲間が、我が自己中心力、即ち自我完全の傾きを妨げ、又は傷つけるものに対して起る反抗心である。平たく言へば、我を傷つけるもの、即ち自我を破壊する結果は苦痛である。此の苦痛を与へるもの、即ち自我生存に反抗するもの、忿怒の情、即ち侵襲的態度、之れを悪と言ふのである。此の悪を憎みと言ふ。此の憎みを晴らす復讐が、他人と相反発するのである。此の傾きを指して、遠心力、悪と言ふのである。

[Friend]

之れに反して、我を助ける親の如きもの、又は自分の病氣の時に看護をしてくれる処の友達の如きもの、或は餓える時に食物を与へて呉れるもの、或は自分が進歩、発達しよ一とする時に善い導きを与へる人、又は自分の名誉を保護してくれたとか、何か自分の人格を完成するに必要な助けを与へてくれた、即ち精神的幸福を与へ、身体的快樂を与へて呉れた友達或は先輩に対しては、報恩の情がある。之れを愛と言ひ、之れを親切な感情と言ふのである。此の人を Friend と言ふ。此の Friend 友情は、善である。求心力である。之れが団体心となり、社会心となる。此の社会心が自我拡大となる。之れが善であります。我れに害するものを敵と言ひ、其の敵を防ぐ情を復讐と言ふ。昔の道徳は、此の敵討ち、恨みを報ゆることは自我保存に欠く可からざるものとし、又其の力を勇氣と言つて賞賛したものである。其の情は求心力に應ずるものと、之れに反抗するものとの區別に由つて生じたものを、善悪と言ふよ一になつたと云ふことは、之れは學術から研究しましても、亦我々の経験を反省致しましても、間違つて居らんであらうと思ふのである。そこで悪と云ふことは、自分独りが孤独では出来ぬ。善と云ふことも、やはり他との關係がある。即ち、之れは社会的關係の産物と言ふことが出来る。人と人との關係、我れと人との關係が出来まして、始めて善悪ができるのです。又、此の善悪と云ふことは、社会的本能、即ち我れ、小我と云ふ区域を離れて、始めてほんとの善悪と言ふことが出来るとも言はれる。そこで我々は、自分の行ひを律するのに、必ず人と云ふこと、又は社会と云ふことを別にしては、決して考へることは出来ない。善と言へば、必ず他人が我れに対する態度、及び我れに行ふたる行ひが如何

に感じたか、影響したか。其の善と見、善と感じた態度が、即ち善である。我々は人が我れに対する經驗を以て、人に行ふのである。そこで善と云ふことも、やはり人との關係をして、其の經驗が出来て始めて自分の標準と云ふものが出来る。其の人との關係が出来て始めて我が善、及び、我が悪と云ふ自覚が出来る。此の善悪と云ふことは、我れと人と相關係し、相働きあひ、相報いあふて、始めて我々の本務、我々の徳と云ふものが出来て来るのである。之れが東西の道徳が出来た順序であり、又東西の道徳の標準であるのです。孔子様の詞を引くならば、己の欲せざる処、之れを人に施す勿れ。又 Christ は、己の人に為られんと思ふことは、己、之れを為せ、と言はれました。夫れであるから、之れは只、善悪の起りと云ふのみならず、今日、我々の行ひをして居る一番の力は、やはり之れである。我々に力を与へ、決心をさせるものは、此の忿怒の情である。人格を守り、名誉を傷つけず、我が意志を貫徹する為めには一命をも抛つ、どんな抵抗でもすると云ふこと。之れは大きな団体になると、公憤と言ひます。我が國が強大なる露國と戦ひ、今日、各國が軍艦を増し、飛行機を拵へ、歳入の大部分を国防に費すと云ふことは、やはり此の公憤、自國保存の為めであります。

又今日、いろいろ社会に罪惡が行はれるのは、皆其の原因を此に發して居るのである。恨み、嫉みと云ふよ一なものは、自我の苦痛を除かう、其の苦痛の原因を除き去ろ一と云ふことにある。又、非常なる犠牲の精神を以て、非常な活動をすることもある。其の原因は善であり、愛であるのです。そこで我々が自我を拡大しよ一と思ひ、其の為めに多くの友を得よ一とし、多くの人の同情を得よ一と思ふならば、其の原因である処の厚意を持ち、人の利益を計ると云ふ実を行はなければならぬ。又、人の批評、批難を恐れ、人心の離るゝことを恐れるならば、其の原因である処の人の批難をし、人を憂へしめ、人の精神的苦痛を増さしむるよ一な行ひを謹まんければならぬ。若し己の欲せざる処を人に施さず、人よりせられんと思ふ処を人に行ふたならば、我々の良心は始めて満足することが出来、我々の良心は始めて安心して眠りに就くことが出来るのである。つまり我々の情緒は、報恩心と敵愾心、即ち愛と憎みとから出来たものである。つまり、自我と云ふ小中心を完全にしよ一と云ふことを要求するのであると云ふことを、申したのであります。

夫れで、此の広い円満な意味で申しまする利己的、即ち利己的本能と云ふものは、自我保存、自我修養、勉強の為めに己を富まし、己を完成するには欠く可からざる動機であつて、決して之れを憎み、嫌ふ可きものではない。然るに人間の苦しみと云ふものは、此の自己的本能の猛烈なる為めに起るのである。古来の宗教も、此の煩惱を撲滅せしめんが為めに起つたので、人間の煩惱も実に猛烈なものであります。此の自己を傷つけるものは、決して外からではない。他人から計り来るものではない。自我自身が、自我自身を殺害することもあるのである。故に此の自己的本能と云ふことも、も一層深く考へて見なければならぬのであります。も一時も参りましたけれども、簡短に今の第一要素だけ了うておきたいと思

ひます。此の自的本能を撲滅してうべきものでないと云ふことは、誰れも承認する所である。けれども之れを如何に制し、如何に導けばよいかと云ふことは、非常な問題であります。実は、我々の生命であり、我々の力であると同時に、実に猛烈な時もあり、有害な時もあるから、如何にして之れを統御すべきであるかと云ふことは、後に委しく申すつもりであります。今日は、具体的に我々の行為にあてはめて考へておくことが大切である。

[人間の本務]

倫理学的研究に由りまして此の自我的本能を制御し、自我的本能を満足させることを、我々人間の**本務**と申します。其の本務を分けて、自我に対する本務、他人に対する本務、家族に対する本務、国家社会に対する本務、及び宗教に対する本務と云ふことがあるよ一に、いろいろ説きますが、其の一番始めに、自己に対する我が本務と云ふことがある。即ち、我れ自身が自身に対する本務があると云ふ説と、其の反対に、自**家的**本務と云ふことは道理のないことである。如何となれば、自我的本務と云ふことは悉く他に対する本務の中に含まれて居る。即ち他人に対する本務、家族に対する本務、国家社会に対する本務の中には、殊に此の我に対する本務があるから、取り立てて言ふべき必要はないのである。故に我々の本務と云ふことは、友達に対し、国家に対し、社会に対する本務を定めたならば、殊更に我に対する本務を定めておき、又夫れを行つて、自己的徳を養ふの必要はないではないかと云ふ説もある。之れについて、あなた方はど一云ふ説を持って居るのであるか。

・ 自**家的**本務と云ふことは、學術上から言ふと間違つて居ると思ふ者は……なし

・ 夫れと反対に、やはり自我に対する本務と云ふものもあると思ふものは……大多数

其の理由もありますが、今は時間がないから省きます。其の自分に対する本務の一番初めのものは、何でありますか。

・ 克己

[勤勉]

私は、勤勉と言ひたい。第一に、我れに対する徳は勤勉である。其の反対の力は遊惰です。併し、其の遊惰と云ふ傾向に勝利を得て、勤勉の徳を発揮するには、非常なる克己を要するのである。然るに、此に矛盾を来すのである。本務の第一は勤勉である。集中は求心力であるが、克己とは其の傾きを制することである。勤勉とは身体的活動である。生理的、並びに精神的活動であつて、之れは自我実現に欠く可からざるものであります。然るに、人間は目的々活動の動物である。パウゼンの言つた、Teleological energy である。人間に取つては、目的々活動をしなれないのが苦痛である、嫌なことであります。人間は生れてから死ぬる迄、活動と云ふことが望みである。若い人や小供の特徴は活動であつて、一日何もせず閉ぢこもつて居なければならぬのは、苦痛である。然らば、此の勤勉と云ふことが何故、克己しなければならぬか。之は何故、一つの理性、知識を以て律しなければならぬか。あなた方が反対や困難を排して、此の校へお入りになつたの

は、何故であるか。向上心である。限りなく進む、目的の爲めに勤勉すると云ふことは、人間の本性である。自我保存に欠くべからざるものである。自我集中と云ふことは自我保存であり、求心力である。凡て此の宇宙にある処の富みを、我れに類化する処の働きである。然らば、何故此の勤勉をするに、克己を要するのでありましょ一か。時も段々遅くなりましたから、之れは宿題としておきましょ一。

つまり、我々の傾きには求心力と遠心力とがあつて、之れを制御したり又満足させることが、我々の本務である。然るに、夫れをするには克己を要すると云ふことは何故であろ一か。そ一云ふことについて、次迄に考へておいでになつて、始めに少し答へてもらひましょ一。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十三年二月二十三日

明治四十三年二月二十三日

大学部全体

是れ迄、繰り返し、繰り返し考へた問題であります。やはり今に未だ解決の出来ない問題であると言ふてもよろしい。又、其の考へは既にきまつて居りましても、実行が伴はないとか、社会の現実が之れに一致しないと云ふことを免れない処から、幾度も同じことを我々の頭の中に問題とするのである。夫れで、我々が個人を発現する、即ち銘々が要求する処の実力を展ばす、人格即ち個性を発揮すると云ふことについて、即ち自我実現と云ふことが我々人間たる者の目的であるならば、其の原動力となつて我々を動かして居るもの、我々に力を与へ、我々に生命を与へて居るものは、即ち、之れが自的**本能**、外国語で言へば、Self-preservation の Instinct と云ふこととござります。夫れで之れを他の詞で言へば、Self-interest と云ふことである。所謂、我が利益、即ち此の利己心、己を益する、己の爲めになるよ一に願ふと云ふこと、又は己の幸福、己の善を欲望すると云ふ傾きです。即ち、此の自的**本能**とは Self-interest、利己的の傾向である。此の傾向がなければ、個人は滅亡するのである。之れが若し止まつたならば、個性の発達と云ふことは直ちにやむのであると云ふことを、前に申したのであります。そこで、自分の力を養ふ、自分の境遇を幸福に開くと云ふことは、誠に大切である。其の大切なる務めを全うしよ一と思へば、勤勉、努力と云ふことは必要であります。

さて、此の勤勉、努力と云ふ徳を養ふには、克己と云ふことが入る。克己とは何かと言へば、自的**本能**に克つと云ふことである。所謂 Self-interest、自愛心、又は我が幸福、我が快樂を願ふ処の情を制御する、之れを抑へる、之れを制限すると云ふことが、即ち克己である。そ一すると、此の自我を完全にする所の原動力を止め、時には其の原動力を滅殺

すると云ふことになる、これはど一も矛盾である。既に其の考への上に矛盾が起つて来るのみならず、実行の上に、結果の上に、必ず矛盾が起るのである。

我々が Self-interest、即ち利己心と云ふ動機を以て、我が行ひを律する、我が利益になるよ一に、我が幸福になるよ一に律することが、我が力を養ひ、我が境遇を開く上に大切なることである。然るに利己心と云ふこと、Self-interest と云ふことを我々の行為の標準とするならば、之れを悪と言ふのであるのみならず、其の結果は、却つて我が望みにはそはなくなつて来るのである。そこで我が人格を発現するにも、即ち、我が実力を培養するにも、及び此の社会の完成を期するにも、只 Self-interest ではないけぬ。其の反対でなければならぬ。即ち Disinterestedness 非利己心でなければならぬ。非利己心とは、我が為め、我が利益、我が快樂と云ふことを離れて、其の以上に超越した行為である。私利、私と云ふものから逃れ出でなければ、其の繋ぎから自由を得なければ、逆もほんとの自我完成の目的を達することは出来ぬ。即ち、善行為の目的を遂げることが出来ぬと云ふことになるのです。

そ一致しますと、始めに於ては、此の Self-interest と云ふことが我々の行ひを拵へる原動力であると申しておいて、此処では、そ一でない。利己心と云ふものは自らを破壊するものである。之れに従へば、道徳的自殺であると云ふことになる。之れは、わかりにくい問題でしょ一。

極端なる個人主義の主張する処は、此の利己心を満足させること、即ち快樂主義、即ち自然主義、即ち本能主義である。道徳にも極端なる快樂主義、自然主義があるから、文学にも必ず此の極端なる自然主義があるのであるが、之れは一寸考へると、よいことの一である。教育にも自然主義があつて、教育はど一しても子供の本能に従はねばならぬと云ふこともあります。そこで此の利己主義が極端に行くと、禁欲主義に反して自然主義になるのであります。けれども之れは大變な間違ひであります。

[禁欲主義]

第二の方が極端に行くと、即ち禁欲主義になつて、感情とか本能とか云ふものを根絶し、又其の力を滅殺するにあらざれば、人間の目的、理想を全うすることは出来ないと、斯う云ふ風になつて来るのであります。

夫れで此に於て、快樂主義と云ふものと、理想主義、或は合理主義と云ふものが相分れて来る。そ一して、此の快樂主義と合理主義と云ふものは互に相矛盾して、逆も相容れることの出来ない主義であると考へられる。併し、之れを深く考へて進むと、決してそ一ではない。つまり、第二の Disinterestedness で、即ち無私、公平、私を捨てた、私情を離れた、即ち私情に勝つ、自然の本能に克つと云ふ克己主義、之が自我を養ひ、実力を充実するに欠く可からざるもの、又我々が自分の行為を律すべき行為の軌範であると言はねばならぬ。

斯う言ふと命令的になり、独断的になるから、私が前に問ひを出しておきました。此の自分の利益、自分の快樂と云ふ

ことを離れて、其処に始めて真の自我実現の動力が発揮するのである。之れが其の我々の、実に力を充実する処の唯一の方法である。そ一して、決して此の利己と云ふこと、又利己的本能を傷つけるものではない。其の主義に矛盾するものではないと云ふことを、先づ始めに皆さんが考へておかねばならぬ。之れが一寸聞きますと、大變に Paradox であるよ一に見えますが、つまり、其の非利己心と云ふことと利己と云ふことは、恰も正反対のよ一に聞こえるのであるけれども、此の非利己と云ふことは、決して自分に就いて無欲主義、自分の利益と云ふこと又は自分の幸福と云ふことを少しも思はない主義である。即ち禁欲主義である。自分と云ふこと、又自分の中にある本能を皆、断滅してうと云ふことではないのです。つまり、此の Interest と云ふこと、利益、又は興味と云ふこと、又は其の目的と云ふことは、決して自分と云ふ自分だけに関係して居るもの、我が利益とは私だけに関する利益、幸福とは私だけに受ける幸福と云ふものではない。我がほんとの幸福と云ふものは、我れだけの幸福ではない。我が利益と云ふものは、自分一個の利益ではない。之れは、同じく人の利益である。人の幸福である。人の為めである。猶ほ広く考へれば、社会の団体の皆に関係して居る、皆の頭に関はつて居る処の利益である。皆が感ずる処の興味である。皆が求めて居る処の幸福である。故に、其の人だけの利益、其の人だけの為と云ふものではないのです。

若しも其の人だけのものであつて、他の人には少しも構はない、人はど一でもよいと云ふのであつたならば、之れを食欲と言ひ、我儘と言ふ。此の Selfishness 食欲と云ふものならば、決して其の人の為めにもならぬものである。一時は其の人の幸福、其の人の利益のよ一にも見えるけれども、先きになると、其の結果が進行すると、其の人の為めにはならぬのみか、遂に、其の人を亡ぼす処の原因になる。そこで我々の Interest は、此の Disinterestedness でなければならぬ。必ず他の人に関係があり、社会全体と利害を共にするものでなければなりません。詞をかへて言へば、我が利益と云ふことを考へると同時に、人の利益を考へ、人と約束をする時に、人と仕事をする時に、人の利益と共に我が利益を考へねばならぬ。我が名誉を保護しよ一と思ふならば、同時に人の名誉を傷つけぬよ一にし、我が人格を重んずるならば、必ず他の人の人格を尊敬しなければならぬ。そこで學問をする時にも、又は商売、実業を営んで、利益を生まうと云ふ生産を企つる時にも我が権利を保護し、勢力を扶植する時も、やはり此の人の利益と云ふことを考へねば、必ず終りには、己の損害となる。そこで賄賂を取る人や、又、政党にしても私党の名誉と云ふことより考へない、一家の主人で妻や子の苦しみも構はず、只自分だけの幸福、快樂を食ると云ふ人は、必ず人格が低い。又、勢力はないのである。一時有るよ一でも、夫れは必ず失墜する。金が出来たよ一である、名誉が出来たよ一であるけれども、夫れは必ず似せ物である。之れは、私共個人と社会国家との關係を申すのであります。

そこで、個人を作ろ一と思へば、必ず他を思ふ。我れに益であると同時に、人にも利益であるよ一に考へてせねば、我

が利益も得られないのである。

之れと同じよーに、我が人格と云ふものも、一国家である。多くの人民、多くの機関、及び無数の団体によって組織せられて居ると云ふことは、此の前にも申しました。夫れで我が人格の力を養ひ、我が人格の品性を発現すると云ふことも、同じことである。其の国家の一個人、或は一機関、一団体の私欲、利己心、或は自然の快樂、或は本能は、食食、食飲がしたいと云ふよーな様々の本能が、我が快樂、我が利益を各々要求するのである。其の国家の個人の利益と、その他の利益とが一致して居るならば、必ず我が人格の利益である。けれども我が一部の快樂が、他の部分の苦痛であるよーなことをしてはならぬ。例へば、飲食の欲を恣にする人があるとするならば、体は豚のよーに肥えるが、魂は餓鬼のよーに痩せて了うものである。そーなれば、必ず全体が弱る。全体が弱ると、どー云ふ結果になるかと云ふと、其の部分も弱るのである。大酒を飲む人が心臓の弱ることも構はず、脳細胞を汚すことも構はぬと云ふことになると、つまりは食欲を減じ、全身を亡ぼし、禍を子孫に迄残すと云ふことになるのである。故に、全体の利益と云ふことを考へないと、小部分の利益も得られないのであります。

[克己]

そこで克己と云ふことは、各部分の利益を計って、全体の調和、統一を遂げさせると云ふことになるのです。然るに、我々の此の本能と名付けて居るもの、及び自然主義が宣伝する福音とも崇めて居るものは、結局どー云ふものになるかと申しますと、実に個人の本能中で一番勢の逞しいもので、そーして人間が中々統御に苦しみます。我が人格中の一番放蕩無類漢で、我が国家の秩序、安寧を乱すものがある。之れを私は、二大強敵と言ふ。

[獅子身中の虫]

あらゆる人間の力を零落させ、心を煩悶させる。獅子身中の虫とも言ふべき、実に猛烈なる傾向が二つ居る。之れを統御して行かなければ、我々の要求する実力を培養するとか、立派なる人格を実現するとか云ふことは出来ないのであります。

[第一]

其の大敵の一つを、怠惰 Idleness と言ふ。

之れは、我々の努力、奮闘を妨げる処の遊惰の無類漢であります。

[第二]

第二は、英語で言ふと、之れを Sensuality.

身体の中に在る処の最も卑い処の欲、仏教で言ふ処の煩惱。Christ 教で言ふ肉から来る処の欲、之れを恣にさせておくと、動物と同じことになるのであります。人間の中にも、やはり動物と同じ部分が戦って居るのである。我々は其の昔、動物から漸く進んで、今日までに成り来つたものを、人間は未だ動物の如き生活を望むものと主張するものは、自然主義である。斯くの如き思想を信ずるものは、動物に墮落するのである。Christ、釈迦、孔子、Socrates と云ふよーな立派なお方が、犠牲となって築き上げられた所の此の世の中を、再

び暗きに陥れよーとするものは、実に此の大敵である。此の二大強敵があるにつきて、此に克己と云ふことを要する。克己に由って我々は此の敵を制御し、之れに結束を加へる、是を意志に服従せしむると云ふことが必要である。之れが Disinterestedness である。斯くの如く卑劣なる心を以て、自分の行ひを律しないと云ふことが、此の非利己主義である。我が家族であるから、我が友達であるからと云って、此の私心によって動かないと云ふことです。此の一部の利益、一個人の幸福、一部分の考へと云ふことを抑へて、そーして実に全体の利益、人の幸福、社会、国家の目的と云ふ如き、只部分的の感情や、考へを除いて、そーしてよく其の全体と調和、統一する処の傾きに従ふ。其の傾きと、我が傾きとが必ず一致する。人の利益と、我が利益とが必ず一致する。社会の完全と、我が完全とが必ず一致するのであります。故に我々は、之れが我が利己心であり、之れが我が実現である。故に我が人格を展ばず、我が力を発現する、我が品性を拡大すると云ふ勤勉、我が為めに奮闘、努力すると云ふ動機、此の Disinterestedness におかねばならぬ。夫れに叶ふには、又、夫れに叶ふよーに支配するものは、克己である。懶惰と云ふ卑い傾きに勝ち、此の本能を制御して、始めて我々は其の目的を達することが出来るのであります。此の遊惰、Idleness と云ふことは何であるか。つまり之れは、人間が現状に安んずる、習慣、風俗に固定する、つまり社会の因襲に由って静止すると云ふ処から来るのである。殊に我が國の御婦人は、どー云ふ教育を受けたかと云ふと、勿れ主義で、動く勿れ、あてはまれ、風俗、習慣に従ふべしと云ふ教へに由って、遺伝的に静止する。今迄出来た習慣、風俗に閉ぢ籠って、夫れで安んじ、夫れに静止する。つまり、社会的習慣に捕へられて、夫れに安んじたい。之れを改善しよーとか、も一つ大きくなりたか云ふ、動くことは好まない。甘んずる、安んずる、つまり四圍の境遇に固定すると云ふこと、之れが遊惰です。之れが御婦人の物の出来ない原因で、従って、人格発現と云ふことが出来ない。進歩しよー、改善しよー、そして境遇を切り開かうと云ふ如き、力の入る、骨の折れる、度々境遇を改善しなければならぬ、忍耐、努力しなければならぬことを避けたい。之れは、遊惰の情が妨げるのである。之れに勝って、勤勉努力すると云ふ決心が出来なければ、到底實力は出来ないのである。

例へば、英語の力を養ふことにしても、私が思ふに、教師がわるいのではない。自ら骨を折り、自ら苦しんで、飽く迄、奮闘、努力して、つぶさに蜚雪の勞を積んで、どーしても之れを仕遂げねばやまない。深く考へる、深く究めると云ふことが足りない。之が遊惰である。何故、遊惰になるかと言へば、新しい活動をする、境遇を開く、そーして生存競争をしようと云ふ決心がない。此の決心をして、静止の本能に勝たなければ、到底我が國の女子がも一つ大きくなり、母親となって今後の國民を改造して、國家を進めて行くと云ふことは出来ないのです。

夫れから、勤勉に克己の必要があると云ふことの第三の理由は、此の前にも申しましたよーに、勤勉と云ふことは努力

である。其の勤勉、努力の動機は活動である。人間の動力は目的な活動である。四囲の境遇に反応する処の力であって、之れは自然に生れついて居る処の本能であります。然るに、ど一云ふ訳を以て遊惰に陥って来るか。之が一番人間の向上を妨げるのである。国民としても、我々個人としても、何故こ一云ふ苦しみを持って居るか、こ一云ふ困難に遭遇するかと云ふと、其の大原因は此の遊惰と云ふことであります。そこで、ど一云ふ訳で夫れだけ本能的に、遺伝的に人間と云ふものは勤勉すべきものでありながら静止すると云ふのは、之れは変態である。活動すると云ふことが、ど一しても人間の本性であります。然るに、何故に我々は此の遊惰に流れて了うか、現状に安んじて了うと云ふ弊に陥るかと云ふと、之れが我々の本能的に動いて居る処の欠点である。自然主義の弱点である。野蛮人とか、弱き国民とか云ふものは、ど一云ふ訳に由って静止して了うて、遊惰に流れるかと云ふと、成る程、四囲の境遇から刺激を受けると云ふことは、本能である。まあ、之れを野蛮人とすると、若しも此に兎が出て来たとか、海岸に鯨が出て来たとか云ふと、村中の人々が夢中になって、殆んど文明人の及ばぬ程に一所懸命になって、之れを捕へるであらう。之れは、目前の事に反応する。目前の利益とか、目前の敵と云ふものに対しては、直ちに之れに反応し、其の獲物に由って村中が富んだと云ふ訳で、酒を飲むとか、踊るとか云ふことになる。斯う云ふことに何時もなるならばよいけれども、そ一云ふことが、そ一度々重なって学校に起るものでもなければ、銘々の上に来るものでもない。故に野蛮人は、そ一云ふ時には忽ち活動するけれども、平日には事が無いから、寝て食べると云ふことになる。我日本もそ一です。日露戦争時には、国民挙つて非常な活動をしたけれども、今日は静止の状態にあるのである。

併し今から十年先きになると、America は毎年二千万づつ人口が殖えて行く。之れに、どしどし教育を施して行くから、十年後には、四人の中に三人迄は必ず教育ある者であると云ふことになる。此の勢に追っついて行くことが出来ないならば、此の東洋と云ふものは並立が出来ない。我が日本は滅びて了うと云ふことが、十年先きにある。けれども之れをも一いつ延ばして、五十年先きのことを考へる。そ一すると、之れは理想である。理想と現実とは遙かである。理想は臆である。ぼんやり見えて居る。けれども日本人は之れが見えない。又、文部大臣は、女子の高等教育は不必要であると言ふ。郷党の人も、女子の教育は不賛成である。こ一云ふことを言ふと、夫れは理想である、足が地について居らぬと言ひます。けれども理想に生きるもの、目的を持って居るものは、確かに足は踏まへて居ると共に、遙かに先きのことが見えて居る。そこで、目的のあるもの、先きの見えて居る人、大きな境遇に生きて居る人、世界の大勢のわかる人は大なる四囲の境遇から刺激を受けて、又之れに反応するから無益なことに時を使ふて居る暇はない。故に遊惰になることは出来ぬ。けれども先きの見えない人は、天地が狭い。泳いで居る池が小さいから、刺激の乏しいと共に、反応もせぬ。之れが、只現実の事しか見えない人は、遊惰に流れることを免れない。知識の

狭い人は自から現実のみ支配せられて、遊惰に流れる原因であります。ほんとうに勤勉と云ふ徳を養はうと思ふならば、足下にも気を付けねばならぬ。現実にも注意しなければならない。けれども同時に、此の理想に生きて、先きを見ることが出来、そ一して此の理想、目的に向って進まなければ、我々の二大強敵を消滅することは出来ないでありませう。

然らば、若しも我々が自分の本能、即ち感情的方面である処の審美的傾向にのみ従ふて動いて居たならば、却つて力に制限が加へられて、其の以上に展びることが出来ないと云ふ結果になる。又、其の力を養はうと試みて、却つて終ひには、其の反対の弊に陥ってしまうと云ふことがおわかりになったであらうと思ひます。併し其の本能と云ふものは、非常に猛烈なものであるので、力、行為の本をなして居る。そして之れは我々の Subconsciousness の中にあると云ふことは、おわかりになったでありませう。

処が此に問題が起る。本能を育てるために此れを扇動すると、却つて反対の結果を来たすものであると云ふことが、おわかりになったであらう。そこで此の前私は、我々の三大傾向の一つである審美的傾向に由って善悪が別れる、そして又、其の善悪と云ふものの起りは、やはり感情から段々起つて来たものであると云ふことを、申したのであります。然らば其の感情が本であり、又、其の感情は感覚が我々の本能の中に入つて来たものであるとすれば、此の感情、本能は誠に大切なものであるが、同時に、之れは又我々の敵であつて、我々の力、我々の品性を滅殺するものであると云ふことは、おわかりになったであらう。

[感情]

皆さんの苦しんで居るのは何故であるかと云ふと、やはり、此の感情の爲めであります。然らば此の感情と云ふものは、ど一云ふ風に制御すべきものであらうか。又、いろいろの本能、感情があるが、夫れをど一云ふ風に統一して行けばよいか。人格と云ふ我が世界を統御する処の君主を養ふことは、如何にして出来るものであるかと云ふことが、我々の力を養ひ修養をする上に、大変必要な問題であります。然らば、之れを如何にすべきであらうか。之れを統御することの仕方は、理性に由らねばならぬ。つまり此の間申しました、第二の理想的傾向から発達致しました理性と云ふものゝ要素が加はつて、理性に由つて其の本能を統御して、其の気質と夫れから人間の判断である理性の働きが加はつて来て、即ち此の動機と人間の理性、目的と云ふものと、両方面が働いて来て始めて之れを人格と言ふことが出来ると云ふことを、一寸申しました。之れは時間がないために委しく申すことが出来ませんが、如何にして自分の生活を統一し実現すべきかと云ふ、自分の経験となる爲めに申すのであります。

此の目的とか理想とか、或は趣味とか知識とか云ふものを以て、我々の中にある処の全傾向を支配し統御する処の力をさして、我々の意志の力と申します。つまり我々の中にある処の二大強敵を征服して、目的に順応せしむる其の力が、即ち此の意志である。此の意志は我々の人格の中にある最も尊い力で、我々の全國家を指揮し、統一する処の主権者であつ

て、非常に大切なものであります。此の意志と云ふ力、其の働きは、如何にして出来るものであるか。及び之れを如何に教育すべきものであるかと云ふことを、明らかにすることが大切であります。夫れは追々申すこととして、今日は、我々の全性格を統一する処の意志と云ふものが、我々の中に存在して居ると云ふことだけを申しておきます。

[意志]

此の意志が、我々の非常な強い Emotion、或は気質、動機と云ふものを支配することが出来る。つまり、人間の動機たる感情を支配することが出来るのであります。夫れでつまり、皆さんが理想として居る学生々生活を全うするには、此の力、意志の働きを完全に働かせることが大切でござります。

之れは此の三大本能を統御します上に、非常に大切な働きでありますから、余程深く考へて、日常生活の上に実行の出来るよーに働いてもらひたいと云ふことを考へたので、委しく其の脱き明かしを致したいと思ふ。けれども時がないものでありますから、極簡単に其の関係を申しておいて、御銘々でお考へになり、又、研究をしてお出でになるよーに致したいと思ひます。

つまり我々の意志が、此の感情、動機を調和、統一して、自分が思ふよーに選択することが出来る。そー云ふ行為が、執意的行為、合理的行為である。然るに此の自分の選択したこと、きめた処の意志が、此の感情を制御することが出来ると云ふ信仰を持って居るものであるから、どー云ふ感情をも制することが出来、どー云ふ刺激や衝動も之れを統御することが出来る。之れはそー六かしいことではないと考へられる。けれども如何に意志の強い人でも、之れを練磨した人でも、容易に此の気質なり傾きなりを統御すると云ふことは出来ないのである。故に昔から大宗教家と雖も、嗚呼、悩める人なるかな、と嘆声を発する。殆んど世捨人に迄なり、自殺までも企て、生涯を全然犠牲にすると云ふ固い決心をした人ですらも、此の意志が統御が出来ない。又、法律を以て、権利を以て、或は神罰を以て脅迫しても、威圧しても、到底之れを制することは出来ぬ。之れに反して、親の恩愛、大人の仁愛を以て感化しても、之れが出来ない。即ち神の力、帝王の力、聖人君子、偉人の力を以てしても、何の力を以てしても之れを統御することが出来ない。之れを試みて、凡ての宗教も、政治も、法律も、皆、此の目的を達し得なかつたのである。之れは、どー云ふ原因に帰するかと云ふと、つまり無知に帰するのである。

国家も、宗教も、銘々も、どー云ふものが我れであるか。我れの真髄は何であるか。即ち、我れと云ふものゝ真相はわからなかつた為めに、非常なる努力をしても効があがらない。夫れと同じよーに、今日、我々が勉強して居っても、我れと云ふものゝ根本がわからなかつたならば、非常なる努力をしても何の効もないのである。秩序を保つと云ふよーな修養は出来ないと云はんければならぬ。つまり此の我々の意志と云ふものは、我が国家の君主たるものは、其の国民を治むるに道を以てしなければならぬ。出来る処の法則を以てしなければならぬ。つまり我が意志は権力範囲に於て、統御のある処

の其の働きを以てしなければならぬ。然るに、我々は意志を以て直ちに感情を統御することが出来ると思つたのは、間違ひである。然らば、何に由つて出来るかと申せば、つまり我が意志の統御することの出来る額分を統御することによって、間接に此の情を統御することが出来るのです。其の指揮の出来る部分は何処にあるかと云ふと、我々の筋肉の額分である。其の筋肉の運動中枢に由つて支配する。運動筋肉、も一つ奥に在る処の脳細胞繊維の活動に由つて運動することの出来る……………及ばんとすると感情中枢を支配して感情を支配すると云ふことは、我々の指揮力の及ぶ処に於てしなければならぬ。即ち此の感情を支配すると云ふことは、運動中枢の働きである。即ち観念と理想との支配である。即ち此の間申しました、理想的傾向の要素である分類とか、比較、概念、判断、知識の統一である処の我々の主義、理想、目的である。此の目的、知識、理想に由つて、我々の感情を統御することが出来る。如何となれば、我々の大きな Emotion は、筋肉の活動観念の構成に由つて起つて来ますし、いろいろの向きをかへて来るのである。そこで、人間の行為が拡大せられ、力を増進すると云ふことは、理想に由つて進歩し活動する処のものでなければならぬ。夫れで合理的になつて、調和、統一せられたものが人格であり、尊い行為である。此に於て、我々の感情、行為、理想と、即ち、客観的と主観的とが合一して来て、始めて我々は自分を支配する。自分の感情を支配することが出来る。之れが出来始めて実力が出来る。自我を実現することが出来るのであります。

[成人曰く]

そこで、名高い人が言つたよーに、若しも怒りを抑へることが出来ぬならば、一、二、三、四、と言つて、十迄数へよ。夫れで未だ抑へられぬならば、更に百迄数へよ、と言つたことがあります。

If you are angry, count hundred. And if you are very angry, count thousand.

之れを数へる時には、も一筋肉の働きになつて居る。其処に於て始めて此の怒りを抑へることが出来るのであります。又、感情と云ふものも、も一少し教育をしなければならぬ。そーして肉欲と云ふよーなものは、之れを消すのである。けれども理想に生きる人は、例へば、愛と云ふよーな情緒に凡ての経験が復活して、理想的の情緒となつて、非常に広く、深い処の愛と云ふものが働いて来るのである。故に我々の行為、活動と云ふものは、理想に由つて、即ち思想構成に由つて出来るのであります。よく之れをお考へになつたならば、わかるであらう。我々が現実によつて交はるならば、今、此の講堂で、皆さんが働いて居るのみである。けれども理想に生きて、想像的に此の四囲の關係に反応するならば、坐らにして、支那、朝鮮にも交通することが出来る。独、仏、英、米、何処にでも行くことが出来る。独り世界だけではない。測る可からざる天にも昇ることが出来るのである。つまり、我々がほんとーに自分の感情を制御し得ると云ふのは、自分の意志の及ぶ処の範囲に於て、出来るのであります。つまり思想、目的に由つて統御することが出来ると思ふことになる。無論、

明治四十三年三月二日
大学部全体の為に

我々の人格には階段があって、動物的肉体もあれば、経済的利益と云ふこともあり、精神的階段もある。けれども今日迄向上して達して来て居る我々と云ふものは、其の理想に由って全体を統御して居るところにあると言はねばならぬ。之れあるが故に進歩することも出来、向上することが出来ると言はねばならぬ。

夫れからも一つ、こゝに云ふことがある。我々の人格と云ふと、つまり数千年かゝって出来たものであるから、静止し易い。恰も物体のよゝなものである。我々は宇宙の小中心であると云ふと、最早之れは静止したものである。そして不変と云ふことに価値があると云ふよゝになり易いのであるが、決してそゝでない。夫れは何に由ってわかるかと云ふと、第一、自分が始終動いて居る。之れだけ統御、平均を取ると云ふことが六かしいと云ふことに由つてもわかるのである。我々の人格は、始終流れて動く処に於て、平均を保つて居る活動であると云ふことを忘れてはならぬ。そこで、此の意志がどゝして平均を取つて、一定した人格を保つて行かると云ふと、固定したものよゝにも思はるゝ。けれども之れがどゝして進歩、発展して行きつゝあるかと云ふと、つまり其の理想である、目的である。我々の人格、及び社会を連絡、連合あるものとして行くものに、二つある。之れは、是れ迄拵へたものを伝えて行くことの出来る力もあるのである。夫れは何故かと言へば、我々が理想に生きるからである。此の理想が、我々を生かして居るのであります。之れをさして、意志と申します。

世間に、私は下劣なる小説は読むけれども、決して墮落はしません、と言ふ人がある。けれども夫れは間違ひである。恰も酒を飲む人が、酒は飲むけれども、決して酒にあたらぬ、と言ふことと同じことである。

酒が体内に浸潤してゐて、しかも其の毒を受けぬ筈があるか。決して夫れは出来ぬ相談であります。夫れと同じよゝに、我々の品性を高尚にしよゝとならば、他に道はない。只一つある。我々がそゝに云ふ感じをおこすまいと思ふならば、そゝに云ふものを見ない、聞かないと云ふに、若くことはないであります。此の生活に由つてのみ、私共は高尚なる理想を描くことも出来、立派なる品性を養ふことも出来るのである。つまり我々は、此の情を支配しなければ、馬鹿になる、墮落する、品位が落ちる。此の二大勢力に勝つて、益々立派なる人格を築かねばならぬ。そこでやはり、我が思想、我が考へを支配する、意志の支配を受けて居る処の筋肉を支配することと、脳細胞の中樞を支配すると云ふことが必要であります。段々時間が参りましたので、充分、説き明かしを致すことが出来ませんが、つまり私は此に、其の関係を明らかにして、猶ほ我々が此の学生々活を完全にしていくには、此の感情を支配して、其の意志を養ふ処の法則を知らねばならぬと思つて、之れを簡短に申したのであります。

〔不言実行〕

今年の校風は全体へ一つの物がよく行き渡つて、何処の部分にもよく充実せられて居ると云ふことは言はれぬかも知れぬが、全体の傾向はどゝに云ふ風になつて居るのであるか。殊に今日は、三年生に尋ねて見たいと思ひます。あなた方はそゝに云ふ詞はお使ひにならぬが、私は之れを一口に言へば、今年は不言実行主義をとる。あなた方の詞で言へば、着実、堅実と云ふことである。此の不言実行、着実と云ふことは誠に善いことで、婦人に取つては、殊に美德である。併し、之れは表面から見ると優美であります。又誠におとなしく、謙遜でありますけれども、之れが消極に傾くと、卑屈なこすい傾きにもなるのである。抑も我が国民が不言実行の傾きを帯びて居るのみならず、今日の社会が、あなた方の標榜なされたよゝな傾きになつて居ります。

此の不言実行とは如何なるものであるか。夫れを説き明かす必要はないのである。

牝鶏の晨するのは宜しくない。女の出しやばるとか、學者ぶるとか云ふことの宜しくないのは、申す迄もない。けれども之れを間違へて取つて、詞を以て自分の考へなり、態度なりを表すことは不必要である。会などで自分の感じを言ひ現すことなどは不徳であると思ふならば、間違ひでありませぬ。我国では音楽より読み書き、礼儀作法と云ふよゝなことも重んじて居ります。然らば此の読み書きよりも、礼儀作法よりも、音楽よりも大切な、詞を以て口に表はすことは必要であるに相違ない。

今夜、AmericaのMichigan大学の教授にツルーブラッドと云ふ能弁学の教授があります。其の人に来て貰ふことになつて居りますが、西洋ではこゝに云ふ専門の学問がある。此の人の奥さんも、EloquenceとかPronunciationとかを専門にして居らるゝ。夫れで幾らか参考にもなるであらうと云ふ処から、今夜此の講堂で午後六時から話して貰ふことになつて居ります。之は世界で一番進んで居ります世論、国民教育上に又国家を維持する上に一番必要である処の世論、即ち思想、感情を交換するに必要な話とか、新聞、雑誌とかが一番よく発達して居ります。然るに我が国では不言実行主義をとるために、こゝに云ふ交通機関が発達して居ない。此の頃外国から参りました雑誌に、日本人は表面は誠に丁寧、親切な、そして近寄り易い快活な国民である。併し乍ら、其の奥には誠に自負心の強い、すばしく狡猾な処がある。彼れ等は人道主義、支那の保全を口実として世界の同情を寄せて、遂にRussiaと云ふ強國に勝つたが、其の実は我國の利を食らんと爲めである、と云ふよゝなことが誠に有力なる雑誌に論ぜられて居る。こゝに云ふ言論が如何にAmerica国民を動かすもの

であるか、如何に America 国民の考へを導くものであるかと云ふことは、計り難いのである。此一云ふ考へが発表されたために、九十七ヶ州に跨って居る法律家、学者、宗教家と云ふよ一なもの間に、又一種の排日運動が興って居る。之れは何を Emphasize するかと云ふと、道德、殊に家庭道德である。

彼れ等が言ふ処では、日本人は此一云ふ道德に就いては殆んど動物的の国民である、と言つて居ります。斯う云ふ批評は、どれ位日本帝国には不利益なことであるかも知れない。我々は大に内に省みて、自分の行ひに注意しなければならぬことは申す迄もござりませんが、一方には、那一云ふ誤解を解くよ一に勉めると云ふことは、國際上必要なことである。然るに我が国民は、演説に談話に又筆に那一云ふことを表はすことに拙い国民であり、又那一云ふことを好まないののである。けれども今日は我々の生活が垢まて参りまして、世界がわかるよ一になり、又其の關係を明らかにせねばならないのでござります。那一云ふことを、私は此の間から感じて居つたのである。我が国民の欠点はいろいろある。其の中で、不言実行と云ふことを特徴のよ一に思ふて居るけれども、実は欠点である。独り外国の交際ばかりでなく、ど一致しても少し我々の間に、詞の自由を得んければ不利益であると云ふことについて、私は此の間から感じて居りました。其の時にあなた方から那一云ふことを聞いて、一層感じを強くしたのであります。あなた方の中から斯う云ふ考へが出るのは、私思ふに、牝鶏の屣すると云ふよ一なこと、人の感じを喜んで聞くとか、集合の場合に人の感じを聞くと云ふよ一なことと混淆して、黒白がわからないではあるまいか。さう云ふよ一な Paradox に迷ふよ一なことはあるまいかと考へました。も少しあなた方の考へ、経験、又今年は此一云ふ方針を取ると云ふことが、有のまゝに人にわかると云ふことが非常に大切である。之れが出来ないと、非常に損となるのであります。私は、人を知ることも自分を知ることも明らかでないために、充分一致協同することも出来ないと言ふ有様ではあるまいか。Frankness と云ふことを欠いたために、あなたの主義が明らかにわからなかつたために、一つの間違ひを生じたのではあるまいかと云ふことを恐るゝのであります。

之れと、も一つ同じ傾きであります。夫れは着実と云ふこと。一昨年、の詔勅に、華を去り実就く、と云ふお詞がござりましたが、之れと反対に生意氣、傲慢と云ふことは自分の品性を傷つけるのみならず、將に発達せんとする処の女子教育を妨げるものである。我が校の校風は真面目と云ふことであると云ふことは、創立の始めから申して居ることで、取り立て今年の方針とする処のものではない。併し此の、着実と云ふことから用心深くなるのであるけれども、此の学校が生意氣であるとか、はいからであるとか言はるゝことは、も少し他に原因があるのであります。無論目に立たぬよ一に、突飛なことをせぬよ一に充分注意はして居りますが、其の着実と云ふことから用心深くなり、最早や風俗、習慣にあてはまって仕舞ひまして、溜り水のよ一に、曇り日和のよ一になってしまったと云ふことならば、余程考へて見ねばならぬ。

併し之れは驚く程のものでもない。此の学校の始まつた時からある潮流である。否、世界開闢の昔から始終、相戦ふて容れない所の二大潮流であつて、世界各国、何れの歴史でも那一云ふ潮流が負毎にあるのであります。近くは我國の潮流を見てもよくわかるのです。殊に御一新の際の如き、私の國、長州などでははつきりと別れて居つて、小供ながらも覚えて居ります。其の一を俗論と言ふ。之れは保守論で、易きにつかうと云ふ論で、其処に頑固論も加はつて、世界の大勢には一向目もかけぬもの。他の一を正義論と言ひ、之れは進歩主義でありまして、世界の大勢をよく洞察した考へであります。此の二つの傾向が相分れて内乱となつたのです。段々其れが大きくなって御一新、討幕となり、明治維新となつたのである。夫れから今日に至る迄、其の二つの傾向、保守論と進歩主義とが相戦ふて、始終上り下りがあつたけれども、今日迄少しも其の二つの流れは相互に譲らない、調和しないのであります。

併し乍ら我が國の一般から言へば、大勢を見た方の考へが少しづつ勝利を得て居ると言はれまじやう。我々の仲間の方にも学校の間にも、やはり二つの主義があり、傾向があつて、全く負けもせず、全く勝ちもせず、上り下りをして今日に互つて居るのであります。之れは、あなた方の心にいろいろな迷ひを生ずる原因であります。

[Insight]

夫れで我々の間にも、時勢の中にも、那一云ふ二つの傾きがあつて、相戦ふて居る。那一云ふことのわかる人を稱して、Insight のある人、即ち卓見家と言ふ。那一云ふ卓見のある人であつて始めて自分のこともわかる。社会の Insight のある人で始めて正当の判断をすることも出来るのであります。私は日夜に、此の学校のことを考へて居る。其の日夜に考へて居る私にさへも、其の事を見るのは困難なことでもあります。

もしもかゝるものがあるならば、命に代へて防がなければならぬ。又之れが出来ねば、此の大学は形体である。生命のないものである。我々は三十年間、夫れを育てやうとして苦心をして来た。命にもかへることの出来ないものである。故に、どんなことがあつても看過することは出来ない。我々は人を敵としない。あなた方は皆、兄弟姉妹である。日夜に心配をして居るけれども、其の命に遠ざかつて居る我が儘は、どんなことがあつても許すことは出来ない。夫れで省みてもらひたい。あなた方はどちらの軍に属して居るか。賊軍であるか、官軍であるか。改善主義であるか、保守党であるか。ほんといに全体を考へて其の真相を看破し、もし以て非なる行ひをして居るならば、之れを許しておくことは出来ない。之れが、今日我々が深く考へて見ねばならぬことである。或は負けはしない、降参はしないかも知れないけれども、敵の力と味方の力と相平均して、どちらも停滞して居りはしないか、自分たちはど一云ふ傾向に居るかと言ふことをよく考へて、其の真相をほんといに看破しなければならぬ。又あなた方は九年間、我々が育て養ひ、日夜渴望して居る処の彼岸に近付いたでありまじやうか、益々其の方に進んで居るでありまじやうか。否、横道の方に迷ひかけたではあるまいか、

深く考へて見ねばならぬ。其の真相が如何なるものであろ一か、我々の組織して居る団体は如何なるものであろ一か、又全体は如何に活動して居るであろ一か、深く考へて見る必要であります。故に、私が今日皆さんに切望することは、打ち明けると云ふことである。ほんといに其の実際を見出して、之れが改善すべき点はどこ改めて行くと云ふことをせねばならぬ。私は便宜の爲めに、あなた方にお尋ねしたのであるが、先づ第一に私は、此の中に二つの相反した傾向のあるものと仮定する。

此の二つが相容れないのである。意志とか自制とか云ふことは、此の二つをよく調和して、よい方を勝たしめることであります。個人の中にも、此の二つの傾向があるからして、団体の中にも必ず之れがあるのです。一を正義論と言ひ、一を俗論と言ふ。又、一を改善主義と言ひ、一を保守論と言ふ。又、此の学校でよく言ふ、個人主義と全体主義と言ふ。或は、一を動的と言ひ、一を静的と言ふ。又学問をしても、一は形式に流るゝものと、一は生命に重きを置くものとする。又、一を精神主義と言ひ、一を物質主義とする。

之れは皆さんも、よくわかるでしょー。我が国がそーである。学問をする学生の目的は物質である。其の学問をさせる父兄の考へは、一に月給である。國家を思ふとか、世界の爲め、人道の爲めとか云ふことは、誠に疎儀論として顧みない。之れが我國の外国から排斥せらるる所以である。只金は儲けに來るけれども、宗教的、道徳的の品性を備へない、と云ふことが世界の人から嫌はれる原因である。之れを改めることが出來ないならば、猶太人や支那人などの如く、我が国が世界の文明國と相並んで行くことが出來なくなるであろ一。無論、学問をすると云ふことは骨の折れることである。修養をすると云ふことも余程力を要することである。けれども偏した処の個人主義に陥って居るならば、其の人は到底進歩することは出來ない。其の人は何かに束縛せられて居るに相違ない。けれども此に、ど一しても二つの傾向があるのであります。こ一云ふことは抽象的のよ一であるが、今此の学校で言ふことは、ど一云ふことを意味するのであろ一か。銘々の経験に徴して見ると、果して自分はどちらの潮流に属して居るかがわかりましょー。

併し、あなたの態度と云ひ、又替いたもの、口に発する処の詞と云ふものは、反抗して居るよ一には見えないけれども、夫れは未だ形式であつて、今何処に軍をして居るか、目前に現れて居る処の活問題について熱心に研究して居る、動いて居るとは見えないのである。之れが疑ひのある処、はっきりしない処であります。今の戦には休んで居るか、或は二心を懐いて居るのであるか、又は空想界に入って一向効力のない学問をして居るか。今皆さんは一体ど一云ふ立ち場に居るかと云ふことを、お考へにならねばならぬ。

〔背水の陣〕

そこで今日は、自ら考へ、自ら判断すると云ふことが大切である。先づ第一に夫れがはっきりとして後に、之れを如何にすべきかと云ふことがわかるのである。故に何時迄も曖昧であることは許さない。ど一しても今年はそこ迄達しよ一と

云ふので、背水の陣を張った。其の爲めに目的と云ふことも深く考へ、冒険と云ふ様なことも、我々は随分致したのであります。夫れで一寸尋ねましょー。

- ・ 乙の方に傾いて居ると思ふものは …… なし
- ・ 甲の方に傾いて居ると思ふものは …… なし
- ・ 大勢はやはりよい方に傾いて居ると思ふものは…大多数
- ・ そ一は思へないものは …… 少数
- ・ 意志薄弱の爲めに勝ったり負けたりして、どちらともつかぬと思ふものは …… 稍多
- ・ 二つの勢力が平均して、どちらへも行きかねて居ると考へるものは …… 多数

夫れでは、ど一でありましょー。私は今、そ一云ふことを疑問として、あなた方にあからさまに訴へて見たのであります。又反省を促したのであります。あなた方、自分にはど一お考へになるでありましょーか。今日は全力を注いで目的に向つて居る。校風も今我々が望んで居る処に向つて進みつゝある、と言ふことが出來ましょーか、ど一でありましょー。未だど一も力が弱い。従つて全体の空氣も充分に動いて居らんよ一である。ど一も現状に満足することは出來ぬと思はれますでしょーか、ど一でしょー。そして此の学年に立てた処の計画は成就せられたでありましょーか。此の学年に展ぶべきものは發達を遂げたでありましょーか。又今年の特徴は發揮せられたでありましょーか、如何でしょー。無論出來たと言つても充分と言ふことは出來ますまいが、あなた方のお働きになつたことに相当した結果が得られたならば、我々は夫れを以て満足しなければならぬ。けれども未だ我々の立てた目的、彼岸は遙かであつて、到底達せられなかつたと言ふべきであろ一か。

- ・ 先づ出來たと思ふ者は …… なし
- ・ 未だ、ど一しても足らん処がある。之れではならぬと思ふから、残る処は短日月であつても出来るだけ改めて、進まんければならぬと思ふお方は …… 全体

此原因には種々あると思ふ。其の原因はあなた方へののみ負はせることは出來ません。今年のあなた方の四圍の境遇は、随分六かしいものであつた。夫れは私もよく察しがつくのである。故に銘々内の原因もあろ一。学校全体として、協同的に我々が負ふべき処の責任もあろ一と思ふ。夫れで極公平に考へて、其の原因を探り出し、其の本を改めねばならぬ。

私共は、外から來る原因は一朝にしてかへることが出來ない。夫れには、ど一しても戦はねばならぬ。長い間の働きに由つて勝つと云ふこともせねばならぬが、之れは今日申しません。先づ我々は、銘々の内を考へねばならぬ。私は夫れについて、察しがつかないでもない。いろいろ考へて居りますが、あなた方自身に夫れを發見なさるよ一に致したいのである。又、今日の空氣がも一一つ動くべきであるのに、停滞して居るよ一に見えますが、夫れはど一云ふ原因であろ一か。其の本を考へねばならぬ。夫について、お氣付きになつた方は ……

- ・ 犠牲的精神の欠乏（個人主義と社会主義との一致の出來ぬこと、徳の不足） …… 大多数

- ・意志薄弱…………多数
- ・精力集中の不充分…………多数
- ・先見の明の不足（無知）…………多数
- ・向上心の薄弱（信仰の薄弱）…………稍多
- ・勉強方の誤謬…………少数

茲にお挙げになりましたものは、やはり皆さんに、確にどれも大切なものに違ひない。又其処に不足をお感じになることが必ずあると思ふ。之れは沢山おあげになったけれども、一つに帰することも出来ますし、又、も少し分類することも出来ます。実は私は、之れについていろいろ申したいことがあります。けれども最早や時が参りまして、お客も四時半には来られる筈であるから、今日は之れでおきますが、も一時はないのである。三年生の終りを告げると云ふことも間もないことであるから、皆さん深くお考へになって、気のついた処から改めることを決行して戴きたい。猶ほ銘々の欠点は此にあると云ふ内容を見出だして、之れを如何にすればよろしいかと云ふ自分の案を立てるよ一にして貰ひたいのです。例へば終ひに仰つた勉強法の間違ひなど云ふことは、誠に大切な問題である。間違ひとは何処が間違つて居るのであるかと云ふことをよく調べて、其の改善の方法を見出だし、之れを全体に伝へて、余程有効な仕方をおとりにならないと目的が達せられませんのです。之れが、今日の制度の毎日毎日改まって行く所以である。故に皆さんが気付いたならば、此の目の前の問題をとって深く考へて、其の考へがきまつたならば決心をして、直ちに行つて行くことが必要であります。

犠牲の精神の培養と云ふことも大切であるが、夫れを客観に見て、此の学生生活を如何にすべきかと云ふよ一なことも考へて欲しいのである。猶ほ他にも、いろいろ申したいことがあります、之れは次に致しましよ一。

[中表紙]

大学部一年に於ける御話

明治四十三年三月五日

明治四十三年三月五日

第一学年に於て

私は、あなた方の今度の論文につきましては、よく出来ましたと言ふて賞賛の辞をあげるつもりでもない。又いけなひと言つて、あなた方の反省を促すつもりでもない。黙する考へであると申しました。そ一すると大体の批評をする時に、類別をしなければならぬ。自分は善い組に入ったか、悪い組に入ったかと云ふことを意識することも必要である。故に、批評することも謹まねばならぬ。又自ら省みることも、余程注意しなければならぬ。

あなた方の此の学校へお入りになる前の事を書いてあるのに、子供の時少し物覚えがよい、よく出来ると云ふことを先生から褒められたことがある。此の褒め詞と云ふものが、如

何に自分の発達を妨げたかも知れぬと云ふことがある。又、少しも人を思はない、友達を押しつけて置いても優等生になりたいと云ふ競争心から、自分の品性を傷つけたと云ふことがある。之は子供にとって注意すべき点であるのみならず、大人にとつても非常な誘惑となることがある。学級としても、個人としても、此の大学に於ても、私は度々そ一云ふ経験を致して居るのであります。又、幼少の時から種々の友達を持って居りまして、少し物が出来かけて来た、之は将来発達するであろうと言はるゝ様な人達が、つひ誤ると傲慢になって、出来損ふことが沢山あります。

も一一つ反対に、よくないと云ふこと、例へば此のお書きになった中に感心なものがある、又幾らか拙いものがあると申すならば、無論沢山なものの中であるから巧拙はあるのであるけれども、自分は其の弱い方に属すると考へるならば、よく出来る人を悪く思つたりする人もあるが、御婦人であると大抵自分つまらぬものであるとして、大体について迄も疑ひ始めて、自分は将来価値ある生涯を送られるかど一かと云ふこと迄も疑つて来る。そ一すると全く力を失つて、人をも自らをも害することになる。故に余程謹まねばならぬことあります。そ一云ふ人は自分の欠点ばかり見て、人の善い所と比べて失望し、誇る人は自分のよい所ばかりを見て、人の欠点と比べて自分は大分えらい者であるとする様になります。

夫れで自分と人とを比較することは、高慢な人が卑屈な人かにあるのですけれども、我々はほんと一に人と我れとを比べて、真の輕重を計ることは困難である。何とならば、人格と云ふ様なものは総体から出来て居るものであるから。併し、自分の真価を相当に認めると云ふことは大切であります。自分は自分だけの価値があり、人格があるのであるから、人の長所を見る時は、自分の欠点を補ふ様にすれば之れはよい事ですが、兎角人間は弱いものである為に、一步誤ると出来損ひとなるのである。其の人の価値、其の人の威厳と云ふ者は自から外から加はるものであるから、自ら誇るると云ふことは甚だ宜しくない。殊に婦人としては自分の専門の事が少し計りよく出来るからと云つて、夫れを鼻にかけて他の事は少しも出来ぬと云ふ様なことは、あれではど一もならぬと云つて最も人の嫌ふ所であります。今私は、あなた方にそ一云ふ気味があると言ふのではない。も一、そ一なつてから、幾ら忠告しても無益である。

あなた方は今は誠に無邪気である。謙遜である。けれども二年になると、何だか年をとつた様になる。日本の婦人は二十才になると、も一としよりの様になりますが、之は宜しくないものであるから、覆轍をふまぬ様にと申すのであります。夫れで人と比べるのは宜しくない。今日の我れと明日の我れと、どれだけ進歩することが出来たかと云ふことを計らねばならぬ。其の進みがなければ、之は大に心配せねばなりません。けれども成るべく人に勝ちたい、人を妨げても優らうと云ふ様な考へは卑屈である。又組の中で或ることに少し優れた人がある。そ一すると、其の人の徳なり力なりに由つて、確に組なり銘々なりがよくなる。夫れで其の人の進むことを厭ふと云ふ必要はない。其の人は其の長所を進めて行き、自

分は自分の長所を進めて行けばよい。故に、卑屈なる中傷などをすることは不必要であります。

又あなた方の頃には動もすると、自分の組をえらいものと思ひ易い。自分達の働きを二年又は三年に比べて、或る事については我々の組が余程よく出来ると考へたり、或は先輩の穴探しを始める。こゝ云ふことをすると甚だ醜くゝなるばかりではなく、其の組も、其の人も決して進歩は出来ないであります。夫れで私は、こゝ云ふことが今よくわかつておこなれば、あなた方の卒業迄には随分立派な組が出来てある一と思つて、大に望みを属するのであります。

此の間、私は二つの傾きを名づけて、甲と乙に分けました。あなた方の全力を尽して進まうとして居る態度は、何時も積極的であらうかど一か。之を甲と言ひます。其の意味で甲であらうか、乙であらうか。

- ・ 甲に属すると思ふ方は …… 稍多数
 - ・ 乙であると云ふ感じを持つ人は …… なし
- 然らば、両方の傾きを持って居るけれども、
- ・ 自分は何時も積極的傾向が勝利を占めつゝあると思ふ者は …… 大多数
 - ・ 其の反対であると思ふものは …… 少数

今迄三年と一緒に致して参りましたが、夫れではあまり六かし過ぎると云ふことならば、あなた方ばかり別にすることが出来ないでもありませんが、又一方から考へると、も一直接きに二年にもなることであるから、一緒にでもよいと云ふ考へもあらうかと考へますが、

- ・ 六かし過ぎて困ると云ふ感じのする方は …… なし
 - ・ 一緒にでもよいと云ふ考への方は …… 大多数
- 夫れではやはり、そゝ云ふことに致しましよ。

[中表紙]

大学部全体之御話
明治四十三年三月九日

〔注：複写された他の綴りの当該箇所には、
Refined Egoism と赤字で加筆されている〕

明治四十三年三月九日
大学部全体

第七回生と母校内で直接学生々活を営むことは、最早や僅かに一ヶ月を残すのみになりましたので、前途を思ふならばいろいろ心配になることも数多ありまして、此の前の水曜日に、或はど一であらうかと疑ひもないのではなかつたのですが、私の感じて居る儘をあなた方に御注意致しました。然るに爾來、大に反省、熟慮なさつて、大に態度の改まった点、又引きつゞき引き締つた処が現れましたので、大体については誠に喜んで居ります。又第二年生、一年生も等しく深くお考へになつて、此の際、大に決心して、第七回生のあとを継承する、受け継がうと云ふ態度をお拵へになつたことは、深く

喜ぶ処であります。

実は、此の前に皆さんの足らん処を指摘して、大に反省を促しましたが、併し其の晩、大に同情に堪へん様な感じも致しました。又其の次の晩には、随分其の原因等を考へまして、只第七回生だけを責めると云ふことは、氣の毒なよゝな感じも致しました。夫れで此の上猶ほ、あなた方の現状を批評致す、そゝして此の短日月に迫つて居る処に持つて来て、も一一つ重い責任を担はせる、此の以上の働きをあなた方に要求すると云ふことは、大に躊躇致しました。併し第七回生の前途を思ふならば、之を継承する処の第八回生、及び第九回生の為めを思ふならば、ど一致しても私は茲に姑息なる処置を取る可きでない。ど一致しても根本の仕方を取らんければならぬと考へまして、必要止むを得ず、も一度あなた方に反省を促したい。も一充分お考へになつた。殊に第七回生は出来るだけ深く反省、熟慮して居る。夫れを續けて、も一一つ深い処に達する迄やめぬと云ふ決心であると云ふことである。又第八回生、第九回生に致しても、決して浮いた処があると云ふ心配はない。併し私は学校全体に向つて、此の際は、も一層深くあなた方がお考へになること、も一層全体を支配し、統一するよゝになさることが必要であると思ふ。故に私は、あなた方の疑問としておいでになる点を、も一層深く説明しておくのである。今猶ほ解決のつかない部分をも一層強く申して、最終の決心を促したいと思ふのである。今日、少し心配になる傾向を生じたと云ふ原因について、各級から或は銘々から意見を纏めてお出しになりましたので、略ぼ察知することが出来ます。併しあなた方自身であまり気付かなかつた点があるかと思ふ。併し、ど一云ふ訳で気付かなかつたかと云ふと、其の訳はさ程六つかしいことではないのである。

[Refined egoism]

之れを私は、上品な自負心 Refined egoism、奇麗な利己心、不知不識の間に、即ち只今の校風の Subconsciousness の中に、無論幾分の遺傳的傾向も持つて居つたであらうが、不知不識の間に何処からか、そゝ云ふ觀念を傾きの中に与へたものがあるかと思ふ。併し其の弊害は誠に品よく出来て居る、表面甚だ奇麗に出来て居る自負心であり、利己心である。夫れで余り其処に気付く人がなかつたのです。七回生自らも殆んど誰れも気付く人がなかつた。私も知らなかつたのであるけれども、此の萌しは此の学年の当初に於て既に己にあつたのである。けれども誰れも気付く人がなかつたのです。

然るに此の前の水曜日の前日であつたかと思ふ。私が七回生の一人のお方を話をして居りました。其の中に一つの詞があつた。其の僅かなるしるしに由つて、私は成る程こゝである、今迄発展の出来なかつた原因は是れであると気付いたのである。併し之れは見当違ひであるかも知れぬと云ふ疑心を以て居るにも拘らず、私はあなた方に向つて手厳しい御注意をしたのでありますが、案の如く之れは現実である。其の程度は始めに推量した程のものではなかつた。けれども事実であると云ふことがわかつたのである。

夫れは今年の三年生は、第六回生を批評したのみならず、

其の以上の先輩を批評的に見て、今日迄欠点であった処を我々に由って改めると云ふことを、此の学年に於て決心なされたことと云ふことであります。之れは誠によいことです。併し其の態度が上品なる自負心であった。誠に之れは詞が強過ぎるかも知れぬが、少しく傲慢である。不遜である。是れ迄の人は余り働きすぎた。共同的に働き過ぎた。我々はどしても個人的にならねばならぬと云ふことである。故に私は之れを Refined egoism と言ふ。即ち教育せられた自負心、利己心と云ふのである。其の弊は第二年生に移って、第七回生の欠点はこゝである。我々に由って之れを改善しなければならぬと云ふよなことである。之れも誠に表面は美はしいけれども、少しく傲慢なことであるから、私は代表者にお目にかゝって御注意を致しました。そして此の前の土曜日に一年生に対して、そ一云ふ心配はないかと云ふことを尋ねました。けれどもそ一云ふ者は一人もないと云ふことである。併し御婦人の欠点として、人と我れとを比較して自分は余りつまらないものであるとして、元気を失ふよなことはないかと尋ねたれば、其の方に手を挙げた人は沢山あったのです。其の他相半ばする者もあってよくわかりませんが、併し今年、第七回生に斯くの如き傾きが起つたと云ふことを考へれば、夫れはあなた方計りの誤りではない。其の責任は私自ら負はねばならぬ。何とならば、私はそ一云ふ弱点を挙げて、そ一云ふ風をおだてる積りはない。夫れを、少し詞が足りない、説明が不充分であった為めに、とり損つたかと思ふ。私は一所に止まることを許さない。個人の命も、団体の命も、一刻も止まって居てはならぬ。時々刻々、改善進歩しなければならぬと云ふ主義である。故に個人としても、組としても、亦学校としても、一日たりとも同じ所に固定してはならぬ、現状に安んじてはならないと云ふことを奨励致しました。其の詞に、今年は昨年よりも進まねばならぬ。猶ほ先輩の足りない所は是れからあなた方が補ふのであると云ふことを度々申した。其の詞は、私も記憶して居るのです。

然るに、第三年と云ふ Senior になると、責任が重くなる。自分の仕事が増えて来る。全校の眼が悉く批評的に其処に集まって来る。今迄、理想して居た、考へて居たよ一に、そ一易くは物が運ばない。之れが、毎年上級生が下級の生徒から批評的に見られる。そ一して幾らか其の欠点をつかまへられる。其の不充分な点を見らるゝことになるであらうと考へるのであります。其の傾向が、今年は殊に著しかったのではないか。お互に先輩の欠点を大探しすると云ふ風が出来たではないか。併し其の仕方が、誠に上品に出来た。其の内容として、自負心の中に自的本能も少し旺盛を極めたてはあるまいかと考へる。私は仮令、先輩であらう一が又我が長者であらう一が、其の欠点も併せ呑むと云ふこと、其の人の欠点をも併せ受けることは、善いとは言はない。若い者が必ず改めねばならぬ。若い者が必ず補ふて進まねばならぬ。其の主義には決して間違ひはない。併し乍ら、其の弊を直さうと思ふて、先輩が数年間骨を折つて努力奮闘して培養致した長所迄も傷つけるよなことをし、先輩の弱点、短所をのみ探して、其の特徴、善性を少しも認めない。其の結果、やはり此の先

輩を余り尊敬しない。女子の事だから、決してわかる様に不敬なことはないけれども、わからぬ所に於てそ一云ふ態度があり、心の中に於て輕侮の念があつてはならぬ。孰れ人間は長所をも持つて居るが、短所もある。善く物の出来ることもあるが、仕損ひをすることもある。其の長所を認めて尊敬し、ど一か相助けて全体の発展を計ると云ふよ一でなければなるまいと思ふ。そ一云ふ主義を以て居るのである。然るに今年は不知不識の間に、斯くの如き傾向を拵へたてではあるまいかと考へる。未だ多分、そ一云ふ点があつた、確にそ一云ふ傾きを作つたと云ふことは、自識しない人があろ一と思ふ。夫れだから私は、上品なと申す。未だ Subconsciousness の中に隠れて居るから、根底を改めることが大切である。故に、之を言ふのである。表面に現れて居るならば、さ程危険なものではない。けれども隠れて居るのは非常に恐る可きことで、獅子身中の虫とも言ふべきものである。母校が九年間養ひ来つたものを破さうと云ふよなものとなつてはならぬから、其の原因を改めて、根治しよ一と云ふのである。私は今日迄、斯くの如き消極の欠点は申さなかつたのである。今後もそ一致しますけれども、今度は誰れも気付かないのである。故に、之れは一言申さねばならぬと思ふのです。

何故に私が之れを言ふか。第一に私は、今日の我が日本帝国の危機である。之には深い原因があると云ふこと、今母校の担ふて居る責任の重いこと、今年の此の全校の傾向の非常に大切だと云ふことを、御注意致しておきます。

夫れから今年と明年に於て、母校の十年の結果を挙げねばならぬ。内容を充分に充実しておかねばならぬ。之れには先づ過去九年間の経験を参考として、将来の計画を立てねばならぬ。故に此の一年間は、我々が十年計画で起草致しました大論文の結論をつけねばならないのである。之れは皆で共同しなければならぬと云ふことを度々申しました。然るに果して、あなた方の論文に其の結論が与へられたかど一か。協同一致して此のことに勉めたのであるかど一か。又あなた方は先輩の欠点を補ひ、其の弊を直さうとならば、第一にあなた方は、如何に先輩は苦心したものであるかと云ふことを研究しなければならぬ。然るに、私には見出だすことが出来ないのである。何事でも一つの完全を期するならば、一つのことを仕上げよ一とならば、必ず之れに伴ふ弊害もある。故にど一かして其れを直さうと云ふ考へがなければならぬ。然るに九年間の経験を調べ、広く考へを繞らして将来の発展を計つたものであるとは思へない。ど一かして教育の根本を改めよ一として、未だ幼稚なる時に非習俗的に、世間の攻撃、批難の最も盛んな時に努力、奮闘して作つた此の校風を、あなた方は茲にど一かして發揮する価値はないのでありましょ一か。

あなた方は其処に余り気がついて居らぬかと思ふたのであります。之れが私の、そ一ではあるまいか、そ一云ふ欠点に陥つたのではあるまいかと云ふ疑ひを起した所以であります。猶ほ其の他に、深く考へを進めて行かねばならぬ。若し夫れが私の見違ひであつて、夫れは先生の杞憂であると云ふ御返事を聞かざらば、私は実に喜ぶのであります。成る可く卑近な処から始めて見たいのです。併し之れは、直接私の耳に聞

こえたことではない。間接に得た処の材料に由って推察した
ことであるから、或は違ふかも知れませんが、あなた方の考
へでは第一に、我が先輩達が母校の爲めに身を忘れたのは感
心である。あれ丈の信仰を築いた熱心は敬服である。併し
惜しいことには実力が伴はないと云ふこと。之れだけでは、
あなた方が幾らか批評をなさつたと云ふことを間接に聞く
のである。其の理想と現実とが直ちに一つになるものではない
と云ふことは、も一わかり切つたことである。そこであなた
方思ふに、先輩は余りに理想、目的を確立する精神を養ふと
云ふことに骨を折つたけれども、夫れに伴ふ腕を持たない。
之れが世の中に出た後に充分力の発揮しない所以である。故
に我々は力をつけることが必要である。其の力をつける爲め
に勉強をしなければならぬと云ふことであるが、あなた方の
先輩は果して勉強をしなかつたであらうか。ほんとの意味
で言ふ処の力を持たないであらうか。無論未だ不十分な処は
沢山あります。併し目的、理想を立てず、信仰、熱心を持た
ずして、只働くことが出来ましょか。あなた方の先輩があ
れだけの熱心、希望を持って出ですらも、猶社会の圧迫に堪
へ得ない者が随分あるが、あなた方は何等の信仰、希望なく
して只資格をとり、只試験的、暗記的の学問をして、夫れで力
がつくであらうか。之れは問題であります。

[百を望んで一を取る]

多くの人の経験に、百を望んで一を取ると云ふことがあり
ます。然るにあなた方は、百を望んで一を取ると云ふことは
余り空想である。故に我々は一を望んで一を得る。我々の計
画は一日の計画を立て、今日夫れを成し遂げる。極端にな
ると、其処になる。我々は向ふを見ずに、正しき方向に進ま
れるであらうか。我々は天を望まずに、上を見ずに、自分の
人格を高めることが出来るであらうか。夫れは疑問である。
之れが、私の忠告を試みた一つの理由である。

も一つは、あなた方思ふに、高等教育を受けた処の我々
の先輩、桜楓会に働いて居る人々は、其の力は果して如何な
る程度にあるであらうか。そ一して其の得る処、幾何と云ふ
ことを考へたであらう。

世間は、其の人の給料、其の人の肩書きを以て価値をきめ
るのである。高等師範を出ると直ぐ資格を得るが、女子大学
を卒へた所で教員の口を得るにた易くはない。之れが世間で
言ふ口調である。若しも不知不識の間に力がないと言つたの
は、こ一云ふ処からであるまいか。品性とか校風とか云ふ、
そんな疎いことは言はんでもよい。卒業して検定試験でも受
けるならば、すすつと通るよ一な勉強をしておけばよい。之
れが世間の考へである。

併し我が国の今日、所謂力のある人は、ど一であらうか。
位は山のよ一に高い肩書きは幾らもあるのです。併し其の富
みは何であるか。我が国で名高い人達の知識は、今我国の社
会で有力な人の興味は、何でありましょ一。酒でありましょ
一か。相場でありましょ一か。果してこ一云ふ運動が行はれ
て居るでありましょ一か。斯う云ふ國風で、我が日本の運命
は維持して行くことが出来よ一か。今 Chicago ではど一云ふ
運動が行はれて居るか。列強の關係はど一なつて居るか。之

れは實際問題である。あちらで教育をして居る教育家の考へ、
又其の教育家を生む処の母たる者の考へは、ど一でありまし
よ一か。

あなた方は、桜楓会員が第一に自分の月給報酬と云ふこと
は思はないと云ふ考へ、即ち会の爲めに、皇国の爲めと云ふ
動機を以て、自分の給料と云ふよ一なことは考へずして、先
づ第一に人となるべき教育、一つの立派なる校風を作ると云
ふよ一にせねばならぬと云ふ主義を以てして居られる。私は、
卒業生が何時迄もそ一云ふ境遇にあることを喜ぶのではない。
けれども創業の際、国難の場合には、そ一云ふことは止むを
得ないのである。そ一云ふ熱心なくして本気になると云ふ婦
人が何処に見出だされましょうか。此の間の国民新聞に、露
国の或る婦人が九万ルーブルを教育事業に抛つ。其の中の
一万五千ルーブルを東京の女子大学に寄附すると云ふことを遺
言して死んだと云ふことが、掲げられて居る。併し其の名は
匿して顯はさないと云ふことである。未だ其の後、何等の報
知に接しませんけれども、Russia に於てもそ一云ふ婦人があ
るのである。物質主義を以て立つて居る処の America に於て
も、彼の Carnegie の如きは六億、Rockefeller は五億に近き
大金を抛つて、教育の爲めに尽して居るのではありませんか。
之れは、一、二の例ではあるが、西洋の婦人達はど一云ふ動機
で婦人の教育を受けて居るでありましょ一か。ど一云ふ考へ
で我が家庭の爲めに働いて居るでありましょ一か。我が母校
の卒業生に近くのことでは申しませんが、外国に行つて居る者
は一ヶ月に百五十円からの月給を取つて居る者もござります。

又外国で我が卒業生の一番多く集まつて居る処は紐育であ
りますが、紐育で支部会を開いた時に会した者は七人であつ
たさうです。身は仮令外国にあつても、此の母校の精神、其
の主義に由つて生きて居る人はど一であるか。実に紐育で皆
が感心して居る。其の爲めに有力な賛成者が出来たと云ふこ
とである。けれども其の中に、七人の中ではありますが、母
校に居る中からど一も此の主義に化せらるゝことの出来なかつ
た者がある。夫れは一時一寸物が出来るよ一である、力が
見えるよ一であるけれども、も一今日は何の力もないのであ
る。あなた方はずっと卒業生全体を見渡して見るが宜しい。
母校の精神を失はない人で迷ふて居る、失敗をして居る、人
から悪く言はれて居ると云ふ人があつたならば、聞かして下
さい。どちらの人間が役に立つか、どちらの人間が成功して
居るか、よく考へて御覧なさい。

之れが一番最初から私が恐れた所以です。ど一して私は男
でありながら、女子教育に身を委ねたのであるか。私は子供
の時から長州の先輩の人々と同じよ一に、此の身体は國家の
爲めに捧げると云ふ決心をして國を出ました。併しど一しても
教育の根本から改めねばならぬと一番深く感じたのは、師
範学校に入った時であります。地位の爲めに、名誉の爲めに、
月給の爲めに教育する人はあるけれども、徳を以て、精神を
以て、不知不識の間に薫化して行くと云ふ人は、誠に乏しい。
独り教育家のみならず、高等教育を受くる者にも、誠に乏し
いのである。ど一したら夫れが出来るか、ど一しても其の教
育を起さねばならぬと考へたからであります。

皆さんの先輩は実に生みの苦しみを、此の理想に近い者を作るために、之れを養ふために、誠に必要なる資格をも抛ったのである。私の聞く所に由れば、本校の第一回卒業生の如きは同盟して、我々は一検定試験などは受けぬと云ふ決心をしたと云ふことである。此の学校でも無試験検定で資格を得よと思ふならば、得らるゝ時はあつたのである。けれども夫れよりも大切なことの為に、我々は取らなかつたのである。若しも世俗的に此の学校を拵へたならば、何も六つかしいことはない。然るに何故之れを抛ったかと云ふことは、あなた方が調べねばならぬ。然るにそ一云ふ名利と云ふ、安楽と云ふ空気は、不知不識の間に潜在意識に入るのである。其の原因をお調べになつて、此に大に目を醒ますと云ふことが刻下の急務であります。又我々の主義は決して速成、又は成功を急ぐと云ふよ一なものではない。世の検定試験と云ふよ一なものにあてはまるものが、ど一かそ一云ふことには余り重きをおかない。夫れもあてはまれば結構であるけれども、夫れよりも大切なことを忘れてはならぬ。

こ一云ふことから、あなた方の迷ひを生じたのではあるまいか。之れが間違つて居るならば、誠に幸福である。若しも私の申すことが違ふならば、腹藏なく仰つて宜しいのであります。

[着実]

夫れから今年はこの間も申したよ一に、着実と云ふことである。此の着実と云ふ点について、果して七回生は先輩に優れて居るかど一か、よくお調べになることが必要である。何故にあなた方の先輩は着実を欠いたのであるか。あなた方は先輩よりもどれだけ優つて着実であるか。成る程、先輩には全校を振り動かす時があつたのである。之れを高潮の時機と言ふ。英語の Climax の時である。之れをさして着実でない、浮いて居ると言ふのであ一か。第一回生は桜楓会を組み立てたのである。之れを組み立てるよ一な精神が発揮したのである。之れを或る新聞は宗教の Revival の如きものであると云ふ評をなし、学生自らも精神の復活であると云ふよ一に感じたのである。こ一云ふことは我々の宗教、我々の教義に不必要なものであ一か。私は此の前も申したのである。人間は只だ機械のよ一なものではない。只だ化学的作用ではない。深い根底を持つて居る。其の人間を高めると云ふことが如何に六かしいものであるか。崖を上る、高きに登ると云ふことは一生懸命にしなければならぬけれども、下に落ちると云ふことは瞬間にすることが出来る。之れと同じよ一に、あなた方の理想を進める、人格を高めることは実に容易ではないけれども、俗にする、下劣にする、所謂世間の風潮に化せしむると云ふことは、立ち所に出来るのである。然るに母校が今日迄に至つたことを、あなた方は何の苦もなく出来ると思ひましょ一が、此処迄に進めるためには創立以来九年を要したのである。けれども之れを退歩せしむることは、忽ちに出来る。人生は坂に車を押す如きものである。之れだけに苦心して居る。之れだけ骨を折つて育てゝ居る。夫れが高等教育を受けた者の力、信仰にあらずして何でありましょ一か。

[ラスキン曰く]

Ruskin の言つたよ一に、我々の生涯は、朝は一生の始めである。夜は一生の終りである。此の小さい生涯を完全に、充分に発現して、始めて大きい生涯が出来ると云ふよ一なことを申して居ります。

其の通りである。一日は我々の小き生涯である。然らば学校生活は我々の生涯である。然らば其の一生涯に一度は、高潮に達せねばならぬ時がなければならぬ。之れに達する程の経験をせず、其処に達せられましょ一か。之れは只だ熱心、只だ感情で出来るものではない。私は只之れを合理的 Enthusiasm と言ふ。無論、其の中には感情もあるけれども、感情を除いて印象することが出来るかど一であるか。

其の真面目を欠いて、何の感ずる処もない、人を益することもないよ一な会ならば、やめるがよろしい。夫れこそ、ほんとの時間つぶしである。係でも、ほんとの熱心があつて、協同的に働きをする、実果を挙げると云ふ考へがあるならば、おくが宜しい。然らざれば、やめた方がよいのです。此の中の会がいらぬなら、会をやめて了うが宜しい。そ一云ふ自動的の組織をせず、ほんとの教育が出来るものではない。此の会、此の係が是れだけ有力なものとなるにも、どれだけ歴史を持つて居るか知れない。そ一云ふ歴史を作つた処の先輩の働き、こ一云ふことが先輩は不真面目であつた、只だ騒いだのである。我々は物を言はない、夫れが着実でありましょ一か。或は先輩に不完全な処が多かつた。やり損ひが随分あつた。之れを以て、着実でなかつたであ一か。私は此の間、何方かに申した。やり損ひをしなかつた、一度も人から注意せられたことがないと云ふ人、只だ用心をして居つて、夫れだけでよい。本校が始めから石橋を叩くよ一にして来たに違ひはないけれども、他に道はないのである。其処に必要なならば、ほんとの我々が其のことを為すべきであるならば、断然意を決して事に當る可きである。私、此の間、感心致しました。伊国大使の奥さんが女ながらも、こ一云ふことを言つて居つた。欧羅巴は過去の国である。歴史の国であるが、America は将来の国である、と。其の意味は、欧羅巴は年寄りの国であるが、America は青年の国であると云ふことである。America の如き青年の国は、度々不平均を来すことがある。近くは実業界のことにしても、此の百年間に幾度 Panic が起つたかも知れぬ。その他、政治にしても、教育にしても、過去百年の間に先輩の国を凌駕し、今日では世界を凌駕して居るのである。こ一云ふ若い国は計画を立てゝは、どんどん進む。決して用心ばかりして事なきを誇つて居るのではない。我が国も若がへつてから、幾度変遷があり、蹉跎があつたかも知れない。人間もそ一である。五十になると減多に病氣をしない。けれども二つ、三つ又は十二、三と云ふよ一な一番発達するときには、一番病氣にかゝりやすいけれども、之れを五十以上の人とは比較にはならない。それと同じよ一に、此の着実と云ふことは余り用心をして居つては役に立たぬ。殊に日本の御婦人は余り早く年を取つたらぬと云ふことを、過日も申したのである。着実と云ふことは余り過失がないよ一である。又会と云ふよ一なものも時々高潮に達すると云ふよ一なことは、宜しくないであ一

か。何とならば、あなた方の書いたものに、我々の先輩の仕方は余り花々しい、我々は着実にするから表面には目立たないかも知れないけれども、と云ふことがある。そー云ふ考へが頭の中にあるならば、必ず冷たいのであります。あなた方、そー云ふことを信するならば、文学をすることはやめるが宜しい。Art であるから宗教も入らないのである。何とならば、信仰の必要もないと云ふことに帰するからであります。

又あなた方は日英博覧会に出品する為めに、皆さんお働きになった。私は感心して居ります。そーして間に合はない為めに、或る人は徹夜をなさったのである。私は校長室で、成る可く暖かくしてお茶でもあげて、御苦勞でしたと申して勞らうたのであるけれども、第四回生が文芸などを組み立てる為めに一生懸命になって苦心なさった時には、私は此つたのである。も一寝なければいかぬ。何時迄お更かしなさる、と申して咎めたのであります。けれども其の人達は終夜、其処の Down cellar に籠って、一意専心、其のことを成就せねばやまなかつたのであります。道理で、今何か筆を取って居る人は、此の第四回の出身者に多いのです。

私は夫れを比較して言ふのではないけれども、幾らか Unconscious の中に、我々は着実にした、我々は校風を真面目にしたと云ふことがある。夫れは事実であるけれども、あなた方が夫れだけのことをしたのは、やはり先輩が其の土台を築いてあったからです。

私が之れを申すのは、あなたを責める為めに申すのではない。あなたの信仰を高める為めに申すのである。あなた方もやはり世俗的になって、名、榮譽、月給、資格と云ふよーなもの、夫れが一番尊い、夫れがなくてはならぬと云ふ考へになったのではあるまいか。私は、あなた方の無邪気である、過ちと知れば直ぐ改めると云ふことは、誠によいことであると思ふ。夫れで着実と云ふことはよいけれども、少し間違ふと、高ぶる、傲慢になると云ふ弊を免れないのであります。私は極く Frank に、しかも力を入れて申したのであるから、少し詞が強過ぎたかも知れませんが、よく考へてもらひたいのであります。

此の間から、あなたの原因としてお出しになったものは、

- (1) 社会主義と個人主義との衝突
- (2) 理想と現実とが伴はぬこと
- (3) 修養と勉強との一致し難いこと
- (4) 精神と物質
- (5) 意志と本能

等である。私は社会主義の人は理想が立ち、理想があれば修養に勉め、修養すれば精神的になり、意志も健全になる訳であるから、上は上、下は下と、こー一つなぎにすることが出来ると思ひます。そこで上の此の傾きの人が人間性を高める方に向ひ、下の方の傾きの人はもし上の方を欠くならば、必ず品性を下落させる処の結果になると思ふ。此の内容は委しく申さねばならぬが、併し大抵はあなた方におわかりになることと考へます。之れを此の間申しました。甲と乙との二つを天秤にかけたならば、何れが重きに居るであらうか。今日も、も一つ之れを聞きます。只今現状を顧みたらば寧ろ、

- ・ 甲の方に傾くと云ふ自信のある者は …… 三、四人
 - ・ 乙の方に傾くと思ふものは …… なし
 - ・ 平均を保って居ると思ふものは
 - ・ 未だ何れであるかわからぬ者は
 - ・ よく反省して見ねば、よくわからぬ者は …… 少数
- 夫れでは、も少し各々の内容を明らかにしておいて、重ねてきくことに致しましよー。

[目的は個人主義なるか、社会主義なるか]

此の前に目的を説きました。先づ我々には目的がなくはならぬ。人生の目的、教育を受ける者の目的は社会主義であるべきものであらうか。又は個人主義であらうか。

- ・ 社会主義であると思ふものは …… 多数
- ・ 個人主義でなければならぬと思ふものは ……

[カント曰く]

Kant は、我々の個人は決して社会、或は団体に由りて手段となるべきものではない。我々自身が目的物である。故に目的は個人主義でなければならぬ、と言って居ります。又教育の改革者である処の Rousseau、近世の思想界に非常なる震動を与へた Hobbes の如きも、亦個人主義である。又教育の改革を促す者は皆個人主義である。社会主義によると伝説的、習俗的になって、いけない。故にどーしても個人主義でなければならぬと云ふ説である。そして其の説が始終勢力を占めたのであるけれども、亦夫れが社会主義になって、此の頃、個人主義を主張する者がある。我が国にも両主義がありましよー。教育は、どーしても個人主義でなければならぬ。社会と云ふものは実は形式で、其の内容は個人である。哲学から調べても、其の他の方面から調べても、どーしても教育は個人主義でなければならぬと稱へるものがあります。あなた方はどーお考へですか。人生の目的、教育の目的、あなた方の個人主義と云ふのは、昔から社会、団体にあてはまるよーに、社会が個人を妨げても団体にあてはまればよいと云ふ風に教育した、旧式の考へをとるでありしよーか。そーではありますまい。之れは時代によって傾向が変るのです。社会の習俗が、或は一君主一階級が個人を妨げた時は、一個人に由って教育の出来たこともある。けれども其の個人主義が又變つて、資本家が労働者を苦めたり一階級が専権を極めたりすると、又社会主義が非常に盛んに起つて来るのである。そー云ふ風に終始、上ったり下ったりして、移つて行くのであります。

社会主義は公の為に奉仕する、又個人は全体の為に犠牲になると云ふ。個人を発達させると云ふことにも、両方共真理のあると考へるものは …… 全体

そーでしよー。然らば目的は両方の調和したものでなければならぬ。然らば単に個人主義、社会主義と言ふよりも、個人的社会主義とか社会的個人主義とか言つた方が穏当であると考へる方は ……

之れは此の前にも、いろいろ私が申しましたよーに、我々の主義は Disinterestedness でなければならぬ。そーして其の目的はつまり社会と云ふことになるから、個人主義と言ふよりも社会主義と言つた方が穏当であらうと思ひます。

其の次は、勉強と修養と云ふことから採用すべきものが、

何れの主義でありましょか。昔から東洋では或る意味から言へば個人的教育を施し、最も深い修養は個人的方法を取らねばならぬとして居りました。然るに、今日の教育は境遇と云ふことに非常に重きを置いて、益々社会主義を採用することになりました。然らば我々は、何れの方法を取る可きでありましょか。

- ・ 社会主義でなければならぬと思ふ者は ……… 少数
- ・ 個人主義でなければならぬと思ふ者は ……… なし
- ・ 少し始めに定義を下さんければ、何れにも手を挙げる事が出来ぬと思ふ者は ………

此処が、あなた方の社会主義と個人主義との衝突に苦しむ処ではあるまいかと思ふ。今日程思想の複雑な時はない。之れが信仰の自由なる所以、進歩、発達の前候である。故に我々が一家の説を信じ、一巻の書物に依ろーと思ふならば、朝きめて晩にかはると云ふよーに、幾度変らねばならぬかも知れぬ。併しあなた方自身を進めよーとし、人格を高めよーと云ふ時にすらも、其の内容をよく確めることなくして、只だ詞の上で左右しよーと云ふよーなことでは、社会に出た時は幾度変わるかわからないのである。故に其の内容を明らかにせねば、どーしても承知は出来ない。教育の方針にしても修養の方法にしても、いろいろ学説はあるけれども、之れを個人主義と社会主義との二つにちゃんと分けることは出来ぬ。故に修養をするにしても勉強にしても、余り先生にた依らない、自分でしなければならぬ。斯う云ふ意味で我々は個人的にしたと仰るならば、私は実に喜ぶのである。殊に英語の研究の如きは、どーしても今迄のよーな方法ではいけない。是れ迄、日本でどーしても出来なかつた処の独学と云ふことに、重きをおかねばならぬ。ある方のお書きになつたものに、勉強は個人的にすると云ふことがあつたから、そー云ふ意味ならば、私は非常に喜ぶのである。けれども知識は個人的のものであると云ふことになるならば、誤りである。知識は社会的協同の産物である。哲学にしても、科学にしても、自然科学、Physics にしても、意識と意識との共同であつて、之れを除くならば科学は消滅して了うのである。此の知識にしても我々が直接に目に見、耳に聞き、手に触れて、感覚し知覚した処のものと、他の人の感覚知覚と一致する。之れを物の性質と言ふのである。此の知識、或は人間の内面的経験、こー云ふものは一個人に限られて、誠に狭いものであるから、之れが社会的になつて始めて知識となる。どんな偉人でも、発明、発見と云ふよーなことが只一人で出来るものではない。悉く社会的共同の結果と見るより外はないのである。夫れと同じよーに、我々に必要なる処の共同心、公共心、正義、忍耐、克己、勇氣、斯くの如きものは何に由つて出来るか。人間の協心、戮力、相互的關係に由つて養はるゝのである。是れ迄のよーに、山の中に引込んで座禅を組んだり、孤獨的に出来るかと云ふと、そー云ふことも社会的關係をつけてから、即ち我々が社会的境遇の關係をつけて始めてそー云ふ材料を得ることとなつて来る。そー云ふ訳で、教育と云ふものも決して単独に出来るものではない。殊に今日一番進んで居る教育は幼稚園の如き、最も重きをおく処のもの

は、遊ぶ時に、活動する時に凡て共同的にして行くのである。学校は有機体である。つまり本校などの仕方から言へば、社会的でなければならぬと云ふことになる。

又我々が実験をする時、観察をする時には、どーしても顕微鏡を使はねばならぬ。探検をしなればならぬ。又あなた方児童研究と云ふことを仰しやるが、America の名高い Seminary は、毎日八百人からの共同に由つて出来て居るのである。只本を読んで居るとか、自分の子供ばかりを見て居つて出来るものではない。

我が国の婦人がどーしても開発が出来ないと云ふのは、此の共同的交通機関をかくからである。我が国では実に之が欠けて居るのであります。故に皆さんが自分自らせねばならぬと云ふ風にお考へになるならば宜しいけれども、詞を取り違へて、会も係も入らぬ、共同自治機関は不必要であると云ふよーに取るならば、非常なる誤りであります。

- ・ 独学と云ふよーな意味から言へば、勉強は個人的でなければならぬと思ふ者は ……… 極少数
- ・ 社会的と云ふことも加へねばならぬと考へる者は ……… 少数
- ・ 道理に於ては、其の両方を調和することが出来ると思ふ者は ……… 多数

次に勉強と云ふのは英語の Study で、其の目的は知識を得ることである。修養と言へば Meditation で、目的は信仰であります。そしてあなた方から原因として一番沢山お出しになつたものは、意志薄弱と云ふことである。之は Action である。

勉強は此の学年に出来たつもりであるが、或る方の話に、其の方法については未だ研究を要すると云ふことである。ほんとの一生命とする、信仰となると云ふ迄には、余程の力を養はねばならぬ。けれども兎に角あなた方は勉強と云ふことに骨をお折りになつたのである。併し之れだけでは、ほんとの一学生々生活を完全にしたとは言はれない。之れはあなた方の人格の初歩である。只だ学説を知る、観察する、実験すると云ふだけでは足らぬ。其の上には必ず Meditation を要する。是れ迄、学界に大なる貢献をした人、大発明をしたと云ふ人は、大に Meditate したのである。故にあなた方も必ず冥想し憶説を立て、夫れから哲学上の深い問題をも参照しなければなりません。私は此の冬から非常に深い問題に入りまして、あなた方は益々夫れを要求する。非常に深くなつたと云ふことを喜びました。然るに此の頃、誰れでもわかる所の、又今迄何度も繰り返して来た処のことがわからなくなつて、疑問を生じかけて来ましたので、私は非常に心配を致したのであります。どーしても深くなるには、Meditate しなければならぬ。其の Meditation の結果として信仰が出来た。其の信仰が行為に迄及ぼされたと云ふことでなければならぬ。

高尚なる行為は、高尚なる思想力ある考へから起るのである。之れが出来て始めて高尚なる行為、活動が出来、其の結果として知識が信仰となり、意志となるのである。

之れが出来ねば、あなた方の学問がほんとのものとなつたとは言はれない。之れが、あなた方の修養と勉強との一致しないと云ふ原因であらうと思ふ。之れが出来ないのは、試

験学問をするからである。一年間に成る可く多くのものを貰ひたいと云ふ、暗記的の学問をしよ一とする。斯う云ふ断片的の知識を詰め込んで、少し物が覚えられたと云ふことで以て勉強が出来たと考へるならば、夫れは皮相の観である。到底ほんとの役に立つ力ではありません。段々私はあなた方の欠点をあげて反省を深くさせたのは、あなた方をも一段高めんが為めである。も一段深い処に導かんが為めであります。も一余日が幾らもありませんので、今日、中途でおくのは甚だ残念でありますけれども、余り遅くなりましたから之れだけに致しますが、ど一か私は、あなた方がほんとの物の真相がわかり、大きな関係が見出だされて、充分深い意志が目目を醒ますよ一に、皆さんが充分一考へて戴きたい。夫れが出来ましたならば、此の短い時日の間に我々は何をすべきであるかと云ふ責任までも、私が申す前に、自ら見出だして戴きたいのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十三年三月十六日

明治四十三年三月十六日
大学部全体

本校の卒業生で、海外へおいでになる方が毎年殖えて参りまして、一方には非常に喜ばしく感ずると同時に、又非常に心配も致します。然るに此の前にも申しましたよ一に、一番遠くて、又一番卒業生の沢山居らるゝ処は紐育ですが、其の紐育からも時々よい報告を得ますし、又今日二人お帰りになりましたが、さてど一なってお帰りになったかと云ふことは、無論信ずる処もありましたけれども、心配して居りましたが、確に此の学校で養はれた精神を傷つけずに、採るべきものを採ってお帰りになったよ一で、誠に嬉しく感じます。且つ今年は、私は非常に氣遣ひました。其の氣遣ひの余りに非常に厳しい詞を以て、あなた方を随分無理に叱ったことがある。之れは決してあなた方三年生ばかりの責任ではない。けれどもあなた方が凡てを率いて居らるゝから、私はあなた方に向けて余程厳しく申したのである。然るにあなた方は誠に謙遜な態度をお示しになったのです。少しも弁解して自分の非を蔽ふと云ふよ一なことなく、只だ其の真心、誠実を以て改めると云ふ決心をお表はしになりました。こゝが即ち今、井上さんから言はれた処の我が国婦人のよい処、自ら責める、自ら責任を引き受ける処の善い性質を持って居る処であります。
[山縣公爵]

夫れから私は国の為めに心配になることがあって、一昨日山縣さんを尋ねました。私は山縣さんに感心して居ることが二つある。

先年、東京市で焼き打ちをして人心兢々たる時に、私は少しく意見を述べたいと思ひましたが、大層お忙しい時である

のに公爵は都合をつけてお逢ひ下さり、且つ其の意見を直ちに寺内陸相へお話し下さったのです。其の後にも誠に忙しい時でありましたが、私からお目にかゝりたいと申した時に、お前は国家の経営についての話である。今日四時半に来るやうに、と仰やうに熱心におきゝ下さったのであります。此の間行きました時は余程用意をして居られて、ゆっくりと話をする機会がありました。公爵が国家の為めに思ふて居らるゝと云ふことは、毎度深く感じます。其の前に私の先輩である内海内務大臣から、山縣は実に意志の人である。山縣程人を殺す人はない、と言はれましたが、山縣公の為めにはどんどん人が命を捧げるのである。併し私が交際して居ります人の中で、山縣公程謙虚な、又国家の為めになることならば、誰れの言でも重きをおいて聞く。こ一云ふ人は他に少ないのです。私は以前から国家の為めに心配して居りましたが、公爵は此の事について深く心配して居らるゝ。真に国家の前途を憂へらるゝ余り、公爵の態度は誠に謙虚であるのです。猶国の現状に就いては誇るべき処がないよ一である。私は之れを以て真の軍人であると思ひました。Washingtonが凱旋する時には大層謙虚であったと云ふことを聞いて居りますが、之れだけの將軍であり、元帥であり、彼れだけの成功をした人であつて、斯く迄謙虚であると云ふことは、之れは我が国のよい処である。学問をする者も、斯うなければならぬ。夫れでうちの学生はど一か、何時も考へますが、私が出て歩いて見ますのに、やはりあなた方、我が女子大学の校風、氣風と云ふものは美しいのである。謙虚であるのです。

山縣公にお目にかゝり、又あなた方の最近お表はしになった処の美風を感じて、私は誠に感謝の念に耐へないのであります。我々は是非此の山縣公の徳に習はねばならぬ。山縣公の如き態度を以て、山縣公は少しも油断をしない。之れを徳川家康公に比する人があるが、之れは誠に大切なことである。少しも油断をしてはならぬと考へるのであります。私は此の前半分よりあなた方にお話をしなかつた。故に半わかりである。少しもお話をしなければなるまいと思ひました。併し今日は最早や、夫れを申す必要はあるまい。又私は之れを申す暇はなくなつたのであります。将来の為めにも少し申しておいた方がよいと考へますけれども、時もなくなり、場合が違つて参りましたからやめておきますが、なほ皆さん深く反省して、凡ての過ちを改めて進んで戴きたいのであります。

今日は成る可く始めに於て、皆さんの経験をききたいのです。之れは私の参考になるばかりでなく、皆さんの為めになるのである。此の間からお話になることは、実のあり熱のあることである。故に夫れをきゝたいのですが、そ一すると時を取りますから省きます。併しあなた方は自らを欺かない、自分の実果を認め、自分の中にある処の欠点を蔽はない。そして之れをど一しても改めよ一と云ふ無邪気な態度を以て、深く銘々を反省なさつたと云ふことである。此の経験を銘々でなさつたことは誠に大切なことである。猶ほ之れを深くして、銘々に普及したい。猶ほ我々は内に反省するのみならず、広く全体に考へを及ぼし、茲にも一つ我々の生涯に関する処の、客観的の目的を確定するよ一に致したいと考へるのであります。

夫れで傾向係の報告を聞いて、大体のことは私にわかって居りますが、夫れが、どれだけの程度に及び、どれだけ全体に充実して居るか、皆さん銘々に感ずる処を有の儘に示して戴きたいと思ひます。

私は、先づ主観的の方から皆さんがお考へになることを希望するのである。殊に此の間から銘々自分を顧る、所謂、主観的に深くなって、真に自分の欠点を明らかにして、其の本をよく正して、一番の根から改めて行かうと云ふ態度を皆さんが持ったのである。夫れで、私から随分強く批評を受けて深く反省して見たが、大体に於て、実にそ一である。故に、我々は之れを改めると云ふことに、皆さん決心をしたと云ふことであります。併し其の内容が悉くわかりかねる。又人に由つて、之れは皆違ふことと思ふ。

夫れで今聞きますが、確に之れを顧み、又其の過を改めるには非常に骨が折れたことと考へる。大体は改められども、猶ほ此の敵を征服することが出来ぬ部分もある。けれども之れを制御しようと思ふ態度の方と、猶ほ夫れもあるが、実に愉快な是れ迄ない処の人生の味ひを覚えて居りますと云ふお方とあらうと思ふ。

- ・ 我々の良心に反抗する、いろいろの反抗には勝ちを得て、誠に愉快であると云ふ者は………少数
 - ・ 猶戦ひはあるが、非常に愉快なる経験をして居ると云ふ者は………多数
 - ・ 我儘と云ふ卑しい感情は、自分では制することが出来ると言ひ得る人は………少数
 - ・ 猶ほ夫れが取れないと感ずる者………
 - ・ 卑劣なる競争心、嫉妬心には勝ち得たと云ふものは………多数
 - ・ 之れは、生れながらにして出来るものか。又修養して戦はねばならぬものであろうか。男には競争心が強いけれども、女は Modest であるから少ないが、併し女にでも之れはあると思ふものは………多数
 - ・ も一つ問ひますが、あなた方生れてから今日迄、偽りを言ったことはないと言へるものは………なし
 - ・ 時には偽りを言ったこともあると思ふ者は………全体
 - ・ 頑固を張ったことはないと思ふ者は………極少数
 - ・ やはり頑固を張ったこともあると思ふ者は………大多数
- 斯う云ふよ一に、細かに心の隅から隅まで調べて見ると、やはり汚ない者であると思ふのが、一般の人の経験である。そこで余程、修養して奇麗になつたと思つて居ると、又何処かに曇りが出来て来て、汚なくなつたかと苦しく思ふこともある。
- ・ 今、我が心は純白であると思ふ者は………なし
 - ・ 純と迄は行き難いが、実に今、我が心は Pure であると思ふ者は………多数
 - ・ そこで今迄いろいろ苦しみもして来たが、人生と云ふものは実に愉快である、大分光りが見えて来た、誠に希望に満ちて来た、之れを以てすれば能はざる所はないと信ずる者は………極少数
 - ・ 未だ其処迄至らないが、そ一云ふ積極的態度になるには、

ど一すればよいでしよ一か。

・ 心から人を愛するのであります。

主観的方面で修養をして、人生は愉快なものである、我が価値を認めたと云つて、満足した者は今迄一人もないのである。私、此の間申しました。あなた方は深く反省する。悔い改める。夫れは宜しいけれども、夫れだけではいけない。も一つある。夫れは客観的方面です。客観的と言へば抽象であるが、之れは何ですか。

人間は主観だけで、又は個人だけで、如何にしても満足は出来ない。如何にしても心を奇麗にすることは出来ぬ。全く己を忘れて、全く己を捧げて、我が愛する者があり、我が仕へる処のものがあり、我が熱望する処のものがある、始めて己に力が出る。其の力に由つて目的を全うし、希望にそふことが出来るのです。そこで私は此の前、あなた方に少し御注意を致したのであります。又今年、あなた方が此の力を養はうとならば、目的が定まらねばならぬ。目的を熱望する処の態度が出来なければならぬ。之れを私は大目的、及び小目的、自我完成であると申したのである。

此の間、私はあなた方にも少し具体的に申しました。あなた方の目的は資格であるか、名誉であるか、家庭であるか、子孫であるか、若くは金、銀、財宝であらうか。如何に金、銀、宝玉の内に住まひ、肉林酒池の樂みを尽しても、ほんとの満足はない。あなた方の答へに、我々の望みは其処でないと思ふことであったから、私は安心しました。けれども此処迄仰しやらないから、よくわからないのであります。我々の満足、我々の幸福と云ふものを得るには、唯だ夫れだけでは出来ないのである。如何にしても、茲にほんとの目的がある。此の目的は一致協同して、即ち団体的、社会的のものである。其の目的が今年、あなた方に確立し、燃ゆるが如き熱情となつたかど一かと云ふことを、尋ねた所以であります。

[第一回生]

第一回卒業生は、ど一云ふ誓ひを立て、卒業したかと云ふと、夫れは第二維新と云ふことである。

第二維新と言へば大き過ぎるよ一であるけれども、文明国民の祈りは、神の國が此の世界に来るよ一に、又意志が此の世界の意志となるよ一にと云ふことは、女でも子供でも祈つて居る。そこで人の為めに尽さう、団体の為めに捧げよ一と云ふ深い志が起つて来る。目的が確立して来るのであります。故に我々は、茲にど一しても第二維新を遂げねばならぬと云ふ目的を立てたことが、不当なことではないのです。

[第二回生]

第二回は、其の第二維新の中の教育の改善をしなればならぬ。其処に動機が起つて、第二の発展を來す所の動機を作つたのであります。

[第三回生]

第三回は、宗教と言つても、昔から言ふ処の宗派ではない。今、人が嘲つて言つて居りますが、其の時から桜楓教と言つた。私は、之れを全体意志と言ふのである。

[第四回生]

第四回卒業生は、社会的運動、社会改善事業、社会と教育

と云ふことを目的としたのである。

[第五回生]

第五回生は、大学拡張、其の中にある、殊に組合と云ふことを目的とするのみならず、既に着手したのものもあります。

[第六回生]

第六回生は、其の大学拡張の一部の通信教育会を起すこと。殊に組合、巡回講義等の目的を新に起して、一つの全体としての目的を、共同の働きに由って仕遂げて行かんければならぬ。其の目的の爲めには殆んど我れを忘れる。如何なる物をも捧げると云ふ。そ一言ふと、いろいろの誤解が起るかも知れませんが、此処を間違へてはならない。我々全体は目的と云ふものを立て、其の爲めの意志、其の爲めの熱情を燃やし、我々の全体を支配する処の、大きな我々の主人なり、神なりに捧げると云ふことに由って、其の心が清くなって、ほんといに我が満足が得られ、ほんといの人生の価値が認めらるゝであらうと、私は思ふ。

[第七回生]

そこで第七回生は、も一つ大目的と云ふもの、此に我々が集注する、其処に銘々の専門を以て共同する、奉仕すると云ふことが出来て始めて、我々の満足、人生の価値を見出すことが出来るのである。そこで、今年第七回生が茲に一致共同して、首途の祝ひをして出よと云ふものがありますかと云ふことを、私は此の間申したのである。

此の中の組合と云ふことは、我が国婦人を進める上から言つても、我々の力を発展する上から言つても、非常に大切であると云ふことは一致することであると思ひますが、之れは確であると思ふものは……… 全体

是れ迄ど一も学校で養ひ来つたものが外に出ると、嵐に散らされてうて育たないと云ふことを非常に心配して居りました。夫れはど一も我國の教育が浅薄であつて、宗教に迄ならないからであると考えて居りました。併し夫れは全く消えて了はしない。けれども第七回生は、も一つ深い処迄行って貰ひたい。そして今年は殊に会員の力を深く養ふと云ふことを望んだのでありますが、果して其処迄行つたでありますか。私は之れを非常に心配したのであります。

つまり、も一つ物がよく出来ないと云ふのは、精神が足りないからである。精神さへ出来れば、能はずと云ふことはないのである。夫れから三位一体として申して居る社会教育、之れも只今迄の詞ではない。実は之れも、第七回生の任じておいでになるものではないかと思ふ。殊に我が国今日の状態である國家の急務である。こ一云ふ招きがあるのであるが、皆さんは夫れが聞こえたであらうか。お見えになつたでありますか。私思ふに、夫れ程深く皆さんの考へが進まなかつたではあるまいか。之れが出来たならば、皆さんの社会的目的が確立したと言ふことが出来る。つまり私は、皆さんが主観的方面は出来たが、容易にまだ客観的的に至つては出来難いであらうと心配するのであります。も一段々と余日が少なくなりました。併し、たとへ後二週間でも構はない。ほんといにあなた方が決心をなさつたならば、是れから我々が始めて行くのであると云ふ態度を拵へてお出でになるならば、

始めて皆さん満足することが出来よ一かと思ふ。之れは第七回生全体として考へねばならぬことである。

夫れから次の問題は、然らば之れを如何にすべきかと云ふことを考へねばならぬ。

実は之れは、余程あなた方にわかつて貰ひたい。故に出来るだけよく説き明かしたいと思ひますが、時がないから、後でよく皆さん研究なさつて協議して貰ひたいと思ひます。

つまり、も一如何にすべきかと云ふことを考へねばならぬが、之れは外に道はないので、凡て今我々の前に横たはつて居る処の障害に勝つ、今我々が四方から受けて居る圧迫に勝つと云ふことである。此の多くの困難に勝つと云ふことは、之れを勇氣と言ふ。勇氣とは我々の意志の力であります。然るに今年思ふ処迄行かれなかつたのは意志の薄弱に歸すると云ふことを、あなた方自ら仰しやつたのである。そして今年のあなた方は着実を旨とすると云ふことでありましたが、其の結果は、少し着実を欠いて居りはしなかつたかと思ふ。例へば、皆さんのお書きになつたもの、殊に二年生の論文の中に意志が大切である、意志の教育を重んじなければならぬと云ふことが頻りに論じてあるけれども、其の意志と云ふことが、やはり詞になり形式になつて、仕事が空を打つ、的はづれであると云ふ結果になりはせぬかと云ふことを恐れる。そこで私は今あなた方に御注意をしよう。申したいと思ふことを言ふ爲めに之れをとつたのでありますが、虚心平氣になつて考へて貰ひたい。

[意志教育]

も一つ尋ねますが、ど一しても意志の働きに由つてしなければならぬ、ほんといに目的を達しようとするならば、意思の教育に重きをおかねばならぬと考へる者は……… 全体之れは皆同感である。然らばも一つ尋ねます。

我が國の婦人が何故発展しないか、何故に境遇が開けないかと云ふと、只知育である。意志の教育を欠いて居るからであると云ふことは、皆さんおわかりでありますよ。

日常生活に此の意志を養ひ、此の意志を教育すると云ふ考へを以て、斯う云ふ風にして居ると云ふ経験を持つて居る人は……… 一人

其の経験を言つて御覧なさい。

・ 目的を追求して、其の目的を愛して居る者には、意志が一番強く働いて居ると思ひます。

私は、あなた方がも一少しわからんと思ふのは、此の間からあなた方が修養と勉強とが一致しないと云ふことを仰しやる。そ一すると、私は修養は最も精神的に致しますけれども、學術研究、即ち勉強と云ふこと、経済と云ふよ一なことに就いては、此の意志の鍛錬を致して居りませんと云ふことになりませんか、又そ一云ふ傾向を作りはなさなかつたかと考へますが、私は、夫れではいかぬと思ふ。毎日の生活行為も宗教の生活にも、総べて之れが精神的になり、之れが意志的になり、其の土台が意志の上にならねば、ほんといの事は出来ぬ。若し此の精神を欠けば、成功は出来ぬ。其の他、あなた方の仕事も、ほんといには出来ないと云ふことにならうと思ひます。

私は此の一週間に四、五人、あなた方生徒の方に逢ふて、何時も其のお別れに申したことである。之れは少し身体が弱い、身体の都合で国へ帰らねばならぬと云ふ人に申したのです。

夫れは、あなたが病気になるると云ふことは、意志が弱いからである。意志さへ強ければ、決して病気になるものではない。此の間山縣公を訪ふ時にも、今から十年前には山縣公は内海と同じ身体であると言はれたのである。けれども老公は七十余歳の今日、嬰孺として国家の重鎮となつて居らるゝではないか。之れは実に、公が意志の人であるからです。

意志の出来た人、意志の支配を被つて居る此の身体は、滅多に病氣となるものではない。そこで我々が此の健康を維持すると云ふことは、意志である。殊に御婦人の病氣 hysteria と云ふことは、皆意志の薄弱に基づくのであります。夫れでど一しても意志の力を鍛はねばならぬ。そ一しなければ健康は得られないと云ふことは事実である。又私の経験する処であります。

[意志と身体]

私は、あなた方御婦人が朝起きて冷水浴をする、又冷水摩擦をすると云ふ。之れは甚だよいことに違ひないけれども、其の水にかゝると云ふことの外にも一つは、水をかけると冷たい。そこで、おっと意気込む。此の寒さに抵抗する、おっと云ふ力が意志を緊張するのである。其の他、深呼吸をするとか昔の座禅と云ふよ一なもの、おっと力を入れて意志を緊張するのである。此の力を入れると云ふことが意志の教育です。此の物をする時に一生懸命にすると云ふことが意志である。意志が強ければ身体は健康になる。此の意志の力は我々の健康を増進するものであります。夫れで衛生を研究するにも、やはり意志と云ふことを考へてせねばならぬ。

然るに我が国の教育は形式に流れて、此の意志と云ふことを欠いて居る。近来、夫れが甚しいのである。故にど一しても健かなる身体になることは出来ぬ。やはり撃剣をするとか、柔術をする時には、かけ声をして精神的に力を入れると、茲に於て意志が発揮するのである。此の意志と云ふものは何の上にも必要である。故に御婦人でも毎日、一、二度はぐっと力を入れて、深呼吸をすることが宜しいのです。

[意志と勉強]

又此の間申した勉強にも、此の意志は欠く可からざるものである。昔は勉強は知的のものと考へた。併し其の土台はやはり意志がなければ、ほんとの知識を構成することは出来ないと云ふことを、今日では人間自らが経験することが出来たのである。けれども我が国では、學問とは論理学や修辭学を応用することである。応用するならば宜しいが、只だ其の詞を組み立てることであると思つて居るが、私は其の誤りであると云ふことを、あなた方にほんとの一にわかつて貰ひたいのです。私は之れを委しく申したいのですが、時がないから申す暇がない。故に、わからぬことは充分問ひ質して戴きたいのである。

[論文に就いて]

あなた方は今年勉強に力を入れたと云ふことであるが、夫れは論文に表はれて居る。善い処もありますが、私は今年の

あなた方の論文について、満足の出来ない処を申しておきたい。夫れを申す前に、あなた方は此の論文について、いろいろ経験があるでしょ一から、あなたの方から答へを集めて申したいのです。

あなた方は此の論文を草するに當つて、番物を沢山読んだのである。多くの時間も使つたのである。けれども猶自分で満足の出来ない点がある一。夫れは何ですか。

- ・ 自分の経験の乏しきこと …………… 1/3
- ・ 思想の浅薄なること …………… 1/3
- ・ 生命の欠乏 …………… 1/3
- ・ 骨を折つて書いたが、未だ自分で満足することが出来ぬと云ふ感じのするものは …………… 多数
- ・ 創始力のなきこと …………… 多数
- ・ 創始力のあると思ふ人 …………… 二人

凡そ學問をするにも何をするにも二様の方法があります。其の一を旧式の倫理學的方法と言ひ、も一一つの方法は主行主義的研究法と言ふ。自分は主行主義的方法を取つたと思ふ者は ……………

- ・ お尋ねがよくわかりません。

此の知識にも、記述的のものと規範的のものとある。規範的のものですね。例へば倫理學、社會學、經濟學、美術、文學と云ふよ一な人間の意志に、或は欲望、理想、向上心等に密接な關係のあるもので、此の要素が意志とならねばならぬ。之れが人生、生命、性と云ふことに歸着すると云ふことは誰れにもわかり易い。けれども記述的のもの、事實の説明、或は解釈に属する知識は、さ程人間の欲望とか意志とか云ふものに關係の少ないよ一に見るのです。併し乍ら此の知識は、此の間申したよ一に、其の一番の真髓となるものは人間の判断である。

[判断]

其の判断と云ふものは、我々の Hypothesis、或は Principle、或は法則、之れと事實とが契合するかど一かと云ふことです。つまり判断、其の又要素になる本と、我々の経験とその他の経験、詞をかへて言へば、過去にあった経験と未来に起る事實と合ふか、合はないかと云ふことを判断する。之れが説明であり、事實の關係を明らかにすることであるのです。此の誤らざる判断を下すと云ふことは、其の骨髓になつて居る。基礎となつて居るものは、やはり我々の心理状態、主観的経験であります。夫れで我々の知識の一番大切なものは、判断である。其の判断の本は、意志である。此の働きを知識と言ふ。やはり、此の事實の解釈と云ふ、此の解釈が誤れば人間が間違つて来る。行路を誤るのです。然るに、今我々が毎日解釈しなければならぬ事實、即ち要求する判断は、誠に複雑なものである。之れを間違はないよ一に判断すると云ふことは、誠に我々の心理上の働きを要するのです。之れを正当にしよ一、有効にしよ一と思ふならば、非常に努力を要する。又、之を永久なるものとしよ一と思ふならば、先きにお挙げなされた経験を悉く味はなければならぬ。之れは何によつて出来るかと云ふと、集中である。集中は注意に由るのである。注意力を養ふと云ふことは、即ち Pragmatism の行ふと云ふこ

と、やはり人生に関係あることとなるのである。

[知的興味]

そこで知的興味が非常に大切であると云ふことになるのであります。そ一云ふよ一に考へて見ると、我々の凡てのことは意志の働きが基となつて居る。我々の意志の働きが実になるには、非常なる集中を要する。其の集中は注意力に由つて出来るのであります。故に、此の注意力が激しく働かねば出来ぬのである。此の強い意志の働きが出来なければ、只平凡なる観念を抱いて居るだけで、有力なる知識は得られないのである。昔から傑出した処の人物は、悉く此の非常なる意志の力を持って居つたのです。其の志、岩をも貫くと云ふ如き、強固なる意志のある人である。此の意志があつて始めて學問にも成功するのである。真理、殊に我が信仰、主義、即ち生命あり、力あり、熱ある真理は、此の意志に由つて出来るのであります。此の意志の力なくしては正当なる判断は出来ぬ。此の判断の集まつたものが、決心である。そして決心の集まつたものが信仰であり、信仰の集まつたものが意志です。此の土台はやはり意志の力です。是れに由つて出来た論文でなければ、力あり生命あるものとは言へない。

夫れから私は、も一一つ欠点を持って居るかと思ふのです。夫れは、形式と着実と云ふこと。今年の論文は形式に流れて居るか、着実であるかと云ふことを考へなければならぬ。着実と云ふことは、ど一云ふことを言ふのであるか。例へば、私、茲に宇宙と云ふこと、机と云ふことを言ふ。そ一すると、宇宙と云ふことは抽象であり、絶対であり、空想である。机と云ふことは手近いこと、実際のものである。そこで大きいことは空想であり、机と云ふよ一な小さいものは着実である。宇宙と云ふことは哲学者や宗教家の言ふことで、分子、原子と云ふよ一なことは科学者の言ふことである。そして科学者の言ふ処は事実であり、実際の現象であると言ふことが出来よ一か。理想と云ふことを言へば形式であり、実地と云ふことは着実であると言ふやうに、只詞です。恰も偽善者が私は善人であると言ふ、或は悪人であると言ふ風に、其の實際を調へずと言ふと同じことでもあります。夫れと同じ様に、今年の論文を只詞で以て、着実であるとか、ないとか言つてはならぬ。其の標準をきめて、批評しなければならぬ。

あなたの論文が其の事実を書いた物ならば、着実と言ふ可きである。併し、只空想であり記述したものであるならば、着実でない、不真面目なものであると言はねばならぬ。そこで先づ、事実とは何ぞやと云ふことをきめて行かんければならぬのです。之れを成る可くあなたの判断に問ひたいが、事実を三つに分けて、過去の事実、現在の事実、及び将来の事実と云ふ知識で言へば、経験、想像と言ふのです。あなたが知識を組み立てるならば、あなたのお書きになつた論文は、

- ・ 過去に属すると思ふものは ……
- ・ 現在に属すると思ふものは ……
- ・ 将来に属すると思ふものは ……

然らば、着実、適切と言ふならば過去に属するか、現在に属するか、又将来に属するであらうか。現在に属するものは、只今我々の意識に上つて居るものであるが、過去の事実と思

ふ者は ……

将来のことは卓見であり、予言であり、想像であり、思弁である。此の想像、思弁と云ふものは少し空想が交るけれども、ちゃんと疑ひをおかずにはっきりと判断を下すことの出来るものは事実である。事実とは人間が自ら経験したものである。今講堂に之れ丈けの人間が居る。私共はど一云ふ態度であるか。最も真面目に深い問題を研究して居ると云ふことは事実であります。然るに此の前の水曜日、或は二年前の卒業式と云ふよ一なことは、過去の事実である。之れを我々は如何にして確定するかと云ふと、推理に由つて確定する。推理力に由つて、一度経験したことが再現するとは言ふけれども、我々が推理に由つて意識に上したものであるから、いろいろの事実が交つて、実際よりも幾らか隔つた事実であると言つても宜しい。又、未来に属する先見と云ふものも、やはり我々の推理作用に由るもので、過去の事実と同じ程度においてもよいものである。故に、我々の最も着実なる処のものは、只今の思想、只今の経験である。そこで我々が一番大切に、又一番適切であると云ふ知識は何であるかと言へば、今日、只今の事実の解釈であり、今日の意見であり、今日の仕事の方法であり、計画であるものでなければならぬと云ふことになります。

之れ迄は文学をしても、古文学の研究を重んじたのです。凡ての研究が過去に属するものを重んじたのであります。夫れで多くは推理した事実であつたのですが、今日はそ一ではない。只今の文学、只今の思想の研究、只今の事実の説明、只今の問題の解釈に重きをおくと云ふこと、之れが、Pragmatism の態度です。例を挙げて言へば、今日の America の學問、社会学の如きは、昔は Utopia を描くとか、昔の歴史の研究であつたが、今日はそ一ではなく、想像ではなく凡ての科学を応用して実験すると云ふことである。此の頃、大統領の教書には百年の方針を示された。夫れは、天然の材源の保存です。今迄はあるものを伐り倒して居りましたが、今から五、六年も経つと America の人口が三倍になる。然らば山林を伐り倒してばかり居てはいけぬ。此の頃、人類学者ロイスの本を見ると、今後 (空白)

と云ふ風に、今日は皆、将来の計画に現れる処の問題になつて行きよる。文学も昔は Shakespeare、或は Greece、Rome の古いものが文学の研究であつた。然るに今日は、今日の文学の問題が最も適切な、最も着実な知識である。即ち文学はど一して起つたか、何故に文学が人心を支配して居るかと云ふことを知るのが、最も必要なことである。私は之れを皆さんに希望したのである。宗教と言つても、之れは昔の神様ではない。今の神様がわからねばだめである。我々が只本の上の社会学と云ふ文字を扱つて居るのではない。今日の我々の行ひをきめんければならぬ。今日の方針をきめんければならぬ。此の活問題に對して判断をしなければならぬ。少なくとも之れが本となつて、過去のこと、将来の事を判断せねばならぬ。詞は只機械である。之れを使つて研究しなければならぬ。私は今年の傾向が、ど一しても経験をした實際のほんとの知識であり、生きた知識にならねばならぬと思ふ。そ一ならぬ

ならば、決して目的を達することは出来ないのである。夫れで、ど一しても学問をするに意志が働いて居なければならぬ。宗教ならば今日の神、児童研究で言へば今日の児童、婦人問題については今の婦人問題があるか。たとへば、今日の経済問題、世論を起して人心を鼓舞すると云ふ様な意志の働きがあるか、生命があるか。之れが、私のあなた方に期待した所であります。其の意味で言ふと、何かの Originality、何かの判断、何かの新らしい事実、或は計画、発明と云ふことが、其処に現れなければならぬことであると私は感ずるのでありますが、果して丁度、其の希望に叶ふもの、其の意味で言ふ現在の事実の解釈、或は現在の我々の疑問を研究すると云ふよ一な論文が草せられたか。其の中に少数は確に、そ一云ふ物があつたと云ふことも記憶しますが、多数の上から言つても、今日の研究、今日の卒業論文と見るべきものがあつたら一か。皆さんも、夫れが少ないとお感じになるよ一である。夫れが、私の、少し皆さんの勉強の方法が間違つて居はしないかと申した所以であります。

私はど一しても、修養をするにも、勉強をするにも意志がなければならぬ。時々高潮すると云ふことがなければならぬ。終りに、何事をするにも其の精神力を集中しなければならぬと云ふことを、申すつもりでありましたが、大層時が遅くなりました。仮令、芽でもよいから創めておく、夫れをするには時々決心することが必要であると云ふ、お考への方は……

夫れでは、今日は之れでおきますが、猶ほ皆さんでよく御研究なさることを希望致します。

[中表紙]

卒業証書授与式に於ける御話
明治四十三年四月九日

明治四十三年四月九日
卒業証書授与式に於て

今日は、大学部 第七回、高等女学校 第九回卒業証書授与式につきまして、皆様様の臨席の榮を得たことは、我々の深く喜ぶ処であります。私は過般來、第七回生と今学年の終りをつけるに當り、今や其の高潮に達せんとする時に病氣にかゝりまして、其の榮の央にして、たふれたことは遺憾とする所であります。幸に、あなた方は自動的に活動して満足な結果をつけられたと云ふことは、病褥にある私をして、大に意を強くあらしめた処であります。

昨年来の四圍の圧迫、及び諸種の迫害にたへて、本校の命として、過去九年間培養し参りたる処の母校の精神を維持して、茲に新らしく一發展をなさんとして居らるゝことは、実に満足する処であります。

今や深く感ずる処あつて、高等女学校にも、も一一度面会して互に親しくかたはうと考へて居りましたが、之れも病氣のため、かなはなかつたのは残念であります。

併し、よく指導の下に、自動的に第九回生の任務を果して、今や半は大学部に、其の他の半は家庭、即ち實際の学校に入る希望に満ちて居ることは、深く私は満足する処であります。

今日は病後にて、互に充分に申上げることは出来ませんが、併し、之れより本校に深く同情を持って居らるゝ森本さんや大隈伯、小松原文部大臣より高き教へに接しますことは、深く満足致すところであります。

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十二年度ノ部

2012年3月31日発行

編集・制作

加藤きよみ・山本文子

(日本女子大学成瀬記念館)

発行

日本女子大学成瀬記念館

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

印刷

開成出版株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-26-14
